

授 業 計 画

平成27年度

東京家政学院大学

平成27年度 学年暦

前期

後期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
27年 4月				1	2	3	4	1	1日 学年開始 3日 入学式
	5	6	7	8	9	10	11	2	4日・6日・7日 オリエンテーション
	12	13	14	15	16	17	18	3	8日 前期授業開始
	19	20	21	22	23	24	25	4	16日・17日 オリエンテーションキャンプ (通常授業休業)
	26	27	28	29	30			5	
5月						1	2	5	
	3	4	5	6	7	8	9	6	
	10	11	12	13	14	15	16	7	
	17	18	19	20	21	22	23	8	21日 創立記念日 (通常授業休業)
	24	25	26	27	28	29	30	9	
31									
6月		1	2	3	4	5	6	10	
	7	8	9	10	11	12	13	11	
	14	15	16	17	18	19	20	12	
	21	22	23	24	25	26	27	13	
	28	29	30					14	
7月				1	2	3	4	14	
	5	6	7	8	9	10	11	15	
	12	13	14	15	16	17	18	16	18日 月曜日の振替授業
	19	20	21	22	23	24	25	17	
	26	27	28	29	30	31		18	30日 前期授業終了 31日～8月7日 前期定期試験
8月							1	18	
	2	3	4	5	6	7	8	19	8日～9月20日 夏期休業
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
30	31								
9月			1	2	3	4	5		7日～9日 前期追・再試験
	6	7	8	9	10	11	12		17日・18日 後期オリエンテーション
	13	14	15	16	17	18	19		
20									

	日	月	火	水	木	金	土	週	行事	
9月		21	22	23	24	25	26	1	21日 後期開始 24日 後期授業開始	
	27	28	29	30				2		
10月					1	2	3	2		
	4	5	6	7	8	9	10	3	10日 月曜日の振替授業	
	11	12	13	14	15	16	17	4		
	18	19	20	21	22	23	24	5		
	25	26	27	28	29	30	31	6		
11月	1	2	3	4	5	6	7	7	1日 学内入構禁止	
	8	9	10	11	12	13	14	8	12日～15日 大学祭(KVA祭) (通常授業休業)	
	15	16	17	18	19	20	21	9	21日 月曜日の振替授業	
	22	23	24	25	26	27	28	10		
	29	30						11		
12月				1	2	3	4	5	11	5日 学内入構禁止
	6	7	8	9	10	11	12	12		
	13	14	15	16	17	18	19	13		
	20	21	22	23	24	25	26	14	24日 月曜日の振替授業 25日 補講日 26日～1月5日 冬期休業	
	27	28	29	30	31					
28年 1月						1	2	15		
	3	4	5	6	7	8	9	16	9日 学内入構禁止 (町田キャンパス)	
	10	11	12	13	14	15	16	17	16日・17日 学内入構禁止 (町田キャンパス)	
	17	18	19	20	21	22	23	18	23日 学内入構禁止 26日 後期授業終了 25日・27日～2月2日 後期定期試験	
	24	25	26	27	28	29	30	19		
31										
2月		1	2	3	4	5	6	19	1日・3日 学内入構禁止	
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20		17日 学内入構禁止	
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29								
3月			1	2	3	4	5		2日～4日 後期追・再試験	
	6	7	8	9	10	11	12		10日 学内入構禁止	
	13	14	15	16	17	18	19		18日 大学卒業式・ 大学院修了式	
	20	21	22	23	24	25	26		25日～31日 春期休業	
	27	28	29	30	31					

- ・ 国民の祝日及び休日は、通常授業は行いません。
- ・ は、定期試験期間をあらわす。
- ・ は、授業休業期間をあらわす。
- ・ は、月曜日の振替授業を行う。
- ・ 土曜日は月曜日の振替授業のほか補講並びに行事等を行う。

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
基礎科目	G501010	日本の文学	井上 眞弓	3
基礎科目	G501020	日本の言語と文化	内田 宗一	3
基礎科目	G501030	文章表現法	内田 宗一	4
基礎科目	G501040	外国の言語と文化	竹本 研史	4
基礎科目	G501050	異文化コミュニケーション	畝部 典子	5
基礎科目	G501060	文化人類学	西海 賢二	5
基礎科目	G501070	音楽	山原 麻紀子	6
基礎科目	G501080	美学・美術史	鈴木 桂子	6
基礎科目	G501090	色彩論	滝沢 眞美	7
基礎科目	G501100	服飾文化論	蒲池 香津代	7
基礎科目	G501110	民俗学	西海 賢二	8
基礎科目	G501120	考古学	小瀬 康行	8
基礎科目	G502010	基礎数学a	新海 公昭	9
基礎科目	G502020	基礎数学b	新海 公昭	9
基礎科目	G502030	数学トピックス	新海 公昭	10
基礎科目	G502040	基礎統計学a	新海 公昭	10
基礎科目	G502050	基礎統計学b	新海 公昭	11
基礎科目	G502060	情報論	田中 康裕	11
基礎科目	G502070	コンピュータ概論	千葉 一博	12
基礎科目	G502070	コンピュータ概論	田中 康裕	12
基礎科目	G502080	コンピュータ演習 a	千葉 一博	13
基礎科目	G502080	コンピュータ演習 a	田中 康裕	13
基礎科目	G502080	コンピュータ演習 a	小野 由美子	14
基礎科目	G502080	コンピュータ演習 a	原田 一義	14
基礎科目	G502090	コンピュータ演習 b	千葉 一博	15
基礎科目	G502090	コンピュータ演習 b	田中 康裕	15
基礎科目	G502090	コンピュータ演習 b	小野 由美子	16
基礎科目	G502090	コンピュータ演習 b	原田 一義	16
基礎科目	G503010	人間の体	金子 和正	17
基礎科目	G503020	ダイエットとフィットネス	金子 和正	17
基礎科目	G503030	女性と健康医学	朝山 光太郎	18
基礎科目	G503040	生理心理学	市原 信	18
基礎科目	G503050	レクリエーション概論	大嶋 徹	19
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習 a	大嶋 徹	19
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習 a	外川 重信	20
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習 a	宮崎 晃子	20
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習 a	吉田 博幸	21
基礎科目	G503060	健康スポーツ演習 a	金指 みの利	21
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習 b	金子 和正	22
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習 b	外川 重信	22
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習 b	大嶋 徹	23
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習 b	宮崎 晃子	23
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習 b	吉田 博幸	24
基礎科目	G503070	健康スポーツ演習 b	金指 みの利	24
基礎科目	G503100	体育講義	金子 和正	25
基礎科目	G503110	体育実技	金子 和正	25
基礎科目	G504010	物理学入門	小谷 太郎	26
基礎科目	G504020	教養の化学	倉持 宏実	26
基礎科目	G504030	化学入門	倉持 宏実	27
基礎科目	G504040	教養の生物学	岩見 哲夫	27
基礎科目	G504040	教養の生物学	沼波 秀樹	28
基礎科目	G504050	生物学入門	岩見 哲夫	28
基礎科目	G504050	生物学入門	沼波 秀樹	29
基礎科目	G504060	環境と資源	岩見 哲夫	29
基礎科目	G504060	環境と資源	沼波 秀樹	30
基礎科目	G504070	地球の科学	山崎 良雄	30
基礎科目	G504080	教養の物理学	小谷 太郎	31
基礎科目	G504090	基礎化学	倉持 宏実	31
基礎科目	G504100	基礎生物学	岩見 哲夫	32
基礎科目	G504100	基礎生物学	沼波 秀樹	32
基礎科目	G504110	自然史	岩見 哲夫	33
基礎科目	G505010	法学入門(日本国憲法)	尾崎 利生	33
基礎科目	G505020	市民と法	尾崎 利生	34
基礎科目	G505030	社会学入門	小池 澄男	34
基礎科目	G505040	社会心理学	小池 澄男	35

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
基礎科目	G505050	環境心理学	市原 信	35
基礎科目	G505060	経済学入門	大野 裕之	36
基礎科目	G505070	経営学入門	新田 義則	36
基礎科目	G505080	日本の歴史	熊井 保	37
基礎科目	G505090	世界の歴史	浜 由樹子	37
基礎科目	G505100	世界の地理	横地 留奈子	38
基礎科目	G505110	国際関係論	松野 妙子	38
基礎科目	G506010	哲学入門	鈴木 元久	39
基礎科目	G506020	現代の哲学	鈴木 元久	39
基礎科目	G506030	倫理学入門	鈴木 元久	40
基礎科目	G506040	生命倫理	鈴木 元久	40
基礎科目	G506050	心理学 a	市原 信	41
基礎科目	G506050	心理学 a	加地 雄一	41
基礎科目	G506050	心理学 a	山田 順子	42
基礎科目	G506060	心理学 b	市原 信	42
基礎科目	G506060	心理学 b	加地 雄一	43
基礎科目	G506060	心理学 b	山田 順子	43
基礎科目	G506070	ジェンダー論	鳥山 純子	44
基礎科目	G506080	大江スミ先生を語る	藤居 眞理子	44
基礎科目	G506080	大江スミ先生を語る	井上 眞弓	45
基礎科目	G506090	人間関係論	松井 知子	45
基礎科目	G507010	リテラシー演習	千葉 一博 他	46
基礎科目	G507040	英会話集中講座	マーク ルイス	46
基礎科目	G508010	Basic English 1	松野 妙子	47
基礎科目	G508010	Basic English 1	中妻 結	47
基礎科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛	48
基礎科目	G508010	Basic English 1	畝部 典子	48
基礎科目	G508010	Basic English 1	田中 愛	49
基礎科目	G508010	Basic English 1	奈須 麻里子	49
基礎科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子	50
基礎科目	G508020	Basic English 2	松野 妙子	50
基礎科目	G508020	Basic English 2	中妻 結	51
基礎科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛	51
基礎科目	G508020	Basic English 2	畝部 典子	52
基礎科目	G508020	Basic English 2	田中 愛	52
基礎科目	G508020	Basic English 2	奈須 麻里子	53
基礎科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子	53
基礎科目	G508030	Listening & Speaking 1	大穀 郁子	54
基礎科目	G508030	Listening & Speaking 1	松野 妙子	54
基礎科目	G508030	Listening & Speaking 1	畝部 典子	55
基礎科目	G508030	Listening & Speaking 1	橋本 文子	55
基礎科目	G508030	Listening & Speaking 1	田中 愛	56
基礎科目	G508040	Listening & Speaking 2	大穀 郁子	56
基礎科目	G508040	Listening & Speaking 2	松野 妙子	57
基礎科目	G508040	Listening & Speaking 2	畝部 典子	57
基礎科目	G508040	Listening & Speaking 2	橋本 文子	58
基礎科目	G508040	Listening & Speaking 2	田中 愛	58
基礎科目	G508050	Reading & Writing 1	大和田 寛	59
基礎科目	G508060	Reading & Writing 2	大和田 寛	59
基礎科目	G508070	Comm English 1	マーク ルイス	60
基礎科目	G508080	Comm English 2	マーク ルイス	60
基礎科目	G508090	英語検定対策講座	大穀 郁子	61
基礎科目	G508090	英語検定対策講座	田中 愛	61
基礎科目	G508100	フランス語入門1	綾部 素幸	62
基礎科目	G508100	フランス語入門1	アニー フランス	62
基礎科目	G508110	フランス語入門2	綾部 素幸	63
基礎科目	G508110	フランス語入門2	アニー フランス	63
基礎科目	G508120	フランス語初級1	綾部 素幸	64
基礎科目	G508130	フランス語初級2	綾部 素幸	64
基礎科目	G508140	ドイツ語入門1	鈴木 元久	65
基礎科目	G508150	ドイツ語入門2	鈴木 元久	65
基礎科目	G508160	ドイツ語初級1	鈴木 元久	66
基礎科目	G508170	ドイツ語初級2	鈴木 元久	66
基礎科目	G508180	中国語入門1	住谷 孝之	67
基礎科目	G508180	中国語入門1	辻 リン	67

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
基礎科目	G508190	中国語入門2	住谷 孝之	68
基礎科目	G508190	中国語入門2	辻 リン	68
基礎科目	G508200	中国語初級1	辻 リン	69
基礎科目	G508210	中国語初級2	辻 リン	69
基礎科目	G508220	韓国語入門1	徐 旻廷	70
基礎科目	G508230	韓国語入門2	徐 旻廷	70
基礎科目	G508240	韓国語初級1	徐 旻廷	71
基礎科目	G508250	韓国語初級2	徐 旻廷	71
基礎科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	森 朋子	72
基礎科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	森 朋子	72
基礎科目	G509030	アカデミック・ジャパニーズ3	森 朋子	73
基礎科目	G509040	アカデミック・ジャパニーズ4	森 朋子	73
基礎科目	G509050	日本語ラボa	森 朋子	74
基礎科目	G509060	日本語ラボb	森 朋子	74
基礎科目	G509070	日本語ラボc	森 朋子	75
基礎科目	G509080	日本語ラボd	森 朋子	75
基礎科目	G509090	社会人としての日本語	内田 宗一	76
基礎科目	G509310	日本の歴史と文化	内田 宗一	76
<学部共通（平成25年度以前入学者）>				
専門科目	G000030	インターンシップ	新田 義則 他	79
専門科目	G000030	インターンシップ	城田 直子	79
専門科目	G000170	多変量統計入門	新海 公昭	80
専門科目	G000200	家庭電気・機械・情報処理	椛田 考一	80
専門科目	G000250	人格心理学	根本 橋夫	81
専門科目	G000370	保育学	新開 よしみ	81
専門科目	G000370	保育学	塚田 幸子	82
専門科目	G000520	フードサービスビジネス論	山岡 義卓	82
専門科目	G000520	フードサービスビジネス論	吉野 知子	83
専門科目	G000530	食料経済	山岡 義卓	83
専門科目	G000530	食料経済	二瓶 徹	84
専門科目	G000550	製品・食品鑑別演習	山崎 薫	84
専門科目	G000550	製品・食品鑑別演習	三宅 紀子	85
専門科目	G000570	住生活(製図を含む)	大橋 竜太	85
専門科目	G000590	建築史B	大橋 竜太	86
専門科目	G000660	建築法規	原口 秀昭	86
専門科目	G000660	建築法規	塚田 豊	87
専門科目	G000760	ケアマネジメント論	西口 守	87
専門科目	G000770	障害者福祉論	高橋 幸三郎	88
専門科目	G000890	異世代交流グループワーク	大嶋 徹	88
専門科目	G000900	遊びの次世代伝達	大嶋 徹	89
専門科目	G000930	自然体験活動実習	金子 和正	89
<現代家政学科>				
専門科目	G000940	キャリアデザインA	新田 義則	90
専門科目	G000950	キャリアデザインB	新田 義則	90
専門科目	G010010	現代生活論(現代家政学科)	現代家政学科 教員	91
専門科目	G010030	現代家政とKVA	井上 眞弓 他	91
専門科目	G010040	女性史	佐藤 広美	92
専門科目	G010060	情報処理演習Ⅰ	小野 由美子	92
専門科目	G010070	情報処理演習Ⅱ	小野 由美子	93
専門科目	G010080	卒業研究A	現代家政学科 教員	93
専門科目	G010090	卒業研究B	現代家政学科 教員	94
専門科目	G010100	家族論	林 葉子	94
専門科目	G010110	家族の文化史	井上 眞弓	95
専門科目	G010120	子どもと遊び	大嶋 徹	95
専門科目	G010160	家族支援論	高橋 幸三郎	96
専門科目	G010170	家族と法	木村 くに子	96
専門科目	G010190	消費者教育	早野 木の美	97
専門科目	G010200	リスクマネジメント	新田 義則	97
専門科目	G010210	消費者支援論	尾嶋 由紀子	98
専門科目	G010220	消費者政策と法	小野 由美子	98
専門科目	G010230	高度情報社会と消費者	小池 澄男	99
専門科目	G010240	プロシューマー調査法	小野 由美子	99
専門科目	G010250	プロシューマー演習	小野 由美子 他	100

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	GO10260	プロシューマー実習	上村 協子 他	100
専門科目	GO10270	生活設計論	上村 協子	101
専門科目	GO10290	エコロジー	沼波 秀樹	101
専門科目	GO10300	環境保護論	沼波 秀樹	102
専門科目	GO10310	環境景観論	大橋 竜太	102
専門科目	GO10320	自然体験演習	金子 和正	103
専門科目	GO10330	ツーリズムd(環境)	沼波 秀樹	103
専門科目	GO10340	都市計画	長野 博一	104
専門科目	GO10370	祭礼と民俗芸能	西海 賢二	104
専門科目	GO10380	ライフプロデュース論	山岡 義卓	105
専門科目	GO10390	エージング論	西海 賢二	105
専門科目	GO10420	ホスピタリティ論	西海 賢二	106
専門科目	GO10430	ツーリズムa(地域と文化)	齋藤 朱未	106
専門科目	GO10440	ツーリズムc(海と人)	沼波 秀樹 他	107
専門科目	GO10470	NGO・NPO論	渡辺 一雄	107
専門科目	GO10480	コミュニティ論	北原 零未	108
専門科目	GO10500	開発とジェンダー	信田 理奈	108
専門科目	GO10510	ファッション造形学	山村 桃子	109
専門科目	GO10520	ファッション造形実習B	植竹 桃子	109
専門科目	GO10530	装飾マテリアル演習	蒲池 香津代	110
専門科目	GO10540	現代衣生活論	山村 明子	110
専門科目	GO10550	世界の服飾	蒲池 香津代	111
専門科目	GO10560	日本の服飾	井上 眞弓	111
専門科目	GO10580	ファッション販売論	植竹 桃子	112
専門科目	GO10590	衣と消費科学	植竹 桃子	112
専門科目	GO10600	ファッションカラー演習	井澤 尚子	113
専門科目	GO10610	ファッションコーディネートB	井澤 尚子	113
専門科目	GO10620	アパレル企画・設計論	蒲池 香津代 他	114
専門科目	GO10630	アパレルCAD	蒲池 香津代 他	114
専門科目	GO10640	衣服環境論	植竹 桃子	115
専門科目	GO10650	室内環境学	大宮司 勝弘	115
専門科目	GO10660	インテリア設計論	大宮司 勝弘	116
専門科目	GO10670	インテリア計画	大宮司 勝弘	116
専門科目	GO10680	インテリアデザイン演習	大宮司 勝弘	117
専門科目	GO10690	ユニバーサルデザイン論	田中 清章 他	117
専門科目	GO10700	江戸東京学	熊井 保 他	118
専門科目	GO10720	生活美学	蒲池 香津代	118
専門科目	GO10730	言語コミュニケーション	内田 宗一	119
専門科目	GO10740	若者文化論	山村 明子 他	119
専門科目	GO10760	生活文化論	小瀬 康行	120
専門科目	GO10780	街の考現学(サブカルチャー含)	望月 史郎	120
専門科目	GO10790	江戸東京文化研究	内田 宗一 他	121
専門科目	GO10800	文化の継承と発信	井上 眞弓 他	121
専門科目	GO10810	生活文化実習(見学・ワークショップ等)	井上 眞弓	122
専門科目	GO10820	食品学実験	竹中 真紀子	122
専門科目	GO10830	食のリスクマネジメント	塩見 一雄	123
専門科目	GO10840	レシピの比較文化史	宇都宮 由佳	123
専門科目	GO10850	食文化論	熊井 保	124
専門科目	GO10860	食文化演習(調理含)	熊井 保 他	124
専門科目	GO10870	生活史演習	熊井 保	125
専門科目	GO10880	フードコーディネート論	竹中 真紀子	125
専門科目	GO10890	設計製図演習A	小林 直弘 他	126
専門科目	GO10900	設計製図演習B	小林 直弘 他	126
専門科目	GO10910	設計製図演習C	大橋 義子 他	127
専門科目	GO10920	設計製図演習D	篠田 智男 他	127
専門科目	GO10930	現代家政演習	現代家政学科 教員	128
専門科目	GO10940	日本語教育概論	森 朋子	128
専門科目	GO10960	食物学概論	三宅 紀子	129
専門科目	GO11020	衣とユニバーサルデザイン	蒲池 香津代	129
専門科目	GO11100	基礎ゼミ	現代家政学科 教員	130
専門科目	GO11101	日本社会史	熊井 保	130
専門科目	GO11102	生活史	西海 賢二	131
専門科目	GO11103	生活の経済学	古徳 佳枝	131
専門科目	GO11104	情報伝達と表現	小林 直弘	132
専門科目	GO11107	家庭経営学概論	井上 眞弓 他	132

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	GO11108	家政学概論	植竹 桃子 他	133
専門科目	GO11109	家族関係論	林 葉子	133
専門科目	GO11110	家庭看護	吉賀 成子	134
専門科目	GO11111	消費者情報論	小野 由美子	134
専門科目	GO11112	消費経済論	新田 義則	135
専門科目	GO11113	児童学概論	塚田 幸子	135
専門科目	GO11115	衣生活概論	植竹 桃子 他	136
専門科目	GO11116	ファッション造形実習A	山村 明子 他	136
専門科目	GO11117	食品学概論	竹中 真紀子	137
専門科目	GO11118	フードスペシャリスト論	竹中 真紀子	137
専門科目	GO11119	栄養学概論	竹中 真紀子	138
専門科目	GO11120	食品学	三宅 紀子	138
専門科目	GO11121	調理学	三宅 紀子	139
専門科目	GO11123	食生活論	熊井 保 他	139
専門科目	GO11124	調理学実習	三宅 紀子	140
専門科目	GO11125	健康・食発達心理学	横尾 暁子	140
専門科目	GO11128	食卓と工芸	澤田 雅彦	141
専門科目	GO11130	住居学概論	小池 孝子	141
専門科目	GO11131	建築史A	大橋 竜太	142
専門科目	GO11133	住生活論	大橋 竜太	142
専門科目	GO11134	住居設備	椛田 考一	143
専門科目	GO11135	構造力学A	白井 篤	143
専門科目	GO11136	構造計画A	永井 佑季	144
専門科目	GO11137	インテリア材料	白井 篤	144
専門科目	GO11138	住宅施工	白井 篤	145
専門科目	GO11140	建築環境学A	椛田 考一	145
専門科目	GO11141	住居計画	小池 孝子	146
専門科目	GO11142	福祉住環境	田中 清章 他	146
専門科目	GO11143	社会福祉概論	高橋 幸三郎	147
<健康栄養学科>				
専門科目	G000940	キャリアデザインA	新田 義則	148
専門科目	G000950	キャリアデザインB	新田 義則	148
専門科目	G020010	健康と食生活	四十九院 成子	149
専門科目	G020020	健康福祉学概論	西口 守 他	149
専門科目	G020030	公衆衛生学Ⅰ	松田 正己	150
専門科目	G020040	公衆衛生学Ⅱ	松田 正己	150
専門科目	G020050	公衆衛生学実習	松田 正己	151
専門科目	G020060	疫学・社会調査法	坂本 なほ子	151
専門科目	G020070	解剖生理学Ⅰ	未 定	152
専門科目	G020080	解剖生理学Ⅱ	内田 敬子	152
専門科目	G020090	解剖生理学実習	内田 敬子 他	153
専門科目	G020100	スポーツ栄養学	吉田 博幸 他	153
専門科目	G020110	運動生理学実習	吉田 博幸	154
専門科目	G020120	病原微生物学	津山 淳	154
専門科目	G020130	病理学	林地 のぞみ 他	155
専門科目	G020150	生化学Ⅰ	馬場 修	155
専門科目	G020160	生化学Ⅱ	馬場 修	156
専門科目	G020170	生化学実験	馬場 修	156
専門科目	G020180	基礎サイエンス実験	沼波 秀樹 他	157
専門科目	G020190	基礎食品学	海野 知紀	157
専門科目	G020200	応用食品学	林 一也	158
専門科目	G020210	基礎食品学実験	海野 知紀 他	158
専門科目	G020220	応用食品学実験	林 一也	159
専門科目	G020230	食文化論	瀬尾 弘子 他	159
専門科目	G020240	調理学	四十九院 成子	160
専門科目	G020250	基礎調理学実習	富永 芳枝	160
専門科目	G020260	応用調理学実習	富永 芳枝	161
専門科目	G020270	調理学実験	四十九院 成子	161
専門科目	G020280	食品の官能評価・鑑別論	四十九院 成子	162
専門科目	G020290	食品衛生学	林 一也	162
専門科目	G020300	食品衛生学実験	林 一也	163
専門科目	G020310	基礎栄養学Ⅰ	海野 知紀	163
専門科目	G020320	基礎栄養学Ⅱ	海野 知紀	164
専門科目	G020330	基礎栄養学実験	馬場 修	164

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G020340	食事摂取基準論	朝山 光太郎	165
専門科目	G020350	ライフステージ別栄養学Ⅰ	朝山 光太郎	165
専門科目	G020360	ライフステージ別栄養学Ⅱ	朝山 光太郎	166
専門科目	G020370	応用栄養学実習	酒井 治子 他	166
専門科目	G020380	健康行動支援プログラム論	國井 大輔	167
専門科目	G020390	栄養教育総論	辻 雅子	167
専門科目	G020400	栄養教育方法論	辻 雅子	168
専門科目	G020410	ライフステージ別栄養教育論	酒井 治子	168
専門科目	G020420	栄養教育実習Ⅰ	辻 雅子	169
専門科目	G020430	栄養教育実習Ⅱ	酒井 治子	169
専門科目	G020440	カウンセリング論	吉田 恵子	170
専門科目	G020450	食情報表現演習	呉 起東	170
専門科目	G020460	臨床栄養学Ⅰ	末 定	171
専門科目	G020470	臨床栄養学Ⅱ	朝山 光太郎	171
専門科目	G020480	臨床栄養アセスメント論	金澤 良枝	172
専門科目	G020490	臨床栄養ケアマネジメント論	金澤 良枝 他	172
専門科目	G020500	臨床栄養アセスメント実習	金澤 良枝	173
専門科目	G020510	臨床栄養ケアマネジメント実習	金澤 良枝	173
専門科目	G020520	栄養治療学	金澤 良枝	174
専門科目	G020530	公衆栄養学	田中 弘之	174
専門科目	G020540	地域栄養活動論	田中 弘之	175
専門科目	G020550	公衆栄養学実習	田中 弘之	175
専門科目	G020560	地域栄養活動演習	田中 弘之 他	176
専門科目	G020570	国際栄養活動論	松田 正己 他	176
専門科目	G020580	フードシステム論	二瓶 徹	177
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネジメント演習(児童)	田中 弘之 他	177
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネジメント演習(高齢者)	田中 弘之 他	178
専門科目	G020600	給食経営管理論	吉野 知子	178
専門科目	G020610	給食経営管理実習	吉野 知子	179
専門科目	G020610	給食経営管理実習	本間 治子	179
専門科目	G020620	健康フードマネジメント論	吉野 知子	180
専門科目	G020630	健康フードマネジメント実習	本間 治子	180
専門科目	G020630	健康フードマネジメント実習	吉野 知子	181
専門科目	G020640	食・空間プロデュース論	富永 芳枝 他	181
専門科目	G020650	健康栄養プロデュース実習	健康栄養学科 教員	182
専門科目	G020660	給食運営臨地実習	吉野 知子	182
専門科目	G020670	臨床栄養Ⅰ臨地実習	金澤 良枝	183
専門科目	G020680	臨床栄養Ⅱ臨地実習	金澤 良枝	183
専門科目	G020690	公衆栄養臨地実習	田中 弘之 他	184
専門科目	G020700	実践健康栄養プロデュース実習	健康栄養学科 教員	184
専門科目	G020710	総合演習Ⅰ	吉野 知子 他	185
専門科目	G020720	総合演習Ⅱ	金澤 良枝 他	185
専門科目	G020730	海外文献抄読演習	橋本 文子	186
専門科目	G020740	実践栄養英会話	マーク ルイス	186
専門科目	G020750	食物・栄養演習A	田中 弘之 他	187
専門科目	G020760	食物・栄養演習B	田中 弘之 他	187
専門科目	G020770	食物・栄養演習C	田中 弘之 他	188
専門科目	G020780	食物・栄養演習D	田中 弘之 他	188
専門科目	G020790	食物・栄養演習E	田中 弘之 他	189
専門科目	G020800	運動生理学	吉田 博幸	189
専門科目	G021000	管理栄養士基礎演習	健康栄養学科 教員	190
専門科目	G021001	有機化学	佐山 信成	190
専門科目	G021002	健康・食発達心理学	横尾 暁子	191
<生活デザイン学科>				
専門科目	G000940	キャリアデザインA	新田 義則	192
専門科目	G000950	キャリアデザインB	新田 義則	192
専門科目	G030010	生活デザイン演習A	生活デザイン学科 教員	193
専門科目	G030020	現代生活論(生活デザイン学科)	生活デザイン学科 教員	193
専門科目	G030030	卒業研究A	生活デザイン学科 教員	194
専門科目	G030040	卒業研究B	生活デザイン学科 教員	194
専門科目	G030050	テキスタイル材料学	花田 朋美	195
専門科目	G030060	高分子材料実験	花田 朋美	195
専門科目	G030070	衣繊維学	花田 朋美	196
専門科目	G030090	機器分析法	花田 朋美 他	196

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G030110	繊維製品試験法	藤居 眞理子	197
専門科目	G030120	被服整理学	藤居 眞理子	197
専門科目	G030130	衣管理学実験・演習	藤居 眞理子 他	198
専門科目	G030140	染色学	花田 朋美	198
専門科目	G030150	染色学実験・演習	花田 朋美	199
専門科目	G030160	工芸染色技法	藤居 眞理子	199
専門科目	G030170	応用染色実習・演習	藤居 眞理子	200
専門科目	G030180	服飾設計論	富田 弘美	200
専門科目	G030190	服飾造形実習・演習B	藤田 恵子	201
専門科目	G030200	服飾造形実習・演習C	富田 弘美	201
専門科目	G030210	アパレル生産実習・演習	藤田 恵子	202
専門科目	G030220	衣生活計画論	富田 弘美	202
専門科目	G030240	衣構成学実習B	富田 弘美 他	203
専門科目	G030250	テキスタイルデザイン実習・演習	蒲池 香津代 他	203
専門科目	G030260	テキスタイルアドバイザー実習	藤田 恵子	204
専門科目	G030270	消費科学	藤田 恵子	204
専門科目	G030280	衣環境衛生学	植竹 桃子	205
専門科目	G030300	食品加工貯蔵学	奈良 一寛	205
専門科目	G030310	食品微生物学	奈良 一寛	206
専門科目	G030320	食品の管理と衛生	山崎 薫	206
専門科目	G030330	バイオサイエンス	山崎 薫	207
専門科目	G030340	調理とフードコーディネート	小口 悦子	207
専門科目	G030350	調理と素材	小口 悦子	208
専門科目	G030360	調理と文化	小口 悦子	208
専門科目	G030370	食文化論	熊井 保	209
専門科目	G030380	食文化演習	熊井 保 他	209
専門科目	G030390	食・空間コーディネート論	高尾 純宏 他	210
専門科目	G030400	食品学実験	奈良 一寛	210
専門科目	G030410	食科学演習	小口 悦子 他	211
専門科目	G030430	食・企画開発論	奈良 一寛	211
専門科目	G030440	食企画・開発実習A	奈良 一寛 他	212
専門科目	G030450	食企画・開発実習B	奈良 一寛 他	212
専門科目	G030460	食と地球環境	岩見 哲夫	213
専門科目	G030470	食品素材とフードメニュー	小口 悦子	213
専門科目	G030480	フードビジネス・食産業研究	新田 義則	214
専門科目	G030490	住居デザイン演習A	田中 清章 他	214
専門科目	G030500	住居デザイン演習B	原口 秀昭 他	215
専門科目	G030510	住居デザイン演習C	原口 秀昭 他	215
専門科目	G030520	住居デザイン演習D	原口 秀昭 他	216
専門科目	G030530	建築デザイン演習A	原口 秀昭 他	216
専門科目	G030540	建築デザイン演習B	原口 秀昭 他	217
専門科目	G030550	住居CAD演習	足立 幸寿	217
専門科目	G030560	建築CAD演習	足立 幸寿	218
専門科目	G030570	建築総合演習	田中 清章	218
専門科目	G030580	建築計画	田中 清章 他	219
専門科目	G030590	建築環境学B	花田 考一	219
専門科目	G030600	建築環境システム	花田 考一	220
専門科目	G030610	住環境調査A	花田 考一 他	220
専門科目	G030620	構造力学B	金子 雄太郎	221
専門科目	G030630	構造力学C	金子 雄太郎	221
専門科目	G030640	住宅設計論	原口 秀昭	222
専門科目	G030650	構法計画	白井 篤	222
専門科目	G030660	構造計画B	金子 雄太郎	223
専門科目	G030670	建築材料学	白井 篤	223
専門科目	G030680	建築施工	白井 篤	224
専門科目	G030700	基礎造形	澤田 雅彦	224
専門科目	G030710	インテリア基礎演習	高尾 純宏	225
専門科目	G030720	食器づくり演習	澤田 雅彦	225
専門科目	G030730	インテリアデザイン演習	高尾 純宏	226
専門科目	G030750	メディアデザイン基礎演習	呉 起東	226
専門科目	G030760	メディアデザイン演習B	呉 起東	227
専門科目	G030770	デジタルフォト論	呉 起東	227
専門科目	G030790	カラーコーディネート	田中 清章 他	228
専門科目	G030800	くらしの中の人間工学	澤田 雅彦	228
専門科目	G030810	食文化とキッチン	高尾 純宏	229

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G030820	キッズデザイン論	高尾 純宏	229
専門科目	G030830	うつわのはなし	澤田 雅彦	230
専門科目	G030840	くらしの考現学	望月 史郎	230
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	生活デザイン学科 教員	231
専門科目	G030880	高分子材料実験Ⅰ	花田 朋美	231
専門科目	G030890	繊維学実験Ⅰ	花田 朋美	232
専門科目	G030900	アパレルデザイン論	藤田 恵子	232
専門科目	G030910	アパレルデザイン表現実習	藤田 恵子	233
専門科目	G030920	服飾造形実習A	藤田 恵子	233
専門科目	G030950	繊維製品取扱い試験法	藤居 眞理子 他	234
専門科目	G030970	繊維学実験Ⅱ	花田 朋美 他	234
専門科目	G030980	デジタルデザイン演習	呉 起東	235
専門科目	G031000	生活デザイン演習B	生活デザイン学科 教員	235
専門科目	G031001	生活の経済学	古徳 佳枝	236
専門科目	G031002	サイエンス演習	奈良 一寛 他	236
専門科目	G031003	人体の構造と機能	岩見 哲夫	237
専門科目	G031004	コミュニケーションデザイン	呉 起東	237
専門科目	G031006	デザイン概論	望月 史郎	238
専門科目	G031007	人間工学	澤田 雅彦	238
専門科目	G031008	家庭経営学概論	井上 眞弓 他	239
専門科目	G031010	家庭看護	増田 いづみ	239
専門科目	G031011	消費者情報論	小野 由美子	240
専門科目	G031012	消費経済論	新田 義則	240
専門科目	G031013	生活情報論	小池 澄男	241
専門科目	G031015	衣環境学概論	藤居 眞理子 他	241
専門科目	G031016	衣構成学実習A	富田 弘美 他	242
専門科目	G031018	食品学Ⅰ	奈良 一寛	242
専門科目	G031019	食科学概論	山崎 薫 他	243
専門科目	G031020	栄養学Ⅰ	山崎 薫	243
専門科目	G031021	食品学Ⅱ	奈良 一寛	244
専門科目	G031022	調理学	小口 悦子	244
専門科目	G031023	栄養学Ⅱ	山崎 薫	245
専門科目	G031024	食生活論	熊井 保	245
専門科目	G031025	基礎調理	小口 悦子	246
専門科目	G031027	食料経済	山岡 義卓	246
専門科目	G031028	ものづくり論	澤田 雅彦	247
専門科目	G031030	住居学概論	小池 孝子	247
専門科目	G031031	建築史A	大橋 竜太	248
専門科目	G031033	住生活論	小池 孝子	248
専門科目	G031034	住居設備	椋田 考一	249
専門科目	G031035	構造力学A	白井 篤	249
専門科目	G031036	構造計画A	金子 雄太郎	250
専門科目	G031037	インテリア材料	白井 篤	250
専門科目	G031038	住宅施工	白井 篤	251
専門科目	G031040	建築環境学A	椋田 考一	251
専門科目	G031041	住居計画	小池 孝子	252
専門科目	G031042	福祉住環境	田中 清章 他	252
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	生活デザイン学科 教員	253
専門科目	G031045	工芸染色実習A	藤居 眞理子 他	253
専門科目	G031047	服飾造形実習B	藤田 恵子	254
専門科目	G031048	栄養学・食品衛生学実験	山崎 薫	254
専門科目	G031049	調理学実験	小口 悦子	255
専門科目	G031051	フードスペシャリスト論	山崎 薫	255
<児童学科>				
専門科目	G000940	キャリアデザインA	新田 義則	256
専門科目	G000950	キャリアデザインB	新田 義則	256
専門科目	G040020	発達心理学	野澤 祥子	257
専門科目	G040030	教育心理学	根本 橋夫	257
専門科目	G040040	教育原理	長谷 徹	258
専門科目	G040050	教育課程論	渡部 忠治	258
専門科目	G040060	保育学A	吉川 晴美 他	259
専門科目	G040070	保育学B	新開 よしみ	259
専門科目	G040080	児童文化	河野 優子	260
専門科目	G040090	小児保健Ⅰ	朝山 光太郎	260

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	GO40100	卒業研究A	児童学科 教員	261
専門科目	GO40110	卒業研究B	児童学科 教員	261
専門科目	GO40120	児童心理学	根本 橋夫	262
専門科目	GO40120	児童心理学	加地 雄一	262
専門科目	GO40130	発達臨床心理学	吉川 晴美 他	263
専門科目	GO40140	対人関係の発達	吉川 晴美	263
専門科目	GO40150	発達障がい論	小野 眞理子	264
専門科目	GO40160	発達臨床論B	吉川 晴美	264
専門科目	GO40170	心理学研究法	市原 信	265
専門科目	GO40180	児童とカウンセリング	柳瀬 洋美	265
専門科目	GO40190	心理検査法実習	吉川 晴美 他	266
専門科目	GO40220	社会福祉	嶋田 芳男	266
専門科目	GO40230	社会的養護	塩谷 隼平	267
専門科目	GO40240	社会的養護内容	横井 義広	267
専門科目	GO40240	社会的養護内容	飯島 勤	268
専門科目	GO40270	乳児保育	小野 眞理子 他	268
専門科目	GO40280	幼児理解	新開 よしみ	269
専門科目	GO40290	保育内容総論A	中田 範子	269
専門科目	GO40300	保育内容総論B	中田 範子	270
専門科目	GO40310	保育内容演習健康A	金子 和正	270
専門科目	GO40320	保育内容演習健康B	金子 和正	271
専門科目	GO40330	保育内容演習言葉A	小野 眞理子 他	271
専門科目	GO40340	保育内容演習言葉B	小野 眞理子 他	272
専門科目	GO40350	保育内容演習人間関係A	柳瀬 洋美 他	272
専門科目	GO40360	保育内容演習人間関係B	柳瀬 洋美	273
専門科目	GO40370	保育内容演習環境A	中田 範子 他	273
専門科目	GO40380	保育内容演習環境B	中田 範子	274
専門科目	GO40390	保育内容演習表現A	新開 よしみ 他	274
専門科目	GO40400	保育内容演習表現B	山原 麻紀子 他	275
専門科目	GO40410	保育方法論	小里 國恵	275
専門科目	GO40420	障がい児保育	金子 和正	276
専門科目	GO40420	障がい児保育	飯島 勤	276
専門科目	GO40430	保育実践演習	金子 和正	277
専門科目	GO40440	算数科教育	新海 公昭	277
専門科目	GO40450	生活科教育	中田 範子	278
専門科目	GO40470	図画工作科教育	高尾 純宏	278
専門科目	GO40480	国語科教育（書写を含む）	宮津 大蔵	279
専門科目	GO40490	体育科教育	金子 和正	279
専門科目	GO40500	社会科教育	尾崎 利生	280
専門科目	GO40510	理科教育	沼波 秀樹	280
専門科目	GO40520	国語科教育法（書写を含む）	三輪 民子	281
専門科目	GO40530	社会科教育法	佐藤 広美	281
専門科目	GO40540	算数科教育法	新海 公昭	282
専門科目	GO40550	理科教育法	黒田 篤志	282
専門科目	GO40560	生活科教育法	末 定	283
専門科目	GO40570	音楽科教育法	山原 麻紀子	283
専門科目	GO40580	図画工作科教育法	高尾 純宏	284
専門科目	GO40590	家庭科教育法	海野 りつ子	284
専門科目	GO40600	体育科教育法	金子 和正	285
専門科目	GO40620	小児保健Ⅱ	松井 知子	285
専門科目	GO40630	小児保健演習	田中 和香菜	286
専門科目	GO40640	子どもの食と栄養	小澤 啓子	286
専門科目	GO40650	児童体育演習	金子 和正	287
専門科目	GO40670	野外活動論（児童と野外環境）	金子 和正	287
専門科目	GO40680	児童とことば	小野 眞理子	288
専門科目	GO40690	児童と音楽A	山原 麻紀子 他	288
専門科目	GO40700	児童と音楽B	山原 麻紀子 他	289
専門科目	GO40710	児童と身体表現	荒金 幸子	289
専門科目	GO40720	児童と造形	堀内 有子	290
専門科目	GO40730	児童と情報文化A	桜井 郁子	290
専門科目	GO40740	児童と情報文化B	畝部 典子	291
専門科目	GO40750	児童と外国語A	畝部 典子	291
専門科目	GO40760	児童と外国語B	松野 妙子	292
専門科目	GO40770	児童と文学	石崎 公子	292
専門科目	GO40790	カリキュラム論	中田 範子	293

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G040800	相談援助	西口 守 他	293
専門科目	G040810	保育相談支援	柳瀬 洋美 他	294
専門科目	G040820	家庭支援論	新開 よしみ 他	294
専門科目	G040840	家庭科教育	山本 紀久子	295
専門科目	G041001	多変量統計入門	新海 公昭	295
専門科目	G041002	青年心理学	根本 橋夫	296
専門科目	G041004	心理学実験Ⅰ	加地 雄一 他	296
専門科目	G041005	心理学実験Ⅱ	加地 雄一 他	297
専門科目	G041006	家庭教育論	柳瀬 洋美	297
専門科目	G041007	家庭経営学概論	上村 協子	298
専門科目	G041008	児童学概論	吉川 晴美 他	298
専門科目	G041009	食科学概論	山崎 薫 他	299
専門科目	G041010	児童福祉論	末 定	299
専門科目	G041015	自然体験活動演習Ⅰ	金子 和正	300
専門科目	G041016	自然体験活動演習Ⅱ	金子 和正	300
<人間福祉学科>				
専門科目	G000940	キャリアデザインA	新田 義則	301
専門科目	G000950	キャリアデザインB	新田 義則	301
専門科目	G050010	現代生活論(人間福祉学科)	人間福祉学科 教員	302
専門科目	G050020	社会福祉援助の基盤と専門職Ⅰ	西口 守	302
専門科目	G050030	社会福祉援助の基盤と専門職Ⅱ	高橋 幸三郎	303
専門科目	G050040	社会福祉援助の理論と方法Ⅰ	朝倉 和子 他	303
専門科目	G050050	社会福祉援助の理論と方法Ⅱ	西口 守	304
専門科目	G050060	社会調査法	小野 由美子	304
専門科目	G050070	社会福祉援助の理論と方法Ⅲ	嶋田 芳男	305
専門科目	G050080	社会福祉援助の理論と方法Ⅳ	高橋 幸三郎	305
専門科目	G050100	人間の成長と発達	倉田 郁也	306
専門科目	G050110	社会福祉援助演習Ⅰ	西口 守 他	306
専門科目	G050120	社会福祉援助演習Ⅱ	嶋田 芳男 他	307
専門科目	G050130	社会福祉援助演習Ⅲ	嶋田 芳男 他	307
専門科目	G050140	社会福祉援助実習指導Ⅰ	朝倉 和子 他	308
専門科目	G050150	社会福祉援助実習指導Ⅱ	高橋 幸三郎 他	308
専門科目	G050160	社会福祉援助実習指導Ⅲ	高橋 幸三郎 他	309
専門科目	G050170	社会福祉援助実習	高橋 幸三郎 他	309
専門科目	G050180	社会福祉リカレント講座Ⅰ	木本 明 他	310
専門科目	G050190	社会福祉リカレント講座Ⅱ	木本 明 他	310
専門科目	G050200	卒業研究A	人間福祉学科 教員	311
専門科目	G050210	卒業研究B	人間福祉学科 教員	311
専門科目	G050220	社会保障論Ⅰ	木本 明	312
専門科目	G050230	社会保障論Ⅱ	木本 明	312
専門科目	G050240	社会福祉施設運営論	西口 守	313
専門科目	G050250	福祉行政論	木本 明	313
専門科目	G050260	公的扶助論	木本 明	314
専門科目	G050270	医療福祉論	砂田 淳一郎	314
専門科目	G050280	権利擁護と成年後見制度	木本 明	315
専門科目	G050290	カウンセリング論	山田 順子	315
専門科目	G050320	就労支援	市川 和男 他	316
専門科目	G050330	更生保護制度	飯田 邦男	316
専門科目	G050340	スクールソーシャルワーク	朝倉 和子	317
専門科目	G050350	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅰ	中島 直行	317
専門科目	G050360	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅱ	中島 直行	318
専門科目	G050370	家族支援論	須永 和宏	318
専門科目	G050380	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅲ	中島 直行	319
専門科目	G050390	精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅳ	中島 直行	319
専門科目	G050420	精神保健福祉の制度とサービスⅠ	風間 康子	320
専門科目	G050430	精神保健福祉の制度とサービスⅡ	風間 康子	320
専門科目	G050440	精神障害者の生活支援	中島 直行	321
専門科目	G050450	精神保健福祉援助演習Ⅰ	中島 直行 他	321
専門科目	G050460	精神保健福祉援助演習Ⅱ	中島 直行 他	322
専門科目	G050470	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	中島 直行 他	322
専門科目	G050480	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	中島 直行 他	323
専門科目	G050490	精神保健福祉援助実習	中島 直行 他	323
専門科目	G050500	介護の基本	鈴木 知佐子	324
専門科目	G050520	障害の理解	市川 和男 他	324

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G050540	介護技術	鈴木 知佐子	325
専門科目	G050580	社会福祉援助演習Ⅳ	高橋 幸三郎 他	325
専門科目	G050590	社会福祉援助演習Ⅴ	朝倉 和子 他	326
専門科目	G050620	ストレスマネジメント論	西口 守	326
専門科目	G050630	交渉法入門	西口 守	327
専門科目	G050640	ヘルスプロモーションと介護予防	鈴木 知佐子	327
専門科目	G050650	福祉の心理学	山田 順子	328
専門科目	G050660	精神保健福祉援助の基盤	中島 直行	328
専門科目	G050680	福祉コミュニケーションⅠ（点字）	大内 進	329
専門科目	G050690	福祉コミュニケーションⅡ（手話）	今野 明子	329
専門科目	G050700	福祉フィールド演習	西口 守	330
専門科目	G050730	地域福祉論Ⅰ	嶋田 芳男	330
専門科目	G050740	地域福祉論Ⅱ	嶋田 芳男	331
専門科目	G051000	基礎ゼミ	朝倉 和子 他	331
専門科目	G051002	青年心理学	根本 橋夫	332
専門科目	G051004	心理学実験Ⅰ	加地 雄一 他	332
専門科目	G051005	心理学実験Ⅱ	加地 雄一 他	333
専門科目	G051007	家庭教育論	柳瀬 洋美	333
専門科目	G051009	消費者情報論	小野 由美子	334
専門科目	G051010	消費経済論	新田 義則	334
専門科目	G051012	衣環境学概論	藤居 眞理子 他	335
専門科目	G051013	食科学概論	山崎 薫 他	335
専門科目	G051014	基礎調理	小口 悦子	336
専門科目	G051015	住居学概論	小池 孝子	336
専門科目	G051016	社会福祉総論Ⅰ	西口 守	337
専門科目	G051017	社会福祉総論Ⅱ	木本 明	337
専門科目	G051018	福祉の医学	鈴木 知佐子	338
専門科目	G051019	福祉の社会学	鈴木 元久	338
専門科目	G051021	児童福祉論	未 定	339
専門科目	G051022	認知症の理解	鈴木 知佐子	339
専門科目	G051023	高齢者福祉論Ⅰ	西口 守	340
専門科目	G051024	高齢者福祉論Ⅱ	嶋田 芳男	340
専門科目	G051025	精神保健学Ⅰ	穴倉 久里江	341
専門科目	G051026	精神保健学Ⅱ	穴倉 久里江	341
専門科目	G051027	精神医学Ⅰ	菊地 秀明	342
専門科目	G051028	精神医学Ⅱ	菊地 秀明	342
専門科目	G051029	自然体験活動演習Ⅰ	金子 和正	343
専門科目	G051030	自然体験活動演習Ⅱ	金子 和正	343
<資格科目>				
資格科目	6100010	教師論	長谷 徹	347
資格科目	6100010	教師論	佐藤 広美	347
資格科目	6100020	教育原理	佐藤 広美	348
資格科目	6100030	教育心理学	山田 順子	348
資格科目	6100040	教育制度論	佐藤 広美	349
資格科目	6100050	教育課程論	渡部 忠治	349
資格科目	6100050	教育課程論	白 恩正	350
資格科目	6100060	家庭科教育法A	植竹 桃子 他	350
資格科目	6100060	家庭科教育法A	上村 協子 他	351
資格科目	6100070	家庭科教育法B	植竹 桃子 他	351
資格科目	6100070	家庭科教育法B	上村 協子 他	352
資格科目	6100080	家庭科教育法C	中村 洋子	352
資格科目	6100080	家庭科教育法C	小野瀬 裕子	353
資格科目	6100090	家庭科教育法D	立山 香	353
資格科目	6100090	家庭科教育法D	小野瀬 裕子	354
資格科目	6100200	福祉科教育法A	鈴木 知佐子	354
資格科目	6100210	福祉科教育法B	鈴木 知佐子	355
資格科目	6100220	道徳教育論(小)	佐藤 広美	355
資格科目	6100220	道徳教育論	田中 直美	356
資格科目	6100230	特別活動論	長谷 徹	356
資格科目	6100300	教育方法・技術論(幼・小)	渡部 忠治	357
資格科目	6100300	教育方法・技術論	小池 澄男	357
資格科目	6100310	生徒指導論(小)	長谷 徹	358
資格科目	6100310	生徒指導論	長谷 徹	358
資格科目	6100320	教育相談論	小野 眞理子 他	359

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
資格科目	6100320	教育相談論	山田 順子	359
資格科目	6100350	教育実習指導	佐藤 広美 他	360
資格科目	6100360	教育実習A	佐藤 広美	360
資格科目	6100370	教育実習B	佐藤 広美	361
資格科目	6100380	栄養教育実習指導	辻 雅子 他	361
資格科目	6100390	栄養教育実習	辻 雅子 他	362
資格科目	6100400	初等教育実習指導（小学校）	長谷 徹 他	362
資格科目	6100410	初等教育実習C	長谷 徹 他	363
資格科目	6100420	初等教育実習指導（幼稚園）	吉川 晴美 他	363
資格科目	6100430	初等教育実習A	吉川 晴美 他	364
資格科目	6100440	初等教育実習B	吉川 晴美 他	364
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	佐藤 広美 他	365
資格科目	6100460	教職実践演習（栄養）	佐藤 広美 他	365
資格科目	6100470	教職実践演習（幼・小）	長谷 徹 他	366
資格科目	6200010	学校栄養教育論Ⅰ	田中 延子	366
資格科目	6200020	学校栄養教育論Ⅱ	酒井 治子 他	367
資格科目	6300010	博物館概論	小瀬 康行	367
資格科目	6300020	博物館資料論	小瀬 康行	368
資格科目	6300030	博物館経営論	田尾 誠敏	368
資格科目	6300060	生涯学習概論	矢内 琴江	369
資格科目	6300080	博物館実習	小瀬 康行	369
資格科目	6300090	博物館資料保存論	田尾 誠敏	370
資格科目	6300100	博物館展示論	西海 賢二	370
資格科目	6300110	博物館教育論	山田 順子	371
資格科目	6300110	博物館教育論	佐藤 広美	371
資格科目	6300120	博物館情報・メディア論	有田 寛之	372
資格科目	6400060	保育実習指導Ⅰ	新開 よしみ 他	372
資格科目	6400060	保育実習ⅠA	小野 眞理子	373
資格科目	6400070	保育実習ⅠB	新開 よしみ 他	373
資格科目	6400080	保育実習ⅠC	柳瀬 洋美 他	374
資格科目	6400090	保育実習Ⅱ	小野 眞理子 他	374
資格科目	6400100	保育実習Ⅲ	小野 眞理子 他	375
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅱ	野澤 祥子 他	375
資格科目	6400140	保育実習指導Ⅲ	小野 眞理子 他	376

基 礎 科 目

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代を生きる息苦しさや不安を感じてもそれが無いことのように振る舞うことが求められている現状について、「文学」を通して考えます。材料として現代のクールジャパンといわれているものと日本の古典をつないでみます。古文を読めるようになることがねらいではありません。人間の生の多様性と普遍性に触れることを第一義に考えます。しなやかな感性で古代の人々の声を聞いてみてください。現代に生きるわたしたちの社会が相対化されて見えてくることでしょう。

学習目標・到達目標

3.11を体験したわたしたちは、日常がどのようなものか、理解する機会を得ました。文学はその日常を意識化させ、人間理解を促すものです。文学に触れることで、「今、ここ」の現実にはばらばらにされているだけの自分ではないことを理解しましょう。きっと他者の声も聞こえてくるはずです。文学を通して、人間理解を深めることが目標となります。

準備学習

古文が読めなくても、古典のおもしろさや読む楽しさは味わうことができます。しかし、そのためには、社会や人間への関心がなければ難しいでしょう。この授業を現代に生きる自分の問題として考える機会にしたいだけだと願っています。

評価方法その他

平常点（各回授業レポートの提出）60％、ふりかえりシートの提出20％、期末レポート20％による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 現代の女性と平安文学「源氏物語」とエヴァンゲリオン
2. 違和感を生きたる「虫めづる姫君」「狭衣」と海月姫
3. つながらない気持ち「鄙にありて都を想う」
4. 交響する和漢のことば 男の人との会話術(1)「枕草子」とナナ
5. 交響する和漢のことば 男の人との会話術(2)和漢朗詠集
6. やまとことばの葉を拾う(1)「古今集」の理念
7. やまとことばの葉を拾う(2)「古今集」のうた
8. ことばで恋する女たち 女性のうた
9. 異郷のものと生きる「うつほ物語」
10. 「ひかり」の転生「竹取物語」とセーラーラームーン
11. 歴史を書き付ける(1)源氏物語ってどんな話？
12. 歴史を書き付ける(2)源氏物語の恋
13. 浮舟にあこがれて「更級日記」
14. 現し身を生きたる 和泉式部という生き方
15. ふりかえりシートによるまとめ

使用教科書名

井上・鈴木・深沢編『平安文学十五講』翰林書房 定価980円＋税

授業科目概要・教育目的（履修条件）

言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えるという側面も認められる。この授業では、日本語の構造やしくみについて分析を行うとともに、言語と文化との関係について、日本語を対象として具体的な事例をいくつか挙げながら考察を行ってゆく。日本語という観点から日本文化を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めてゆくことをめざす。

学習目標・到達目標

日本語のしくみの基本を理解する。また、日本語と文化との関係について考えることを通じて、ことばに対する興味・関心を深める。

準備学習

授業の中で紹介される参考文献や配付資料を自ら積極的に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用など）や、授業に関係ない行動を取るとは慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

平常点20％、期末試験80％。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。なお、出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

1. 日本語の音声・音韻1 発音のしくみ
2. 日本語の音声・音韻2 母音と子音
3. 日本語の音声・音韻3 音素と異音
4. 日本語の音声・音韻4 音素設定の原則
5. 日本語の文字・表記1 文字の分類
6. 日本語の文字・表記2 日本語表記の特色
7. 日本語の語彙1 語彙とは何か
8. 日本語の語彙2 語種から見た日本語語彙の特色
9. 日本語の文法1 文法とは何か
10. 日本語の文法2 日本語のデンス
11. 日本語と文化1 ことばと文化の関係性
12. 日本語と文化2 サピア・ウォーフの仮説
13. 日本語と文化3 日本の文化と語彙
14. 日本語と文化4 日本の文化と方言
15. 日本語と文化5 方言分布のさまざま
16. 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自分の考えや感情をことばで表現し相手に伝える技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生きていく上で必須のものである。本授業では、文章表現に関する理論的な考察および課題への取り組みを通じて、日本語表現力を向上させることをめざす。場面に応じた効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの生活の中で応用し、実践できる力を養う。受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講希望者が40名を超えた場合は初回授業で抽選を行う。

学習目標・到達目標

自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術を学ぶとともに、場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを理解し、それらを自らの言語生活の中で実践しようとする姿勢を身につける。

準備学習

準備学習として「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。またテキストの該当範囲を事前に読んで上で授業に臨むことが望ましい。受講者の抽選を行う可能性があるため初回授業には必ず出席すること。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。また、毎回の授業で作業の課題を課すので、その点を了解した上で受講すること。

評価方法その他

平常点30%、課題提出(トレーニングシート)70%。平常点は授業への参加状況、授業中に行う練習問題等への取り組み、グループ作業への参加等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。また、トレーニングシートも授業終了時に毎回必ず提出する。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性
2. 上手な意見交換の方法を学ぶ
3. 文章を読解する(アカデミックリーディング)
4. 文章を要約する(パラグラフの分析)
5. データを集めて解釈する
6. プレゼンテーションを行う1 発表資料の作成
7. プレゼンテーションを行う2 発表の実践
8. ディベートの技法を学ぶ
9. 口頭表現の基礎を押さえる
10. エントリーシートを作成する1 エントリーシートの基本
11. エントリーシートを作成する2 自己分析の基本
12. 面接のコツを学ぶ
13. 手紙を書く1 書式の基本
14. 手紙を書く2 依頼の手紙の基本
15. 手紙を書く3 手紙文作成の実践

使用教科書名

福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著(2009)『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』三省堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

フランス語は英語の次に世界で使用されており、国際連合の公用語の1つにもなっています。言語と文化は密接な関係をもつとはいえ、世界の各地にはフランス語を基軸としながらも多彩な文化が広がっているはずで、また、フランス自体が多民族国家であり、「フランス文化」など一つにくくれるものではありません。そこで、本講義では、「フランス語圏文化」という観点から、視聴覚教材も積極的に利用しつつ、フランスを中心とする多様なフランス語圏の社会や文化と一緒に解剖していきましょう。

学習目標・到達目標

フランス語とフランス語圏文化という、海外の言語と文化についての学習を通じて、多様な価値観を受容し、異文化理解＝他者理解を深めつつ、自文化の枠組みを相対化できるようになることを目的とします。さらに、学習による理解に基づいて自らの見解を論理的な文章によって表現できるようになることを目標とします。

準備学習

フランス語を学習していると、よりいっそう授業内容のイメージがつかみやすいですが、必ずしもフランス語履修者である必要はありません。また、各回に関する予習は不要ですが、基本的な歴史の知識を抑えるために、おりにふれて高校の世界史や地理の教科書などを事前に読み返しておいていただければ幸いです(復習については、「使用教科書名」欄に記載)。

評価方法その他

平常点(コメントシートへの記入も含めた質疑・議論など授業に対する貢献)20%、小テスト(授業中に3回実施)30%、定期試験50%で評価。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. フランス語圏の食文化とフランスに移入された食文化
3. フランスの美術
4. フランスの音楽
5. フランスの婚姻制度と教育制度
6. フランスの地方文化——ブルターニュ地方、コルシカ島、バスク地方
7. フランスの旧植民地と海外県(1)——カリブ海、アフリカ
8. フランスの旧植民地と海外県(2)——アジア、オセアニア、ケベック
9. フランスとEU
10. フランスと日本
11. フランス語圏ヨーロッパ諸国——ダルデンヌ兄弟『ある子供』を中心に
12. フランスとユダヤ人——ジル・バケ＝プランネール『サラの鍵』を中心に
13. フランスの移民問題——リリアン・デュラムの闘いを中心に
14. 言論・表現の自由と宗教(1)——シャルリー・エブド襲撃事件
15. 言論・表現の自由と宗教(2)——ライシテとスカーフ事件
16. 定期試験

使用教科書名

とくに指定はいたしません。ただし、授業中にプリントを配ったり、参考文献を紹介したりするので、受講者諸氏が各自でそれらを利用して学習事項を復習・発展させてください。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「文化」「コミュニケーションの種類」「異文化トレーニングの方法」などについて学び、「文化の違いを調整するテクニック」を身につけることを目指す。具体的な場面を想定して、どのような行動をとることがベストであるか考える。授業ではワークシートに基づき自分の考えを時間内にまとめ、発表することが求められる。

学習目標・到達目標

グローバル化が進んだ現代において、情報・人・物が国境を越えて交わりあう現象は日常茶飯事となった。文化に対する理解が不足していれば、異文化間における不用意な接触は緊張や摩擦を生み出すきっかけにもなる。この授業では、異文化の諸現象に直面したとき私たちはどのように考え行動すべきか、また文化の違いをどのように調整したらよいか、異文化コミュニケーションの視点から学ぶ。

準備学習

出席は初回からカウントします。授業には積極的に参加し、自分の意見を述べて下さい。

評価方法その他

中間試験40%、期末試験40%、平常点20%により評価する。平常点は授業参加状況に基づき総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 文化とは何か
2. コミュニケーション/異文化コミュニケーションの定義
3. コミュニケーションのメカニズムと特性
4. コミュニケーションの内容面と関係面
5. 言語コミュニケーション
6. 非言語コミュニケーションの種類
7. 異文化トレーニング:映像演習
8. 中間試験
9. エンパシーとシンパシー
10. コンフリクト・マネジメント
11. 異文化トレーニング:DIEメソッド
12. 異文化トレーニング:アサーティブ・コミュニケーション
13. 異文化トレーニング:エポケー
14. 異文化学習サイクル
15. 異文化適応とカルチャーショック
16. 期末試験

使用教科書名

なし(プリント配布)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

文化人類学は未開発国を中心にした人々の営みを学ぶ学問ではありません。本授業では日本人の生活文化歴史学・民俗学の学問を援用しながら、日本文化としての年中行事・人生儀礼・祭礼と芸能・民間信仰などを中心としながら日本の民俗文化について全国各地なかでも本学のある多摩地区や関東地方の儀礼を紹介しながら地域社会にいかに関係が活用されているかを考える機会を提示して、その発展としてこれまで気にもとめなかった学生さんたちが居住する地域の人的交流を中心とした民俗文化をひも解いてみたい。

学習目標・到達目標

日本の民俗宗教を紹介しながら、なかでも日常生活に顕著に散見する年中行事、人生儀礼・衣食住などを紹介しつつ、受講生各自に興味のある全国各地(できれば本人の生活体験をもった地域)の宗教・年中行事・人生儀礼・社会伝承・経済伝承などに見られる諸儀礼(祭礼含む)を通じての日本人論を報告することによって日本文化論を見直す機会をもっていただきたい。

準備学習

これまで気にも留めなかった自分の生まれ育った地域を身近な歴史や民俗から覗いてみると意外や村・町・市・県・国・世界の歴史と連携していることを発見してみましょう。

評価方法その他

出席70パーセント発表および質疑応答30パーセントとした。

週 テーマ・授業目標等

明治30年代以降の個人史(自分史)をライフヒストリーとして紹介する時にこれまで文字を中心として歴史の表舞台に登場しない人の個人史を文字・遺物・そのたの伝承資料から見出すことができり可能性を提示する。

使用教科書名

なし・レジュメを配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

世界には、様々な歴史的・文化的背景をもつ音楽があります。本授業では、ジャンル・時代を問わず、私たちに身近な音楽を取り上げ、成立の背景を探っていきます。また、音楽と文学や美術、映像等の関連にも触れ、音楽の様々な機能についても紹介します。音楽鑑賞・映像鑑賞が中心となりますが、おりにふれ、歌唱活動も組み込んでいきます。また、プロの演奏家を招いてミニコンサートも予定しています。生の音楽に触れながら、音楽の楽しさ、奥深さを味わっていきましょう！

学習目標・到達目標

音楽の多様性を知り、楽しさに触れることで、身のまわりの音楽への興味・関心を高めるとともに、主体的に音楽と関わるために素地づくりを目指す。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 唱歌・童謡①
3. 唱歌・童謡②
4. 音楽の歴史①
5. 音楽の歴史②
6. 音楽の歴史③
7. 音楽の歴史④
8. 音楽とその周辺①
9. 音楽とその周辺②
10. 音楽とその周辺③
11. 音楽とその周辺④
12. ポピュラー音楽①
13. ポピュラー音楽②
14. ポピュラー音楽③
15. ポピュラー音楽④
16. まとめ・レポート

準備学習

ぜひ様々な音楽に興味を持ち、積極的な態度で授業に臨んでください。質問等は随時受け付けています。

評価方法その他

平常点50%（授業への参加態度、小テスト、課題）・定期試験50%

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

この授業では西洋の美術を扱う。社会的、文化的背景や美学の理論をふまえて、中世から20世紀まで歴史的にたどっていく。各時代の代表作品をスライドで鑑賞し、個々の芸術家や時代の様式上の特性を学習し、また、作品からのメッセージを聞くことを試みたい。様々な作品鑑賞の方法を使って、芸術作品の美を理解していく。

学習目標・到達目標

中世から20世紀までの西洋美術のおおよその流れが具体的な作品にそくしてつかめ、また各時代の様式上の特性が時代背景との関連で把握できることが第一の学習目標である。さらに作品鑑賞の方法と美や芸術についても理解を深めることを目指す。

準備学習

世界史の知識が必要となるため、高校の世界史教科書や参考書など、あらかじめ世界史の予備知識を学習しておくことが望ましい。

評価方法その他

定期試験80パーセント。平常点20パーセント。平常点は授業中の取り組み方で判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション 芸術とは何か、美とは何か、作品鑑賞について
2. 西洋美術の流れ 古代から現代まで時代区分について
3. 中世の時代 ロマネスク美術について
4. 中世の時代 ゴシック美術について
5. 中世から近世へ 移行期における美術
6. イタリア・ルネサンスについて、北方ルネサンスについて
7. 北方ルネサンスについて
8. バロック、ロココの時代
9. 南ドイツのバロック教会
10. 新古典主義の美術
11. ロマン主義の様相
12. 19世紀後半の美術 印象派とは
13. 印象派その後
14. ジャポニズムとアール・ヌーヴォー
15. 20世紀の諸動向
16. 定期試験

使用教科書名

教科書は使用しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標としている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。また、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。

学習目標・到達目標

色の果たす役割や仕組みを理解し、目的に合わせて効果的に使えるようになること、色彩を通して社会を見つめる目を養うことを目標とする。

準備学習

日頃から生活の中に広がる色を観察して欲しい。また、美術館に行くなど、美的なものに触れる機会を意識して増やしてほしい。授業では、ワークシートの貼付や配色実習で色紙を使用する。そのための事前準備は適宜指示するので、準備を済ませてから授業に臨むこと。配布したプリントや色紙を紛失すると授業に参加できなくなるので、注意すること。

評価方法その他

成績評価は定期試験80%＋配色トレーニング実習シートの作品20%とし、出席状況や授業態度を加味して総合判断する。定期試験は、配色実習以外の内容から出題し、60点以上を合格とする。配色トレーニング実習シートは、配色理論が理解できている

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション(色の果たす役割・生活の中の色)
- 2.色とは何か 照明と色
- 3.色が見えるしくみ 色覚説
- 4.色の混色
- 5.色の伝達方法 1)色名 2)様々なカラーシステム
- 6.マンセルカラーシステムと色の3属性
- 7.HUE&TONEシステム 1)色相
- 8.HUE&TONEシステム 2)トーン 嗜好色診断
- 9.補色残像、対比、同化 色の心理的效果
- 10.2つの色の関係 基本実習1)まとまりときわだち
- 11.配色実習2)色相配色とトーン配色
- 12.配色実習3)グラデーションとセパレーション
- 13.配色センスアップのポイントとカラーユニバーサルデザイン
- 14.配色トレーニング実習
- 15.色と象徴 色とイメージ 主な色の特徴
- 16.定期試験

使用教科書名

「カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版」大井義雄・川崎秀明著/日本色研事業株式会社/¥1500＋税
「デザイントーン130 182mm帯」/株式会社日本カラーデザイン研究所/¥600＋税

授業科目概要・教育目的（履修条件）

世界各地において、それぞれの民族のくらしの中で生まれた被服は、風土と自然環境の中で、特有の服飾文化を形成してきた。その服飾における文化的な意義を理解させる。また被服が環境や社会、自分自身とどのような関わり方しているのかを学ぶ。

学習目標・到達目標

服飾が時代と共にどのような変化をしてきたのか、また社会生活の中でどのような役割を担い、服飾によってどのようなメッセージを発信できるかを学ぶ。

準備学習

服飾の特質を学び、生活の中でうまく利用できるようになってほしい。出席は毎回必ず確認する。受講に際しては、積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑となる行為や、授業に関係ない行動、受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

レポート(20%)、筆記試験(60%)、受講中の態度及び出席(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 身体の装飾 装飾の形態
2. 衣服の起源 日本の服飾
3. 西洋の服飾 (近世まで)
4. 西洋の服飾 (近世以降)
5. 西洋と日本のかかわり (ビデオ モードのジャポニズム)
6. 現代の服飾と世界の民族衣装
7. 前半のまとめおよび小テスト
8. 1) 欲求と被服の着装動機
9. 2) 自己概念と被服の着装動機
10. 3) 情報手段としての被服
11. 4) 被服を手掛かりとした他者認知
12. 5) 社会集団における被服の機能
13. 6) 服装における社会規範
14. 7) 服装と流行
15. 博物館、美術館などの見学
16. 試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本の社会から忘れ去られた（抹殺された）日本の文化、なかでも闇から闇へ消されていった民俗文化の伝播者を中心に、民俗文化（民衆文化）がいかなる意味を持っているかを考える。

学習目標・到達目標

忘れ去られた日本文化を民俗学（伝承資料）を中心にしながら全国各地の事例を引き合いに出しながら紹介したい。

準備学習

民俗学は日本文化を表層からみる学問です。忘れ去られた日本文化再評価してみましょう。

評価方法その他

出席30パーセント・試験70パーセント

週 テーマ・授業目標等

1. 日本民俗学の流れー19世紀以降
2. :
3. :
4. :
5. 都市が生み出す民俗（流行神・妖怪）
6. 都市の不思議な空間
7. 言い伝えに見る宗教者
8. 民間宗教者の受け入れと統制
9. 民間宗教者の歓待
10. 入り来る者の狼藉と忌避
11. 民間宗教者の表裏
12. 巡礼する人々(1)
13. 巡礼する人々(2)
14. 近世民間宗教者の発生と文化
15. 民間宗教者と地域社会

使用教科書名

拙著『近世のアウトローと周縁社会』臨川書店 2006年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

考古学は過去の人間が残した遺跡、遺構、遺物などを研究することによって、過去の人間に関する歴史を叙述する学問である。歴史学が古文書類など文字情報を基礎として歴史を復元するのに対して、考古学は遺跡・遺構・遺物を通して過去の人間の行動や生活を明らかにする点で両者の方法論に違いがある。考古学の研究方法は、理化学的な方法のほかに層位学的研究、型式学的研究など年代を明らかにするさまざまな方法あることを学び、また対象とする遺跡や遺物の分析方法を理解することを通じて考古学に対する基礎的な理解力を養う。

学習目標・到達目標

今日、歴史教育や地域学習などさまざまな場面で考古学の成果が公開され活用されている。本講義では、考古学とは何を学ぶ学問なのか、考古学によって何がわかるのか、考古学ではどのような方法で研究がなされるのかなど、考古学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、わが国のさまざまな遺跡を事例として各時代の文化に対する理解を深め、また発掘調査によって出土した遺跡、遺構、遺物を分析することによって、過去の人間の文化を明らかにする。

準備学習

さまざまな考古遺物をじっくり観察することが考古学を理解することになりますので、博物館や埋蔵文化財センターのような考古学展示がある施設で多くの資料を見てください。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 考古学とは何か:考古学が過去の人類文化と歴史を明らかにする学問であることを学ぶ。考古学の定義、対象とする年代、研究方法について理解する。
2. 考古学の発展史:考古学がどのように発達してきたのか、ヨーロッパにおける発掘調査と考古学について理解する。
3. 考古学が扱う年代:考古学資料によって歴史を復元するために、年代を決定する必要性とその方法について述べる。
4. 考古学と年代(1)理化学的年代測定法:14年代法、熱ルミネッセンス法、年輪年代法他等の理化学的な年代測定方法を理解する。
5. 考古学と年代(2)層位学的年代測定法:地質学の原理、地層累重の法則、火山灰年代法等を理解する。
6. 考古学と年代(3)型式学的方法の原理:モンテリウスの型式学、一括遺物の考え方を理解する。
7. 考古学と年代(4)銅鐸の形態の変遷を中心にして痕跡器官の考え方を理解する。
8. 縄文時代(1)縄文時代の代表的な遺跡(三内丸山遺跡他)をとりあげて、縄文時代の環境、生活、文化について学ぶ。
9. 縄文時代(2)縄文時代の遺跡から出土した遺物について、その特徴と機能について学ぶ。
10. 弥生時代(1)弥生時代の代表的な遺跡(吉野ヶ里遺跡他)を取り上げて、弥生時代の生活や文化について学ぶ。
11. 弥生時代(2)弥生時代の遺跡から出土した遺物について、その特徴と機能を学ぶ。
12. 古墳時代(1)代表的な古墳を取り上げて、その形状や副葬品などから古墳時代の文化を考える。
13. 古墳時代(2)古墳から出土する遺物(埴輪、副葬品など)をから古墳時代文化を考える。
14. 日本の遺跡と埋蔵文化財の現状
15. まとめ

使用教科書名

資料は授業中に配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高校までの数学は、どの分野も基礎的で重要なものばかりである。授業では、高校までに学習した数学I・数学A・数学I・数学B・数学III・数学Cの中から特に重要な項目を選び出して復習しそれを発展させることで知識を確実なものとし、さらに獲得した知識を、自然科学、工学のみならず、広く経済学、社会学等の様々な事象に活用する大切さを学ぶ。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題される問題を大まかにフォローすることができる。

学習目標・到達目標

文章を式で表す、文字式の計算、一次関数、二次関数、平方根・累乗根の意味、指数、対数の意味と計算、指数関数、対数関数、不等式と領域、論理、場合の数、確率

週 テーマ・授業目標等

第1週	式の計算
第2週	方程式、各種の応用問題
第3週	不等式、各種の応用問題
第4週	関数、
第5週	平行移動と対称移動
第6週	累乗根と指数、指数法則、指数の拡張
第7週	対数の定義、対数法則
第8週	中間テスト
第9週	指数関数、対数関数
第10週	指数・対数の応用
第11週	領域
第12週	線形計画
第13週	論理
第14週	場合の数
第15週	確率
第16週	期末テスト

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。

評価方法その他

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、課題点(20点)

使用教科書名

使用しない。プリントを配布して説明する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高校までの数学は、どの分野も基礎的で重要なものばかりである。授業では、前期開講科目の「基礎数学a」で扱ったテーマ以外で、高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学III・数学Cの中から特に重要な項目を選び出して復習しそれを発展させることで知識を確実なものとし、さらに獲得した知識を、自然科学、工学のみならず、広く経済学、社会学等の様々な事象に活用する大切さを学ぶ。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題される問題を大まかにフォローすることができる。

学習目標・到達目標

数列、3角比、測量、平面ベクトル、空間ベクトル、数的推理、判断推理、資料解釈

週 テーマ・授業目標等

第1週	数列
第2週	数列の和
第3週	漸化式
第4週	フラクタル
第5週	3角比
第6週	正弦定理と余弦定理
第7週	測量(2次元)
第8週	中間試験
第9週	測量(3次元)
第10週	設計図作成
第11週	ベクトル
第12週	ベクトルの演算
第13週	数的推理
第14週	判断推理
第15週	資料解釈
第16週	期末テスト

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。

評価方法その他

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、課題点(20点)

使用教科書名

使用しない。プリントを配布して説明する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日常にはたくさんの「不思議」があります。なぜマンホールは丸いのか？なぜカーナビは現在の位置情報を正確に把握できるのか？A4サイズの紙の縦と横の長さはどのような基準で決めるのか？ロマネスコって何であんな幾何学的な形状をしているのだろうか？などです。高校までで学んだ数学を、有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができます。トピック的に取り上げて「先人たちのアイデアや知恵」について解説しながら、数学のおもしろさを味わいます。

学習目標・到達目標

数学のおもしろさを味わう。
 数学の奥深さを味わう。
 数学の応用範囲の広さを味わう。
 数学の長い歴史を味わう。
 数学的なものの考え方を味わう。

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。好奇心に裏打ちされた自発的な学びを期待します。

評価方法その他

中間テスト(20点)、期末テスト(20点)、平常点(60点)
 (平常点は、課題への取り組みと授業への貢献度(授業内での発表や質問)を総合的に評価する)

週 テーマ・授業目標等

第1週 黄金比、白銀比(数のしくみ)
 第2週 ユークリッドの互除法(数のしくみ)
 第3週 フィボナッチ数列(数のしくみ)
 第4週 ハノイの塔(漸化式)
 第5週 フラクタル図形(図形と漸化式)
 第6週 遠近法による作図
 第7週 設計(図形の科学)、中間レポート
 第8週 空間図形の展開図(図形の科学)
 第9週 GPSのしくみ(図形の科学)
 第10週 指数・対数、常用・自然対数(数のしくみ)
 第11週 複利計算(社会生活と数学)
 第12週 ルーローの三角形(図形の科学)
 第13週 数学史(数学の歴史)
 第14週 和算と洋算(数学の歴史)
 第15週 クリスマス集合とファジイ集合(ファジイ理論)
 第16週 定期テスト

使用教科書名

使用しない。プリントを配布して説明する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業では、統計の考え方、計算方法を基礎から詳しく解説します。まずは平均値、分散、標準偏差のような基本統計量を学ぶことでいかなるデータに対しても計算でき、かつ、その意味を理解し応用できるようにします。次に、2変量のデータ解析の基本として相関分析、回帰分析を学びます。最後は離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算および中心極限定理を理解することで、推定、検定の考え方につながる基礎を学びます。毎回の講義では、事例を複数提示しますので様々な事象への応用に触れることができます。

学習目標・到達目標

1変量のデータの処理、2つの変量の関係を調べる、場合の数と確率、確率分布、標本分布と中心極限定理、統計的推定、統計的仮説検定

週 テーマ・授業目標等

第1週 平均値、再頻値、中央値
 第2週 分散、標準偏差、標準化
 第3週 散布図、共分散
 第4週 相関係数
 第5週 回帰式
 第6週 確率の定義と確率計算
 第7週 中間テスト
 第8週 期待値と分散
 第9週 離散型確率分布
 第10週 連続型確率分布
 第11週 正規分布と標準正規分布
 第12週 正規分布表を用いた確率計算1
 第13週 正規分布表を用いた確率計算2
 第14週 標本分布と中心極限定理
 第15週 統計的推定と統計的仮説検定
 第16週 期末テスト

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。

評価方法その他

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、課題点(20点)

使用教科書名

教科書 統計学がよくわかる本
 著者 宮田庸一
 出版社 アイ・ケイコーポレーション

授業科目概要・教育目的（履修条件）

最初に前期開講科目である「統計学入門」で学習した基本統計量(平均値、分散、標準偏差、共分散)、相関分析、回帰分析(重回帰分析)、確率分布、標本分布、中心極限定理を復習します。その後、実際のデータ処理・分析が必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」を中心に解説し多数の事例を紹介します。具体的には、点推定、区間推定、母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定、適合度の検定などです。EXCELを用いて、データ処理を積極的に行います。

学習目標・到達目標

2つの変数の関係を調べる、確率分布(正規分布、t分布、 χ^2 乗分布、F分布など)、標本分布と中心極限定理、統計的推定、統計的仮説検定、統計ソフトを用いた実践的なデータ分析

週 テーマ・授業目標等

第1週	平均値、分散、標準偏差、共分散
第2週	回帰式(重回帰式)
第3週	確率分布(正規分布、t分布、 χ^2 乗分布、F分布)
第4週	正規分布表を用いた確率計算
第5週	標本分布と中心極限定理
第6週	中間テスト
第7週	統計的推定(点推定)
第8週	統計的推定(区間推定)
第9週	統計的仮説検定の概要
第10週	母平均の検定
第11週	母平均の差の検定1
第12週	母平均の差の検定2
第13週	母分散の検定
第14週	適合度の検定
第15週	推定・検定の応用
第16週	期末テスト

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。基礎統計学aを履修していることが望ましいです。

評価方法その他

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、課題点(20点)

使用教科書名

教科書 統計学がよくわかる本
著者 宮田庸一
出版社 アイ・ケイ コーポレーション

授業科目概要・教育目的（履修条件）

情報を処理する機械としてのコンピュータを対象にして、情報に関する基礎的なことを学ぶ。そして、情報の表現方法や問題を解決するためのモデル化について考える。また、コンピュータで情報を処理する上での考え方を学び、情報を処理する方法の基礎を理解する。それは明確な手続きであるアルゴリズムを理解することにつながり、アルゴリズムを評価することによって情報を処理する効率について考えることができる。
履修条件: 学内ネットワークに対するアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、問題を解決する方法を考えることができる。

週 テーマ・授業目標等

1.	情報とは(ガイダンスを含む)
2.	文字・音の表現
3.	画像・動画の表現
4.	問題のグラフによるモデル化
5.	数学的な解決
6.	データの処理
7.	オブジェクト指向
8.	アルゴリズム
9.	同じ問題を解くいろいろなアルゴリズム
10.	アルゴリズムの評価
11.	アルゴリズムの基礎
12.	基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
13.	情報伝達の仕組み
14.	情報処理の歴史
15.	言語の定義と解釈
16.	試験

準備学習

情報学の基本は論理性と手順にあります。一見難しく思えるかもしれませんが、じっくりと取り組んで下さい。また、「コンピュータ概論」の履修を希望する場合には、本講義を履修することが望まれる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(10%)、提出物(75%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使うって複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。

履修条件: パソコン室のコンピュータを利用できること。また、@kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標・到達目標

基本的な概念を十分理解し、コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を身につけることができる。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス
2. 情報システムのイメージ
3. 情報を処理する仕組みとその改善
4. コンピュータシステムの機能と性能
5. コンピュータの導入とアーキテクチャ
6. コンピュータの構成
7. 実行順序を変える命令
8. ループ
9. ループを終える処理
10. 条件によって分岐先を変えるプログラム
11. オペレーティングシステムとプログラム
12. メモリとファイルの管理
13. 情報ネットワークの環境
14. 情報セキュリティ
15. コンピュータの歴史
16. 試験

準備学習

コンピュータの基礎は計算にある。

なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(75%)、試験(20%)などを総合的に評価する。

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使うって複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。

履修条件: パソコン室のコンピュータを利用できること。また、「情報論」を履修していることが望ましい。

学習目標・到達目標

基本的な概念を十分理解し、コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を身につけることができる。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス
2. 情報システムのイメージ
3. 情報を処理する仕組みとその改善
4. コンピュータシステムの機能と性能
5. コンピュータの導入とアーキテクチャ
6. コンピュータの構成
7. 実行順序を変える命令
8. ループ
9. ループを終える処理
10. 条件によって分岐先を変えるプログラム
11. オペレーティングシステムとプログラム
12. メモリとファイルの管理
13. 情報ネットワークの環境
14. 情報セキュリティ
15. コンピュータの歴史
16. 試験

準備学習

コンピュータの基礎は計算にある。

なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。

評価方法その他

受講状況・学習態度(10%)、提出物(75%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので各自空いた時間を利用して自学することができる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。

履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。

履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

【初回の授業の注意】配布されたパスワードの紙を忘れずに

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学びや能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。
履修条件: @kasei-gakuin.ac.jp Gmail を使うことができること。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

表計算の基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学びや能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。
履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウント(特に @kasei-gakuin.ac.jp のメールアドレス)を持っていること。また、「コンピュータ演習a」を履修済であることが望ましい。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

表計算の基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので自学することがまれる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。適宜講義内でプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学習や能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。

履修条件: @kasei-gakuin.ac.jp Gmail を使うことができること。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学習や能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。

履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。また、「コンピュータ演習a」を履修済であることが望ましい。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

準備学習

表計算の基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

メディアによる体の情報は溢れる毎日である。正しい情報を得るためにも、自身の体についてしっかりと知識をもっている必要がある。人の体の基本的なことから、運動や環境に左右される人の生理学的値についても修得していく。人の体を形態、機能、食事（栄養）、運動、加齢といったキーワードから考えていく。視覚教材を十分に利用し体の理解を深める事に重点を置く。自身の体に関心を持つ事によって疾病への予防、対策について考えられるようにしていく。

学習目標・到達目標

体の知識について正確な情報を選択できる能力を身につける。体の形態と機能について理解し栄養と食事との関連についても知識を身につける。多くの情報があふれる中で、自身の体について学習し人の生きる事の重要性についても考えていく。また、環境と人間の体の関連性についても理解を深める。

準備学習

日常生活の中で、体について関心を持って下さい。様々にあふれる情報の中で何が正しい情報なのかを判断できるように、いろいろな角度から体の情報を調べる習慣を身につけて欲しい。子供から老人までの体の成長、老化そして死というものについて科学的な知識をもって考える機会をもって欲しい。

評価方法その他

出席を重視する。毎回の小テストと平常点の総合評価とする。毎回の小テスト60%、テスト40%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス なぜ人の体について学ぶことは重要か
2. 人の体の構成
3. 人の動きを決定している脳
4. 骨格と神経系
5. 運動と筋肉、神経(反射)
6. トレーニングによる体の変化
7. 栄養とダイエット、脂肪を燃焼させる意味
8. 呼吸・循環系
9. 運動と呼吸・循環系の変化
10. 環境の変化が人の体にもたらす影響(温度)
11. 人の体の数値とその変化の意味するもの
12. 運動による人の体の変化
13. 加齢による人の体の変化
14. 体の数値の変化(疾病)
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

授業時に適宜指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ダイエットは女子大生にとって関心の事柄の一つです。ダイエットをしてはリバウンドをしてという繰り返しもあるでしょう。正しいダイエットというものはありませんが、体に無理なダイエットはいつしか体の疲弊を招く恐ろしい現象につながっていきます。食事療法と運動療法はダイエットの両輪ですが、ここでは運動療法を中心に、具体的なダイエットの理論と実践のための知識を学びます。

学習目標・到達目標

ダイエットの正しい意味を理解し、運動と栄養と休息のバランスの取れた生活習慣の形成ができることをめざします。多くのダイエットに関する情報に振り回されず、自身を取り巻く環境を見つめ何が自分に摂って相応しいダイエット方法なのかを知ること、さらに生涯を通じて運動やバランスのとれた栄養の摂取がいかに大切であるかを知ることが目的とします。

準備学習

ダイエットのちまたに溢れる情報に左右されることなく、正しい知識と実践力を身につけ、それを実際に経験してほしい。運動と食事がダイエットの基本である事を十分に理解してほしい。

評価方法その他

出席を重視するが、毎授業時の小テストとの総合評価とする。平常点50%、テスト50%。

週 テーマ・授業目標等

1. ダイエットとフィットネスの関係
2. 体の構造と機能
3. 体の測定
4. 体脂肪の計測
5. 肥満と生活習慣病
6. 運動とエネルギー代謝
7. 食事療法と運動療法
8. 有酸素運動と無酸素運動
9. 体力診断(運動負荷テスト)
10. トレーニングの実際 1.ストレッチング
11. トレーニングの実際 2.筋力トレーニング
12. 運動と栄養
13. 運動と疲労、疲労の回復
14. 運動の怪我、リスクマネジメント
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

女性と男性で病気やその治療法などが異なることがわかり、その研究は性差医学として発展していて、女性固有の医学的問題についての対処法が進歩している。この授業では、長年の医師としての経験に基づき、女性の種々のライフステージで重要な医学的問題を選び出し、毎回の授業で各トピックについての理解を深める。講義内容は毎年医学の進歩に合わせて更新して最近のトピックをも必要に応じて盛り込んでおり、女性として知っておくと必ず役立つ最新の医学知識を通して、「女性の健康」について考える。

学習目標・到達目標

少なくとも一つのトピックについて、正確な知識に基づいて議論を構築し、自分としての見解を正しく表現できるようにする。

準備学習

女性に有益な最新健康情報を取り入れています。素人向けなので、難しくありません。性の問題、やせや生活習慣病、女性特有のがんの予防、早期対処法、最近進歩が著しい生殖補助医療の問題点など、履修者の目線で考えることを助けたいと思います。インターネットやメールも活用して下さい。講義の内容に関連して、最近トピックとなったことに関する疑問があれば、質問も受け付けます。

評価方法その他

出席を重視する。積極的かつ建設的な質問を歓迎し、適宜加点する。定期試験（論文形式で記述、80点満点）、出席状況（出席点は20%まで加味する。）、質疑応答の内容などで総合的に判定する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.女性に多い病気、少ない病気(女性の貧血を含む)
- 2.性の決定、性ホルモン異常の胎児治療
- 3.月経のメカニズムとその異常
- 4.性感染症(STD)
- 5.いろいろな避妊法
- 6.経口避妊薬(ピル)
- 7.子宮がん
- 8.乳がん健診
- 9.卵巣の病気、がんとターナー症候群
- 10.母乳保育のすすめ:母児感染について
- 11.女性のやせ、妊婦のやせや肥満と子どもへの影響
- 12.女性の生活習慣病
- 13.更年期障害とホルモン補充療法
- 14.骨粗しょう症、変形性膝関節症など
- 15.出産の高齢化:生殖補助医療など
- 16.試験

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生理心理学では、生理学の知識をもとに心や行動のメカニズムや「謎」を研究する。「心」にかかわる諸問題を「生理学」という客観的な指標でとらえると何が明らかになるか?生理学の基礎知識から導入し、生理心理学関係領域である「脳科学」「再生医療」「遺伝子操作」などの最先端事情も紹介する。また、「ストレス度計測」「脳トレ」「筋トレ」など現代社会で起こっている様々な話題を「ニュースヘッドライン」として考えていきたい。

なお、当科目を学ぶには心理学の基礎である「心理学a」と「心理学b」を履修済みであること。

学習目標・到達目標**準備学習**

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。

<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

授業への参加状況と筆記試験で評価します。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 生理心理学とは
- 第2週 心と身体の関係1(「キレる」を分析)
- 第3週 心と身体の関係2(ストレスホルモンとは)
- 第4週 心と神経システム1(中枢神経系)
- 第5週 心と神経システム2(末梢神経系)
- 第6週 心と神経システム3(シナプスの働き)
- 第7週 心と神経システム4(「脳内薬物」とは)
- 第8週 生理反応の基礎と臨床(大脳と前頭葉)
- 第9週 生理反応の基礎と臨床(脳波)
- 第10週 臨床への適用1(睡眠と覚醒)
- 第11週 臨床への適用2(ポリグラフとは)
- 第12週 臨床への適用3(事象関連電位)
- 第13週 臨床への適用4(バイオフィードバック訓練)
- 第14週 臨床への適用5(脳の訓練と可能性)
- 第15週 生理心理学の未来(遺伝子操作、コンピュータモデル)
- 第16週 試験

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。

<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本のレクリエーション活動小史を把握する。また、レクリエーション活動援助と組織、その他の関連領域を把握すること。

学習目標・到達目標

遊びやレクリエーションがわれわれの生活にとって如何に重要なことであるかを理解すること。

週 テーマ・授業目標等

1. 遊びとレクリエーション
2. 厚生思想
3. いろいろな場面のレクリエーション
4. これからのレクリエーション運動
5. レクリエーション支援の理論1(福祉施設の現状)
6. レクリエーション支援の理論2(地域の現状)
7. レクリエーション支援の目標と理念
8. レクリエーション支援者の役割
9. 小テスト
10. レクリエーション組織の経営論1(クラブを育て運営する)
11. レクリエーション組織の経営論2(市町村レクリエーション協会の役割と経営)
12. レクリエーション組織の経営論3(レクリエーションを支える組織とその役割)
13. レクリエーションサービス論1(趣味としてのレクリエーション・事業を実施する)
14. レクリエーションサービス論2(事業を評価する)
15. レクリエーションサービス論3(事業と安全・保険について)
16. テスト

準備学習

遊びやレクリエーション活動、またはその援助活動、指導経験、習い事などについてまとめておくこと。

評価方法その他

平常点50%、2回のテスト50%で判定する。
(平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加等で総合的に判断する。)

使用教科書名

授業中に配布するプリントを参照すること。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。

学習目標・到達目標

さまざまなゲーム・スポーツ経験から、活動のマナーを知り、健康増進を図るとともに、他者と接する体験を重ね生涯教育の一環とすること。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 室内レクリエーション(PA系ゲーム)
3. 室内レクリエーション(仲間作りのゲーム)
4. 室内レクリエーション(仲間作りのゲーム)
5. 室内レクリエーション(仲間作りのゲーム)
6. (ゴルフ1)アドレスとグリップ
7. (ゴルフ2)アイアン・ウッドのショットA
8. (ゴルフ3)アイアン・ウッドのショットB
9. さまざまなゲーム・スポーツ(ドッジ・フライングディスクなど)
10. さまざまなゲーム・スポーツ(カップスタックス・剣玉ほか)
11. (フライキャスティング1)グリップからベーシックキャスト
12. (フライキャスティング2)ショートレンジ
13. (フライキャスティング3)ロングディスタンス
14. (フライキャスティング4)トリックキャスト
15. アキュラシーテスト1
16. ロングディスタンステスト2

準備学習

体育会系施設は卒業までに充分活用していただきたい。

評価方法その他

平常点50%、テスト50%で総合的に判定する。
(平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加等で総合的に判断する。)

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながら楽しむことを前提とした授業とする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して学習していく。

学習目標・到達目標

最もポピュラーなスポーツを積極的に経験することで、生涯スポーツとしてのおもしろさを体感し、体力の維持・向上に寄与する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 バレーボール(トスとサーブ)
- 3 バレーボール(レシーブとアタック)
- 4 バレーボール(ミニゲーム)
- 5 バレーボール(ゲーム)
- 6 テニス又はソフトボール(基本技術)
- 7 バasketボール(基本技術)
- 8 バasketボール(マンツーマンデフェンス)
- 9 バasketボール(ゾーンデフェンス)
- 10 バドミントン(基本技術)
- 11 バドミントン(ゲーム)
- 12 卓球(ゲーム)
- 13 フットサル(基本技術)
- 14 ラグビー(基本技術)
- 15 まとめ

準備学習

授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

評価方法その他

平常点(50%)、運動能力(20%)、授業態度(20%)、その他実技小テスト等(10%)の評価で行う。平常点は、授業への参加状況など総合的に判断する。

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

呼吸、ポーズ(アーサナ)を通して、自分の身体の特性を理解し、骨盤や背骨の歪みを整え、身体の調和を目指す。

身体と精神を呼吸でつなぎ、全身をゆったり動かすことで、筋力、バランス力、体力、柔軟性を高め、代謝を促進。心身の調和を目指す。

ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、どう生きるべきかを問い、社会との調和を目指す。

学習目標・到達目標

基本的なポーズ(アーサナ)の連続による「太陽礼拝」を呼吸にのせて自分らしくおこなえるようになる。

ヨガの哲学(ラージャ・ヨーガの八支則)を学び、理解を深める。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション／ 授業内容・進め方の説明
2. ヨガの概要／呼吸法、基本のポーズの実践
3. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ①(呼吸を深める)
4. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ②(身体部位への意識を高める)
5. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ③(逆転のポーズ)
6. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ④(ねじりのポーズ)
7. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑤(バランスのポーズ)
8. 講義:ヨガの歴史、ヨガの哲学
9. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑥(後屈のポーズ)
10. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑦(前屈のポーズ)
11. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑧(総まとめ)
12. 実技:テスト課題の練習①(背骨や骨格の意識を高める)
13. 実技:テスト課題の練習②(呼吸とのつながりを深める)
14. 実技:テスト課題の練習③(流れるように伸び伸び行う)
15. 実技:テスト課題の練習④(総まとめ)
16. 実技テスト

天気、気候、月の満ち欠け等により、適時、適切なプログラムを行う。

準備学習

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は、人それぞれです。ヨガをとおして、現在の自己の身体特性を知り、心身が変化していく過程を体感しましょう。

体調管理を万全にして、臨むこと。

評価方法その他

平常点(40%)、実技試験(40%)、課題(提出物)(20%)。(平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する)

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ホッケー、卓球などをゲーム中心で実施する。後半は話し合いで種目を決めるので、これら以外のゲームを行うことも可能である（例えばソフトボール、テニスなど）。

学習目標・到達目標

いろいろなスポーツのルール、楽しさ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基礎を形成する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 バドミントン1
- 3 バドミントン2
- 4 バレーボール1
- 5 バレーボール2
- 6 バスケットボール
- 7 ホッケー
- 8 卓球
- 9 種目は話し合いで決定する
- 10 種目は話し合いで決定する
- 11 種目は話し合いで決定する
- 12 種目は話し合いで決定する
- 13 種目は話し合いで決定する
- 14 種目は話し合いで決定する
- 15 まとめ

準備学習

運動不足の人は自宅でストレッチをしておいてください。

評価方法その他

100%平常点(出席点90%, 授業態度10%)

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

種目:フィットネス
自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して、体を動かしていきます。
体の不調を予防したり、リラックス効果を得るために、ストレッチ、筋力トレーニングを行います。また、持久力向上を目指し、有酸素運動のエアロビクスダンスを行います。音楽に合わせてリズムカルに動くことで、ストレス発散も目的としています。

学習目標・到達目標

自分の体力、体調に合った体の動かし方を知る。
また、自分の体と向かい合い、運動をすることの楽しさと気持ちよさを体感する。
定期的に運動をすることの意義を考え、運動をライフサイクルの中に取り入れる基盤づくりをする。

準備学習

日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいいので、自分の体について考える時間を作ってください。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. ストレッチ①、体の力を抜いてみる
3. ストレッチ②、体の重心を考える
4. ストレッチ③、体幹を考える
5. 体幹トレーニング
6. バランスボール①:体幹トレーニング
7. バランスボール②:筋力トレーニング
8. バランスボール③:まとめ
9. セルフマッサージ①:一人で行うマッサージ
10. セルフマッサージ②:二人組みで行うマッサージ
11. エアロビクスダンス①:有酸素運動とは
12. エアロビクスダンス②:足の動きを中心に
13. エアロビクスダンス③:手の動きを考える
14. エアロビクスダンス④:ハイインパクト(跳躍系の動き)
15. エアロビクスダンス⑤:まとめ

評価方法その他

平常点50%(授業への参加状況)、授業態度、取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

卓球は気軽に始められるスポーツですが、自己の技術の進歩とともに運動量は大きなものとなっていきます。反射的な動きが求められるとともに、いろいろと作戦を考えながら試合運びをしていく楽しさもあります。ダブルスゲームを中心にしながらチームワークとコンビネーションの大切さを学んでください。

学習目標・到達目標

卓球を通してスポーツの楽しみを身につけ、生涯を通してスポーツをすることの素晴らしさを理解する。スポーツが、それぞれの発育発達段階で身体へ及ぼす影響について考えられる力を習得する。さらにスポーツのルールの重要性についても考えていく。

準備学習

時間があつたら体を動かす運動習慣を身につけて欲しい。一週間一ヶ月一年といった中で運動をする時間をつくり、生活の中に運動を取り入れ、スポーツをすることの重要性和素晴らしさを身につけていって欲しい。

評価方法その他

出席と授業時の総合評価とします。平常点50%、授業時評価50%。

週 テーマ・授業目標等

1. フォアハンドドライブ
2. フォアハンドドライブ
3. フォアハンドドライブとショートカット
4. サーブ練習とサーブからレシーブ
5. フォアハンドドライブとカット練習
6. ラリーからスマッシュの練習
7. バックハンドの練習
8. クロス打ちの練習
9. ルールと簡易ゲーム
10. ダブルスゲーム
11. ダブルスゲーム
12. ダブルスゲーム
13. ダブルスゲーム
14. ダブルスゲーム
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながら楽しむことを前提とした授業とする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して学習していく。

学習目標・到達目標

最もポピュラーなスポーツを積極的に経験することで、生涯スポーツとしてのおもしろさを体感し、体力の維持・向上に寄与する。

準備学習

授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

評価方法その他

平常点(50%)、運動能力(20%)、授業態度(20%)、その他実技小テスト等(10%)の評価で行う。平常点は、授業への参加状況など総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. バレーボール(トスとサーブ)
3. バレーボール(レシーブとアタック)
4. バレーボール(ミニゲーム)
5. バレーボール(ゲーム)
6. テニス又はソフトボール(基本技術)
7. バasketボール(基本技術)
8. バasketボール(マンツーマンデフェンス)
9. バasketボール(ゾーンデフェンス)
10. バドミントン(基本技術)
11. バドミントン(ゲーム)
12. 卓球(ゲーム)
13. フットサル(基本技術)
14. ラグビー(基本技術)
15. まとめ

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

さまざまなゲーム・スポーツを経験することで、その技能を修得し、仲間との情報交換、ビデオやスローモーション映像等の確認によって自他の能力を発展させること。

学習目標・到達目標

レクリエーションやゲーム・スポーツの場を通して、健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。

準備学習

体育会系施設・用具は卒業までに充分活用していただきたい。

評価方法その他

平常点50％、作品・レポート等50％で総合的に判定する。（平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. (ゴルフ1)アドレスとグリップ
3. (ゴルフ2)アイアン・ウッドのショット
4. (ゴルフ3)アプローチ・パター
5. さまざまなゲーム・スポーツ ドッジ・フライングディスクなど
6. さまざまなゲーム・スポーツ カップスタックスほか
7. さまざまなゲーム・スポーツ 室内ゲーム
8. さまざまなゲーム・スポーツ 室内ゲーム
9. さまざまなゲーム・スポーツ Wii Sports
10. さまざまなゲーム・スポーツ Wii Sports
11. 映画化されたスポーツⅠ
12. 映画化されたスポーツⅡ
13. ゲーム・スポーツ・レクリエーション映像をつくるⅠ
14. ゲーム・スポーツ・レクリエーション映像をつくるⅡ
15. 作品紹介

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、自分の身体の特徴を理解し、骨盤や背骨の歪みを整え、身体の調和を目指す。

身体と精神を呼吸でつなぎ、全身をゆったり動かすことで、筋力、バランス力、体力、柔軟性を高め、代謝を促進。心身の調和を目指す。

ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、どう生きるべきかを問い、社会との調和を目指す。

学習目標・到達目標

基本的なポーズ（アーサナ）の連続による「太陽礼拝」を呼吸にのせて自分らしくおこなえるようになる。

ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を学び、理解を深める。

準備学習

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は、人それぞれです。ヨガをとおして、現在の自己の身体特性を知り、心身が変化していく過程を体感しましょう。

体調管理を万全にして、臨むこと。

評価方法その他

平常点(40%)、実技試験(40%)、課題(提出物)(20%)。（平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション／ 授業内容・進め方の説明
2. ヨガの概要／呼吸法、基本のポーズの実践
3. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ①(呼吸を深める)
4. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ②(身体部位への意識を高める)
5. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ③(逆転のポーズ)
6. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ④(ねじりのポーズ)
7. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑤(バランスのポーズ)
8. 講義:ヨガの歴史、ヨガの哲学
9. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑥(後屈のポーズ)
10. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑦(前屈のポーズ)
11. 実技:立位ポーズ、座位ポーズ⑧(総まとめ)
12. 実技:テスト課題の練習①(背骨や骨格の意識を高める)
13. 実技:テスト課題の練習②(呼吸とのつながりを深める)
14. 実技:テスト課題の練習③(流れるように伸び伸び行う)
15. 実技:テスト課題の練習④(総まとめ)
16. 実技テスト

天気、気候、月の満ち欠け等により、適時、適切なプログラムを行う。

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ホッケー、卓球などをゲーム中心で実施する。後半は話し合いで種目を決めるので、これら以外のゲームを行うことも可能である（例えばソフトボール、テニスなど）。

学習目標・到達目標

いろいろなスポーツのルール、楽しさ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基礎を形成する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 バドミントン1
- 3 バドミントン2
- 4 バレーボール1
- 5 バレーボール2
- 6 バスケットボール
- 7 ホッケー
- 8 卓球
- 9 種目は話し合いで決定する
- 10 種目は話し合いで決定する
- 11 種目は話し合いで決定する
- 12 種目は話し合いで決定する
- 13 種目は話し合いで決定する
- 14 種目は話し合いで決定する
- 15 まとめ

準備学習

運動不足の人は自宅でストレッチをしておいてください。

評価方法その他

100%平常点(出席点90%, 授業態度10%)

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

種目:フィットネス
自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して、体を動かしていきます。
体の不調を予防したり、リラックス効果を得るために、ストレッチ、筋力トレーニングを行います。また、持久力向上を目指し、有酸素運動のエアロビクスダンスを行います。音楽に合わせてリズムカルに動くことで、ストレス発散も目的としています。

学習目標・到達目標

自分の体力、体調に合った体の動かし方を知る。
また、自分の体と向かい合い、運動をすることの楽しさと気持ちよさを体感する。
定期的に運動をすることの意義を考え、運動をライフサイクルの中に取り入れる基盤づくりをする。

準備学習

日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいいので、自分の体について考える時間を作ってください。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. ストレッチ①、体の力を抜いてみる
3. ストレッチ②、体の重心を考える
4. ストレッチ③、体幹を考える
5. 体幹トレーニング
6. バランスボール①:体幹トレーニング
7. バランスボール②:筋力トレーニング
8. バランスボール③:まとめ
9. セルフマッサージ①:一人で行うマッサージ
10. セルフマッサージ②:二人組みで行うマッサージ
11. エアロビクスダンス①:有酸素運動とは
12. エアロビクスダンス②:足の動きを中心に
13. エアロビクスダンス③:手の動きを考える
14. エアロビクスダンス④:ハイインパクト(跳躍系の動き)
15. エアロビクスダンス⑤:まとめ

評価方法その他

平常点50%(授業への参加状況)、授業態度、取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの身体と運動能力について理解していく上での基礎的な知識を学ぶ。子どもの発育発達にともなう、遊びからルールをともなったスポーツへの参加がどのように身体的・精神的に影響を及ぼしていくのかについて考えていく。また、諸外国の多くの事例を見ながら運動やスポーツの効果について考える。

学習目標・到達目標

特に子どもの発育発達を中心に、運動やスポーツが重要な役目を果たしていることを理解する。発育発達の様々な過程で必要とされる運動やスポーツとは、どのようなものであるのかを実際の映像や資料を見ながら知っていく。体育実技を履修する際に、理論的な意味づけができるようにすること等を目的とする。

準備学習

運動やスポーツについて関心をもつ習慣を身につけましょう。実際に運動をすることの重要性と運動を他人に提供することの意味について考えていきましょう。まずは自身で体を動かす、その素晴らしさを体験し、子どもや友達、親やお年寄りに運動を勧めていくことができるか経験してみましょう。

評価方法その他

業時間内の学習（授業への2/3以上の出席を基本として、平常点50%、課題・レポートの内容50%）を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 身体の発育・発達
2. 発育・発達に及ぼす栄養と運動
3. 運動やスポーツの科学的成果（生理学的側面から）
4. 運動・スポーツの科学的成果（運動学的側面から）
5. 運動・スポーツの科学的成果（心理学的側面から）
6. 運動・スポーツを取り巻く環境
7. トップスポーツの現状
8. 大衆スポーツの現状
9. 運動環境と社会体育の隆盛
10. 学校体育の役割と効果
11. 運動指導の原則
12. 運動会やスポーツ大会のもち方
13. 運動会やスポーツ大会実施
14. 運動効果の測定方法と評価の方法
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

運動やスポーツの実践を通して、身体を動かすことによる効果を体験していく。勝敗を決定すること以上に、運動やスポーツがコミュニケーションの形成や自己効力の向上に大きな効果を上げていることを学んでいく。これらが子どもの発育・発達においていかに重要な要素となっているかについて学ぶ。

学習目標・到達目標

運動は実際に経験することによって楽しさや、運動の持つ目的が理解できるということを知る。競技スポーツだけでなく、勝者を求めないスポーツも沢山存在していること、多くの人にとってスポーツは人と戦うことだけではないこと、生涯を通じて運動やスポーツはどのような位置づけになっていくのかを、実践を通じて考えていく。また、子どもたちにとっての運動やスポーツには、どのようなものがあるのかを実践を通して知っていく。

準備学習

様々な運動をゲームの楽しさから入り、徐々にルールのあるスポーツへと展開していくことを経験をもって学んでいきます。特に子どもへのスポーツや運動指導のヒントを得て欲しい。

評価方法その他

出席を重視する。平常点60%、授業時の評価40%。

週 テーマ・授業目標等

1. アイスブレイク
2. アイスブレイクゲームからコミュニケーションゲームへ
3. さまざまなアウトドアゲーム
4. 基本的な運動（投げる、跳ぶ、走る）
5. 基本的運動から応用へ（ボール運動、なわ運動、マット運動）
6. ゲームスポーツ バレーボール
7. ゲームスポーツ バasketボール
8. ゲームスポーツ ソフトボール
9. いろいろなスポーツを楽しむ タッチフットボール
10. いろいろなスポーツを楽しむ サッカー
11. いろいろなスポーツを楽しむ フライングディスク
12. いろいろなスポーツを楽しむ 運動会の企画と準備
13. いろいろなスポーツを楽しむ 運動会
14. ゲーム創作と実施
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講では、近代科学の基礎であるニュートン力学の基本を学ぶ。

アイザック・ニュートンが発表した力学は、一握りの単純な法則を用いて、リンゴの落下から天体の軌道まで、あらゆる物体の運動を精確に計算する強力な体系である。

日常の現象から天体現象まで、さまざまなスケールで力学の法則が現れることを見ていく。
天体現象などの学習には、スライドなどのメディアを活用する。

学習目標・到達目標

近代科学の基礎であり、日常の現象から天体現象までを支配するニュートン力学を学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. 慣性の法則が発見されるまで
2. 等速直線運動
3. 落下運動
4. ニュートン登場
5. 作用・反作用とロケット
6. 万有引力
7. 力積と運動量
8. 運動量の保存
9. 力の釣り合いと摩擦
10. 仕事とエネルギー
11. エネルギーの保存
12. 衝突
13. 円運動
14. 振動
15. 角運動量

準備学習

これまでの物理・数学の履修は必須としません。
必ず授業の復習をすること。

評価方法その他

平常点 (40 %)、定期試験 (60 %)。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。)

使用教科書名

特に指定はない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活の中の身近な現象をトピックにして、1回1テーマで講義する。社会や生活と化学の関係を通して、化学物質の有用性とリスクを知り、自分たちができることは何か考え、科学リテラシーとリスク管理意識を向上させる。

学習目標・到達目標

現象や技術・素材などの具体例から、生活の中の化学を、できるだけ化学反応式を使わずに理解する。ニュース(時事問題)で触れられた物質や、生活に密接した素材、文学や芸術に現れる化学、環境・エネルギーに関係する技術などの例に触れながら、化学に親しむ。

週 テーマ・授業目標等

1. 生活の中の化学物質
2. 物の大きさと状態
3. 物質のなりたち
4. 掃除と洗濯の化学
5. 食品の化学
6. 化粧品の化学
7. 衣料の化学
8. 光の化学
9. 生命・医薬品の化学
10. リサイクルの化学
11. 住宅・建築の化学物質汚染
12. 地球環境問題
13. 化学物質と環境汚染
14. 科学リテラシー
15. 疑似科学

準備学習

週に一回以上、科学ニュースを新聞やテレビ等で読む/見る/聞く。

評価方法その他

平常点(30%) レポート(70%)
平常点は授業への参加状況、意見発表等で総合的に判断する。

使用教科書名

特に指定しない。必要な場合には、資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

化学的素養が必要な専門科目を理解するための入門科目である。化学を受験科目としなかった人が専門課程を学ぶ為に必要な知識を身につけること、化学が苦手だった人が再び勉強をすることを主眼とし講義する。物質とは何か、物質の状態や性質は何で決まるか、化学変化とは何か、原子・分子の構造と働きから学ぶ。

学習目標・到達目標

化学は「物質」を対象とする学問であり、人間の活動に最も深く関わる自然科学である。原子・分子の視点から物質の成り立ちと化学の基礎を理解し、論理的思考力を身につける。日常生活に溢れる「物質」を、化学的視点から捉える力を養う。

準備学習

授業の前に、前週のノートを復読する。

評価方法その他

平常点(30%) 定期試験(70%)
平常点は授業への参加状況、授業中の小テスト等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 物質とは
2. 原子と分子
3. 電子配置
4. 元素の周期表と価電子
5. 化学結合とは(1)
6. 化学結合とは(2)
7. 物質の名称
8. 物理量と単位
9. 化学反応式
10. 酸と塩基
11. 中和反応と塩
12. 酸化と還元
13. 物質の状態変化と熱力学
14. 化学反応の速さ
15. 問題演習
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。必要な場合には、資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生物の形や色・模様などから、生物が環境に適応し進化してきた過程を解説する。自ら生物の特徴を評価して、進化過程を推察したり、系統樹を構築したりしながら、進化の過程について体験的に学ぶ。魚類や恐竜、さらには我々ヒトに関する話題を取り上げることによって生物に関する興味・理解を高め、生きものに関する教養を深めることを目的とする。

学習目標・到達目標

身近な生物が示す種々の生命現象について、科学的な視点で観察し、その機構について科学的に解釈できるようにすること。さらには、自ら好奇心を育てて生命や自然に興味を持てるようになることを目標とする。

準備学習

まずは身の回りで見られる生物について、その形や色彩・もようなどの特徴が行動や生態とどのような関連があるのか、またどうして現在そこに生息するのかなど、生物の生き様について関心を持つようにして欲しい。

評価方法その他

中間試験(レポートを含む)の得点(10%)および定期試験の得点(90%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 生きものの形
- 2 生きものの色と模様
- 3 擬態の神秘ーだまされ
- 4 おしゃれなオスと地味なメス
- 5 種類はどう決めるのか
- 6 生物進化の道筋を探る
- 7 コンピュータが産んだ仮想生物の進化を探る
- 8 進化のふしぎー似ているけど他人
- 9 進化のふしぎーこどもだけとおとな
- 10 私たちの祖先
- 11 恐竜は絶滅した？
- 12 ヒトの進化
- 13 凍らないさかな
- 14 光の届かない世界のさかな
- 15 最近の話題
- 16 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

太古の海は生命誕生の場であり、今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また、我々人類にとって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では、海洋における生物の進化をたどりながら、多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境、人類と海洋の関わりについて理解を深める。

学習目標・到達目標

海洋生物の生き様を通して生物について興味を持ち、基礎的な生物現象（生命現象や生態系など）が理解できるようになる。

準備学習

海洋に関する書籍などを読んだり、映像資料を見たりしておくことと理解しやすい。

評価方法その他

定期試験(80%)および、レポート・平常点(20%)による総合評価。
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション - 海洋と私たちの暮らし -
2. 地球誕生から海洋の形成まで
3. 生物界の構成と海洋生物
4. 海洋環境概説1 - なぜ海は青いか? -
5. 海洋環境概説2 - 広大な海は一つではない -
6. 海洋環境概説3 - エルニーニョが起こると豆腐が高くなる? -
7. 海洋生物の生活様式1 - 海洋生物のライフスタイル -
8. 海洋生物の生活様式2 - 海洋生物のライフスタイル -
9. 海洋の食物連鎖 - イワシが安くて、マグロが高い理由 -
10. 浅海の生物群集 - 生物が豊富な海域 -
11. 浅海の生物群集 - 厳しい環境に生きる生物たち -
12. 外洋の生物群集 - きれいな海には生物は多いか? -
13. 深海の生物群集 - なぜ深海には生物が少ないか? -
14. 深海の生物群集 - 地球を“食べる”生物たち -
15. 海洋生物と人類の関係 - 海洋汚染と乱獲 -
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちは日々、呼吸し食事をして生命を維持し成長を続けている。また、遺伝という現象を通じて次世代にさまざまな特徴を伝えている。これらの生命現象の基本を理解することは、健康の維持や環境の保全などの問題に対処する上で不可欠となっている。そこで、この講義では、生物の特徴を理解し、生体内の反応や遺伝子のはたらきなど基礎的な内容について理解を深める

学習目標・到達目標

社会において注目されている生物に関する情報について、内容を理解できるような基礎的知識を身につけること。

準備学習

授業においては高校生物程度の用語や知識を必要とするので、高校時代、生物分野に全くふれてこなかった人は、高校「生物基礎」や「生物Ⅰ」などを復習しておくなどの準備をしておくこと。

評価方法その他

中間試験（レポートを含む）の得点（10%）および定期試験の得点（90%）による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 生物の特徴
- 1 生命誕生
- 2 生物の多様性と共通性
- 3 細胞の構造
- 4 細胞のはたらき
- 5 細胞と組織
- 6 生きるための活動 - エネルギーの出入り
- 7 酵素の働き
- 8 呼吸
- 8 光合成
- 9 遺伝子の正体
- 10 遺伝情報の発現
- 11 遺伝情報の分配と発生
- 12 遺伝子組換え
- 13 体内環境
- 14 体液の調節
- 15 生体防御
- 16 定期試験

使用教科書名

適宜、プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力点を置いて講義を進め、生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。

学習目標・到達目標

基礎的な生物現象、特にヒトに関わる生物現象の理解

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション 生命とは何か？について考える。
2. 細胞の構造とはたらき1 (生物の基本単位である細胞の構造)
3. 細胞の構造とはたらき2 (生物の基本単位である細胞の機能)
4. 生き物としてのヒトを知る 食物から体をつくり維持するしくみ
5. 生物体の構造1 (組織)
6. 生物体の構造2 (器官・器官系)
7. 代謝のしくみ1 (酵素・代謝)
8. 代謝のしくみ2 (消化)
9. 代謝のしくみ3 (呼吸)
10. 生命を維持するしくみ1 (体液・排出)
11. 生命を維持するしくみ2 (自律神経系・内分泌系)
12. 生命を維持するしくみ3 (生体防御)
13. 遺伝のしくみ1 (遺伝の法則)
14. 遺伝のしくみ2 (DNAの構造と機能)
15. 遺伝のしくみ3 (遺伝子と体質)
16. 試験

準備学習

高校で「生物Ⅰ」を履修した学生は、「細胞と個体の成り立ち」・「刺激に対応する動物の反応」・「個体の恒常性」を、「生物Ⅱ」を履修した学生は「生体の機能とタンパク質」・「遺伝情報と発現」を復習することが望ましい。

評価方法その他

平常点20%，定期試験80%の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

川崎・古庄編著(2009), 生物学—ヒトと環境の生命科学—, 建帛社.

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地球環境・資源問題の理解には生態学の基礎知識が不可欠である。そこで、この授業では、生態学の基本的内容を学習し、環境・資源の利用・保全の実体と問題点について理解を深める。

学習目標・到達目標

地球環境・資源問題に関する報道・記事・文献の内容を理解し、その合理性を判断・批評できるようになること。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション「地球環境は何か」を考える
2. 「環境」とは何か？
3. 生態系の構成
4. 生物と環境との関わり
5. 生物と生物との関わり／同じ種類の間では
6. 生物と生物との関わり／異なる種類の間では
7. 生物間の関係／競争
8. 生物間の関係／捕食者の効果
9. 生態系の構成と食物連鎖
10. 生物資源の特徴
11. 資源保護と自然保護
12. 気候変動と地球温暖化
13. 生物多様性とは何か？
14. 環境保全への取り組み—地球温暖化防止—
15. 環境保全への取り組み—生物多様性保全—
16. 定期試験

準備学習

授業においては高校生物程度の用語や知識を必要とするので、高校時代、生物分野に全くふれてこなかった人は、高校「生物基礎」の環境分野、「生物Ⅰ」の植物の反応と調節といった分野を復習しておくなどの準備をしておくこと。

評価方法その他

中間試験(レポートを含む)の得点(10%)および定期試験の得点(90%)による総合評価。

使用教科書名

授業中に資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

毎日のように、新聞やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられています。近年、地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされていますが、環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では、生態学の基礎的な知識を踏まえ、地球環境とそこに生活する生物の関係、人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し、環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。

学習目標・到達目標

生態学の基礎的な現象を学び、環境に関する現象を理解する力を得る。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 イントロダクション「地球環境は何か」を考える
- 第2回 「環境」とは何か？
- 第3回 生態系の構成
- 第4回 生物と環境との関わり
- 第5回 生物と生物との関わり
- 第6回 人口問題－ヒトも生物－
- 第7回 生態系の構造－生態系の構成と食物連鎖－
- 第8回 生態系内のエネルギーの流れ
- 第9回 生態系内の物質の循環1－炭素循環と地球温暖化1－
- 第10回 生態系内の物質の循環2－炭素循環と地球温暖化2－
- 第11回 生態系内の物質の循環3－窒素循環とリン循環－
- 第12回 生態系内の物質の循環4－人工化学物質と生物濃縮－
- 第13回 生物多様性とは何か？
- 第14回 環境保全への取り組み1－生物多様性保全－
- 第15回 環境保全への取り組み2－ホッキョクグマと資源開発を例として－
- 第16回 定期試験

準備学習

「生物学入門(沼波担当)」を受講しておくことと理解しやすい。

評価方法その他

定期試験(80%)および平常点(10%)・レポート(10%)による総合評価。
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

授業中に資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

我々をとりまく地球や宇宙のなりたちを理解し、人間生活に関わる自然環境のしくみについて、基礎的なことから学ぶ。また地球史の中で起こったさまざまな変化を追い、過去数十億年間にわたり地球上に存在し続けた生命と地球環境とのかわりについての理解を深める。

学習目標・到達目標

「地球の科学」＝「地学」は、私たち人類に様々な影響を与えていることを知り、地球環境を考える重要な学問分野について学ぶ。

地学的現象が我々に与える影響力を認識し、地学を学ぶ意義を理解できることを目指す。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンスー地球科学の意義と必要性
- 2 地球の年齢を測るーなぜ地球の年齢が？
- 3 酸素のない地球ー大気・海洋・大陸の誕生
- 4 陸上生物の出現以前ーカンブリア紀までの生物
- 5 石炭と石油のできかたー森林形成とプランクトン
- 6 恐竜の世界ー生物の進化と絶滅
- 7 氷期の気候変動ー氷河期の世界
- 8 火山と地震の国・日本ー火山、防災
- 9 地球の層構造・地震ー地球内部で起きていること
- 10 地球の冷却システムー大気と海洋が運ぶ熱
- 11 変化する地表ー河川や海岸
- 12 石と砂が語るものー砂の履歴
- 13 地殻は宝の山ー資源利用とその影響
- 14 都市化がもたらすものー人類と地球
- 15 まとめと解説

準備学習

新聞やテレビで取り上げられる地球科学的な話題に注目してください。
私たちの体に残された地球46億年の時間の流れを感じ、地球科学の面白さを理解してください。
ガイダンスで示した毎回の講義タイトルをチェックしてください。

評価方法その他

小テスト20%、期末の課題やレポート試験80%で総点を求め評価する。平常の授業における熱意を考慮することがある。

使用教科書名

教科書としては特に指定せず、プリントを配布する。
次の参考書を薦める。
ちかかめ・両さんの地球のしくみ大達人、集英社、山崎良雄他監修
ISBN978-4-08-314045-7

授業科目概要・教育目的（履修条件）

物理学はいつどのように成り立ったのか、「原子」や「光」や「エネルギー」といった概念は誰がいつ発見したのか、そこにいるまでの物語とともに講義する。

数式はあまり使わず、物理学の思考方法（論理の展開）を追うことを重視する。

学習目標・到達目標

物理学の基礎を理解することを目標とする。

物理学は、この世界は何かからできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。

物理学の基本と、それが発見されるまでの歴史を知る。

準備学習

数式はあまり使いません。
これまでの物理学・数学の履修経験は必須ではありません。
必ず授業の復習をすること。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

一つのテーマにおおむね2回かける。

0. ガリレオ～ 最初の近代科学者
1. ニュートン～ ニュートン力学を一人で建設
2. ドルトン～ 原子論の再発見
3. 国際単位系の建設
4. メンデレーエフ～ 元素には周期がある
5. レントゲン～ X線から電波まで
6. キュリー～ 不滅のはずの原子が壊れた
7. フェルミ～ 最初の原子炉と原子爆弾

使用教科書名

特に指定なし。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

有機化学の初歩を含め、化学全般の基礎を俯瞰する。高校よりももう少し詳しく化学を勉強したい人、化学が好きな人、化学に関連した分野に進みたい人に向けて講義する。原子の構造と化学結合について学び、物質の成り立ちと性質を理解する。物質の化学変化、有機化合物の構造と性質など、身の回りの物質を化学的視点から捉える力を養う。

学習目標・到達目標

化学は物質の性質と変化に関する学問であり、人間の活動に最も深く関わる自然科学である。日常生活で触れる物質や現象を理解するのに必要な化学の基礎を学び、論理的思考力を身につける。

準備学習

授業の前に、前週のノートを復読する。

評価方法その他

平常点(30%)、定期試験(70%)
平常点は授業への参加状況、授業中の小テスト等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 物質と原子
2. 周期表と電子配置
3. イオンとイオン結合
4. 共有結合と配位結合
5. 分子間力結合と金属結合
6. 化学反応式、物理量と単位
7. 酸と塩基(1)
8. 酸と塩基(2)
9. 酸化と還元
10. 熱力学と平衡
11. 反応速度
12. 有機化合物の分類と命名法
13. 有機化合物の構造と性質(1)
14. 有機化合物の構造と性質(2)
15. 問題演習
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。必要な場合には、資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生物学の中でも、遺伝学や発生学の進歩は目覚ましいものがある。iPS細胞やES細胞などのクローン技術やDNA鑑定なども、その技術の基礎には遺伝学・発生学的知識が不可欠である。一方、親子の血液型や遺伝子治療の問題から食卓に上る遺伝子組換え食品、品種改良された食材など、身の回りにもこの遺伝学・発生学の関係する事柄は多い。本講義ではこれら遺伝学・発生学の基礎を解説し、その応用面での進歩についても理解を深める。

学習目標・到達目標

遺伝の機構・理論、遺伝子の働きについて理解し、さまざま遺伝現象を論理的に推論できる能力を身に付ける。特に遺伝子に関しては、その研究成果と私たちの生活への影響について理解できるようにし、日常の報道等で扱われている内容について自ら意見が述べられることを目指す。

準備学習

授業においては高校生物程度の用語や知識を必要とするので、高校「生物基礎」もしくは「生物Ⅰ」の遺伝・遺伝子等に関する内容を復習しておくことよい。

評価方法その他

中間試験（レポートを含む）および授業への参加の程度（20%）および定期試験の得点（80%）による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 遺伝学の基礎－三毛猫の秘密・血液型の遺伝
- 2 遺伝学の基礎－病気の遺伝
- 3 遺伝学の基礎－日々の生活の中の遺伝現象
- 4 遺伝の本質－遺伝子の正体
- 5 遺伝の本質－染色体と遺伝子
- 6 遺伝の本質－遺伝子とDNA
- 7 遺伝子が働く仕組み－DNAの複製
- 8 遺伝子が働く仕組み－DNAからRNA
- 9 遺伝子が働く仕組み－遺伝暗号
- 10 遺伝子が働く仕組み－RNAからタンパク質
- 11 遺伝子の働きを制御する仕組み－エピジェネティクス
- 12 遺伝子技術の応用－DNA鑑定
- 13 遺伝子技術の応用－遺伝子組換え技術
- 14 遺伝子技術の応用－クローン技術
- 15 遺伝子技術の応用－iPS細胞・ES細胞など
- 16 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「遺伝子」、「生態系」、「ウイルス」など、生物の話題は毎日のように新聞記事やニュースでとりあげられている。この講義では、「進化」「DNA」、「生物多様性」、「生態系」をキーワードに生命の誕生から生物と環境の関わり合いまでの生物学的な現象をわかりやすく解説し、記事やニュースが理解できるような基礎知識を身につける。

学習目標・到達目標

基本的な生物現象を理解できる知識を持つ。

準備学習

生物や環境に関する書籍などを読んだり、映像資料を見たりしておくとう理解しやすい。

評価方法その他

定期試験（80%）、レポート（10%）、平常点（10%）による総合評価。
（平常点は授業への参加等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション－生命とは何か？－
2. 地球誕生
3. 生命の起源－生命はどのように誕生したのか？－
4. 生命の起源－最初の生物は？－
5. 生物界の階層性－種とは何か？－
6. 生物の進化－生物はどこから来たのか？－
7. 生物の進化－なぜ、進化するのか？－
8. 生物の進化－進化の証拠＝進化説の話－
9. 細胞の基本構造
10. DNAの構造と機能－遺伝とは何か？－
11. DNAの構造と機能－DNAとは何か？－
12. DNAの構造と機能－遺伝子は何をしているのか？－
13. ウイルス－生き物か？モノか？－
14. バイオテクノロジーの利用－遺伝子組換え技術の光と陰－
15. 生物の多様性－ヒトだけでは生きていけない－
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自然史とは、「時々刻々と変わっていく自然現象を、自然の歴史という観点でとらえ、観察し、記録しながら、自然観を養うことを目的とする」分野である。もっと単純には、「自然の姿と生い立ちを探究する」分野と表現できる。その対象は、大きさでは宇宙から原子まで、時間軸では宇宙誕生から瞬間的な生命現象までの広い範囲を扱うことになる。この授業では、時間の流れに沿う形でさまざまな自然現象を解説し、自然の営みについて理解を深める。

学習目標・到達目標

時間の流れの中で自然現象が進行していることを理解し、自然界の成り立ちを変化するものという観点から理解できるようになること。また、現在の地球の状況について客観的に判断できるようになること。

準備学習

授業においては高校生物程度の用語や知識を必要とするので、高校時代、生物分野に全くふれてこなかった人は、生物関係の基礎科目を履修しておくことが望ましい。

評価方法その他

中間試験（レポートを含む）の得点（20%）および定期試験の得点（80%）による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 自然史とは
- 2 時空の進化／宇宙の創世
- 3 天体の進化／太陽系の誕生
- 4 地球誕生
- 5 地球カレンダーをつくる
- 6 生命の誕生と単細胞生物の進化
- 7 生物多様性の創出 エディアカラ生物群からカンブリア爆発
- 8 古生代の世界
- 9 古生代の終わり ペルム紀末の生物大絶滅
- 10 中生代の世界
- 11 恐竜の世界
- 12 古生代の終わり 白亜期末の生物大絶滅
- 13 新生代の世界
- 14 哺乳類の進化
- 15 人類の進化
- 16 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

はじめに、法と憲法の基礎を概観し、どのようにして近代的意味の憲法が誕生してきたのかを考察する。次に、基本的人権の保障について、人権に関する判例のリーディング・ケースを通して今日の基本的人権をめぐる問題状況を検討する。後半は、統治システムについて、日本国憲法の理念から国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割などについて考察する。
(履修条件) 教育職員免許状希望者は必修。

学習目標・到達目標

憲法の基礎を概観し、基本的人権と統治システムを機能的に理解する。

準備学習

テキスト、資料にあらかじめ目を通して、何が分かって、何が分からなかったのかを明らかにして、授業に参加できること。

評価方法その他

定期試験（70%）、平常点（30%）
(平常点は授業への参加状況、課題への取り組み姿勢等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. I 憲法総論 (1) 法学と憲法学
2. (2) 憲法の歴史と憲法の基本原理
3. II 憲法(人権) (1) 包括的基本権
4. (2) 精神的自由①
5. (3) 精神的自由②
6. (4) 経済的自由
7. (5) 人身の自由
8. (6) 生存権的基本権
9. (7) 国務請求権・参政権
10. III 憲法(統治) (1) 国会の役割と権能
11. (2) 内閣の役割と権能
12. (3) 裁判所の役割と権能
13. (4) 財政の基本構造
14. (5) 地方自治の制度と地方自治法
15. (6) 憲法改正
16. 定期試験

使用教科書名

尾崎利生・鈴木晃『憲法入門講義』(法律文化社、2012年)
井上正仁他編『ポケット六法平成26年版』(有斐閣、2013年)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会における法の意義と機能を明らかにし、法的なものの見方・考え方 (legal mind) が身につけられるよう努める。まず、日常生活の身近な問題を素材に、市民生活と法との関係を具体的に検討する。その際、テーマごとにトラブルを解決するためにどのような相談窓口に行き、だれに援助を求めることができるか、実際的なアドバイスを心がける。
(履修条件) テキスト・資料にあらかじめ目を通して出席できること。

学習目標・到達目標

身近な法律問題のとらえ方、考え方を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. 人生と法律の関わり
2. 社会人へのパスポート
3. 働きながら子育てする
4. 働きかたいろいろ
5. スマートな消費者をめざして
6. 恋愛のルール
7. 結婚の夢と現実
8. 子どもを産む・産まない
9. 子どもと親の関係
10. ふたたびの出発－離婚
11. 親の介護はだれが？
12. 親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら
13. 相続の仕組みを知ろう
14. 世界へ飛び出そう
15. まとめ
16. 定期試験

準備学習

テキスト、資料にあらかじめ目を通して、何が分かって、何が分からなかったのかを明らかにして、授業に参加できること。

評価方法その他

定期試験 (70%)、平常点 (30%)
(平常点は授業への参加状況、課題への取り組み姿勢等で総合的に判断する)

使用教科書名

副田隆重他『ライフステージと法 (第6版)』(有斐閣、2012年)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「社会学入門」なので、社会学概論のような学説を紹介する講義ではない。「社会と人間の関係」をさまざまな視点から考え、現代社会が抱える問題点を明らかにし、その対処方法を考えるための指針として社会学理論を紹介するが、あくまでも考えるのは学生諸君である。講義ではあるが、自分の問題として思考を通じて積極的に講義に参加して欲しい。

学習目標・到達目標

人間は他者との結びつきなしに生きることはできない。「社会的存在」とはそのような人間の本質を示している。
私たちは、家族、職場、地域社会、国家、国際社会等の社会との関わりの中に生きている。その一方で、社会は今大きく変わりつつある。その中で暮らす人間は、当然大きな影響を受けており、さまざまな社会問題が生じている。
このことを正しく認識し、私たちはどう行動したらいいのか、今の自分の問題として考えられるような人間になってほしい。

準備学習**週 テーマ・授業目標等**

1. 問題提起 (これからの社会)
2. 社会の変化 序論
3. 社会の変化 (1) 農業社会
4. 社会の変化 (2) 工業社会
5. 社会の変化 (3) 工業社会
6. 社会の変化 (4) 脱工業社会 (産業社会)
7. 社会の変化 (5) 産業社会
8. 社会の変化 (6) 情報社会
9. 社会の変化 (7) 高度情報社会 (知識基盤社会)
10. 現代社会問題 序論
11. 現代社会の課題 (1) ソフト化社会 脱産業化の意味・生産と消費・新しい消費の時代・地域の時代
12. 現代社会の課題 (2) 情報化社会・情報化に対する認識・情報の高度化とは・情報化の方向・先端技術の可能性
13. 現代社会の課題 (3) 生涯学習社会・生涯学習の背景・生涯学習の本質・生涯学習システム・生涯学習環境の整備
14. 現代社会の課題 (4) 地域コミュニケーション・地域のネットワーク・地域の資源・まちづくり・地域と大学
15. まとめ

評価方法その他

出席を重視する。
平常点 (50点) とレポート、試験 (50点) の成績を総合評価する。

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間と社会の関係について、多くの事例を挙げながら考察する。そして人間の社会的形成、社会的行動、欲求、性格、感情等「社会的存在」としての人間を理解する。さらに、社会と人間の関わりの中で、欲求、性格、社会的場の心理を社会心理学の理論、因果関係から解説し自分の問題として理解できるようにする。

学習目標・到達目標

「人間は社会的存在」と言われるが、正しくは「人間は社会の中で社会的存在になる」のである。このことの意味を、社会心理学の視座から考察し「人間とは何か」という哲学的命題について自ら考えられるようにしたい。

準備学習

科学技術や社会が発展し、高度化した現代、改めて「人間とは何か」が問われている。自分自身の問題として捉え考察できる人間になってもらいたい。

評価方法その他

平常点(50点)とレポート、試験の成績(50点)を総合評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 社会的存在とは
- 2 人間の社会的形成
- 3 人間の行動
- 4 人間の欲求
- 5 防衛機制
- 6 人間の欲求2
- 7 人間の欲求3
- 8 性格1(性格の形成・社会的性格・国民性など)
- 9 性格2(性格の種類・病的反応など)
- 10 感情
- 11 対人認知・認知的不協和理論
- 12 バランス理論・帰属理論
- 13 予言の自己成就・空間理論
- 14 トライアングレーション・コミュニケーション
- 15 予備

使用教科書名

社会と人間
小池澄男著:杉山書店

授業科目概要・教育目的（履修条件）

環境の変化は人間の心理状態や行動に多大の影響を与える。現在、我々はケータイや家庭用ロボットに象徴される高度技術・情報化社会で生活し始めている。そして、航空機など高度にシステム化された交通機関や医療現場などではヒューマンエラーの防止が急務である。いっぽう、「多重ストレス社会」という未体験な生活環境の中で、「安全と安心」に注目が集まっている。この講義では「生活」をキーワードに、人間と多様な環境との関係について、ビデオ映像を活用しながら心理学の視点から考える。なお、当科目を学ぶには心理学の基礎である「心理学a」と「心理学b」を履修済みであること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 環境心理学とは
- 第2週 環境の認知1
- 第3週 環境の認知2
- 第4週 認知の論理1
- 第5週 認知の論理2
- 第6週 注意と覚醒
- 第7週 重大事故とヒューマンエラー1(航空機、鉄道、船舶など交通機関)
- 第8週 重大事故とヒューマンエラー2(医療現場、日常生活)
- 第9週 危機管理と生活(信頼とコミュニケーション)
- 第10週 人間とコンピュータ(どうつきあうべきか)
- 第11週 電脳環境と人間1(ネットワーク社会)
- 第12週 電脳環境と人間2(人間生活とパーソナルロボット)
- 第13週 バリアフリーと生活環境
- 第14週 環境の快適性について1
- 第15週 環境の快適性について2
- 第16週 試験

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

期末試験80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

中間試験の前までは、経済の基本的な仕組みの解説に充てる。その中で、経済学の中のいくつかの考え方の違いも詳述する。後半は、新聞やニュースで取り上げられる、昨今の重要な経済問題について解説することを中心に進める。

学習目標・到達目標

経済学を初めて学ぶ学生に、経済の基本的な仕組み意と最近の重要な経済問題を理解させ、私たちへの生活へのかわりや経済問題の重要性を理解させることを目標にする。そして、それらに対する自分自身の意見を形成し、それを自分のことばで他人に伝えられるだけの知識を習得することも、併せて目標にする。

準備学習

教科書に沿ってすすめるので、次回の内容を予習して出席のこと。また、小テストを頻繁に行うので、復習も肝要である。

評価方法その他

平常点(含・小テスト)2割、中間試験3割、期末試験5割で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、高校までの数学の復習(テスト)
2. 経済学とは何か
3. 貨幣の仕組み
4. 市場原理と「神の見えざる手」
5. 市場原理と失業
6. 公共授業と景気回復
7. 貨幣供給
8. 比較優位と貿易
9. 中間試験とその解説
10. インフレとデフレ
11. 政府か日銀か
12. バブル経済と平成不況
13. 年金と消費税
14. リーマンショック
15. 復習と期末試験

使用教科書名

池上彰著『池上彰の優しい経済学』上下巻、日本経済新聞社、2012年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業の狙いは、経営学に関する基本的な知識および考え方の枠組みを習得してもらうこと。学習内容は、社会における企業の使命と役割、企業の構造と運営、企業における活動と人間行動など。受講者には、消費者としての関わりに加えて、大学生活の先にある「就職」を意識して企業人・組織人の立場からも思索すること、授業全体を通じて「企業を見る眼」が養われることを期待している。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. ガイダンス～会社の経営とはなにか、経営学で何を学ぶのか
2. 企業の使命～会社はどのように社会に貢献しているのか
3. 企業の統治～会社は誰が動かしているのか
4. 経営理念と戦略～会社はどのような方針で動いているのか
5. 経営組織～会社はどのような仕組みで動いているのか
6. 経営管理論～マネジメントの基本的考え方を学ぶ
7. 生産管理～もの作りの基本を学ぶ
8. マーケティング～市場(顧客)への近づき方を学ぶ
9. 人的資源管理～社員はなぜ働くのか、何を求めているのかを考える
10. " "～社員は仕事をどのように分担し、協力しているのか
11. 財務管理～会社における金の流れを理解する
12. 財務分析～利益はどのように測定され、評価されるのか
13. 企業間関係～企業は他の企業とどのように競争・協力しているのか
14. 国際経営～企業が国際化する際の要点を学ぶ
15. 授業のまとめと授業評価

準備学習**評価方法その他**

試験(70%)、レポート(20%)、(出席状況を含む)授業への参加度(10%)により評価する。

使用教科書名

プレステップ経営学/北中英明/弘文堂/2009

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本の歴史について、原始から古代・中世・近世・近代の成立まで概観する。具体的な地域としては東京都の変遷について述べるが、本学町田キャンパス周辺地域の歴史展開を中心に言及する。

学習目標・到達目標

多摩地域の歴史発展を把握すること。

準備学習

準備学習として、高校までの日本史の学習内容を再認識しておく、授業内容をより深く理解できます。また、授業中に紹介する参考文献などについても、自ら積極的に読んで授業に望むことを希望します。

評価方法その他

平常点20%、試験(中間・期末)80%。平常点は授業への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 はじめに、最初の東京人
- 2 古墳の世紀
- 3 国分寺と古代窯業
- 4 秩父平氏、江戸氏
- 5 山内経之
- 6 太田道灌、北条分国
- 7 中間試験
- 8 徳川家康
- 9 明暦の大火
- 10 八王子千人同心
- 11 相原村
- 12 武蔵野新田
- 13 八州廻り
- 14 世直しと農兵隊
- 15 東京の成立と多摩
- 16 試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近年、高校での未履修や大学入試形態の多様化により、社会人の教養として求められる世界史の基礎的知識を持たずに入学・卒業していく大学生が多くみられる。本講義では、知識の欠如が特に問題視されている現代史、特に冷戦史を扱う。

歴史は、現在と切り離された過去の出来事の連なりではない。あくまで、今日の世界のあり方を規定してきた流れとして理解し、「今ある」諸問題の因果関係を説明してくれるものとして講じる。そのため、時事問題に強い関心を持つ学生の履修も歓迎する。

学習目標・到達目標

社会人に求められる常識・教養としての、現代史に関する基礎知識を体得すること。さらに、今ある国際問題がなぜ生じたのか、現存する諸問題がどのようにして起こり、複雑化してきたのかを、歴史の観点から理解し、論理的に説明できるようにすることを目指す。

準備学習

世界史に関する基礎知識がまったくないと自覚する場合は、『世界の歴史』25～30巻、中央公論新社、2009～2010年等の概説書を読んで講義に臨むこと。

また、講義を通じて関心を持ったことについては、自発的な学習を期待する。学習の成果は、期末課題を通じてアピールすること。

評価方法その他

平常点(50%)と期末課題(50%)

※毎回、授業内課題を出す予定。課題内容は、授業内容の理解度を測るものである場合もあれば、感想・質問等のリアクションを求める場合もある。これが平常点となる。

※期末課題は、問題形式のレポートとする予定。詳細は初回オリエンテーションで説明する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 第二次世界大戦の特徴と戦後処理
3. 「終戦」を考える
4. 「戦後賠償」を考える
5. 冷戦の起源論
6. 冷戦の展開:ヨーロッパ
7. 冷戦の展開:アジア
8. 「第三世界」の挑戦
9. 冷戦の終焉と「終わり方」の諸問題①
10. 冷戦の終焉と「終わり方」の諸問題②
11. 体制転換を考える:東欧
12. 体制転換を考える:ロシア
13. ポスト冷戦期の国際関係:「移行論」「帝国論」
14. ポスト冷戦期の国際関係:「新しい戦争」
15. 予備日

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地球上では、その位置により、大気の様子と太陽との角度により、様々な気候が生じています。気候の影響は土壌にも影響を与えます。各地域の農業、さらに食文化は、気候と土壌の影響でさまざまな発展をしてきました。本講義では、地球上の食文化を中心に、それをもたらしてきた農業、気候と土壌、先住民の生活について解説します。また、現代の各地域でもたらされている諸問題についても解説します。

学習目標・到達目標

気候による食文化のちがいや、それが生じる要因を知ることによって、ニュースなどに出てくる国際情報を目にするときに、その背景を考えられるようになっていただきたいと思います。将来、自分とは異なる文化背景を持つ人と接したときに、配慮できるようになる基礎となります。

準備学習

日頃より、ニュースなどの国際情勢について注意してください。講義の中で自分なりに気づく点があり、より深く理解できるはず。講義でとりあげる地域・主要な都市・地形を地図帳で確認してみましょう。また、講義の際に「疑問に思ったこと」や「興味をもったこと」について書籍などで積極的に調べてみてください。さらに「興味を持ったこと」(たとえば文化や産業など)

評価方法その他

定期試験の得点(70%)、平常点(30%)。その他、受講時の参加状況や取り組み方を加味します。

※平常点は、講義への参加状況・態度などを参考に判断します。

※毎回、出席カードを配布します。これに感想・質問・要望などを自由に書いて提出してください。

週 テーマ・授業目標等

- 1回(4/9)授業概要
- 2回(4/23)熱帯雨林気候
- 3回(4/30)サバナ気候
- 4回(5/7)砂漠気候
- 5回(5/14)ステップ気候
- 6回(5/28)地中海性気候
- 7回(6/4)西岸海洋性気候
- 8回(6/11)温帯[温暖]湿潤気候
- 9回(6/18)冷帯[亜寒帯]気候
- 10回(6/25)ツンドラ気候・氷雪気候
- 11回(7/2)日本の気候
- 12回(7/9)日本の気候と植生
- 13回(7/16)日本の気候と作物
- 14回(7/23)日本の気候と生活
- 15回(7/30)定期試験

使用教科書名

特に指定はしませんが、中学・高校時に使用した地図帳があれば持参してください。毎回、プリントを配布します。これをもとに講義を進めます。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近代の(16世紀以降の)国際社会の歴史を概観した上で、冷戦構造崩壊以降の世界情勢を分析します。その際に、複数の分析視点があることを紹介することによって、学生の皆さんの批判的思考力を培うことが教育目的です。(映像資料を適宜使用します。)

学習目標・到達目標

国際関係の分析を通じて、世界の現状と過去についての基本的な知識を習得することが目標です。また、国際関係は立場によって見方が異なるため、授業中に異なる見方の中の主要なものを紹介しますので、その違いを知り、違いを生み出した背景を理解することが到達目標となります。

準備学習

世界の現状を正確に把握することは容易ではありません。この授業では、様々な視点を導入することによって、学生の皆さんに考える幅を持っていただき、議論をしながら、世界の現状把握を進めていきたいと考えています。準備学習としては、日頃から新聞の国際ニュースに目を通すようにしてください。

評価方法その他

期末テスト(60%)、レポート・平常点(40%、出席重視)を総合して評価します。レポートは、一定期間続けて新聞を読み一つの国際問題について、経過と背景をまとめていただきます(2000字前後、テスト時に提出)。期末テストは、授業中に配布した資料と手書きノートの持ち込みを可とします。

週 テーマ・授業目標等

1. 国際関係論とは何か
2. 国際社会の歴史(1) 国民国家の形成について
3. 国際社会の歴史(2) 世界の一体化について
4. 国際社会の歴史(3) 世界大戦について
5. 冷戦構造の成立と展開
6. 冷戦構造の崩壊
7. 南北問題(1) 世界の国々の経済的格差の現状について
8. 南北問題(2) 国際的機関による格差克服の取り組みについて
9. 南北問題(3) 格差克服と企業活動について
10. 民族問題(1) 近年の民族問題の特徴について
11. 民族問題(2) パレスチナ問題
12. 地域紛争(1) 中東・北アフリカ地域を中心に
13. 地域紛争(2) アジアを中心に
14. 国家の分裂と地域統合
15. 国際連合が抱える問題
16. 期末テスト

使用教科書名

授業の都度、資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人は生まれつき知ること欲する。生活のためでも、娯楽のためでもなく、ただ知るために知るところに、知ることの真の意味があると、人は言う。そこで自己自身や、そして自己をとり囲む自然・世界に心の眼を向ける時、様々な疑問や問題が生まれる。「何故?」「どうして?」「何のために?」などの問いを自分自身に発してみよう。ここから哲学が始まる。

学習目標・到達目標

みずから生きるなか、まず第一に、自分自身の問題を発見し、第二に、その問題の本質を見極め、第三に、みずから考える能力を向上させることを目標とする。

準備学習

より多くの文字（書籍等）に触れ、自分の問題を発見し、考える力をつけるように心掛けて下さい。

評価方法その他

レポート70%、小論文15%、平常点15%（平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 哲学とは——哲学と驚異——
3. ソクラテス以前の哲学者たち——変わるものと変わらぬもの——
4. ソクラテス——教育——
5. プラトン(1)——美しいものとは——
6. プラトン(2)——見えるものと考えるもの——
7. アリストテレス(1)——知ること——
8. アリストテレス(2)——自らを問う——
9. アリストテレス(3)——形相と質料——
10. アリストテレス(4)——最善・最高の生活——
11. キリスト教——人間の力を超えるもの——
12. 仏教——苦からの解放——
13. アウグスティヌス——安らぎ——
14. 哲学入門まとめ
15. 哲学入門まとめ

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

現代の人間や、その人間が構成する社会は、今や科学的・経済的視点が優先する、と言っても過言ではあるまい。ややもすると、現象や実証的データを過度に重視し、人間が抱える問題の本質を追求する哲学がないがしろにされる傾向もある、と言えよう。そこで、現代の様々な問題を哲学的視点から考えてみる。普段、忘れがちな問題を改めて考えることも必要と考える。

学習目標・到達目標

みずから生きるなか、まず第一に、自分自身の問題を発見し、第二に、その問題の本質を見極め、第三に、みずから考える能力を向上させることを目標とする。

準備学習

自分の問題を見つけ、考え、それを言葉でもって表現する力を養っておいってください。

評価方法その他

レポート70% 小論文15% 平常点(15%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. デカルトの哲学——われ思うゆえにわれあり
3. ライブニッツの哲学——モノドロジー——
4. ロックの哲学——人間の能力と才能——
5. カントの哲学(1)——答えの見つからない問——
6. カントの哲学(2)——経験と認識——
7. カントの哲学(3)——自由——
8. ヘーゲルの哲学(1)——わたしの精神史——
9. ヘーゲル哲学(2)——家族——
10. ハイデッガーの哲学(1)——不安——
11. ハイデッガーの哲学(2)——死について考える——
12. ハイデッガーの哲学(3)——将来を考える——
13. ウィトゲンシュタインの哲学——語りえるものと語りえぬもの——
14. 現代における哲学的諸問題のまとめ
15. 現代における哲学的諸問題のまとめ

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちは、誰も幸福を求めて生きている。それは愛なくしては不可能であろう。愛に関する問題は、エロース、フィリア、アガペー、慈悲など、さまざまに語られている。それらを通して、倫理の問題を考えてみたい。さらに、現代では、従来の倫理では解決し得ない問題が提出され、新たなる倫理が求められている。このような問題の本質を明らかにし、それを考える手掛かりを模索したい。本講義を通し、自分の問題を見出し、自ら思索し、自己の考えを主張することを希望する。

学習目標・到達目標

みずから生きるなか、まず第一に、自分自身の問題を見出し、第二に、その問題の本質を見極め、第三に、みずから考える能力を向上させることを目標とする。

準備学習

より多くの書籍等を読み、自分の問題を考える力を身につけておいてください。

評価方法その他

レポート(70%)、小論文(15%)、平常点(15%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

第1週	オリエンテーション
第2週	倫理学とは
第3週	ソクラテス:魂の心遣い
第4週	プラトン1:イデア
第5週	プラトン2:エロース
第6週	アリストテレス1:幸福
第7週	アリストテレス2:徳
第8週	アリストテレス3:フィリア(友愛)
第9週	キリスト教:アガペー(愛)
第10週	仏教:慈悲
第11週	孔子:仁
第12週	カント1:道徳と幸福
第13週	カント2:自由
第14週	功利主義:幸福
第15週	まとめ

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

今日、伝統的な倫理学では解決し得ない生命や環境にかかわるさまざまな問題が提起され、今日の状況に対応する倫理が要求されている。現代社会において、生命と科学・技術・医学など、そのかわりあい、その複雑さと緊密さの度合いを増している。私たちの生活は豊かになり、自由に生きることができるようになる。しかしその反面、私たちは、生命に関わる問題を自己の責任において、自ら判断し、決定することが求められている。そこで生命にかかわる諸問題の本質を明らかにし、その手掛かりを模索しよう。

学習目標・到達目標

みずから生きるなか、まず第一に、自分自身の問題を見出し、第二に、その問題の本質を見極め、第三に、みずから考える能力を向上させることを目標とする。

準備学習

自分の問題を見つけ、考える力を養っておいてください。

評価方法その他

レポート(70%)、小論文(15%)、平常点(15%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

第1週	オリエンテーション
第2週	生命倫理とは
第3週	親になることと生命倫理
第4週	不妊治療と生命倫理
第5週	男女の産み分けと遺伝子診断
第6週	代理母と生命倫理
第7週	再生医療と生命倫理1
第8週	再生医療と生命倫理2
第9週	クローニングと生命倫理
第10週	子供のクローンと生命倫理
第11週	終末期と生命倫理
第12週	鉄道の旅と生命倫理
第13週	いのちと生命倫理
第14週	まとめ
第15週	まとめ

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理学は実に幅広い分野で活用されている。心理学の起源は古代ギリシアの哲学にさかのぼるが、中世暗黒時代、近代合理主義の荒波を経て20世紀に「行動の科学」として自立した学問となりさらに発展しようとしている。この講義では、心理学の歴史、行動の生理・生物学的基礎、知覚、認知、学習と記憶、思考、動機づけなどのテーマを取り上げ、「心と行動の謎」についてその基礎的知識を学習する。また、現代社会で起こっている様々な話題を「ニュースヘッドライン」として心理学との関連で考えていきたい。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材（情報）により予習する。

<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

期末試験80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 今なぜ心理学か？
- 第2週 古代ギリシアのコスモロジー（心理学の源流）
- 第3週 中世ヨーロッパのコスモロジー（魔女や呪術など）
- 第4週 哲学と心理学（デカルトの発見）
- 第5週 心と科学的発想（脱魔術について）
- 第6週 実験心理学の誕生1（心理学実験室の誕生）
- 第7週 実験心理学の誕生2（感覚と知覚、アニメの不思議）
- 第8週 実験心理学の展開1（学習とは）
- 第9週 実験心理学の展開2（認知とは）
- 第10週 臨床心理学の誕生1（知的能力とは）
- 第11週 臨床心理学の誕生2（性格とは）
- 第12週 臨床心理学の展開1（適応とは）
- 第13週 臨床心理学の展開2（心理テストについて）
- 第14週 臨床心理学の展開3（心理療法について1）
- 第15週 臨床心理学の展開4（心理療法について2）
- 第16週 試験

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理学は「こころ」について理解し、支援するための学問です。心理学には大きく分けて、基礎領域と応用領域があります。「心理学a」では主に基礎領域（知覚、認知、行動など）をとりあげます。そして、心理学の基本的な考え方や知識を身につけ、日常生活とのつながりを考えます。

学習目標・到達目標

心理学について、基本的な考え方や知識を身につけ、日常生活場面への活用をめざします。

準備学習

心理学は日常生活とつながりが深い学問です。身近に感じたこと興味を持ったことについて予習・復習をして下さい。

評価方法その他

平常点30%、レポート30%、試験40%
（平常点はコメント等の授業への参加度から評価します）

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 心理学の歴史
3. 知覚①:感覚と知覚
4. 知覚②:錯覚
5. 認知①:記憶
6. 認知②:知識とスキーマ
7. 認知③:思考と言語
8. 行動①:条件づけ
9. 行動②:学習
10. 個人差:知能とパーソナリティ
11. 生理①:脳のはたらき
12. 生理②:自律神経活動とストレス
13. 神経①:神経心理学的障害
14. 神経②:リハビリテーション
15. まとめ

使用教科書名

特に使用しません。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理学を構成する主な領域に関するバランスのとれた基礎知識を習得させ、基礎的概念と基礎的事項に関する知識と理解を深め、それらを活用して実践的問題解決ができる基礎的な力を育むことを目指す。様々な具体的な事例も提示し、積極的関与と深い理解の獲得を目指す。

学習目標・到達目標

心理学を構成する主な領域に関するバランスのとれた基礎知識を習得し、基礎的概念と基礎的事項に関する知識と理解を深め、それらを活用して実践的問題解決ができる基礎的な力を養うことが目標。

準備学習

日頃から自分を含めた人間を、障がいのあるなしに関わらず「死の瞬間まで発達し続ける存在」という観点で捉え、図書館で関連する多くの本を読んで下さい。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.心理学の歴史
- 2.心理学の対象と研究方法
- 3.身体・生理学的基礎
- 4.感覚・知覚
- 5.認知
- 6.思考
- 7.学習
- 8.記憶
- 9.感情・情緒・欲求
- 10.性格・適応
- 11.発達
- 12.知能
- 13.測定と評価
- 14.心理学における倫理問題
- 15.まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理学の発展は科学技術の進歩と密接な関係がある。行動科学は客観的な立場から「心」に関する様々な問題を研究する学問である。現代社会は従来の「常識」を超えたきわめて複雑なものとなっている。我々はそのような状況とどうつきあえばよいのか？「行動科学」の知識はヒントになりうるのか？この講義ではストレス、情動、不安、社会行動、パーソナリティ、発達と知能、心理テスト・カウンセリングなどの心理臨床等についての基礎知識を学習する。現代社会で起きている様々な話題を心理学との関連で考えていきたい。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

期末試験80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 行動科学とは(なぜ行動か)
- 第2週 ストレスと現代社会(なぜそうなったか)
- 第3週 ストレスの発見(気づきについて)
- 第4週 心理的ストレスとは(肥満と心理的ストレス)
- 第5週 精神の障害について(「正常と異常」について)
- 第6週 ストレスと精神の障害1(ストレスに強い人)
- 第7週 ストレスと精神の障害2(ストレスとつきあう)
- 第8週 心身の障害について(心と身体の接点)
- 第9週 ストレスと心身の障害1(アレルギーとは)
- 第10週 ストレスと心身の障害2(多様な症状)
- 第11週 精神分析学と神経症性障害
- 第12週 行動科学と神経症性障害
- 第13週 治療のモデル1(心理療法と薬物療法)
- 第14週 治療のモデル2(心理療法の未来1)
- 第15週 治療のモデル3(心理療法の未来2)
- 第16週 試験

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。さらにブログでも授業情報を共有します。
<http://ichi3ichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理学は「こころ」について理解し、支援するための学問です。心理学は大きく分けて、基礎領域と応用領域があります。「心理学b」では主に応用領域(社会、臨床など)をとりあげます。そして、心理学の基本的な考え方と知識を身につけ、日常生活とのつながりを考えます。

学習目標・到達目標

心理学について、基本的な考え方と知識を身につけ、日常生活場面への活用をめざします。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 社会①:社会的認知
3. 社会②:自己過程
4. 社会③:態度と説得
5. 社会④:社会的影響
6. 社会⑤:対人関係
7. 臨床①:精神分析
8. 臨床②:認知行動療法
9. 臨床③:クライエント中心療法
10. 臨床④:心理検査
11. 応用①:行動経済学
12. 応用②:ポジティブ心理学
13. 応用③:恋愛
14. 応用④:犯罪
15. まとめ

準備学習

心理学は日常生活とつながりが深い学問です。身近に感じたこと興味を持ったことについて予習・復習をして下さい。

評価方法その他

平常点30%, レポート30%, 試験40%
(平常点はコメント等の授業への参加度から評価します)

使用教科書名

特に使用しません。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の「心理学a」で学んだ心理学を構成する主な領域に関するバランスのとれた基礎的概念と基礎的事項に関する知識と理解を基盤に、それらを活用して現代社会における様々な問題に対処できる実践的問題解決能力を育む。様々な具体的な事例も提示して、積極的関与と深い理解の獲得を目指す。

学習目標・到達目標

前期の「心理学a」で学んだ心理学を構成する主な領域に関するバランスのとれた基礎的概念と基礎的事項に関する知識と理解をさらに深め、それらを活用して実践的問題解決ができる基礎的な力を養うことが目標。

週 テーマ・授業目標等

1. 欲求と動機づけ
2. 学習と評価
3. 人格と適応
4. 発達と障害
5. ストレスと適応
6. ストレスと心身の障害
7. 心身の障害とアセスメント
8. カウンセリングと治療
9. 集団と社会行動
10. 心理学と行動科学
11. 心と脳の科学
12. 測定と統計的処理
13. データの適切な解釈
14. 心理学の発展
15. まとめ
16. 定期試験

準備学習

日頃から自分を含めた人間を、障がいのあるなしに関わらず「死の瞬間まで発達し続ける存在」という観点で捉え、図書館で関連する多くの本を読んで下さい。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では、現代社会が直面する格差の問題の一つとしてジェンダー（性別を通じて作られる格差）を位置づけ、ジェンダーについての議論を通じて、私たちが暮らす社会についての理解に努めます。そこから、私たちが日々生きる「当たり前」を問う力を養います。とりわけ、世界の異なる場所におけるジェンダーについて比較し、私たちの生きるジェンダーを考えるとともに、世界の出来事についてジェンダー視点からの理解を試みます。

学習目標・到達目標

- ①ジェンダー概念の理解を深め、誰もがその人らしく生きることのできる社会について考えます。
- ②日本社会および地球社会が直面する諸課題をジェンダーの視点から問い直す力を養います。
- ③現代社会が直面する諸課題を、自分の生活の延長線上に考える訓練を積みみます。

準備学習

履修にあたり必要な知識は特に求めません。ただし、毎回の授業を通じて自分の考えに真摯に向き合うことを求めます。授業内での差別的発言や差別的思想の表明は嚴重な問題として取扱います。

評価方法その他

平常点(30%)、期末レポート(30%)、定期試験の得点(40%)
平常点は、授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断します。
※評価方法については、初回の授業で詳しく説明します。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション:授業の概要
2. ジェンダーとは何か
3. 産む・産まない①(国家)
4. 産む・産まない②(技術と医療)
5. 労働①(職業選択)
6. 労働②(労働環境)
7. 暴力①(性差別)
8. 暴力②(DV)
9. 貧困の女性化
10. 宗教
11. 歴史①(日本)
12. 歴史②(国外)
13. ジェンダーを生きる
14. 全講義のまとめ
15. 定期試験

使用教科書名

適宜必要な資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本学の創立者大江スミ先生の信念、理想、大江家政学、教育内容、ひとりなど先輩諸姉に講じていただき、大江先生の生涯から生き方を学ぶ。また、大江先生の建学の精神、本学創立、日本の家政学に寄与した業績についての解説し、家政学の名門である本学を深く理解し、自信と誇りを持ち、充実した豊かな学生生活の実現と、社会への貢献を目指し、建学の精神を継承することを目的とする。また、現代人にとって不足しがちな実践的教養教育の一端を授業に加え、教養を重視した大江先生の精神に触れる。

学習目標・到達目標

本学の建学の精神を深く理解し、各自が東京家政学院大学で学ぶ意義を考え、実り多い学生生活を送るための精神的支柱とする。

準備学習

大江先生は高度な教養教育と、実験・実習を重視した独自の大江家政学を実現させるために東京家政学院(通称:家政学院)を創立なさいました。大江先生に関するこの科目を履修して心からよかったと思ってもらえるよう、毎年工夫していますが、受講生が多いため、受講生の授業態度により成果が左右されるのもまた確かです。講師の先生方はそれぞれ非常に多忙な中、「大江スミ先生を語る」にご参加ください

評価方法その他

平常点を50%、各回のレポートを50%とする。

週 テーマ・授業目標等

(担当者の都合により順番などの変更が予想されます。ご了承ください。)

1. ガイダンス
2. 教養一礼法一 小川美子(小笠原流礼法師範)
3. 教養一礼法一 小川美子(小笠原流礼法師範)
4. 教養一礼法一 小川美子(小笠原流礼法師範)
5. 大江スミ先生 永山スミ(東京家政学院 光塩会会長 本学名誉教授)
6. 大江スミ先生 廣江 彰(本学学長)
7. 大江文庫 関原暁子(前本学附属図書館事務部長)
8. 大江文庫 関原暁子(前本学附属図書館事務部長)
9. 大江文庫 関原暁子(前本学附属図書館事務部長)
10. 大江スミ先生 特別講師
11. 大江スミ先生を語る(1)澤田佳与子(草月流本部講師)
12. 大江スミ先生を語る(2)澤田佳与子(草月流本部講師)
13. 大江スミ先生を語る(3)澤田佳与子(草月流本部講師)
14. 大江スミ先生を語る(4)澤田佳与子(草月流本部講師)
15. 大江スミ先生を語る(5)澤田佳与子(草月流本部講師)
16. レポート提出

使用教科書名

ビデオ鑑賞、プリント配布等

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本学の創立者大江スミ先生の信念、大江先生が提唱された家政学の教育内容、先生のお人柄について先輩諸姉に講じていただき、大江先生の生涯を理解したうえで、自らの生き方について学ぶ。具体的には、本学建学の精神の理解をはじめとして、本学の歴史、日本の家政学に寄与した大江先生の業績について学ぶことにより、本学および本学の建学の精神を深く理解することを主たる目的とする。さらに、自信と誇りを持った学生生活の実現をめざし、かつ建学の精神を継承することにより社会貢献できる人としての生き方を考究してほしい。

学習目標・到達目標

各自が家政学院で学ぶ意義を考え、実り多い学生生活を送るための精神的支柱となるよう、大江スミ先生の事績と本学の建学の精神を深く理解する。

準備学習

この授業においては、本学卒業生の方々が、後輩のみなさんに大江先生の精神について伝えることを楽しみに来校されます。みなさんも先輩に接する礼儀をわきまえて、授業中は他の方の迷惑にならないよう、私語を慎み、積極的に授業に参加するように心がけましょう。「礼法・作法」は人数によって、クラスを2分割して授業を実施しますので、担当教員の指示に従ってください。また、「大江レシピの実践」は7月上・中

評価方法その他

各回授業レポートの提出(60%)とまとめのふりかえりシートの提出(20%)、期末レポート(20%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

(担当者の都合により順番などの変更が予想されます。ご了承ください。)

- 1 オリエンテーション
- 2 『ひとひらの雪として』—大江スミ先生の生涯
- 3 大江精神について(1)—卒業生による大江先生の話
- 4 大江精神について(2)—卒業生による大江先生の話
- 5 大江精神について(3)—卒業生による大江先生の話
- 6 学長か理事長の講話
- 7 大江先生と卒業生
- 8 礼法・作法(1)ビデオ
- 9 礼法・作法(2)茶の湯という文化
- 10 礼法・作法(3)茶道体験
- 11 文化遺産としての大江文庫 江戸料理本に触れる
- 12 おもてなしの心の継承—準備
- 13 おもてなしの心の継承(1)—大江レシピ実践
- 14 おもてなしの心の継承(2)—大江レシピ実践
- 15 ふりかえりシートによるまとめ

使用教科書名

光塩会編『ひとひらの雪として』(入学式に配布される大江スミ先生の生涯を記した書物を持参すること)、その他プリント配布。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人は自分をとりまく環境との相互関連の中で、日々成長・発達を遂げていく。各ライフステージで異なる生活環境の中で、「自己理解」、「他者理解」、「場の理解」に基づいて形成される人間関係について解説をすすめる。今後、円滑な人間関係を形成していくために、それにかかわる心理学の知識を習得し、事例を紹介しながら「人間理解」のスキルを深めていきたい。

学習目標・到達目標

青年期の発達課題は「自我の同一性」の確立とされており、自分自身の判断に基づく行動をすることが求められる時期である。この時期に自己と他者との相互の人間関係のあり方を考えることによって、人間関係を通して「生き方」に影響を及ぼす適切な判断力を獲得することを目標とする。

準備学習

人間関係に関わるさまざまな状況について、講義に加え、視聴覚教材(DVD,VHS等)を補助的に活用して具体的なイメージの定着をするので、前回の復習をしておくこと。

評価方法その他

定期試験(60%)、受講態度(10%)、授業中の小テストその他(30%)等総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 人間関係総論「生き方の問題—心身の健康・安全管理—」
- 第2週 自己理解、他者理解
- 第3週 発達段階(ライフステージ)における人間関係①
- 第4週 発達段階(ライフステージ)における人間関係②
- 第5週 生活の場(学校現場)における人間関係
- 第6週 生活の場(産業現場)における人間関係
- 第7週 生活の場(医療現場)における人間関係
- 第8週 生活の場(福祉現場)における人間関係
- 第9週 人間関係とストレスマネジメント
- 第10週 人間関係と発達障害
- 第11週 人間関係と精神疾患
- 第12週 人間関係とコミュニケーション
- 第13週 人間関係に活かすカウンセリング
- 第14週 人間関係づくり(ソーシャルスキルトレーニング)
- 第15週 まとめ

使用教科書名

オリジナル資料配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

指定クラスでテキストに従って演習を行う。各課では解説を理解した上で練習問題に取り組み、最低限知っておくべきタディスキルズ(大学での勉強方法)を学ぶ。履修に関してはさまざまな「指定事項」があるので、オリエンテーション「基礎教育の説明」における「リテラシー演習履修について」の説明を必ず聞くこと。テキストは初回授業で配布する(無料)。学習内容(A～Nの各課および図書館ガイダンス)はすべてのクラスで共通だが、扱う順序はクラスにより異なる。クラスごとの学習日程表はオリエンテーション時に配布する。

学習目標・到達目標

レポート・論文を作成する技術を習得し、大学教育に対応できる基礎力を身につけることをめざす。具体的には、課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析する能力および情報や意見をわかりやすく正確に伝えられる日本語能力を養成すると同時に、主体的に勉強に取り組める方法を学ぶ。

準備学習

準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。

評価方法その他

平常点50%、期末試験50%。平常点は、授業への参加状況、練習問題への取り組み等で総合的に評価する。遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。

週 テーマ・授業目標等

大学生として身につけるべきこと
A 書くということ
B 報告書とは何か
C レポートとは何か
D 報告書・レポートの表現
E レポートの構成
F 本論の書き方
G テーマの設定
H アウトラインの作り方
I 文献の収集
J 参考文献目録の書き方
K 引用のしかた
L 表・図の作成
M 表・図からの読み取り
N 表・図を使った説明
図書館ガイダンス
期末試験

使用教科書名

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編(2015)『平成27年度東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学

授業科目概要・教育目的（履修条件）

外国人教師と生活をともにすることにより、日常よく使う生きた英語の表現を学ぶ。よって、合宿中は英語のみを使用し、日本語を使わないようにすること。授業の内容は簡単な導入から始まり、より複雑な会話モデルへと進む。映画や音楽を通じて英語に触れるアクティビティも行う。この授業に参加することにより英会話が有益で楽しいものであると感じるであろう。平成25年度の英会話集中講座は、平成28年2月8日(月)午後3時に開始し、2月10日(水)午後3時に終了する。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

この授業の受講者数は25名を上限とする。履修したい学生は、まず「履修希望調査票」に名前を記入すること。25名を超えて希望者があった場合は抽選となる。その後、履修登録許可者の名簿を発表するので、その名簿を確認してから履修登録を行うこと。この手続きを踏まない場合は履修を許可しない。履修登録できた学生は「参加申込書」に「参加費(別途掲示)」を添えて参加申し込みをすること。「参加費」には宿泊費と食費が含まれる。「参加申込書」と「参加費」の提出がない場合も履修を許可しない。申し込み期日など詳細は9月の後期オリエンテーション時に発表し、同時に別途掲示する。

<授業計画>

第1日目 2月8日:オリエンテーション、会話練習、ゲーム、映画鑑賞など
第2日目 2月9日:会話練習、ゲーム、屋内・屋外活動、映画鑑賞など
第3日目 2月10日:会話練習、ゲーム、復習、集中講座修了セレモニー

準備学習

英会話集中講座を受講する学生は、あらかじめ英語の文型や語彙の復習をしておくこと。積極的に他の学生と英語で会話する意欲を持ってこの授業に参加してほしい。

評価方法その他

「合宿への出席」と「積極的な授業参加」により総合的に評価する。「合宿への出席」とは、授業開始から授業終了までセミナーハウスに滞在し、授業に参加することを意味する。合宿途中での参加、退出、帰宅は評価の対象としないため、単位を取得できない。

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

様々なトピックを教材にして英語力の向上を図ります。受講生が内容を正確に把握できるように、表現や文の構造について解説します。また、他の表現での言い換えについても紹介し、応用力の向上を目指します。語学は自宅学習が重要なので、宿題を課し、一つの単元が終わると、表現が身につけているかどうかをチェックします。

学習目標・到達目標

高校から大学への橋渡しの授業です。「読解力」「文法力」「聴解力」の3技能のブラッシュアップを目標とします。単元ごとに小テストを行って「使える英語」を目指します。

準備学習

外国語を学ぶことで視野が広がります。是非楽しんでいただきたいと思えます。

評価方法その他

期末試験60%、平常点(出席重視、小テスト、授業中の受け答え)40%として、総合的に評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. Unit 1 College Life (I) Welcome to College 全体を理解し、音声を聞き取る。
2. Unit 1 読解力と語彙力の向上を図る。
3. Unit 1 復習/Unit 2 College Life (II) Course Registration 全体を理解し、音声を聞き取る。
4. Unit 2 読解力と語彙力の向上を図る。
5. Unit 2 復習/Unit 4 The Guardian of Love 全体を理解し、音声を聞き取る。
6. Unit 4 読解力と語彙力の向上を図る。
7. Unit 4 復習/Unit 5 Low-Cost Carriers 全体を理解し、音声を聞き取る。
8. Unit 5 読解力と語彙力の向上を図る。
9. Unit 5 復習/Unit 6 An Indian Restaurateur 全体を理解し、音声を聞き取る。
10. Unit 6 読解力と語彙力の向上を図る。
11. Unit 6 復習/Unit 10 Alternative Medicine 全体を理解し、音声を聞き取る。
12. Unit 10 読解力と語彙力の向上を図る。
13. Unit 10 復習/Unit 11 Two Big Players 全体を理解し、音声を聞き取る。
14. Unit 11 読解力と語彙力の向上を図る。
15. Unit 11 復習
16. 前期末試験

使用教科書名

Power-Up English (Pre-Intermediate)
 (『総合英語パワーアップ<初級編>』)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高校までに学習した英語の語彙や文法を復習しながら、よりよく理解する訓練を行います。様々な英語のスキルを身につけるために、視覚的に情報を掴むリーディングと基礎的な文法の練習、聴覚から情報を掴むリスニングの訓練、主体的に英語を使うライティングの訓練、を順番に行います。リーディング、リスニング、ライティング、それぞれのスキルの訓練は、単語の理解、センテンスの理解、文章全体の理解、の順に進めます。

学習目標・到達目標

大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身につけることを目標とします。そのために、授業ではまず高校までの学習の復習をしながら、基礎的な文法の定着を図ります。同時に、様々な場面で使われる英語を理解できる能力を養います。

準備学習

基礎的な英語の復習をしながら、英語の単語、センテンス、より長い文と発展させていき、読んだり聞いたり書いたりする練習を行います。テキストは、主人公Bradleyのストーリー仕立て、Bradleyが生活するイギリスの様子も同時に学びましょう。英語のメールを読んだり、会話の仕方の勉強もするので、より日常的な英語を学ぶこともできます。授業内で指定する箇所の予習、試験に向けた復習を課外活動として課し

評価方法その他

期末試験(50%) 中間試験(30%) 平常点(20%) [平常点は、授業への参加状況と発言状況で判断する。]

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション(授業の目標、進め方、および注意事項などを説明。)
- 2.Unit1
- 3.Unit2
- 4.Unit3
- 5.Unit4
- 6.Unit5
- 7.Unit6
- 8.中間試験
- 9.Unit7
- 10.Unit8
- 11.Unit9
- 12.Unit10
- 13.Unit11
- 14.Unit12
15. まとめ
16. 期末試験

使用教科書名

Terry O'Brien, Kei Mihara, etc. 『Hello, I'm Bradley: English for Active Communication』南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

英語の基本的な文法学習を柱とし、それに語彙の学習と読解訓練を絡めて進めていく。読解の英文は自然な英語で難易度は適度である。内容は日常生活ですぐ使える内容と表現であり、それがこの教科書のよいところである。履修条件は特になし。普段の授業をよくこなすこと。授業3回に1回のペースで小テストを行う。小テストは教科書の指定された箇所の暗記が中心となる。計5回の小テストの合計点と定期試験の得点とを足して成績を決める。小テストを受けられなかった場合は本人の申し出によって随時追テストを行う。申し出が無かった場合は0点として加算する。

学習目標・到達目標

英語の基礎的な文法の習得と、読解力向上を学習目標とする。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 現在形
3. 否定
4. 過去時制
5. 未来時制
6. 形容詞
7. 命令文
8. 倒置
9. 冠詞
10. 現在完了
11. 疑問文
12. 感嘆文
13. 間接話法
14. 副詞
15. to不定詞
16. 定期試験

準備学習

平易で論理的な説明を心がけたいと思います。毎回興味を持って受講されることを期待します。

評価方法その他

小テストの合計点50%、定期試験の得点50%

使用教科書名

Hello, I'm Bradley (南雲堂、2011)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業では、英語を使っての情報の受信と発信に必要な英文法の学習に重点を置く。教科書と副教材（プリント配付）を使って、英語文法のスキルトレーニングを行う。

学習目標・到達目標

高校までに学んだ英語の基本的なルールを復習し、英語学習の基礎を固めることを目指す。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション、英語と日本語の文法上の違い、語彙の復習
2. 一般動詞とbe動詞の現在形
3. 一般動詞とbe動詞の過去形
4. 疑問文
5. 否定文
6. 文型と文の要素
7. 進行形
8. 中間試験
9. 受動態
10. 助動詞(1) will, can, may
11. 助動詞(2) should, must, 助動詞＋完了形
12. 現在完了
13. 動名詞とto不定詞(名詞的用法)
14. to不定詞(形容詞的用法、副詞的用法)
15. 分詞
16. 期末試験

準備学習

出席は初回からカウントします。教科書を購入して出席して下さい。授業の予復習は大切です。必ず予復習をしましょう。また、授業には必ず辞書(電子辞書で可)を持参すること。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

使用教科書名

木村啓子、田川憲二郎、エレイン・ジョーンズ(2014)『Laugh and Learn -- Back to the Basics 大学生の基本英文法ーパターン練習からリーディングへ』南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直します。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげていきます。またリスニング能力を強化するために、洋楽や海外ドラマ（英語音声・日本語字幕）などで、英語にふれる時間を確保していきます。

学習目標・到達目標

既習の英文法（特に基本的分野）を反復することによって、これまでの学習のつまずき、不安な事項を発見し、それらを克服していくことを目標とします。

準備学習

予習・復習については授業時に指示を出しますので、必ず行ってください。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%＋平常点30%
*平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 前期授業ガイダンス＋Basic Sentences Chapter1&2
2. English Grammar Chapter1＋Basic Sentences
3. English Grammar Chapter2＋Basic Sentences
4. English Grammar Chapter2(完了時制)＋Basic Sentences
5. English Grammar Chapter3＋Basic Sentences
6. English Grammar Chapter4(受動態)＋Basic Sentences
7. English Grammar Chapter4(練習問題)＋Basic Sentences
8. English Grammar Chapter5＋Basic Sentences
9. English Grammar Chapter6＋Basic Sentences
10. English Grammar Chapter7＋Basic Sentences
11. English Grammar Chapter8＋Basic Sentences
12. English Grammar Chapter9＋Basic Sentences
13. English Grammar Chapter10＋Basic Sentences
14. English Grammar Chapter11＋Basic Sentences
15. 総復習
16. 定期試験

使用教科書名

English Grammar(南雲堂、2014) ¥1,200(税抜)
Basic Sentences(南雲堂、2006) ¥700(税抜)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では分かりやすく、多様な教材を使用しながら、基礎的な英語力の定着を目指します。また、定期的に行うリスニングと英文の多読を通じて、英語の語感を養い語彙力を向上させます。一人一人の習熟度に合わせてゆっくり授業を進めながら、多岐にわたる英語によるリスニング教材と読解資料にあたる予定です。話し手や書き手の意図を正しく理解する英語力を身につけましょう。

学習目標・到達目標

この授業では、楽しく総合的な英語力を養うことを目標とします。そのため英文法の基礎をしっかりと学習した上で、リスニングと英語で書かれた文章のリーディングを定期的に行います。個々の英文を正確に理解できる基礎的な英語読解力を養い、自分の考えを的確に表せる英語表現力を身につけることを目指します。

準備学習

- (1)可能な限り予習と復習を行い、テキストに出てくる文例や語句等を繰り返し学習して下さい。
- (2)授業には英和、和英辞書を持参し、こまめに使用すること。(電子辞書可)
- (3)配布したプリントはきちんと保管し、毎回持参すること。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(40%:授業への参加姿勢・状況、小テスト、課題等)を総合評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(授業の目標、進め方、注意事項等を説明)
2. Listening: 1、Reading プリント1
3. Listening: 2、Reading プリント2
4. Listening: 3、Reading プリント3
5. Listening: 4、Reading プリント4
6. Listening: 5、Reading プリント5
7. Listening: 6、Reading プリント6
8. 中間小テストとその解説
9. Listening7、Reading プリント7
10. Listening: 8、Reading プリント8
11. Listening: 9、Reading プリント9
12. Listening:10、Reading プリント10
13. Listening: 11、Reading プリント11
14. Listening: 12、Reading プリント12
- 15.まとめ

* 授業の進み具合や学生の要望により、予定は変更されることがあります。

使用教科書名

適宜、授業中にプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

英語学習を通じて「世界の今」を考えよう！この講座では基本的な英語力を養成するだけでなく、国際人としての感覚を身に着けることも狙いとします。世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを意識しながら英語を学んでいきましょう。外国語を勉強するときには、その背景となっている文化を知ることも大切なので、時には映像や音楽を交えながら、折々に英語圏の文化についても触れていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

- ① イギリスの日常生活をテーマとしたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目標とします。また、TOEICを意識した練習問題を解きつつTOEICへの取り組み方をも学びます。
- ② イギリスの児童文学の原文・資料を読みながら、イギリス文化についての知識を深めることを目標とします。

準備学習

- ① 予習が前提です。特に、わからない単語は各自で調べてきてください。
- ② 普通の授業が大事です。きちんと出席して授業に積極的に参加してください。
- ③ 授業中にひんばんに重要表現などを指摘するので必ずマーカーや赤ペンを持ってきてください。

評価方法その他

評価は、平常点30%、中間試験30%、定期試験40%により評価します。平常点は授業への参加状況(受講態度、提出物などを含む)で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 第1課
- 3 第2課
- 4 第3課+イギリスの児童文学①—「ピーター・ラビットと仲間たち」
- 5 第4課
- 6 第5課+中間試験前のまとめ
- 7 中間試験+映画Miss Potterとイギリスの児童文学②
- 8 イギリスの児童文学③ 作者ボターとビクトリア朝社会
- 9 イギリスの児童文学④「不思議の国のアリス」
- 10 イギリスの児童文学⑤「不思議の国のアリス」とその背景
- 11 第6課
- 12 第7課
- 13 第8課
- 14 第9課
- 15 第10課+定期試験前のまとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

Good Tomes:English Daily Life in Easy English
「基礎英語で学ぶイギリス生活」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

様々なトピックを教材にして、英語力の向上を図ります。受講生が内容を正確に把握できるように、文の構造や表現について解説します。また、他の表現での言い換えについても紹介し、応用力の向上を目指します。語学は自宅学習が重要な部分を占めるので、宿題を課し、一つの単元が終わると表現が身についているかどうかをチェックします。

学習目標・到達目標

英語の基礎力である「読解力」「文法力」「聴解力」の3技能のブラッシュアップを目標とします。宿題を課し、単元ごとに小テストを行って、使える英語を目指します。(後期からの受講は、人数に無理がなければ可。)

準備学習

後期から受講する皆さんも一緒に、様々なトピックについて学びながら、更に語学力を磨いて参りましょう。

評価方法その他

期末試験60%、平常点(出席重視、小テスト、授業中の受け答え)40%として総合的に評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. Unit 13 Job Hunting 全体を理解し、音声を聞き取る。
2. Unit 13 読解力と語彙力の向上を図る。
3. Unit 13 復習/Unit 14 The Shadow of a Great Artist 全体を理解し、音声を聞き取る。
4. Unit 14 読解力と語彙力の向上を図る。
5. Unit 14 復習/Unit 15 Everyday Japan and MATSURI Japan 全体を理解し、音声を聞き取る。
6. Unit 15 読解力と語彙力の向上を図る。
7. Unit 15 復習/Unit 19 The World's Most Popular Sport? 全体を理解し、音声を聞き取る。
8. Unit 19 読解力と語彙力の向上を図る。
9. Unit 19 復習/Unit 22 Loanwords in Japanese 全体を理解し、音声を聞き取る。
10. Unit 22 読解力と語彙力の向上を図る。
11. Unit 22 復習/Unit 23 The Goal of Science 全体を理解し、音声を聞き取る。
12. Unit 23 読解力と語彙力の向上を図る。
13. Unit 23 復習/Unit 24 A Language Robot 全体を理解し、音声を聞き取る。
14. Unit 24 読解力と語彙力の向上を図る。
15. Unit 24 復習
16. 後期末試験

使用教科書名

Power-Up English (Pre-Intermediate)
『総合英語パワーアップ<初級編>』

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高校までに学習した英語の語彙や文法を復習しながら、よりよく理解する訓練を行います。様々な英語のスキルを身につけるために、視覚的に情報を掴むリーディングと基礎的な文法の練習、聴覚から情報を掴むリスニングの訓練、主体的に英語を使うライティングの訓練、を順番に行います。リーディング、リスニング、ライティング、それぞれのスキルの訓練は、単語の理解、センテンスの理解、文章全体の理解、の順に進めます。

学習目標・到達目標

大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身につけることを目標とします。そのために、授業ではまず高校までの学習の復習をしながら、基礎的な文法の定着を図ります。同時に、様々な場面で使われる英語を理解できる能力を養います。

準備学習

基礎的な英語の復習をしながら、英語の単語、センテンス、より長い文と発展させていき、読んだり聞いたり書いたりする練習を行います。テキストは、主人公Bradleyのストーリー仕立てで、Bradleyが生活するイギリスの様子も同時に学びましょう。英語のメールを読んだり、会話の仕方の勉強もするので、より日常的な英語を学ぶこともできます。授業内で指定する箇所の予習、試験に向けた復習を課外活動として課し

評価方法その他

期末試験(50%) 中間試験(30%) 平常点(20%) [平常点は、授業への参加状況と発言状況で判断する。]

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション(授業の目標、進め方、および注意事項などを説明。)
- 2.Unit 13
- 3.Unit 14
- 4.Unit 15
- 5.Unit 16
- 6.Unit 17
- 7.Unit 18
- 8.中間試験
- 9.Unit 19
- 10.Unit 20
- 11.Unit 21
- 12.Unit 22
- 13.Unit 23
- 14.Unit 24
15. まとめ
16. 期末試験

使用教科書名

Terry O'Brien, Kei Mihara, etc. 『Hello, I'm Bradley: English for Active Communication』南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

英語の基本的な文法学習を柱とし、それに語彙の学習と読解訓練を絡めて進めていく。読解の英文は自然な英語で難易度は適度である。内容は日常生活ですぐ使える内容と表現であり、それがこの教科書のよいところである。履修条件は特になし。普段の授業をよくこなすこと。授業3回に1回のペースで小テストを行う。小テストは教科書の指定された箇所の暗記が中心となる。計5回の小テストの合計点と定期試験の得点とを足して成績を決める。小テストを受けられなかった場合は本人の申し出によって随時追テストを行う。申し出が無かった場合は0点として加算する。

学習目標・到達目標

英語の基礎的な文法の習得と、読解力向上を学習目標とする。

準備学習

平易で論理的な説明を心がけたいと思います。毎回興味を持って参加されることを期待します。

評価方法その他

授業3回ごとの小テスト50%、定期試験50%

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 動名詞
3. 接続詞
4. 助動詞(1)
5. 助動詞(2)
6. 代名詞
7. 進行形
8. 前置詞(1)
9. 前置詞(2)
10. 分詞構文
11. 仮定法
12. 比較
13. 数
14. 受動態
15. 関係詞
16. 定期試験

使用教科書名

Hello, I'm Bradley (南雲堂、2011)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業では、前期に学んだ英文法の知識を踏まえて、英文の読み方を学ぶ。短い文章から長い文章へと読み方の練習を進め、まとまった長さの英文を読むことに慣れることを目指す。指名して読解していくので、英文を積極的に読もうとする態度が求められる。

学習目標・到達目標

前期に学んだ英文法の知識を踏まえて、英文読解力を養成する。

準備学習

出席は初回からカウントします。教科書を購入して出席して下さい。予習を必ずし、授業中は辞書（電子辞書で可）を持参すること。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 前期期末試験の返却と解説、前期学習内容の復習(1)(プリント)
2. 前期学習内容の復習(2)(プリント)
3. 英語の第5文型練習(プリント)
4. 英文読解(1) 英文の読み方練習、Lucky Lips 1
5. 英文読解(2) Lucky Lips 2~3
6. 英文読解(3) Lucky Lips 4~5
7. 英文読解(4) Lucky Lips 6~7
8. 中間試験
9. 英文読解(6) Smart Ice Cream 前半
10. 英文読解(7) Smart Ice Cream 後半
11. 英文読解(8) Wunderpants 1~2
12. 英文読解(9) Wunderpants 3~4
13. 英文読解(10) Wunderpants 5~6
14. 英文読解(11) Wunderpants 7~8
15. 英文読解(12) Fifty Famous Storiesより
16. 期末試験

使用教科書名

庭野吉弘編註(2012)『Lucky Lips and Other Stories 魔法の口紅』成美堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直します。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげていきます。またリスニング能力を強化するために、洋楽や海外ドラマ（英語音声・日本語字幕）などで、英語にふれる時間を確保していきます。

学習目標・到達目標

既習の英文法(特に基本的分野)を反復することによって、これまでの学習のつまずき、不安な事項を発見し、それらを克服していくことを目標とします。

準備学習

予習・復習については授業時に指示を出しますので、必ず行ってください。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%＋平常点30%
*平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 後期授業ガイダンス＋Basic Sentences Chapter21&22
2. English Grammar Chapter12＋Basic Sentences
3. English Grammar Chapter13＋Basic Sentences
4. English Grammar Chapter13(応用問題)＋Basic Sentences
5. English Grammar Chapter14＋Basic Sentences
6. English Grammar Chapter15＋Basic Sentences
7. English Grammar Chapter16(関係代名詞)＋Basic Sentences
8. English Grammar Chapter16(関係副詞)＋Basic Sentences
9. English Grammar Chapter17＋Basic Sentences
10. English Grammar Chapter18＋Basic Sentences
11. English Grammar Chapter19＋Basic Sentences
12. Review
13. English Grammar Chapter19＋Basic Sentences
14. English Grammar Chapter20＋Basic Sentences
15. 総復習
16. 定期試験

使用教科書名

English Grammar(南雲堂、2014) ¥1,200(税抜)
Basic Sentences(南雲堂、2006) ¥700(税抜)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期に引き続き、この授業では分かりやすく、多様な教材を使用しながら、基礎的な英語力の定着を目指します。また、定期的に行うリスニングと英文の多読を通じて、英語の語感を養い語彙力を向上させます。一人一人の習熟度に合わせてゆっくり授業を進めながら、多岐にわたる英語によるリスニング教材と読解資料にあたる予定です。話し手や書き手の意図を正しく理解する英語力を身につけましょう。

学習目標・到達目標

前期に引き続き、この授業では、楽しく総合的な英語力を養うことを目標とします。そのため英文法の基礎をしっかりと学習した上で、リスニングと英語で書かれた文章のリーディングを定期的に行います。個々の英文を正確に理解できる基礎的な英語読解力を養い、自分の考えを的確に表せる英語表現力を身につけることを目指します。

準備学習

- (1)可能な限り予習と復習を行い、テキストに出てくる文例や語句等を繰り返し学習して下さい。
- (2)授業には英和、和英辞書を持参し、こまめに使用すること。(電子辞書可)
- (3)配布したプリントはきちんと保管し、毎回持参すること。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(40%:授業への参加姿勢・状況、小テスト、課題等)を総合評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(授業の目標、進め方、注意事項等を説明)
2. Listening: 1、Reading プリント1
3. Listening: 2、Reading プリント2
4. Listening: 3、Reading プリント3
5. Listening: 4、Reading プリント4
6. Listening: 5、Reading プリント5
7. Listening: 6、Reading プリント6
8. 中間小テストとその解説
9. Listening7、Reading プリント7
10. Listening: 8、Reading プリント8
11. Listening: 9、Reading プリント9
12. Listening:10、Reading プリント10
13. Listening: 11、Reading プリント11
14. Listening: 12、Reading プリント12
- 15.まとめ

* 授業の進み具合や学生の要望により、予定は変更されることがあります。

使用教科書名

適宜、授業中にプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

英語学習を通じて「世界の今」を考えよう！
この講座では、基本的な英語力のみならず国際人としての感覚も身につけることを狙いとしています。世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら英語を学んでいきましょう。また、外国語を勉強するときはその背景となっている文化について知ることが大切です。時には映像や音楽を交えながら、英語圏の文化についてふれていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

- ①イギリスの日常生活をテーマとしたテキストを使用しながら、基礎の充実を図り、かつ実用英語を習得することを目標とします。また、TOEICを意識した練習問題を解きつつTOEIC への取り組み方をも学びます。
- ②イギリスの児童文学の原文・資料を読みながら、イギリス文化についての知識を深めることを目標とします。

準備学習

- ①予習が前提です。特に、わからない単語は各自で調べてきてください。
- ②普段の授業が大事です。きちんと出席して授業に積極的に参加してください。
- ③授業中にひんぱんに重要表現などを指摘するので必ずマーカーや赤ペンを持ってきてください。

評価方法その他

評価は、平常点30%、中間試験30%、定期試験40%により評価します。
平常点は、授業への参加状況(提出物、受講態度などを含む)で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 第11課
- 3 第12課
- 4 第13課
- 5 第14課
- 6 第15課+中間試験前のまとめと復習
- 7 中間試験+映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 8 ハリー・ポッターの世界にみるイギリスの歴史と文化
- 9 ハリー・ポッター原文読解①
- 10 ハリー・ポッター原文読解②
- 11 第16課
- 12 第17課
- 13 第18課+「くまのプーさん」原文読解①
- 14 第19課+「くまのプーさん」原文読解②
- 15 第20課+定期試験前のまとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

Good Tomes:English Daily Life in Easy English
「基礎英語で学ぶイギリス生活」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！
この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に付けることにあります。外国語を勉強するときには、その背景となる文化について知ることが大切です。時には音楽や映像を交えながら、英語圏の文化についてもふれていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

この講座では、TOEICのジュニア版TOEIC Bridgeの練習問題を解きながら、日常英会話を習得することを目標とし、合わせてTOEICへの取り組み方も学びます。また、アメリカの現代文化への知識を深めます。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
 - 2 第1課
 - 3 第2課＋アメリカの現代文化①
 - 4 第3課＋アメリカの現代文化②
 - 5 第4課＋アメリカの現代文化③
 - 6 第4課＋中間試験前のまとめ
 - 7 中間試験＋アメリカ文化に関する映画
 - 8 海外旅行の英会話①＋映画とその背景
 - 9 海外旅行の英会話②＋アメリカの現代文化④
 - 10 海外旅行の英会話③＋アメリカの現代文化⑤
 - 11 第5課＋アメリカの現代文化⑥
 - 12 第5課＋アメリカの現代文化⑦
 - 13 第6課＋アメリカの現代文化⑧
 - 14 第6課＋アメリカの現代文化⑨
 - 15 第7課＋定期試験前のまとめ
 - 16 定期試験
- *進行状況によって予定は変更となる可能性があります。

準備学習

- ①わからない単語は調べて予習してきてください。
- ②普段の授業が大事です。きちんと出席して授業に積極的に参加してください。
- ③授業中にひんぱんに重要表現などを指摘するので、必ずマーカーや赤ペンを持ってきてください。

評価方法その他

評価は、平常点30%、中間試験30%、定期試験40%により行います。平常点は、授業への参加状況(受講態度、提出物などを含む)で総合的に判断します。特に、出席状況は重視します。

使用教科書名

TOEIC Bridge:First Steps to Success
「TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎」
和田ゆり、他、著
南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

中学・高校で培った英語力をブラッシュアップし、一つ一つのニュースで扱われているテーマについても理解を深めることできるように授業を進めます。内容を理解したうえで、今日的トピックについて英語で話ができるように、語彙を増やし表現を磨きます。

学習目標・到達目標

アメリカCNNの英語学習者向けのニュースです。映像を見ながら英語を聞き取る力をつけ、英語の様々な表現を身につけることを目標にします。

準備学習

外国語が使えるようになると世界が広がります。テレビニュースを通して英語を聞き取る力をつけ、世界を知ることによって一層豊かな大学生活を送ってください。

週 テーマ・授業目標等

1. Unit 1: Google Glass for Firefighters ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
2. Unit 1: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
3. Unit 1の復習/Unit 6: Cash Hidden in a Desk ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
4. Unit 6: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
5. Unit 6の復習/Unit 2: Translators Wanted! ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
6. Unit 2: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
7. Unit 2の復習/Unit 8: Can Babies Choose Between Good and Bad? ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
8. Unit 8: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
9. Unit 8の復習/Unit 4: Mirror Project in Norway ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
10. Unit 4: ニュースに出てくる英語を使って表現します。
11. Unit 4の復習/Unit 5: Octocopters ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
12. Unit 5: ニュースに出てくる英語を使って表現します。
13. Unit 5の復習/Unit 3: iPhone Musician ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
14. Unit 3: ニュースに出てくる英語を使って表現します。
15. Unit 3の復習/総復習
16. 期末試験

評価方法その他

期末試験60%と平常点40%(出席重視、小テストや課題の提出等を含む)とし、総合的に評価します。

使用教科書名

CNN Student News (3)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業では、シャドーイングを利用して、英語の発音と発話のスキルトレーニングを行う。教科書付録のCDを使って自宅では必ず口慣らしをしておくこと。

学習目標・到達目標

シャドーイングのテクニックを利用して、英語コミュニケーションに必要な「聴解力」の基礎を身につけると同時に、英語を話すことにも慣れることを目指す。

準備学習

出席は初回からカウントします。教科書を購入して出席して下さい。授業中は恥ずかしがらずに積極的に声を出すことを心がけて下さい。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. シャドーイングの基礎1(単語)
2. シャドーイングの基礎2(単語、文)
3. シャドーイングの基礎3(文)
4. Unit 1: The Environment and Economics
5. Unit 2: Shopping Carts Dirtier Than Public Restrooms
6. Unit 3: A Story with A-peel
7. 基礎編+Unit 1 ~ Unit 3復習
8. 中間試験
9. Unit 4: The Price Tag of Happiness
10. Unit 5: Another Benefit of Picking Up a New Tongue
11. Column A 英語は強弱のリズム
12. Unit 6: The White Revolution for Climate Crisis
13. Unit 7: Staying Healthy at the Workplace
14. Unit 8: Write Off Your Test Anxiety
15. 前期の復習
16. 試験

使用教科書名

Nobuyuki Kumai, Steve Urick (2012)『Shadowing Starter 聞ける、話せる シャドーイング入門』マクミランランゲージハウス

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「読み・書き・聴き・話す」の4技能の向上を目指すと共に、自分のことについて英語で表現できるよう練習を行っていきます。

学習目標・到達目標

英語のリスニングとスピーキングの練習を行いながら、英語で情報を発信する能力の向上を図ります。

準備学習

授業で習ったことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。(平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

- 1 Introduction
- 2 英語の音の特徴について 1
- 3 Unit 1 Introducing Yourself 1~2
- 4 Introducing Yourself 3
- 5 Introducing Yourself 4~8
- 6 英語の音の特徴について 2
- 7 Unit 2 My Best Friend 1~2
- 8 My Best Friend 3
- 9 My Best Friend 4~8
- 10 英語の音の特徴について 3
- 11 Unit 3 My Typical Day 1~2
- 12 My Typical Day 3
- 13 My Typical Day 4~8
- 14 Unit 4 Shopping Habits 1~2
- 15 これまでのまとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂 / 2006年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

質問に対して、英単語一語で返すだけの会話ではなく、自然な英文での会話を目指します。皆さんは今、語学留学中です。機内や留学先の学校では、どのような会話が必要となるでしょうか。様々な場面での会話を身に着け、自分のものにしていきましょう。

学習目標・到達目標

繰り返しのリスニングと対話練習を通して、「聞く力」と「話す力」の向上を目指します。また異文化についての知識を深めます。

準備学習

予習・復習については授業時に指示を出しますので、必ず行ってください。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%＋平常点30%
*平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 前期授業ガイダンス＋挨拶表現(英会話)
2. Unit1(内容理解)
3. Unit1(練習問題)
4. Unit2(内容理解)
5. Unit2(練習問題)
6. Unit3(内容理解)
7. Unit3(練習問題)
8. Unit4(内容理解)
9. Unit4(練習問題)
10. Unit5(内容理解)
11. Unit5(練習問題)
12. Unit6(内容理解)
13. Unit6(練習問題)
14. Unit7(内容理解)
15. Unit7(練習問題)
16. 定期試験

使用教科書名

FLY to the US!(松柏社、2014) ¥1900(税抜)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。外国語を勉強するときには、その背景となる文化について知ることも大切です。時には音楽や映像を交えながら、英語圏の文化についてもふれていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

この講座では、TOEICのジュニア版TOEIC Bridgeの練習問題を解きながら、日常英会話を習得することを目標とし、合わせてTOEICへの取り組み方をも学びます。また、アメリカの現代文化への知識を深めます。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
 - 2 第8課＋アメリカの現代文化①
 - 3 第9課＋アメリカの現代文化②
 - 4 第10課＋アメリカの現代文化③
 - 5 第11課＋アメリカの現代文化④
 - 6 第11課＋中間試験前のまとめ
 - 7 中間試験＋映画「ブラダを着た悪魔」
 - 8 「ブラダを着た悪魔」と欧米ファッション史
 - 9 「ブラダを着た悪魔」の英会話①
 - 10 「ブラダを着た悪魔」の英会話②
 - 11 第12課＋クリスマスについて
 - 12 第12課＋アメリカの現代文化⑤
 - 13 第13課＋アメリカの現代文化⑥
 - 14 第13課＋アメリカの現代文化⑦＋バレンタインデーについて
 - 15 第14課＋定期試験前のまとめ
 - 16 定期試験
- * 予定は進行状況によって変更になる可能性があります。

準備学習

- ①わからない単語は調べて予習してきてください。
- ②普段の授業が大事です。きちんと出席して授業に積極的に参加してください。
- ③授業中にひんばんに重要表現などを指摘するので必ずマーカーや赤ペンを持ってきてください。

評価方法その他

評価は、平常点30%、中間試験30%、定期試験40%により行います。平常点は、授業への参加状況(受講態度、提出物などを含む)で総合的に判断します。

使用教科書名

TOEIC Bridge:First Steps to Success
「TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎」
和田ゆり、他、著
南雲堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

中学・高校で培った英語力をブラッシュアップし、一つ一つのニュースで扱われているテーマについても理解を深めることが出来るように授業を進めます。今日のトピックスについて英語で話ができるよう、語彙を増やし表現力を磨きます。

学習目標・到達目標

英語ニュースを聞き取る力をつけ、英語の様々な表現を身につけることを目標にします。前期からの続きですが、単元は独立しているので、後期からの受講も可能です(但し、クラスの人数次第です)。

準備学習

中学入学以来6年間学んできた英語ですから、実際に使えるようにしたいものですね。この授業をきっかけに、チャレンジしてみてください。

評価方法その他

期末試験60%と平常点40% (出席重視、小テストや課題の提出等を含む)とし、総合的に評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. Unit 10: Helping Children See with Used Glasses ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
2. Unit 10: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
3. Unit 10の復習/Unit 12: Working in the Fashion World ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
4. Unit 12: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
5. Unit 12の復習/Unit 7: Halloween: Frighteningly Good Business ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
6. Unit 7: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
7. Unit 7の復習/Unit 14: Ban on Trans Fats ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
8. Unit 14: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
9. Unit 14の復習/Unit 9: Cleaning the World's Tallest Building ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
10. Unit 9: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
11. Unit 9の復習/Unit 13: Flying Car ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
12. Unit 13: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
13. Unit 13の復習/Unit 15: Raising the Minimum Wage ニュースを見ながら聞き取り練習をします。
14. Unit 15: ニュースの内容をチェックし、ニュースに出てくる英語を使って表現します。
15. Unit 15の復習/総復習
16. 期末試験

使用教科書名

CNN Student News (3)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業では、シャドーイングを利用して、英語の発音と発話のスキルトレーニングを行う。教科書付録のCDを使って自宅では必ず口慣らしをしておくこと。

学習目標・到達目標

シャドーイングのテクニックを利用して、英語コミュニケーションに必要な「聴解力」の基礎を身につけると同時に、英語を話すことにも慣れることを目指す。

準備学習

出席は初回からカウントします。教科書を購入して出席して下さい。授業中は恥ずかしがらずに積極的に声を出すことを心がけて下さい。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 前期期末試験の返却と解説、シャドーイングの基礎1(単語)復習
2. シャドーイングの基礎2(単語、文)復習
3. シャドーイングの基礎3(文)復習
4. Unit 9: Heavy Texting--A New Social Problem
5. Unit 10: Stadium Goes Green
6. Unit 11: With Shoes or Not with Shoes, That Is the Question!
7. 基礎編+Unit 9~11復習
8. 中間試験
9. Unit 12: ThinkB4Uclick!
10. Unit 13: Walmart and First Lady Team Up to Fight Childhood Obesity
11. Unit 14: Hey, Get Out of My Way!--Sidewalk Rage Syndrome
12. Unit 15: The Effect of Genes on Friendship
13. 付録 This Is the House That Jack Built 1
14. 付録 This Is the House That Jack Built 2
15. 後期の復習
16. 試験

使用教科書名

Nobuyuki Kimai, Steve Urick (2012)『Shadowing Starter 聞ける、話せる シャドーイング入門』マクミランランゲージハウス

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「読み・書き・聴き・話す」の4技能の向上を目指すと共に、自分のことについて英語で表現できるよう練習を行っていきます。

学習目標・到達目標

英語のリスニングとスピーキングの練習を行いながら、英語で情報を発信する能力の向上を図ります。

準備学習

授業で習ったことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。（平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 前期のまとめと復習
- 2 Unit 4 Shopping Habits 3
- 3 Shopping Habits 4~8
- 4 Unit 5 My Favorite Country 1~2
- 5 My Favorite Country 3
- 6 My Favorite Country 4~8
- 7 Unit 6 On Campus 1~2
- 8 On Campus 3
- 9 On Campus 4~8
- 10 Unit 7 My Favorite Dish 1~2
- 11 My Favorite Dish 3
- 12 My Favorite Dish 4~8
- 13 Unit 8 My First Foreign Language 1~2
- 14 My First Foreign Language 3
- 15 My First Foreign Language 4~8
- 16 定期試験

使用教科書名

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂 / 2006年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

質問に対して、英単語一語で返すだけの会話ではなく、自然な英文での会話を目指します。皆さんは今、語学留学中です。機内や留学先の学校で、どのような会話が必要となるでしょうか。様々な場面での会話を身に着け、自分のものにしていきましょう。

学習目標・到達目標

繰り返しのリスニングと対話練習を通して、「聞く力」と「話す力」の向上を目指します。また、異文化（イギリス）についての知識を深めます。

準備学習

予習・復習については、授業時に指示を出しますので、必ず行ってください。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%＋平常点30%
*平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 後期授業ガイダンス＋Unit8(内容理解)
2. Unit8(練習問題)
3. Unit9(内容理解)
4. Unit9(練習問題)
5. Unit10(内容理解)
6. Unit10(練習問題)
7. Unit11(内容理解)
8. Unit11(練習問題)
9. Unit12(内容理解)
10. Unit12(練習問題)
11. Unit13(内容理解)
12. Unit13(練習問題)
13. Unit14(内容理解)
14. Unit14(練習問題)
15. 総まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

FLY to the US!(松柏社、2014) ¥1,900(税抜)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教科書に従い、英作文を行いながら英文法を学んで行く。この教科書のよいところは、英作文問題が、学習者が文法事項を飲み込みやすく、かつ日常生活に直結した内容で実際にすぐ使えるものばかりであることである。英文法を煙たくしていた決まり切った例文が姿を消しているのである。英語嫌いの方にはぜひ履修しておいてほしい。

履修条件は特になし。普通の授業をよくこなして行くこと。授業3回に1回のペースで小テストをおこなう。小テストは教科書の指定された箇所の暗記が中心となる。計5回の小テストの合計点と定期試験の得点を足して成績を決める。小テストを受けられなかった場合は本人の申し出により随時追テストを行う。申し出が無ければ0点として加算する。

学習目標・到達目標

英文法の基礎を、現実生活で英語を使用していく観点から学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. 「～があります、います」「ここは～です」
2. 「学校で、家で、東京で」「～に行きます、来ます」
3. 「～時に、～日に」「～から」
4. 「～まで、までに、～だったら」
5. 「～の間」「～かかります」
6. 「一週間に～回」
7. 「～します」
8. 「～しています」
9. 「～しました」
10. 「～したことがあります」
11. 「(他人が)～するのを見る」
12. 「(他人に)～させる、してもらう」
13. 「(他人に)～させてあげる」
14. 「(他人に)～される」
15. まとめ
16. 定期試験

準備学習

平易で論理的な説明を心がけます。興味を持って授業に参加されることを期待します。

評価方法その他

小テスト50%、定期試験50%

使用教科書名

Useful Hints and Examples on Basic English Writing (松柏社、2011)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教科書に従い、英作文を行いながら英文法を学んで行く。この教科書のよいところは、英作文問題が、学習者が文法事項を飲み込みやすく、かつ日常生活に直結した内容で実際にすぐ使えるものばかりであることである。英文法を煙たくしていた決まり切った例文が姿を消しているのである。英語嫌いの方にはぜひ履修しておいてほしい。

履修条件は特になし。普通の授業をよくこなして行くこと。授業3回に1回のペースで小テストをおこなう。小テストは教科書の指定された箇所の暗記が中心となる。計5回の小テストの合計点と定期試験の得点を足して成績を決める。小テストを受けられなかった場合は本人の申し出により随時追テストを行う。申し出が無ければ0点として加算する。

学習目標・到達目標

英文法の基礎を、現実生活で英語を使用していく観点から学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. 「昨日会った女の子」
2. 「パーティーに来た男の子」
3. 「ご主人がフランス人の女性」
4. 「米から作られるアルコール飲料」
5. 「あそこで踊っているおばあさん」
6. 「帰る時間」「魚が焦げるにおい」
7. 「一番好きな食べ物」
8. 「目が覚めたら」「明日雨が降ったら」
9. 「一億円当たったら」
10. 「～だったらいい」
11. 「～と思う」「～と思った」
12. 「どう思う？」
13. 「思ったより」
14. 「これ」「それ」「あれ」
15. 「する」のいろいろ
16. 定期試験

準備学習

平易で論理的な説明を心がけます。興味を持って授業に参加されることを期待します。

評価方法その他

小テスト50%、定期試験50%

使用教科書名

Useful Hints and Examples on Basic English Writing (松柏社、2011)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

This course provides students practice in English conversational patterns of speaking and listening. Students will be provided with speaking models and practical time to speak with classmates.

学習目標・到達目標

The content of this course moves from simple introductions to more complex conversational models. Students in the process of taking this course should begin to feel that English conversation is both useful and fun.

準備学習

Students should prepare for this course by reviewing basic conversational patterns. Students should also prepare by reviewing basic English vocabulary. Please attend class with a willingness to speak English, and with a willingness to engage others in English conversation. Please bring an English-Japanese dictionary to class.

評価方法その他

Evaluation will be determined by attendance and attitude (40%) and by a final interview conversation with a partner. This final interview will show how comfortable students have become using everyday English patterns.

週 テーマ・授業目標等

Week 1: Are you happy?
 Week 2: Are you going to watch TV this evening?
 Week 3: Are you looking forward to the Golden Week holidays?
 Week 4: How was your Golden Week?
 Week 5: Do you like movies?
 Week 6: Did you watch TV last night?
 Week 7: Do you like spaghetti?
 Week 8: Did you use the internet yesterday?
 Week 9: Have you ever been to Hakone?
 Week 10: Have you ever gone shopping in Shibuya?
 Week 11: Do you know the Hiratsuka Star Festival?
 Week 12: Do you know Mos Burger?
 Week 13: Do you like the rainy season?
 Week 14: Are you looking forward to the rainy season?
 Week 15: Final interview with a partner

使用教科書名

Say What You Like 1 by Matt Takahashi, Hot Cocoa Press

授業科目概要・教育目的（履修条件）

This course provides students practice in English conversational patterns of speaking and listening. Students will be provided with speaking models and practical time to speak with classmates.

学習目標・到達目標

The content of this course moves from simple introductions to more complex conversational models. Students in the process of taking this course should begin to feel that English conversation is both useful and fun.

準備学習

Students should prepare for this course by reviewing basic conversational patterns. Students should also prepare by reviewing basic English vocabulary. Please attend class with a willingness to speak English, and with a willingness to engage others in English conversation. Please bring an English-Japanese dictionary to class.

評価方法その他

Evaluation will be determined by attendance and attitude (40%) and by a final interview conversation with a partner. This final interview will show how comfortable students have become using everyday English patterns.

週 テーマ・授業目標等

Week 1: How was your summer?
 Week 2: Do you sometimes buy junk food late at night?
 Week 3: Do you like autumn?
 Week 4: Did you come to the school festival last year?
 Week 5: What did you do last weekend?
 Week 6: Do you sometimes eat out with friends?
 Week 7: Do you want to make a lot of friends?
 Week 8: Do you like planning?
 Week 9: Is this class tough?
 Week 10: How was November?
 Week 11: Did you have an end-of-the-year-party last year?
 Week 12: Are you looking forward to the New Year break?
 Week 13: How was your New Year break?
 Week 14: Are you worried about your tests?
 Week 15: Final interview with a partner

使用教科書名

Say What You Like 2 by Matt Takahashi, Hot Cocoa Press

授業科目概要・教育目的（履修条件）

まずは日常的なコミュニケーションができるレベルを目標に据えて勉強していきましょう。ただ、TOEICには日本の高校まで学校英語では対応できないような問題も出されます。授業では、そのための勉強法も伝授します。

学習目標・到達目標

この授業は、初めてTOEIC受検対策に臨む学生を対象とし、高校までの英語を復習しながら、TOEIC試験への取り組み方を学び、解答のコツや戦略を身に着けます。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 Unit 1 Eating
- 3 Unit 2 Leisure
- 4 Unit 3 Sports
- 5 Unit 4 Shopping
- 6 Unit 5 Campus Life
- 7 Unit 6 Travel
- 8 中間試験
- 9 Unit 7 Health
- 10 Unit 8 Work
- 11 Unit 9 Weather
- 12 Unit 10 Cooking
- 13 Unit 11 Parties
- 14 Unit 12 Movies (1)
- 15 Unit 12 Movies (2)
- 16 定期試験

*進行状況によって、予定は変更となる可能性があります。

準備学習

- 1) 必ず予習をして参加してください。
- 2) 授業中に、ひんばんに重要表現を指摘するので、赤ペンなどを持ってきてください。

評価方法その他

評価は、平常点30%、中間試験30%、定期試験40%により行います。
平常点は、授業への参加状況(受講態度、提出物などを含み)で総合的に判断します。出席状況を重視します。

使用教科書名

TOEICテストはじめの一步
安浪誠祐、他、著
朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、TOEICの問題集を教材として実践的な訓練を行い、試験で得点を伸ばすと同時に社会のニーズに応えられるような英語運用能力を養成します。
中学・高校で学んできた英語を確実に定着させつつ、新たな発見(+α)で、個々の能力を伸ばすこと目指します。

学習目標・到達目標

TOEICのリスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、各自のレベルアップを目指していきます。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス(成績評価、テキスト、授業の進め方、その他)
2. Unit1(文法解説および練習問題)
3. Unit2(文法解説および練習問題)
4. Unit3(文法解説および練習問題)
5. Unit4(文法解説および練習問題)
6. Unit5(文法解説および練習問題)
7. Unit6(文法解説および練習問題)
8. Unit7(文法解説および練習問題)
9. Unit8(文法解説および練習問題)
10. Unit9(文法解説および練習問題)
11. Unit10(文法解説および練習問題)
12. 中間試験、その他
13. Unit11(文法解説および練習問題)
14. Unit12(文法解説および練習問題)
15. 総復習
16. 定期試験

準備学習

予習・復習については、授業時に指示を出しますので、必ず行ってください。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%+平常点30%
*平常点・・・授業への参加状況や積極性など

使用教科書名

Welcome to the TOEIC Test(朝日出版社、2014) ¥1,800(税抜)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れること、挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことが出来ることを目指しましょう。

準備学習

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。座席は指定するつもりです。「準備学習(学習・復習等)」については復習の方を徹底してほしいと考えます。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、付属CDに合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

評価方法その他

評価の基準は、期末試験の結果が80%に平常点が20%です。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。(私語、携帯電話やスマートフォン弄りといった他の受講生の勉強意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非是非、公正に評価します)

週 テーマ・授業目標等

☆フランス語に限らず、外国語の学習とは、要するに、文法構造と意味を理解した上で、できるだけ多くの外国語表現を身体に染み込ませて蓄積していくことに他ならないと思っています。そのために、自宅での学習(復習)としては、付属CDも利用しつつ、教科書に出てきた日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ「準備学習」の項、参照)。少なくとも課が終わるたびに小テストをします。

1. 授業への導入、方向付け
2. 第0課 アルファベと綴り字の読み方
3. 第1課 「はじめまして！」
4. 第1課 主語人称代名詞、国籍を表す形容詞
5. 第1課 動詞êtreの直説法現在の活用、基本的な挨拶表現
6. 第2課 「それは何ですか？」
7. 第2課 名詞と不定冠詞、指示代名詞ce
8. 第2課 形容詞の性・数の一致、色の語彙、c'est + 形容詞
9. 第3課 「エスカルゴは好きですか？」
10. 第3課 第一群規則動詞(-er動詞)の直説法現在
11. 第3課 定冠詞、疑問文、日常よく使われる第一群規則動詞(-er動詞)
12. 第4課 「お腹がすいた！」
13. 第4課 動詞avoirの直説法現在の活用、形容詞の位置
14. 第4課 否定文、人称代名詞の強勢形、avoirを使った慣用表現
15. 前期の総復習
16. 前期定期試験

使用教科書名

『タルト・タタン(CD付)』藤田裕二／東海麻衣子 共著 駿河台出版社 定価(本体2300円+税)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

フランス語会話(入門)の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話し、協力的であれば簡単なやり取りすることができるようになります。会話の授業です。

学習目標・到達目標

フランスで旅行するときやまたフランス人出会うときに役立つ会話を学びながら、フランス人の生活ぶりをのぞき、フランスに親しみを持てるようになります。

準備学習

短い会話覚える。
かならず教科書忘れないようにする。

評価方法その他

授業態度・小テスト・ファイナルテストを総合的に評価します。
授業態度: 25%
小テスト: 25%
ファイナルテスト: 50%

週 テーマ・授業目標等

- 1- 2 Faire connaissance - saluer
知り合いになる一挨拶する
- 4 Epeler - compter
名前の綴り0-55の数
- 5- 6 se présenter
自己紹介
- 7- 8 demander le prix - la date
値段を尋ねる一日付
- 9- 10 les goûts - les différences
好み
- 11- 12 Mon passe-temps
趣味
- 13- まとめ
- 14- révisions
復習
- 15- test
テスト

使用教科書名

“Patachou 1 - Conversation”
(Marie-Emmanuelle Muramatsu 著)
朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期と同様です。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

前期と同じく、フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れること、挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができることを目指しましょう。

準備学習

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。座席は指定するつもりです。「準備学習(学習・復習等)」については復習の方を徹底してほしいと考えます。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、付属CDに合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

評価方法その他

評価の基準は、期末試験の結果が80%に平常点が20%です。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。(私語、携帯電話やスマートフォン弄りといった他の受講生の勉強意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非是非、公正に評価します)

週 テーマ・授業目標等

☆フランス語に限らず、外国語の学習とは、要するに、文法構造と意味を理解した上で、できるだけ多くの外国語表現を身体に染み込ませて蓄積していくことに他ならないと思っています。そのために、自宅での学習(復習)としては、付属CDも利用しつつ、教科書に出てきた日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ「準備学習」の項、参照)。少なくとも課が終わるたびに小テストをします。

1. 授業への導入、方向付け
2. 前期の復習
3. 第5課 「《平鯛のプロヴァンス風》を作ります」
4. 第5課 動詞allerと近接未来、指示形容詞
5. 第5課 動詞faireの直説法現在の活用、食事をするときのいろいろな表現
6. 第6課 「おすすめは何ですか？」
7. 第6課 所有形容詞、疑問形容詞
8. 第6課 動詞pouvoirの直説法現在の活用、数(1～30)
9. 第7課 「それは誰ですか？」
10. 第7課 疑問代名詞qui, que, il y a ～
11. 第7課 定冠詞の縮約、疑問副詞
12. 第8課 「冷たいものが欲しい」
13. 第8課 動詞vouloirとprendreの直説法現在の活用
14. 第8課 部分冠詞、女性形容詞の特殊な形、数量の表現
15. 後期の総復習
16. 後期定期試験

使用教科書名

『タルト・タン(CD付)』藤田裕二／東海麻衣子 共著 駿河台出版社 定価(本体2300円＋税) 前期の入門1で使用した同じ教科書を継続して使用します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

フランス語会話(入門)の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話し、協力的であれば簡単なやり取りすることができるようになります。会話の授業です。

学習目標・到達目標

フランスで旅行するときやまたフランス人出会うときに役立つ会話を学びながら、フランス人の生活ぶりをのぞき、フランスに親しみを持てるようになります。

準備学習

短い会話覚える。
かならず教科書忘れないようにする。

評価方法その他

授業態度・小テスト・ファイナルテストを総合的に評価します。
授業態度: 25%
小テスト: 25%
ファイナルテスト: 50%

週 テーマ・授業目標等

- 1- 2 présenter quelqu'un
人を紹介する
- 3- 4 le physique - le caractère
人の特徴一性格
- 5- 6 la possession
持ち物
- 7- 8 les objets - les vêtements - les couleurs
物一洋服一色
- 9-10 demander l'âge
年齢をたずねる
- 11- 12 parler de sa famille
家族
- 13 まとめ
- 14 révisions
復習
- 15 test
テスト

使用教科書名

“Patachou 1 - Conversation”
(Marie-Emmanuelle Muramatsu 著)
朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみたいかでしょうか。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

入門程度の知識をさらに確実にし、使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やすことを目指します。

準備学習

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。「準備学習(学習・復習等)」については復習の方を徹底してほしいと考えます。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、付属CDに合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

評価方法その他

評価の基準は、割合で示すならば、期末試験の結果が80%に平常点が20%です。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。詳しくは初回の授業で話します。

週 テーマ・授業目標等

☆前期集中講義(授業)です。以下の進行予定表にある「週」は、「時限」と読み替えてください。以下、その回の授業で学ぶ文の一例をあげておきます。こうした文を作るのに必要な文法と一緒に学んでいきます。これはあくまでもシラバス入稿時点で考える進捗目安であって、授業は皆さんの理解度に応じて柔軟にスピードあるいは内容を変えて進めます。確実に力を付けること、確実に使える表現を増やすことこそが大事です。

- 第1週 授業への導入、方向付け
- 第2週 「私は名前を〜といひます。／日本人です」
- 第3週 「あなたはフランスのかたですか？」
- 第4週 「これは何ですか？／ほらあそこに教会があります」
- 第5週 「兄弟姉妹はいますか？／私は21歳です」
- 第6週 「フランスの歌はお好きですか？」
- 第7週 「きみはワインを買うの？ーいや、買わないよ」
- 第8週 「私はテレビを見たい。／ワインはいかがですか？」
- 第9週 「どんな花がお好きですか？」
- 第10週 「このホテルは快適です／これはきれいな花です」
- 第11週 「ルーブル美術館へ行きます。／どこから来ましたか？」
- 第12週 「大学へはどうやって来ますか？／なぜフランス語を学びますか？」
- 第13週 「今何時ですか？ー4時15分前です」
- 第14週 「いつフランスにもどりますか／おいくらですか？」
- 第15週 前期の総復習
- 第16週 前期定期試験

使用教科書名

特に指定しません。受講する皆さんの希望に沿った教材プリント等をこちらで用意します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期と同じく、フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみたいかでしょうか。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

前期と同じく、入門程度の知識をさらに確実にし、使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やすことを目指します。

準備学習

皆さんと共に楽しい授業にしたいです。「準備学習(学習・復習等)」については復習の方を徹底してほしいと考えます。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、付属CDに合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

評価方法その他

評価の基準は、割合で示すならば、期末試験の結果が80%に平常点が20%です。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。詳しくは初回の授業で話します。

週 テーマ・授業目標等

☆後期集中講義(授業)です。以下の進行予定表にある「週」は、「時限」と読み替えてください。以下、その回の授業で学ぶ主な文法事項をあげておきます。これはあくまでもシラバス入稿時点で考える進捗目安であって、授業は皆さんの理解度に応じて柔軟にスピードあるいは内容を変えて進めます。確実に力を付けること、確実に使える表現を増やすことこそが大事です。

- 第1週 授業への導入、方向付け
- 第2週 前期の復習1 重要な動詞の活用、
- 第3週 前期の復習2 否定文、疑問文、応答文、命令文
- 第4週 前期の復習3 形容詞と副詞、
- 第5週 複合過去形1 助動詞être
- 第6週 複合過去形2 助動詞avoir
- 第7週 代名詞の広がり1 直接目的語を人称代名詞に
- 第8週 代名詞の広がり2 間接目的語を人称代名詞に
- 第9週 代名詞の広がり3 強勢形代名詞、代名動詞
- 第10週 代名詞の広がり4 中性代名詞
- 第11週 表現の幅を広げよう1 もうひとつの過去時制
- 第12週 表現の幅を広げよう2 天候や時間を言う(非人称表現)
- 第13週 表現の幅を広げよう3 関係代名詞を使う
- 第14週 表現の幅を広げよう4 意思を伝える
- 第15週 後期の総復習
- 第16週 後期定期試験

使用教科書名

特に指定しません。皆さんの意向を聞いたうえで私の方で教材を用意します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

外国語を習得するためには、言葉を介しその国に親しみを持つことが大切である。そこでこのドイツ語入門の授業は、身近な事柄を通し、ドイツ語を聞き、話し、書きながら、ドイツ語に親しむことを目指す。日常的な挨拶や会話文を中心にしながら、楽しくドイツ語を学ぶ。一日も早くドイツ語に慣れ、ドイツ人の日常生活や文化の一端に触れることにより、ドイツが身近な国になることを希望します。

学習目標・到達目標

日常的な挨拶や簡単な会話が交わせるようになり、ドイツ語を通して、ドイツの文化に理解をもつことを目標とする。

準備学習

ドイツに関わることを調べ、ドイツに対する興味・関心をもつて、授業に臨んでください。

評価方法その他

筆記試験（70%）、平常点（30%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

第1週	ドイツ語を学ぶにあたって
第2週	Lektion 1 Guten Tag!
第3週	－正確な発音で簡単な挨拶－
第4週	Lektion 2 Ich heie Taro Mori
第5週	－自己紹介・日常の挨拶－
第6週	Lektion 3 Wer und Was?
第7週	－人の紹介・物の名前－
第8週	Lektion 4
第9週	Wohin frst du denn?
第10週	－日常行為・イエスとノー－
第11週	Lektion 5
第12週	Ich mohte etwas essen
第13週	－願望・持ち主－
第14週	復習
第15週	復習

使用教科書名

西村祐子・R.Petrick著『行ってらっしゃい！』朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

外国語を習得するためには、言葉を介しその国に親しみを持つことが大切である。そこでこのドイツ語入門の授業は、身近な事柄を通し、ドイツ語を聞き、話し、書きながら、ドイツ語に親しむことを目指す。日常的な挨拶や会話文を中心にしながら、楽しくドイツ語を学ぶ。一日も早くドイツ語に慣れ、ドイツ人の日常生活や文化の一端に触れることにより、ドイツが身近な国になることを希望します。

学習目標・到達目標

日常的な挨拶や簡単な会話が交わせるようになり、ドイツ語を通して、ドイツの文化に理解をもつことを目標とする。

準備学習

ドイツ語入門は1. 2で完結しますので、前期に学んだことを復習しておいてください。

評価方法その他

筆記試験（70%）、平常点（30%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

第1週	Lektion 6 Mit wem und wohin?
第2週	－誰と・どこへ・いつ・交通手段－
第3週	Lektion 7 Kann ich Ihnen helfen?
第4週	－天気・身体の不調・買い物－
第5週	Lektion 8
第6週	Ich freue mich auf das Spiel
第7週	－予定・期待・電話・手紙・日付け－
第8週	Lektion 9
第9週	Waren Sie schon in Deutschland?
第10週	－過去の表現－
第11週	Lektion 10
第12週	Deutschland anders erleben
第13週	－日本人女学生の体験を読む－
第14週	復習
第15週	復習

使用教科書名

西村祐子・R.Petrick著『行ってらっしゃい！』朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ドイツはヨーロッパにおける経済と文化の中心国の1つである。ドイツ語を習得し、その文化を知ることが、国際化時代における社会的活動にとっても、重要なことである。ドイツ語は英語と同じゲルマン語系の言語である。文法も英語と似ている点が多く、単語も原則、ローマ字風に読んでいけばよい。ドイツ語を読んだり、テープを聴いたりして、生きたドイツ語をわかりやすく、楽しく学ぶ。折に触れ、生活社会、文化等についても話を交える。

学習目標・到達目標

簡単なドイツ語を読み、理解し、ドイツという国に親しみを持つことを目標とする。

準備学習

ドイツにかかわる知識をより多く獲得しておいてください。

評価方法その他

筆記試験(70%)、平常点(30%)、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

第1週	ドイツ語を学ぶにあたって
第2週	ドイツ語の発音練習
第3週	Lektion 1 Wir lernen Deutsch
第4週	現在人称変化
第5週	Lektion 2 Das Frühstück
第6週	名詞の性/格・冠詞の変化/名詞の複数形
第7週	Lektion 3 Arbeitszeiten
第8週	定冠詞類/不定冠詞類/人称代名詞
第9週	Lektion 4 Deutschland-Land der Walder
第10週	前置詞と定冠詞の融合形/命令形
第11週	Lektion 5 Der Lindenbaum
第12週	形容詞の格語尾変化
第13週	Lektion 6 Ordnungsliebe
第14週	形容詞の比較級/形容詞の名詞化/数詞
第15週	復習

使用教科書名

小塩節著『希望のドイツ語』朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ドイツはヨーロッパにおける経済と文化の中心国の1つである。ドイツ語を習得し、その文化を知ることが、国際化時代における社会的活動にとっても、重要なことである。ドイツ語は英語と同じゲルマン語系の言語である。文法も英語と似ている点が多く、単語も原則、ローマ字風に読んでいけばよい。ドイツ語を読んだり、テープを聴いたりして、生きたドイツ語をわかりやすく、楽しく学ぶ。折に触れ、生活社会、文化等についても話を交える。

学習目標・到達目標

簡単なドイツ語を読み、理解し、ドイツという国に親しみを持つことを目標とする。

準備学習

ドイツ語初級1. 2は連続していますので、ドイツ語初級1を復習しておいてください。

評価方法その他

筆記試験(70%)、平常点(30%)、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

第1週	Lektion 7 Beim Kerzenschein
第2週	再帰代名詞/再帰動詞/非人称のes/zu不定詞
第3週	Lektion 8 Thomas Mann
第4週	過去人称変化/動詞の3基本形
第5週	Lektion 9 Die eigene Meinung
第6週	分離動詞/非分離動詞/分離・非分離動詞/副文
第7週	Lektion 10 Deutsches Handwerk
第8週	話法の助動詞/未来の助動詞 werden/zu不定詞/
第9週	Lektion 11 Der Weihnachtsbaum
第10週	完了形 sein支配
第11週	現在完了と過去 話法の助動詞の完了形
第12週	Lektion 12 Das Wiener Cafe
第13週	定関係代名詞der/関係代名詞の特徴
第14週	疑問代名詞/定関係代名詞
第15週	復習

使用教科書名

小塩節著『希望のドイツ語』朝日出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。

履修条件: 初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標・到達目標

現代中国語を初めて学習するにあたって、最も基礎的な発音(声調・母音・子音)の学習から始めて、基礎的な文法を教える。

準備学習

週1回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業前の予習・授業後の復習を必ず行うこと。なお授業の進行具合が物足りないと思う学生は、先に進んでもらってかまわない。不明な点があれば積極的に教師に質問すること。

評価方法その他

平常点30%、定期試験の得点70%

平常点は、普段の授業にきちんと出席する、教科書の読みの練習をしっかりと行っている、また、私語などの授業に不適切な行為をしていなかったか、等から判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 中国語の特徴・中国語学習上の留意点についての説明
2. 四声と軽声/母音
3. 子音/鼻母音
4. 声調変化/発音についてのまとめ
5. 数字/時刻と日付
6. 時を表す言葉/ものの数え方
7. 「～します」
8. 「～は…(名詞)です」/「～は…(形容詞)です」
9. 「～しました」/「～したことがあります」
10. 「～しています」/「～するつもりです」
11. 「～を持っています」/「～は…にあります」
12. 「何が～ですか」/「～はどこですか」/「いつ～しますか」
13. 「～したいです」/「～できます」
14. 「～していいです」/「～しなければなりません」
15. 前期授業の復習
16. 定期試験

※上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。

使用教科書名

『25日のできる!ゼロからカンタン中国語会話 ロシ先生の講義音声つき』旺文社、2012.9

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目的とする。

繰り返しのヒアリングと音読を通して、基礎レベルの語彙と文法、表現を習得する。テキストの内容に合わせて適宜中国文化事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標・到達目標

漢字を知っていることは中国語学習に有利な反面、落とし穴でもある。本授業は、中国語を単なる「目でみる」漢字のみではなく、「耳」と「口」を使ってしっかり覚えていくことを目的とする。初めて学ぶ段階において、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを教育目標とする。

準備学習

毎回、前回習った単語と基本表現の定着度確認を行うので復習が必須である。積極的に授業に参加する方を歓迎する。

教員の解説以外は、学生全員が発話の主役になるように中国語を楽しんでください。

評価方法その他

平常点10%、授業での小テスト30%、総合テスト60%

(平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1、第1週 中国語と学習法
- 2、第2週 発音篇(その1)単母音
- 3、第3週 発音篇(その2)子音
- 4、第4週 発音篇(その3)複母音
- 5、第5週 発音篇(その4)鼻母音、
- 6、第6週 発音篇(その5)挨拶用語、名前のたずね方
- 7、第7週 発音篇(その6) 数字、日中漢字比較
- 8、第8週 発音篇 総復習
- 9、第9週 人称代名詞 私、あなた、彼、彼女
- 10、第10週 指示詞(1)これ、それ、あれ、どれ
- 11、第11週 指示詞(2)この、その、あの、どの
- 12、第12週 名詞述語文、形容詞述語文
- 13、第13週 時刻、時間、曜日の表し方
- 14、第14週 存在の表現
- 15、第15週 総復習・定着度の確認

使用教科書名

『最新2訂版 中国語はじめの一步』、白水社、2012年3月発行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

後期では、前期で身につけた入門知識を確認しながら授業を進める。具体的には、前期で教えた基礎的文法に基づき、基本的な会話を教える。
履修条件：前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標・到達目標

前期で学んだ基礎的な文法内容に続き、基本的な日常会話の方法を身につけるようにする。

準備学習

週1回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業前の予習・授業後の復習を必ず行うこと。なお授業の進行具合が物足りないと思う学生は、先に進んでもらってもかまわない。不明な点があれば積極的に教師に質問すること。

評価方法その他

平常点30%、学期末試験70%
平常点は、普段の授業にきちんと出席する、教科書の読みの練習をしっかりと行っている、また、私語などの授業に不適切な行為をしていなかったか、等から判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 前期の復習
 2. 「～がほしいです」／「～が好きです」
 3. 「～して…します」／「少し～」／「～はいくらですか」
 4. 「～から…まで」(介詞)／「～になりました」
 5. 基礎会話1「～さんですか」／「どのくらいかかりますか」
 6. 基礎会話2「～はいらっしゃいますか」／「いえ、それほどでもありません」
 7. 基礎会話3「予約した～です」／「～と申します」
 8. 基礎会話4「明日、観光したいのですが」／「いつ納品できますか」
 9. 会話の復習1
 10. 基礎会話5「席は空いていますか」／「上海料理が好きです」
 11. 基礎会話6「写真を撮ってもらえますか」／「高すぎます。まけてください」
 12. 基礎会話7「こちらでお召し上がりですか」／「財布を見ていませんか」
 13. 基礎会話8「具合が悪そうですが」／「これは私のメールアドレスです」
 14. 会話の復習2
 15. 一年間の復習
 16. 定期試験
- ※上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。

使用教科書名

『25日のできる！ゼロからカンタン中国語会話 ロシ先生の講義音声つき』旺文社、2012.9

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期に身につけた入門知識を確認しながら授業を進んでいく。後期には、繰り返しのヒアリングと音読を通して、発音、初級文法、基礎レベルの会話を身につくように目指す。テキストの内容に合わせて適宜現代中国文化・経済事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標・到達目標

漢字を知っていることは中国語学習に有利な反面、落とし穴でもある。本授業は、中国語を単なる「目でみる」漢字のみではなく、「耳」と「口」を使ってしっかり覚えていくことを目的とする。初めて学ぶ段階において、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを教育目標とする。

準備学習

毎回、前回習った単語と基本表現の定着度確認を行うので復習が必須である。積極的に授業に参加する方を歓迎する。
教員の解説以外は、学生全員が発話の主役になるように中国語を楽しんでください。

評価方法その他

平常点10%、授業での小テスト30%、総合テスト60%
(平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1、第1週 前期の復習(その1)
- 2、第2週 前期の復習(その2)
- 3、第3週 場所指示詞、存在の“有”と“在”、
- 4、第4週 所有の表現、人や物の数え方
- 5、第5週 方位詞、二重目的語
- 6、第6週 連動文
- 7、第7週 前置詞(1)在、離
- 8、第8週 前置詞(2)給、従
- 9、第9週 比較の表現
- 10、第10週 助動詞 (1)能、会
- 11、第11週 助動詞 (2)得
- 12、第12週 完了の「了」と変化の「了」
- 13、第13週 経験を現す“過”
- 14、第14週 総まとめ
- 15、第15週 総まとめ・定着度の確認

使用教科書名

『最新2訂版 中国語はじめての一步』、白水社、2012年3月発行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、入門段階または同等レベルを終えた学生を対象とする。初級段階において、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、簡単な文法知識を活かしたリスニング、会話練習も行う。

学習目標・到達目標

初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを学習目標とする。

準備学習

毎回、前回習った単語と基本表現の定着度確認を行うので復習が必須である。
教員の解説以外は、学生全員が発話の主役になるように中国語を楽しんでください。

評価方法その他

平常点10%、授業での小テスト30%、総合テスト60%
(平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1、発音復習 自己紹介 数字の言い方
- 2、発音復習 「…は～です」の表現 人称代名詞
- 3、基礎文型の復習 述語文
- 4、基礎文型の復習 疑問文
- 5、助動詞(2) 可以
- 6、助動詞(3) 要
- 7、連動文
- 8、比較文
- 9、過去・完了
- 10、「是…的」の構文
- 11、動作の進行
- 12、程度補語
- 13、時量補語
- 14、動量補語
- 15、総復習
- 16、テスト

使用教科書名

『新版 中国語つぎへの一步』白水社、2012.3

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期に身についた基礎を更に発展させる。後期には、繰り返かえしのヒアリングと音読を通して、基礎レベルの語彙と文法、表現を習得し、作文と会話も重視する。テキストの内容に合わせて適宜現代中国文化・経済事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標・到達目標

初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを学習目標とする。

準備学習

毎回、前回習った単語と基本表現の定着度確認を行うので復習が必須である。
教員の解説以外は、学生全員が発話の主役になるように中国語を楽しんでください。

評価方法その他

平常点10%、授業での小テスト30%、総合テスト60%
(平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1、前期の復習
- 2、年月日・曜日、時間、時刻、
- 3、存現文
- 4、疑問詞の不定表現
- 5、回数補語
- 6、受身文
- 7、使役文
- 8、「把」の構文
- 9、可能補語
- 10、近接未来
- 11、強調表現
- 12、比較、取り立ての“是～的”
- 13、仮定表現
- 14、副詞の「再」「就」
- 15、総まとめ
- 16、テスト

使用教科書名

『新版 中国語つぎへの一步』白水社、2010.3

授業科目概要・教育目的（履修条件）

韓国語を初めて学習する人を対象に、ハングル文字とその発音の習得から始まり、簡単な文を読めるようになることがこの講義の目標です。

学習目標・到達目標

韓国語の基本的な文字、発音、文法を学び、簡単な文を読めるように勉強します。

週 テーマ・授業目標等

1. ハングル文字の成り立ち 子音と母音
2. 10個の基本母音
3. 19個の基本子音(1)
4. 19個の基本子音(2)
5. 19個の基本子音(3)
6. 11個の複合母音
7. パッチムとその発音
8. 単語の発音- 発音法則:連音化・鼻音化・濃音化
9. 基本文法Ⅰ 「○○は○○です」、「○○は○○ではありません」
10. 基本文法Ⅱ 韓国語の疑問詞、疑問文
11. 基本文法Ⅲ 韓国語の「コ、ソ、ア」
12. 基本文法Ⅳ 韓国語の「ある/ない」の表現
13. 基本文法Ⅴ 韓国語の位置の表現
14. 基本文法Ⅵ 基本的な動詞とその丁寧形
15. 総合復習
16. 定期試験

準備学習

韓国語に関する興味を持ち、授業に参加すること。

評価方法その他

平常点:40%
定期試験:60%
平常点は出席率、授業に参加状況と積極的な態度等で総合的に判断する。

使用教科書名

開講時に指示します

授業科目概要・教育目的（履修条件）

韓国語の用言の活用、否定文、敬語表現、過去形などの重要な文法と表現を勉強します。

学習目標・到達目標

ハングルの読み方と書き方を勉強した方を対象とし、韓国語の重要な文法を表現を勉強し、簡単な日常の会話をできることを目標とします。

週 テーマ・授業目標等

1. 前期の復習
2. 前期の復習
3. 基本構文 数字を使う表現(1)
4. 基本構文 数字を使う表現(1)
5. 基本構文 用言の活用(1)
6. 基本構文 用言の活用(2)
7. 基本構文 用言の活用(3)
8. 基本構文 否定文の作り方(1)
9. 基本構文 否定文の作り方(2)
10. 基本構文 敬語表現(1)
11. 基本構文 敬語表現(2)
12. 基本構文 過去形(1)
13. 基本構文 過去形(2)
14. 総合復習
15. 総合復習
16. 定期試験

準備学習

韓国語の基礎的な知識が必要です。

評価方法その他

平常点:40%
定期試験:60%
平常点は出席率、授業に参加状況と積極的な態度等で総合的に判断する。

使用教科書名

開講時に指示します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

入門クラスに引き続き、基本的な文法知識や語彙を身につけるとともに、様々な場面で使える文章の暗記、作文力をつけることを目標とします。

学習目標・到達目標

言葉を通じて韓国・朝鮮の文化を理解し、日常のコミュニケーションを円滑に行えるような、実務に使えるレベルを目指す。

準備学習

授業では、文字と音、発音に慣れるまでは集中的に反復学習をします。慣れてきたら、なるべく会話を中心に、書きと読みの練習もします。

評価方法その他

平常点:40%
定期試験:60%
平常点は出席率、授業に参加状況と積極的な態度等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 動詞の活用 連体形①
2. 動詞の活用 連体形②
3. 動詞の活用 変則用言①
4. 動詞の活用 変則用言②
5. 動詞の活用 変則用言③
6. 動詞の活用 まとめ
7. 会話・作文① 可能・不可能・希望
8. 会話・作文② 勧誘・指示
9. 会話・作文③ 条件文
10. 会話・作文④ 順接・逆接文
11. 会話・作文⑤ 理由・原因・目的
12. 会話・作文⑥ 予定・推量
13. 会話・作文⑦ 経験・依頼
14. 会話・作文⑧ まとめ
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

開講時に指示します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

語彙力をつけながら、作文・会話表現のレベルアップを目標とします。より実践的な韓国語力をつけるのがこの授業の狙いです。

学習目標・到達目標

多様な状況に応じた韓国語の表現を勉強し、韓国語で会話ができるようにする。
韓国語で手紙やEメールを書くことができるようにする。

準備学習

予習と反復学習を怠らない。単語の重要性に加え、自分の考えを積極的に表現する。そのためには、日常の事柄を韓国語で表現してみたり、考えてみることも有効な方法である。さらに興味のある分野へと考えを広げていけばよい。

評価方法その他

平常点:10%
宿題:10%
小テスト:10%
定期試験:70%
平常点は授業に参加状況と積極的な態度等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 日記をつける①
2. 日記をつける②
3. 日記をつける③
4. 手紙を書く①
5. 手紙を書く②
6. 手紙を書く③
7. 自己紹介をする
8. 電話をする
9. 電話をする
10. 買い物をする
11. 買い物をする
12. ラジオで聞く韓国語
13. ラジオで聞く韓国語
14. ラジオで聞く韓国語
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

開講時に指示します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のタスクを総合的に学ぶことで、単位取得に必要な日本語能力およびスキルを高めていくことを目的としている。アカデミック・ジャパニーズ1と2では異なる題材を用いて、同じプロセスを繰り返すことで能力および技能の向上を目指していく。

学習目標・到達目標

「アカデミック・ジャパニーズ」では、留学生が大学での単位取得に必要な日本語能力および技能を身につけることを目標としている。課題を通して、次のことができるようになることを目指していく。(1)文章の意図を理解する。(2)レポートを作成する。(3)口頭発表をする。

準備学習

アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

評価方法その他

課題・小テスト 20%
レポート 30%
口頭発表 30%
平常点 20%
(平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | | | | |
|----|-----------------------|----|------------|
| 1 | イントロダクション、論理的文章の構成(1) | 2 | 書くということ |
| 3 | 論理的文章の構成(2) | 4 | アイデアの出し方 |
| 5 | 読解(1) | 6 | テーマの決定 |
| 7 | 読解(2) | 8 | アウトラインの構成 |
| 9 | 読解(3) | 10 | アウトラインの修正 |
| 11 | 読解(4) | 12 | レポートの構成(1) |
| 13 | 読解(5) | 14 | レポートの構成(2) |
| 15 | 読解(6) | 16 | レポートの構成(3) |
| 17 | 読解(7) | 18 | レポートの構成(4) |
| 19 | 口頭発表の方法(1) | 20 | 文献収集の方法(1) |
| 21 | 口頭発表の方法(2) | 22 | 文献収集の方法(2) |
| 23 | 口頭発表の方法(3) | 24 | 文献収集の方法(3) |
| 25 | 口頭発表の方法(4) | 26 | レポートの表現(1) |
| 27 | 口頭発表の方法(5) | 28 | レポートの表現(2) |
| 29 | 口頭発表の方法(6) | 30 | レポートの表現(3) |
| 31 | 口頭発表 | 32 | まとめ |

使用教科書名

配付プリントを使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のタスクを総合的に学ぶことで、単位取得に必要な日本語能力およびスキルを高めていくことを目的としている。アカデミック・ジャパニーズ1と2では異なる題材を用いて、同じプロセスを繰り返すことで能力および技能の向上を目指していく。

学習目標・到達目標

「アカデミック・ジャパニーズ」では、留学生が大学での単位取得に必要な日本語能力および技能を身につけることを目標としている。課題を通して、次のことができるようになることを目指していく。(1)文章の意図を理解する。(2)レポートを作成する。(3)口頭発表をする。

準備学習

アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

評価方法その他

課題・小テスト 20%
レポート 30%
口頭発表 30%
平常点 20%
(平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | | | | |
|----|-----------------------|----|------------|
| 1 | イントロダクション、論理的文章の構成(1) | 2 | 書くということ |
| 3 | 論理的文章の構成(2) | 4 | アイデアの出し方 |
| 5 | 読解(1) | 6 | テーマの決定 |
| 7 | 読解(2) | 8 | アウトラインの構成 |
| 9 | 読解(3) | 10 | アウトラインの修正 |
| 11 | 読解(4) | 12 | レポートの構成(1) |
| 13 | 読解(5) | 14 | レポートの構成(2) |
| 15 | 読解(6) | 16 | レポートの構成(3) |
| 17 | 読解(7) | 18 | レポートの構成(4) |
| 19 | 口頭発表の方法(1) | 20 | 文献収集の方法(1) |
| 21 | 口頭発表の方法(2) | 22 | 文献収集の方法(2) |
| 23 | 口頭発表の方法(3) | 24 | 文献収集の方法(3) |
| 25 | 口頭発表の方法(4) | 26 | レポートの表現(1) |
| 27 | 口頭発表の方法(5) | 28 | レポートの表現(2) |
| 29 | 口頭発表の方法(6) | 30 | レポートの表現(3) |
| 31 | 口頭発表 | 32 | まとめ |

使用教科書名

配付プリントを使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

レポートの構成を学び、実際にレポート作成を行う。同時に、レポートに適する文型や表現を学んでいく。

学習目標・到達目標

「アカデミック・ジャパニーズ」では、留学生が大学での単位取得に必要な日本語能力および技能を身につけることを目標としている。この授業では、特にレポート作成のための知識と技能を身につけることを目標としている。

準備学習

アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強すること」になる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。

評価方法その他

課題・小テスト 50%
レポート・口頭発表 30%
平常点 20%
(平常点は、授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション 書くということ
- 2 アイディアを出すために書く
- 3 テーマの決定
- 4 アウトラインの構成
- 5 アウトラインの修正
- 6 レポート・論文の構成(1)
- 7 レポート・論文の構成(2)
- 8 レポート・論文の構成(3)
- 9 レポート・論文の構成(4)
- 10 レポート・論文の表現(5)
- 11 レポート・論文の表現(1)
- 12 レポート・論文の表現(2)
- 13 レポート・論文の表現(3)
- 14 レポート・論文の表現(4)
- 15 レポート・論文の表現(5)

使用教科書名

プリント使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

テーマを設定、アウトライン作成、文献検索をした上で、レポート作成を実施する。また、その過程において、大学生として必要な日本語の表現力を高めていく。

学習目標・到達目標

「アカデミック・ジャパニーズ」では、留学生が大学での単位取得に必要な日本語能力および技能を身につけることを目標としている。この授業では、特に文献を用いたレポート作成のための知識と技能を高めることを目標としている。

準備学習

1学期間を通し、自ら研究を進め口頭発表をする力を高めていく。アカデミック・ジャパニーズ3で学んだことが身につけていることを前提として授業が進むので、不確かなところは自主的に復習しながら進めていくことが必要となる。

週 テーマ・授業目標等

- 1 テーマの決定
- 2 文献検索の方法(1)
- 3 文献検索の方法(2)
- 4 ノートの取り方(1)
- 5 ノートの取り方(2)
- 6 要約(1)
- 7 要約(2)
- 8 アウトラインの作成
- 9 引用の方法(1)
- 10 引用の方法(2)
- 11 引用の方法(3)
- 12 序論の構成
- 13 本論の構成
- 14 結論の構成
- 15 まとめ

使用教科書名

プリント使用

評価方法その他

課題・小テスト 50%
レポート・口頭発表 30%
平常点 20%
(平常点は、授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

まず全体の指導では、発音、語彙、文型、表現について、基礎からやり直すことで、正確さを高めていく。更に個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、ひとりひとりの日本語能力を伸ばしていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

準備学習

まずは、自分の日本語の弱いところを自覚し、それを伸ばすための勉強方法を習得して欲しい。日本語能力の向上のためには、週に1コマの授業だけでは十分ではないため、自学学習を同時に進める必要がある。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組み姿勢等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション、発音(1)
- 2 発音(2) 文型(1)
- 3 発音(3) 文型(2)
- 4 発音(4) 文型(3)
- 5 発音(5) 文型(4)
- 6 文型(5) 語彙(1)
- 7 語彙(2)
- 8 到達度チェック(1)
- 9 語彙(3)
- 10 ドリル
- 11 ドリル
- 12 ドリル
- 13 ドリル
- 14 ドリル
- 15 到達度チェック(2)

使用教科書名

プリント使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

発音、語彙、文型、表現について、全体的な指導を行い、より高度な日本語を身につけられるよう訓練する。また、個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、ひとりひとりの日本語能力を確実に伸ばしていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

準備学習

まずは、自分の日本語の弱いところを自覚し、それを伸ばすための勉強方法を習得して欲しい。日本語能力の向上のためには、週に1コマの授業だけでは十分ではないため、自学学習を同時に進める必要がある。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組みの態度等で総合的に判断する)

使用教科書名

プリント使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、日本語ラボaおよび日本語ラボbを履修した学生が、トレーニングを続けることで、より高度な日本語能力を身につけることを目的としている。全体の指導とともに個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、日本語能力を高めていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

準備学習

日本語のより高度な文法および表現の習得を目指していく。そのために、効果的な学習方法を自分で選んでいくことにも意識して取り組んで欲しい。日本語能力向上のためは、週に1コマの授業だけでは十分ではないため、自学学習を同時に進めることも必要である。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組みの態度等を総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ニーズ判定テスト
- 2 ドリル
- 3 ドリル
- 4 ドリル
- 5 ドリル
- 6 ドリル
- 7 ドリル
- 8 到達度チェック
- 9 ドリル
- 10 ドリル
- 11 ドリル
- 12 ドリル
- 13 ドリル
- 14 ドリル
- 15 到達度チェック

使用教科書名

プリント使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業は、日本語ラボaおよび日本語ラボbを履修した学生が、トレーニングを続けることで、より高度な日本語能力を身につけることを目的としている。全体の指導とともに個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、ひとりひとりの日本語能力を高めていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

準備学習

日本語のより高度な文法および表現の習得を目指していく。そのために、効果的な学習方法を自分で選んでいくことにも意識して取り組んで欲しい。日本語能力向上のためは、週に1コマの授業だけでは十分ではないため、自学学習を同時に進めることも必要である。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組みの態度等により総合的に判断する)

使用教科書名

プリント使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

卒業後、社会人として日本語と関わる環境に身を置くことを希望する留学生を対象に、社会人として求められる日本語の力を身につけさせることをめざす。日本語の敬語の基本について学ぶとともに、さまざまな場面に応じた実践的な練習を通じて、日本社会の中で円滑にコミュニケーションをとっていく方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

日本で社会人として生活していく中で必要となる、基本的な日本語能力、コミュニケーション力を身につける。

週 テーマ・授業目標等

- 1.敬語のしくみ
- 2.日本語敬語の分類
- 3.日本語敬語の実践的練習
- 4.電話対応の基本
- 5.電話対応のマナー
- 6.電話対応の実践的練習
- 7.手紙の形式
- 8.手紙に特有の日本語表現
- 9.手紙の書き方の実践的練習
- 10.履歴書の書き方の基本
- 11.効果的な文章表現の工夫
- 12.履歴書の書き方の実践的練習
- 13.面接の受け方の基本
- 14.効果的な口頭表現の工夫
- 15.面接の受け方の実践的練習
- 16.期末試験

準備学習

授業の中で紹介される参考文献や配付資料等について、自ら積極的に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）や授業に関係ない行動は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

平常点20%、提出課題40%、期末試験40%。平常点は授業への参加状況、授業中に行う練習問題等への取り組み、討論への参加等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリントを配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本の歴史や文化についての知識は、大学におけるさまざまな勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし、日本に育った者が大学入学時までには身につけてきているこれらの知識を、留学生は自ら意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。この授業では、日本の歴史を学ぶことを通じて日本の政治的・文化的変遷を理解するとともに、さらにそこから日本文化の特徴や日本人の思考形式についても理解を深めることをめざす。

学習目標・到達目標

日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.日本の姿 日本の地理
- 2.日本の姿 人口・気候・行政区
- 3.日本の歴史 石器から土器へ
- 4.日本の歴史 農耕と金属器の時代
- 5.日本の歴史 統一政権の誕生
- 6.日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化
- 7.日本の歴史 中央集権国家の形成
- 8.まとめ・中間試験
- 9.日本の歴史 奈良時代の文化
- 10.日本の歴史 律令国家の変容
- 11.日本の歴史 武士政権の登場
- 12.日本の歴史 鎌倉時代の文化
- 13.日本の歴史 武士社会の展開
- 14.日本の歴史 戦国大名の政治
- 15.日本の歴史 中世の産業と文化
- 16.期末試験

準備学習

準備学習として、各回の授業に対応するテキストの該当範囲を事前に読んで授業に臨むことが望ましい。受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）や授業に関係ない行動は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

使用教科書名

東京外国語大学編(1990)『留学生のための日本史』山川出版社

專 門 科 目

授業科目概要・教育目的（履修条件）

企業・行政機関等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの責任、組織で養成される人物と能力を理解し、将来の職業選択の意識を高めるとともに、大学での学習目標をより確かなものとする。外部機関で研修を行うに当たり、学内での事前学習（ビジネスマナー講座を含む）を行うとともに、実習後には成果をレポートにまとめ、実習成果の発表を行う。

学習目標・到達目標

- ・多様な機会をチャンスと捉えて、We can learn from everything の気持ちで臨むこと。
- ・新たな場において初めての人と本物のコミュニケーションが図れること。
- ・汗水流してやった成果を的確に評価して、今後活かせること。

準備学習**評価方法その他**

実習受け入れ先の評価50%、事前授業および事後学習の学内評価50%（出席20%、レポートおよびプレゼンテーション30%）

週 テーマ・授業目標等

- 1、通常授業 (1) インターンシップの目的
- 2、通常授業 (2) 実習先の事前学習
- 3、通常授業 (3) 実習指導 (社会人のマナー・ルール)
- 4、実習先の紹介
- 5、実習先の選択及び実習先の事前学習 (1)
- 6、実習先の選択及び実習先の事前学習 (2)
- 7、実習先の選定
- 8、実習先の決定 (実習希望先への受入願書発送)
- 9、実習指導 (1) (共通・事務局) 実習先への関係書類の送付 (個人調査、研修事前調査)
- 10、実習指導 (2)
- 11、実習レポート作成
- 12、実習報告書の作成
- 13、実習報告書完成 (配布)
- 14、実習の報告会
- 15、まとめ

使用教科書名

使用しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

当学科では、小児1型糖尿病サマーキャンプに参加することで、実践的な体験を通して、組織で働くことの責任、組織で養成される人物と能力を理解し、将来の職業選択の意識を高める。また、大学での学習目標をより確かなものとする。実習後には成果をまとめ、報告会を行う。キャンプに参加するにあたり、実習先などの事前勉強会や事前準備などを5月より実施し、それらを併せて実習とみなす。

学習目標・到達目標

- ・多様な機会をチャンスと捉えて、We can learn from everything の気持ちで臨むこと。
- ・新たな場において初めての人と本物のコミュニケーションが図れること。
- ・汗水流してやった成果を的確に評価して、今後活かせること。

準備学習

- ・初回授業までに、糖尿病について復習および勉強しておくこと。
- ・初回授業までに、小児1型糖尿病サマーキャンプとはどのようなものか、調べておくこと。

評価方法その他

実習受け入れ先の評価50%、学内授業および事後学習の学内評価50%（出席状況、提出物、プレゼンテーション等を総合評価）

週 テーマ・授業目標等

1. 通常授業 オリエンテーション
2. 通常授業 実習先の説明, 基本事項・注意事項
3. 通常授業 小児1型糖尿病サマーキャンプについて (1) 小児1型糖尿病
4. 通常授業 小児1型糖尿病サマーキャンプについて (2) キャンプのしくみ
5. 通常授業 小児1型糖尿病サマーキャンプについて (3) 前年度の内容
6. 通常授業 実習に向けて (目標の設定)
7. 通常授業 ビジネスマナー (基礎編), 小テスト
8. 通常授業 ビジネスマナー (実践編), 小テスト
9. 実習指導 提出書類説明および作成 (誓約書, 履歴書, 成果報告書等)
10. 実習指導 キャンプで使用する教材作成 (1)
11. 実習指導 キャンプで使用する教材作成 (2)
12. 事後指導 レポート作成
13. 事後指導 成果報告書作成
14. 事後指導 まとめ
15. 実習報告会

使用教科書名

使用しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代は、扱うデータの量が大きく、いかに効率的な処理をして分析するかが求められています。この授業では、データの種類の多い(多変量)場合の統計的手法を学びます。具体的には、予測・制御のための重回帰分析と判別分析、データ量の総合化のための主成分分析、共通因子を探す因子分析、データ分類のためのクラスター分析の基本概念を理解し、応用事例に適用できることを目標とします。実際の処理・分析に当たってはパソコンの統計ソフトを用います。

学習目標・到達目標

単回帰分析、重回帰分析、分散分析、確率変数と確率分布、重要な確率分布(正規分布・ χ^2 乗分布・ t 分布・ F 分布)、仮説検定(p値とt値)、判別分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。基礎統計学aおよび基礎統計学bを履修していることが望ましいです。

評価方法その他

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、課題点(20点)

週 テーマ・授業目標等

第1週	平均値、分散、標準偏差
第2週	標準化、共分散、相関係数
第3週	単回帰分析
第4週	重回帰分析
第5週	重要な確率分布
第6週	仮説検定(p値とt値)
第7週	仮説検定(p値とt値)
第8週	中間テスト
第9週	判別分析(概念説明)
第10週	判別分析(応用事例の紹介)
第11週	主成分分析(概念説明)
第12週	主成分分析(応用事例の紹介)
第13週	因子分析(概念説明)
第14週	因子分析(応用事例の紹介)
第15週	クラスター分析(概念説明と応用事例の紹介)
第16週	期末テスト

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー(電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水)および情報の供給システムを学ぶとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価できる能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

家庭で使用されるエネルギーの視点から、その生活実態を評価できること。

週 テーマ・授業目標等

1.	ガイダンス
2.	「住まう」を考える
3.	地球環境と生活環境(生活環境学 p.194-204)
4.	水環境(生活環境学 p.150-166)
5.	廃棄物(生活環境学 p.176-182)
6.	生活とエネルギー(暮らしの中のエネルギー消費を知る)
7.	家庭用エネルギー消費の実態(エネルギーの種類と用途を知る)
8.	電力(電気とは 電気料金の仕組みを知る)
9.	石油とガス(化石エネルギーとは 料金の仕組みを知る)
10.	家電機器の省エネルギー性能(省エネルギー性能を知る)
11.	給湯機器の仕組み(お湯の作り方・機器の使い方を知る)
12.	暖冷房機器の仕組み(暖冷房の原理・機器の使い方を知る)
13.	照明機器の仕組み(照明の原理・機器の使い方を知る)
14.	建物の環境性能(建築物総合環境性能評価システムを知る)
15.	住宅のエネルギー管理システム(HEMSを知る)

準備学習

授業毎に120分の予習と60分の復習が必要である。

評価方法その他

平常点(30%)、課題(70%)の総合評価
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する)

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

多様な性格がいかにして形成されるかを、できる限り具体的な事例を分析しながら解き明かしていきたい。また、性格測定法にも触れながら、性格の自己分析と性格の自己変容の方法を紹介する。

学習目標・到達目標

性格とは素質をベースにして生育過程で形成された個々人の生活スタイルであることを理解する。これにより、自己分析を深め、より良い精神生活を送る役に立つことをめざす。

準備学習

できる限り自分の内面と照らし合わせながら受講することで、自己理解を深めて欲しい。

評価方法その他

授業中の課題への取り組み・小テストにより評価する(100%)。

週 テーマ・授業目標等

- 1 第1章 性格をとらえる視点
- 2 第2章 性格形成の諸要因
- 3 遺伝的要因 周産期要因 養育環境 社会環境 物理的要因
- 4 第3章 性格特性の形成分析
- 5 分裂性性格 強迫性性格
- 6 ヒステリー性性格 抑うつ性性格 神経質性格
- 7 第4章 心理特性の形成分析
- 8 不安 劣等感 罪責感 不全感 自意識過剰
- 9 第5章 性格の測定
- 10 バウム・テスト Y-G性格検査
- 11 第6章 性格形成の個別分析
- 12 自己愛的性格 心身症 摂食異常
- 13 第7章 性格の自己変容
- 14 性格の変容可能性
- 15 性格と自己実現

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもにとって大人と一緒にいることには、また、大人にとって子どもと一緒にいることにはどのような意味があるのだろうか。子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭保育及び保育所・幼稚園保育のもつ今日的課題、大人の果たすべき役割について考究するとともに、共に育つ保育実践について学んでいく。また、「一日保育体験」(自主実習)により、実際の子どもの発達や遊びの実態を体験的に理解する。

学習目標・到達目標

- 保育の基本的な方法・原理を理解する
- 保育の今日的課題について理解する
- 乳幼児の発達の流れを理解する
- 子どもの遊びをはぐくむスキル・方法を身につける
- 実際に子どもとかわる体験により実践的に子どもを理解する

準備学習

実習を含むため、実習生として事前事後学習をきちんと取り組む意欲と覚悟がある受講生、または家庭科教員免許取得を目指す受講生に限って、受講を認めます。また、毎回の授業はレポーター制のゼミ形式を中心に行います。

評価方法その他

課題点40%・最終レポート60%
(課題点には、自主実習・レポーター・絵本の読み聞かせ等に
に加え、平常の授業への取り組みが含まれます)

週 テーマ・授業目標等

1. 保育学とは何か
2. 保育の原理と方法
3. 発達と保育(1)乳児期
4. 発達と保育(2)幼児期前期
5. 発達と保育(3)幼児期後期
6. 子どもの育ちと家族(1)家族の役割と機能
7. 子どもの育ちと家族(2)現代における家庭保育の現状
8. 子どもの育ちと家族(3)子育て支援の実際
9. つくって遊ぼう
10. 児童文化に親しむ
12. 園生活と子ども(1)
13. 園生活と子ども(2)
14. 保育における遊びの実際
15. 一日保育体験(実習)のまとめ

使用教科書名

家庭支援の保育学/武藤安子他/建帛社/2010

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実際に子どもと触れあう機会を自らつくり、乳幼児と実際に触れあう機会を持つことによって、また、参考書、資料、昔話等を手がかりに、大人とは異なる、子どもとはどういう存在か、子どもを育てるとはどういうことかを考えていく。

学習目標・到達目標

現代においては子どもと触れあう機会を持たないまま母親となる女性も増加している現状を踏まえ、実際に子どもと触れあう機会を持つこと、講義内容を理解することによって大人とは異なる子どもという存在を理解し、子どもを育てる力を養成する。

準備学習

身近に触れ合い観察などができる乳幼児がいない場合、幼稚園や保育所等ボランティア等として保育に参加できる場所を見つけておいてください。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 資料(子どもの絵)を見て、子どもの絵を表現者である子どもの内面から読み解く。
- 2 子どもの絵を活動として捉え、生活と発達の観点から縦断的に見ていく。
- 3 『保育者の地平』より、①保育者の行為と子どもの中に育てるもの
- 4 同上、②子どもの世界をともに歩む
- 5 同上、③「いま」を充実させる
- 6 同上、④保育の中で発達を考える
- 7 同上、⑤願いや悩みを表現する遊び
- 8 同上、⑥保育の知と身体の知
- 9 同上、⑦深層の視野・歴史の視野・保育実践者の視野・障碍の視野
- 10 『昔話の魔力』より、I 昔話の伝える本質的メッセージについて
- 11 同上、II 成長発達段階ごとの危機と獲得すべき価値について①幼児期の課題を「ヘンゼルとグレーテル」より
- 12 同上、II ②児童期・青年期の課題を「しらゆきひめ」より
- 13 同上、II ③同上の課題を「シンデレラ(灰かぶり)」より
- 14 同上、II ④青年期の課題を「眠れる森の美女(いばら姫)」より
- 15 同上、II ⑤壮年期の課題を「キュービッドとプシケ」より
①～⑤を通して女性の成熟と成長の姿を示す。
- 16 テスト

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

フードサービスビジネスは、「食に関係するサービス産業」の総称であり、その範囲は、小売業、飲食店、流通業、医療福祉、情報産業など幅広い分野におよぶ。フードサービスビジネスは、ライフスタイルの変容やグローバル化の進展など昨今の社会の変化に伴って拡大、発展してきた産業分野であるが、一方で、食の安全性の確保や食品ロスの増大といった諸問題とも深く関係している。

本授業では、私たちの日々の生活と深く関わるフードサービスビジネスについて、その普及の経緯と現代社会における役割、問題等を理解するとともに、今後、持続可能な社会を目指していくに際して、同産業のあり方や方向性について考える。

学習目標・到達目標

フードサービスビジネスの普及の経緯や役割、問題等を理解する。そのうえで、消費者として、あるいはサービスを提供する側の人間として、フードサービスビジネスに関わる際には、短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになることを目標とする。

準備学習

フードサービスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

評価方法その他

平常点30点、レポート40点、ワーク30点

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. フードサービスビジネスとは
3. 私たちの暮らしとフードサービスビジネス
4. フードサービスビジネスと消費社会
5. フードサービスビジネスとグローバル社会
6. フードサービスビジネスと環境問題・労働問題
7. フードサービスビジネスと関連法規
8. 事例に見るフードサービスビジネス ①地産地消
9. 事例に見るフードサービスビジネス ②地域おこし
10. 事例に見るフードサービスビジネス ③コミュニティ形成
11. 事例に見るフードサービスビジネス ④新しい価値の創造
12. フードサービスビジネスをつくらせてみる ①事業計画のつくり方
13. フードサービスビジネスをつくらせてみる ②事業計画作成
14. フードサービスビジネスをつくらせてみる ③発表会
15. まとめ、振り返り

使用教科書名

テキストは使用しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの1つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して、総合的にフードサービスを考える。

学習目標・到達目標

国内外の食糧事情を含め中食・外食の動向とサービスの実態を理解する。食のトレンド、商品の付加価値、ホスピタリティーについて理解し、推薦する店舗や同業種の比較に関するプレゼンテーションや新商品の提案ができる。

準備学習

この科目では、市場調査や情報収集を通して、市場のトレンドやフードビジネス現状を捉えてみます。「人が豊かで健康になれるフードサービスとは何か」あなた自身の頭で考え、発信できる力をつけて下さい。

評価方法その他

平常点(50%)、プレゼンテーション(50%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. フードサービスビジネスの概念
3. サービスとホスピタリティー
4. 食生活の領域と現状:内食・中食・外食
5. データから読むフードサービスビジネス①海外の食糧事情
6. データから読むフードサービスビジネス②国内の食糧事情
7. 商品・メニューのマーケティング
8. 中食・外食産業最前線
9. 食の最新トレンド情報・ヒット分析
10. 市場調査
11. 情報収集
12. プレゼンテーション①店舗紹介
13. プレゼンテーション②新商品企画
14. プレゼンテーション③企業比較紹介
15. まとめ

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。この点において、食料は、他の財貨とは本質的に異なる性質を有する。本授業では、食料の有するこうした特性を踏まえたうえで、現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムを概観し、その経緯や現状の諸課題について理解し、さらに、今後の社会における望ましいあり方を考える。

学習目標・到達目標

現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムの経緯と現状を理解し、そのうえで、今後の社会における望ましいあり方を考え、行動できるようになる。

準備学習

食品の生産、流通、消費に関する諸課題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

評価方法その他

平常点20点、中間レポート30点、定期試験50点

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食料経済とは
3. 食品の生産から消費まで
4. 食品輸入と食料自給率
5. 食生活形態の変化
6. 食品消費の変化
7. 食品流通の概要
8. 卸売流通
9. 小売流通
10. 生鮮食品の流通
11. 加工食品の流通
12. フードビジネスとフードマーケティング
13. 食品消費と安全
14. 食品消費と環境問題
15. まとめ、振り返り

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では、食品等が消費されるまでの流れを分断して考えるのではなく、それぞれのつながりを理解することを目的としています。

その結果、フードシステムの各段階の機能と課題を把握することができ、将来、食産業で活躍する学生が、時代とともにどのような「フードシステム」が望ましいかを考え、実践できるスキルを身に付けることができるよう、カリキュラムを組んでいます。

受講生は「フードシステム」等への理解を習得したい初心者を対象とし、それらがより理解を深められるよう、身近なテーマを題材にしなが、講義を進めていきます。

学習目標・到達目標

「フードシステム」とは、食に関する生産から消費までの一連の流れのことを指しており、その流れを体系的なものとして捉える考え方です。

本講義では、前半に「フードシステム」の概念を理論と身近な食品を例に考え、理解し、後半は「フードシステム」が時代とともにどのように変遷してきたかを考え、今後の「フードシステム」の望ましいあり方について、自分自身の考えを持てるようになることを目的とします。

準備学習

本講義内容は、卒業後、食産業に従事する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要なものであります。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、「フードシステム」を体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くはないため、本講義を受講し、食品をトータル的に捉えることができる学生になることを願っています。

評価方法その他

毎回、講義終了時に提出していただくリアクションペーパー内容と期末試験によって評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション:「フードシステム」とは?
2. 食生活の変化とその社会的背景①
3. 食生活の変化とその社会的背景②
4. 食品の流通とその変遷①
5. 食品の流通とその変遷②
6. 食品小売業の変遷と今①
7. 食品小売業の変遷と今②
8. 外食・中食産業の起源と今
9. 食品流通の仕組み:生鮮食品と加工食品の生産と流通
10. 食の安心・安全と流通①:顔が見える流通とは
11. 食の安心・安全と流通②:異業種による農業・食品産業
12. フードシステムのグローバル化:自分たちの食べ物は、どこから来たのか?
13. フードシステムと環境問題:フードシステムから環境問題を考える
14. 正しい食品の選択:消費者が正しい食意識・食行動をするためには
15. まとめ

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会 編(2008)『新版 食品の消費と流通』建帛社。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品を評価する際に、嗜好に直接結びつく官能評価ならびに個別の食品に関する鑑別知識は大変重要である。官能検査は味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚の五感を持つヒトを一種の計測機器と考え、ヒトの感覚を用いて、評価、測定する方法である。また、食生活の多様化により、利用する食品の種類も多くなっている中、食の安全性確保の上でも食品の品質を見抜く能力も必要である。その両者の考え方、手法、具体的な実施方法について、演習を通して習得することを目的とする。

学習目標・到達目標

食の官能評価の考え方、手法、具体的な実施方法を習得するとともに食品の鑑別法についても評価法を習得する。

週 テーマ・授業目標等

1. 食品の品質と味覚
2. 食品の官能評価(1)
3. 食品の官能評価(2)
4. 食品の官能評価(3)
5. 食品の官能評価(4)
6. 食品の官能評価(5)
7. 食品の官能評価(6)
8. まとめ(1)
9. 食品の鑑別評価(1)
10. 食品の鑑別評価(2)
11. 食品の鑑別評価(3)
12. 食品の鑑別評価(4)
13. 食品の鑑別評価(5)
14. 食品の鑑別評価(6)
15. まとめ(2)
16. 定期試験

準備学習

フードスペシャリスト受験資格教科(協会指定:食品の官能評価・鑑別論対応)です。食品学、生物学、化学(特に有機化学)ならびに調理学、調理実習の基礎知識を基に、物理化学と統計学の要素が入った演習形式で授業を進めます。様々な教科の複合的な要素が入ってきますので、苦手な教科部分は、事前にその基となる授業を受講されていることが望ましいです。

評価方法その他

試験・レポート内容50%、出席・授業態度50%

使用教科書名

三訂/食品の官能評価・鑑別演習/日本フードスペシャリスト協会編/健帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の品質には、安全性、栄養性、生理機能性、嗜好性、経済性などさまざまな要素が関わる。豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。個々の食品の鑑別方法について、演習をとりいれながら学ぶ。また、特に嗜好性は人間の五感によって評価されるが、この人の感覚による食品の評価について個人差を十分に考慮したうえで科学的に行う方法について演習を通して学習する。

学習目標・到達目標

食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について学習し、特に、味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚という人間の五感を活用して判断する官能評価法を中心に演習し、食品鑑別の基礎を理解する

準備学習

日常から、さまざまな食品に触れる機会を増やして、食品に対する関心を持ってください。「食品学」「調理学」などで学んだ食品の性質に関することを基礎にして、統計学の要素も加えた演習形式で行います。

評価方法その他

平常点30%、課題提出40%、定期試験30%、
(平常点は演習への取り組みおよび発表等の評価を含む)

週 テーマ・授業目標等

- 1.はじめに 食品の品質とは
- 2.官能評価の概要、味覚と関値
- 3.官能評価の手法(比較法1)
- 4.官能評価の手法(比較法2)
- 5.官能評価演習および発表(第1回)
- 6.官能評価の手法(順位法)
- 7.官能評価の手法(評点法)
- 8.官能評価演習および発表(第2回)
- 9.食品の化学的評価法・物理的評価法
- 10.食品の鑑別評価(植物性食品1)
- 11.食品の鑑別評価(植物性食品2)
- 12.食品の鑑別評価(動物性食品1)
- 13.食品の鑑別評価(動物性食品2)
- 14.食品の鑑別評価(その他の食品)
- 15.まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

三訂 食品の官能評価・鑑別演習 / 日本フードスペシャリスト協会編 / 建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活をとりまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。そのため、実際に住空間の設計を試み、快適で安全な住生活のあり方を実践的に考察する。これらの学習を通し、教職課程に必要な住生活分野の知識と技術の習得を目的とする。

学習目標・到達目標

住まいの伝統ならびに現代の問題点を把握し、よりよい住空間とは何かを考察する。同時に、空間の表現方法(製図)の基礎を習得する。

準備学習

三次元の「空間」を理解するには、教室での授業だけでは十分ではありません。日頃から身の回りの空間に関心を持ち、たとえば、ドアの幅や机の幅・高さなどを測って見て、使いやすい寸法はいくつぐらいなのかを考えてみてください。

評価方法その他

課題(50%)、中間試験(50%)により、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 01.イントロダクション
- 02.さまざまな住まい
- 03.住まいの発展
- 04.住まいの歴史
- 05.住まいの近代化とnLDK住宅
- 06.住宅地と集合住宅
- 07.住まいの管理
- 08.住まいの建築計画
- 09.中間試験
- 10.図面の表現方法
- 11.自分の部屋を図面で表現する
- 12.住空間の計画－平面図を描く①
- 13.住空間の計画－平面図を描く②
- 14.住空間の計画－展開図を描く①
- 15.住空間の計画－展開図を描く②
- 15.課題の提出

使用教科書名

特に定めない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのこの時代の建築を、代表的な実例をとりあげながら、建築的特徴を解説していく。その際、写真資料、図面、模型等を用い、空間の理解を中心に、作り手・使い手の考え方、また、その空間が必要とされた社会背景等に関して、考察を加えていく。

学習目標・到達目標

西洋建築史の通史を学ぶ。ヨーロッパ大陸を中心に展開してきた西洋建築は、現代建築の根幹をなしており、その歴史の習得は、現代建築までつながる世界の建築文化の理解につながる。そこで、各国を代表する著名な西洋建築をひとつずつ詳細に検討することによって、世界の建築文化の系譜を学ぶと同時に、個々の建築とその建設の背景を探り、建築文化の理解をはかる。これらを通して、国際的文化人としての素養を身につけることを目指す。

準備学習

授業でお話しする内容は、指定した教科書『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』にまとめてあります。また、パワーポイントで示す写真も、ほぼ教科書と一緒にあります。授業の前後に、教科書の該当する箇所を必ず読むように心がけてください。

評価方法その他

学期末試験(80%)および平常点(提出物等:20%)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 古代オリエント・エジプト建築
3. キリシア建築
4. ローマ建築
5. 初期キリスト教建築・ビザンティン建築・イスラム建築
6. ロマネスク建築
7. ゴシック建築
8. 中世の世俗建築
9. ルネサンス建築
10. バロック建築
11. リヴァイヴァル建築
12. 新材料を用いた建築
13. 都市・住宅問題と建築
14. 近代建築運動
15. モダニズム建築
16. 学期末試験

使用教科書名

『建築史』編集委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

面積計算、高さ計算の練習を基本から行います。道路、敷地、防火、避難、居室などの規制を知ること、設計、施工、不動産取引に応用できる力を養います。

学習目標・到達目標

建築法規の目的、全体像、概念を知り、建築関係法令集を自力で引けるようにします。

週 テーマ・授業目標等

- 1 法規のアウトライン
- 2 道路、敷地
- 3 用途制限 その1
- 4 用途制限 その2
- 5 面積制限 その1
- 6 面積制限 その2
- 7 面積制限 その3
- 8 高さ制限 その1
- 9 高さ制限 その2
- 10 高さ制限 その3
- 11 防火規定 その1
- 12 防火規定 その2
- 13 避難規定
- 14 居室 その1
- 15 居室 その2

準備学習**評価方法その他**

毎回、その回でやった授業内容の小テストをして、15回分を集計して成績評価します。その際、出席点20%、特点80%とします。

使用教科書名

原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の法規入門」彰国社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築基準法を中心に関係法令との関連を平易に解説する事で、社会活動上求められる建築関係法令の全体像を理解させ、また住宅・建築関連の実務及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を読んで理解出来るようにする。

学習目標・到達目標

建築に関する法令への理解を深め、社会活動に必要な基礎的知識及び住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

週 テーマ・授業目標等

1. 建築基準法の意義、及び概要と歴史
2. 建築基準法及び関係法令の法体系と構成、建築基準法の用語の解説
3. 建築基準法の用語の定義
4. 集団規定Ⅰ 敷地と道路、地域による建物の用途制限
5. 集団規定Ⅱ 地域による面積制限(容積率、建ぺい率)
6. 集団規定Ⅲ 地域による各種高さ制限、日影規制の概略
7. 集団規定Ⅳ 防火、準防火地域内の建物規制、その他の地域地区の概略
8. 第1回問題演習
9. 単体規定Ⅰ 一般構造(居室、内装、等の規定)
10. 単体規定Ⅱ 一般構造(階段、廊下、等の規定)
11. 単体規定Ⅲ 構造強度
12. 単体規定Ⅳ 建築設備、防災関連規定、関連法としての消防法
13. 第2回問題演習
14. 建築士法、建築確認申請、関係法としての都市計画法の概略
15. 関連法としてのバリアフリー新法、住宅性能評価と品質確保、住宅瑕疵担保責任の履行法、景観法等の概略
16. 定期試験

準備学習

建築法規を受講する事で、これまでに学んできた建築や住宅及びインテリア関連の多くの授業内容の重要性や関連性が見えてきます、建築法規及び関連法律をしっかりと学ぶ事でより明確に把握できると考えられます。2級建築士資格取得の必須科目でもあり、建築法規を理解することが総合力のアップとなり実務への近道となります。

評価方法その他

平常点(30%)、問題演習2回(計20%)、定期試験(50%)によって総合的に評価する。(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合判断)

使用教科書名

建築関係法令集(株式会社総合資格発行)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ケアマネジメントについて、基本理論を学ぶ、その方法について、できうる限り、事例を用いて演習を通して学ぶ。そして現場の実践にも触れていく。

学習目標・到達目標

介護保険制度が創設され、わが国でも『ケアマネジメント』について関心が高まり、その専門職としての介護支援専門員も創設された。この授業ではケアマネジメントの概略、知識、方法を学び、また現場での実際にも触れ、ケアマネジメントの総体を学ぶことを目標とする。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 イントロダクション ケアマネジメントとは何かを考える
- 第2回 ケアマネジメントの意味と意義 ケアマネジメントの意味と意義について実際の事例から学ぶ
- 第3回 ケアマネジメントの背景 ケアマネジメントが台頭した歴史的背景をソーシャルワークの展開過程を踏まえて理解する
- 第4回 ケアマネジメントの知識① ソーシャルワークの技術を学ぶ①
- 第5回 ケアマネジメントの知識② ソーシャルワークの技術を学ぶ②/面接の方法
- 第6回 ケアマネジメントの知識③ ソーシャルワークの技術を学ぶ③/プロセスの方法
- 第7回 ケアマネジメントの方法① 事例を通じて方法を学ぶ①/独居高齢者の場合
- 第8回 ケアマネジメントの方法② 事例を通じて方法を学ぶ②/独居で認知症の利用者の例
- 第9回 ケアマネジメントの方法③ 事例を通じて方法を学ぶ③/夫婦のみ世帯の場合
- 第10回 ケアマネジメントの方法④ 事例を通じて方法を学ぶ④/虐待事例
- 第11回 ケアマネジメントの方法⑤ 事例を通じて方法を学ぶ⑤/施設入所の場合/新規入所の例
- 第12回 ケアマネジメントの方法⑥ 事例を通じて方法を学ぶ⑥/施設入所の場合/入院の場合
- 第13回 ケアマネジメントの方法⑦ 事例を通じて方法を学ぶ⑦/短期入所や退所に至る場合
- 第14回 現場での実際 現場ではどのように行われているか
- 第15回 総括授業 まとめの授業
- 第16回 試験

準備学習

できるだけ実際例に沿って授業を行いたいので、受講者の皆さんも積極的に実習などの事例を提出して下さるよう希望します。

評価方法その他

平常点/30% *
ミニレポート/30%
試験/40%

* 出席や授業態度、予習復習の状況など

使用教科書名

授業時にお話します

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、障害の問題を子どもの誕生から成長に伴う変化に着目しか考えていきます。障害を持って産まれて、ライフコースに沿った具体的な困難と社会福祉援助のあり方を考えていきます。

学習目標・到達目標

障害者福祉に関わる基本的理念と制度の理解を深めることが学習目標です。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:障害者福祉とは
2. 自分の体験から障害を考える:障害をどのようにイメージするか
3. 障害とは
4. 障害の概念と障害者の定義
5. 障害者支援の理念
6. 郊外授業:ハンセン病記念館(差別と偏見の歴史的理解)
7. 国家試験対策
8. 障害者の生活実態
9. 障害者福祉制度の発展
10. 障害者総合支援法
11. 成人期:きょうだいとの関係
12. 障害者基本法と障害種別各法
13. その他の関連法
14. 地域生活と障害者福祉
15. まとめ
16. 定期試験

準備学習

障害に関わる「福祉制度」の利用が必要な人に制度を具体的に説明できるようになりましょう。国家試験対策も意識していきましょう。

評価方法その他

出席・中間レポート・事前レポート・学期末試験を総合して行います。

使用教科書名

MINERVA福祉資格テキスト:社会福祉士・精神保健福祉士<共通科目編> ミネルヴァ書房 2012年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ここでのグループワークとは、当事者が抱え込む悩みを共有しあい、心身のバランスを回復し仲間づくりをすることにより、無力な状態を脱する集団活動である。個々人では実現の難しいこと、たとえば、アルコールや薬物のような中毒性の病因を断ち切ることや、行政や企業などへの要望、活動資金集めなどの集団的解決を図る方法である。以上のことを身近な具体例を通して学ぶ。

学習目標・到達目標

グループワークで困難を乗り越えられるか。その特性と活用術を学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. グループワークとは何か
2. グループワークの成り立ち
3. グループ結成
4. グループの発展
5. グループの衰退
6. 児童のグループワーク
7. 薬物依存
8. テスト1
9. グループワークにおける人間関係1(I-Thou Relation)
10. グループワークにおける人間関係2(interaction)
11. グループワークとレクリエーション活動
12. グループワークとリハビリテーション
13. 事例1
15. 事例2
16. テスト2

準備学習

グループワークをうまく活用しよう。

評価方法その他

平常点50%, 2回のテスト50%で判定する。
(平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加等で総合的に判断する。)

使用教科書名

適宜

授業科目概要・教育目的（履修条件）

浦島太郎伝説から遊びの意義を導き出すこと。そして様々な世界の遊びに注目するとこにより伝統的な日本の遊びの特徴が見えてくる。

学習目標・到達目標

浦島太郎伝説から遊びの意義を見直してみる。

週 テーマ・授業目標等

- 1.浦島太郎伝説はどこからはじまったか
- 2.伝承以来1300年浦島太郎伝説のモチーフについて
- 3.日本のいくつかの遊び観について
- 4.いろいろな人たちの遊び観（ニーチェ）
- 5.いろいろな人たちの遊び観（オルテガ・イ・ガセー）
- 6.いろいろな人たちの遊び観（ホイジンガ）
- 7.いろいろな人たちの遊び観（カイヨワ）
- 8.いろいろな人たちの遊び観（アンリオ）
- 9.テスト
- 10.いろいろな人たちの遊び観（フィンク）
- 11.いろいろな人たちの遊び観（フレールベル）
- 12.いろいろな人たちの遊び観（ビーパー）
- 13.いろいろな人たちの遊び観（エリクソン）
- 14.いろいろな人たちの遊び観（貝原益軒）
- 15.舞台装置としての龍宮城と故郷の生活
- 16.テスト

準備学習

浦島太郎の歌を歌えますか？「むかし、むかし、うらしまは～、助けた亀に連れられて～、龍宮城に来てみれば～、絵にも描けない美しさ・・・」

評価方法その他

平常点50％，発表・テスト50％で総合的に判定する。
（平常点は授業への参加状況・質問の受け答え・討論への参加等で総合的に判断する。）

使用教科書名

適宜

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱで学んだ知識と実践的能力を基に、4泊5日の自然体験活動の実習を行う。子ども達が自然の中で生活することが、子ども達にどのような効果を及ぼすのかについて実際の経験を通じて考える。本実習を履修した後に「長期自然体験活動指導者」として登録し、全国の小学校で実施される自然体験活動へプログラムや事業評価の助言者として参加できる能力を身につけることを目的とする。さらに、子どもの発育・発達を理解した自然体験活動指導者の育成を目指す。

週 テーマ・授業目標等**学習目標・到達目標****準備学習****評価方法その他****使用教科書名**

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、受講生が自分のキャリアを考える切っ掛けをつかむ場としたい。キャリア(career)という言葉には、生涯・経歴・出世・成功・職業・生涯の仕事という意味があり、キャリアを考えるということは、自分の人生とは、どのように生きるのか、あるいは、何を職業として選択するのか、という自分の将来に関わる意思決定問題でもある。この課題へのアプローチの仕方と解決方法、判断基準について学ぶ。

学習目標・到達目標**準備学習****評価方法その他**

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. キャリアとは何か
3. 働くことの意味
4. 働く場と働き方
5. キャリア形成の枠組みと基本的能力
6. "
7. "
8. ライフプランニング
9. "
10. 産業構造と企業
11. "
12. 雇用環境と就業構造
13. "
14. 業界研究の方法
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の「キャリアデザインA」を受けて、具体的にキャリアプランニングを描くことを目的とし、就職活動に向けた意識・考え方・行動の変容を図る。グループワークを多く取り入れて、受講生間の相互交流の機会を設ける。受講生には、自ら課題を見つけてその解決に取り組む積極的な姿勢を期待している。

学習目標・到達目標**準備学習**

履修条件ではないが、前期の「キャリアデザインA」の受講が望ましい。

評価方法その他

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就活の戦略(強み・弱み分析)
3. "
4. 就活のマーケティング(自己分析と自己PR)
5. "
6. 働く20代の女性によるパネルディスカッション
7. 業界研究と企業の見方
8. "
9. 社会人基礎力の養成
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

21世紀を迎え、人間生活とその環境の変化は著しく、かつ、危機的な様相を深めている。地球環境、民族紛争、南北問題、格差・貧困、人種問題、国内に目を転じれば、住宅問題、過労死・自殺の急増、介護、いじめ、虐待、食糧危機、食品安全、医療ミス、ニート・フリーター問題、そして、原発問題、などなど。世界に起きている生活の問題と日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的に解きほぐす努力を行い、問題を深め、希望と展望を語れる、そういう現代生活論を講じたい。

学習目標・到達目標

現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考えられるようにしたい。他の人びととの意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感してほしい。学期末試験では、いくつかの課題について、調べたことを整理して、それに自分自身の意見が述べられるようにしたい。

準備学習

準備学習は、広く、現代人の生活全般に関心を持つようにしてほしい。現代人とは、子ども、乳幼児、若者、大人、あるいは、高齢者や弱者、病気を抱える人びと、さまざまな困難を抱える人びと、差別を受ける人びと、などである。イメージを豊かに広げられるようにしてほしい。そうした人びとが抱える生活上の基本問題（重要課題）は何か、つねに、関心を示せるようにしてほしい。

評価方法その他

平常点20%、期末試験80%。平常点は、出席・授業への参加態度によって評価する。なお、出席は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.睡眠—美と健康のために—
- 3.共生社会を考える—エシカル・ファッションの視点から—
- 4.家庭生活の中の衣服—家族の関わり、家事労働との関わり
- 5.深海から生活を考える—深海資源と私たちの生活との関係—
- 6.現代住宅の設計手法
- 7.食生活と骨の健康
- 8.調理と食品成分の変化
- 9.江戸の食生活と現代
- 10.現代の若者をどう見る—秋葉原無差別殺傷事件（2008年）より
- 11.言語習得
- 12.生活文化的視点から街とくらしを考える。
- 13.暮らしの中の度量衡—酒・醤油などの液体容量—
- 14.現代生活の質の問題について、衣・食・住・文化の面から考える。
- 15.生活者としての意思決定と行動

使用教科書名

特に指定しない。複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

フィールドでの調査による領域を横断する現代家政学科の学びを踏まえて、現代社会が抱えるさまざまな問題にそれぞれの受講者が多角的な見地から捉えることができる力を養う。また、事例分析における客観性の確保、自分の意見・考察を的確に伝えることができる力の向上をめざす。前半では、都市における食と環境をテーマとして、異領域をつないだ視点からくらしをめぐる問題を考えていく。後半では、環境・地域・仕事・伝統ということばをキーワードとして、社会の中でKVA精神を持ってどのように自律した生き方が出来るかを受講生同士の討論により深めていく。

学習目標・到達目標

学業の総まとめともいうべき「卒業研究」を前にして、現代家政学科での教育内容を今一度把え返しながら、自身の将来展望について建学の精神に立ち戻って考えることがねらいである。具体的には、知・徳・技を社会の中でどう活かしているか、受講生自らが意識化できることを到達目標としたい。

準備学習

学外へ出かけることがあるので、安全に留意するとともに、他の受講生や一般市民の迷惑となる行為を慎み、節度ある態度で授業に臨んでほしい。なお、校外授業は通常の曜日・時限とは異なる日程で実施することもある。出席は毎回必ず確認する。

評価方法その他

平常点40%、校内特別授業レポート15%、校外授業見学レポート15%、中間レポート15%、振り返りシート15%。平常点は、毎回の授業時に書いてもらうレスポンスシートの内容、授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。なお、出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション— みんなのくらしをよくしたい
- 2.都市の食と農をめぐる視点
- 3.近代化と都市の食・農
- 4.校内特別授業「仕事に就く」（外部講師による講演）
- 5.都市農業の展開
- 6.江戸の農と伝統野菜
- 7.住まう・働くから考える地域の課題1徳島県の事例
- 8.住まう・働くから考える地域の課題2東京の事例
- 9.住まう・働くから考える地域の課題3長野とドイツの事例
- 10.校外授業 学生とともに生きる街（見学）
- 11.見学で見えてきた課題と課題解決提案の可能性について
- 12.ワークショップ準備
- 13.ワークショップ発表会
- 14.伝統文化と環境問題
- 15.授業の振り返り（まとめ）

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

女性の生き方を歴史に学びます。明治のはじめ、封建的な女性像（『女大学』など）はいかに批判されたのか。福沢諭吉は、その代表的な人物でした。彼の近代的な女性像を明らかにします。自由民権運動は女性の解放をどのように考えたのか。女性の参政権など、について語ります。明治後半から大正期にかけて女性の職業的自立や恋愛の自由が論じられます。平塚らいてうは、女性として恋愛の自由を主張します。女性は愛される対象ではなく、愛する主体なのだと言います。そして戦争の時代、女性たちはどのような生き方を選んだのか。戦争と女性の関わり方を考えます。

学習目標・到達目標

歴史に関心をもってほしいと思います。歴史に学び、現在を生きる教養を形成してほしいものだと思います。現在の女性の社会的地位がどのようなものなのか。いかなる問題を抱えているのか。それを歴史的に考えられることを求めます。いまの自分の生き方を歴史的状況にかかわらせて論じられることが重要だと思ってください。

準備学習

女性の歴史を学び、自らの生き方を考えてほしいと思います。過去を学ぶことは、現在と無関係ではなく、現在と未来を生きていくために、過去を学ぶのです。また、自分と無関係に学ぶのではなく、自分の生き方に引きつけて、女性の過去を学んでほしいと思います。準備学習として、「日本の近現代史」をきちっとおさらいしておくこと。

評価方法その他

小レポート等平常点20%、試験80%、など総合評価(100%)。

週 テーマ・授業目標等

1. 女大学とは何か
2. 女大学批判
3. 福沢諭吉の女性観
4. 明六社の女性論
5. 自由民権運動と女性
6. 植木枝盛の女性観
7. 田俊子の女性論
8. 良妻賢母主義思想
9. 民法典論争と女性
10. 良妻賢母主義教育と高等女学校
11. 女性の自立と職業
12. 北村透谷の恋愛論
13. 平塚らいてうの「新しい女」の主張
14. 職業・戦争と女性
15. 生活科学、母性、戦争、
16. 試験

使用教科書名

特に決めません。プリントを用意しますので、大切に保管してください。試験に使います。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コンピュータ演習bに引き続き授業である。多様な統計を読み解く力をつけ、表計算ソフトを使い、集計表の作成、関数の利用、グラフの作成などについて、応用操作ができるようにする。説明・練習と演習問題の提出を行い、事例に沿って理解を深めていく。

学習目標・到達目標

表計算ソフトで集計表の作成、関数の利用、グラフの作成などの応用操作を習得する。

準備学習

コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス:授業の目的・概要、授業計画、評価方法など
- 2 統計調査を読む①:グラフの読み方、官庁統計、国勢調査、家計調査
- 3 統計調査を読む②:研究調査、事業者が実施した調査
- 4 データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習
- 5 基本的な統計処理①:単純集計・度数分布、統計処理(平均・分散・標準偏差)の説明と練習
- 6 基本的な統計処理②:統計処理(クロス集計)の説明と練習
- 7 演習問題①:基本的な統計処理
- 8 アンケート調査の入力・集計の説明・練習
- 9 演習問題②:アンケート調査の入力
- 10 アンケート調査の集計・分析の説明・練習
- 11 演習問題③:アンケート調査の集計・分析
- 12 高度なグラフ作成の説明・相関係数・偏相関係数を使って、因果関係と相関関係を説明・練習
- 13 演習問題④:相関関係
- 14 質的データの読み方と基本的なまとめ方①:質的データを読み解く
- 15 質的データと量的データのまとめ方②:高度な関数の説明・練習
- 16 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

情報処理演習Ⅱに引き続き授業である。世の中の膨大な量の情報の中から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集・登録し、登録されたデータの中から必要なものを効率よく検索したり見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールがデータベースである。ここではデータベースの基本的な考え方を学ぶとともに、データベース定義および操作に関する能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

各種データベースの機能と特徴を理解する。
表計算ソフトによるデータベース操作を習得する。
データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作を習得する。

準備学習

コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス(授業の目的・概要、授業計画、評価方法など)
- 2 ファイル管理とファイル編成法
- 3 データベースの概念と種類
- 4 データベース管理システムの機能
- 5 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①
- 6 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作②
- 7 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③
- 8 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作④
- 9 表計算ソフトによる高度なデータベース操作①
- 10 表計算ソフトによる高度なデータベース操作②
- 11 表計算ソフトによる高度なデータベース操作③
- 12 表計算ソフトによる高度なデータベース操作④
- 13 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作①
- 14 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作②
- 15 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作③
- 16 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。

学習目標・到達目標

大学での学びのなかから、興味のある課題を見出し、卒業論文・製作を行うこと。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.問題の分析と課題の設定(1)
- 3.問題の分析と課題の設定(2)
- 4.先行研究・参考文献の調査
- 5.先行研究・参考文献の調査・発展
- 6.先行研究・参考文献の調査・まとめ
- 7.研究方法の決定(1)
- 8.研究方法の決定(2)
- 9.研究方法の決定(3)
- 10.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(1)
- 11.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(2)
- 12.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(3)
- 13.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(4)
- 14.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(5)
- 15.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(6)

準備学習

自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

評価方法その他

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。研究成果の報告では、プレゼンテーション力を身につけ、説明と議論を可能にすること。

学習目標・到達目標

大学での学びのなかから、興味のある課題を見出し、卒業論文・製作を行うこと。

準備学習

自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

評価方法その他

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む) (1)
2. 調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む) (2)
3. 調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む) (3)
4. 調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む) (4)
5. 調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む) (5)
6. 論文作成(1)
7. 論文作成(2)
8. 論文作成(3)
9. 論文作成(4)
10. 論文作成(5)
11. 論文作成(6)
12. 論文要旨の作成(1)
13. 論文要旨の作成(2)
14. 卒論発表の準備(1)
15. 卒論発表の準備(2)

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

家族は最も身近な基礎集団です。時代とともに日本の家族がどのような変遷を遂げてきたか、その背景を探っていきます。また、現代社会において「家族は変わった」と感じている者は多いでしょう。個人化や多様化が進む現代家族の実態は、未婚化や晩婚化など、これまでの枠組みでは捉えきれなくなっています。クラスでは、家族の近代化から現代家族への変遷、現代家族をめぐる現象などを探っていきます。さらに、毎日のように報道される現代家族をめぐる諸問題、その現状や背景にあるものについても探っていきます。後半は、クラスの皆さんが興味を持ち、調べてまとめあげた「私の家族」の報告を交えながら進めていきます。

学習目標・到達目標

次の内容への理解を学習の目標にしてください。

- 1 現代において家族とは何かを考える
- 2 現代のファミリー・アイデンティティについて理解する
- 3 現代家族への変遷について知る
- 4 今日の家族の問題は何かについて考え、自分の意見をまとめる
- 5 自分の家族を分析する

準備学習

授業の後半に、授業内容から課題を選んで、自分の家族を分析してもらいます。授業の課題に関心をもったら、そのことについて、インターネットや、文献を探して、調べておきましょう。また、自分の家族とその課題についても話し合ってみましょう。家族の分析についてのレポートは、卒業論文を作成し、発表する練習になります。

評価方法その他

小論文 30%
発表レポート 40%
発表レジュメと発表態度 30%
その他、授業態度など、総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 家族の「近代化」の変遷 1 近代家族の誕生
- 第2週 家族の「近代化」の変遷 2 近代家族の大衆化
- 第3週 家族の形態と機能の変化
- 第4週 現代家族・現代家族の住まい方
- 第5週 「食卓」の風景を通して見る家族の変遷
- 第6週 女性と家と家族変動
- 第7週 子どもの社会化と親子関係
- 第8週 離婚と離婚後
- 第9週 高齢者と家族
- 第10週 ワーク・ライフ・バランスと家族
- 第11週 家族と医療
- 第12週 地域社会の変動・ネットワークにみる家族変遷
- 第13週 『私の家族と現代家族』
- 第14週 『私の家族と現代家族』
- 第15週 『私の家族と現代家族』

使用教科書名

石川実『現代家族の社会学』有斐閣ブックス
授業にてプリント配布します

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代における親子が抱える問題について映像等を用いながら考察を行う。比較考証の対象として平安後期物語に見える親子関係を軸に据え、現代人が抱く世の中に対する不安感や他者との違和感について、分析してみたい。また、「住まう」という観点から家財と人間関係というモノと人のつながりを通して家族という存在を考究するワークショップを行う。その後、「近代家族」崩壊以後、どのような家族像が提起されているか、現代の小説を通じた考察を行うことで、今後の家族のあり方について理解を深める。

学習目標・到達目標

家族は身近なだけに、思い込みや偏見などの醸成される母胎となりやすく、また現在の家族形態の絶対視も起こりやすい。そうした思い込みを排して、家族の歴史的な変遷や成り立ちをよく理解し、広く家族の在り方を考える公平な態度を養う。

また、歴史資料とは異なる文学作品等幅広い資料を読み取る能力を高め、分析方法を身につけることを目標とする。

準備学習

授業への積極的な参加を期待します。「家族の文化史」で取り上げる問題を自らの問題として感じかつ考えることから、現代の社会状況を分析してみましよう。

評価方法その他

出席レポート(平常点)60%、教場レポート40%で評価。(平常点は、各回に回答する小レポートによって評価する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 母の束縛を生きる娘の問題 「ラプンツェル」を読む
2. 母の束縛を生きる娘の問題 「ラプンツェル」の映像解析1
3. 母の束縛を生きる娘の問題 「ラプンツェル」の映像解析2
4. 母の束縛を生きる娘の問題 「浮舟」
5. 違和感を生きる「虫めづる姫君」
6. リモデルできない娘「夜の寝覚」1
7. ぼくのおとうさんは誰ですか 「狭衣」狭衣中将
8. ぼくのおとうさんは誰ですか 「狭衣」嵯峨の院
9. ぼくのおとうさんは誰ですか 「浜松中納言物語」
10. モノと住まいと家族関係
11. 校内特別授業「地域で支える子どもの育成」外部講師
12. 家族をつくる 妹尾河童「少年H」
13. 家族をつくる 朝井リョウ「世界地図の下書き」
14. 家族をつくる 吉本ばなな「鳥たち」
15. まとめの課題「バイオリン人形」を読んで

使用教科書名

井上・下島・鈴木編『平安後期物語』翰林書房 2012年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの成長、発達にとって(遊び)の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると、(遊び)は必ずしも子どもだけのものではなかったことがわかる。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標・到達目標

子どもの成長に欠かせない遊びの果たす役割や遊びの内容について理解し、保育者として知識を身につける。また、家庭科教諭を目指す学生は、保育分野の教育の方法など指導者としての技能を身に付けることを目指す。

準備学習

現在では、子どもの遊びはかつてのような輝きを失い、どちらかといえば、早期「教育」に飲み込まれてしまっている。しかし、歴史を振り返ってみれば、遊びはおとなのものでもあり、人の社会化の過程で、きわめて重要な役割を果たしてきた。

遊びは、文明の重要な要素のひとつであり、人間性の発達には欠かせずこのできない重要なキーでもあることをこの講

評価方法その他

課題レポート(2本)70%、授業中の質疑応答および小レポートによる出席点30%、で総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 子どもの遊びの特徴
2. マザーグースのなかの遊び
3. 日本の童話のなかの遊び
4. 現代の遊びの環境
5. ごっこ遊び1
6. ごっこ遊び2
7. 遊びと子どもの発達
8. まとめ(遊びの復権)レポート提出
9. いろいろなおもちゃ
10. 子どもは玩具で舞台を創る
11. 玩具と舞台でめざめるもの
12. イメージの拡大と大きな現実
13. 遊びの原風景
14. 遊び、仕事、成長(ライフステージという考え)
15. レポート

使用教科書名

基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

障がいのある人がいる家族を取り巻く社会的な状況の変化を理解し、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援を提供するため、さまざまな種類の援助活動について理解することを旨とします。校外授業として、国立ハンセン病記念館（東村山市）の見学を予定しています。

学習目標・到達目標

家族を取り巻いている社会的な状況の変化と家族のニーズを理解することを求めます。特にこの授業では、障がいのある人がいる家族が直面する困難とそれに応じたさまざまな支援のあり方を考えることが出来るようになることを目指します。

準備学習

家族間のつながり、家族と地域とのつながりなどを自分のこととおして考えてみましょう。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート(50%)、試験(50%)による総合評価を行います。
(平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断)

週 テーマ・授業目標等

1. 家族支援とは何をするのか
2. 障がいのある人の家族支援の先駆者:石井筆子
3. 障がいイメージの変化と福祉施設での支援
4. 母親に子どもの障がいを知らされる
5. 子どもの障がいを理解する
6. 子育て支援と福祉制度
7. 学齢期の支援
8. きょうだいとの関係支援
9. 発達障害者を抱える家族への支援
10. 精神障害者を抱える家族への支援
11. ハンセン病資料館見学
12. ハンセン病資料館見学
13. 家族が障がいをオープンにする
14. 家族から自立して生活する:ダンの自立観
15. 家族支援の課題
16. 試験

使用教科書名

使用しません。適宜プリント配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家族の法を学ぶとは、一つには、家族に生じるトラブルを解決したり、未然に予防したりすることであるが、そればかりではない。私たちの現在の家族法にはもちろん、歴史があるし、現在の制度ができた社会的な背景がある。そして、社会は常に動き、それに伴って家族法も変化しつつある。家族法を学ぶとは、家族というものに対する考え方、家族と個人、家族と社会、家族と国家との関係についても学ぶことである。家族法を学ぶことを通して、広い視野で法を学ぶことの重要性も認識してもらいたい。

学習目標・到達目標

家族法は、もっとも生活の身近な部分に関係する法といえよう。まだ家族に関する法律問題に直面したことのない人が多いと思うが、トラブルを経験して法律に関心を持った人も中には家族に関する問題、事件も多くある。家族法を学ぶことによって、身近なできごとに対処するための知識や、メディアによってもたされる情報を正しく理解するための知識、家族法へのリテラシーを養ってもらいたい。

準備学習

授業で配付したレジュメや資料を読んで復習して理解を深めてもらいたい。
日頃から、家族の問題に関するニュースに関心をもって、とくに新聞を気をつけて読むこと。

評価方法その他

授業の区切り小テストを行う。
評価は、定期試験70%、小テスト・平常点(出席状況および受講態度など)30%を総合して行う。

週 テーマ・授業目標等

1. 家族と法について考える ガイダンス
2. 結婚(1)現代社会と結婚:結婚をめぐる社会の変化
3. 結婚(2)結婚の成立:法的に結婚するとは
4. 結婚(3)夫婦の身分関係:他人同士の関係との違い
5. 結婚(4)夫婦の財産関係:夫婦の財産は誰のもの?
6. 親子(1)子の出生と法:誰が親なのか
7. 親子(2)親の責任:子どもを育てるとは
8. 親子(3)人工生殖技術と家族:解決されなければならない問題
9. 離婚(1)離婚をめぐる社会の変化
10. 離婚(2)離婚の方法
11. 離婚(3)離婚後の生活:母子あるいは父子の生活
12. 事実婚:いろいろなパートナー関係
13. 夫婦の氏:結婚と姓の問題
14. 相続と遺言(1)相続
15. 相続と遺言(2)遺言
16. 試験

使用教科書名

教科書はとくに使わない。授業の際にレジュメ、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材を紹介する。DVDや各種消費者教育啓発資料などを紹介する。消費生活関連資格、繊維製品品質管理士、環境カウンセラーなどの資格取得にも直結する消費者能力検定受験対策テキストを教科書に使いながら学習していく。

学習目標・到達目標

消費者教育とは、消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育及びこれに準じる啓発活動である。「消費者教育の推進に関する法律」が制定された。消費者教育は就学期間だけ学習するのではなく、生涯を通じ学び続けなければならない、さまざまな場面の特性に応じて、各教育主体が連携・協働することが重要である。市民が消費生活に関する知識を習得し、適正な行動に結びつける実践的能力の育成をどう進めてくかを事例に基づいて学ぶ。

準備学習

必ず授業の予習・復習をすること。消費生活アドバイザー、消費生活専門相談員、繊維製品品質管理士、環境カウンセラーなどの資格や、食品表示検定、エコ検定について紹介するので、関心のあるものについては各種機関のHPを見ること。

評価方法その他

平常点(60%)、レポート(40%)
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 消費者教育推進法や消費者関連法規の解説。消費者力検定試験や消費生活アドバイザーなどの資格について紹介する。消費者問題の歴史を学習する。
- 2 テキスト序章 消費生活と法律・行政 消費者と法律、消費者基本法、消費者安全法、消費者教育推進法、消費者行政組織 司法について大枠の説明をする
- 3 テキスト1章 契約、契約の無効、未成年者契約、契約の解除、契約に必要な知識、消費者契約法、特定商取引法、中途解約、広告を見るとききの注意を解説
- 4 テキスト2章 悪質商法 キャッチセールス、マルチ商法などDVDを視聴し、消費者センターに寄せられた事例から消費者教育のありかたを学習
- 5 テキスト3章 衣生活 衣服の機能、繊維、衣服素材の性能、衣服素材の改質と加工、クリーニング事故賠償基準の算出方法を紹介。洗濯のDVDを視聴
- 6 テキスト4章 食品の表示法一元化の背景と食品表示法の概要について説明。景品表示法など、広告表示法についても解説。
- 7 序章3にある、裁判とは、民事裁判と刑事裁判の違い、裁判のルール、簡易裁判所で行われている手続き、裁判員制度、法テラスについて解説。
- 8 東京簡易裁判所の裁判官から民事調停制度について講演をいただく。
- 9 テキスト5章 住生活 住生活の快適性、住宅と法律、不動産の売買、不動産の賃貸借について、ワークシートの作業をしながら学習する
- 10 テキスト6章 サービス ネットショッピング、インターネットのセキュリティ対策、スマートフォン、運送、医療サービス、介護保険制度、葬儀を学習
- 11 テキスト7章 生活と家計管理 家計管理、クレジットの利用、電子マネー、貸金業法、金融商品、相続、遺言、生命保険、損害保険、税金について
- 12 東京都消費生活総合センター(最寄駅は飯田橋)を見学。展示室や図書室も見学する。2時間目に間に合うようにグループ別に分け時間調整を図る。
- 13 テキスト8章 環境 地球環境問題や環境関連法規について学習する。エコ検定試験が12月にあるので、事前の講義で検定試験の内容を紹介する
- 14 学校における金融教育の重要性が高まっている。小学生に金融教育を行うとしたら、どのような授業を展開するか、教材づくりと指導法を解説する。
- 15 近年、旅行サービスに関する消費者問題が増加している。授業では希望する国のパンフレットを持参し、見ながら検討をしていく。パリのDVDを視聴

使用教科書名

消費者力検定 受験対策テキスト 2014年改訂版 一般社団法人日本消費者協会発行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

マネジメントの基本的考え方を歴史に学び、それを基礎として本題のリスクマネジメントについて講義する。組織としてのリスクの予測・調査・分析・評価の仕組みについて学ぶ、考える素材として、東日本大震災における政府の対応について危機管理の観点から考察してみたい。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. ガイダンス
2. マネジメントの思想と歴史
3. "
4. "
5. 東日本大震災とリスクマネジメント
6. "
7. "
8. リスクマネジメント
9. "
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 授業のまとめ

準備学習**評価方法その他**

期末試験70%と出席状況および提出物を含む授業への参画度30%

使用教科書名

使用しない。必要な資料はプリントで配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

消費者保護基本法から36年ぶりに改正された消費者基本法は、消費者を保護の対象から主体的に自立する存在とし、基本理念には消費者の権利が明記された。また2009年には消費者庁が発足した。この科目では、わが国のこれまでの消費者問題と運動を歴史から学ぶとともに、消費者の権利や利益などに関する施策・制度・法律について学習する。また、最近の消費者問題、消費者トラブルを取り上げ、対処方法や未然防止などについて学び、自立した消費者や消費者市民社会について考える。

学習目標・到達目標

消費者問題と消費者運動の変遷、消費者に関係する施策・制度・法律について学習する。
消費者問題の現状を把握し、問題解決にあたって主体的に行動できる消費者や社会について考える。

準備学習

新聞・テレビ等からの消費生活に関する情報に関心を持って授業に臨んでいただきたい

評価方法その他

平常点60%、定期試験40%
平常点は出席状況、課題提出状況など総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、消費者問題
2. 消費者問題の変遷と消費者運動1
3. 消費者問題の変遷と消費者運動2
4. 消費者行政1(消費者保護行政から)
5. 消費者行政2(自立支援のための行政)
6. 消費者トラブルと関連する法律1
7. 消費者トラブルと関連する法律2
8. 消費者トラブルと関連する法律3
9. 消費者トラブルと関連する法律4
10. 消費者トラブルと関連する法律5
11. 消費者トラブルと関連する法律6
12. 被害救済・消費者団体訴訟制度
13. 企業における消費者対応
14. 海外の消費者問題
15. 消費者教育

使用教科書名

『消費者政策 消費生活論 第5版』鈴木深雪 尚学社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

2009年に消費者庁が発足し、関連する政策や法律の整備が展開されている。本講義では、消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための方策を探る。

学習目標・到達目標

消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要を理解する。自らが、日常の生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考え、また行動できるようになる。

準備学習

関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

評価方法その他

定期試験 70%
平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 消費者問題とは何か
- 2 消費者問題と消費者政策
- 3 消費者法とは何か
- 4 生命・身体や財産にかかわる消費者被害
- 5 消費者の安全に関わる政策と法律①:食品を中心に
- 6 消費者の安全に関わる政策と法律②:製品を中心に
- 7 消費者の安全に関わる政策と法律③:事故情報を中心に
- 8 消費者行政の実際
- 9 消費者被害と法律①:取引被害
- 10 消費者被害と法律②:高齢者や知的障害者などの被害
- 11 消費者団体の役割
- 12 企業の消費者対応
- 13 海外の消費者政策 ー消費者教育との関わりで
- 14 消費者の権利と責任とは何か
- 15 消費者のための政策と法律のあり方
- 16 期末試験

使用教科書名

坂東俊矢・細川幸一著『18歳から考える消費者と法(第2版)』法律文化社、2014年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高度情報社会の実情について、生活やビジネスの側面から多角的に講義する。そしてそれに伴って派生するさまざまな問題について考える。

学習目標・到達目標

現代は高度情報社会である。
デジタル技術の進歩はまだ発展を続けており、その成果が私たちの生活や仕事に還元され続けている。

週 テーマ・授業目標等

- 1.「情報」とはなにか。
- 2.情報と社会の変化1
- 3.情報と社会の変化2
- 4.情報と社会の変化3
- 5.高度情報社会
- 6.情報とビジネス1
- 7.情報とビジネス2
- 8.情報とビジネス3
- 9.情報とメディア1
- 10.情報とメディア2
- 11.情報とメディア3
- 12.情報とメディア4
- 13.高度情報社会における問題1
- 14.高度情報社会における問題2
- 15.まとめ
- 16.試験

準備学習**評価方法その他**

出席を重視する。
平常点(50点)とレポート、試験(50点)の結果を総合的に評価する。

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会調査の意義を理解し、衣食住の身近な消費生活をテーマとして調査を行うための、基礎知識と技術を習得する。まず社会調査の目的・調査の種類と実例について理解する。次に、量的調査と質的調査によって科学的な根拠をもって生活を見直す方法を理解する。社会調査の技術を身に付け、生産消費者教育の基礎的知識と技術を習得する。

学習目標・到達目標

生産消費者(プロシューマー)教育の基盤となる知識を習得する。持続可能な消費のために何が必要であり自分は何ができるかを考えることを通じて、生産と消費の関係について理解し、持続可能な社会に対する興味・関心を深める。

週 テーマ・授業目標等

- 1 社会調査・プロシューマー調査とは
- 2 社会調査の目的と意義:量的調査・質的調査 多様な調査方法 インターネット調査
- 3 社会調査史:消費者と事業者の関係の変容のなかでの社会調査 消費者問題と相談・調査
- 4 調査倫理と調査のデザイン:構想・計画/準備/実査/報告/データの管理 既存の調査研究の探しかた
- 5 社会調査の種類 具体例:国勢調査・家計調査・全国消費実態調査・社会生活基本調査など
- 6 社会調査の方法:因果関係とは 理論仮説・作業仮説とその検証 測定の信頼性
- 7 量的調査(1)種類:官庁統計 学術調査 世論調査 マーケティング・リサーチ
- 8 量的調査(2)調査方法:対象者の選び方 サンプリング 調査法 調査票の作成 プリテスト質問形式 基礎的集計の方法
- 9 量的調査(3)集計と分析:データファイルの作成 変数間の関係 資料やデータの分析の諸過程
- 10 質的調査
- 11 フィールドワーク
- 12 調査の実際①:資料収集 データ収集 調査票作成
- 13 調査の実際②:実施 基礎的集計
- 14 調査の実際③:調査結果分析 報告資料の作成
- 15 調査報告会

準備学習

調査では、各自が興味のある身近なテーマを設定します。
「暮らし」についての好奇心を高めておきましょう。

評価方法その他

- (1)調査報告 40%
 - (2)最終試験 30%
 - (3)平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

轟亮・杉野勇編著『入門・社会調査法(第2版):2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社、2013年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地産地消をテーマに、社会調査により資料やデータを収集し、分析し、地域や企業と連携し、報告する形に整理していく具体的な方法を習得する。消費（食）と生産（農）をテーマに、アンケート調査を実施し、フィールド調査を行う。アンケート調査とフィールド調査を接合し、調査結果を報告する。

学習目標・到達目標

企業や自治体等との連携・協働により持続可能な消費にむけた活動を実践している事例を学び、発表する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 先行研究の整理:既存統計を活用し、家族と食の消費の変容に関する基礎的知識をつける
- 3 調査目的と調査方法の決定 アンケート調査の目的・サンプリング方法の決定、フィールド調査インタビュー対象決定依頼
- 4 アンケート調査・フィールド調査:企画と設計、調査仮説の話し合い
- 5 アンケート調査・フィールド調査:質問文・調査票の作成 サンプリング実施
- 6 アンケート調査・フィールド調査:調査の実施 調査票の配布・回収
- 7 アンケート調査・フィールド調査:調査データの整理 (コーディング、データクリーニング)
- 8 フィールド調査・フィールド調査:インタビュー調査の実施
- 9 フィールド調査・フィールド調査:インタビュー調査の整理
- 10 アンケート調査とフィールド調査の接続 結果概要の作成
- 11 調査結果報告資料の作成
- 12 調査結果報告資料の発表
- 13 調査結果報告資料の振り返り
- 14 生産消費者演習まとめ
- 15 最終報告会

準備学習**評価方法その他**

- (1)フィールド調査報告書 30点、
 - (2)アンケート調査・調査票 30点、
 - (3)最終発表・レポート 30点、
 - (4)平常点 20点
- 計 100点

使用教科書名

活動に応じて指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本酒を軸に酒蔵や酒販店などの町おこしにコーディネーターが関わる事例での産学連携の調査研究。まず分担により日本酒に関して①歴史②種類と作り方③食文化との関係④流通と販売⑤地域特性⑥お酒に関する最近の動向などを調査する。次に仕込みがスタートした時点での蔵見学を実施する。酒消費に関するテーマを決定し机上ではなく実際に活動することを目指す。

学習目標・到達目標

日本酒の普及促進を目指したプロジェクト。酒を取り巻く現状を踏まえて、酒の普及促進のために自分たちができるプロジェクトを企画して実行する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 授業の目的,協力企業等を説明。
- 2 事業者からの講義「お酒について」 酒類消費の動向 地域経済と酒蔵
- 3 講義「プロジェクトの進め方」
- 4 基礎調査レポート報告(1)「日本酒の歴史」「コメと酒」「種類と作り方」「食文化との関係」など 意見交換。
- 5 基礎調査レポート報告(2)「製造・流通・販売」「地域特性」「酒消費に関わる近年の動向」など 意見交換
- 6 事業者対象フィールド調査企画 調査依頼 仮説構成
- 7 フィールド調査実施(1) 埼玉県の酒蔵 現地で意見交換
- 8 フィールド調査実施(2) 神奈川県の酒蔵 現地で意見交換
- 9 フィールド調査実施(3) 首都圏のスーパー・居酒屋・酒販店などでの聞き取り
- 10 日本酒から考える食と農 フィールド調査まとめ
- 11 課題抽出/課題整理/アイデア抽出/調査テーマの決定
- 12 酒消費に関するアンケート調査(1) 調査項目の設定、対象者の選定
- 13 酒消費に関するアンケート調査(2) 質問文・調査票の作成
- 14 酒消費に関するアンケート調査(3) 調査実施
- 15 酒消費に関するアンケート調査(4) 調査結果集計

準備学習

日本酒の普及促進のために自分たちで考え動くプロジェクトです。体験型学習から日本酒を守る、どのようなアイデアが飛び出すか、楽しみにしています。

評価方法その他

- 調査レポート報告まで 30点
プロジェクトへの参加 40点
成果発表会での発表内容 30点

使用教科書名

時々指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

消費者教育、金融経済教育、キャリア教育など、さまざまな領域で求められている生涯を見通した生活設計力とは何かを検討する。

10年後20年後に自分が実現したい目標を意識し、金融に関する理論と実践の基本を理解し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。

さらに、女性と財産をテーマに、家計調査などデータを集積し分析して、経済環境・社会政策に対応して生活者を支援する専門的能力を育成する。

学習目標・到達目標

金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー（4分野15項目）」の習得を基本に実施する。

自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体（銀行、証券、保険等）の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。

準備学習

マナビフォリオを活用予定です。振り替え授業日（土曜日）がレポート発表日ですので留意してください。『生活創造』時代のライフデザイン実現には、金融知識・金融リテラシーが必要です。家庭経営学概論（1年）家庭経済学（2年）の知識をもとに授業をすすめます。他科目とも関連付け社会で求められるフィナンシャルリテラシーを身につけます。各授業ごとに、事前に学んでおく内容、振り返りの内容を指示します。

評価方法その他

授業ごとのリアクションペーパー 30点
スクラップブックなど提出資料 20点
14回目の授業でのレポート発表（プレゼン資料・質疑含む）20点
最終レポート 30点

週 テーマ・授業目標等

- 1回 家計管理と生活設計①【金融広報中央委員会、金融庁】
- 2回 家計管理と生活設計②【金融広報中央委員会】
- 3回 家計管理と生活設計③【金融広報中央委員会】
- 4回 金融取引の基本【全国銀行協会】
- 5回 金融分野共通①【金融広報中央委員会】
- 6回 金融分野共通②【全国銀行協会】
- 7回 保険商品①【生命保険文化センター】
- 8回 保険商品②【日本損害保険協会】
- 9回 ローン・クレジット①【金融広報中央委員会】
- 10回 ローン・クレジット②【全国銀行協会】
- 11回 資産形成商品①【日本証券業協会】
- 12回 資産形成商品②【投資信託協会】
- 13回 地域金融機関の役割【信金中金】
- 14回 レポート発表
- 15回 アドバイスの活用、全体まとめ【日本FP協会、金融庁】

使用教科書名

生活設計にかかわる講師の団体が提供する資料を教材として使用予定である。
金融広報中央委員会 (<http://www.shiruporuto.jp/>)
日本FP協会 (<http://www.jafp.or.jp/>)
生命保険文化センター (<http://www.jili.or.jp/>)
損害保険協会 (<http://www.sonpo.or.jp/>)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「エコロジー」とは、狭義には生物学の生態学のことを指すが、広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指している。このように「エコロジー」は様々な意味を持っているが、この授業では、主に「くらし」に関係した環境問題について解説し、人類と環境との共存について学ぶ。環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で、見学を通して自然保護について考える。

学習目標・到達目標

この科目は環境に対する人類の影響、特に「くらし」との関連性について見学や簡単な測定などを通して、理解することを目標にしています。

準備学習

1年次に開講される基礎科目「環境と資源」を履修すると授業内容が分かりやすくなると思います。

評価方法その他

定期試験（80%）、レポート（20%）の総合評価
見学があるので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学ための入園・入館料、交通費がかかります。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 地球の歴史と環境
3. 地球環境と生態系
4. 環境問題の歴史
5. 環境問題の実態1（大気1）
6. 環境問題の実態2（大気2・水質1）
7. 環境問題の実態3（水質2）
8. 環境問題の実態4（都市化に伴う問題）
9. 環境問題の実態5（自然に与える影響・生物多様性）
10. くらしと身近な環境問題（まちづくりと環境；ヒートアイランドを測る）
11. 環境とくらしの共生を考える1（ビオトープを例として）
12. 環境とくらしの共生を考える2（ビオトープを例として）
13. 環境保護教育・活動（見学）1（自然教育園見学）
14. 環境保護教育・活動（見学）2（自然教育園見学）
15. 環境保護教育・活動（見学）3（北の丸公園見学）
16. 定期試験

使用教科書名

プリントを配布する予定。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わろうとしている。この授業では、身近な暮らしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また、以下の見学を予定しており、見学を通して自然観や保全方策などを理解する。

①葛西臨海水族園；②国立科学博物館；③国立極地研究所

学習目標・到達目標

環境問題に対する基礎知識を学び、環境保護による持続可能な社会について理解を深める。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(授業の概要)
2. 環境を知る1(生態学とは何か?)
3. 環境を知る2(環境条件)
4. 環境問題の現状1
5. 環境問題の現状2
6. 生物と環境の関わり合いについて1(生物多様性)
7. 生物と環境の関わり合いについて2(国立科学博物館見学)
8. 生物と環境の関わり合いについて3(地球環境と人類の活動1)
9. 生物と環境の関わり合いについて4(地球環境と人類の活動2)
10. 生物と環境の関わり合いについて5(国立極地研究所見学)
11. 環境を保護する方法1(食べ物はどこから来るのか?)
12. 環境を保護する方法2(フードマイレージ1)
13. 環境を保護する方法3(フードマイレージ2)
14. 環境を保護する方法4(葛西臨海水族園見学)
15. 環境保護政策について
16. 定期試験

準備学習

「エコロジー」「環境と資源」を履修していると理解しやすい。

評価方法その他

定期試験(60%)、レポート(40%)の総合評価。
見学が多いので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学の参加費や入園・入館料、交通費がかかります。

使用教科書名

プリントを配布する予定。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

わが国ならびに諸外国の建築保存と歴史を活かしたまちづくりの歩みを概観するとともに、その過程で検討されてきた先達たちの考えを学ぶ。それと同時に、関連する現行法と諸制度について学び、それがどのように運用されているかを知る。また、実際に行われてきた建築保存の実例や歴史まちづくりの実例をさまざまな観点から検討し、より実践的な知識を身に着ける。

学習目標・到達目標

都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりに関して考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史性の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるよう、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。

準備学習

この授業は「建築保存」の授業です。画一的なまちづくりが否定される現在、地域らしさを出すために、建築保存が脚光を浴びるようになってきました。保存問題は、しばしばマスコミによって取り上げられます。日頃から、新聞記事などのチェックが必要となります。

週 テーマ・授業目標等

- 1) イントロダクション(基本用語、等)
- 2) 建築保存とまちづくり
- 3) 建築保存の歩み ① 日本
- 4) 建築保存の歩み ② 諸外国
- 5) わが国の現行法制度を概観する
- 6) 建築保存と野外博物館
- 7) 震災から歴史的建造物を守る
- 8) 事例検討:解体修理工事①
- 9) 事例検討:解体修理工事②
- 10) 事例検討:身近な建物の修理
- 11) 建物の調査①
- 12) 建物の調査②
- 13) まちなみの調査①
- 14) まちなみの調査②
- 15) まとめ

評価方法その他

レポート(50%)と平常点(授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する:50%)による

使用教科書名

特に定めない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

独立行政法人の国立の自然の家や野外活動センターで3泊4日程度の業務の実習体験をする。様々な施設で多くの子どもやその保護者と接することで、子ども達の本当の姿を見るとともに、現代の子ども達がなぜ野外での活動が必要なのかを理解する。

週 テーマ・授業目標等

国内にあるいくつかの国立の青少年野外活動センターで、実務の経験をする。実習はボランティアとして受け入れてもらい、活動のフロント業務を体験する。3泊から1週間の期間を考えている。期間中は当該施設のプログラムに積極的に参加し、終了後にレポートを提出する。

学習目標・到達目標

子どもを自然の中で育てることの重要性に気づくとともに、自然の中でどのように子どもを育てるかについて、その保護者にアドバイスができるようになること、様々な企画やプログラムを考え実行できるようになること。

準備学習

夏休みを利用して青少年自然の家、野外活動センター、キャンプ場など多くの公的な自然体験活動施設でボランティアを体験して欲しい。このような施設での活動を通して現在の子ども達の遊びや生活習慣、子ども同士のコミュニケーションを学び、今、子ども達に何が求められているのかを体験を通して考えて欲しい。

評価方法その他

実習経験とレポートの両方で評価する。実習体験70%、レポート30%。

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ツーリズムd（環境）では、特にエコツーリズムとよばれる活動について理解を深めます。エコツーリズムは、単に自然豊かな場所に旅行することではありません。その地域の環境を、生活文化・自然生態系の総和として理解し、これらを学ぶことを目的とするもので、その活動には、訪れる地域社会の発展や貢献を目指すことも含まれています。この演習では、エコツーリズムについて、エコツアーへの参加、展示会や博物館、研究機関の見学によって実感を伴った理解を培います。特に、都心でのエコツアーに参加することにより、最も身近な都心でのエコツーリズムの実態についても理解を深めます。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. エコツーリズムとは何か？1
3. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)1
4. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)2
5. エコツーリズムの実例1
6. 都心でのエコツアー実践(ツアー参加)
7. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)3
8. 日本の自然について学ぶ
9. 自然の多様性について実感する(国立科学博物館見学)
10. 多様なエコツーリズム(エコプロダクツ見学)
11. 地球環境とエコツーリズム1
12. 地球環境とエコツーリズム2
13. 環境研究の現場(国立極地研究所見学)
14. エコツアーを創る1
15. エコツアーを創る2
16. エコツアー発表会

学習目標・到達目標

幅広い見学を通して環境と人との関係を学び、エコツーリズムについて実感を伴った理解を深める。特に大都市・東京で環境・文化を持続可能な資源として利用することを学ぶ。

準備学習

都市における環境・文化に関する見学を通して、持続可能な環境と人との関係について体験を伴った理解が持てるような演習内容なので、「エコロジー」「環境と資源」を履修していると理解しやすい。

評価方法その他

演習への参加と取り組み(60%)、レポート+課題(40%)の総合評価。

見学が多いので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学の参加費や入園・入館料、交通費がかかります。また、水曜日3・4時間目

使用教科書名

プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

都市計画は、人間が生活する場と空間をもたらす、都市の環境と施設を科学的方法によって計画的に実現する手段である。現在起きている都市問題の解決のためには、都市計画が果たす役割は大きなものがあるとともに、「広くまちづくり」を意識した都市・地域計画を実行することが求められる。本講では都市計画の基本的な仕組みを理解するとともに、具体的な事例を通して実践的な知識を身につけることをねらいとする。

学習目標・到達目標

都市計画は建築やデザインだけでなく、市民の生活を支える役割を担っており、基本となる学問領域である。都市や地域に興味を持ち、自らまちづくりへ参画する楽しさを知り、子育てしやすい街、バリアフリー化された街、環境にやさしい街など、今後の我が国の都市計画の向かう先について、幅広く考え方を養う。

準備学習

・住んでいる街の事、好きな街のことを調べてみましょう。
 ・講義スライドは、講義終了後にウェブサイトへUPしますので、各自ダウンロードして活用してください。また、毎回15分間の講義メモも配布します、しっかり復習すること。
 ・学術、実務の両面から詳しくお話しします。質問をどんどんしてください、講義終了後にも受け付けます。

評価方法その他

最終回に予定しているグループ討議内容(40%)
 最終レポート(50%)、平常点(10%)による評価
 ※グループ討議の評価は、班としてのまとめや発表を加味して総合的に判断する

週 テーマ・授業目標等

1. 都市計画とまちづくり(都市計画の意味・意義、ガイダンスなど)
2. 都市計画の歴史①(近代・現代都市計画の思潮)
3. 都市計画の歴史②(我が国の都市の歴史と現在までの軌跡)
4. 都市計画法①(都市計画法と都市計画マスタープラン、事例考察)
5. 都市計画法②(用途地域<市街化区域の話、市街化調整区域の話>)
6. 市街地の整備①(土地区画整理事業、市街地再開発事業 事例考察)
7. 市街地の整備②(密集市街地整備、地区計画の策定、複合的な計画)
8. 交通のプランニング(道路、公共交通 役割・行政の関わり方)
9. 公園のプランニング(都市公園、都市計画公園、児童公園の計画と設計)
10. 集客施設のプランニング(大型ショッピングモールのプランニング事例)
11. 現代都市が抱える諸問題①(人口減少、少子高齢化、地方部の都市計画)
12. 現代都市が抱える諸問題②(福祉のまちづくり、バリアフリー、UD)
13. 現代都市が抱える諸問題③(災害に強いまちづくり、災害復旧・復興)
14. 現代都市が抱える諸問題④(都市計画における地方分権と市民参加)
15. まとめ(グループ討議 ※テーマはこちらで用意する)

使用教科書名

・教科書:「都市計画とまちづくりがわかる本」(彰国社)
 ※講義でも使用しますので、必ず購入するようにしてください。
 ※とてもわかりやすくまとまっており、1冊あれば十分な程です。
 ・講義中:毎度スライドを使用します。別途講義メモを配布します。
 ※講義スライドは、講義終了後翌日以降にウェブサイトへUPします。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

民俗学を受講しているものが望ましい。全国各地の祭礼と民俗芸能をスライド・ビデオを使って紹介し、祭礼と民俗芸能が地域の活性化に果たしてきた役割を考える。

学習目標・到達目標

日本人は世界でも指折りのお祭り大好きな国です。この祭礼に伴って全国各地で行われている七万とも八万とも言われる民俗芸能の一部を紹介しつつなぜ祭礼や民俗芸能を域社会は望んでいたのかなど、衣食住などや社会構成などくに地域料理と祭礼などにも視点を拡大して紹介したい。とくに祭礼の「おもてなし」文化も併せて紹介したい。

準備学習

東京や神奈川にも実に多くの民俗芸能が散見しています。講義だけでなく、民俗芸能は年間数十回調査研究に出かけておりますので一緒に「祭礼」を堪能してみましょう。

評価方法その他

出席と秋冬の民俗芸能を(東京・神奈川中心に)3・4回見学してレポートを作成する。

週 テーマ・授業目標等

1. 日本の民俗芸能 北海道・東北・関東
2. :
3. 春の民俗芸能
4. :
5. :
6. 夏の民俗芸能
7. :
8. 日本の民俗芸能
9. :
10. 秋の民俗芸能
11. :
12. :
13. 冬の民俗芸能
14. :
15. :

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

大学卒業後の人生においては、職業人としてだけでなく、家庭人（子ども、親、妻など）や市民などさまざまな役割を担いつつ、また、同時に結婚、出産、育児、介護などさまざまなライフイベントに向き合いながら歩んでいくことになる。本授業では、現代家政学の学びを踏まえ、関連する文献や資料等を参照しつつ、また、前向きに人生を創造して生きる女性の事例研究等を通して、「Life」、すなわち「いのち」、「人生」、「生活」の3つの視点から、女性のキャリアについて考える。

学習目標・到達目標

キャリア形成、特に女性のライフキャリアに関する基本的な知識や考え方を身に付け、「Life」、すなわち「いのち」、「人生」、「生活」の3つの視点をもって、卒業後の歩みを描けるようになることを目標とする。

準備学習

若者や女性の働き方や生き方、それらと関連する政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけてください。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、発言等）50点、レポート50点。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス ライフ・プロデュースとは
2. 女性のキャリア形成 ①働き方の変化
3. 女性のキャリア形成 ②ワークルール
4. 女性のキャリア形成 ③税と社会保障
5. 社会の変化 ①福祉と環境
6. 社会の変化 ②地域コミュニティ
7. 社会の変化 ③消費生活の変化
8. 事例研究1（ゲスト講師：調整中）
9. 事例研究1（女性の働き方を考える：ゲスト講師の講義の振り返り）
10. 事例研究2（女性の職場について）
11. 生命倫理について
12. 新しい働き方
13. 豊かさとは何か
14. 「私のライフキャリア」を考える
15. まとめ、振り返り

使用教科書名

テキストは使用しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

最近「加齢学」や「老年学」という言葉をよく耳にするようになってきた。2008年に総務省が発表した統計調査によれば65歳以上の高齢者人口は2700万人を超えている。この状況と関連して年金問題、医療問題、介護問題など、高齢化社会を心配する声もあるが、この講義では、高齢者たちの加齢による生活の知恵というものを考えてみたい。とくに1950年代から60年代にアメリカの精神科医ロバート・パトラーが提唱した「回想法」という心理療法に注目し、民俗学と高齢者介護を交差させた「老い」に学ぶ世界を考えてみたい。とくに昭和30年代の世相で日本の文化を「老人の知恵」として学んでみたい。

学習目標・到達目標

日本の伝統的「年中行事」などをベースにしなが、日本人の衣食住のあり方を学ぶ。やさしく言えば近年よくおばあちゃんの「知恵袋」が日本人の生活を考える時に不可欠などといわれていますので、全校各地の事例を紹介しながら日本人の高齢者の方々の生活知を知ること目標とする。

準備学習

忘れさられた、あるいは忘れてしまったおじいちゃんやおばあちゃんの生活の知恵をともに学び評価してみましょう。

評価方法その他

家・村・町・市・県・国の年中行事や衣食住の実態を調査をふまえてレポートを作成する。(70パーセント)出席(20パーセント)平常点(10パーセント)

週 テーマ・授業目標等

1. 民俗学から介護を考える。
2. 民俗学から日本の伝統文化を考える
3. 年中行事から日本の文化を考える
4. 春の年中行事から日本の文化を考える(1)
5. 春の年中行事から日本の文化を考える(2)
6. 春の年中行事から日本の文化を考える(3)
7. 夏の年中行事から日本の文化を考える(1)
8. 夏の年中行事から日本の文化を考える(2)
9. 夏の年中行事から日本の文化を考える(3)
10. 秋の年中行事から日本の文化を考える(1)
11. 秋の年中行事から日本の文化を考える(2)
12. 冬の年中行事から日本の文化を考える
13. 衣食住から日本の文化を考える(1)
14. 衣食住から日本の文化を考える(2)
15. 衣食住から日本の文化を考える(3)
16. レポート提出(個別報告もありうる)

使用教科書名

とくになし。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ホスピタリティは誰でも使いこなせるもので、個人であっても大きな成果をあげることできる。ただし日本の庶民信仰の深層を考える時、女性たちの存在は等閑というか、忘れさられた（抹殺された）ものであったようだ。なかでも闇から闇へ消されていった民俗文化における女性たちの集団（女人講）がいかなる意味をもっているかを提示したい。わけでも江戸時代の日本人の社会的位置を女性の生活レベルから問いただす試みを社会史として見直すことを紹介する。方法としては、全国各地に残る民俗事象を素材にして、日本文化のなかに位置づける。内容は江戸時代が中心になりますが合わせて近代、現代とのつながりにも展開したい。

学習目標・到達目標

日本の文化を紹介する時、男性を中心にしている現実がいまだに存在している。1985年の男女雇用のあり方が法的にある程度認められたようだがそれでもまだまだの現実である。ましてや近世・近代の女性のたくましい生き方とくに子育てや地域社会での活動などについてはほとんど紹介されていない。この講義では女性の集団が地域社会の活性化に果たした重要性を提示し、ともに男女の公共性を考えたい。さらにこの問題から派生して「地方創生」との関連性も学

準備学習

テキストを中心にしますが、文字で表現できない日本文化の裏面をともに学びましょう。

評価方法その他

レポート(60パーセント)・出席(20パーセント)平常点(20パーセント)

週 テーマ・授業目標等

1. 古来女とは(1) 女人と山をテーマとして紹介する。
2. 古来女とは(2) 女人のありかたを紹介する。
3. 女人講につながる信仰(日蓮宗信仰と題目講を紹介する)
4. 女人講につながる信仰(筑波山信仰と犬供養を紹介する)
5. 女人講につながる信仰(蔵王町の二つの信仰とだるま講を紹介する)
6. 女人講につながる信仰(女人講の発生を紹介する)
7. 女人講集団のまとめ
8. 人口減少問題総論 江戸時代中期以降の人口減少と女人講のあり方を紹介
9. 人口減少問題の原因 ある村の事例から
10. 農村荒廃の実態 (青木村の事例から)
11. 人口減少と女人講
12. 間引と墮胎
13. 失敗に終わった公共福祉政策 各藩の事例から
14. 女人講の統制(利根川流域の例から)
15. 女人講の活動(利根川流域の例から)
16. レポート・まとめ

使用教科書名

西海賢二著『江戸の女人講と福祉活動』臨川書店 2012年
参考図書・西海賢二著『近世の遊行聖と木食観正』吉川弘文館 2008年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ツーリズムはどこか遠くに行くことだけを指すのか？そもそも人は何を目的に、どんな所に行くのか？その行き先にはどんなストーリーが詰まっているのか？都市や農村といった幅広い地域について取り上げ、地域の歴史や文化、そこに存在している問題等について幅広く考えていくことで、地域のあり方について、ツーリズムが何を期待されているのかを考えてみたい。

学習目標・到達目標

地域がなぜ交流を必要としているのか、交流を行うためにどのようなツーリズムが存在しているのかを学ぶことで、地域や地域資源に広く目を向け、その必要性を理解できるようになることを学習の目標とする。

準備学習

授業を受けるにあたって、あなた自身が「ツーリズム」と聞いて何を思うのか、「地域」と聞いてどのような範囲を考えているのか、自分自身の考えをまとめておくこと。

評価方法その他

評価は各回の授業で出す課題とグループワークへの態度・成果、定期試験を以下の基準で評価する。
・各回の課題 30点(2点×15回)
・グループワークへの取組み態度・成果 20点
・定期試験 50点

週 テーマ・授業目標等

1. 地域とは？
2. 都市の変化と現状
3. 都市化による農村の変化
4. 都市農村交流の概要
5. 地域資源～郷土芸能
6. 地域資源～地域由来の生活様式
7. 地域資源～郷土食
8. 地域資源～人材
9. グリーン・ツーリズム
10. ニュー・ツーリズム
11. エコミュージアム
12. 教育的ツーリズム
13. 農商工連携・六次産業化・B1グランプリ
14. ツーリズムの問題と今後の可能性の検討(グループワーク)
15. グループワーク成果発表、総括
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。
授業で参考にする文献等については、その都度紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本は国土の周囲を海に囲まれ、私たちのくらしとも深く関係しています。特に縄文時代以前から魚介類を食料資源として利用し、豊かな食文化を築きあげてきました。ツーリズムc(海と人)では、漁業から町づくり、海洋性リクリエーションまで幅広いテーマで、人類が海洋の環境を保護しながら持続可能な資源として利用することを学びます。この演習は、事前授業で、様々な海と人の関わり合いを学びます。その後、千葉県銚子に3泊4日で宿泊しながら、周辺での見学・体験を通して、海と人の関わり合いについて実感を伴った理解を深めます。履修者が20名以下の場合、この科目は実施しません。

学習目標・到達目標

幅広い見学を通して海洋と人との関係について学び、海洋の環境を保護しながら持続可能な資源として利用することについて実感を伴った理解を深める。

準備学習

多方面の海洋に関する見学・解説を通して、持続可能な海洋資源について実感を伴った理解が持てるような演習内容なので、「環境と資源」「エコロジー」「環境保護論」「教養の生物学(沼波担当)」を履修していることが望ましい。また、宿泊を伴うので、集団生活についても心の準備をしておくこと。

評価方法その他

演習への参加状況(60%)、レポート+課題(40%)の総合評価。千葉県銚子市周辺において3泊4日(夏休み期間を予定)の宿泊を伴った見学・体験を含みます。また事前授業・発表会は前期の土曜日もしくは夏休み期間中に実施します。費用は、銚子での宿泊費や見学費用などを含めて1名40000円程度です。その他に交通費が必要です。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス(事前授業)
2. 海と人の関わり1(海辺の町づくり、海洋性リクリエーションとファッション)(事前授業)
3. 海と人の関わり2(水産資源)(事前授業)
4. 関東東部の海岸地域の特徴(歴史・生物・利用)(事前授業)
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
9. 5～14回:千葉県銚子市周辺での見学・体験(3泊4日)
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
14. 見学発表会準備
15. 海洋研究開発機構見学

授業科目概要・教育目的（履修条件）

先ず受講生自身の日常生活の中でマスメディア等を通して聞いたり、見たりする身近な存在としてのNGO、NPOを探してみます。その役割を行政サービスとは区別し、独自の考え方、活動の仕方、様々なボランティアの方々の生き方を見つめ、今日的意義、発祥発展の歴史、活動分野、国の支援方策、運営管理など基本的な事項を学習します。また、こうした団体の実際の姿、苦勞や喜びに迫ることの大切さを体感してもらえよう学習分野の第一線で活躍する活動家との議論の機会を設けるためにNPO/NGOで活動する方をゲストとして招きます。受講生の興味関心を呼び起こし、大学を卒業してからも一市民として将来可能な方法で活動に参加してみたいとの意欲の喚起につながればとの期待を持ってみんなで作っていく参加型の授業を展開します。

学習目標・到達目標

市民が地球的規模で生活問題を考え、地域に密着した方法で行動する場合に問題意識を共有する主体となる非政府組織(NGO)や非営利組織(NPO)の役割は年々重要となり強い関心をよせています。そこで、これら組織の活動の歴史や系譜、法制度など基本的な事項について、正しく理解できるようになります。また、女子大に学ぶ皆さんにとって女性の人権・福祉等の代表的分野から実践的課題を具体的に取りあげ、その解決に向け自身が共に考え、議論し、「私がつくる・つくりたい、NGO/NPO」を豊かにイメージできる力を養えるようになります。

準備学習

NGO/NPOの社会的使命である教育、環境、福祉、人権に関する高い関心が求められ、新聞や専門的なジャーナルの関連記事を手掛かりにそれぞれの分野について基礎的な学習を行い、基礎的な知識を有することが肝要です。また、具体的なNPO等の参加・活動歴をもつ受講生は、その体験を記録して置くことが望ましい。

評価方法その他

合計100点
平常点(60点)
授業への参加態度、新聞記事解説、討論への参加、NGO・NPO訪問での積極的ななどを総合的に判断する
定期試験(40点)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス(授業の目的、特徴、展開、評価)と対話
2. NGOとは、NPOとは？身近な活動例を探す・その歴史
3. NGOとは、NPOとは？その仕組み法制度
4. ゲストスピーカーとともに・そのⅠ NPOの活動(女性の人権)
5. ゲストスピーカーとともに・そのⅡ NPOの活動(子どもの貧困)
6. ゲストスピーカーとともに・そのⅢ NGOの活動(世界の平和と子供支援)
7. NGO、NPOの管理運営(1)
8. NGO、NPOの管理運営(2)
9. 授業理解度調査(知的理解度をテスト形式によるアンケート)
10. 分野別フィールドワーク そのⅠ(女性の人権、内閣府・いずみ寮訪問)
12. 同 そのⅡ(子どもの人権・福祉・教育、UNICEF訪問)
13. ディベート学習そのⅠ(テーマ別議論)
14. 同 そのⅡ(同)
15. 授業まとめと定期試験直前ガイダンス
16. 定期試験(基礎知識と論述:「将来作ってみたい、参加してみたいNGO・NPO」)

使用教科書名

「テキストブック NPO 第2版」(雨森孝悦著、東洋経済新聞社)を基本教科書とする。その他、講師が授業で指示する。新聞記事などがある場合は、事前に読んでおくこと。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間は常に何らかのコミュニティを形成し、帰属している。コミュニティなしには生きられない。人と人とのつながりが希薄になったと言われる現代であるが、はたしてそれは本当なのか。そして、地域のつながりが希薄になることは悪いことなのか、もしそうなら現代社会はなぜそうなったのか。また、そうした現代にどのようなコミュニティが出現しているのか、家庭、労働現場、地域社会、ネット・コミュニティなど広くとりあげる。

学習目標・到達目標

そもそもコミュニティとは何か、人間にとってコミュニティは必要不可欠なのかを考えること。その上で、現代社会にとってコミュニティとは何か、どのような働きをするのか、また今求められるコミュニティとはどのようなものか、「コミュニティ」の歴史と現状を知ること。

準備学習

テーマによっては皆さんの方が詳しいものもあるかと思えます。質問・意見などは歓迎しますので、積極的に発言してください。

評価方法その他

最終試験(40%)、授業中に数回実施する小テスト(30%)、および平常点(30%)の総合点で評価。(あくまで平常点なので、ただ出席していれば良いというものではありません。居眠り・内職など集中していない場合は欠席と看做します。)

週 テーマ・授業目標等

1. 初回ガイダンス:コミュニティとは何か
2. 人間の帰属意識とは何か
3. なぜコミュニティが必要なのか
4. ムラ社会と女性
5. 若者とコミュニティ
6. 地縁的つながりの衰退と現代社会
7. 現代人は地域社会を拒否したのか
8. 仮想空間コミュニティの出現
9. 仮想空間コミュニティと若者
10. SNSは人とのつながりを破壊したのか
11. 協働とコミュニティ
12. 外国人コミュニティ
13. 災害とコミュニティ
14. これからのコミュニティの可能性
15. まとめ:個人にとってのコミュニティの価値と必要性

使用教科書名

毎回レジュメ・資料を配付。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「平等・開発・平和」は人類共通の課題です。ジェンダーとの関連では、1970～80年代を中心とする国際女性年と国連女性の10年を契機にグローバルな取組みが始まり、女性差別撤廃条約やナイロビ将来戦略、北京行動綱領等が採択されました。こうした動きのなかで、開発と女性/ジェンダーと開発(WID/GAD)の視点が誕生します。それは、男女格差をもたらす制度を変革し、女性のエンパワーメント推進をめざすアプローチといえるでしょう。この授業では、人間中心の持続可能な開発とジェンダー平等への国際的な取組みについて学びます。

学習目標・到達目標

ジェンダー主流化の国際的潮流を捉え、開発とジェンダーについて自らの意見・考えを発信することのできる能力を習得します。

準備学習

ジェンダーに敏感な視点から、開発と人権の問題について考えましょう。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート(30%)、定期試験(30%)による総合評価です。定期試験は全て持ち込み可とし、平常点は授業への参加状況(質疑応答等)で判断します。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス:科目説明(各回のテーマと授業の進め方、その他)
2. 開発と女性の視点(1):開発と女性の人権をめぐる動き(60-70年代)
3. 開発と女性の視点(2):国際女性年と世界女性会議(1975)
4. 国連女性の10年と成果(1):国際基準としての女性差別撤廃条約(1979)
5. 国連女性の10年と成果(2):女性の地位向上とナイロビ将来戦略(1985)
6. ジェンダーと開発の視点(1):開発と女性の人権をめぐる動き(80-90年代)
7. ジェンダーと開発の視点(2):ジェンダー主流化「北京行動綱領」(1995)
8. ジェンダー平等と女性のエンパワーメント(1):ミレニアム・サミット(2000)
9. ジェンダー平等と女性のエンパワーメント(2):UN Women(2011)
10. グローバリゼーションと貧困の女性化:周縁化される女性労働
11. 持続可能な開発とジェンダー:ミレニアム開発目標(NDGs)とポスト2015
12. ジェンダー統計にみる格差:ジェンダー・ギャップ指数と不平等指数
13. 社会規範とジェンダー(1):世界の性別役割分業と伝統的慣習・慣行
14. 社会規範とジェンダー(2):セクシュアル・マイノリティ(LGBT)の人権
15. 総括:全体討議(振り返り、受講感想を含む)
16. 定期試験

使用教科書名

指定しません。毎回テーマに沿ったレジュメを配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。衣服の構造を理解するにはまずその基体となる人体の形状と寸法を理解する必要がある。そして衣服を製作する素材となる布帛を立体的な人体の体型に適合させ、かつ表現的な要素となる布帛の立体化の技法を学ぶ。その上で、身頃原型の作図し、衣服製作に必要な基本的な設計について理解することが目的である。また、服飾デザインの基本的原理を学び、デザインの意味・効果を考える。

学習目標・到達目標

服飾の構造と人体の形状、大きさの関係について理解する。
服飾デザインの意味を理解する。

準備学習

教職のための選択科目です。被服構成のための基礎的な知識を習得することを目的としています。日常的に身近な衣服の構造やデザインをよく観察すると、よいと思います。

評価方法その他

授業への参加態度 レポート 中間・期末試験の総合評価

週 テーマ・授業目標等

第1週:衣服の構造の特徴 平面構成と立体構成
第2週:人体の構造
第3週:人体の計測
第4週:体型・体格
第5週:体型変化:成長・性差
第6週:衣料品サイズ
第7週:中間テスト、スタイル画
第8週:動作と体型変化
第9週:平面製図と立体構成
第10週:身頃原型
第11週:布帛の立体化の技法
第12週:デザイン理論 点と線
第13週:錯視
第14週:服飾デザインの原理
第15週:服飾デザインの形とイメージ
第16週:テスト

使用教科書名

プリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代では、日本の伝統的文化の継承が注目されており、本講ではその中の和服を対象として、和服の構造および基礎的構成技法を、造形実習を通して学ぶ。まず、和服用の生地、和服の構造、着装の観点から、和服の基本的特徴を理解した上で、ゆかた(女物ひとえ長着)の造形実習を行う。本講では、ゆかたを造形することのみに留まらず、特徴のある構成技法を様々な場面で利用できる応用力の修得を目指す。また、現代社会における柔軟で応用的な和服の取り入れ方や発展のさせ方まで考える。

学習目標・到達目標

1. 和服に対する基本的・総合的な知識を身につける。2. 布地や縫製用機器・道具の取扱い、および各種構成技法(並縫い、本ぐけ、耳ぐけ等)を正しく行える実力をつける。3. 1および2を、衣生活をはじめとした日常生活の中で適切に応用できる力をつける。

準備学習

初回の授業より具体的内容の理解を進めていくので、必ず初回から出席すること。
次回までの課題がほぼ毎回出されるが、これらにより授業内容の理解・定着が進むため、真面目に取り組んでほしい。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、課題への取り組み等)40%、提出物30%、課題レポート30%

週 テーマ・授業目標等

1. 授業目的、教材説明、和服の特徴
2. 縮小モデルの作成、採寸、サイズ設定、用布量の見つくり、基礎縫い
3. 用布の折積もり、基礎縫い
4. 裁断(そで、身ごろ)
5. しるしつけ(そで、身ごろ)
6. そで縫い
7. 背縫い、えり肩明き、肩当てつけ
8. おくみのしるしつけ、えり下くけ、おくみつけ
9. おくみつけの始末
10. 脇縫い、脇縫いの始末
11. 脇縫いの始末
12. えりのしるしつけ、えりつけ
13. えりつけの始末
14. 掛けえりつけ、すその始末
15. そでつけ、仕上げ

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ファッションやインテリア素材として布地は重要なものであるが、現代では日々新しい素材が開発され、豪華で魅力的なものが次々と提供されている。
世界各地にはどのような布があり、どのような装飾がされているか実物標本を見ながら学ぶ。装飾された布地を制作するには、染め、織り、刺繍など様々な技法がある。実際にその技法を用いて布地の制作および布地への装飾を試み、個性的なインテリアグッズやファッション商品への展開を考える。

学習目標・到達目標

繊維造形の表現方法を学び、自分の個性を生かしたオリジナルな作品を制作する。
刺繍や織などの基礎的知識と技術を学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 1.装飾技法について
- 2.刺繍作品制作のプロセス、デザイン
- 3.基礎技法の実習
- 4.基礎技法の実習
- 5.応用作品の実習
- 6.応用作品の実習、仕上げ方法
- 7.特別講習(外部講師)
- 8.織物の概要説明、織り機、三原組織、整経
- 9.織り機にセット
- 10.基本織りの制作
- 11.基本織りの制作、基本織りの仕上げ
- 12.応用作品の設計
- 13.応用作品の制作
- 14.応用作品の制作
- 15.応用作品の仕上げ、レポート制作
- 16.筆記試験

準備学習

作品制作にあたり授業時間以外に多くの時間を要することを了解しておいてほしい。材料代5000円程度

評価方法その他

作品60%、試験20%、平常点20%(授業への参加状況)

使用教科書名

資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

今日の社会における衣生活はアパレル産業との関わりを考えずには成り立たない。その為、アパレル産業の現状と問題点を探り、ファッション商品と消費の関係、商品の価値、廃棄と資源の再活用について考える。また、ジュニア・シニア世代のファッションについて視野を広め、衣生活の将来的なあり方を考える。

学習目標・到達目標

今日の社会における衣生活における問題点を理解し、持続可能な衣生活とファッションとの共存を考える。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:衣生活の問題点を考える
- 第2週:アパレル産業
- 第3週:ファストファッション
- 第4週:現代のファッションとグローバリゼーション
- 第5週:現代のファッションとCSR
- 第6週:商品生産の現場;女工哀歌
- 第7週:商品の価値を考える
- 第8週:消費と廃棄
- 第9週:3Rとファッションデザイン
- 第10週:持続可能なファッションを考える
- 第11週:シニアファッション
- 第12週:シニアファッションの起業家による特別授業
- 第13週:ジュニアファッション
- 第14週:服育
- 第15週:まとめ
- 第16週:テスト

準備学習

ファッションは個人的な楽しみでもあり、社会における問題を提示することもあります。この授業では衣生活における問題意識を持つことを目標にしていますので、新聞記事などにも積極的に目を通す習慣を身につけていただきたいと思います。

評価方法その他

平常点:授業への参加態度(20%)試験(80%)

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

世界各地には様々な民族服が存在する。今日ではその着用者は少なくなってきたが、儀式やイベントなどには着用されている。制作はほとんどが手作業で行われ、制作者はその技術を、着装者は美を競ってきた。民族服の構成、色彩、装飾の特徴を知り、新たな発想に役立てる。

学習目標・到達目標

世界各地の代表的服飾の特徴を知り、気候や文化との関わりや民族衣装としての役割を知る。

週 テーマ・授業目標等

- 1、世界の服飾の概要説明
- 2、アジア地域（韓国など）
- 3、アジア地域（タイなど）
- 4、アジア地域（中国など）
- 5、アジア地域（インドなど）
- 6、民族衣装着装
- 7、ヨーロッパ地域（東欧）
- 8、ヨーロッパ地域（北欧）
- 9、南米地域（アンデス地方）
- 10、地域を選び調査
- 11、調査
- 12、調査
- 13、報告書の作成準備
- 14、パワーポイント作成
- 15、発表
- 16、試験

準備学習

服飾を通してその国の文化や地域の特徴を知り、異文化理解に役立ててほしい。出席は毎回必ず確認する。受講に際しては、積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑となる行為や、授業に関係ない行動、受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

出席および授業への取り組み20%、レポート30%、テスト50%

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業は、2年生の科目としての位置づけにより、「過去を振り返り、現在を問う」ことの実践が求められている。したがって、現代に残存している日本の伝統的服飾がどのような由緒・歴史をもっているのかについて認識し、そのような知識をもとに現代の服飾表現を幅広い視野で分析できるよう、受講生の調査・作業を織り込みながら講義を行う。さらに伝統的服飾を現代へ活かす方策について、きものデザイナーであり、装丁家でもある林佳恵氏による校内特別授業を予定している。

学習目標・到達目標

私たちは、技術や知識を伝承してきた人々の営々たる努力により、現代に引き継がれた伝統的服飾品や服飾文化を享受することができている。こうした歴史的文化的な観点で日本の服飾を捉える際の基本的知識・事項の修得を第1の目標とするが、さらに、その修得が可能となった受講者においては、現代の服飾や住まいに関する領域において提案できる力を養うことを第2の目標として掲げておく。

準備学習

積極的な授業への関わりを期待する。また、学外者を授業に迎えるにあたり、それに相応しい授業態度をとってほしい。

週 テーマ・授業目標等

- 1 布について（オリエンテーション）
- 2 日本の風土と服飾の関係について
- 3 古代布の周辺
- 4 王朝の服飾(1)女房装束
- 5 王朝の服飾(2)襲色目
- 6 王朝の色彩表現(1)
- 7 江戸の色彩表現(2)
- 8 日本の文様(1)古代
- 9 日本の文様(2)江戸時代
- 10 老舗における逆張り経営戦略について
- 11 現代における服飾製品の活用法(1)林佳恵氏講演
- 12 現代における服飾製品の活用法(2)持続可能な開発のための教育
- 13 現代における服飾製品の活用法(3)女性への自立支援とエシカルファッション
- 14 博物館資料の扱い方・計測
- 15 振り返りシートによるまとめと課題発表

評価方法その他

平常点(授業中の課題・レスポンスシートの内容を含む)40%、課題発表(レポート)30%、振り返りシート30%

使用教科書名

テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを用意する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場であると同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本講では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を旨とする。また、ファッション販売能力検定試験2・3級の受験サポートも、授業の中に組み込む。

学習目標・到達目標

ファッション商品の特質を理解し、ファッション商品の基本的な知識（組成、取扱い、サイズなど）と、ファッション販売の実務の基本を身につける。さらに、学んだ成果を資格とすることを目指す。（希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を団体受験）

準備学習

1年次の「衣生活概論」の後半で学んだ、衣服の材料・管理・サイズ等の知識の定着を目指すため、その時に配布したプリント集を有効に利用してほしい。履修しなかった場合は、本授業の教科書から学びとること。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、課題への取り組み等）：20%
課題レポート：20%
定期試験：60%

週 テーマ・授業目標等

1. ファッション販売とは
2. 販売知識(1)ファッション商品の流れ
3. 販売知識(2)消費者は何を求めているか
4. ファッション・マーケティング知識
5. ファッション販売業務
6. ファッション販売技術
7. 店舗演出
8. ファッション販売に関する研究事例
9. アパレル業界の職種と業務
10. ファッション商品知識(1)繊維素材の特徴
11. ファッション商品知識(2)取扱い・管理
12. ファッション商品知識(3)商品苦情
13. ファッション商品知識(4)サイズ規格
14. タウンウォッチング発表会
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

ファッション販売[]改訂版／日本ファッション教育振興協会

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレル商品に対して、現代の消費者は高品質・高付加価値を要求し、生産者は商品を豊富に供給している。本講では、このような現状のもとでアパレル商品の生産者と消費者をつなぐ立場から、消費生活を的確に支える能力を養うことを目的とする。授業の進行としては、まず、アパレル業界における生産および流通の仕組みやアパレル商品の特質を理解した上で、社会環境と関連させながらアパレル産業の動向をとらえる。さらに事例を扱いながら、アパレル商品に対して消費者が直面する問題・課題への取り組み方を考える。

学習目標・到達目標

アパレル産業、アパレル商品の生産・流通・販売の特質と現状を理解する。現代生活の中でアパレル商品が抱える問題点を把握し、生産者と消費者双方のアパレル製品に対するあり方を、具体的事象から学び取る。

準備学習

本学科で受講した／している消費者教育関連の授業と、「衣」の切り口からの本授業を自分でリンクさせて理解を進めてほしい。これにより、現場での実践力を養いたい。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況、討論への参加等）：20%
定期試験：前半40%、後半40%

週 テーマ・授業目標等

1. 身のまわりの衣生活を振り返る
2. アパレル商品の性質
3. アパレル商品の企画・設計
4. アパレル産業の生産・流通
5. ファッションビジネス
6. アパレル市場
7. アパレル産業のグローバル化
8. 衣生活からみた循環型社会
9. アパレル商品に関する法規・表示(1)各種表示
10. アパレル商品に関する法規・表示(2)サイズ、原産国表示
11. アパレル商品に求められる消費性能
12. アパレル商品の消費性能と消費者苦情(1)クリーニング
13. アパレル商品の消費性能と消費者苦情(2)通信販売
14. アパレル商品の消費性能と消費者苦情(3)各種事例
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネートにおける色彩表現を学ぶ。授業後半は企業連携を予定しており、実際店舗におけるテキスタイルのトータルデザインとして、クッション等の企画・設計・製作を行う。衣生活の多様性を考え、実践に即したコーディネート感覚を磨く。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している。

学習目標・到達目標

ファッション分野における色彩論の基礎を習得するとともに、実際の店舗におけるテキスタイルデザインとしてクッション等の製作を行う。本学科で学んだ生活者としての視点と、女子大生としての感覚を作品製作に活かしてもらいたい。

準備学習

実践型の授業です。準備が必要な場合は事前に告知します。意欲を持って授業に臨んでください。

評価方法その他

平常点(30%)、提出課題(50%)、作品プレゼンテーション(20%)
(平常点は授業への参加状況・取り組み等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 色相環のコラーージュ
3. ファッションと流行色
4. ファッションイメージとファッションカラー
5. 配色技法について(1)
6. 配色技法について(2)
7. 特別授業(パーソナルカラー)
8. ファッションと素材
9. 企画と設計計画(1) 対象とデザイン
10. 企画と設計計画(2) デザインパターン作成
11. 材料について、材料の購入
12. 製作(1)
13. 製作(2)
14. 仕上げ、プレゼンテーション準備
15. プレゼンテーション、まとめ

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネートにおける色彩表現を学び、あわせて衣服のリメイクに必要な縫製技術を習得する。ファッションコーディネートの必要性から、現在の衣生活環境の価値基準を考える。自分らしさを表現するリメイク作品のプレゼンテーションでは、ほかのアイテムとの組合せの実践から、衣服の有効利用を考え、コーディネート感覚を磨く。外部講師による「パーソナルカラーの実践」、校外授業では「銀アクセサリー製作」を予定している。

学習目標・到達目標

本授業は、生活者の視点から、ファッションコーディネートの題材として、衣服のリメイクを取りあげる。ファッション分野で学んだ内容を基礎にして、本授業内容を十分理解し、衣服のリメイク実践では縫製技法を習得、自分らしいファッションコーディネート表現とプレゼンテーションを目標とする。

準備学習

体験型の授業です。準備が必要な場合は、前授業時に告知します。意欲を持って授業に臨んでください。

評価方法その他

平常点(30%) 提出課題(50%)、作品プレゼンテーション(20%)
(平常点は授業への参加状況・取り組み等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 色相環のコラーージュ
3. ファッションと流行色
4. カラーパレット制作(1)
5. カラーパレット制作(2)
6. ファッションイメージとファッションカラー
7. 特別授業(パーソナルカラー)
8. ファッションと素材
9. 衣服のリメイクについて
10. 校外授業(日伸貴金属)
11. 衣服のリメイク計画
12. 衣服のリメイク実践(1)
13. 衣服のリメイク実践(2)
14. 衣服のリメイク実践(3)
15. プレゼンテーション、まとめ

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレルとは主に既製服をさす。日本ではアパレル産業は注文服や家庭内裁縫が主流であった時期を経て、1970年代に大きく発展した。現在では多くの人々が既製服を着用している。アパレル商品は流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個人々の嗜好など多くの要素を満足させるような企画をすることが必要である。様々な要素を考慮しつつ、1グループ1アイテムの商品企画を行い、実際に製品を試作し手順を検討する。

学習目標・到達目標

アパレルの企画はどのように立てられるかを学び、実際に企画、設計をし製品試作を行うとともにアパレル産業の概要を知る。

準備学習

グループ作業なので個人の分担作業は責任を持ってきちんと行うこと。また遅刻や欠席も他の人に迷惑がかかるので、心して授業に臨んでほしい。

評価方法その他

平常点(授業への取り組み)30%、レポート20%、試験50%

週 テーマ・授業目標等

- 1、オリエンテーション
- 2、アパレル企画の立て方
- 3、企画のための色彩効果
- 4、アパレル企業の概要を知る<外部講師>
- 5、調査
- 6、企画
- 7、製図
- 8、試作
- 9、再検討、パターン完成、見積もり
- 10、材料購入
- 11、裁断
- 12、アパレルの縫製方法
- 13、製作
- 14、仕上げ
- 15、制作手順の検討
- 16、試験

使用教科書名

使用しない。資料を配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレル産業では既製服を生産するにあたり、短いサイクルで流行を取り入れた服を消費者に提供していく必要がある。手仕事に頼っていた様々な分野に機械化を進め、パターンメイキング、グレーディング、裁断データなどの工程をCAD(Computer Aided Design)を使用して作成している。実物大の作図では時間がかかり、広い場所も必要となる。またコンピュータを使用することでそのデータを遠隔地の生産工場に瞬時に送る事も出来る。そこで、本講ではCADの使用方法を学びアパレル産業の一端を知る。

学習目標・到達目標

アパレル産業ではCADがどのように利用されているかを知り、使用方法を学ぶ。デザインソフトを使用してテキスタイルのデザインを行い、出力した布で製品の製作体験をする。

準備学習

グループでの作業の場合他の人に迷惑の掛からないよう注意してほしい。CADの台数が少ないため譲り合って使用すること。

評価方法その他

提出物(レポート添付)40%、試験40%、平常点(授業への取り組み)20%

週 テーマ・授業目標等

- 1、オリエンテーション、採寸、用紙記入
- 2、原型パターン作成
- 3、スカートのグレーディングパターン作成
- 4、パターンのデジタイザー入力
- 5、画面上での展開・補正
- 6、縫い代付け
- 7、グレーディング
- 8、マーキング
- 9、プロッター出力
- 10、テキスタイルデザイン図案構成
- 11、テキスタイルデザイン パソコン室
- 12、テキスタイルデザイン パソコン室
- 13、デザインした布での製作
- 14、デザインした布での製作
- 15、まとめ
- 16、試験

使用教科書名

資料を配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣服は、人間に最も近い環境である。この「衣服環境」を快適に保つための、人体の体温調節機能や外部環境に適応した「衣服気候」、人体の形態・運動変形に適応した「衣服の運動機能性」、皮膚の構造・生理に適応した「衣服の接触快適性」について学ぶ。さらに様々な着用場面に視点を広げ、機能的で快適な衣服環境の実現を追求する。

学習目標・到達目標

衣服の繊維素材、構造、サイズ、着装法等の衣服の各要素と、着用者の「人体」との関わりを理解し、「快適な衣服環境」を設計する力を修得する。

準備学習

衣服を着る「人体」を中心に、「衣服環境」を考える授業である。今までに学んだ衣服素材、衣服サイズ等の知識が活かせるよう、それらについて自分で不明確だと思う部分を復習した上で受講すると理解が進みやすいため、努めてほしい。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等):20%
定期試験:80%

週 テーマ・授業目標等

1. 衣服環境の快適性に関わる要因
2. 衣服と人体形態(1)人体の構造・形態
3. 衣服と人体形態(2)動作に伴う体表の変形
4. 衣服圧と人体生理
5. 人体の体温調節システム
6. 衣服気候(1)着衣による熱移動
7. 衣服気候(2)着衣による水分移動
8. 皮膚・衣服の衛生
9. 着衣による気候適応—世界の民族服の視点から—
10. スポーツウェアの動作適合性・温熱生理
11. 乳幼児の身体的特徴と衣服(1)おむつ
12. 乳幼児の身体的特徴と衣服(2)衣生活行動の発達
13. 高齢者の衣生活への配慮
14. ハンディキャップと日常生活行動
15. はき物の快適性
16. 定期試験

使用教科書名

衣服環境の科学(田村照子編著, 建帛社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

最初に室内環境を構成する因子として空間造形や光(色彩)、熱、空気、音に着目する。次に快適な室内環境を形成するサポートとして計画される照明や設備機器について学ぶ。最後に人と環境の調和を目指すために、ユニバーサルデザインや地球環境にも言及する。

学習目標・到達目標

私たちは一日の大半を建物の中で過ごしており、その室内には安全で快適な環境が要求されている。この授業では快適な室内環境をコーディネートするために、空間造形や光(色彩)、熱、空気、音に着目し、それらをコントロールするための照明計画や設備機器について学ぶ。さらに人と環境の調和を目指すために、ユニバーサルデザインや地球環境にも言及する。

準備学習

授業で配布する図版資料は必ず翌週までにノートに切貼して整理すること。翌週の講義冒頭に小テストを行う。東京は世界でも指折りのインテリア、建築デザインの先端都市である。普段から興味を持ち、情報収集に努め、可能な限り積極的に空間体験に行きたくしたい。コンベックスは携帯し、生活の様々な場面であらゆる寸法を身に付けていきたい。

評価方法その他

平常点20%、見学会レポート10%、期末試験70%

週 テーマ・授業目標等

- 1) 造形と色彩1
 - 2) 造形と色彩2
 - 3) 光のデザイン1
 - 4) 光のデザイン2
 - 5) ショールームの見学※
 - 6) 熱と空気のコントロール
 - 7) 音のコントロール
 - 8) 冷暖房、空気調和、換気設備
 - 9) 上水道、給水、給湯設備
 - 10) 下水道、排水設備
 - 11) 電気、電気設備
 - 12) ユニバーサルデザイン
 - 13) 地球環境
 - 14) 八王子UR技術研究所(集合住宅歴史館・居住性能館)の見学※
 - 15) 期末試験
- ※見学先の都合により順番が前後することがある。

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

最初にインテリアの歴史といった現代インテリアの背景について学習する。
次に建築構造・構法・材料といった安全で堅固な空間を担保するための技術について学習する。
最後に関連法規・販売・コンサルティングなど、インテリアをコーディネートする際に必要な実務の知識を習得する。
UR技術研究所(八王子市)での校外学習を行う。交通費などの負担があるので注意すること。

学習目標・到達目標

インテリアの設計手法を学ぶ。
歴史・家具・構法・材料・関連法規など、インテリアをコーディネートする際に必要な背景や実務の知識を習得する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) インテリアの歴史1(西洋古典)
- 2) インテリアの歴史2(西洋近代)
- 3) インテリアの歴史3(日本近代・戦前)
- 4) インテリアの歴史4(日本近代・戦後)
- 5) 現代建築・インテリア
- 6) 八王子UR技術研究所の見学※
- 7) 建築構造1(木造)
- 8) 建築構造2(鉄筋コンクリート造)
- 9) 建築構造3(鉄骨構造)
- 10) インテリア材料1(木材)
- 11) インテリア材料2(コンクリート・鋼材)
- 12) インテリア構法1(床・壁)
- 13) インテリア構法2(天井・造作)
- 14) インテリア関連法規
- 15) 情報と販売・コンサルティング

※見学先の都合により順序が前後することがある

準備学習

授業で配布する図版資料は必ず翌週までにノートに切貼りして整理すること。翌週の講義冒頭に小テストを行う。
東京は世界でも指折りのインテリア、建築デザインの先端都市である。普段から興味を持ち、情報収集に努め、可能な限り積極的に空間体験に行って欲しい。コンベックスは携帯し、生活の様々な場面であらゆる寸法を身に付けていきたい。

評価方法その他

学期末の筆記試験(70%)、平常点(30%)

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

快適な空間づくりを目指すためには、人体寸法や家具寸法など必要寸法の把握、および必要な設備やインテリアエレメントについて学ぶ必要がある。
授業では最初に基本的な寸法、色彩などの考え方を把握し、次に住まいの空間ごとに必要な寸法、配置手法について学習する、そしてインテリアを構成する部材について学習し、インテリアをコーディネートするために必要とされる技術を習得する。
なおUR技術研究所(八王子市)での校外学習を行う。交通費の負担があるので注意すること。

学習目標・到達目標

インテリア計画とはあくまで人間を中心に置いた内部空間の計画である。これには技術だけでなく、人間とものとの関係の中で生じるさまざまな要素を総合的にまとめあげる技術が必要とされる。
この授業ではインテリアをコーディネートするために必要とされる技術についてその概要を学び、その後続くインテリア設計論およびインテリアデザイン演習を通して専門知識と技術を習得するための、基礎的知識を習得する。

準備学習

授業で配布する図版資料は必ず翌週までにノートに切貼りして整理すること。翌週の講義冒頭に小テストを行う。
東京は世界でも指折りのインテリア、建築デザインの先端都市である。普段から興味を持ち、情報収集に努め、可能な限り積極的に空間体験に行って欲しい。コンベックスは携帯し、生活の様々な場面であらゆる寸法を身に付けていきたい。

評価方法その他

平常点(30%)、期末試験(70%)

週 テーマ・授業目標等

- 1) 住宅の種類と平面計画
- 2) 人体寸法と動作空間
- 3) 造形と色彩
- 4) リビング、ダイニングの計画
- 5) キッチン計画
- 6) 寝室、子供室、書斎の計画
- 7) サニタリーの計画
- 8) 玄関、廊下、階段の計画
- 9) 収納スペースの計画
- 10) 家具
- 11) 建具1(戸・サッシ)
- 12) 建具2(金物)
- 13) 内装材1(床材・カーペット)
- 14) 内装材2(壁材・天井材)
- 15) ウィンドートリートメント

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

インテリア設計を実践する。平面図・断面図・展開図による室内空間の表現方法ならびにパース(透視図)の描き方、模型制作の手法などのインテリア空間のプレゼンテーションの手法を習得する。また、インテリア空間の実例を調査し、デザインの現状を理解する。これら成果をもとに、みずからインテリア空間を計画し、図面および模型を作成する。

学習目標・到達目標

インテリア設計を実践する。平面図・断面図・展開図による室内空間の表現方法ならびにパース(透視図)の描き方、模型制作の手法などのインテリア空間のプレゼンテーションの手法を習得する。また、個人的な好みが強反映される住宅と比較的多数の人々の好みを追求する商業施設に分けて、インテリア空間の実例を調査・研究し、デザインの現状を調査する。これら成果をもとに、みずからインテリア空間を計画し、図面および模型を作成する。

準備学習

インテリア計画、インテリア設計論、室内環境学で学んだ知識を活かし、自らインテリアデザインを行い、知識の確認を行います。デザイン力を上達するには実例を学ぶことが重要になります。東京都心は世界屈指の建築・インテリアデザインの最先端地域になります。様々なデザインを実際に見て、学んでください。

なお、この授業を履修するには設計製図演習Bおよびインテ

評価方法その他

平常点(30%)ならびに提出物(70%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1) イントロダクション・課題「ワンルームマンションのリノベーション」説明
 - 2) 実例調査
 - 3) 構想を練る
 - 4) 平面図の描き方
 - 5) ブラインドについて・特別課題「私の部屋とデコブラインド」説明
 - 6) 展開図の描き方
 - 7) ショールーム(ウインドウトリートメント)の見学
 - 8) 室内パースの描き方(1)
 - 9) 特別課題デコブラインドデザイン(部屋のコーディネート)プレゼンテーション
 - 10) 室内パースの描き方(2)
 - 11) インテリア模型の作成(1)
 - 12) 特別課題プレゼンテーション
 - 13) インテリア模型の作成(2)
 - 14) プレゼンテーションの準備
 - 15) 総合プレゼンテーション
- ※ショールーム見学を含むため、予定が前後することがある。

使用教科書名

インテリアコーディネータープレゼンテーション試験に必要なインテリア製図

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ユニバーサルデザインとバリアフリーについて、その定義やモノづくり、住宅を主体とする建築、福祉支援としてのまちづくりの具体的な手法についての知識を取得することができる。あわせて、グループ討議によるモノ(生活共用品)、建築および福祉のまちづくりについて新しい考え方を提案する。

学習目標・到達目標

ユニバーサルデザイン(UD)は、1980年代自身も障がいを持っていた米国ノースカロライナ州立大学ロナルド・メイス教授が定義した言葉で、従来のバリアフリー概念から脱却した「できるだけ多くの人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」を意味している。本授業では、主として少子高齢化社会(超高齢社会)にむけた「建築・まちづくり・ものづくり」についてその概念や具体的な手法を学ぶことができる。

準備学習

本授業は、ユニバーサルデザインのまちづくりなどについて学ぶもので、我々にとって身近な事項や具体的なものについて、調べておくこと。なお、ユニバーサルデザイン検定に対応しています。

評価方法その他

平常点(15%)、課題(グループ討議3課題:30%)、定期試験(55%)により、総合評価する。なお、平常点は授業への参加状況、討論への参加等を勘案して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ユニバーサルデザインの背景
2. ユニバーサルデザインと生活共用品 その1/その視点
3. ユニバーサルデザインと生活共用品 その2/配慮すべき事項
4. ユニバーサルデザインと生活共用品 その3/電気製品
5. ユニバーサルデザインと生活共用品 その4/具体的工夫
6. ユニバーサルデザインと住まい・建物 その1/デザインの要件
7. ユニバーサルデザインと住まい・建物 その2/長寿社会対応
8. ユニバーサルデザインと住まい・建物 その3/住宅
9. ユニバーサルデザインと住まい・建物 その4/建築
10. ユニバーサルデザインと住まい・建物 その5/自立支援技術
11. ユニバーサルデザインとまちづくり その1/まちのバリア
12. ユニバーサルデザインとまちづくり その2/まちづくり
13. ユニバーサルデザインとまちづくり その3/人の道
14. ユニバーサルデザインとまちづくり その4/公共交通
15. ユニバーサルデザインとまちづくり その5/まちの標識
16. 定期試験

使用教科書名

「特に指定しない。」

授業科目概要・教育目的（履修条件）

江戸は徳川幕府の首府として栄え、明治時代以降は東京と名を変え、日本の首都として機能してきた都市である。本科目は、江戸および東京について、江戸時代から明治時代までを主たる対象として、その歴史や文化など多様な角度からの分析を行うことを通じて、その特色や都市としての性格を理解することをめざすものである。具体的には、町の仕組み、住民の生活と娯楽などの歴史的発展に関する内容や、言語文化などの文化的事項について言及する予定である。

学習目標・到達目標

江戸時代から明治時代にかけての江戸・東京のくらしや歴史、言語、文化を学び、それらが現代の生活にどのようにつながっているのかを理解するとともに、そこから何を学び取ってこれからの我々のくらしに活かしていくべきかを考えようとする姿勢を身につける。

準備学習

準備学習として、高校までの日本史の学習内容を再確認しておく、授業内容をスムーズに、より深く理解することができるであろう。また、授業中に紹介する参考文献や配布資料などについても、自ら積極的に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。

評価方法その他

平常点20%、試験（中間・期末）80%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 江戸の社会 (1) 太田道灌、後北条氏、徳川家康
- 江戸の社会 (2) 振袖火事と防災都市の建設
- 江戸の社会 (3) 町方支配と都市機能
- 江戸の社会 (4) 日本橋と商業
- 江戸の社会 (5) 長屋の暮らし
- 江戸の社会 (6) 浮世風呂の世界
- 中間試験
- 江戸の社会 (7) 名主日記から見た18世紀初頭の江戸
- 江戸のくらしと文化 (1) 江戸語の形成
- 江戸のくらしと文化 (2) 江戸の出版と江戸語資料
- 江戸のくらしと文化 (3) 江戸語の発音
- 江戸のくらしと文化 (4) 江戸語の人称代名詞
- 東京のくらしと文化 (1) 江戸語から東京語へ
- 東京のくらしと文化 (2) 東京語と標準語
- 東京のくらしと文化 (3) 東京語の位相
- 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ファッション、インテリア、食生活を彩る食器など、私たちは身近な生活においてもつねに快適さ、美しさを意識して求めている。「役に立たないもの、美しいと思わないものを家に置いてはならない」と言ったウィリアム・モリスは生活そのものを芸術化しようとした。現代の私たちはモリスの時代よりはるかに物質的に豊かになった。が、同時に多くの複雑な問題も抱えている。モリスの運動を振り返りつつ、日本で「用の美」を唱えた民芸運動、さらには現在の日本における環境問題と利便性の追求とのバランスについても検討する。

学習目標・到達目標

「美しい」生活の仕方とはどのような生活なのかを考える。心の豊かさや美しい生活、美しい生活とは何か。物心両面から考える。また持続可能な地球と私たちの生活の在り方についても考究する。

準備学習

出席は毎回必ず確認する。受講に際しては、積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑となる行為や、授業に関係ない行動、受講態度に問題がある場合は退席を求めるともある。

評価方法その他

出席および授業中の態度20%、期末試験60% レポート20%

週 テーマ・授業目標等

- 生活の中の美
- ウィリアム・モリス、マッキントッシュ
- ジャポニズム
- 日本の民芸運動
- 日本の工芸品
- 西洋の工芸
- 西洋の食器類
- アフタヌーンティーパーティー (1)
- アフタヌーンティーパーティー (2)
- アーミッシュの生き方を知る (1)
- アーミッシュの生き方を知る (2)
- アーミッシュの生き方を考える
- 自分自身のライフスタイルを見直す
- これからのライフスタイルを考える
- まとめ
- 試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものであり、社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、コミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力が向上することも期待したい。

学習目標・到達目標

言語コミュニケーションの特性および日本語の言語文化について理解する。あわせて、ここで得た知見をもとに自らのコミュニケーションのあり方について考え、その能力を向上させようとする姿勢を身につける。

準備学習

シラバスや授業の中で紹介される参考文献や配付資料を自ら積極的に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用など）や、授業に関係ない行動を取ることが慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

平常点20%、レポート30%、期末試験50%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

1. コミュニケーションとは
2. 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
3. コミュニケーションと文化
4. 日本の言語文化とコミュニケーション 敬語の種類としぐさ
5. 日本の言語文化とコミュニケーション 誤りやすい敬語
6. 日本の言語文化とコミュニケーション 敬語使用の実態と意識
7. 日本の言語文化とコミュニケーション 接客敬語をめぐる諸問題
8. 日本の言語文化とコミュニケーション 断り表現のしくみ
9. 日本の言語文化とコミュニケーション 断り表現の種類
10. 日本の言語文化とコミュニケーション 断り表現の使い分け
11. 日本の言語文化とコミュニケーション 感謝表現のしくみ
12. 日本の言語文化とコミュニケーション 感謝表現の使い分け
13. 日本の言語文化とコミュニケーション 感謝と謝罪の関係性
14. 日本の言語文化とコミュニケーション 依頼表現のしくみ
15. 日本の言語文化とコミュニケーション 依頼表現の使い分け

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会の中で10代から20代にかけての若年層は、既存のルール・文化に抵抗し、あるいは迎合し、自らの価値観を示してきた。若者が発信する文化にはその時代と社会の新しい感性が潜んでいる。この授業では主に昭和から平成にかけてのファッションの流行と、「若者ことば」という言語文化に関する考察を通じて、そこに投影された若者の感覚について論じてゆく。それらが培われてきた背景、及び今後の日本文化の発展についても論じていく。

学習目標・到達目標

若者文化の特色や変遷を理解する。若者文化に投影された若者の感覚や価値観、若者文化を培った背景について理解し、説明することができる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 若者ことばとは
- 第2週 若者ことばの特色
- 第3週 若者ことばの分析1 さ入れことばの使用実態
- 第4週 若者ことばの分析2 さ入れことばの使用意識
- 第5週 若者ことばの分析3 ぼかし表現の使用実態
- 第6週 若者ことばの分析4 ぼかし表現の機能
- 第7週 まとめ・中間試験
- 第8週 1950年代ファッション シネマファッション
- 第9週 1960年代ファッション ヒッピーとサイケ
- 第10週 1970年代ファッション フォークソング
- 第11週 1970年代後半ファッション ファッション雑誌
- 第12週 1980年代ファッション 女子大生ブーム
- 第13週 1990年代ファッション バブル景気とギャルの多様化
- 第14週 2000年代ファッション ローティーン
- 第15週 2000年代 エイジレス志向 かわいいとは何か
- 第16週 試験

準備学習

授業の中で紹介される参考文献や配付資料を自ら積極的に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用など）や、授業に関係ない行動を取ることが慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。なお、出欠は毎回確認する。

使用教科書名

特に指定しない。プリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

長さ、かさ、重さをはかるという行為とその概念は、古くから度・量・衡の世界として理解がなされてきた。今日、わが国ではメートル法のもとで生産活動、商業活動などの社会の営みが行われているが、それ以前には、メートル法とは別の単位が存在していたことを理解し、その一部は今なお生活のなかに根づいていることを明らかにする。

学習目標・到達目標

暮らしの中には、いたるところに「はかる」行為が存在する。時間、速さ、重さ、長さ、かさなど教え上げればきりがなが、こうした行為が計量（はかる）という概念をつくりあげ、生産活動や商業活動を支えていると言っても過言ではない。本講義では長さ、かさ、重さに視点をあてて暮らしの中にみられる計量という概念について学習する。

準備学習

準備学習として、身近な家庭にあるさまざまな商品の寸法（長さ）、容量（かさ）、重量などを見て、その単位数値の意味を考えてほしいと思います。

評価方法その他

小テスト（複数回）（80%）、平常点（20%）
（平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. 序論：新旧度量衡の葛藤
2. 単位の世界：暮らしの中にはさまざまな単位があり、度量衡変換表を検討しながら世界の単位系について学ぶ。
3. わが国古来の長さの単位とものさし：大陸からもものさしが伝播する以前にあったとされる身体尺とよばれる長さの基準と現代に残る古い尺度について学ぶ。
4. 曲尺の観察と特色：わが国の代表的なものさしである曲尺の単位（分、寸、尺など）と曲尺目盛の意味について学ぶ。
5. 曲尺と土地の面積：長さをはかることは面積をはかることにつながることを理解し面積の単位とその考え方を学ぶ。
6. かさの単位と量：かさの単位（勺、合、升など）とその意味するところを考えると、江戸時代における杓製造者についても触れる。
7. 杓の構造とメートル法：杓の基準がどのように定まってきたのか、江戸時代から明治時代に至るまでのその歴史的な過程を学ぶ。
8. 杓と米：かさを正確にはかる行為の重要性は、米の量を正確にはかることについて学び、同時に米俵のかさと重さについても理解する。
9. 重さの単位とはかる道具：江戸時代の重さの単位（匁、貫、斤など）と、天秤と棹秤の2種類のはかりの存在について学ぶ。
10. はかりの構造と歴史：両替天秤としての天秤はかりと、商業用はかりとしての棹秤の構造の差異と歴史的意味を考える。
11. 重さと貨幣：重さを考えることは必然的に金銀銭の3種類の貨幣制度やあるいは秤量貨幣、数量貨幣などにも関連してくることを学ぶ。
12. 江戸時代の家計簿と度量衡：金銭の出入が記録されている江戸時代の日記を分析しながら、当時の家計を考える。
13. 近代の度量衡（1）：度量衡取締条例
14. 近代の度量衡（2）：度量衡法
15. まとめ

使用教科書名

授業中に配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活者が行動する空間やそこにあるものが果たす役割は、それらの諸相を丹念に観察したり体験したりすることによって、より深く理解できるようになる。この講義では、生活空間を構成する種々の要素と、それに対する生活者の意識や行動、その変化の過程などを注意深く見ながら、生活観察に基づいて計画の発想と視点を導き出す考え方を学習する。

学習目標・到達目標

- ・街の構成要素であるものや空間を見る目を養う。
- ・生活観察の基礎的な考え方を理解し、その方法を体験する。
- ・ものや空間の意味と役割を、できるだけ幅広く理解する。
- ・観察事例から計画の発想と視点を導き出す基礎を理解する。

準備学習

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクションー講義日程と内容の概要
2. 生活観察の意義
3. 街なかのもの：事例収集と特徴分類
4. 歴史的環境における街具（1）生活者による評価
5. 歴史的環境における街具（2）デザイン改善手法と事例
6. 歴史的環境における街具（3）生活者評価に基づく設計事例
7. 都市化に伴う土地利用の変遷
8. 水辺環境（1）水辺利用の多様性喪失と回復
9. 水辺環境（2）親水性回復の発想と視点
10. 水辺環境（3）自然回復の発想と視点
11. ひと昔前の生活と現代生活の比較
12. ひと昔前と現代との、生活観とデザイン観の比較
13. ものの象徴的意味：物理的機能との対比
14. ものに囲まれた現代生活の観察
15. まとめ

使用教科書名

教科書は使用しない。資料を配付する。

評価方法その他

平常点35%、小レポート15%、最終レポート50%

授業科目概要・教育目的（履修条件）

東京の面白いところは、日本文化の伝統の上に築かれた江戸の文化と、近代化と共に西欧からもたらされた文化とが共存し、コーディネートされて、世界標準の近代文化に包含されながら生き残っていることである。本演習では、文化的資料を読み、実際に街に出かけて、江戸の文化や近代東京の文化に触れられるスポットを見学し、理解した上で、それらを現在の私たちの暮らしにどのように生かしていきけるのかについて考えていく。前半は近世の江戸文化に関わる事象を、後半は近代以降の東京の文化に関わる事象を、それぞれ主な考察対象とする。

学習目標・到達目標

江戸文化と近代文化とが共存するという都市東京の文化的特色を踏まえた上で、新旧それぞれの文化のありようについて具体的事例に即して学び、理解を深める。あわせて、それらの文化が現代の私たちの生活にどのようにつながっているのかを理解するとともに、そこから何を学び取ってこれからの我々の暮らしに生かしていくべきかを考えようとする姿勢を身につける。

準備学習

授業の中で紹介される参考文献や配付資料を自ら積極的に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用など）や、授業に関係ない行動を取るとは慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。特に、校外授業では、見学先に迷惑がかからないような態度で臨むことが求められる。

評価方法その他

評価方法 平常点60%、中間レポート20%、期末レポート20%。平常点は授業への参加状況、毎回の授業で提出するレスポンスシート、授業内で行う課題等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.江戸の出版文化
- 2.和本に触れる
- 3.和本を作る
- 4.江戸文学から読み解く江戸の暮らし(1)出版
- 5.江戸文学から読み解く江戸の暮らし(2)食
- 6.江戸文学から読み解く江戸の暮らし(3)水
- 7.校外授業 東京都水道歴史館
- 8.前半のまとめと受講生による討議
- 9.東京の文学から読み解く東京の暮らし(1)住まい
- 10.東京の文学から読み解く東京の暮らし(2)経済
- 11.東京の文学から読み解く東京の暮らし(3)食文化
- 12.東京の文学から読み解く東京の暮らし(4)婦人雑誌
- 13.婦人雑誌のつくる東京の暮らし
- 14.校外授業 お茶の水図書館での資料調査
- 15.後半のまとめと受講生による討議

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業においては、伝統的生活文化に支えられて残存する文化遺産がいかなるものかその価値を理解し、それをもつて向けてどう伝え、また、どのように活用することができるのかについて考究する。前半は、日本における伝統的文化の現代における状況調査と継承の方法について考察し、未来に向けた新しい文化創造の可能性について講義する。後半は、主に服飾史の観点から、日本における西洋服飾文化の受容について分析ならびに考察を行い、それを踏まえた現代における新しい文化の発信方法について講義する。

学習目標・到達目標

伝統的な文化がどのように受け継がれてきたか、その受容の歴史を踏まえつつ受講者自らが文化的資産の現代における新しい意義を見出し、それらを自らの力で発信することをめざす。

準備学習

この授業には見学を含む校外授業が含まれています。校外では各自安全に留意するとともに他の受講生や一般市民の迷惑となる行為を慎み、節度ある態度で臨んでください。また、課題は調査技術の修得につながりますから積極的に取り組み、自身の可能性を開いていきましょう。

評価方法その他

平常点30%(授業内課題含む)、発表10%、課題・レポート(前半・期末の2回)60%

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.文化遺産とともに生きる街—文化の継承と発信事例研究1
- 3.文化遺産とともに生きる街—地域と博物館・美術館の連携事業について
- 4.上野の街 見学(街角ミュージアムの実践)
- 5.文化遺産とともに生きる街—文化の継承と発信事例研究2
- 6.文化調査の方法について
- 7.調査の開示に向けて
- 8.文化の継承に関する発表会
- 9.日本の服飾(長着)のデザイン要素:形態、素材
- 10.日本の服飾からの洋服デザインの発想:三宅一生
- 11.日本の服飾からの洋服デザインの発想:川久保玲、山本耀司
- 12.日本の服飾からの洋服デザインの発想:高田賢三
- 13.日本の服飾からの洋服デザインの発想:matohu
- 14.日本の染色技術と産業の継承
- 15.ファッション市場における調査

使用教科書名

特に指定しないが、必要に応じてプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活文化はくらしている土地との結びつきのなかでどのように位置づけられるのか、実際に街を歩いてその実態を調査し、その調査結果の分析を行う。2011.3.11以降の日本が直面するコミュニティの問題を含めて生活文化の時間軸・空間軸での変容を辿りつつ、次世代に何をつないでいくか、何を伝えていくか、受講生とともに考究していきたい。具体的には、人とモノとくらしの関係を考察し、東京の過去・現在・未来を考える活動である「街角ミュージアム」の実践となる。

学習目標・到達目標

それぞれの地域に生きる人間が営む生活文化と社会の関係について理解する。ここで得た知見をもとに現代家政学的視点による自身の研究課題について、具体的な方向性を獲得することができるような問題意識を持つ。

準備学習

この授業では、受講生同士が積極的に意見を出し合って授業を展開してゆく場面がありますから、積極的な態度で臨んでください。また校外での見学に際しては、安全に留意し、マナーを守りましょう。

評価方法その他

平常点(授業内レポートを含む)40%、発表30% 期末レポート30%
平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション 現代家政学科で学ぶ生活文化について
- 2.街を見る BIDの観点から
- 3.街を見る 広告と生活文化
- 4.街に行く シオサイト
- 5.事後学習
- 6.発表会
- 7.街を見る 都市文化学の立場から
- 8.街を見る 生活文化学の立場から
- 9.次世代に伝える生活文化
- 10.ワークショップ1
- 11.ワークショップ2
- 12.ワークショップ まとめ
- 13.発表会
- 14.校内特別授業「農あるくらし」(外部講師による講演)
- 15.授業のふりかえり(まとめ)

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品を総合的に理解するために、実際に食品を用いた加工実験や調理実験を行い、食品の性質や加工・調理過程での変化とその加工原理について理解する。結果のまとめかたや実験レポートの書き方についても学習する。

学習目標・到達目標

食品成分の性質を理解し、調理・加工過程でのそれらの成分の変化や成分間反応、食品加工の原理について理解する。

準備学習

食品学概論、食品学の知識が生きてきます。また、食品を扱うので必ず指定の衛生的な身支度をして、欠席せずに積極的に実習・実験に参加してください。毎回のレポートをまとめる際、自分で疑問点や関連する事項について調べるなど、自主的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

評価方法その他

平常点(50%)、レポート(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.果実の加工(いちごジャムの瓶詰)
- 3.野菜の加工(スイートピクルス)、計量についての実験
- 4.穀類の発酵(甘酒)
- 5.乳の加工(バター、カッテージチーズ)
- 6.小麦の性質
- 7.小麦の加工(うどん)
- 8.砂糖溶液の加熱変化に関する実験(タフィー、ピーナッツの砂糖衣)
- 9.卵の加工(マヨネーズ)
- 10.魚の加工(かまぼこ)
- 11.乳の発酵(ヨーグルト)
- 12.野菜の加工(トマトケチャップの瓶詰)
- 13.食肉の加工(ソーセージ)
- 14.豆類の加工(豆腐)
- 15.大豆の加工(大豆水煮の缶詰)、まとめ

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の海外依存や食の外部化など、食生活の変化に伴って私たちの食の安全・安心は大きく揺らいでいる。わが国における食品リスクの現状とリスク要因（微生物、自然毒、有害化学物質など）、食品の安全基準や表示のあり方、食品の安全性を確保するためのリスク管理のあり方などについて、身近な食生活を中心に食料・環境問題までに視点を広げて検討する。

学習目標・到達目標

「食の安全・安心」は私達が食に求める最重要条件である。「食の安全・安心」を確保するために必要な基礎知識を学習するとともに、食生活や食料・環境問題など広い視点から食の安全を捉える姿勢を養うことを目標とする。

1. 食品衛生に関する基礎知識を理解する
2. 食品リスクの現状と課題を理解する
3. 食品の安全管理（リスクマネジメント）について理解する

準備学習

1年次に開講されている食品関係の科目（食科学概論、栄養学概論、食品学概論など）を履修していることが望ましい。フードスペシャリストの資格には必須科目であるので、資格取得希望者は特に念入りに予習・復習に努めること。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 食品の安全性に関わる項目と食品衛生行政
2. 微生物の基礎知識
3. 食品の腐敗・変敗とその防止
4. 食中毒の分類と発生状況
5. 微生物性食中毒
6. 自然毒食中毒(1):動物性自然毒
7. 自然毒食中毒(2):植物性自然毒
8. 化学性食中毒
9. 食品の安全性の確保
10. 家庭における食品の安全保持
11. 環境汚染と食品
12. 器具および容器包装
13. 水の衛生
14. 食品の安全流通と表示
15. 食品の安全管理
16. 定期試験

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会編「改訂 食品の安全性 第3版」建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では、レシピを空間軸と時間軸で比較する。前半は、空間軸すなわち地域比較を主として、ムギやコメなど食材別にレシピを比較する。あわせて食事作法や食のタブーについて、自然環境だけでなく文化的背景を踏まえ、レシピの違いが生じる要因を理解していく。後半は、日本を中心に時間軸で、日本人が摂取してきた料理、レシピの時代変遷を把握する。なぜ、現代のような食事になったのか理解すると共に、将来どうあるべきかも考える力を養う。

学習目標・到達目標

1. 様々なレシピを通して、その地域の自然環境、宗教、文化的・歴史的背景の影響を理解する。
2. 異文化との交流により、新たなレシピの誕生し、それが現在進行形あることを学び、あわせて、自らも食文化の継承者であり、同時に創造者であることを認識する。
3. 「食文化」を視点に「文化」についての研究方法を習得する。

準備学習

食文化はもちろん、その背景となる社会情勢に関心を持ち、普段からネットやBSニュース、新聞などから積極的に情報を収集してほしい。

評価方法その他

平常点(20%)、小レポート(30%)、定期試験(50%)
(平常点は授業のリアクションペーパー)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方 レシピ文化の考え方・研究方法について
2. ムギのレシピ比較—ヨーロッパとアジア
3. コメのレシピ比較—ヨーロッパとアジア、炊飯法
4. 麵のレシピ比較—原料、製法
5. レシピから見る食事作法の比較
6. レシピから見る食物禁忌と宗教の影響
7. 豆・豆製品のレシピ比較—大豆製品を中心に
8. だしのレシピ比較
9. 酒のレシピ比較
10. 日本の時代変遷によるレシピ比較1—縄文・弥生時代
11. 日本の時代変遷によるレシピ比較2—古墳～平安時代
12. 日本の時代変遷によるレシピ比較3—鎌倉・室町時代
13. 日本の時代変遷によるレシピ比較4—安土桃山時代
14. 日本の時代変遷によるレシピ比較5—江戸時代
15. 日本の時代変遷によるレシピ比較6—明治～昭和時代
16. 試験

使用教科書名

毎回、教員が用意したプリント(1-2枚)を配布して授業を進める。学生はA4サイズのファイルブックを用意しておくこと。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

第2次大戦後の日本において欧米諸国の食事が推奨されたが、伝統的な和食を中心とした食文化を駆逐するまでには至らなかった。現在では、日本の食文化は世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。この科目は、日本の食文化がどのように発展したのか、日常の食事、ハレの食事、地域差、料理に使用された食材はどこで生産されどのように運ばれたのか、などに注目しながら検討する。

学習目標・到達目標

日本の食文化が世界の中でどのような位置を占めるのかを把握すること。
日本の食文化の内容について、食事様式、日常の食事、主食と副菜、調味料、外食文化などの位置づけを把握すること。

準備学習

食に関する新聞記事が多くみられます。切り抜いてノートなどに貼り付けて活用されることをお勧めします。

評価方法その他

平常点20%、レポートまたは試験80%。平常点は授業への参加状況で判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 はじめに
- 2 世界の食文化(1)主要穀物と食文化圏
- 3 世界の食文化(2)粉食文化と粒食文化
- 4 日本の食文化
- 5 異文化接触
- 6 主食の文化
- 7 副食の文化
- 8 調味料・油脂・香辛料
- 9 菓子・茶・酒
- 10 日本料理
- 11 台所・食器・食卓
- 12 日常の食生活
- 13 非常の食生活
- 14 外食文化
- 15 行事食
- 16 レポートまたは試験

使用教科書名

江原絢子・石川尚子編『日本の食文化 その伝承と食の教育』アイ・ケイ コーポレーション

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この科目は主として江戸時代の食文化に関係した史料について検討を加える。江戸時代のものは活字になった利用しやすいものと本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本(古文書)の両方を活用し講読する。これらの基礎の上に江戸時代料理の再現をする。また各人の郷土料理についてのレポートとそれらの再現料理をする。

履修条件

- 1) 「基礎調理」を履修していること。
- 2) 実習費用がかかるので別途徴収する。

学習目標・到達目標

世界中から注目されている日本食の原点について理解を深めることを目的とする。具体的作業として、本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本を利用して江戸時代料理を再現する。

準備学習

食に関する新聞記事が多くみられます。切り抜いてノートなどに貼り付けて活用されることをお勧めします。

評価方法その他

平常点40%、レポートまたは試験60%。平常点は授業への参加状況で判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 はじめに
- 2 江戸期史料(1)『近世風俗志』五 食器
- 3 江戸期史料(2)『近世風俗志』五 主食
- 4 江戸期史料(3)『近世風俗志』五 副食
- 5 江戸料理本(1)『料理物語』魚
- 6 江戸料理本(2)『料理物語』青物
- 7 江戸料理本(3)『料理物語』吸物
- 8 江戸料理の復元(1)使用テキストについて
- 9 江戸料理の復元(2)料理本の解読
- 10 江戸料理の復元(3)実習
- 11 江戸料理の復元(4)使用テキストについて
- 12 江戸料理の復元(5)料理本の解読
- 13 江戸料理の復元(6)実習
- 14 郷土料理についてのレポート
- 15 郷土料理の再現実習
- 16 レポートまたは試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本学附属図書館大江文庫は、江戸時代の食生活、女子教育、服装、住居など生活文化全般にわたる本を多数所蔵している。日本は第2次世界大戦後に欧米諸国をモデルとして戦前の伝統的な生活を捨て去ってきたが、地球環境の問題、エネルギーの問題が出てきた現代生活の中で、江戸時代の中に今後の生活に参考とすべきものが含まれているとして江戸時代の見直しがされている。この科目は江戸時代女性の生活を知るための知識習得を目的とする。「東京方角」ではくずし字入門について学び、「女実語教」では女子教育について学ぶ。江戸時代女性の百科事典である「女重宝記」は活字本を使用する。

学習目標・到達目標

江戸庶民の衣食住や女子教育について理解するためには、当時の教科書を検討することが必要である。活字のものばかりでなく、古文書で書かれたものも少しではあるがのぞいてみたい。

準備学習

準備学習としてはとりたててないが、漢和辞書・国語辞書を頻りにひくことになるので、自宅では高校で使用したものを用意しておいてください。。

評価方法その他

平常点20%、試験（中間・期末）80%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 江戸の生活
- 2 東京方角(1)社会科教材の入門
- 3 東京方角(2)社会科教材、変体かな
- 4 東京方角(3)社会科教材、変体かな
- 5 東京方角(4)社会科教材、漢字くずし
- 6 東京方角(5)社会科教材、漢字くずし
- 7 中間試験
- 8 女実語教(1)女子教育の入門
- 9 女実語教(2)女子教育、変体かな
- 10 女実語教(3)女子教育、変体かな
- 11 女実語教(4)女子教育、漢字くずし
- 12 女実語教(5)女子教育、漢字くずし
- 13 女重宝記(1)百科事典、活字本
- 14 女重宝記(2)百科事典、活字本
- 15 女重宝記(3)百科事典、活字本
- 16 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食材に関する科学的知識、栄養と食品、食の安全性、調理科学などについて学んだことを基礎として、食生活におけるそれらの応用について具体的事項を中心に学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、メニュープランニング、食事に関するマナーとサービス、テーブルコーディネートなどについて学習する。

学習目標・到達目標

人々の食生活において、「健康を維持するための食」に並んで重要なのが「文化としての食」であることを理解できる。さらに「循環型社会」、「食育」など食をめぐる新しい課題にも関心をもつようになる。

準備学習

これまでに学んだ食品、栄養、調理などを実際の食生活に生かしていくときに、私たちの食卓を楽しく豊かにするための総合的なことについて学んでいきます。調理実習を履修した人は、実習で学んだ献立構成、盛り付け、配膳なども結びつけて理解してください。現役のフードコーディネーターの講師による特別授業も予定しています。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. フードコーディネートとは
2. 食に関する文化と歴史
3. 食卓のコーディネート
4. 日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネート
5. 食卓のサービスとマナー
6. 日本料理、中国料理、西洋料理のサービスとマナー
7. メニュープランニング
8. 日本料理、中国料理、西洋料理のメニュープランニング
9. 食空間のコーディネート
10. フードサービスマネジメント
11. フードサービスの起業
12. 投資計画、収支計画
13. 食企画の実践コーディネート
14. 食企画の実現場
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

「新版フードコーディネータ論 第2版」日本フードスペシャリスト協会編、建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、住宅設計やインテリア設計を専門として学ぶための基礎となる製図方法の習得を目的とします。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標・到達目標

1. 建築設計を進める上で基礎的技術である製図の技法を習得する。
2. 構造別の住宅を対象として図面の表現方法を習得する。
3. 各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を習得する。

準備学習

手書きによる製図は建築設計の基本となる重要な技術です。住宅建築のトレースを通して、建築の基礎をしっかりと勉強してください。図面を読み解くことで様々な建物を見る楽しみを学びましょう。

事前準備として、現在住んでいる家もしくは自分の部屋の間取りを描いてみましょう。また、気になる建物、気になる家具、好きな場所、好きな店を見つけてみてください。

評価方法その他

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。評価方法は、平常点20%、課題点80%とする。平常点は講義への取り組み、積極性を課題点は、製図技術の精度、完成度、理解度とします。

週 テーマ・授業目標等

1	4月10日		: ガイダンスと製図基礎
2	4月24日	課題1	: 線の練習 / レタリング・文字の練習
3	5月1日	課題2	: 製図基礎 / 建築図面の表示記号
4	5月8日	課題3	: 木造住宅 / 配置図・平面図の表現方法 (台東区 旧平櫛田中邸)
5	5月15日	課題3	: 木造住宅 / 配置図・平面図の表現方法
6	5月22日	課題4	: 木造住宅 / 断面図・立面図の表現方法
7	5月29日	課題4	: 木造住宅 / 断面図・立面図の表現方法
8	6月5日	課題5	: 木造住宅 / 展開図の表現方法
9	6月12日	課題6	: RC住宅 / 配置図・平面図の表現方法 (大阪市 住吉の長屋)
10	6月19日	課題6	: RC住宅 / 配置図・平面図の表現方法
11	6月26日	課題7	: RC住宅 / 断面図・立面図の表現方法
12	7月3日	課題7	: RC住宅 / 断面図・立面図の表現方法
13	7月10日	課題8	: RC住宅 / 展開図の表現方法
14	7月17日	課題9	: 模型作製図面の作成
15	7月24日	課題9	: 模型制作
16	7月31日	定期試験等	: 課題最終提出日

使用教科書名

瀬川康秀『初学者の建築講座 建築製図』市ヶ谷出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。設計製図演習A・Bの総括として、図面、模型、パースを作成し、総合的なプレゼンテーション手法の上達を目指します。なお、本演習の履修は設計製図演習Aの単位取得済であることを条件とします。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標・到達目標

1. 木造住宅の設計製図手法を習得する。
2. 立体表現図法を習得する。
3. 部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握する。
4. 建築計画のプレゼンテーション手法を習得する

準備学習

立体表現の基礎となる一点透視図法や二点透視図法は、その建物の良さをプレゼンテーションする方法として有効です。建築設計やインテリア設計など様々な場で必要となる技術ですので、頑張って勉強しましょう。

前期では、建築を見る基礎を学んでももらいました。気になる建物を見つけ、なぜ気になるのか考えてみてください。また、前期の復習はしっかりと行って下さい。

評価方法その他

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。評価方法は、平常点20%、課題点80%とする。平常点は講義への取り組み、積極性を課題点は、製図技術の精度、完成度、理解度とします。

週 テーマ・授業目標等

1	9月25日	課題1	: パースの基礎 / アクソメとアイソメ
2	10月2日	課題2	: 和室(六畳)の知識とパース
3	10月9日	課題2	: 和室(六畳)のパースと着色
4	10月16日	課題3	: 居室の知識と設計
5	10月23日	課題3	: 居室の知識と設計
6	10月30日	課題3	: 建築細部の知識と設計
7	11月6日	課題4	: 透視図法の基礎
	11月13日	休講	(学園祭のため)
8	11月20日	課題4	: 居室のパースと彩色
8	11月27日	課題6	: 総合表現(木造住宅の平面図トレース)
9	12月4日	課題6	: 総合表現(木造住宅の平面図トレース)
	12月11日	休講	(12月12日に振替)
10	12月12日	課題5	: 現地見学(江戸東京たてもの園:前川國男邸)
11	12月18日	課題6	: 総合表現(木造住宅の断面図・展開図トレース)
12	1月8日	課題6	: 総合表現(木造住宅の断面図・展開図トレース)
13	1月15日	課題6	: 総合表現(木造住宅の模型作製)
14	1月22日	課題6	: 総合表現(木造住宅の模型作製)
15	1月29日	定期試験等	: 課題最終提出日及び講評会

使用教科書名

瀬川康秀,「初学者の建築講座 建築製図」.市谷出版社.2004
※適宜、参考資料プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

設計製図演習AおよびBで学んだ基礎知識と手法を活かし、小規模な住宅の設計2課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。

学習目標・到達目標

具体的な住宅の設計を通し、建築設計および製図手法を習得する。
なお、本演習の履修は設計製図演習Bの単位取得済であることを条件とします。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

準備学習

デザイン力を上達するには実例を学ぶことが重要になります。東京都心は世界的に見ても屈指の建築・インテリアデザインの最先端地域になります。様々なデザインを実際に見て、学んでください。
なお、本演習の履修は設計製図演習Bの単位取得済であることを条件とします。

評価方法その他

平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。

週 テーマ・授業目標等

第1週ガイダンス 第1課題 小住宅設計課題の説明
第2週第1課題、第2課題敷地見学、周辺調査事例研究
第3週エスキース
第4週平面図、断面図、立面図のエスキース
第5週平面図、立面図、断面図製図
第6週平面図、立面図、断面図製図
第7週模型製作、第1課題提出
第8週第2課題 住宅設計課題の説明、エスキース
第9週平面図、断面図、立面図のエスキース
第10週平面、立面図、断面図製図
第11週平面、立面図、断面図製図
第12週平面、立面図、断面図製図
第13週模型製作
第14週模型製作
第15週 製図補足、プレゼンテーションまとめ
第16週ポスターセッション（作品発表会）

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

2つの住宅課題の設計製図演習を通じ、環境の中で生活を包み込む、「空間としての住宅」の設計の方法を学びます。設計課題の読み解きから始まり、平面、断面、模型、パースなどの製作を通じ、設計、製図、プレゼンテーションなど空間を創り出す建築設計の演習をします。

学習目標・到達目標

具体的な住宅の設計を通し、建築設計および製図手法を習得する。
なお、本演習の履修は設計製図演習Cの単位取得済であることを条件とします。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

準備学習

「設計製図演習D」は専門の選択の最後の演習です。実際の建築の設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を創造してゆく」こととなります。授業では、実際の敷地を想定して、より具体的な「設計演習」を実施します。
※この授業を履修するには設計製図演習Cの単位取得が条件になります。

評価方法その他

平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。

週 テーマ・授業目標等

第1週イントロダクション・第1課題の説明「木造のレストハウス」
第2週エスキース（事例も含めて）
第3週平面、立面、断面のエスキース
第4週模型の作製
第5週パース、プレゼンテーションの準備
第6週ポスターセッション
第7週第2課題の説明「都市に棲む/富士見のいえ（RC住宅）」
第8週事例研究/敷地調査/家具の資料
第9週平面、立面、断面のエスキース1
第10週平面、立面、断面のエスキース2
第11週模型製作
第12週パースの作成
第13週プレゼンテーションの計画
第14週プレゼンテーション準備
第15週ポスターセッション

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」の各分野を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各分野での学びへの理解、教員や他の学生との対話、演習などを通して、現代家政分野における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。なお、「総合家政」は、便宜上、「現代家政・生活教育、生活文化」と「生活ビジネス」、の二つに分け、5つの分野(グループ)で行う。

学習目標・到達目標

現代家政学科の学びの特徴を理解し、4年間大学で学ぶ目標を見つける。

週 テーマ・授業目標等

1. 時間割を作ろう(学科の学びの特徴の説明と時間割作成)
2. 卒業成長値の入力(マナバフォリオの使い方)
3. 自分の将来を考え、マナバフォリオを入力する
4. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
5. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
6. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
7. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
8. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
9. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
10. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
11. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
12. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
13. 分野別の学びの特徴の理解と課題への取り組み
14. 問題の発見や関心の深まりを考える
15. 4～14回の「学び」の理解をまとめ、マナバフォリオを入力する
16. ポスター形式発表会(試験)

準備学習

受講前に「大学に入学した目的」「将来の目標や夢」などについて考えをまとめておくこと。また、1年前期に履修したい科目についても考えておくこと。

評価方法その他

平常点(60%)、課題+授業評価(40%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

使用教科書名

プリント等を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

1)世界では日本語をどのぐらいの人がどのような目的で学んでいるのかを学び、日本や日本語が世界の中でどのような位置づけにあるかを学んでいく。
2)幼児の言語習得と成人の外国語習得の違いを学び、「なぜ外国語は母語のように自然に身につかないのか」という疑問を解決していく。
3)外国語教授法の種類を学び、外国語習得との関係を考えていく。
4)日本語の特徴とその指導を学び、外国語を学ぶ際に「形」を覚えるだけでは機能しないことを考察していく。

学習目標・到達目標

世界の日本語学習者の現状、幼児の母語習得と成人の外国語習得の違い、外国語教授法、日本語の特徴とその指導を学ぶことを通し、私達が普段無意識に使用している言語の役割および習得の過程についての考察を深めていく。

週 テーマ・授業目標等

- 1)イントロダクション・日本語学習者の現状
- 2)幼児の母語習得と成人の外国語習得の違い
- 3)外国語教授法1
- 4)外国語教授法2
- 5)外国語教授法3
- 6)外国語教授法4
- 7)中間試験
- 8)日本語の音声の特徴と指導1
- 9)日本語の音声の特徴と指導2
- 10)日本語の音声の特徴と指導3
- 11)日本語の語彙の特徴と指導1
- 12)日本語の語彙の特徴と指導2
- 13)日本語の文法の特徴と指導1
- 14)日本語の文法の特徴と指導2
- 15)日本語の文法の特徴と指導3
- 16)期末試験

準備学習

授業は、実際に体験をしてもらい、意見を交換することで進めていきます。積極的な参加を期待します。

評価方法その他

中間試験 40%
期末試験 40%
平常点 20%
(平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する)

使用教科書名

プリントを配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工を中心に、食文化、食と社会環境についても取り上げ、総合的に食物学について学習する。

学習目標・到達目標

人が心身ともに健康で豊かな生活をおくるために食生活の果たす役割は大きい。私たちの生活をよりよくするために学ぶ家庭科の食物分野の教育を担うことができるよう、食品学、栄養学に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を営むことができる食に関する総合力を身につけることを目標とする。

準備学習

食物学の科学的な領域を学んでいくためには、基礎に化学、生物学が必要となります。高校で学んだことをきちんと復習しておいてください。また、食に関するニュースや話題には関心をもつようにしてください。

評価方法その他

定期試験80%、課題提出20%

週 テーマ・授業目標等

- 1.はじめに
- 2.食と健康
- 3.栄養素の機能(栄養素の種類と消化吸収、炭水化物)
- 4.栄養素の機能(タンパク質、脂質)
- 5.栄養素の機能(ビタミン、ミネラル)
- 6.食品中のその他の成分の機能
- 7.食生活の設計
- 8.食物と食品、食品の機能
- 9.植物性食品の調理・加工(穀類)
- 10.植物性食品の調理・加工(いも類、豆類)
- 11.植物性食品の調理・加工(野菜類、海藻類、果物類)
- 12.動物性食品の調理・加工(肉類、魚介類)
- 13.動物性食品の調理・加工(卵、乳類)
- 14.その他の食品の調理・加工
- 15.まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

食物学概論 / 藤原葉子 編著 / 光生館

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ユニバーサルデザインについての理解を深め、あらゆる人への配慮する気持ちを持つことや行動が出来るようになり、共生社会の構築に貢献できるようになること。

学習目標・到達目標

ユニバーサルデザインとは人種、性別、年齢、身体的特徴などに関わらず、あらゆる人が区別されることなく、便利でかつ快適に使えることを前提としたデザインのことである。衣服については機能性、安全性、審美性を始め、健康や表示などあらゆることに配慮することが必要である。ノーマライゼーションを目指す社会においては不可欠なことである。事例を参考にしながら理解を深め、現在あるものをどのように改良すればより良くなるかを考える。

準備学習

ユニバーサルデザインについての理解を深めてさまざまな人たちが暮らしやすい社会環境をつくってほしい。

評価方法その他

授業への取り組み20% 試験60% レポート20%

週 テーマ・授業目標等

- 1.生活とデザイン(1)
- 2.生活とデザイン(2)
- 3.社会の動向とデザイン
- 4.生活と衣服
- 5.人間の特性と衣生活
- 6.ユニバーサルデザイン
- 7.カラーユニバーサルデザイン
- 8.ユニバーサルファッション
- 9.ユニバーサルファッションへの工夫
- 10.特別講師による事例紹介
- 11.疑似体験
- 12.生活場面での工夫
- 13.ユニバーサルファッションへの取り組み(1)(特別講師)
- 14.ユニバーサルファッションへの取り組み(2)(特別講師)
- 15.まとめ
- 16.試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「生活の質の向上」を考えることは、現代家政学科の学びの中核をなしている。この講義では、企業活動と生活、各分野の研究と生活、社会見学、社会で活躍するOGの姿を通して、現代家政学科での学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして、各自が現代家政演習で見つけた4年間の学習目標をより具体化することを目的とする。主に教室での講義と校外施設等の見学を行う。

学習目標・到達目標

現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深めることを目標とする。

準備学習

前期「現代家政演習」の内容を振り返り、将来の希望を考えておく。

評価方法その他

平常点(60%)、課題+授業評価(40%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 各自の4年間の目標と後期時間割の確認
3. 現代家政学科の学びと実社会との関わり1(企業やNPO団体などの講演)
4. 現代家政学科の学びと実社会との関わり2(企業やNPO団体などの講演)
5. 各分野の研究と学科での学びの関わり1(ゼミ)
6. 各分野の研究と学科での学びの関わり2(ゼミ)
7. 各分野の研究と学科での学びの関わり3(ゼミ)
8. 各分野の研究と学科での学びの関わり4(ゼミ)
9. 社会見学レポートの書き方・発表方法
10. 特別公開講座
11. 社会見学1
12. 社会見学2
13. 社会見学3
14. 社会見学4
15. 現代家政学科の学びと実社会との関わり3(社会で活躍するOGの講演)
16. 社会見学発表会

使用教科書名

プリント等を配布する予定。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本史の中で、江戸時代においては武士身分、農民身分、町人身分が特にいわれ、第2次世界大戦以後においてもなお学生身分、女性の身分というように身分というものが頻繁に使用されている。この身分というものの歴史的展開について、身分の発生から古代・中世・近世・近代まで具体的な史料をもとに検討する。各時代において社会的に差別されたものの存在がなんであったのか、女性の社会的地位については特に注意して言及したい。

学習目標・到達目標

身分と差別について認識すること。

週 テーマ・授業目標等

- 1 古代の身分(1)身分の発生、邪馬台国、卑弥呼
- 2 古代の身分(2)律令制と渡来人
- 3 中世の身分(1)武家政権の成立
- 4 中世の身分(2)非農業民と交易
- 5 近世の身分(1)幕藩体制の成立
- 6 近世の身分(2)武士と武士道
- 7 中間試験
- 8 近世の身分(3)農民
- 9 近世の身分(4)商工民
- 10 近世の身分(5)賤民の成立
- 11 近世の身分(6)賤民の展開
- 12 近世の身分(7)女性
- 13 近世の身分(8)女大学
- 14 近世の身分(9)老人と障害者
- 15 近代の身分-解放運動、水平社
- 16 期末試験

準備学習

準備学習として、高校までの日本史の学習内容を再認識しておく、授業内容がより深く理解できます。また、授業中に紹介する参考文献などについても、自ら積極的に読んで授業に望むことを希望します。

評価方法その他

平常点20%、試験(中間・期末)80%。平常点は授業への参加等で総合的に判断する。

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活史とは、衣食住など我々の日常生活のあらゆる局面を通時的な観点から考えていくものである。しかし、今日の領域には社会学者、文化人類学者、民俗学者、歴史学者など多様な人々が関心をよせ、情報論、社会論、時間論、社会福祉論、空間論、精神論など多様な展開をみせている。この講義では歴史学、民俗学をベースにしながら衣食住を題材に生活史の一端、たとえば台所道具の変遷や1950年代以降の日本の生活革命を紹介しながら講義をすすめていく。

学習目標・到達目標

日本人の生活文化について「生活史」という歴史的経緯を振り返りながら日本文化の生活の深層を考えてみたい。

週 テーマ・授業目標等

1. 生活史の諸相(歴史・民俗から)
2. 生活史と生活革命(1)
3. 生活史と生活革命(2)
4. 生活史と生活革命(3)
5. 生活史と衣食住(1)
6. 生活史と衣食住(2)
7. 生活史と衣食住(3)
8. 生活史と衣食住(4)
9. 生活史と衣食住(5)
10. 生活史と衣食住(6)
11. 生活史と衣食住(7)
12. 生活史と衣食住(8)
13. 生活史と衣食住(9)
14. 生活史と衣食住(10)
15. 生活史と衣食住(11)

準備学習

皆さんの祖父母の時代を中心にした衣食住の世界をもう一度再評価してみませんか。

評価方法その他

出席および博物館展示・講座などの出席によるレポート提出。

使用教科書名

レジュメを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実生活において必要となる経済関連の知識として、FP(ファイナンシャル・プランナー)資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「A. ライフプランニングと資金計画」「B. リスク管理」「C. 金融資産運用」「D. タックスプランニング」「E. 不動産」「F. 相続・事業承継」の6分野、そのうち特に「金融」「タックス」に重点を置く。ただし、単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、講義には積極的に参加・発言することが望まれる。

学習目標・到達目標

私たちは日々の生活のために何らかの経済取引を行い続けている。「モノやサービスを買う・消費する」「お金を貯める、増やす」「借りる」「リスクに備える」「税を払う」などの経済取引において合理的な意思決定を行う際に、日本の法律や制度を知っているかどうかは大きな差につながる。本講義では、消費者・生活者としての視点を軸にしつつ、それに加えて、将来金融業界に関わる職業人としても役に立つ金融経済の知識やスキルの習得を目標とする。

準備学習

前提となる知識は特にありません。経済・金融に関する基礎知識があるとより理解が深まります。また、FP(ファイナンシャル・プランナー)について事前知識があると学習範囲の全体像が把握できます。生活者としての視点を重視しますが、まじめに授業を受ければ、初級のFP資格取得レベルの知識が身に付きますので、授業後は積極的な資格試験への挑戦を期待します。

評価方法その他

平常点(60%)、最終回に実施する総合テスト(40%)
(平常点は授業への参加状況、授業中に課す課題の提出等により、総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. パーソナル・ファイナンスの全体像(オリエンテーション含む)
2. ライフプランニングと資金計画
3. キャッシュフロー表の作成
4. 社会保険制度と年金制度
5. タックスプランニング①(税制の全体像と所得税の基礎)
6. タックスプランニング②(所得税の計算)
7. タックスプランニング③(源泉徴収制度とその他の税)
8. リスクマネジメント(生命保険と損害保険)
9. 金融資産運用①(経済・景気指標と金利)
10. 金融資産運用②(各種金融商品の概要)
11. 金融資産運用③(その他金融商品とポートフォリオ運用)
12. 不動産運用設計(不動産の取引、法令上の規制、税金)
13. 相続・事業承継の基礎知識(相続税)
14. 相続・事業承継の基礎知識(贈与税)
15. 全体の復習、総合テスト

使用教科書名

「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-[第3版]」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2014年発行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の可視化」の流れのプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

情報とその伝達の間接関係を理解し、情報を収集、分類、可視化(表現)することに、より正確な情報を伝達出来ることを学習目標とする。

週 テーマ・授業目標等

1	4月 8日	講義のオリエンテーション、情報伝達と表現の概要
2	4月15日	広告デザインとコミュニケーション
3	4月22日	インフォメーションデザインと実例
4	5月13日	グラフィックデザインの要素(デザイン原理)
5	5月20日	演習:個別テーマ決定、ブレインストーミング
6	5月27日	演習:情報の収集
7	6月 3日	演習:情報の分類
8	6月10日	演習:グループ構成、テーマ決定、ブレインストーミング
9	6月17日	演習:表現の基礎1
10	6月24日	演習:表現の基礎2
11	7月 2日	演習:表現の基礎3
12	7月 9日	制作:情報の可視化1
13	7月16日	制作:情報の可視化2
14	7月23日	制作:情報の可視化3
15	7月30日	制作:情報の可視化4
16	8月 5日	プレゼンテーション

準備学習

現代社会には情報にあふれています。普段見ている書籍、新聞、雑誌、そしてCMなどの情報媒体がどのように表現して、何を伝えたいのか注意してみてください。

評価方法その他

課題50%、プレゼンテーション30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

使用教科書名

授業中に指定する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。後半は、消費者教育を中心とした生活課題解決の方法を社会的に考えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

準備学習

生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。

週 テーマ・授業目標等

1	くらしをつくりかえる家庭経営学
2	「住まう」という観点から家族写真を読む
3	映像にみる家族 家族構成の観点から
4	映像にみる家族 生活文化継承の観点から
5	映像にみる家族 コミュニティの観点から
6	ワークショップ 家族の風景
7	ワークショップのまとめ
8	育児をめぐる生活時間調査について
9	自立のための意思決定
10	社会人になるための経済学
11	カード社会の歩き方
12	消費者市民社会
13	リスクマネジメント
14	持続可能な消費のための教育
15	授業の振り返り
16	試験

評価方法その他

平常点 50点 (上村分:25点 井上分:25点)
レポート・試験50点 (上村分:25点 井上分:25点)

使用教科書名

暮らしをつくりかえる 生活経営力/朝倉書店/2010
これであなたもひとり立ち/金融広報中央委員会
消費生活能力検定試験受験対策問題集2/(財)日本消費者協会 消費生活能力検定委員会/日新印刷株式会社/2006

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生きる力の基盤となる衣食住、地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。家族・消費生活、児童から高齢者までの家庭と地域の生活、衣食住の生活改善の知識と技術を理解し、生活の質を高める方法を習得する。生活者の視点で、現代社会のなかで、家政の知と技がどのように、生活における人と人の関わりあい、人と心の関わりあい、人と物との関わりあい、人と事からの関わりあいを支えてきたのかを考える。

学習目標・到達目標

家政学の視点から生活の歴史を振り返り、現状を分析し、持続可能な社会にむけて、今後の課題をみつける力を育成する。

準備学習

持続可能な社会の形成にむけて、現代家政学を学んでいる学生の視点から、積極的な提案をしてほしいと期待しています。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等):20点
定期試験:80点

週 テーマ・授業目標等

1. 家政学概論とは
2. 消費生活(1)衣生活
3. 消費生活(2)法律と契約, 悪質商法
4. 消費生活(3)生活と家計管理
5. 消費生活(4)食生活
6. 消費生活(5)住生活・環境
7. 消費生活(6)まとめ
8. 住生活(1)住生活の変遷
9. 住生活(2)現代の住生活と消費者
10. 食生活(1)食生活の変遷
11. 食生活(2)現代の食生活と消費者
12. 衣生活(1)衣生活の変遷
13. 衣生活(2)現代の衣生活と消費者
14. 家庭経済(1)家庭経済の変遷
15. 家庭経済(2)現代の家庭経済と消費者
16. 試験

使用教科書名

消費者力検定受験対策テキスト 2015改訂版(日本消費者協会)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家族関係はさまざまな人間関係の中でもっとも身近な人間関係であり、誰もがその経験から家族についてのイメージをいただいている。今日、家族はかつてない激しい社会変動の中でかたちも機能も多様化し、さまざまな問題をかかえている。家族関係の基礎理論や家族の心理を学び、諸問題への対応について考察する。

学習目標・到達目標

次の内容への理解を学習の目標にしてください。

1. さまざまな結婚・家族のかたちから家族とは何かを考える
2. ファミリー・アイデンティティについて
3. 家族の定義の変遷について
4. 基本用語の概念を理解する(世帯・家庭・居住規制・家族周期)
5. 今日の家族の問題は何か、家族理解の方法について考察する

準備学習

家族のことを勉強するという事は、自分自身の家族を見直すこととなります。自分のルーツを知ることにもなり、大人への第一歩にもなります。毎回の小論文の課題に答えることが、気恥ずかしかったり、嫌だったりすることもあるかもしれませんが、自分自身を見つめなおす機会にしてください。家族に関係する小説や映画は、たくさんあります。いろいろな家族を知り、自分の家族とも話し合ってください。

評価方法その他

小論文 30%(毎回、授業の時に提出)
レポート 30%(学期末に提出)
学期末テスト 40%(学期末に実施する)
そのほか、授業への参加状況など、総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

1. 家族とは
2. 家族分析のてがかり
3. 青年期の異性交際
4. 配偶者選択
5. 結婚の意味と機能
6. 離婚、その後
7. ライフサイクル
8. 家族の危機
9. 家族の役割構造
10. 家族の視力構造と情緒構造
11. 子どもの養育と社会化
12. 老親の扶養
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変動
15. まとめ

使用教科書名

森岡清美、望月嵩共著『新しい家族社会学』培風館 最新版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭看護の対象は、人間とその生活全般である。したがって、生活体としての人間とかがかわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。本講義では、日常にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し、実践するための基礎を学ぶと同時に、福祉的視点からの生活の支援についても学ぶ。

学習目標・到達目標

病気の予防、家庭での看護、高齢者の介護などに関する知識と技術を習得する。
家庭での看護や介護などを実践する能力と態度を習得する。

準備学習

自分自身の健康と家族の健康を守ることは大切な家庭機能の一つです。無理なダイエットはしていませんか？興味本位でタバコを吸っていませんか？精神的に不安なことはありませんか？健康、医療、看護、介護について一緒に考えてみましょう。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート(70%)による総合評価
(平常点は授業への参加状況、受講への意欲、覚論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | | | |
|----|-------------|----------------|
| 1 | 健康とは | |
| 2 | 病気の予防と早期発見 | |
| 3 | 家庭における看護 | |
| 4 | 家族の年代別の健康管理 | 1)母子保健と看護 |
| 5 | 〃 | 2)小児保健と看護 |
| 6 | 〃 | 3)成人保健と看護 |
| 7 | 〃 | 4)成人保健と看護 |
| 8 | 〃 | 5)精神保健と看護 |
| 9 | 家庭看護の実際 | 1)基本的な生活とその観察 |
| 10 | 〃 | 2)看護の基本技術 |
| 11 | 〃 | 3)応急手当 |
| 12 | 高齢者の看護 | 1)高齢者の心身の特徴 |
| 13 | 〃 | 2)高齢者の病気・事故 |
| 14 | 〃 | 3)高齢者の介護 |
| 15 | 〃 | 4)高齢者の福祉(介護保険) |
| 16 | まとめ・試験 | |

使用教科書名

家庭看護・福祉 新訂版 内海 滉ほか 実教出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標

現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようにする。

準備学習

関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
(2) 視察レポートの提出 30%
(3) 平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | | | |
|----|--------------------------|--|
| 1 | ガイダンス | |
| 2 | 消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から | |
| 3 | 消費者教育をめぐる動向 | |
| 4 | 企業と消費者教育 | |
| 5 | 企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者 | |
| 6 | 行政における消費者情報①:消費者教育の実践 | |
| 7 | 行政における消費者情報②:消費生活相談情報 | |
| 8 | 行政における消費者情報③:消費者事故情報 | |
| 9 | メディアリテラシーとは何か | |
| 10 | 生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討 | |
| 11 | 消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用 | |
| 12 | 消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法 | |
| 13 | 消費者情報に関わる統計の分析と評価 | |
| 14 | 消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用 | |
| 15 | まとめ | |

使用教科書名

国民生活センター編『くらしの豆知識(2015年版)』2014年
消費者庁企画課編『ハンドブック消費者(2014)』全国官報販売協同組合、2014年
(※テキストの購入については、初回の講義にて案内します)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業では、経済社会を国民生活を中心に据えて再考するとともに、現代的課題を検討し、消費生活の現状を消費者としてだけでなく生活者の視点から捉え直す。価格決定のメカニズムや物価など経済学の基礎を学び、市場における企業の行動、戦略についても理解する。各回のテーマに関連した身近なトピックスについて考察を深め、各自の考えをまとめる。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. ガイダンス
2. 経済社会の変遷と生活(1)
3. 経済社会の変遷と生活(2)
4. 経済社会の変遷と生活(3)
5. 効用の最大化と消費者行動
6. 需要と価格
7. 供給と価格
8. 他者の行動と消費者行動
9. 価格による心理的影響と消費者行動
10. 消費者物価指数の変動と生活
11. ライフサイクルと消費生活(1)
12. ライフサイクルと消費生活(2)
13. 消費低迷と将来不安
14. 企業の社会的責任と生活者
15. 授業のまとめ

準備学習**評価方法その他**

期末試験70%と出席状況および提出物を含む授業への参画度30%

使用教科書名

使用しない。必要な資料はプリントで配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題(子ども観、子どもの発達等)を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明への実践変革の知識が深まるようにする。

学習目標・到達目標

児童学における基礎的課題(子ども観、子どもの発達、社会的状況等)について、理解する。子ども、および、子どもをとりまく物的環境および人的環境へのかかわり方について考察する。

週 テーマ・授業目標等

1. 児童学とは
2. 子どもとは何か(1)子ども観の歴史の変遷
3. 子どもとは何か(2)現在の子どものおかれている状況と子どもの問題
4. 子どもと共に育つーおとなと共に育ちあう子ども観
5. 心の発達と人間関係(1)心の発達の基盤(2)人への働きかけの転換と関係における主導性
6. 同上(3)自我の成長と自己コントロール(4)友達関係の体験(5)心の発達と人間関係
7. 子どもと保育(1)生きる力を育む保育(2)遊びの意義
8. 同上(3)保育者のかかわり方(4)保育の現在(保育所・幼稚園・認定こども園・学童保育)
9. 子どもとことば(1)「ことば」を考える意味(2)ことばとは何か
10. 同上(3)ことばの発達
11. 子どもと環境(1)幼稚園教育の基本(2)子どもにとっての環境(3)人的環境
12. 同上(4)幼児理解(5)子どもたちの人間関係
13. 子どもの問題へのアプローチ(1)子どもの権利を守るー社会全体での子育て
14. 同上(2)子育て支援と相談活動
15. かかわりを育むにはー児童学の実践ー
16. レポート

準備学習

普段から子どもに関するニュースや話題に目を向け、子どもの観察を行い、授業内容の理解が深まるようにしましょう。

評価方法その他

授業内課題への取り組み状況 30%、レポート 70%

使用教科書名

「共に育つー人間探究の児童学」宣協社 2010年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前半では、衣服の着用目的、着用基体となる人体の計測方法、衣服の形態や表現、社会との関連などを学ぶ。後半では、衣服を構成する繊維・糸・布地について、また衣服を選択・購入・管理・保管するプロセスにしたがって基本的知識を習得し、更なる学びや各種試験につなげる。

学習目標・到達目標

人間に最も近い環境を形成する「衣服」について、全般にわたる基本的事項を理解する。

準備学習

本授業で学ぶ内容は、1年後期以降のファッション系の授業の基礎となり、また、教員採用試験や各種検定試験につながる。よく復習をして、今後の授業に活かしてほしい。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、教材観察等):20%
担当者別の筆記試験:80%

週 テーマ・授業目標等

1. 衣服と私たちの生活
2. 人体計測方法と部位
3. 衣服の分類
4. 衣服の基本形態と表現(1)
5. 衣服の基本形態と表現(2)
6. 衣服と社会
7. 前半のまとめ
8. 衣服の材料(1)繊維・糸の種類・特徴
9. 衣服の材料(2)布地の種類・特徴
10. 衣服の管理(1)衣服の洗濯
11. 衣服の管理(2)衣服の保管
12. 既製衣料品の取扱い表示
13. 既製衣料品のサイズ表示
14. 現代生活における衣生活経営
15. 後半のまとめ
16. 定期試験

使用教科書名

プリントの配布等

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造及び構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い(サンプルづくり)、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究(ハーフパンツの製作)およびステップアップ課題(チュニック丈ワンピースの製作)を取り上げる。

学習目標・到達目標

衣服製作の手縫い、ミシン縫製の基本的な技術を習得する。体型と衣服の形態の関連について、製図として理解する。

準備学習

被服製作についてのこれまでの経験の有無は問いません。中・高校での家庭科での学習内容を振り返ることから始めて、基礎的な力をつけることを目的にしています。ただし、授業時間内に課題が終了できなかった場合には次回の授業までにその内容に自主的に取り組む姿勢を求めます。後期月曜日3・4時間目と後期火曜日3・4時間目の同一科目の履修者数は、実習室の都合により受講人数を調整する場合があります。

評価方法その他

平常点:授業への参加態度(20%)作品・課題(80%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの作図
- 第2週:ハーフパンツの裁断、材料特性
- 第3週:ミシン縫製の基礎
- 第4週:ハーフパンツの縫製
- 第5週:ハーフパンツの縫製、仕上げ
- 第6週:ワンピースのデザインと製図
- 第7週:ワンピースのデザインと製図
- 第8週:ワンピースの裁断
- 第9週:ワンピースの縫製 仮縫い
- 第10週:ワンピースの試着点検 手縫いの基本縫い
- 第11週:ワンピースの縫製 ダーツとギャザー
- 第12週:ワンピースの縫製 ファスナーをつける
- 第13週:ワンピースの縫製
- 第14週:ワンピースの縫製 仕上げ
- 第15週:ワンピースの提出 製作に関する課題提出

使用教科書名

プリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食生活の基礎となる食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する基本的な成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化する。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香り成分、色素など）の存在も重要である。これら食品に含まれる成分の性質とその機能（栄養性、嗜好性、生理機能）について学習する。

学習目標・到達目標

食品に含まれる成分と、それらの調理・加工・貯蔵中の変化、さらに食品成分とおいしさや機能性との関連について学習し、健康な食生活のための基本となる食品材料の特性について理解する。

準備学習

私たちが毎日食べている食材に含まれる成分の特徴とその調理・加工における変化を中心に学んでいきます。高校や大学（基礎科目）における化学や生物の知識が役立ちますので、復習しておくとう理解しやすいと思います。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 人と食べ物
2. 食品成分を理解するー有機化学の基礎ー
3. 食品の成分(水、炭水化物)
4. 食品の成分(脂質)
5. 食品の成分(タンパク質)
6. 食品の成分(ビタミン)
7. 食品の成分(無機質、核酸)
8. 味の成分
9. 香りの成分
10. 色の成分
11. 成分間の相互作用
12. 食品の物性とおいしさ
13. 食品の機能性と健康食品
14. 食品成分表
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

食べ物と健康I(はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ③) 喜多野宣子、近藤民恵、水野裕士 著 化学同人

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食について総合的に幅広く学習し、フードスペシャリストの必要性について理解する。さらに食生活の変遷、食品の流通と消費、食に関する法律、食産業の現状や食に関する課題などについても学ぶ。

学習目標・到達目標

フードスペシャリストの役割について理解し、食物獲得の歴史、食生活の変遷、食品の製造や流通、表示制度、また現代における食に関する諸問題について学び問題意識をもつ。

準備学習

「フードスペシャリスト論」は、フードスペシャリストをめざす学生のための最も基礎的な科目の1つとなっています。新聞やニュースなどで報道される食に関する様々な問題についても普段から関心を持ってみるようにしてください。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. フードスペシャリストとは
2. 人類の歩みと食物
3. 食品加工・保存技術史
4. 世界の食
5. 日本の食
6. 現代日本の食生活
7. 食料の供給と食料自給率
8. 食品製造業
9. 食品流通業
10. 外食産業
11. 食品の品質規格と表示
12. 食品衛生法による規格と表示
13. 健康増進法による表示
14. 食情報と消費者保護
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

四訂 フードスペシャリスト論(第2版) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食生活が多様化するなかで、健康な生活をおくるためには正しい栄養知識に基づいた食生活が求められる。摂取した食物に含まれる成分、特に栄養素がどのような特性を持ち私たちのからだにとってどのような役割をもつかについて学ぶ。また、それらがどのように消化・吸収されて体内に入っていく、代謝されてそれぞれの機能を果たすようになるのかについて学習し、栄養と食生活について考える。

学習目標・到達目標

栄養とは何か、健康な食生活における栄養の役割の理解を目的とする。栄養学の基礎となる、栄養学のあゆみ、栄養素の種類、性質、機能、消化・吸収、代謝等について理解する。

準備学習

栄養学の基礎について学びます。高校や大学(基礎科目)の化学や生物の知識が役立ちますので、復習しておくとう理解しやすいと思います。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養とは
2. 栄養学のあゆみ
3. 栄養素とそのはたらき(エネルギーになる栄養素)
4. 栄養素とそのはたらき(からだをつくる栄養素)
5. 栄養素とそのはたらき(からだのはたらきを調節する栄養素(1))
6. 栄養素とそのはたらき(からだのはたらきを調節する栄養素(2))
7. からだと水
8. 食物繊維のはたらき
9. 消化と吸収(消化の流れとパターン)
10. 消化と吸収(吸収のしくみ)
11. 消化と吸収(栄養素の体内輸送)
12. 消化と吸収(消化吸収率)
13. エネルギー代謝(栄養素とエネルギー)
14. エネルギー代謝(エネルギー消費と基礎代謝)
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

基礎栄養学 (はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ⑤) 杉山英子、小長谷紀子、里井恵子 著 化学同人

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。現在、食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により多種多様な食品を入手しているが、個々の食品の特性を知り、適切に組み合わせて利用することが重要である。代表的な食品の性質、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、利用などについて学ぶ。

学習目標・到達目標

食品素材の特性、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、その利用法について理解する。

準備学習

食品学概論で食品成分の特性から食品を見てきましたが、それを基礎としてこの科目では実際の種々の食品の特徴について学んでいきます。日常の生活においてもいろいろな食品に関心を持って見るようにしてください。

評価方法その他

定期試験80%、課題提出20%

週 テーマ・授業目標等

1. はじめに、穀類(米)の特徴
2. 穀類(小麦、雑穀類)の特徴
3. いも類の特徴
4. 豆類・種実類の特徴
5. 野菜類の特徴
6. 果実類の特徴
7. きのこと類、藻類の特徴
8. 食肉類の特徴
9. 魚介類の特徴
10. 乳・乳製品、卵類の特徴
11. 卵類の特徴
12. 特別講義「生活の中で酵素はどのように役立っているか」
13. 油脂類、甘味料、嗜好飲料の特徴
14. 発酵食品・調味料の特徴
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

食べ物と健康 マスター食品学Ⅱ 小関正道 編著 建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

調理とは食材を衛生的、栄養的に安心して、なおかつ嗜好的に優れた食べ物として供するまでの一連の過程である。その過程で起こる諸現象について、食品材料の種類と調理特性、食品成分と調理変化、食味・食感への影響について調理操作や調理器具との関連から科学的な法則性について学習する。また、人間と食べ物、環境との関係を理解し、調理の技術やおいしさの向上、豊かな食生活の実践に繋がる理論を系統的に学習する。

学習目標・到達目標

調理とは何かを学び、食品材料の種類と調理特性、調理過程での食品成分の変化、調理操作の特徴、嗜好性への影響などについて科学的、系統的に理解する。食べ物と人間や社会、環境との関連を理解し、豊かな食生活に繋げる能力を身につける。

準備学習

調理は皆さんにとって身近だと思いますが、単なる料理ではありません。調理を科学的にとらえて理論を理解することで、調理だけでなく食品製造や商品開発などの仕事でも生かしていく力をつけることができます。

評価方法その他

定期試験80%、課題提出20%

週 テーマ・授業目標等

1. 調理を科学するとは
2. おいしさの科学
3. 調理操作と調理器具(1)調理器具の種類
4. 調理操作と調理器具(2)加熱調理操作
5. 調理操作と調理器具(3)非加熱調理操作
6. 植物性食品の調理性(1)穀類(米)
7. 植物性食品の調理性(2)穀類(小麦、その他)
8. 植物性食品の調理性(3)いも類、豆類
9. 植物性食品の調理性(4)野菜類、果実類
10. 動物性食品の調理性(1)肉類
11. 動物性食品の調理性(2)魚介類
12. 動物性食品の調理性(3)卵類
13. 動物性食品の調理性(4)乳類
14. 抽出食品素材、調味料と調理(でんぷん、油脂類、砂糖など)
15. まとめ、食事設計－献立と供食－
16. 定期試験

使用教科書名

「調理学－生活の基盤を考える」南道子 舟木淳子 編著 学文社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近年、日本が輸入している食品の安全性の問題、インスタント食品の登場、外食産業の発達、食生活と健康、食料自給率、地場産業における食材の供給など食にかかわる問題はテレビ・新聞・雑誌などで頻繁にとりあげられ、関心ももたれている。現代における食生活は第2次大戦後に欧米諸国の食生活をモデルとしたが、近年、伝統的な和食文化は健康食として世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。安全で健康な食生活をするために、本講義は前近代の食生活がどのように展開してきたのかを踏まえ、近現代における食生活の諸問題を検討する。

学習目標・到達目標

1. 前近代の食生活の変遷を理解する。
2. 現在の食生活が海外に依存していることを理解する。
3. 伝統食の見直しを理解する。

準備学習

食に関する新聞記事が多く見られます。切り抜いてノートなどに貼り付けて活用されることをお勧めします。

評価方法その他

平常点20%、中間試験・レポート80%。平常点は授業への参加などで総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 原始・古代の食生活
- 2 中世の食生活(1)－武士と禅宗
- 3 中世の食生活(2)－茶の湯と南蛮文化－
- 4 近世の食生活(1)－武士の食事－
- 5 近世の食生活(2)－町人の食事－
- 6 近世の食生活(3)－農民の食事－
- 7 中間試験
- 8 近代の食生活－文明開化と西洋料理－
- 9 現代の食生活の問題－現代食生活事情から考える－
- 10 食生活の画期1975年頃の食事情と日本型食生活の提唱
- 11 食料生産・加工技術と流通の革新
- 12 外食と中食による食生活の変化
- 13 海外依存の食生活－食料の輸入と自給率の変化－
- 14 世界の食糧事情と環境の変化
- 15 これからの食生活－伝統食の見直しの動き－
- 16 レポートまたは試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本料理・西洋料理・中国料理の調理実習を通じて基礎的な調理技術を習得し、調理過程を系統的に把握する。合わせて、食材の性質、食品の衛生的な取り扱い方、栄養効率の向上や嗜好性の優れた調理法、食卓の演出、食事作法など調理に関する基礎的な総合能力を養う。

学習目標・到達目標

健康な食生活のために必要な基礎的な調理技術を習得し、調理過程における食品成分の変化、調理操作の意義を科学的に理解する。食材の性質を最大限活かした調理法、食品の衛生的な取り扱い方などを学習する。さらに私たちの食生活を豊かにする食卓の演出、食事作法など食文化を含めた調理に関する総合能力を身につける。

準備学習

食品衛生の観点から必ず指定の清潔な身支度をして実習に参加してください。自宅でもできるだけ調理する機会を増やしてください。

評価方法その他

平常点40%、実習ノート・課題提出15%、実習テスト10%、ペーパーテスト35%
(平常点は授業への参加状況・実習への取り組み等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、切り方、計量について
2. 日本料理の基礎 炊飯の基本、煮干しだしのとり方、青菜の茹で方、あえ物のポイント
3. 日本料理の基礎 塩味ご飯、混合だし汁のとり方、肉の調理、野菜の脱水
4. 日本料理の基礎 しょうゆ味ご飯、吸い物、卵の調理(1)、乾物の調理
5. 西洋料理の基礎 ビラフ、野菜の吸水、ゼラチンの調理(1)
6. 西洋料理の基礎 ひき肉の調理、野菜の加熱調理、デンプンの調理性
7. 中国料理の基礎 炒め物、あえ物、寒天の調理
8. 中国料理の基礎 小麦粉の調理(グルテン)、野菜の調理、スープ
9. 中国料理の基礎 もち米の調理、卵の調理(2)、小麦粉の調理(膨化)
10. 日本料理の基礎 魚の扱い、具たくさんの汁物、希釈卵の蒸し物
11. 行事食 クリスマス料理
12. 行事食 正月料理
13. 西洋料理の基礎 イースト発酵、スープ、ゼラチンの調理(2)
14. 行事食 ひなまつりの献立(すし飯、潮汁、和菓子)
15. まとめ、実習テスト
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

胎児期から老年期までの、人の心の働きや行動の変化を通して、発達心理学の基本的な視点を学びます。この授業では、それぞれの時期でのエピソード(健康や食に関するものなど)を交えながら、人の成長に伴ってあらわれる変化を学びます。

学習目標・到達目標

発達心理学の基本的な知識を身につける。
心身の発達と、食や健康との関連について理解を深める。
授業で学んだ知識や考え方を基に、自分のこれまでの成長を振り返ったり、これからの生活を考えたりする機会を持つ。

準備学習

授業後は十分な復習をして、学習内容の定着をはかること。

評価方法その他

平常点50%、定期試験50%。(平常点は、授業への参加状況や小レポートの内容などで総合的に判断します)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンスー健康・食発達心理学で何を学ぶのかー
2. 遺伝と環境
3. 健康や食と発達段階の関連
4. 胎内期・乳児期からの親子関係
5. 幼児期の認知
6. 幼児期の社会性
7. 児童期の学習
8. 児童期の意欲
9. 青年期の自我形成
10. 親としての成長
11. 社会・文化の影響
12. 老年期の自己実現
13. 健康と病理
14. 健康心理アセスメント
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

食べる・育てる心理学(2010)
伊東暁子・竹内美香・鈴木晶夫 著
川島書店

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食事に用いられる生活用具について、その材料、作り方、デザインの方法、そして使い方について解説する。食事では日常的にさまざまな工芸品・工業製品が使われているが、陶磁器を中心にいくつかの事例をとりあげ、食生活と食器、そしてものづくりの技術やデザインとの関係を考えるきっかけとしたい。またそういった考察を通して、日常生活のなかで使われるありふれた道具に対する関心を深め、暮らしを楽しむ道具の使い方についても考える。

学習目標・到達目標

日本の陶磁器の原材料と制作方法、そして歴史について理解し、陶磁器の性質に応じた使い分けができるようになることを目標とする。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容の説明
2. 食生活と工芸のかかわり
3. デザインの考え方
4. 材料の性能について
5. 材料別の特徴
6. 陶磁器の分類方法
7. 陶磁器の材料：陶土と磁土
8. 陶磁器の作り方①土の調整から成形
9. 陶磁器の作り方②乾燥・素焼き・釉薬
10. 陶磁器の作り方③本焼きと窯
11. 陶磁器の選び方と使い方
12. 日本のやきもの作りの歴史①縄文から平安時代
13. 日本のやきもの作りの歴史②平安から江戸時代
14. 割り箸について①消費の状況
15. 割り箸について②環境問題とのかかわり
16. 試験またはまとめ

準備学習**評価方法その他**

試験80％・平常点20％（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住居の機能
- 2) 寸法と空間
- 3) 住まいの変遷(1)
- 4) 住まいの変遷(2)・生活様式と住居
- 5) 現代の家族と住まい
- 6) 生活時間・生活行為
- 7) 生活行為とゾーニング
- 8) 日本の住宅事情と住宅政策
- 9) 住居の選択と維持管理
- 10) 住まいと環境
- 11) 安心・安全な住まい
- 12) これからの住まいー高齢化社会と住まい
- 13) これからの住まいーコーポラティブ住宅・コレクティブ住宅
- 14) まちづくりと住民参加
- 15) まちづくりの視点
- 16) 定期試験

準備学習

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

評価方法その他

小課題20％、レポート40％、テスト40％により総合的に評価する。

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおの時代の建築を、タイプごとに分け、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げ、それぞれの建築の特徴を解説していく。用いる資料は、写真ばかりでなく、しばしば建築図面を用い、建築のもつ機能性や、設計者の意図を探る。また、構造上の特質や、建築形態のもつ意味等を、作り手・使い手の立場や、そのバックグラウンドとなる社会背景等を鑑みながら検討し、建築や生活空間に対する理解を深めていく。

学習目標・到達目標

日本建築史の通史を学ぶ。竪穴住居や高床住居などの原始的な建築から最新の現代建築に至るまで、また、住宅、社寺、公共建築など、さまざまなタイプの伝統的な日本建築に関して、実例を詳細に検討しながら、その建築的・社会的意義に関して概観する。それにより、木構造など日本建築に特有な技術的な発展過程を学ぶと同時に、わが国の建築文化・生活様式の変化を学び、建築を通して伝統文化に対する理解を深めることを目指す。

準備学習

授業でお話しする内容は、指定した教科書『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』にまとめてあります。また、パワーポイントで示す写真も、ほぼ教科書と一緒にあります。授業の前後に、教科書の該当する箇所を必ず読むように心がけてください。

評価方法その他

学期末試験(80%)および平常点(提出物等:20%)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 先史時代の建築
3. 神社建築の成立
4. 仏教建築の伝来
5. 古代の都市計画と寝殿造り
6. 中世の仏教建築
7. 中世の神社建築
8. 書院造り
9. 城郭建築
10. 茶室と数寄屋
11. 近世社寺建築
12. 民家建築
13. 西洋建築の移入
14. 近代住宅建築
15. 現代建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編集委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活をとりまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。そのため、実際に住空間の設計を試み、快適で安全な住生活のあり方を実践的に考察する。これらの学習を通し、教職課程に必要な住生活分野の知識と技術の習得を目的とする

学習目標・到達目標

住まいの伝統ならびに現代の問題点を把握し、よりよい住空間とは何かを考察する。同時に、空間の表現方法(製図)の基礎を習得する。

準備学習

三次元の「空間」を理解するには、教室での授業だけでは十分ではありません。日頃から身の回りの空間に関心を持ち、たとえば、ドアの幅や机の幅・高さなどを測って見て、使いやすさの寸法はいくつぐらいなのかを考えてみてください。

評価方法その他

課題(50%)、学期末試験(50%)により、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

01. イントロダクション
02. さまざまな住まい
03. 住まいの発展
04. 住まいの歴史
05. 住まいの近代化とnLDK住宅
06. 住宅地と集合住宅
07. 住まいの管理
08. 住まいの建築計画
09. 中間試験
10. 図面の表現方法
11. 自分の部屋を図面で表現する
12. 住空間の計画－平面図を描く①
13. 住空間の計画－平面図を描く②
14. 住空間の計画－展開図を描く①
15. 住空間の計画－展開図を描く②
16. 課題の提出

使用教科書名

特に定めない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、暖冷房設備、換気設備、電気・情報設備、防災設備について講義を行う。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]住まいの設備システムについて、その名称、働きを説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 1. ガイダンス
2. 2. 設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違い
3. 3. (1) 建築と水環境
4. (2) 水に関する基礎知識
5. (3) 給水設備
6. (4) 給湯設備
7. (5) 排水通気設備
8. (6) 衛生器具
9. (7) 浄化槽
10. (8) ガス設備
11. 4. 住宅の照明設備
12. 5. 住宅の電気設備
13. 6. 住宅の暖冷房設備
14. 7. 住宅の換気設備
15. 8. 住居内の設備と事故
16. 試験

準備学習

授業毎に教科書の予習(120分)と授業内容の復習(60分)が必要である。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

使用教科書名

「建築の設備」入門 新訂版／同編集委員会編／彰国社／2009年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

構造力学の入門編として、建築(住居)における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験(一点で支える力の実験、両端で支える力の実験、梁の変形など)と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物(ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など)についても紹介する。

学習目標・到達目標

構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力及び部材応力を理解し、説明できる。また、これらの力の釣合い条件をもとに、柱、梁、トラスに生ずる応力を計算できる。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 力とかたち① 1点で支える力の実験と計算
3. 力とかたち② 実験結果の解説
4. 力とかたち③ 図心の求め方(制作)
5. 力とかたち④ 図心の求め方(計算)
6. かたちと変形 片持ち梁
7. 力の合成と分解①(図式解法)
8. 力の合成と分解②(図式解法-計算)
9. 力の合成と分解③(支持反力の算出)
10. 力の合成と分解④(支持反力の算出) 宿題①
11. 力の合成と分解⑤(支持反力の算出) 宿題②
12. トラス①(部材応力の算出-節点法) 宿題③
13. トラス②(部材応力の算出-節点法) 宿題④
14. トラス③(部材応力の算出-切断法) 宿題⑤
15. トラス④(部材応力の算出-切断法)
16. 定期試験

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(60%)、宿題(20%)、定期試験の得点(20%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。
構造に関する歴史的変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジアムのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。

学習目標・到達目標

建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。
将来、建築のデザイン関係の仕事（設計やインテリアデザイン等）をする際に有用となる基礎的な構造の知識を身につけることを目指します。

準備学習

基本的に、スライドと配布資料による講義とします。講義内容を確認するため、及び、より構造デザインに関する知識の幅を広げるために、「空間・構造・物語—ストラクチャル・デザインのゆくえ（斎藤公男著・彰国社）」を参考図書として、予習・復習に役立てていただくことをお勧めします。

評価方法その他

平常点（授業中のレポート課題含む）（60%）
学期末の課題レポート（40%）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 意匠設計と構造設計 / 構造デザインとは
3. 石と木の時代
4. 鉄の時代 / 20世紀の可能性への挑戦
5. 人物でつづる空間構造・構造デザインのあゆみ
6. 現代の建物に使われる構造、構造形態
7. 鉄骨構造
8. 木質構造
9. 鉄筋コンクリート構造/基礎
10. 特別レクチャー1（意匠設計と構造エンジニアの協働1）
11. 特別レクチャー2（意匠設計と構造エンジニアの協働2）
12. 空間構造（イメージとテクノロジーにより出来る空間）
13. 特殊な材料を使った構造/空間構造 ケーブル、膜
14. 特殊な材料を使った構造/空間構造 ガラス、アルミ、ブロック
15. 構造設計とは何か/構造設計と建築基準法/構造デザインの目指すもの

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できること。

準備学習

ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点（50%）と定期試験の得点（50%）により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 屋根材料(1)－粘土瓦
3. 屋根材料(2)－スレート
4. 屋根材料(3)－金属板
5. 内外装仕上げ材料(1)－木質系材料
6. 内外装仕上げ材料(2)－せっこうボード
7. 内外装仕上げ材料(3)－繊維補強系ボード
8. 内外装仕上げ材料(4)－ALC
9. 内外装仕上げ材料(5)－タイル
10. 内外装仕上げ材料(6)－れんが
11. 内外装仕上げ材料(7)－石材
12. 内外装仕上げ材料(8)－左官材料
13. 内外装仕上げ材料(9)－ガラス
14. その他の材料(1)－塗装材料、接着剤
15. その他の材料(2)－断熱材料
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 施工・管理計画①－工事契約、工程表
3. 施工・管理計画②－材料管理、各種届出
4. 仮設・地業工事①－地盤調査
5. 仮設・地業工事②－基礎の種類
6. 主体工事
7. 内外装工事
8. 内外装仕上げ工事①(タイル工事)
9. 内外装仕上げ工事②(タイル工事)
10. 内外装仕上げ工事③(左官工事)
11. 内外装仕上げ工事④(ガラス・建具工事)
12. 床工事①(合成樹脂系)
13. 床工事②(カーペット敷き、畳敷き)
14. 屋根工事(天井工事を含む)
15. その他の工事(断熱工事・設備工事)
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 0. 建築環境学及び建築設備の位置付け
2. 安全・衛生と快適
3. 1. 建築環境学の概要
4. 4. 熱環境 (1)温熱感
5. (2)外界条件
6. (3)日照環境
7. (3)日照環境
8. (4)建物の熱性能
9. (4)建物の熱性能
10. (4)建物の熱性能
11. (5)湿気環境
12. (5)湿気環境
13. 3. 空気環境(1)空気と人の健康
14. (2)室内の空気汚染対策
15. (2)室内の空気汚染対策
16. 試験

準備学習

授業毎に教科書の予習(120分)と授業内容の復習(60分)が必要である。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

使用教科書名

生活環境学／岩田利枝 他／井上書院／2008

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標・到達目標

住居はそこに住む家族のためのものであると同時にまちの財産でもある。住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する。

準備学習

住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

評価方法その他

小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住居の歴史
- 2) 住居の機能と計画
- 3) 現代の家族と住まい
- 4) 家族のかたちと住まいのかたち
- 5) 家族の変化と新しい住まいのかたち
- 6) 生活の外部化と地域施設
- 7) 住居の設計プロセス
- 8) 平面・断面計画
- 9) 生活時間・生活行為
- 10) 生活行為とゾーニング
- 11) 住居の意匠
- 12) 住居のバリアフリー
- 13) 住宅でまちをつくる
- 14) 集合住宅地の計画
- 15) 集合住宅の住戸計画

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶための授業として進める。

学習目標・到達目標

我々の日常生活の場など生活空間には住宅など多岐にわたる構成要素があり、その役割は、地域における個々の利用者の自立支援及び介護者の身体的負担を最小限にするため技術の工夫、併せて福祉用具等との活用・併用など、自らの発案による資質を育む知識を学ぶことができる。

準備学習

本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験2級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。希望者には過去出題問題集をデータで提供しますので、希望者は授業3週目に記憶媒体(USBスティック等)を持参し登録してください。

評価方法その他

平常点:35%(小テスト2回を含む)／定期試験65%による総合評価。なお、平常点は、授業への参加・討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／スケジュール説明
2. 福祉住環境の意味と目標について
3. 福祉・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方
4. 福祉住環境整備の流れ
5. 福祉住環境コーディネーターの職業倫理
6. 関連職との連携
7. 相談の特徴・受け方と対応の仕方
8. 介護保険制度・高齢者・障害者向けの住関連施策
9. 加齢・障害の特性と起こりやすい症状、高齢者の特性
10. 在宅介護の特徴と住環境
11. 高齢者、肢体不自由、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害、認知・行動障害
12. 段差をなくす・手すりをつける・スペースの配慮、建具・色彩・維持管理の配慮、非常時の対応
13. アプローチ・外溝計画、玄関、廊下、階段、トイレ、配置・脱衣室、浴室、キッチン、寝室など
14. 建築関連法規、設備・施工・見積りの知識、福祉用具の意味
15. 移動、整容・更衣、入浴、排泄、就寝、装具、転倒防止の工夫例他
16. 定期試験

使用教科書名

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子ども・障害・高齢分野の福祉を中心に、あなたの身近な地域との関係で援助のあり方について、地域を起点にして考えていきます。対話的な進め方を行ってみたいと思っています。

学習目標・到達目標

「福祉」を自分の言葉で説明できるようになることを学習目標にします。

準備学習

福祉を身近に感じてもらう授業を行います。毎年少人数で授業を行っていますが、皆さんが自然に発言しやすいように工夫したいと思っています。校外授業として、ハンセン氏病記念館への訪問を予定します。

評価方法その他

- 学期末テスト(社会福祉援助のあり方を事例をとおして説明する。事例に関する主題の記述・援助を必要としている状態の記述・解決のための活動に関する記述の明確さが基準になります。)
- リアクションペーパー

週 テーマ・授業目標等

- 1.キーワードで考える社会福祉
- 2.社会福祉とは:リアクションペーパーに基づく解説
- 3.地域から福祉を考える(「私の地域の宝物」)
- 4.地域援助活動①:犯罪のないまちづくり
- 5.地域援助活動②:孤独死
- 6.地域援助活動③:高齢者福祉施設への参加
- 7.地域援助活動④:福祉施設づくり
- 8.福祉援助を考える①:障害児の子育て支援
- 9.福祉援助を考える②:発達障害
- 10.福祉援助を考える③:学齢期
- 11.福祉援助を考える④:成人期
- 12.家族と離れて生活する子どもたち
- 13.ハンセン病資料館の見学
- 14.体験学習:ブラインドウォーク
- 15.まとめ:福祉援助のあり方を事例で示す
- 16.定期試験

使用教科書名

『地域づくりの福祉援助』(ミネルヴァ書房)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、受講生が自分のキャリアを考える切っ掛けをつかむ場としたい。キャリア(career)という言葉には、生涯・経歴・出世・成功・職業・生涯の仕事という意味があり、キャリアを考えるということは、自分の人生とは、どのように生きるのか、あるいは、何を職業として選択するのか、という自分の将来に関わる意思決定問題でもある。この課題へのアプローチの仕方と解決方法、判断基準について学ぶ。

学習目標・到達目標**準備学習****評価方法その他**

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. キャリアとは何か
3. 働くことの意味
4. 働く場と働き方
5. キャリア形成の枠組みと基本的能力
6. "
7. "
8. ライフプランニング
9. "
10. 産業構造と企業
11. "
12. 雇用環境と就業構造
13. "
14. 業界研究の方法
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の「キャリアデザインA」を受けて、具体的にキャリアプランニングを描くことを目的とし、就職活動に向けた意識・考え方・行動の変容を図る。グループワークを多く取り入れて、受講生間の相互交流の機会を設ける。受講生には、自ら課題を見つけてその解決に取り組む積極的な姿勢を期待している。

学習目標・到達目標**準備学習**

履修条件ではないが、前期の「キャリアデザインA」の受講が望ましい。

評価方法その他

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就活の戦略(強み・弱み分析)
3. "
4. 就活のマーケティング(自己分析と自己PR)
5. "
6. 働く20代の女性によるパネルディスカッション
7. 業界研究と企業の見方
8. "
9. 社会人基礎力の養成
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人の食生活と健康の関係についての理解を深めるために、食べ物の特性や機能および健康の概念について学ぶ。食生活は個々の人間の条件だけでなく、その地域の自然・社会・経済・文化的条件や歴史的変遷と密接にかかわって形成され、変化していく。多様化した現代の中で、健康で生き生きとした生活を営むために、管理栄養士に求められる役割や業務について理解する。また資格の持つ使命についての認識を深めていく。

学習目標・到達目標

地球上に存在している動物・植物・微生物・鉱物等の連関の中で人間も生存していることを踏まえながら食生活が人間の健康と密接に関連していることをしっかりと理解したい。栄養士としての専門科目を学ぶ前の基本的事項についても理解する。

準備学習

必ず予習・復習をすること。そのためにも高校時代の化学や生物の教科書や参考書等を折に触れて復習すると理解が深まることと思う。

評価方法その他

定期試験(90%)、平常点(10%)(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食生活と健康
3. 食生活と栄養(からだと栄養① 栄養素のはたらき)
4. 食生活と栄養(からだと栄養② 消化・吸収)
5. 食と健康(食品の調理・加工と栄養、調理による栄養成分の変化)
6. 食と健康(調理によるおいしさ:嗜好性の発現)
7. 食と健康(酵素の役割)
8. 調理による機能性(生体調節機能)の発現
9. 食生活と文化(近代と現代の食文化)
10. 食生活の変遷(食生活の伝承と変化)
11. ライフサイクルと食生活
12. 食の安全性
13. 生活習慣病と食生活
14. 食生活と環境
15. まとめ

使用教科書名

プリント配布。
なお、後期の調理学で教科書として使用する[調理の科学]を参考書として使用する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、社会福祉を取り巻く環境、また現代社会の中で生じている深刻な生活問題、そしてその軽減支援のためのソーシャルワークの方法についてできるだけ実践的に理解する

学習目標・到達目標

社会福祉の意義と意味、またソーシャルワークの理念と方法を学び、現代社会の直面する生活問題について理解する

準備学習

生活者としての人間とかかわるという視点で授業を構成します。生活とは何か、いのちとは何かについて深い問いをもって授業に臨まれるように希求します。

評価方法その他

平常点/10%
テスト/レポート80%
その他/10%
これらの総合点
平常点:出席や授業態度、予習の状況の他/授業態度や発言などを評価/10%

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 西口 守 身近な生活問題を考える 新聞記事やテレビのニュースから生活困難の意味を理解する
第2回 西口 守 社会保障の概念規定 社会保障と社会福祉の関連や概念を整理しまとめる。
第3回 西口 守 社会福祉とソーシャルワーク ソーシャルワークの意味と意義を学ぶ
第4回 西口 守 ソーシャルワークの理念と方法 ソーシャルワークの方法を直接、間接援助技術に大別し理解する
- 第5回 坂崎 隆浩 児童福祉① 児童福祉の理解~その意味と歴史~
第6回 坂崎 隆浩 児童福祉② 児童福祉の理解~児童福祉の制度~
第7回 坂崎 隆浩 児童福祉③ 児童福祉の理解~児童の教育と福祉=幼稚園、保育所の一元化問題を踏まえて
第8回 坂崎 隆浩 児童福祉④ 児童福祉の理解~児童福祉の実際
第9回 西口 守 高齢者福祉① その歴史と課題/基本的な理解
第10回 西口 守 高齢者福祉② 介護保険制度/制度の総括的理解
第11回 西口 守 高齢者福祉③ 介護保険制度/そのサービス/介護予防/地域包括ケア
第12回 西口 守 障がい者支援施策 障がい者支援施策とサービスの方法
第13回 西口 守 職種間連携 コーディネーションとマネジメント/チームケアの課題
第14回 西口 守 サービスの品質管理 ISOとリスクマネジメントについて
第15回 西口 守 総括授業 14回の授業を振り返り、整理
第16回 西口 守 試験

使用教科書名

授業開始時にご案内します

授業科目概要・教育目的（履修条件）

公衆衛生は疾病を予防し、寿命を延長させ身体的、精神的、社会的、霊的にも健康の増進を図る科学(science)と技術(art)である。地域社会集団や国といった集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について学習する。公衆衛生学の視点から健康および健康問題について学習し、社会の動向も併せて保健活動や施策について学習する。プライマリ・ヘルス・ケアやヘルスプロモーション、健康問題の現状、現在国が進めている健康づくり施策、保健予防活動について学習し、人々を取り巻く環境と健康、労働と健康問題等を理解する。

学習目標・到達目標

公衆衛生の基本的な考え方、理念、方法、歴史、現在等について学習する。集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について理解する。健康と社会、環境の関係を理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 公衆衛生と社会・環境・健康、管理栄養士ガイドライン(法、ライフ・サイクル)
- 2 人口動態、比の計算、指数、対数、と公衆衛生
- 3 ミニテスト1
- 4 公衆衛生と生活、食品、感染症、人権、健康危機管理
- 5 食の安全に関する過去の事例、VDO雪印
- 6 公衆衛生と食の国際化、グローバル化、VDO狂牛病ミニテスト2
- 7 公衆衛生の理念 疾病の自然史と予防の5段階
- 8 公衆衛生の理念 プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野
- 9 公衆衛生の理念 1次予防—3次予防
- 10 公衆衛生の理念、ヘルスプロモーションの5方法
- 11 ミニテスト3
- 12 健康と環境
- 13 健康と環境 VDO環境と水
- 14 ミニテスト4
- 15 特別講義(国際保健)、まとめ

準備学習

比の計算、指数、対数の基礎知識を前提とする。公衆衛生学は、管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養、並びに健康・環境関連の情報と公衆衛生を結びつけて理解

評価方法その他

定期試験(80%)と平常点(20%)

使用教科書名

- 1.最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 3版編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2011(後期も使用)
- 2.松田正己編、「グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理」—現代公衆衛生学、第二版—、クオリティケア、2013(後期も使用)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解する。健康福祉に関する自己学習能力を高め、ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

公衆衛生学Ⅰで学習した事を基礎に、理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル(健康日本21)の公衆衛生学を統合的に学ぶ。また、ケアの分かる管理栄養士を目指し、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状、対象別の各種の公衆衛生・保健活動を理解する。

準備学習

公衆衛生学には、考える力が必要です。管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養だけでなく、健康・環境関連の情報に興味を持ち、公衆衛生と結びつけて理解しよう。

評価方法その他

定期試験(80%)と平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.健康論、寿命と死亡、健康寿命と健康日本21
- 2.寿命と死亡、保健統計
- 3.寿命と死亡、死亡率、有病率
- 4.ミニテスト1
- 5.健康日本21、健康寿命と格差の是正
- 6.健康日本21、計画策定の過程
7. 健康日本21、数値目標、精神保健(VDO やどかり)、自殺対策
8. 健康日本21、数値目標、感染症対策とケア、性行動(VDO エイズ)
- 9.健康日本21、数値目標、地域保健の対応策とケアシステム(結核対策、母子保健)、産業保健 学校保健
10. ミニテスト2
11. 危機管理・災害保健・放射線
12. ケアと難病対策と障害保健(VDO ありがとう)、高齢者福祉保健、地域作り型保健活動
13. ミニテスト3
14. 特別講義(国際保健・協力隊)
15. 特別講義(放射線と栄養)、まとめ

使用教科書名

- 1.松田正己編、「グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理」—現代公衆衛生学、第二版—、クオリティケア、2013(前期も使用)
- 2.最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 3版編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2013

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけて、作成する。その過程で、わが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解する。健康福祉に関する自己学習能力を高め、ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

公衆衛生学I,IIで学習した事を基礎に、対象別の保健活動、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状を、健康日本21の数値目標や統計データの読み方の学習とともに理解する。

準備学習

公衆衛生学は、管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養、だけでなく健康・環境関連の情報と公衆衛生を結びつけて理解しよう。

評価方法その他

授業中の発表(40%)と平常点(60%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.自分の生活プラン、統計データ
- 2.自分の生活プランと公衆衛生と統計データ
- 3.放射線の測定の練習(内)
- 4.放射線の測定(外)
- 5.データの視覚化(GIS)
- 6.いのちのケアのグループ・ワーク(テーマ決め)
7. 同(グループ展開)
8. 同(グループ発表1)
9. 同(グループ発表2)
10. 公衆衛生学とモデル(自然史、1-3次予防)、保健統計
11. 将来設計、地域診断
12. 同
13. 将来設計と公衆衛生の統計データ
14. 発表
15. まとめ

使用教科書名

1. 松田正己他編、いのちの地域ケア いのちの倫理を考える(第3版)、やどかり出版、2014

授業科目概要・教育目的（履修条件）

公衆衛生学は集団を対象とする学問である。地域社会や国といった集団における健康問題を把握する公衆衛生的技法である「疫学」について学ぶ。集団の健康問題を解明する疫学的手法について理解し、チーム医療の一員である管理栄養士としての疫学的能力を養う。また、社会を的確に反映した「社会調査法」はどのように行えば良いのであろうか。統計学を踏まえ、集団における健康問題を把握する方法としての「疫学」と「社会調査法」について理解していく。この授業は、管理栄養士国家試験対策に直結する内容とする。

学習目標・到達目標

疫学ならびに社会調査法の基礎を学ぶ。

準備学習

「疫学」と「社会調査法」は、現代の公衆衛生学において不可欠なツールであり、医師、看護師といった医療従事者と患者の治療や回復にあたる際には必須の知識です。EBMを重要視する現代において、この2つの学問は、健康を取り巻く社会の様々な動きを把握するために様々な場面で用いられています。仕事の場面でも、私的な場面でも、皆さんの役に立つ学問です。

評価方法その他

平常点(50点)、定期試験(50%)
(平常点は授業への参加状況、グループディスカッションと発表等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 「疫学」
- 1.オリエンテーション、疫学とは(概念・歴史)
 - 2.曝露と仮説、記述疫学、分析疫学、介入研究、症例対照研究(オッズ比)
 - 3.コホート研究(相対危険度、寄与危険度)
 - 4.感度と特異度(クロス集計)
 - 5.ROC曲線(偽陽性率)
 - 6.疫学のまとめ
- 「社会調査法」
- 7.社会調査法とは(種類・特徴・歴史)
 - 8.社会調査をはじめるまえに(バイアス、交絡因子)
 - 9.調査票(質問紙)について考える
 - 10.サンプリング法(作為抽出法、無作為抽出法)と回答法
 - 11.社会調査法のまとめ
 - 12.社会調査法演習①
 - 13.社会調査法演習②
 - 14.社会調査法演習③
 - 15.社会調査法演習④

使用教科書名

- グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理—現代公衆衛生学第2版— 松田正己編集 クオリティケア 2013

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人体の解剖と機能に含まれる「解剖生理学」のうち、管理栄養士が臨床栄養の現場で基礎知識として持つべき人体の正常な解剖学を主に器官系別に学習する。2年次の解剖生理学Ⅱで学ぶ正常機能(生理学)を理解するための基盤を習得する。

学習目標・到達目標

正常における栄養学や、スポーツ栄養、骨代謝、血液疾患、ホルモン、代謝、消化器、腎臓、神経系などの各種疾患における栄養学を学ぶ上で基礎となる人体の正常な構造の概要を理解する。

準備学習

栄養学を学ぶ上で、我々のからだを知ることを目的とする解剖生理学Ⅰは、もともと基本的な科目の一つです。日常の中で当たり前のように営まれている我々の生命活動には一つ一つ意味があります。人体の精巧な構造と機能について共に学びましょう。

評価方法その他

試験100%で行う。

週 テーマ・授業目標等

- 1 遺伝子・細胞の構造
- 2 組織・器官の構造
- 3 面と方向・骨格系の構造
- 4 筋系の構造
- 5 血液・生体防御系の構造
- 6 循環器系の構造
- 7 内分泌系の構造
- 8 消化管の構造
- 9 肝・胆・膵の構造
- 10 呼吸器系の構造
- 11 腎・泌尿器系の構造
- 12 生殖器系の構造
- 13 神経系・感覚器系の構造
- 14 皮膚の構造と栄養(特別講演)
- 15 全体総括と問題演習
- 16 試験

使用教科書名

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第3版)/岩堀修明/文光堂/2011年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

解剖生理学Ⅱでは、すでに解剖生理学Ⅰで習得した解剖学の基礎的な知識に基づいて、管理栄養士にとって重要な領域である「人体の構造と機能」についてわかりやすく解説する。特に正常機能(生理学)について理解を深め、2年次後期より始まる応用栄養学、臨床栄養学などの基礎となる知識を網羅する。

学習目標・到達目標

正常における栄養学や、スポーツ栄養、骨代謝・血液疾患・内分泌代謝・消化器・腎臓・神経系などの各種疾患における栄養学を学ぶ上で基礎となる人体の正常な構造と機能の概要を理解する。

準備学習

1年次に学んだ解剖生理学Ⅰの知識をもとに、さらに、臨床栄養学・臨床病態学を理解するために基盤となる解剖生理学を学習します。我々の日常の生理現象のみならず、疾患の理解につながる、管理栄養士に求められる解剖生理学を集中的に扱います。人体の精巧な構造と機能を共に学びましょう。

評価方法その他

試験100%で行う。

週 テーマ・授業目標等

- 1 細胞・遺伝子の構造と機能
- 2 組織・器官の構造と機能
- 3 生殖器系の構造と機能
- 4 骨格系・筋系の構造と機能
- 5 感覚器系の構造と機能
- 6 循環器系の構造と機能
- 7 呼吸器系の構造と機能
- 8 腎・泌尿器系の構造と機能
- 9 血液系の構造と機能
- 10 免疫系の構造と機能
- 11 内分泌系の構造と機能
- 12 消化管の構造と機能
- 13 肝・胆・膵の構造と機能
- 14 神経系の構造と機能
- 15 全体総括と問題演習
- 16 試験

使用教科書名

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第3版)/岩堀修明/文光堂/2011年(1年次解剖生理学Ⅰと同じテキスト)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱで学ぶ「人体の構造と機能」を、器官系別に可能な限り実体験することで理解を深める。さらに、臨床栄養の現場で、医療チームの一員として疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎を体験的に習得する。

学習目標・到達目標

人体の構造と機能の実際を、可能な限り自らの目で見、体で体験することで、臨床医学の基礎を習得する。

週 テーマ・授業目標等

- 1実習予定と注意事項、レポートの記載法
- 2女性の医学・妊娠出産
- 3細胞・組織
- 4体表観察(部位名称)、身体計測
- 5身体計測解析・成長曲線・肥満度
- 6感覚系
- 7循環器系 (1)
- 8循環器系 (2)
- 9呼吸器系
- 10腎泌尿器系・感染症
- 11内分泌系
- 12摂食嚥下機能・血液
- 13神経系・認知症・老年症候群
- 14一次救急蘇生法・バイタルサイン
- 15実験予備日

準備学習

栄養サポートチーム(NST)をはじめ、臨床栄養は多業種の医療従事者からなるチームで実施されます。臨床の現場で、複数の医療従事者が行う臨床医学の基本的行為の意義と実際の理解が管理栄養士にも求められています。この実習で、講義のみならずできる限り自ら体験することで知識をより確かなものにしていくことを目指します。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

なし(実習で配布する資料を参照のこと)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

運動生理学の知識をベースに、栄養(飲食)に関わる事柄について講義形式で授業を進める。前半(運動生理学)に関しては、まず運動を行ったときの身体の一過性変化について理解してほしい。そして、トレーニングを行うことによる身体の慢性変化の話につなげていく。後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと、よりよいスポーツ活動のための食事について、実例とともに説明する。

学習目標・到達目標

運動生理学の基礎を知る。
栄養摂取についてスポーツ選手と一般人との違いを知る。

週 テーマ・授業目標等

- 1運動とからだ(骨)
- 2運動とからだ(筋)
- 3運動とからだ(呼吸循環)
- 4身体作業能力
- 5エネルギー消費量
- 6中間試験
- 7スポーツ選手の身体組成
- 8エネルギー補給とからだづくり
- 9コンディション維持と骨づくり
- 10貧血予防
- 11水分補給とサプリメント(ドーピング)
- 12試合期、トレーニング期の食事
- 13スポーツ選手の栄養教育
- 14実際の栄養管理
- 15期末試験
- 16まとめ

準備学習

運動生理学実習のレポートを読み返しておいてください。

評価方法その他

中間試験(50%)、期末試験(50%)

使用教科書名

前半:なし(授業時に資料を配布する)／後半:不明

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自らの身体能力(体力)および運動を行ったときの身体の一過性変化を実習を通して理解することが目的である。運動の発現にまず必要な筋力をどのようにして測定するか。力を最大スピードで発揮したときのパワーをどのように測定するか。運動を持続させるための持久力をどのように測定するか、など専門的な手法で測定する。これらのデータを分析して、自分の身体を客観的に(数字で)見つめなおしてほしい。

学習目標・到達目標

筋力や持久力の測定方法を知る。
統計的手法により数値が持つ意味を判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1オリエンテーション
- 2新体力テスト
- 3テスト結果の解析
- 4基礎代謝量の測定
- 5測定結果の解析
- 6自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定①
- 7自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定②
- 8自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定③
- 9自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定④
- 10測定結果の解析
- 11測定結果の解析
- 12筋力・パワーの測定①
- 13筋力・パワーの測定②
- 14測定結果の解析
- 15測定結果の解析／レポート作成

準備学習

統計計算の基礎を復習しておいてください。

評価方法その他

各授業後にまとめるレポートの内容による(100%)

使用教科書名

1回目の授業で配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

微生物は身の回りに多く存在し、我々に様々な影響を与えている。病原微生物学では微生物の基礎的な知識を習得した上で、主に感染症を引き起こす微生物について学んでいく。感染機構および宿主の防御機構、主な感染症の概要、感染症の予防について解説する。初めて微生物を学ぶことを想定し、基本的な内容から丁寧に説明するが、時によっては最新の研究成果も紹介していく。

学習目標・到達目標

感染症を引き起こす病原体の種類と構造について理解する。
宿主の防御機構と感染症が成立する過程を理解する。
主な感染症およびそれを引き起こす微生物について基礎的な知識を獲得する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.微生物とは何か
- 2.病原体の大分類と感染の基本
- 3.感染防御機構Ⅰ
- 4.感染防御機構Ⅱ
- 5.細菌Ⅰ
- 6.細菌Ⅱ
- 7.細菌Ⅲ
- 8.ウイルスⅠ
- 9.ウイルスⅡ
- 10.ウイルスⅢ
- 11.真菌
- 12.蠕虫と原虫
- 13.感染性食中毒Ⅰ
- 14.感染性食中毒Ⅱ
- 15.感染症の予防
- 16.定期試験

準備学習

高校までの生物学の知識があることが望ましい。
ただし、不明点があればいつでも質問して下さい。
どんな初歩的な質問であっても決して侮辱するようなことはありませんので、理解しないまま素通りしないようにして下さい。質問は講義中いつでも構いません。

評価方法その他

試験100%(100点満点)で行う。
試験は定期試験のみ。
試験の内容、形式は授業時に告知する。

使用教科書名

コンパクト微生物学(改訂第3版)/小熊恵二ほか/南江堂/2009年/

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業概要:管理栄養士が臨床医や看護師と栄養サポートチームの中で活躍するためには、医学の基礎知識が確実に実際に即している必要がある。病理学では、疾患のメカニズムの基本概念を習得する。従来の臓器別配列の授業形式と異なり、病態のメカニズムによる分類を用いることにより、実践的な内容とした。

学習目標・到達目標

人体における疾病の成り立ちのメカニズムの基本を理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.病理学の領域
- 2.細胞・組織とその障害
- 3.再生と修復
- 4.循環障害
- 5.循環障害・炎症
- 6.炎症
- 7.老化と老年病
- 8.代謝異常 I
- 9.腫瘍
- 10.先天異常
- 11.免疫とアレルギー
- 12.代謝異常 II
- 13.生命の危機
- 14.感染症
- 15.新生児の病理
- 16.試験

準備学習

病気の成り立ち、仕組みについて学びます。前提となる知識は特にありませんが、授業で扱った範囲について教科書、教科書に付属の問題集をよく復習しておくように。

評価方法その他

試験100%(100点満点)で行う。
試験は定期試験のみ。
試験の内容、形式は授業時に告知する。
平常点は特に加算しない。

使用教科書名

カラーで学べる病理学(第4版)/渡辺照男/ヌーヴェル・ヒロカワ/2014年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学 I では、一般的な生化学の知識を習得するとともに、特に食品学、栄養学、調理学との関連を重視し、我々が食品に含まれる栄養素をどのように体内に取り入れ、どのように生命の維持と生命現象の発現に利用しているかについて概説する

学習目標・到達目標

生体成分の構造と性質を理解する。
生体成分の相互関係を理解する。
生体成分の代謝について理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 生命の化学的基礎
2. たんぱく質と酵素(1)
3. たんぱく質と酵素(2)
4. たんぱく質と酵素(3)
5. 糖質とその代謝(1)
6. 糖質とその代謝(2)
7. 糖質とその代謝(3)
8. 生体酸化還元とエネルギー生産
9. 脂質と生体膜
10. 脂質とその代謝(1)
11. 脂質とその代謝(2)
12. 脂質とその代謝(3)
13. アミノ酸代謝(1)
14. アミノ酸代謝(2)
15. プリン、ピリミジンとその代謝

準備学習

高校で学ぶ生物・化学の知識が必要になります。再度見直しをするのも良いでしょう。

評価方法その他

筆記試験(100%)

使用教科書名

基礎から学ぶ生化学/奥 恒行他編/南江堂/2008

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学Ⅱでは生化学Ⅰにひきつづいて、一般的な生化学の知識を基礎に、栄養学との関連を重視しながら、栄養素の代謝の調節の仕組み、食生活環境の変化に対する身体の適応の仕組みについて学ぶ。

学習目標・到達目標

生体における代謝調節の仕組みについて理解する。
生体成分の相互変換、相互関係について理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 物質代謝の相互関連と代謝の調節
2. 酵素活性の調節－アロステリック酵素とフィードバック制御
3. DNAの構造と機能
4. RNAの構造と機能
5. 遺伝情報の伝達
6. 遺伝情報の発現とその調節(1)
7. 遺伝情報の発現とその調節(2)
8. ホルモンと代謝の調節(1)
9. ホルモンと代謝の調節(2)
10. カルシウムの代謝
11. 消化と吸収
12. 呼吸とpHの調節
13. 鉄とヘムの代謝
14. 筋収縮の生化学
15. 免疫の生化学

準備学習

高校で学ぶ生物・化学の知識が必要になります。再度見直しをするのも良いでしょう。生化学Ⅰで学習した項目も出て来ますので、再度生化学Ⅰの内容を確認してください。

評価方法その他

筆記試験(100%)

使用教科書名

基礎から学ぶ生化学／奥 恒行他編／南江堂／2008

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生化学的知識、すなわち生体成分の性質やそれらが示す化学反応と生命機序を理解するための基礎的実験を行う。他の実験と同様、実験をうまく進めていくためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠であることはもちろん、どのような原理によっているのか、実験で得られた数値などの結果から、どのような結論が導けるのかなどを理解する。

学習目標・到達目標

生体成分の諸性質並びに測定法について理解する。
測定結果の解析・評価方法を理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 実験予定と実験についての諸注意
- 2 糖質実験Ⅰ(グルコースの代謝)
- 3 糖質実験Ⅱ(グルコースの代謝)
- 4 脂質実験Ⅰ(脂質の抽出・定量)
- 5 脂質実験Ⅱ(脂質の抽出・定量)
- 6 核酸実験Ⅰ(核酸の抽出)
- 7 核酸実験Ⅱ(核酸の抽出)
- 8 酵素の基礎実験Ⅰ(反応時間、基質との親和性)
- 9 酵素の基礎実験Ⅱ(反応時間、基質との親和性)
- 10 尿中成分の定量Ⅰ(尿素窒素、クレアチニン)
- 11 尿中成分の定量Ⅱ(尿素窒素、クレアチニン)
- 12 ビタミン実験Ⅰ(ビタミンCの定量)
- 13 ビタミン実験Ⅱ(ビタミンCの定量)
- 14 結果の解析
- 15 結果の解析

準備学習

高校で学習した化学・生物に関する基礎知識も必要となります。事前学習は必要としないが、基礎栄養学、生化学の基礎的内容を理解していることが望ましい。

評価方法その他

レポート(50%)、授業への取り組み・参加態度(50%)

使用教科書名

新しい生化学・栄養学実験

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的な実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。

学習目標・到達目標

自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上になり立っていることを学ぶ。実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。(化学分野) 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解する。また、実験に対する取り組み方やレポートの書き方などについても学び、2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力を養う。(生物学分野)

準備学習

実験の内容は「化学入門」および「有機化学」と密接に関係します。科目の垣根を越えた総合的な学習姿勢で臨んで下さい。(化学分野)

実験内容は、実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。(生物学分野)

評価方法その他

生物分野と化学分野の総合評価
化学分野: 平常点(実験態度を含む授業への参加状況) 50%+レポート50%
生物分野: レポート+実技試験(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 生物学分野(1)顕微鏡の基本操作
3. 生物学分野(2)動物・植物細胞の観察
4. 生物学分野(3)染色体・DNA・酵素実験解説
5. 生物学分野(4)染色体の観察と核型分析
6. 生物学分野(5)DNAの抽出と定性分析
7. 生物学分野(6)ATPによる筋収縮実験
8. 生物学分野(7)コハク酸脱水素酵素の実験
9. 化学分野(1)溶液の調製
10. 化学分野(2)中和滴定
11. 化学分野(3)酸化還元滴定
12. 化学分野(4)緩衝溶液
13. 化学分野(5)陽イオンの定性分析
14. 化学分野(6)有機化合物の定性分析
15. 化学分野(7)分子模型
16. 顕微鏡実技試験(生物分野)

使用教科書名

教員作成の実験テキストを配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の構成成分(水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、色素成分、呈味成分、香り・におい成分など)の物理的・化学的性質を理解するとともに、食品成分間の反応や調理・加工特性など、我々が食している食品について総合的に学ぶ。また、食品の機能性をベースとした食品(特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品、機能性表示食品など)について関連法規の枠組みを講義する。

学習目標・到達目標

食品に含まれる各種成分の化学的特徴を習得する。また、人間と食品の関わりについて、食品利用の歴史の変遷はもとより、栄養面、嗜好面、安全面への影響を説明できるようにする。さらに、食品成分の具体的な機能性や疾病予防に対する役割を学び、それらを適切に利用するために食品表示制度の仕組みを把握する。

準備学習

学習の到達度を把握する目的で、計4回の小テストを行う。復習を通して、学習テーマのポイントを整理しておくこと。

評価方法その他

定期試験(80%)、小テスト(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 食生活と健康、食料と環境問題
2. 食品の主要成分(水分)
3. 食品の主要成分(炭水化物)
4. 食品の主要成分(脂質)
5. 食品の主要成分(タンパク質)
6. 食品の主要成分(ビタミン)
7. 食品の主要成分(ミネラル)
8. 食品の嗜好成分(色素成分)
9. 食品の嗜好成分(呈味成分)
10. 食品の嗜好成分(香り成分)
11. 食品の物性
12. 食品成分の反応(化学的変化・酵素的変化)
13. 食品の機能性
14. 特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品
15. 栄養成分表示(相対表示、強調表示)
16. 定期試験

使用教科書名

食べ物と健康 I 食品成分を理解するための基礎(喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士)化学同人

授業科目概要・教育目的（履修条件）

農産物（穀類、いも類、野菜類など）や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学ぶ。また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習する。貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解させる。この食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法等を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法等を理解させる。

学習目標・到達目標

普段食べている食品がいったいどんなものであるのか、その原料に使われている食材がどんなものか、またその性質は、その加工法は、さらには食材の旬とは、など、食品に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品、食材の基礎を確立させる。

準備学習

普段食べている食品などの基本的な内容です。スーパーなどに行ったとき、食材や食品をよく見てください。パッケージに記載されている表示にも注意をして、いろいろなものに興味を持ってください。

評価方法その他

筆記試験（70％）出席（30％）

週 テーマ・授業目標等

- 第1回現在の食品に関する状況（食料受給率や供給、消費など）
- 第2回穀類とその加工品
- 第3はいも類とその加工品
- 第4回豆類、種実類とその加工品
- 第5回野菜類とその加工品
- 第6回果実類とその加工品
- 第7回キノコ類、海藻類とその加工品
- 第8回食肉類とその加工品
- 第9回乳類、卵類とその加工品
- 第10回魚介類とその加工品
- 第11回発酵食品（味噌、醤油、醬油）
- 第12回発酵食品（アルコール類など）
- 第13回油脂、甘味料
- 第14回食塩など調味料、嗜好品
- 第15回食品に関する新技術
- 第16回 試験

使用教科書名

改訂 食品学Ⅱ 第2版／菅原龍幸編著／建帛社／2011

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品成分の分析技術、品質管理技術の進歩は目覚ましいものがある。基礎食品学実験では、食の専門家として必要とされる実験技術を習得し、食品の成分間反応などの実際を確認する。それとともに日本食品標準成分表で採用されている分析方法についても理解する。

学習目標・到達目標

食品中の各種成分の定性・定量法について、滴定法、クロマトグラフィー法などの基礎的な実験方法を修得する。さらに、食品成分の性質と成分間反応などが食品の嗜好性・栄養性に及ぼす影響について、基礎食品学で学んだ知識と関連づけて理解する。

準備学習

実験を行う上で、実験目的を理解すること、実験結果からどのような考察を導くことができるかが重要である。実験後に作成するレポートはこの点を重視すること。

評価方法その他

レポート（60％）、平常点（40％）
（平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. 実験の基礎（薬品・器具の扱い方、結果の記録方法と報告など）
2. 重量測定（水分、灰分）
3. タンパク質の性質（等電点沈殿）
4. 無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）
5. 糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の検出）
6. 糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）
7. ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）
8. 食品成分間反応（アミノカルボニル反応）
9. タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解）
10. タンパク質の定量（ケルダール法：アンモニア蒸留）
11. 脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）
12. ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）
13. 食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）
14. 無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）
15. 脂質の性質（油脂のケン化価の比較）

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深める。さらに、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学ぶ。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較する。また、食品開発における基礎についても学ぶ。

学習目標・到達目標

伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解することで、食品に関する興味を深め、基礎知識を習得する。

準備学習

納豆や、味噌、ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工、高圧蒸気加熱加工など、様々な食品の製造、加工技術を学びます。普段、スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているのかなど、興味を持って学んでください。

評価方法その他

レポート(50%)、出席(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1回ガイダンス、発酵食品の原理(納豆)
- 第2回豆タンパク質の加工変化(豆腐)
- 第3回乳の変化(チーズ)
- 第4回発酵(味噌)
- 第5回缶詰製造
- 第6回肉類の加工(ソーセージ)
- 第7回果実類のゲル化(マーマレード)
- 第8回乳類発酵(ヨーグルト)
- 第9回糖蔵の原理(ミカンシロップ)
- 第10回高圧殺菌法(レトルト食品)
- 第11回糖質マンナンの変化(コンニャク)
- 第12回カビの酵素による糖化実験(甘酒)
- 第13回乳脂肪の変化(バター)
- 第14回小麦タンパク質の粘性(パスタ)
- 第15回糖質の加熱変化(キャラメル化)

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食文化とは何か？それが食物学でどのような位置づけにあるかを知る。
また、世界的特徴的な食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、世界における日本の食文化の位置づけを把握する。
さらに、日本の食文化の形成・発展の歴史を、主食・副食、日常食・非常の食、外食、郷土食、食の教育などのテーマごとに変遷を学び、現代の食生活の背景を知ると共に、現在および将来の食生活に、学んだことを活かす道を考える能力を養う。

学習目標・到達目標

- ①世界の食文化形成の要因と特徴を知る
- ②日本の自然環境の特徴と食文化形成との関係を知る
- ③日本の伝統食品の特徴と歴史を理解する
- ④日本の伝統食を現代に生かす能力を養う
- ⑤現代の食生活の課題解決に食文化が有効なことを知る

準備学習

日頃から新聞・テレビ等の食に関わる記事、ニュース等から現代の食の課題を記録しておいてほしい。

評価方法その他

試験または課題レポート(70%)、平常点(30%)を総合して評価する。
(平常点は授業への参加状況および授業時の小レポート、提出物等で総合的に判断を行う)

週 テーマ・授業目標等

1. 食物学、食物の役割
2. 世界の食文化形成と自然環境
3. 世界の食文化形成と社会環境
4. 日本の食文化形成の要因と特徴(1)日本の食文化形成と展開
5. 日本の食文化形成の要因と特徴(2)異文化接触と受容
6. 日本の料理形式の形成と特徴
7. 日本の料理形式の発展 まとめ(1)
8. 日常食の変遷(1) 前近代
9. 日常食の変遷(2) 近代～現代
10. 現代の食生活(1)
11. 現代の食生活(2)
12. 学校給食と課題
13. 伝統食の活かし方
14. 現代の食生活の課題と食育
15. まとめ(2)

使用教科書名

テキストは特に指定しない。
プリントにより授業をすすめる。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食べ物を食べるということは、その中の栄養素を体内に取り入れ、成長・生育のエネルギーに変換したり、生体諸器官の機能を発揮させて身体活動の維持増進をはかることである。また、調理操作は、有害物質を無毒化したり、栄養素の消化性や生理機能を向上させる好ましい面や、逆に栄養成分を失う場合もある。香りや色・味などの風味、弾力や粘りなどの物性も様々なに変化する。調理は多様な特性を調節しながら人間の嗜好にあった食べ物に変え、健康と直接かつ密接に関わることを理解するとともに調理操作による栄養効果、機能性についても学ぶ。

学習目標・到達目標

食品から食べ物へと変えていく多種多様な操作について学び、操作の過程における成分の変化が、おいしさの変化や、体内における栄養性や機能性の変化とも密接な関係があることを理解できるようにする。

準備学習

範囲が広いので、しっかりと予習・復習をすること。化学的理解も重要になるので準備しておくこと。実際に調理することの少なくなっている現状がある。栄養の基本は食生活であり、その根本は食事を作る(=調理=料理)ことである。普段から調理する習慣等を身につけて調理技術の基礎をしっかりと修得しておく、理論で学ぶことが納得できるし、更に技術も向上するものであることを理解しておく。

評価方法その他

定期試験(90%)、平常点(10%)(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:調理学とは。調理学が対象とする具体的内容
 第2週:食物の嗜好性と生体における役割①食べ物のおいしさ、味覚の構造、嗜好の形成
 第3週:食物の嗜好性と生体における役割②味の相互作用
 第4週:調理操作①非加熱調理操作(計量、洗浄、浸漬、攪拌…)
 第5週:調理操作②非加熱調理操作(生もの、和え物、盛りつけ等)
 第6週:調理操作③加熱調理操作、加熱の目的、各種調理操作の種類と特徴
 第7週:調理操作④加熱調理操作(茹でる、煮る、焼く、揚げる、誘電誘導加熱…)
 第8週:非加熱調理機器、加熱調理機器、エネルギー源等、食事設計
 第9週:調味の基本。塩味料、甘味料、酸味料、旨味料・香辛料、各種出し汁
 第10週:植物性食品の調理性と栄養性(生体利用性)①
 第11週:植物性食品の調理性と栄養性(生体利用性)②
 第12週:動物性食品の調理性と栄養性(生体利用性)①
 第13週:動物性食品の調理性と栄養性(生体利用性)②
 第14週:その他の食品の調理性と栄養性
 第15週:まとめ
 第16週:定期試験

使用教科書名

使用教科書名:『調理の科学』
 教科書著者名:吉田、綾部編著
 教科書出版社名:理工図書
 教科書発行年:2012年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

調理は様々な地域の気候、風土、宗教などを背景に、その地域に最も適した食品の食べ方として、家庭や調理人らにより伝承されてきた食文化である。技術革新により、色々な調理素材・半加工調理品が氾濫し、食の社会化により家庭内調理の比重が軽くなり、個人の調理技術が極端に低下している。実習を通して日本人の繊細さ、豊かな感性と自然の恵みに感謝する心を育み、調理のコツを科学的な理論に基づいて、短時間に再現性の高い技術を習得することを目指す。

学習目標・到達目標

安全でおいしい食事を作るために基礎となる調理操作と技術を日本料理を中心に習得する。食品の栄養価、食品の取り扱い方・保存、調理器具や器の扱い方、献立作成、食卓の演出、食事作法など日常の食生活における基礎を身につける。

準備学習

自分の調理器具に慣れることが重要である。なるべく自宅で実践することが肝要で食卓を綺麗に演出できるように絵画や様々な伝統文化に眼を向け、色彩や形式の美しさに興味を持って、味わう心を育ててほしい。

評価方法その他

平常点(50%)定期試験(50%)
 (平常点は授業の出席状況・提出物等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1、オリエンテーション | 調理の実習ガイダンス |
| 2、実習 基本の料理 | 美味しいご飯の炊き方とだし汁の取り方 |
| 3、実習 行事食 | 端午の節句料理 |
| 4、示範 季節の料理 | 大きい魚のおろし方と各種料理 |
| 5、実習 | 魚料理 (焼き物) |
| 6、実習 | 小魚のおろしかた(和え物) |
| 7、実習 | 豆腐料理 (揚げ物) |
| 8、実習 | 肉料理 (焼き物) |
| 9、実習 | 豆腐料理 (和え物) |
| 10、実習 | 肉料理 (蒸し物) |
| 11、実習 | 豆腐料理 (焼き物) |
| 12、実習 行事食 | 赤飯と煮しめ |
| 13、実習 行事食 | 寿司と和菓子 |
| 14、実習 | 夏向き献立作成 |
| 15、実習 | 夏向き献立実習 |
| 16、試験 | |

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

基礎調理学実習の内容をふまえ、西洋料理・中国料理の基礎として、主に材料と器具・調理法を学び、行事食や身近な食品の加工も実習する。

学習目標・到達目標

食生活を楽しく、より充実させ、目の前にある食材や物事に感謝する気持ちが大切である。心身共に健康で明るい日常を過ごせるように世界の様々な料理や生活文化を知り、事象に関心を持つこと。

準備学習

何事もまず自分で体験、実践し、出た結果を他人の所為にしない。ひたすら練習あるのみ。

評価方法その他

平常点(50%)定期試験(50%)
(平常点は授業の出席状況・提出物等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

- | | | |
|-------|------|-------------------|
| 1、実習 | 行事食 | 彼岸料理 |
| 2、実習 | 西洋料理 | 主にスープ・サラダ・アントルメを |
| 3、実習 | 西洋料理 | 魚・肉料理と組み合わせ実習する。 |
| 4、実習 | 食品加工 | パン作り |
| 5、実習 | 西洋料理 | |
| 6、実習 | 中国料理 | 点心・炸菜・炒菜・蒸菜・溜菜等を |
| 7、実習 | 中国料理 | 主に家庭でよく食べる身近な料理を |
| 8、実習 | 中国料理 | 実習する。 |
| 9、実習 | 西洋料理 | (パイ生地を使って)ソーセージパイ |
| 10、実習 | 西洋料理 | (パイ生地を使って)アップルパイ |
| 11、実習 | 食品加工 | 手打ちうどん |
| 12、実習 | 行事食 | クリスマス料理(ローストチキン) |
| 13、実習 | 行事食 | 正月料理 |
| 14、実習 | 行事食 | 正月料理 |
| 15、実習 | 行事食 | 雑料理 |
| 16、試験 | | |

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

調理技術や各種調理操作の理論的背景を実験を通して理解する。実践科学である調理技術を系統的かつ合理的に習得出来るように実習と実験を相互に関連させていく。出来るだけ実際の調理と関連させながら、各種食品の調理性、食べもののおいしさの総合的評価(色・味・香り・硬さ・粘弾性、官能検査等)、食品の受ける変化の理由や失敗の原因などを論理的に把握する。

学習目標・到達目標

調理操作上で起こる様々な現象についてその諸条件と食品の物性や化学性の変化および食感、食味との関連を学び、嗜好性の向上と食品の調理特性について理解する。また、調理学の講義と結びつけ、調理の実際において、実践・展開できる応用力をつける。

準備学習

食の専門家として多種多様な調理技術の基礎や理論に興味を持ち、実践しておいて欲しい。

評価方法その他

レポート・試験60%、出席40%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション: 調理科学実験の目的及び授業の進行方法等
2. 調理・計測実験: 性状の異なる食品の体積と重量の関係
3. 調味の基本に関する実験: だし汁の種類、特徴、調製法
4. 小麦粉の調理性に関する実験1
5. 小麦粉の調理性に関する実験2
6. 卵の調理性に関する実験1: 熱凝固性の実験及びその応用
7. 卵の調理性に関する実験2: 乳化性の実験及びその応用
8. 肉の調理性に関する実験
9. 官能検査に関する実験(基礎と応用、識別、嗜好試験)
10. 魚介類の調理性に関する実験(イカの切り方と収縮性など)
11. 砂糖の調理性に関する実験(加熱と色・味・香りなど)
12. 野菜の調理と色の変化に関する実験
13. 調理器具について: 器具の違いと汁の温度変化の比較など
14. まとめ1
15. まとめ2

使用教科書名

わかりやすい チャート式調理(建帛社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

統計処理を含め、具体的な食品について官能評価法、鑑別法について学ぶ。官能検査の目的と意義、官能検査の基本と実施法、官能検査の方法と解析法（比較法、識別法、順位法、評点法など）について学ぶ。演習また、食品の化学的、物理的評価法も含めて教授する。個別食品の鑑別法に関しては、鮮度、熟度の判定法なども含めて行う。

学習目標・到達目標

官能検査の種類・実施方法・検定方法等の基本や、個別食品の食品の鮮度・熟度の鑑別法を習得する。

準備学習

慣れない用語も資料を良く読み込むことで理解できるようにするので、根気強く頑張ろう。

評価方法その他

レポート35%，試験35%，出席30%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:食品の官能評価の目的及び授業の進行方法等
2. 官能検査の基本と実施方法
3. 試料の調製法
4. 比較試験法
5. 識別試験法
6. 評点法
7. 統計処理1
8. 食品の化学的評価法
9. 食品の物理的評価法1
10. 食品の物理的評価法2
11. 食品の鑑別法1
12. 食品の鑑別法2
13. 食品の鑑別法3
14. まとめ
15. 試験

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎とする。

学習目標・到達目標

管理栄養士に必要な食品衛生の基礎を習得することが目標。

準備学習

食品衛生は、食品を扱う上での基本です。食品添加物や食品表示、食中毒など様々なものを学んでください。

評価方法その他

試験（70%）、出席（30%）

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 食品衛生行政および関連法規
- 第2回 食品の表示
- 第3回 食品と微生物（微生物の種類）
- 第4回 食品と微生物（微生物の諸性質）
- 第5回 食品と微生物（培養方法、防止方法）
- 第6回 食品の変質と防止方法
- 第7回 食中毒の定義
- 第8回 食中毒の種類
- 第9回 寄生虫と衛生動物
- 第10回 感染症、BSE、インフルエンザウイルス
- 第11回 食品汚染物質（カビ毒、農薬、ダイオキシン、発ガン物質、アクリルアミド）第
- 12回 食品添加物
- 第13回 食品の包装容器
- 第14回 食品衛生対策、水の衛生、HACCP、ISO
- 第15回 食品の安全、遺伝子組換え食品
- 第16回 試験

使用教科書名

食べ物と健康 食品の安全 有菌幸司（編集） 南江堂 2013

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品衛生の立場から、食品の安全性を確かめる物理的、化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象に行う。

学習目標・到達目標

微生物の扱い方や水道水の分析方法、遺伝子組換え食品など、食品衛生に関する実験の仕方を習得する。

準備学習

食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査、食品添加物の検査などを行います。社会に出て、食の分野で働くためには必要な基礎知識です。

評価方法その他

レポート(60%)・出席及び授業態度(40%)を総合して判定する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 微生物培養培地作製
- 3 食品の細菌検査(標準平板培養法, 大腸菌群テスト)
- 4 食品の細菌検査(生菌数, 大腸菌群数, 大腸菌確定検査)
- 5 真菌類の食品からの分離(カビ, 酵母)
- 6 真菌類の形態観察, 細菌類の分離
- 7 細菌類の顕微鏡観察(グラム染色など)
- 8 微生物の抗生物質耐性試験
- 9 微生物の紫外線, 温度耐性試験
- 10 調理環境と調理器具の微生物汚染度測定
- 11 遺伝子組換え食品の検出試験
- 12 食品添加物(着色料)の検出
- 13 食品添加物(発色剤)の検出
- 14 米の品質試験, 水道水の残量塩素試験
- 15 GC-MSによる残留農薬の検出

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養と健康および疾病との係わり、栄養と食生活の関係、栄養学の歴史的背景から栄養の定義について学ぶ。また、栄養素の機能について理解を深めるために、栄養素の生理的作用、体構成成分としてのエネルギー源の役割、栄養素の体内相互変換および機能性について体系的に学ぶ。さらに、個体の栄養状態に適合した栄養マネジメントを行うためには、生活活動や生活のリズムにより食欲が大きく変化することも予想されることから、食物の摂取のタイミングによる栄養素の消化・吸収の変化についても基本的概念を中心に解説する。

学習目標・到達目標

基礎栄養学 I では、「栄養」の定義、その意義を学ぶとともに、摂食行動から消化・吸収および栄養素の体内運搬までの基本的な概念を理解する。特に、食後・食間期の糖質やたんぱく質の代謝変化について、エネルギー源としての生理的意義を修得し、さらには食品たんぱく質の栄養価の評価法を説明できるようにする。

準備学習

学習の到達度を把握する目的で、計4回の小テストを行う。復習を通して、学習テーマのポイントを整理しておくこと。

評価方法その他

定期試験(80%)、小テスト(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養の定義、栄養と健康・疾患
2. 遺伝形質と栄養の相互作用
3. 空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング
4. 消化器系の構造と機能
5. 消化過程、管腔内消化の調節
6. 膜消化・吸収
7. 栄養素別の消化・吸収(たんぱく質, 炭水化物)
8. 栄養素別の消化・吸収(脂質, ビタミン, ミネラル)
9. 栄養素の体内動態, 生物学的利用度
10. たんぱく質・アミノ酸の体内代謝
11. アミノ酸の臓器間輸送
12. 摂取するたんぱく質の量と質の評価
13. 糖質の体内代謝
14. 血糖とその調節, エネルギー源としての作用
15. 食物繊維, 難消化性糖質
16. 定期試験

使用教科書名

栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第2版(羊土社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ヒトの健康維持・増進には、栄養素やエネルギー量の摂取バランスが重要な要因の一つと考えられる。基礎栄養学Ⅱにおいては、食品中の脂質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素が人体の機能維持において果たす役割、その過不足がもたらす欠乏症と過剰症、吸収・代謝の動態などについて解説する。特に、エネルギー産生栄養素は、食事との係わりのなかで具体的な状況を想定して理解することが重要となるので、食後と食間期の代謝の違いとそれに伴って起こる代謝調節の全体像についても解説する。

学習目標・到達目標

基礎栄養学Ⅰに引き続き、栄養素（脂質、ビタミン、ミネラル）の役割を説明できるようにする。摂取する脂質の量・質が生活習慣病の発症に関連することも指摘されていることから、その重要性について理解を深める。ビタミン、ミネラルは、欠乏と過剰の観点からそれらの生理的意義を修得する。エネルギー代謝は、その測定原理を理解するとともに、エネルギー必要量の算出法を学び、管理栄養士に要求される個人および集団の健康維持・増進、疾病予防の活用に発展でき

準備学習

学習の到達度を把握する目的で、計4回の小テストを行う。復習を通して、学習テーマのポイントを整理しておくこと。

評価方法その他

定期試験（80%）、小テスト（20%）

週 テーマ・授業目標等

1. 脂質の体内代謝、脂質の臓器間輸送
2. 貯蔵エネルギーとしての作用
3. コレステロール代謝の調節
4. 摂取する脂質の量と質の評価
5. ビタミンの構造と機能
6. ビタミンの栄養学的機能
7. ビタミンの生物学的利用度
8. ミネラルの分類と栄養学的機能
9. 硬組織とミネラル、生体機能の調節作用、酵素反応の賦活作用
10. 鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度
11. 水の出納
12. 電解質代謝と栄養
13. エネルギー代謝の概念
14. エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝
15. エネルギー代謝の測定法
16. 定期試験

使用教科書名

栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第2版(羊土社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養素が生体にとってどのような吸収・代謝経路をたどり、生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかなどについて、実験的手法および動物実験を通して理解する。

学習目標・到達目標

栄養素の消化を実験を通して理解する。
栄養条件を変えて飼育した動物の反応を観察し
個体レベルと栄養素の関係について理解する。

準備学習

高校で履修する化学・生物について習得していること。事前学習は必要としないが、基礎栄養学、生化学の基礎的内容を理解していることが望ましい。

評価方法その他

レポート（50%）、授業への取り組み・参加態度（50%）

週 テーマ・授業目標等

- 1 実験の予定と諸注意
- 2 糖質実験(でんぷんの消化Ⅰ)
- 3 糖質実験(でんぷんの消化Ⅱ)
- 4 タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅰ)
- 5 タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅱ)
- 6 動物実験(飼料の作成)
- 7 脂質の消化
- 8 クロマトグラフィー
- 9 動物実験(体重、摂餌量の測定)
- 10 動物実験(解剖)
- 11 統計解析の手法と解説
- 12 血液成分の分析NEFA,TG
- 13 血液成分の分析TChol,HDLChol
- 14 データ解析
- 15 データ解析

使用教科書名

プリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食事摂取基準論は応用栄養学の一分野に分類される。解剖生理学、基礎栄養学、などの基礎知識に基づいて、「日本人の食事摂取基準」の基本理論や策定の概念に対する理解を深め、各栄養素についての策定された内容のアウトラインを掴むようにする。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験に要求される食事摂取基準に関する知識を、系統的・網羅的に学習し、実際の献立作成、栄養指導などの実践において、「日本人の食事摂取基準(2010年版)」を利用できる素養を身につける。

準備学習

この教科書は、本来、専門家のために書かれたものであるので、学生には難しい部分もあるが、卒業後も座右の書となることは必定であるので、頑張って十分に勉強して欲しい。予習・復習の重要性が極めて高い科目である。

評価方法その他

出席状況によって定期試験の受験資格を判定し、成績評価は定期試験の成績で行う。

週 テーマ・授業目標等

1. 食事摂取基準:総論
2. 食事摂取基準:エネルギー
3. 食事摂取基準:エネルギー
4. 食事摂取基準:たんぱく質
5. 食事摂取基準:たんぱく質・脂質
6. 食事摂取基準:脂質
7. 食事摂取基準:炭水化物・エネルギー産生栄養素バランス
8. 食事摂取基準:脂溶性ビタミン I
9. 食事摂取基準:脂溶性ビタミン II
10. 食事摂取基準:水溶性ビタミン I
11. 食事摂取基準:水溶性ビタミン II・多量ミネラル
12. 食事摂取基準:微量ミネラル I
13. 食事摂取基準:微量ミネラル II
14. 食事摂取基準:水・対象特性 I (妊婦・授乳婦・乳児・小児)
15. 食事摂取基準:対象特性 II (高齢者)・高血圧
16. 試験

使用教科書名

厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準(2015年版)/第一出版編集部編/第一出版/2014年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ライフステージ別栄養学 I は応用栄養学の一分野に分類される。ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理についての学習にあたる。ライフステージ別栄養学 I においてはライフステージの概論にはじまり、妊娠期(児の側からみれば胎児期)、授乳期および、出生後の乳幼児期から、思春期にいたる成長期における各段階の栄養と母性栄養学を包括的に学ぶ。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験のガイドラインにおける応用栄養学分野の母性栄養と成長発達に関する知識を系統的・網羅的に学習する。

準備学習

管理栄養士国家試験の「応用栄養学」の分野にはいる専門科目であるので、教科書と配付資料についての予習、復習を着実に行うように努めること。

評価方法その他

出席状況によって定期試験の受験資格を判定し、定期試験の成績によって成績判定を行う。

週 テーマ・授業目標等

1. ライフステージ栄養学の概要
2. 栄養アセスメント:身体計測、臨床診査、臨床検査
3. 妊娠期、分娩、産褥期の生理と栄養
4. 妊娠期、分娩、産褥期の栄養アセスメントと病態生理
5. 授乳期の生理、栄養アセスメントと病態生理
6. 正常新生児、乳児の生理的発達と栄養アセスメント
7. 未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題
8. 母乳および調製粉乳の生化学と母乳栄養の利点
9. 乳児期の栄養と離乳食
10. 小児の先天代謝異常症と特殊ミルク
11. 幼児期の生理的発達と栄養アセスメント
12. 幼児期の病態生理と栄養ケア
13. 学童期の生理的発達と栄養アセスメント
14. 学童期の病態生理と栄養ケア
15. 思春期の生理的発達、病態生理と栄養ケア
16. 試験

使用教科書名

応用栄養学:改訂第4版/戸谷誠之ほか/南江堂/2012年/

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ライフステージ別栄養学Ⅱは応用栄養学の一分野に分類される。成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージの栄養学とそれに関連した病態生理についての学習と、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス(疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など)の条件下における栄養を学ぶ。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験のために要求されるライフステージ別栄養学の成人期以降に関する基本となる知識を系統的・網羅的に学習する。

準備学習

管理栄養士国家試験の応用栄養学の分野に分類される専門科目である。教科書と配付資料についての予習と復習を着実に行うように努めること。

評価方法その他

出席状況で定期試験の受験資格を判定し、定期試験の成績で成績評価を行う。

週 テーマ・授業目標等

- 1.臨床検査の読み方Ⅰ
- 2.臨床検査の読み方Ⅱ
- 3.メタボリックシンドロームの病態と診断
- 4.メタボリックシンドロームの特定健診の仕組み
- 5.メタボリックシンドロームの特定保健指導の仕組み
- 6.成人期の生活習慣病と栄養
- 7.更年期の病態生理と栄養
- 8.高齢期の身体・精神的変化および栄養とQOL
- 9.高齢期の病態生理と栄養ケア
- 10.成人のエネルギー代謝と栄養素(概説)
- 11.運動生理とエネルギー代謝
- 12.筋肉トレーニングと栄養補給
- 13.競技スポーツと栄養
- 14.ストレス応答・日内リズムと栄養
- 15.温度環境・高圧、低圧、無重力環境と栄養
- 16.試験

使用教科書名

健康・栄養科学シリーズ:応用栄養学:改訂第4版/戸谷誠之ほか/南江堂/2012年/

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ライフステージ別栄養学Ⅰ・Ⅱ、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理(マネジメント)の方法を学ぶ。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養う。

学習目標・到達目標

各ライフステージ別の栄養アセスメントの項目とその基準を抽出する力、また、具体的な食事による栄養ケア内容の選定をする力、栄養ケアプランニングとその評価を行う実践力を身につける。

準備学習**評価方法その他**

テスト60%、出席・授業態度20%、レポート20%)などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・栄養マネジメントの理論
- 第2週・・・妊娠・授乳期の栄養ケアの特徴とプランニング
- 第3週・・・妊娠・授乳期の栄養ケアのプランニング
- 第4週・・・妊娠・授乳期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価
- 第5週・・・乳汁期・離乳期の栄養ケアの特徴
- 第6週・・・乳汁期の栄養ケアの実習と評価
- 第7週・・・離乳期の栄養ケアの実習(統一献立)
- 第8週・・・離乳期の栄養ケアのプランニング
- 第9週・・・離乳期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価
- 第10週・・・幼児期の栄養ケアの特徴と実習(統一献立)
- 第11週・・・幼児期の栄養ケアのプランニング
- 第12週・・・幼児期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価
- 第13週・・・高齢期の栄養ケアの特徴と実習(統一献立)
- 第14週・・・高齢期の栄養ケアのプランニング
- 第15週・・・高齢期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価

使用教科書名

子どもの食生活, 上田玲子、酒井治子他, ななみ書房 2011年
応用栄養学, 田中平三他, 南江堂, 2006年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

メタボリックシンドロームの早期発見・早期改善を目指すべく導入された特定健診・保健指導は、内臓脂肪の蓄積に注目した生活習慣病予防のためのアプローチである。しかし、生活習慣病の発症を未然に防ぐ取り組みとはいえ、慣れ親しんだ習慣を変えることは容易ではない。この講義では、健康づくり支援のハイリスクアプローチである特定保健指導を中心に、成果につなげる健康づくり（行動変容）支援プログラムに関する理解だけでなく、支援者としての心構え、健康づくり支援プログラムの開発に必要な考え方を通して、実践の場で役立つ知識・技術の習得を目指す。

学習目標・到達目標

特定保健指導を含めた健康づくりでは、単に正しい情報提供をするだけでなく、対象者の生活スタイルや思考パターンを考慮した改善環境の見極めとフォローが重要になってくる。支援者が自身の「強み」と「弱み」を知ることから、初対面の対象者と関わる心構えとノウハウを習得する。信頼関係の構築から、支援介入方法の選択・評価・フィードバックまで、行動科学的なアプローチで対象者を導いていくためのスキル習得を目標とする。

準備学習

この授業は「自ら考えること」が中心になるため、教科書による解説は2～3割ほど。自ら考え、自分の考えを相手に伝える方法を身に付けることで、将来、本気で食と健康をつなぐ専門家である管理栄養士として活躍してみたいと考える学生には、今の現場の貴重な現状を含め、栄養指導や保健指導などの健康づくり支援に関わるために必要な考え方やスキルを実践レベルで習得することができます。

評価方法その他

出席（ミニ課題）20%＋レポート20%＋テスト60%による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 健康行動を支援することとは（導入）
 2. 健康づくりと支援者の役割Ⅰ
 3. 健康づくりと支援者の役割Ⅱ
 4. 健康づくりと支援者の役割Ⅲ
 5. 健康づくりと支援者の役割Ⅳ
 - ※ レポート課題1 → 1ヶ月後提出
 6. 行動変容理論とアプローチ技法Ⅰ
 7. 行動変容理論とアプローチ技法Ⅱ
 8. 行動変容理論とアプローチ技法Ⅲ
 9. 行動変容理論とアプローチ技法Ⅳ
 - ※ レポート課題2 → 1ヶ月後提出
 10. 行動変容プログラムの開発Ⅰ
 11. 行動変容プログラムの開発Ⅱ
 12. 行動変容プログラムの開発Ⅲ
 13. ケーススタディⅠ
 14. ケーススタディⅡ
 15. 健康行動支援プログラム論のまとめ
 16. テスト
- （※内容が前後したり、変わることがあります）

使用教科書名

栄養科学シリーズNEXTシリーズ「栄養カウンセリング論 第2版」（講談社）

あくまで「実践」で役に立つスキルを習得するための講義である。実際の現場で得られた情報やデータを活用し、食と健康つなぐ専門家としての知識、技術、考え方を学び、意識を高めていくための講義にするため、既存のテキスト類は参考資料

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では、栄養教育者としての心構えをはじめ、栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的を学ぶものである。さらに、具体的な教育の対象・場についても学びを深め、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解し、地域の食環境づくりや栄養教育の国際的動向についても学びを深めるものとする。

学習目標・到達目標

栄養教育の概念・歴史を理解したうえで、現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解する。さらに、具体的な教育の対象・場があることを学び、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解することを目標とする。

準備学習**週 テーマ・授業目標等**

1. 栄養教育の概念・定義
2. 栄養教育・栄養指導の歴史
3. 健康・栄養上の問題点
4. 栄養教育の場
5. 栄養教育の法的根拠
6. 食行動変容と栄養教育
7. 栄養教育マネジメント
8. 栄養教育アセスメント
9. 栄養教育計画
10. カリキュラム・指導案立案
11. 栄養教育方法
12. 栄養教育の実施
13. 栄養教育の評価
14. 食環境づくりと栄養教育
15. 栄養教育の国際的動向
16. 試験

評価方法その他

定期試験70%、小テスト・レポート10%、平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名

エキスパート管理栄養士養成シリーズ栄養教育論（第2版）
川田智恵子・村上淳 化学同人

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では栄養教育の方法について学ぶ。対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶ。また、近年、個人教育に頻繁に用いられているカウンセリングについては、その基本と栄養教育への応用方法を学ぶ。また、栄養教育を効果的に展開するための教材についても理論的に学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養教育総論での学びをふまえ、栄養教育方法の概念及び歴史を理解する。とくに近年栄養教育は、学習者の行動変容を目的として行われ、その基本には行動科学の手法を用いる場合が多くなってきた。現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解し、さらに、本授業で学ぶ行動科学の基礎の学びを食行動変容への応用に必要な知識を理解することに展開していく方法を学ぶことを目的とする。

準備学習**評価方法その他**

定期試験60%、小テスト・レポート20%、平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1 栄養教育の概念・定義
- 2 栄養教育方法の選択
- 3 学習形態
- 4 健康信念モデル(ヘルス・ベリーフ・モデル)
- 5 自己効力感(セルフ・エフィカシー)
- 6 行動変容段階モデル
- 7 計画的行動理論
- 8 ストレスとコーピング
- 9 教育教材・媒体
- 10 カウンセリングの概要
- 11 栄養カウンセリングの栄養教育への応用
- 12 学習段階の発展
- 13 ソーシャルサポート(社会的支援)
- 14 コミュニティエンパワーメント
- 15 まとめ
- 16 試験

使用教科書名

1. エキスパート管理栄養士養成シリーズ栄養教育論(第2版)川田智恵子・村上淳 化学同人
2. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養教育総論、栄養教育方法論を踏まえて、乳幼児期から高齢期にいたるライフステージ別に、各特性に応じた栄養教育の内容と方法、また、食環境づくりの実践方法を、さらに、栄養教育の国際的な動向を学習していく。

学習目標・到達目標

乳幼児期から高齢期にいたるライフステージ別に、各特性に応じた栄養教育の内容と方法を学ぶ。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解する。さらに、国際的な動向を踏まえて、今後の栄養教育のあり方をグローバルな視点からの確かな判断ができる力を養う。

準備学習

授業の間に小テストを設けています。しっかり復習をしてきてください。

評価方法その他

出席状況・学習態度10%、定期試験70%、小テスト20%などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション I. ライフステージ別栄養教育 1. 妊娠・授乳期の栄養教育①
- 第2週 1. 妊娠・授乳期の栄養教育の特徴②
- 第3週 2. 乳幼児期の栄養教育①
- 第4週 2. 乳幼児期の栄養教育②
- 第5週 1・2のまとめ(国家試験での出題傾向)
- 第6週 3. 学童期・思春期の栄養教育
- 第7週 4. 成人期の栄養教育
- 第8週 5. 高齢期の栄養教育
- 第9週 6. 障がい児・者の栄養教育
- 第10週 3～6のまとめ(国家試験での出題傾向)
- 第11週 II. 食環境づくりにおける栄養教育
 1. 食環境づくりの意義と、環境整備のための法律・制度・施策
- 第12週 2. 食物へのアクセス面での展開
- 第13週 3. 情報へのアクセス面での展開
 4. 食環境にかかわる組織・集団への栄養教育
- 第14週 III. 栄養教育の国際的な動向
 1. 先進諸国における栄養教育
- 第15週 2. 開発途上国における栄養教育

使用教科書名

- 1) 健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論,丸山千寿子、足達淑子、武見ゆかり編 南江堂 2013
- 2) 子どもの食生活－栄養・食育・保育－上田玲子・酒井治子他編著 ななみ書房 2013

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見だし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画を立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養教育総論や方法論での今までの学びより、本実習では、対象の把握から調査実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解し、方法を習得する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見だし、栄養教育の目標を設定し、教育の実施にむけた計画が立てられることを目標とする。

準備学習

グループワークが多いです。欠席をするとグループワークができなくなります。自ら積極的に実習に臨むようにしてください。

評価方法その他

レポート70%、グループワーク10%、平常点20%（平常点は授業への参加状況・グループワークへの参加等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1 栄養教育のアセスメント
- 2 調査方法－方法の決定
- 3 調査方法－調査票作成
- 4 調査方法－調査実施
- 5 情報の処理－データの特性を読む
- 6 情報の処理－データの関連性を知る
- 7 情報の処理－解析方法
- 8 既存情報の収集と活用
- 9 栄養教育目標設定
- 10 栄養教育計画作成
- 11 教材作成
- 12 プレゼンテーション案作成
- 13 栄養教育の実施－ロールプレイング
- 14 栄養教育の評価
- 15 まとめ

使用教科書名

パソコン&データ活用法 林直樹・久保昌子・永井成美
東山書房

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養教育総論、方法論、ライフステージ別栄養教育論などの理論を基に、様々な学習者に応じた多様な場での栄養教育のあり方について実習を通して学んでいく。特に、個人に対する栄養教育と、集団に対する栄養教育等、学習者の実態把握についても量的な質問紙調査とともに、質的調査を実施する能力を養うことができる授業である。

学習目標・到達目標

栄養教育総論、方法論、ライフステージ別栄養教育論などの理論を基に、社会的実践の一形態としての栄養教育実習を行う中で、修得した知識や技術の統合化を行い、総合的な展開力を養う。

準備学習**週 テーマ・授業目標等**

設定した学習者（小集団と個人）の条件に対応し、栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえた教育目標を設定。学習案の立案、ロールプレイングによる実施、評価までのプロセスをフルコースで行う。

評価方法その他

テスト60%、レポート20%、出席及び授業態度20%

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなどを学ぶ。また社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身に付け、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を修得できることを到達目標とする。

学習目標・到達目標

カウンセリングの理論、技術を学び、カウンセリングマインド（人間関係を大切に作る姿勢）を養うとともに、社会に出てから、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を修得できることを到達目標とする。クラスでは理論だけでなく実際に役立つ事柄を取り扱う。学生は実践に役立てるとともに、豊かな人間性の発達及び、社会適応能力の向上を目指す。

準備学習

カウンセリングは、台本なしで行う、対象者との気持ちと言葉のやりとりからなっております。カウンセリングスキルを修得するには、知識を学ぶと同時に、実際にカウンセリングの面接実習や演習を実践していく必要があります。各授業の前半は、講義を、後半は、面接実習や演習を行いますので、学生には積極的に授業に参加することが求められます。

評価方法その他

平常点 (30%)
定期試験 (30%)
レポート、提出物 (30%)
その他 (10%)
(平常点は授業への参加状況・討議への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
2. 栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ
3. 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
栄養カウンセリングの基本的態度 実習 (1)
4. 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル
傾聴 実習 (2)
5. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
精神分析療法 実習 (3)
6. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
来談者中心療法 実習 (4)
7. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
行動療法 実習 (5)
8. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
交流分析 実習 (6)
9. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論
家族療法 実習 (7)
- 10.心理アセスメントとは 実習 (8)
- 11.面接によるアセスメント 実習 (9)
- 12.心理テストによるアセスメント 実習 (10)
- 13.栄養教育に関係が深い疾病や健康に関する保健活動 実習 (11)
- 14.カウンセリングに必要な食行動理論 実習 (12)
- 15.ライフステージと食行動の特徴 実習 (13)
- 16.テスト

注:授業は全体のスピードや学生の要望などにより変更することがあります。変更の場合はその都度、お伝えいたします。

使用教科書名

小松啓子・大谷貴美子編「栄養カウンセリング論」第2版 講談社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会では情報伝達能力は必須である。自分の考えをまとめて効率よく人に伝達し理解してもらわなければならない。人間に一番大切と言っても過言ではない食の様々な情報を効率よく伝える事を本授業の目的とする。

学習目標・到達目標

2次元グラフィックスツールを学習し、食に関わる情報の処理、データの特性・関連性を知り、収集情報の分析と選択をする。最終的には媒体の制作を行う。

準備学習

情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現には美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探してみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 1回目 授業のオリエンテーション、2次元CGの概要
- 2回目 課題1の説明、2次元CGの基礎
- 3回目 2次元CGの基礎—ツールを理解
- 4回目 2次元CGの基礎—プリミティブ図形の演習
- 5回目 2次元CGの基礎—図形の応用演習
- 6回目 2次元CGの基礎—曲線の演習
- 7回目 2次元CGの基礎—色彩の演習
- 8回目 総合課題
- 9回目 総合課題
- 10回目 既存情報の収集について
- 11回目 情報の処理 データの特性・関連性を知る
- 12回目 収集情報の分析と選択
- 13回目 収集した情報の活用
- 14回目 媒体作成
- 15回目 媒体作成
- 16回目 プレゼンテーション

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。臨床栄養学Ⅰでは、病理学で学んだ総論的知識を臓器系別の疾患ごとに整理し、各疾患の病態・症状・診断・治療の基礎を網羅的に学ぶ。

学習目標・到達目標

器官系別の主な疾患について、病態、症状、診断、治療の概要を理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1循環器系1(心臓の形態・機能と主な疾患)
- 2循環器系2(血管の形態・機能と主な疾患)
- 3呼吸器系の形態・機能と主な疾患
- 4消化器系の形態・機能と主な疾患
- 5肝胆膵の形態・機能と主な疾患
- 6内分泌系の形態・機能と主な疾患
- 7代謝系の形態・機能と主な疾患
- 8造血器系の形態・機能と主な疾患
- 9アレルギー・自己免疫疾患
- 10腎・尿路系の形態・機能
- 11腎・尿路系の主な疾患
- 12生殖器・乳腺・運動器の形態・機能と主な疾患
- 13脳・神経系・感覚器の形態・機能と主な疾患
- 14皮膚の機能と主な疾患～褥瘡と栄養～(特別講演)
- 15全体総括と問題演習
- 16試験

準備学習

臨床栄養学を学ぶ上で基礎となる、各系統の疾患の病態、診断、治療の概要を扱います。臨床医学全般を扱いますので、非常に多岐にわたる内容です。各回の講義の中で、解剖生理学、病理学、病原微生物学の復習を取り入れますが、各自で特に解剖生理学Ⅰ、Ⅱを復習しながら聴講するとより理解が深まるでしょう。

評価方法その他

試験100%で行う。

使用教科書名

カラーで学べる病理学(第3版)/渡辺照男/ヌーヴェル・ヒロカワ(1年次の病理学と同じテキスト)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

入院患者の臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフが協力してディスカッションしながら、施行されることが多くなってきている。このためには管理栄養士は多岐にわたる疾患群について確実な医学的素養を要求される。既に臨床栄養学Ⅰで履修した内容を基礎として、各病態に対する実践的な医学的知識を身につけることをこの授業では行う。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験のガイドラインからみた、臨床栄養学分野に関する問題点を網羅的に学習し、将来的に、病院(管理)栄養士として勤務する場合を想定して、Nutrition Support Team(NST)の一員として活躍できるための医学的基礎知識を習得する。

準備学習

臨床栄養学は国家試験対策でも重点的に強化する必要のある科目であり、医学的な基礎をこの科目で固めて欲しい。教科書と配付資料がすべて重要であり、盛りだくさんであるが、予習・復習に励んで欲しい。

評価方法その他

出席状況により定期試験の受験資格を判定し、成績判定は定期試験の成績で行う。

週 テーマ・授業目標等

- 1.栄養障害・肥満の病態と栄養マネジメント
- 2.代謝疾患の病態
- 3.代謝疾患の栄養ケア・マネジメント
- 4.消化管疾患と病態
- 5.消化管疾患の栄養ケア・マネジメント
- 6.肝・胆・膵疾患の病態と栄養マネジメント
- 7.循環器疾患の病態と栄養マネジメント
- 8.腎・尿路疾患と病態
- 9.腎・尿路疾患の栄養ケア・マネジメント
- 10.呼吸器疾患・血液疾患の病態と栄養マネジメント
- 11.骨疾患・免疫疾患・アレルギー疾患の病態と栄養マネジメント
- 12.周術期およびクリティカルケアの病態と栄養マネジメント
- 13.摂食機能障害・身体・知的障害の病態と栄養マネジメント
- 14.小児疾患・産婦人科疾患の病態と栄養マネジメント
- 15.老年症候群の病態と栄養マネジメント
- 16.試験

使用教科書名

管理栄養士講座 改訂臨床栄養学Ⅱ/鈴木博ほか/建帛社/2012年/

授業科目概要・教育目的（履修条件）

疾病者の病態を理解し、栄養評価、栄養管理の在り方を理解する。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態に基づいて、適切な栄養管理アセスメントが出来るようにする。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 医療制度、NST
- 3 栄養評価・身体計測
- 4 栄養評価・食事評価(1)
- 5 栄養評価・食事評価(2)
- 6 栄養ケア計画
- 7 肥満の栄養アセスメントと食事管理
- 8 糖尿病の栄養アセスメントと食事管理
- 9 高血圧の栄養アセスメントと食事管理
- 10 脂質異常症の栄養アセスメントと食事管理
- 11 腎疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 12 胃腸疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 13 肝臓膵臓疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 14 心疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 15 まとめ

準備学習**評価方法その他**

出席、試験

使用教科書名

新臨床栄養学栄養ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

授業科目概要・教育目的（履修条件）

各種疾病を理解し、栄養マネジメントについて学習する。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態に適した、栄養管理や栄養教育について学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 消化器疾患(1)
- 3 消化器疾患(2)
- 4 内分泌代謝疾患(1)
- 5 内分泌代謝疾患(2)
- 6 内分泌代謝疾患(3)
- 7 循環器疾患(1)
- 8 循環器疾患(2)
- 9 腎臓疾患(1)
- 10 腎臓疾患(2)
- 11 肝臓、胆嚢、膵臓疾患
- 12 血液疾患
- 13 骨代謝疾患
- 14 外科的栄養管理
- 15 まとめ

準備学習**評価方法その他**

出席 試験

使用教科書名

新臨床栄養学ケアマネジメント
栄養療法の実習

授業科目概要・教育目的（履修条件）

疾病者の病態を理解し、身体計測などの栄養評価や安静時代謝、各種疾病の栄養管理指導の在り方を実習する。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態に基づいて、適正な栄養管理アセスメントが出来るよう実習を行う。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 食事摂取量の評価(1)
- 3 食事摂取量の評価(2)
- 4 身体計測(1)
- 5 身体計測(2)
- 6 身体計測(3)
- 7 安静時代謝の測定(1)
- 8 安静時代謝の測定(2)
- 9 骨量の測定
- 10 身体活動量の算出
- 11 栄養評価の媒体作成(1)
- 12 栄養評価の媒体作成(2)
- 13 食事分析
- 14 食事分析の媒体作成
- 15 まとめ

準備学習**評価方法その他**

出席、レポート、試験

使用教科書名

新臨床栄養学ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

授業科目概要・教育目的（履修条件）

疾病者の病態の特徴に基づいた食事管理の方法や栄養指導方法について学ぶ。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態を把握し、適切な栄養管理について学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 食糧構成について、易消化食の献立作成
- 3 糖尿病食品交換表、エネルギーコントロール食の献立作成
- 4 易消化食の調理実習
- 5 エネルギーコントロール食の調理実習
- 6 脂質コントロール食の献立作成
- 7 脂質コントロール食の調理実習
- 8 腎臓病食品交換表、治療用特殊食品の説明
- 9 たんぱく質コントロール食の献立作成
- 10 治療用特殊食品を用いた調理実習
- 11 減塩食の調理実習
- 12 たんぱく質コントロール食の調理実習
- 13 糖尿病性腎症の献立作成
- 14 糖尿病性腎症の調理実習
- 15 嚥下食の調理実習

準備学習**評価方法その他**

出席、レポート提出、試験

使用教科書名

病態栄養ガイドブック
臨床栄養学栄養ケアマネジメント

授業科目概要・教育目的（履修条件）

医療現場において活躍できる管理栄養士となれよう、各種病態の栄養管理について学ぶ。さらに患者教育のあり方や媒体作成など具体的患者指導が出来るよう授業を展開する。

学習目標・到達目標

各種疾病の栄養療法を習得する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 栄養評価と栄養補給法
- 3 糖尿病の栄養治療・症例検討
- 4 糖尿病腎症の栄養治療・症例検討
- 5 脂質異常症の栄養治療・症例検討
- 6 高血圧の栄養治療・症例検討
- 7 慢性腎臓病の栄養治療・症例検討
- 8 栄養治療のための媒体作成
- 9 栄養治療のための媒体作成
- 10 栄養治療のための媒体作成
- 11 透析療法の栄養管理
- 12 消化管術後の栄養治療
- 13 嚥下咀嚼と栄養管理
- 14 妊娠と栄養管理
- 15 まとめ

準備学習

医療現場で対応できる管理栄養士を目指します。臨床栄養に興味のある学生は受講してください。

評価方法その他

試験(80%)、平常点(20%)による総合評価

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。

学習目標・到達目標

集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について基礎的な理解をする。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・1. 公衆栄養の概念, 公衆栄養活動の意義
- 第2週・・・2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題 1) 高齢社会と健康・栄養問題 2) 健康状態の変化
- 第3週・・・3) 国民健康・栄養調査の沿革
- 第4週・・・3) 国民健康・栄養調査の方法
- 第5週・・・4) 食事の変化
- 第6週・・・5) 食生活の変化
- 第7週・・・6) 食環境の変化 (1) 食品生産・流通面の要因
- 第8週・・・(2) 食情報の提供面の要因
- 第9週・・・3. わが国の栄養政策 1) 管理栄養士・栄養士養成制度
- 第10週・・・2) 食生活指針と食事バランスガイド、運動指針、休養指針
- 第11週・・・3) 健康日本21の背景と目標設定
- 第12週・・・3) 健康日本21の地方計画
- 第13週・・・4. 諸外国における健康・栄養問題 1) 現状と課題
- 第14週・・・2) 健康・栄養施策-1
- 第15週・・・健康・栄養施策-2

準備学習

心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献することを念頭としながら「問題は何か、解決するためにどうするのか」という取組意欲をもつ受講を期待します。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

使用教科書名

公衆栄養学, 田中平三他編, 南江堂, 2010

授業科目概要・教育目的（履修条件）

公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。

学習目標・到達目標

わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策について理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・1. 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス
- 第2週・・・2. 公衆栄養アセスメント
- 第3週・・・3. 住民参加とコミュニティ・オーガニゼーション
- 第4週・・・4. 公衆栄養活動のための法規
- 第5週・・・5. 公衆栄養マネジメント 1) 公衆栄養プログラムの実施と地域連携
- 第6週・・・2) 母子の公衆栄養プログラムの実際 1
- 第7週・・・2) 母子の公衆栄養プログラムの実際 2
- 第8週・・・3) 学童・思春期公衆栄養プログラムの実際
- 第9週・・・4) 成人・高齢者の公衆栄養プログラムの実際
- 第10週・・・5) 給食施設指導・食環境づくりプログラムの実際
- 第11週・・・6. 栄養疫学 (1)
- 第12週・・・6. 栄養疫学 (2)
- 第13週・・・7. 食事摂取基準 1) 概念
- 第14週・・・2) 活用-1
- 第15週・・・活用-2

準備学習

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組について、地域・職域の公衆栄養活動を効果的に実践するために必要な他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力、意見をまとめる力を習得する。

学習目標・到達目標

集団や地域における健康・栄養問題とそれをとりまく自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析しそれらを総合的に評価・判定する能力を身につける。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・1. オリエンテーション(実習のねらい)
- 第2週・・・2. 健康増進計画の中での地域栄養計画の位置づけ
- 第3週・・・3. 地域栄養計画実習(各段階における具体的な進め方)
- 第4週・・・1) 地域特性の把握、体制づくり、社会資源との連携(住民参加)と多部門の参画の重要性
- 第5週・・・2) 上位目標(QOL、健康目標)の決定
- 第6週・・・3) 行動・ライフスタイルの診断
- 第7週・・・4) 準備、強化、実現、環境要因の診断(情報アプローチと環境アプローチの融合)
- 第8週・・・5) 運営・政策診断→事業の優先順位づけ
- 第9週・・・6) 事業計画の作成1
- 第10週・・・6) 事業計画の作成2
- 第11週・・・7) 評価計画の作成
- 第12週・・・8) 発表資料の作成
- 第13週・・・4. グループでの地域栄養計画案の発表と総合討議
- 第14週・・・4. -2グループでの地域栄養計画案の発表と総合討議
- 第15週・・・まとめ

準備学習

公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開に際し、事前に他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(10%)、レポート(20%)、定期試験(60%)から総合的に評価する

使用教科書名

公衆栄養学, 田中平三編, 南江堂, 2007

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、市町村、保険者、事業者、学校等の健康の増進に関わる各主体が、健康づくりに活用できる社会的資源の状況を踏まえた健康課題に対応した、個人の自発的な意志に関わる生活習慣の改善を促すための計画を提案し、実践・評価するまでの実践力を養う。

学習目標・到達目標

地域栄養活動論で学んだ、地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、その知識を活かすべく、地域での健康課題に対応した地域栄養活動に学生が実際に参画し、保健所などの実務者(管理栄養士など)とともに学ぶ中で、自らが計画を提案し、実践・評価するまで実践力を養うことを目的とする。

準備学習**評価方法その他**

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション 地域栄養活動計画の策定方法
- 第2週 地域栄養活動計画の策定の実際
- 第3週 地域の特性について(1)
- 第4週 地域活動支援法(2)ーコミュニティワークとはー
- 第5週 地域活動支援法(3)ーコミュニティワークの展開ー
- 第6週 地域活動支援法(4)ーネットワークづくりー
- 第7週 地域福祉を支える人・組織及び課題
- 第8週 地域栄養活動計画演習(1)
- 第9週 地域栄養活動計画演習(2)
- 第10週 地域栄養活動計画演習(3)
- 第11週 地域栄養活動計画発表
- 第12週 グループインタビューを活用した質的調査法
- 第13週 グループインタビューを活用した質的調査の演習(1)
- 第14週 グループインタビューを活用した質的調査の演習(2)
- 第15週 グループインタビューを活用した質的調査の演習(3)

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

我が国の政治・経済は、国際的な環境の中で成立しており、日常生活もグローバル化の中で、国際的なことと切り離せない。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、幅広く、世界の保健協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がり考えていく。

学習目標・到達目標

国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 1 国際保健とは 松田
- 2 タイとPHC、ヘルスプロモーション 松田
- 3 国際保健(アフリカ) 熱田
- 4 国際保健(アジア) 熱田
- 5 国際保健(アジア) 熱田
- 6 国際的な栄養の概要 熱田
- 7 国際栄養の視点 熱田
- 8 国際的なエイズと地域 澤崎
- 9 国際的なエイズ調査の活動 澤崎
- 10 世界のエイズの国際活動と日本 澤崎
- 11 世界のエイズの国際活動と日本 澤崎
- 12 イエメン 松田
- 13 JICA, 協力隊の話 青年海外協力協会,松田
- 14 協力隊の話 青年海外協力協会,松田
- 15 ホンデュラス、全体のまとめ 松田

準備学習

実際に国際協力を経験している人の話を中心に展開します。

評価方法その他

平常点(60点)とレポート(40点)

使用教科書名

変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくりーやってみようプライマリー・ヘルス・ケア(第3版)松田正己他編 やどかり出版、2010

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では、食品等が消費されるまでの流れを分断して考えるのではなく、それぞれのつながりを理解することを目的としています。

その結果、フードシステムの各段階の機能と課題を把握することができ、将来、食産業で活躍する学生が、時代とともにどのような「フードシステム」が望ましいかを考え、実践できるスキルを身に付けることができるよう、カリキュラムを組んでいます。

受講生は「フードシステム」等への理解を習得したい初心者を対象とし、それらがより理解を深められるよう、身近なテーマを題材にしなが、講義を進めていきます。

学習目標・到達目標

「フードシステム」とは、食に関する生産から消費までの一連の流れのことを指しており、その流れを体系的なものとして捉える考え方です。

本講義では、前半に「フードシステム」の概念を理論と身近な食品を例に考え、理解し、後半は「フードシステム」が時代とともにどのように変遷してきたかを考え、今後の「フードシステム」の望ましいあり方について、自分自身の考えを持てるようになることを目的とします。

準備学習

本講義内容は、卒業後、食産業に従事する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要なものであります。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、「フードシステム」を体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くはないため、本講義を受講し、食品をトータル的に捉えることができる学生になることを願っています。

評価方法その他

毎回、講義終了時に提出していただくリアクションペーパー内容と期末試験によって評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション:「フードシステム」とは?
2. 食生活の変化とその社会的背景①
3. 食生活の変化とその社会的背景②
4. 食品の流通とその変遷①
5. 食品の流通とその変遷②
6. 食品小売業の変遷と今①
7. 食品小売業の変遷と今②
8. 外食・中食産業の起源と今
9. 食品流通の仕組み:生鮮食品と加工食品の生産と流通
10. 食の安心・安全と流通①:顔が見える流通とは
11. 食の安心・安全と流通②:異業種による農業・食品産業
12. フードシステムのグローバル化:自分たちの食べ物は、どこから来たのか?
13. フードシステムと環境問題:フードシステムから環境問題を考える
14. 正しい食品の選択:消費者が正しい食意識・食行動をするためには
15. まとめ

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会 編(2008)『新版 食品の消費と流通』建帛社。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

乳児院、保育所、養護施設、障がい児・者施設、高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～4週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、そして咀嚼・嚥下機能の生涯発達と支援、さらに、5週以降は、児童・高齢者福祉現場での就職の希望者に応じて、就職後、即戦力となる能力を身につける。

学習目標・到達目標

子どもから高齢者まで、保健と福祉の両方の観点から、日常生活に根付いた栄養ケアマネジメントを理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 栄養ケアマネジメントの仕組み(1)
2. 栄養ケアマネジメントの仕組み(2)
3. 保育所で期待される食育とは
4. 保育所における食育の内容
5. 保育所における食育の計画と評価(演習1)
6. 保育所における食育の計画と評価(演習2)
7. 保育所における食事の提供
8. 食を通じた子育て支援
9. 保育所の役割と保育の原理
10. 子どもの発達と保育の内容(1)
11. 子どもの発達と保育の内容(2)
12. 保育の計画と評価(1)
13. 保育の計画と評価(2)
14. 食と保育の文化(1)
15. 食と保育の文化(2)

準備学習**評価方法その他**

平常点20% レポート80%

使用教科書名

坂崎:新保育所保育指針サポートブック 保育課程から指導計画作成まで, 保育総合研究会監修, 世界文化社, 平成19年 12月15日

酒井:子どもの食生活, 上田玲子、酒井治子他, ななみ書房, 2008年(応用栄養学実習で使用)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～2週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、3週目以降は高齢者福祉施設に入所者にご利用者に提供する介護サービスの実際と、その目的や効果を具体的な事例を基に学ぶ。

学習目標・到達目標

保健と福祉の両方の観点から、日常生活に根付いた栄養ケアマネジメントを理解する。介護保険制度における高齢者福祉施設の役割や課題を理解するとともに、栄養士をはじめ、介護職員や看護職員、生活相談員や介護支援専門員など他職種との連携による質の高い介護サービスの実現に向けた取り組みを学び、理解する。

準備学習

高齢者のケアを医療、介護、栄養等其々の観点から捉え、栄養ケアマネジメントを実施するうえで必要な視点を学びます。さらに施設や在宅では、具体的に多職種とどのように連携し協働しているのかを症例を通して実感しましょう。基本的な業界の専門用語について、事前に教科書、情報誌などで学習しておきましょう。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート(60%)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 栄養ケアマネジメントの仕組み(1)
2. 栄養ケアマネジメントの仕組み(2)
3. 高齢者が陥りやすい症状(1)脱水、低栄養
4. 高齢者が陥りやすい症状(2)褥瘡、摂食・嚥下障害
5. 高齢者ケアにおける食事のポイント
6. 栄養補助食品の種類と活用
7. 栄養ケアマネジメントの実際(1)施設
8. 栄養ケアマネジメントの実際(2)在宅
9. チームケアの基本となるコミュニケーション
- 10.品質管理
- 11.高齢者福祉施設におけるリスクマネジメント
- 12.施設サービス計画のつくりかた
- 13.高齢者施設における看取り介護
- 14.要介護高齢者に対する食事介助などの介護技術
- 15.要介護高齢者の食事形態(経管栄養・ソフト食など)

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論を学ぶ。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解する。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について学ぶ。

学習目標・到達目標

特定給食施設における給食経営管理の理論(組織管理・マネジメント、システム、食材料管理、栄養・食事管理、品質管理、衛生管理、危機管理 等)を説明できる。

準備学習

この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。2年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 給食の概念と特定給食施設
3. 給食経営管理の対象と組織
4. 給食の組織と人事・労務管理
5. 給食経営と会計・原価管理
6. 栄養管理と栄養教育
7. 食事計画と献立作成
8. 食材料管理
9. 生産・作業管理
10. 安全・衛生管理とHACCP
11. 施設・設備管理
12. 給食管理における評価とその方法
13. 各種給食運営の特徴
14. 給食の関係法規
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

給食管理/鈴木久乃、太田和枝、殿塚婦美子/第一出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

給食経営管理理論の理論を実践する。特にこの実習では生産管理を中心に学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、対象者のニーズに応じ、栄養給与目標に従った「食事」という製品を作る。HACCPの概念に基づいた作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報)を行う。

学習目標・到達目標

給与栄養目標量、喫食者の嗜好などをふまえ、条件に応じた給食の生産管理を実施できる。

準備学習

給食経営管理実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。給食経営管理理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、PDCAサイクルを実感しましょう。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス 給食システム計画 給食の理念と目標
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画 献立計画 食材・発注管理
4. 衛生安全管理 生産管理 作業工程管理
5. 品質管理 評価
6. 試作
7. 試運転
8. 第1回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
9. 第2回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
10. 第3回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
11. 第4回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
12. 第5回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
13. 第6回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
14. 総合評価
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

給食経営管理理論の理論を実践する。特にこの実習では生産管理を中心に学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、対象者のニーズに応じ、栄養給与目標に従った「食事」という製品を作る。HACCPの概念に基づいた作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報)を行う。

学習目標・到達目標

給与栄養目標量、喫食者の嗜好などをふまえ、条件に応じた給食の生産管理を実施できる。

準備学習

給食経営管理実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。給食経営管理理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、PDCAサイクルを実感しましょう。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班のファイル等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス 給食システム計画 給食の理念と目標
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画 献立計画 食材・発注管理
4. 衛生安全管理 生産管理 作業工程管理
5. 品質管理 評価
6. 試作
7. 試運転
8. 第1回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
9. 第2回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
10. 第3回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
11. 第4回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
12. 第5回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
13. 第6回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
14. 総合評価
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

対象者に応じたフードサービスという視点から、栄養アセスメントからはじまる栄養管理（栄養計画、食事計画）という給食経営・生産（会計、財務、品質評価等）における理論を学ぶ。また各種給食施設の特徴を学び、具体的に献立管理や生産についても理解を深め、給食経営管理実習に繋げる。また3年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標・到達目標

給食経営管理におけるマーケティング、外食産業・給食デリバリーサービスおよび各種給食施設の運営上の特徴と管理栄養士の役割を説明できる。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 給食経営管理の基礎1 給食管理の基本、人事管理、会計管理
3. 給食経営管理の基礎2 給食経営のアウトソーシング
4. 給食経営管理の基礎3 フードビジネス・外食経営の動向
5. 給食経営情報と活用1 給食におけるマーケティングと顧客情報管理
6. 給食経営情報と活用2 メニューのマーチャンダイジング
7. 給食経営情報と活用3 危機管理、給食のシステム化と施設・設備
8. 給食経営計画の展開とポイント1 栄養・食事計画と生産管理
9. 給食経営計画の展開とポイント2 提供サービス計画
10. 給食経営計画の展開とポイント3 品質管理と評価
11. 給食経営の実際1 各種給食施設の経営① 病院・学校
12. 給食経営の実際2 各種給食施設の経営② 福祉施設・事業所
13. 対象集団のアセスメント1
14. 対象集団のアセスメント2
15. まとめ（関連法規含む）
16. テスト

準備学習

この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。3年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。次期の実習に向けて目的を持って取り組みましょう。

評価方法その他

定期試験の得点(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

給食マネジメント論/鈴木久乃・太田和枝・定司哲夫編著/第一出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得する。さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる。

学習目標・到達目標

基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の種類の生産管理と品質管理を実施できる。

週 テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス 経営計画
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画 献立計画 食材・発注管理
4. 衛生安全管理 生産管理
5. 作業工程管理
6. 品質管理 評価活動
7. 試作
8. 第1回給食運営
9. 第2回給食運営
10. 第3回給食運営
11. 第4回給食運営
12. 第5回給食運営
13. 第6回給食運営
14. 総合評価 まとめ
15. ライフステージ別栄養・食事管理について
16. テスト

準備学習

健康フードマネジメント実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえたうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得する。さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる。

学習目標・到達目標

給食運営において、基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の種類の生産管理と品質管理を実施できる。

準備学習

健康フードマネジメント実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 実習ガイドランス 経営計画
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画 献立計画 食材・発注管理
4. 衛生安全管理 生産管理
5. 作業工程表管理
6. 品質管理 評価活動
7. 試作
8. 第1回給食運営
9. 第2回給食運営
10. 第3回給食運営
11. 第4回給食運営
12. 第5回給食運営
13. 第6回給食運営
14. 総合評価 まとめ
15. ライフステージ別栄養・食事管理について
16. テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食に関連する空間には、食品の加工品を調理した食物を販売するデパート、スーパーマーケット、コンビニエンスストアや街の商店、食べる場を提供する飲食店、調理し食べる家庭の台所や食卓などの空間、そして客をもてなす食事空間がある。これまで学んだ管理栄養士の視点を生かし、食・空間のプロデュースに関連する道具・器具や、消費者のニーズ、トレンド、また心地よく食べるための環境づくりについて、企画・演出、提案方法を課題を通して実践力を養う。校外見学に係る経費(実習材料費、交通費等)は、自己負担になります。

学習目標・到達目標

「食事」はくつろぎの場であり、人と人を結ぶ場である。満足し気持ちよく食事するために必要な心がまえを考え、料理と色・食器・道具・飾り花などと食文化とマナー等を実習を含めて理解し、心地よい食事の場を構築できるようにする。

準備学習

常に我が国の「食」関連の状況の把握、世界の様々な国の食生活の現状、食文化を、より多く広く知ろうと努力する心を持っていること。

評価方法その他

試験、レポート、プレゼンテーション、授業態度から総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイドランス 食事空間のコーディネートとは
2. 食事の文化 日本の食事の歴史について
3. 食事の文化 日本料理様式について
4. 外国の食事について
5. フードサービスマネジメントとは
6. 食事空間やキッチン環境
7. 食器、箸の様式、使い方
8. テーブルコーディネートとは
9. 食器とテーブルウェアのトレンド 校外見学①
10. 食器とテーブルウェアのトレンド 校外見学②
11. 実習 クリスマスリース作り
12. 盛り付け、器の使い方
13. 実習 ナフキンの折り方、テーブル花の飾り方
14. 料理の器の取り合わせ プレゼンテーション
15. アフタヌーンティーについて
16. 試験

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

様々な実践活動の場で組織の役割を学び、人々を取り巻く社会構造への認識を深め、将来の管理栄養士の立場からヒューマンサービスの意義を理解する。「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造し、乳幼児から高齢者に至る様々な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる管理栄養士を目指す。

学習目標・到達目標

実践活動の場での管理栄養士および栄養士の位置付け、組織、役割、業務、食を通じた取り組み、他職種との連携、情報発信や地域とのかかわり等を理解し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、プロデュース能力の向上を図る。

準備学習

管理栄養士および栄養士の実践活動の場にはどのような組織があるか、各自で事前学習をし理解しておきましょう。学外施設での実習に臨む姿勢として、実習先の施設についてしっかり把握しておくことが大切です。ただ単に、授業や学外施設での実習に受身で参加することはしないよう、各自で積極的に取り組むよう自覚を持って参加してください。実習態度も評価のひとつです。

評価方法その他

学内授業での出席状況、学外施設での実習出席状況、提出物状況、授業態度等から総合的に判断する。単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。ただし、学外施設でのオリエンテーションおよび学外施設での実習を欠席した場合は、他の要件を満たしていても単位を認めない。

週 テーマ・授業目標等

1. 実習の概要(前年度報告会)
2. 実習ガイダンス、実習計画
3. 事前学習(1)
4. 事前学習(2)
5. 事前学習(3)
6. 事前学習(4)
7. マナー講習
8. 学外施設での実習
9. 学外施設での実習
10. 学外施設での実習
11. 学外施設での実習
12. 学外施設での実習
13. 学外施設での実習
14. まとめ
15. 実習報告会

使用教科書名

特になし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

履修条件:以下の指定科目を3科目以上取得していること
食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習

特定給食施設において給食の運営を学ぶ。給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を習得する。具体的には小学校、事業所、高齢者福祉施設のいずれかにおいて給食の運営に関する管理技術、栄養・食事計画の立案能力、給食業務に関する情報処理能力等を習得する。

学習目標・到達目標

特定給食施設(事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所)において、給食運営を行うために必要な、食事計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を身につけることができる。

準備学習

実習先となる特定給食施設(事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所)の給食運営の特徴を捉えておきましょう。さらに学内での給食経営管理実習の流れを踏まえ「大量調理施設衛生管理マニュアル」を復習して実習に臨みましょう。

評価方法その他

実習施設での指導者の評価、実習報告書の内容を総合的に評価する。単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 事前学習
学内での事前課題学習
実習施設による事前集中講義
2. 実習内容
各施設の給食運営について
①施設の概要・特徴
②給食部門の組織、経営管理
③栄養管理・献立管理
④食材管理・生産管理・衛生管理
3. 事後学習
実習課題・報告書の提出
報告会

使用教科書名

NO. G020670

臨床栄養Ⅰ臨地実習

金澤 良枝

授業科目概要・教育目的（履修条件）

事前学習（学内）、病院での実習、実習後（学内）の学習を行う。

週 テーマ・授業目標等

（事前学習）
学内での事前学習
実習施設における事前集中講義
（2週間の実習）
実習施設での実習
（事後学習）
グループでの発表準備、まとめ、媒体作成

学習目標・到達目標

病院で実習を行う。病院のシステム、医療スタッフとしての関わり、ベットサイドへの訪問など、病院管理栄養士の業務や患者の栄養アセスメント、栄養マネジメントについて2週間の学外実習で学ぶ。

準備学習

評価方法その他

実習状態、レポート

使用教科書名

NO. G020680

臨床栄養Ⅱ臨地実習

金澤 良枝

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨床栄養Ⅰ臨地実習終了後の実習となる。

週 テーマ・授業目標等

（1週間の実習）
実習施設での実習

学習目標・到達目標

医療チームの一環として加わり、患者の栄養アセスメントとその判定、それに応じた栄養ケアプランの作成、治療の実施と評価のプロセスの詳細などについて1週間の実習で学ぶ。

準備学習

評価方法その他

実習状態、レポートなど

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること

学習目標・到達目標

1). 区市町村

目標

区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を知る。

健診、健康教育

・母子事業（健診、離乳食、母親学級、育児相談等）
・成人事業（特定健診、特定保健指導、健康調理教室、健康フォーラム、健康まつり、健康生活教室、健康相談等）
・地域の関係機関との連携体制づくり 等

2). 保健所

目標

保健所における地域診断の方法を理解するとともに、地域住民の健康の保持及び増進を目的として国及び地方公共団体が講ずる保健・医療・福祉施策について知る。

地域保健栄養対策、栄養指導業務・食ネットワークの形成、地域イベントの開催、国民健康・栄養調査 等

準備学習

管理栄養士としての社会に適應する相応しい実習態度を期待します。

週 テーマ・授業目標等

1. 市町村

- (1) 実態把握及び分析
- (2) 計画の策定及び事業の施策化
- (3) 評価
- (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組
- (5) 健康なまちづくり
- (6) 人材及び住民組織の育成
- (7) 連携体制づくり
- (8) 健康危機管理
- (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）

2. 保健所

- (1) 実態把握及び分析
- (2) 計画の策定及び事業の施策化
- (3) 評価
- (4) 専門的な栄養指導、食生活支援
- (5) 特定給食施設等への指導
- (6) 食生活に関する正しい知識の普及
- (7) 充実した食環境の整備
- (8) 市町村に対する技術的な支援
- (9) 人材育成
- (10) 連携体制づくり
- (11) 健康危機管理
- (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法、食品衛生法等）

等)

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(20%)、レポート(70%)などから総合的に評価する

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけて出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション
第2週 ～ 第14週 所属する研究課題
第15週 発表

学習目標・到達目標

4年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につける。

準備学習**評価方法その他****使用教科書名**

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨地実習前の事前学内ガイダンスと各班の実習テーマに関する事前準備を行う。病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、介護保健施設、保健所等実習先の指導者から講義を受け、社会における管理栄養士の役割や業務について理解する。

学習目標・到達目標

実習先の特徴や概要を把握し、実習に必要な基本的事項や管理栄養士の使命や役割について、理解し説明できる

週 テーマ・授業目標等

1. 総合ガイダンス: 臨地実習の概要説明 (2年次実施)
2. ガイダンス: 臨地実習に向けて全体ガイダンス
3. 外部講師による事前講義 (1): 給食運営 衛生管理全般
4. 外部講師による事前講義 (2): 給食運営 事業所
5. 外部講師による事前講義 (3): 給食運営 保育園
6. 外部講師による事前講義 (4): 給食運営 小学校
7. 外部講師による事前講義 (5): 給食運営 介護保険施設
8. 外部講師による事前講義 (6): 公衆栄養 保健所・保健センター
9. 外部講師による事前講義 (7): 臨床栄養 病院
10. 事前準備 (1): 給食運営臨地実習
11. 事前準備 (2): 給食運営臨地実習
12. 事前準備 (3): 公衆栄養臨地実習
13. 事前準備 (4): 公衆栄養臨地実習
14. 事前準備 (5): 臨床栄養臨地実習
15. 事前準備 (6): 臨床栄養臨地実習

準備学習

臨地実習前に実習先の指導者から職場での管理栄養士の役割や業務について学びます。実習先の特徴や概要を捉え、その中から自ら取り組むべき実習テーマを見出しましょう。

評価方法その他

平常点、レポートから総合的に評価する。
(平常点は授業への参加の状況・意欲から総合的に判断する)

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨床栄養、公衆栄養、給食経営管理について実習で体験した内容について情報交換を行い、テーマ別に学習する。実習先の指導者からの講義を通して管理栄養士の専門性についてさらに理解を深める。

学習目標・到達目標

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就職活動とマナー
3. 働くときに役立つ知識
4. 実習先指導者による講義
5. 実習先指導者による講義
6. 実習先指導者による講義
7. 実習先指導者による講義
8. 実習先指導者による講義
9. 実習先指導者による講義
10. 実習先指導者による講義
11. 事後学習
12. 報告会
13. 報告会
14. 報告会
15. 報告会
15. 報告会

準備学習

評価方法その他

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

世界の食文化について書かれた文献を読み、各国の食文化について関心を深めていく。

学習目標・到達目標

世界のさまざまな食文化について英語で書かれた文献を読みながら、それぞれの食文化についての知識を得るとともに英語の読解力の向上を目指す。

準備学習

授業で学んだことから世界の食文化について興味があることを積極的に調べてみましょう。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。（平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 Introduction
- 2 1 English Tea (1)
- 3 1 English Tea (2)
- 4 1 English Tea (3)
- 5 4 The Route of Coffee (1)
- 6 4 The Route of Coffee (2)
- 7 4 The Route of Coffee (3)
- 8 5 The Culture of the Knife and Fork (1)
- 9 5 The Culture of the Knife and Fork (2)
- 10 5 The Culture of the Knife and Fork (3)
- 11 6 The Culture of Chopsticks (1)
- 12 6 The Culture of Chopsticks (2)
- 13 6 The Culture of Chopsticks (3)
- 14 7 The Culture of Eating with the Fingers (1)
- 15 7 The Culture of Eating with the Fingers (2)
- 16 定期試験

使用教科書名

A Global Tour of Dietary Culture 世界の食文化 / 成美堂 / 2007年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

This intermediate course provides students practice in English conversational patterns of speaking and listening, with some emphasis on health and nutrition. Students will be provided with speaking models and practical time to speak with classmates.

学習目標・到達目標

The content of this course moves from simple introductions to more complex conversational topics. Students taking this course should gradually feel some ease when discussing topics concerning health and nutrition

準備学習

Students should prepare for this course by reviewing basic conversational patterns. Students should also prepare by reviewing English vocabulary. Please attend class with a willingness to speak English, and with a willingness to engage others in English conversation. Please bring an English-Japanese dictionary to class.

評価方法その他

Evaluation will be determined by attendance and attitude (40%) and by a final interview conversation with a partner. This final interview will show how comfortable students have become using everyday English patterns.

週 テーマ・授業目標等

- Week 1: How was your spring vacation?
- Week 2: Do you like studying? / What are your goals for this semester?
- Week 3: How often do you visit a doctor/dentist?
- Week 4: How often do you exercise? What kind of exercise do you like?
- Week 5: Do you take any vitamin supplements?
- Week 6: Do you try to eat a lot of fruits and vegetables?
- Week 7: Have you ever eaten out with friends in Yokohama?
- Week 8: When did you last go to a hair salon?
- Week 9: Do you work? How many hours per week do you work?
- Week 10: Do you like going out for a drink or eating out with friends?
- Week 11: Are you worried about anything at the moment?
- Week 12: Do you get along with your father?
- Week 13: Do you believe in fortune telling?
- Week 14: Have you ever seen the Milky Way Galaxy?
- Week 15: Final interview with a partner

使用教科書名

Say What You Like 3, by Matt Takahashi, Hot Cocoa Press

授業科目概要・教育目的（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学を中心に、過去問題、練習問題等を利用して出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|----------|------|
| 1. 基礎栄養 | 人体 |
| 2. 基礎栄養 | 人体 |
| 3. 基礎栄養 | 応用栄養 |
| 4. 基礎栄養 | 応用栄養 |
| 5. 基礎栄養 | 応用栄養 |
| 6. 基礎栄養 | 臨床栄養 |
| 7. 基礎栄養 | 臨床栄養 |
| 8. 生化学 | 人体 |
| 9. 生化学 | 人体 |
| 10. 食べ物 | 人体 |
| 11. 食べ物 | 人体 |
| 12. 食べ物 | 人体 |
| 13. 食べ物 | 人体 |
| 14. 食べ物 | 食べ物 |
| 15. 食べ物 | 食べ物 |
| 16. 定期試験 | |

準備学習

管理栄養士国家試験に向けて、各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりが重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、まずはポイント整理からすすめていくこと。

評価方法その他

定期試験（管理栄養士国家試験範囲より100%）

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）

授業科目概要・教育目的（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学を中心に、過去問題、練習問題等を利用して出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 基礎栄養 | 栄養教育 |
| 2. 基礎栄養 | 栄養教育 |
| 3. 食べ物(基礎食品) | 栄養教育 |
| 4. 食べ物(基礎食品) | 人体(生化学) |
| 5. 人体(生化学) | 人体(生化学) |
| 6. 人体(生化学) | 食べ物(調理) |
| 7. 人体(生化学) | 食べ物(調理) |
| 8. 人体(生化学) | 公衆栄養 |
| 9. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 10. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 11. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 12. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 13. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 14. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 15. 給食経営管理 | 公衆栄養 |
| 16. テスト | |

準備学習

管理栄養士国家試験に向けて、各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりが重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、まずはポイント整理からすすめていくこと。

評価方法その他

試験（管理栄養士国家試験範囲より100%）

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）

授業科目概要・教育目的（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論を中心に、過去問題、練習問題等を利用して出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 人体(解生・臨医) | 人体(解生・臨医) |
| 2. 人体(解生・臨医) | 人体(解生・臨医) |
| 3. 人体(解生・臨医) | 人体(解生・臨医) |
| 4. 人体(解生・臨医) | 人体(解生・臨医) |
| 5. 人体(解生・臨医) | 人体(解生・臨医) |
| 6. 応用栄養 | 人体(解生・臨医) |
| 7. 応用栄養 | 食べ物(食品衛生) |
| 8. 応用栄養 | 食べ物(食品衛生) |
| 9. 臨床栄養 | 食べ物(応用食品) |
| 10. 臨床栄養 | 食べ物(応用食品) |
| 11. 臨床栄養 | 社会・環境 |
| 12. 臨床栄養 | 社会・環境 |
| 13. 臨床栄養 | 社会・環境 |
| 14. 臨床栄養 | 社会・環境 |
| 15. 臨床栄養 | 社会・環境 |
| 16. テスト | |

準備学習

管理栄養士国家試験に向けて、各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりが重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、まずはポイント整理からすすめていくこと。

評価方法その他

試験(管理栄養士国家試験範囲より100%)

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説(メディックメディア)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学を中心に、過去問題、練習問題等を利用して出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 基礎栄養 | 人体(解生・臨医) |
| 2. 基礎栄養 | 人体(解生・臨医) |
| 3. 食べ物(基礎食品) | 人体(解生・臨医) |
| 4. 栄養教育 | 人体(解生・臨医) |
| 5. 栄養教育 | 人体(解生・臨医) |
| 6. 栄養教育 | 人体(解生・臨医) |
| 7. 栄養教育 | 人体(解生・臨医) |
| 8. 栄養教育 | 人体(解生・臨医) |
| 9. 栄養教育 | 応用栄養 |
| 10. 栄養教育 | 応用栄養 |
| 11. 公衆栄養 | 応用栄養 |
| 12. 公衆栄養 | 臨床栄養 |
| 13. 公衆栄養 | 臨床栄養 |
| 14. 公衆栄養 | 社会・環境 |
| 15. 公衆栄養 | 社会・環境 |
| 16. テスト | |

準備学習

管理栄養士国家試験に向けて、出題傾向を把握するとともに、知識を確かなものにするために、学習時間の確保に心掛けること。

評価方法その他

試験(100%)

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説(メディックメディア)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論を中心に、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験においての合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

週 テーマ・授業目標等

1	給食経営管理論	社会・環境と健康
2	給食経営管理論	社会・環境と健康
3	給食経営管理論	社会・環境と健康
4	給食経営管理論	社会・環境と健康
5	給食経営管理論	臨床栄養
6	給食経営管理論	臨床栄養
7	人体(解生・臨医)	臨床栄養
8	人体(解生・臨医)	臨床栄養
9	臨床栄養	食べ物(応用食品)
10	臨床栄養	食べ物(応用食品)
11	臨床栄養	食べ物(応用食品)
12	臨床栄養	食べ物(応用食品)
13	臨床栄養	食べ物(食品衛生)
14	社会・環境	食べ物(食品衛生)
15	社会・環境	食べ物(食品衛生)
16	試験	

準備学習

管理栄養士国家試験に向けて、出題傾向を把握するとともに、知識を確実なものにするために、学習時間の確保に心掛けること。

評価方法その他

試験(100%)

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説(メディックメディア)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

身体運動を行なったときには、その運動を遂行するのに最も適した状態となるように身体が変化する。また、ある種のトレーニングを長期間継続すると、その運動を行うのに適した身体に変化する。このような、一過性または継続的な運動の身体に対する影響を、生理学的観点から捉えていくのが本講義の目的である。特に健康との関りで、「運動処方」につながる話が中心となる。

学習目標・到達目標

運動を行ったとき身体に起こる変化を数字で理解する。健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動などについて違いを理解する。

週 テーマ・授業目標等

1	運動とからだ(骨・関節)	
2	運動とからだ(筋1) 筋収縮のエネルギー源	
3	運動とからだ(筋2) 筋力	
4	運動とからだ(神経)	
5	運動とからだ(呼吸循環1) 心拍数, 心拍出量, 換気量	
6	運動とからだ(呼吸循環2) 最大酸素摂取量	
7	運動とからだ(呼吸循環3) 乳酸, 無酸素性作業域	
8	中間試験	
9	エネルギー消費量	
10	身体作業能力	
11	運動と環境	
12	運動と栄養1 エネルギー摂取量	
13	運動と栄養2 糖質	
14	運動と栄養3 たんぱく質	
15	運動と栄養4 ミネラル, ドーピング	
16	期末試験	

準備学習

解剖生理学などの関連のある教科書を読み返しておいでください。

評価方法その他

中間試験(50%)と期末試験(50%)による

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

専門科目の導入にあたって、健康栄養学科でどのように学び、どのように過ごしていくのか、全体を理解する。また、管理栄養士が活躍する場や活躍する可能性のある場の見学を通して、管理栄養士の社会的役割を理解するとともに、気づいたこと、学んだことをグループ討議などで深め、4年間の学びの体系をイメージしながら、学びの意欲を高める。

学習目標・到達目標

実践現場の見学を通し、管理栄養士が活躍する様々な分野や社会的役割を学ぶことで、管理栄養士業務に対する理解を深め、管理栄養士を目指す気持ちを育む。

準備学習

実践現場の見学にあたり、社会において管理栄養士がどのような役割を果たしているのか、またどのような職場で活躍しているのか調べておきましょう。見学の際は、周囲に迷惑となる行為は慎み、節度ある態度を心がけてください。見学後は見学内容の発表と討議を行いますので、積極的な態度で臨んでください。

評価方法その他

平常点(60%)、課題(40%)による総合評価。成績評価は「P合格/D不合格」とする。
(平常点は、授業への出席状況・授業態度、討議への参加状況等を総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション/健康栄養学科のカリキュラムの特徴と4年間の学び
- 第2週 管理栄養士の役割と、そのための臨地実習(管理栄養士基礎演習・健康栄養プロデュース実習などを含む)の意義
- 第3週 講演(社会で活躍する管理栄養士を招いて)
- 第4週 管理栄養士に必要な基礎知識について(講義)1
- 第5週 管理栄養士に必要な基礎知識について(講義)2
- 第6週 管理栄養士に必要な基礎知識について(演習)1
- 第7週 管理栄養士に必要な基礎知識について(演習)2
- 第8週 実習先でのコミュニケーションの取り方、身だしなみ、マナー
- 第9週 実践現場の見学1/ソフトを用いた栄養価計算について1
- 第10週 実践現場の見学2/ソフトを用いた栄養価計算について2
- 第11週 発表のためのレポート作成
- 第12週 見学内容の発表と討議
- 第13週 食事様式セミナー実習 食事マナーの基本
- 第14週 基礎統計1(集中講義)
- 第15週 基礎統計2(集中講義)

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

有機化学はメタノールのような簡単な分子からビタミンB12や糖、タンパク質のような高分子まで多くの有機化合物を対象としている。有機化合物(炭素化合物)は日常生活に欠かせない食品や繊維・医薬品・動植物の生体内にみられ、それらの化合物を学ぶ有機化学は私たちの生活を化学的に説明し、生活方法の指針を示す学問の一つである。本講義は化学入門(基礎科目)の履修を前提に行う。有機化合物の基本構造や性質、有機化学反応について体系的に学び、糖やアミノ酸等の生体分子の構造や性質について説明できる基礎学力を身に付ける。

学習目標・到達目標

有機化学の観点から、生活や生化学等で必要とされる化学物質や生体分子の性質や反応性について説明できる基礎学力を身につける。

準備学習

「化学入門」を履修すること。
繰り返しテキストや配布プリントを見直して下さい。
有機化学の基本的な手法や考え方に慣れて来ると授業の内容がわかり易くなります。

評価方法その他

平常点(40%)および定期試験の得点(60%)により評価する。
平常点は授業への参加状況・演習・レポート等により総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 有機化合物の構造と結合、命名法
2. アルカン、アルケン
3. アルキン、芳香族化合物
4. アルコール、フェノール、エーテル
5. アルデヒド、ケトン
6. カルボン酸
7. カルボン酸誘導体
8. アミン
9. 演習(1)
10. 炭水化物
11. 立体化学
12. アミノ酸、タンパク質
13. 核酸
14. 脂質
15. 演習(2)
16. 定期試験

使用教科書名

マクマリー有機化学概説 第6版(伊東・児玉訳、東京化学同人)
(適宜、プリントも配布する。)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

胎児期から老年期までの、人の心の働きや行動の変化を通して、発達心理学の基本的な視点を学びます。この授業では、それぞれの時期でのエピソード(健康や食に関するものなど)を交えながら、人の成長に伴ってあらわれる変化を学びます。

学習目標・到達目標

発達心理学の基本的な知識を身につける。
心身の発達と、食や健康との関連について理解を深める。
授業で学んだ知識や考え方を基に、自分のこれまでの成長を振り返ったり、これからの生活を考えたりする機会を持つ。

準備学習

授業後は十分な復習をして、学習内容の定着をはかること。

評価方法その他

平常点50%、定期試験50%。(平常点は、授業への参加状況や小レポートの内容などで総合的に判断します)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンスー健康・食発達心理学で何を学ぶのかー
2. 遺伝と環境
3. 健康や食と発達段階の関連
4. 胎内期・乳児期からの親子関係
5. 幼児期の認知
6. 幼児期の社会性
7. 児童期の学習
8. 児童期の意欲
9. 青年期の自我形成
10. 親としての成長
11. 社会・文化の影響
12. 老年期の自己実現
13. 健康と病理
14. 健康心理アセスメント
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

食べる・育てる心理学(2010)
伊東暁子・竹内美香・鈴木晶夫 著
川島書店

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、受講生が自分のキャリアを考える切っ掛けをつかむ場としたい。キャリア(career)という言葉には、生涯・経歴・出世・成功・職業・生涯の仕事という意味があり、キャリアを考えるということは、自分の人生とは、どのように生きるのか、あるいは、何を職業として選択するのか、という自分の将来に関わる意思決定問題でもある。この課題へのアプローチの仕方と解決方法、判断基準について学ぶ。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. ガイダンス
2. キャリアとは何か
3. 働くことの意味
4. 働く場と働き方
5. キャリア形成の枠組みと基本的能力
6. "
7. "
8. ライフプランニング
9. "
10. 産業構造と企業
11. "
12. 雇用環境と就業構造
13. "
14. 業界研究の方法
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

準備学習**評価方法その他**

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50%。

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の「キャリアデザインA」を受けて、具体的にキャリアプランニングを描くことを目的とし、就職活動に向けた意識・考え方・行動の変容を図る。グループワークを多く取り入れて、受講生間の相互交流の機会を設ける。受講生には、自ら課題を見つけてその解決に取り組む積極的な姿勢を期待している。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. ガイダンス
2. 就活の戦略(強み・弱み分析)
3. "
4. 就活のマーケティング(自己分析と自己PR)
5. "
6. 働く20代の女性によるパネルディスカッション
7. 業界研究と企業の見方
8. "
9. 社会人基礎力の養成
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

準備学習

履修条件ではないが、前期の「キャリアデザインA」の受講が望ましい。

評価方法その他

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活デザイン学科の教育の入門編として、専門科目を学ぶための基礎となる考え方や手法を、体験的に学習する。「まねる」をキーワードとして複数の課題を設定する。また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考える。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

準備学習

第1回目の授業で、この授業の「目的・意義」について説明するので、理解した上で、意欲的な受講・学習を期待する。見学については、事前に資料を収集するなどして理解を深めておくこと。また、卒業生との懇談については、卒業生への質問事項を用意して授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方と日程の説明
2. 各課題の内容と目的の説明
3. 江戸東京たてもの園見学
4. 課題「まねる」1
5. 課題「まねる」2
6. 課題「まねる」3
7. 課題「まねる」4
8. 課題「まねる」5
9. 卒業生との懇談会1
10. 課題についての発表と講評

- ・授業は集中講義の形式で行う。
- ・課題「まねる」の授業は1回につき180分
- ・授業内容と日程の詳細については初回授業で告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

多様な専門分野の教員による「生活デザイン学科で学ぶこと」というテーマの講義を通して、学生自身が「生活デザイン学科でなにを学ぶのか」「生活デザイン学科で学ぶ意味はなにか」といったことを考える機会を持つ。また、卒業生との懇談会も実施する。多様な事例を見聞することにより、生活デザイン学科で学ぶ「目的・意義」を再認識することが望まれる。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶ「目的・意義」を再認識できること。

準備学習

生活デザイン学科で学ぶ「目的・意義」をあらかじめ確認した上で授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業内容の解説と授業日程の説明
 2. 生活デザイン学科で学ぶこと①
 3. 生活デザイン学科で学ぶこと②
 4. 生活デザイン学科で学ぶこと③
 5. 生活デザイン学科で学ぶこと④
 6. 生活デザイン学科で学ぶこと⑤
 7. 生活デザイン学科で学ぶこと⑥
 8. 生活デザイン学科で学ぶこと⑦
 9. 生活デザイン学科で学ぶこと⑧
 10. 生活デザイン学科で学ぶこと⑨
 11. 生活デザイン学科で学ぶこと⑩
 12. 生活デザイン学科で学ぶこと⑪
 13. 卒業生との懇談会①
 14. 卒業生との懇談会②
 15. まとめとレポート作成
- ・授業日程の詳細については初回授業で告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標・到達目標

衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。

準備学習

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

評価方法その他

- 1)研究要旨の合否判定
- 2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
- 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

週 テーマ・授業目標等

1. 指導教員による個別指導(1)
2. 指導教員による個別指導(2)
3. 指導教員による個別指導(3)
4. 指導教員による個別指導(4)
5. 指導教員による個別指導(5)
6. 指導教員による個別指導(6)
7. 指導教員による個別指導(7)
8. 指導教員による個別指導(8)
9. 指導教員による個別指導(9)
10. 指導教員による個別指導(10)
11. 指導教員による個別指導(11)
12. 指導教員による個別指導(12)
13. 発表要旨の作成
14. プレゼン作品・資料の作成
15. 分野別発表会におけるプレゼン

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標・到達目標

衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。

準備学習

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

評価方法その他

- 1)研究要旨の合否判定
- 2)発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
- 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

週 テーマ・授業目標等

1. 指導教員による個別指導(1)
2. 指導教員による個別指導(2)
3. 指導教員による個別指導(3)
4. 指導教員による個別指導(4)
5. 指導教員による個別指導(5)
6. 指導教員による個別指導(6)
7. 指導教員による個別指導(7)
8. 指導教員による個別指導(8)
9. 指導教員による個別指導(9)
10. 指導教員による個別指導(10)
11. 指導教員による個別指導(11)
12. 指導教員による個別指導(12)
13. 発表要旨の作成
14. プレゼン作品・資料の作成
15. 分野別発表会におけるプレゼン

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちの生活に欠くことのできない被服を科学的に考えるためには、被服材料の性能を正しく理解することが必要である。この講義では、原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物の構造と代表的な衣料用繊維の性質について解説し、被服材料の物理・化学的性質と性能について理解する。

学習目標・到達目標

被服材料に用いられる代表的な衣料用繊維の構造や特性について理解する。更に、布帛は糸により構成され、糸は繊維の集合体であることを理解し、被服の性能はそれらの構造と性質が複合して発現していることを学び、被服を科学的に捉える思考を身につける。

準備学習

理解しようとする気持ちを持って受講し、解らないことは積極的に質問して下さい。

評価方法その他

定期試験90%・平常点10%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. テキスタイル材料学って何？
2. 被服着用の目的と被服の消費性能
3. 繊維について
4. 糸について
5. 織物の種類と構造(1)
6. 織物の種類と構造(2)
7. 編物の種類と構造
8. 繊維の分類と特徴(1)
9. 繊維の分類と特徴(2)
10. 繊維の分類と特徴(3)
11. 繊維の分類と特徴(4)
12. 繊維の分類と特徴(5)
13. 被服材料の性能(1)
14. 被服材料の性能(2)
15. まとめ
16. 筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

繊維や被服材料の構造と性質を理解するためには、衣服を構成している基本物質である高分子についての理解が必要である。この授業では求められる繊維の性質と、高分子材料、糸、布の構造との相関関係についての実験をできる限り少人数で行い、その理解を深める。

学習目標・到達目標

高分子材料実験は実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、その元となる繊維を形成している高分子化合物への理解を深めることを目標とする。
到達目標：主要な天然繊維・合成繊維布帛の基本となるいくつかの性質の評価手段を説明できる。

準備学習

授業の始めに注意事項を含めた説明をします。理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。
テキスタイル材料学、衣繊維学の講義の中で出て来た布帛の諸性質について実験してみると、より一層イメージが湧き、理解出来ると思います。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週 テーマ・授業目標等

1. 実験プログラムの説明
2. ビニロンの紡糸
3. ビニロンのアセタール化
4. 吸湿性試験 (1)
5. 吸湿性試験 (2)
6. 吸湿性試験 (3)
7. 保温性試験
8. 吸水性試験
9. 防しわ性試験
10. 破裂特性
11. 曲げ特性 ～カンチレバー法～
12. 曲げ特性 ～ハートループ法～
13. 引き裂き特性 ～シングルタング法～
14. 引き裂き特性 ～ベンジウム法～
15. 総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣料用繊維として用いられている各種繊維の分子構造や物理・化学的性質を解説する。更に、高感性繊維、高機能性繊維について、できるだけ多くのサンプルを手に取りながら、新しい繊維とその技術を説明し、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか等について解説する。

学習目標・到達目標

繊維材料の構造や性質について考察するためには、その基本物質である高分子についての理解が必要である。各種繊維を分子論的、微細構造的に捉え、繊維集合体として理解する。また、高感性、高機能性繊維の発想の原点、及び製造技術進展の背景を理解し、快適な衣服についての理解を深めることを目標とする。

準備学習

理解しようとする気持ちを持って受講し、解らないことは積極的に質問して下さい。
人間の英知・巧みさに触れて欲しい。

評価方法その他

定期試験 90% 平常点 10% (定期試験90%・平常点10% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する))

週 テーマ・授業目標等

1. 繊維の概要
2. 繊維高分子の構造
3. 繊維高分子の構造と性質
4. セルロース繊維
5. タンパク質繊維(1)
6. タンパク質繊維(2)
7. 化学繊維の製造
8. 再生繊維
9. 合成繊維(1)
10. 合成繊維(2)
11. 合成繊維(3)
12. 高感性・高機能性繊維(1)
13. 高感性・高機能性繊維(2)
14. 高感性・高機能性繊維(3)
15. まとめ
16. 筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣・食の実験分野で使用頻度の高い赤外・紫外可視吸収スペクトル、測色等の光学的測定機器、示差熱分析、示差走査熱量分析等の熱的測定機器および化合物の分離・精製に用いられるクロマトグラフィー等について、その原理・試料調整・測定法等の基礎を学び、解析法の基礎演習も行う。

学習目標・到達目標

主に衣・食の分野で取り扱う素材の性質を知るための代表的手法である光学的測定、熱的測定および化合物の分離・精製に用いられるクロマトグラフィー等の測定原理と得られる情報・意味を理解出来ることを目標とする。

準備学習

理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。初めて聞くような専門用語が多少出て来ますが、拒否反応せず、判らなかつたら質問して下さい。(花田)

評価方法その他

各小テストの総計(90%)と平常点(10%)の総合評価(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 講義概略の説明(花田)
2. 赤外吸収スペクトルの基礎(花田)
3. 赤外吸収スペクトル測定と解析(花田)
4. 紫外可視吸収スペクトルの基礎(花田)
5. 紫外可視吸収スペクトルの解析(花田)
6. 熱分析の基礎(花田)
7. 熱分析解析(花田)
8. 測色の基礎(花田)
9. 測色方法(花田)
10. 測色結果の解析・小テスト(花田)
11. クロマトグラフィーの基礎(奈良)
12. ガスクロマトグラフィー(1)(奈良)
13. ガスクロマトグラフィー(2)(奈良)
14. 液体クロマトグラフィー(1)(奈良)
15. 液体クロマトグラフィー(2)・小テスト(奈良)

使用教科書名

適宜プリントを配布する(花田)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

快適な衣生活を送るため、消費者側に立って、繊維製品試験の原理と方法、得られる測定結果と評価について説明する。

学習目標・到達目標

1級衣料管理士の資格科目として必要な知識を得ることを目的とし、JIS試験法を中心として、品質管理や苦情処理のための試験方法、結果のまとめ方が理解できることを目標とする。

準備学習

1級衣料管理士の資格取得に必要な科目です。講義形式で試験方法を説明することはなかなか難しいと思っています。出来る限り分かり易く説明できるよう努力します。

評価方法その他

レポートを50%、出席状況を主にした平常点を50%とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 繊維製品試験法の目的と意義
2. 内外の繊維製品試験規格
3. 試験条件とサンプリング法
4. 糸の試験 糸の種類と構造
5. 糸の試験 糸の各種性能
6. 布(織物、編物、不織布の試験)布の種類と構造
7. 布の消費性能 形態安定性、外観特性
8. 布の消費性能 着心地特性
9. 布の消費性能 耐久性
10. 製品の試験 縫製部の試験(縫目強さ、滑脱抵抗力、その他の縫製欠点)
11. 製品の試験 接着新と布地(はく離強さ、接着部の外観)
12. 衣服の外観保持性 着用試験
13. 衣服の外観保持性 ドライクリーニング・洗濯
14. 衣服の外観保持性 染色堅ろう度
15. 苦情処理 クレーム事例
16. 試験(レポート提出)

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人体保護、体温保持や個人の表現に不可欠な被服について、初期の性能を変化させないために必要な洗濯、しみ抜き、漂白、加工、仕上げ、保管について、その理論と方法を科学する立場で学び、環境を考慮した最終的な廃棄に至るまでを学ぶ。

学習目標・到達目標

衣類の洗濯、手入れについて科学的な視点から考え理解し、快適な衣生活を送るため、環境に配慮した取り扱い方法を学び、洗濯の必要性、洗浄理論、洗濯方法、保管、廃棄方法、洗濯と環境との関係を理解する事を目標とする。

準備学習

本科目の中心は洗濯です。各自が自分の生活の中で、洗濯(洗濯機洗い、手洗い、柔軟仕上げ、脱水時間、干す方法、アイロン仕上げ)を体験してください。また、洗剤、漂白剤、柔軟剤、糊料などにはどのようなものがあるのか、ご自宅ではどのようなものを使っているのか、興味を持って調べてください。

評価方法その他

本学既定の出席状況を満たしていること。
筆記試験(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 洗濯の歴史
2. 被服の汚れ
3. 被服の洗浄(洗濯用水と洗剤)
4. 被服の洗浄(洗濯条件)
5. 被服の洗浄(家庭洗濯)
6. 被服の洗浄(家庭洗濯と家庭用洗濯用機器)
7. 被服の洗浄(商業洗濯)
8. 被服の洗浄(洗濯による損傷・劣化とその防止法)
9. 被服の洗浄(家庭洗濯の問題点)
10. 洗浄試験と評価
11. 洗浄メカニズム
12. しみ抜き
13. 漂白と増白
14. 仕上げ
15. 被服の保管、被服整理と環境
16. 試験

使用教科書名

被服管理学／増子 他／朝倉書店

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣料用洗剤の洗浄力に関して、起泡性、浸透力、界面張力等を測定し臨界ミセル濃度を求める。また、人工汚染布を用いた洗浄力試験を行い、市販洗剤の性能を評価すると共に、洗浄に関する要因とそれらの相関性などを考察する。これらの実験を通じ、生活に関わる身近な問題を科学的に観察する方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

被服の洗浄に関わる現象を理解し、有効な洗濯および取扱いが出来ることを目標にする。また、衣管理学の中の洗濯、しみ抜き、漂白、増白などについて実践的に学び、適切で効果的な方法と条件を学び、実生活で活用できる能力を身につける。

準備学習

生活に欠かせない洗濯について、洗濯機と水と洗剤がどのようなメカニズムで汚れを落としているのか、実験によって理解を深めて下さい。ひとつひとつの実験を注意深く丁寧にを行い、得られた結果から分かる事は何か。また、各項目の結果を総合的に考まともてみると、洗浄条件と洗浄力の色々な関係が見えてきます。

評価方法その他

本学規定の出席状況をみたとすこと。
レポート(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス 諸注意
2. 洗剤水溶液の性能1 溶解性・pHの測定
3. 洗剤水溶液の性能2 起泡力の測定
4. 洗剤水溶液の性能3 浸透力の測定
5. 洗剤水溶液の性能4 浸透力の測定
6. 洗剤水溶液の性能5 水の硬度測定
7. 洗剤水溶液の性能6 水の硬度測定
8. 洗剤水溶液の性能7 比界面張力の測定
9. 洗剤水溶液の性能8 比界面張力の測定
10. 洗浄力試験1 洗浄力の測定1
11. 洗浄力試験2 洗浄力の測定
12. 洗浄力試験3 洗浄力の測定
13. 家庭洗濯1 漂白剤の効果
14. 家庭洗濯2 漂白剤の効果
15. 家庭洗濯3 漂白剤の効果
16. レポート提出締切

使用教科書名

適宜プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する、いわゆる境界領域の科学である。この講義では、まず染色の一般概論を述べ、次いで着色理論、染色各論などを、できるだけ平易に解説する。

学習目標・到達目標

繊維製品に施されている染色の概略。すなわち染料、染料の用法、染色方法等の基礎的な知識を身につけると共に、染色にかかわる繊維・染料間に働く親和力の理解を深めることを目標とする。
到達目標:染料の種類と各種繊維への適用を説明できる。

準備学習

理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。酸素、水素、炭素、窒素位の化学記号は出てきますが、過剰反応しない様。判らないことは積極的に質問して下さい。

評価方法その他

定期試験90%・平常点10%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1光と色
- 2光源色と物体色
- 3混色と等色
- 4表色
- 5天然染料の概説
- 6合成染料の概説
- 7染料の分類
- 8セルロース繊維の染色(1)
- 9セルロース繊維の染色(2)
- 10タンパク繊維の染色
- 11合成繊維の染色
- 12染料-繊維間の結合(1)
- 13染料-繊維間の結合(2)
- 14染着平衡
- 15染着速度
- 16筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

染色学の講義で習得した知識をもとに、染色の基礎を実際に体得する。
簡単な染料を合成し、その染料を用いての染色や各種染料・繊維間での染色条件等を検討し、染着の機構を理解する。

学習目標・到達目標

染料、染色に関する基礎的な実験を行い、講義で学んだ内容を実体験に基づいて理解することを目標とする。
到達目標：与えられた繊維に適用出来る染料の選択とその手法を例示できる。

準備学習

授業の始めに注意事項を含めた説明をします。危険な薬品を使う場合も有るので、十分注意し、理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。酸素、水素、炭素、窒素位の化学記号は出てきますが、過剰反応しない様。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週 テーマ・授業目標等

1. 実験概略の説明
2. 酸性染料Orange・の合成 (1)
3. 酸性染料Orange・の合成 (2)
4. 酸性染料Orange・の合成 (3)
5. Orange・による羊毛の染色
6. ナフトール染料による木綿の染色 (1)
7. ナフトール染料による木綿の染色 (2)
8. アクリル繊維の染色 (1)
9. アクリル繊維の染色 (2)
10. 木綿の建て染め染料による染色 (1)
11. 木綿の建て染め染料による染色 (2)
12. 各種染料による染色 (1)
13. 各種染料による染色 (2)
14. 各種染料による染色 (3)
15. 総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

我が国の代表的な伝統工芸染色技法を解説する。教材としてビデオおよび標本を使用する。

学習目標・到達目標

我が国の代表的な伝統工芸染色技法を知ることにより、先人の知恵と努力、技法の特徴、衰退の原因、今後の在り方などについて理解し考察する力を養う。また優れた伝統工芸染色を存続させるために各自が出来ることを考える。

準備学習

本科目の履修により工芸染色実習・演習の理解が深まります。また、日本の染色技術の素晴らしさや、きものが高価である理由が理解できます。この科目の履修と工芸染色実習Aおよび工芸染色実習Bを合わせて履修することで、工芸染色についてより一層理解「工芸染色」を身近に感じる事が出来るでしょう。

評価方法その他

本学規定の出席状況を満たす事
授業中のレポートを50%、定期試験の得点を50%とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 序説
2. 染色の分類
3. 染色の歴史
4. 三纈の技法
5. 絞り染めの技法
6. 有松(鳴海)絞り等の技法
7. 藍染め等
8. 糊防染の技法と特色
9. 友禅染の発祥
10. 京友禅
11. 加賀友禅・東京友禅等
12. 型染めの技法
13. 型染めの分類と特徴
14. 江戸小紋等
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

テキストは用いず、ビデオ鑑賞や実物標本を用いる。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

染色の基礎を踏まえ工芸的手法で染色品を制作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解する。

授業を通し、小さな努力の積み重ねの大切さ、自由にならない作品制作のもどかしさとそれに対応できる柔軟な発想と応用力、前向きな姿勢、一段階ごとの出来上がりを詳細に評価し、一喜一憂するのではなく、それを乗り越えて成し遂げることの大切さ体験する。
作り上げた達成感と喜びを味わい、自分が丹精込めて創り出した作品をいっつくしむ心を養う。

学習目標・到達目標

わが国の代表的な伝統染色技法である絞り染め、ろうけつ染め、友禅染めの小作品制作を体験し、染色技法の特徴を理解し、初歩技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。
化学染料と天然染料の染色方法と発色の違いと理解できる。技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。

準備学習

たとえ全員が同じ図案を使ったとしても、各自の個性が作品に反映され、一つ一つ味わいの異なる、世界でたった一つの手づくり作品が出来ます。技術の稚拙やセンスの優劣には無関係の、味わい深い作品をつくってみませんか。出来上がったときの達成感と感動を体験して下さい。

材料費として8,000円程度を徴収します。

評価方法その他

本学既定の出席状況を満たしていること。
作品制作およびレポート(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 学習上の心構えと諸注意
2. 染色の基礎 衣料用繊維の染色
3. 染色の基礎 各種染色技法における染色技法の特徴と制作工程
4. 絞り染め 図案の考案と下絵描き
5. 絞り染め 各種絞り技法
6. 絞り染め 浸染(天然染料での染色方法を含む)
7. ろうけつ染め 図案の考案と下絵描き
8. ろうけつ染め ろう描き
9. ろうけつ染め 染色
10. 友禅染め 図案の考案と下絵描き
11. 友禅染め 糸目糊置き
12. 友禅染め 糸目糊置きと地入れ
13. 友禅染め 色挿しと蒸し
14. 友禅染め 糊伏せと地入れ
15. 友禅染め 地染め
16. 友禅染め 蒸し、水元、仕上げ

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレルの設計製作に関して、人体構造や人体の形態、人体とアパレル、デザインとアパレルパターンとの関係、素材、副資材、縫製技法などを理解し、適正な評価ができる設計の基本を学ぶ。

学習目標・到達目標

着衣基体としての人体および人体形態の把握法、人体を包むアパレル(衣服)の形状、具体化するための素材やパターン、縫製技法などの要点を理解する。

準備学習

事前に授業準備をしておくこと。
身頃原型は、基本的な体型を最も表すものです。各自に適合した身頃原型を作成しますので大切に保管してください。今後の授業に使用します。

評価方法その他

平常点30%(授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する)レポート提出40%、提出物(製図・原型など)30%

週 テーマ・授業目標等

1. アパレル設計と生産、人体の構造1(人体の構造と計測)
2. 人体の構造2(衣料サイズシステム)
3. 身頃原型の製作1(後・前身頃の製図)
4. 身頃原型の製作2(ダーツ計算、トレース)
5. 身頃原型の製作3(トワル裁断、縫製)
6. 身頃原型の製作4(縫製、試着補正点検、パターン修正)
7. 身頃原型の製作5(試着補正点検、パターン修正)
8. デザインとパターンへの展開1(胸ぐせ処理、衿のバリエーション)
9. デザインとパターンへの展開2(スカート・袖のバリエーション)
10. 材料の選定(主素材)
11. 特別授業(副資材)
12. アパレルの縫製(布地の立体化技法、縫い糸と針)
13. ファッションデザイン画1(素材表現、下描き)
14. ファッションデザイン画2(点検、彩色)
15. ファッションデザイン画3(彩色、仕上げ)

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

上半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて基本的なブラウスの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズの衿付き長袖ブラウスの制作を通して、上衣の基本的な制作技術を習得する。

履修条件:「服飾造形実習・演習A」の履修をしていること

学習目標・到達目標

衿付き長袖ブラウスの制作をする。ブラウス制作のための人体計測法を学び、計測値を基に自信のサイズの作品を完成させ、着装発表をする。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、テキスト配布、各種ブラウスの説明、人体計測、製図
2. ブラウス製図
3. 布裁断、印付け
4. 印付け、仮縫い(ダーツ、脇、肩、見返し、衿、袖)
5. 仮縫い(袖作り)
6. 仮縫い(袖付)
7. 補正、本縫い(ダーツ、肩、脇)、接着芯貼り(衿、カフス、見返し)
8. 衿作り
9. 衿付け
10. 袖作り(見返し)
11. 袖作り(カフス)
12. 袖付け
13. ボタンホール(練習)、
14. ボタンホール仕上げ、ボタン付け、仕上げアイロン
15. 着装発表、レポート提出

準備学習

授業での遅れは次回までに取り戻しておくこと

評価方法その他

平常点40%、作品30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

使用教科書名

制作したテキスト使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

裏付2枚袖のテーラードジャケットを課題として、素材の種類、ジャケットの構成とシルエット、パターンメイキング、芯地・裏地の扱い、プレスの仕方、ポケットの種類と縫製等を学んで、立体的な形態を造形するための総合的な知識と制作技術を習得する。

学習目標・到達目標

表地、裏地、芯などから構成された衣服のパターンメイキング、素材、縫製技術などを学び、デザイン、製作への応用力を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. ジャケットのシルエット、パターンメイキング1(身頃)、生地と副資材準備
2. パターンメイキング2(衿、袖)、生地と副資材標本作成
3. パターンのトレースとパターン展開
4. 表生地と芯地の裁断、芯地の扱い、しるしつけ
5. 仮縫い合わせ
6. 試着点検、補正とパターン修正、裏地・見返し・衿裁断
7. 袖の縫製1(表袖)
8. 袖の縫製2(裏袖と表裏合わせ)、ポケットの構造と部分縫い練習
9. 表身頃・衿の縫製
10. ポケットの縫製
11. 裏身頃・衿の縫製
12. 表身頃と裏身頃の合わせ
13. 袖付け、中仮縫い点検、ボタンホール(ミシン)
14. 裏地の処理
15. ボタンホール(ミシン)、仕上げ
16. 発表、提出

準備学習

服飾造形実習A、Bを履修してください。
ジャケットの構造、パターンメイキング、縫製知識と技術を学ぶことで、あらゆる日常の衣服をデザイン・製作できる応用力が身に付きます。
ジャケットは作業工程数が多いので、次の授業までの準備、宿題を必ず行ってください。

評価方法その他

平常点40%(授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する)作品50%、部分縫い10%

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

基本的なアパレルCADの操作も学ぶ。また、工業用パターンメイキング、縫製仕様書に沿った作業をしながら実際の製品生産の実習をし、縫製作業工程分析表を作成する。最終的に商品を販売する。

また、海外で活躍中のデザイナーによる創作からパターンメイキング、完成までの特別授業がある。

学習目標・到達目標

品質の良いアパレル製品を効率的に工業生産するために、科学性と合理性を生産の実習を通して学ぶ。

準備学習

グループ活動では、調査してきた情報やこれまでの経験等の意見交換をし、積極的に参加することを期待する

評価方法その他

平常点70%、レポート30%

平常点は授業への参加状況に加えて、プロジェクトの企画作業の積極的な取り組み方等、総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、プロジェクトメンバー決定、アパレルCADの説明
2. 工業用パターンメイキング、プロジェクト、CADの実習(直線)
3. 縫製仕様書、グレーディング、CADの実習(四角形、移動、コピーなど)
4. 縫製作業工程分析表、プロジェクト、WebでデザイナーのTRパターン法を学ぶ
5. 特別授業(デザイナーによるワークショップ)
6. プロジェクト(試作品製作)、CADの実習(曲線、ノード、ノブなど)
7. プロジェクト中間発表、CAD実習(パーツ化、縫い代、保存など)
8. プロジェクト製品製作開始(アイロン、裁断)、CAD実習
9. プロジェクト(裁断)
10. プロジェクト(縫製、アイロン)
11. プロジェクト(縫製、アイロン)
12. プロジェクト(縫製、アイロン)、縫製作業工程分析表作成、CADによる製図
13. プロジェクト(仕上げ、検品)、縫製作業工程分析表の作成、KVA祭準備
14. プロジェクト(値札付け)、縫製作業工程分析表完成、プレゼンの準備
15. プロジェクト、パネル製作、プレゼンテーション、レポート提出

使用教科書名

製作したテキスト配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレルにおけるマーケティング、企画、設計、商品、販売、小売企業などを具体的な事例を交えて学び、ファッションビジネスを理解する。

また、現状のファッションビジネスを把握し、今後のこの業界の将来について考えや意見まとめて発表する。

学習目標・到達目標

ファッションビジネスの仕組みを把握し、アパレル企業における企画から商品化までのプロセスを理解できる。

週 テーマ・授業目標等

1. ファッションビジネスとその現状、ファッション情報収集
2. ファッションビジネスの仕組み
3. アパレルとマーケティング
4. ターゲット設定、商品企画・設計、企業の商品企画事例
5. ターゲット分析、調査方法、体操着の調査事例
体操着のデザイン事例(コンセプト、色彩、素材、デザイン画設定)
6. ファッション商品(婦人服)
7. ファッション商品(和服)
8. ファッション販売
9. ファッション小売企業の組織と職務
10. ファッション小売企業と経営戦略
11. 発表内容の質問、相談
12. ファッションビジネスの課題と展望
13. ファッション商品に関する情報のまとめ
14. ファッション商品に関する情報の発表準備
15. 発表

準備学習

ファッションに関する情報収集をします。

最後の授業でパワーポイントを使用して発表をさせていただきますので、テーマ、資料の検索、内容把握、発表準備などを計画的に進めてください。

特に、発表を重視しますので、内容のわかりやすさ、適切な図表、声の大きさなどを各自練習してください。

評価方法その他

平常点30%(授業への参加状況などで総合的に判断する)プレゼンテーション70%

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

浴衣の着装に必要な半幅帯、肌襦袢、ペティコートなどを製作する。半幅帯は各自の浴衣にコーディネートした色、柄、素材などで製作し、新しい帯結びを考える。また、衣服の配色を考えるにあたり、パーソナルカラーの専門講師による特別授業や基礎のミシン縫いでは、コンシールファスナー付けと裏地の始末などを学ぶ。

学習目標・到達目標

浴衣の特徴や着こなしを把握し、自身の生活の場面において着装を楽しむことができる。

準備学習

日本の文化としての浴衣を、国際的な活動で活かせるように知識と実践的な着装を身に付けておきましょう。

評価方法その他

平常点20%（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）、作品40%、プレゼンテーション40%

週 テーマ・授業目標等

1. 基礎のミシン縫い1（基礎縫い準備、縫い代始末）
2. 基礎のミシン縫い2（コンシールファスナー、縫い代始末）
3. 基礎のミシン縫い3（裏地の扱い）
4. 基礎のミシン縫い4（巻きロック応用）
5. ペティコート1（採寸、裁断、印つけ、縫製）
6. ペティコート2（縫製、仕上げ）
7. 肌襦袢1（採寸、裁断、印つけ、袖の縫製）
8. 肌襦袢2（身頃の縫製）
9. 肌襦袢3（衿つけ）
10. 半幅帯1（積もり、芯、裁断）
9. 特別授業
10. 肌襦袢4（仕上げ）
11. 半幅帯2（印つけ、表地の縫製）
12. 半幅帯3（芯入れ、しつけ）
13. 半幅帯4（引き返し口のとじ、仕上げ、帯結びの検討）
14. 発表準備
15. 浴衣と帯のコーディネートおよび着装体験のプレゼンテーション（着装と評価）

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

テキスタイルは衣服やインテリアの素材として多く用いられているが使用材料や制作技法などにより様々に変化する。本講では、手織り機を使用して織物制作を行い、基本的知識を習得すると共に繊維素材・織組織・織密度の違いによる表現効果やテクスチャーの差、また色彩効果などについての理解を深める。応用作品では目的や用途を考慮した設計をし、材料を各自で選択して制作を行う。さらに、プリントデザインやファッションスタイルに適合したテキスタイル素材の選び方を学ぶ。また、簡単な刺繍の基礎練習も行う。

学習目標・到達目標

織物の組織、糸と織密度との関係、風合いなどについて理解を深める。テキスタイルのデザイン方法や利用方法を学習する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、編織物について コラージュの制作
2. 織物についての概要説明、三原組織、繊維素材、布地の風合い、整経
3. 糸密度と糸の太さと織物の関係、綜統通し、箆通し
4. 糸の種類・組織と風合いとの関係、機へセット
5. A. テキスタイルデザインの企画 B. 織り
6. A. テキスタイルデザインの演習 B. 織り
7. A. テキスタイルデザインの演習 B. 織り
8. A. 織り B. テキスタイルデザインの企画
9. A. 織り B. テキスタイルデザインの演習
10. A. 織り B. テキスタイルデザインの演習
11. 仕上げ、応用作品企画
12. 応用作品制作
13. 応用作品制作
14. 刺繍基礎作品制作
15. まとめ
16. 試験

5週目から10週目までは2グループに分かれ同じ内容を2交代で行う。

準備学習

織りの実習では織機を2人で1台使用するため欠席をするとペアの相手に迷惑がかかるため、遅刻欠席の無いようにしてほしい。材料代として5000円程度

評価方法その他

提出物（制作レポートを添付）60% 試験20% 平常点（授業への取り組み）20%

使用教科書名

資料を配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

繊維製品の試験、検査、企画、生産、流通、販売などの関連企業や、消費者行政機関などの該当部門において、45時間(1週間)以上の実習を行い、職場の現状を体得する。

週 テーマ・授業目標等

受入先の実態に応じて以下の内容で実習する。

- A. 企画・設計業務
- B. 流通・販売業務
- C. 品質管理・品質保証業務
- D. 試験・検査業務
- E. 消費者対応・相談業務
- F. その他

学習目標・到達目標

TAの役割を理解し、自ら問題意識を持ち、進んでそれに取り組み解決する能力を養うことを目標とする。
卒業後、テキスタイルアドバイザーとして関連の実務につくために、在学中に実習を通して現場の状況と実務を体得することができる。

準備学習

実習先が決まりましたら、そこの仕事内容を調べてください。
また、挨拶など一般的な礼儀、履歴書の書き方、お礼状の書き方についても身につけておいてください。

評価方法その他

平常点30% (実習、説明会、報告会の参加状況などを総合的に評価する。)
レポート提出30%
報告会での口頭発表40%

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

衣料品を中心した繊維製品が多様化、消費者が個性化しているため、供給側と需要(消費者)側のあり方が問題になっている。
供給側から複雑化する経済の仕組みの中でアパレル・流通の体制、需要側から品質等を通して、現状を把握し、情報化、国際化の時代での今後のあり方を考察する。
並びに、TA(衣料管理士)過程の必修科目のため、繊維製品の生産・流通・消費に関する知識を体系的に学ぶ。
以上をより理解するため、可能であれば、検査機関または素材展を見学する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション 消費科学とは
- 2.繊維製品の品質 品質とは
- 3.繊維製品の品質 品質の評価
- 4.繊維製品の品質 品質保証
- 5.繊維製品の品質 品質表示
- 6.繊維製品の品質 安全性、消費者苦情
- 7.消費者行動 消費者行動の特徴
- 8.消費者行動 消費者行動の要因
- 9.消費者行動 商品・店舗と消費者
- 10.消費者行動 消費者調査
- 11.繊維製品の生産・流通・消費 産業の構
- 12.繊維製品の生産・流通・消費 生産
- 13.繊維製品の生産・流通・消費 流通
- 14.繊維製品の生産・流通・消費 消費・環境対応
- 15.まとめ

ただし、検査機関または素材展の見学も考えられ、内容の省略と順序に違いが生じることもあり得る。

学習目標・到達目標

TA(衣料管理士)として、また賢い消費者になるために、繊維製品の品質、消費者行動、繊維製品の生産・流通・消費などの考え方・知識を取得する。

準備学習

繊維製品に関する基本的な用語を理解しておくこと。
日常生活の中で消費者問題に関心を持ち、理解に務めること。

評価方法その他

レポート60%、出席状況・態度20%、課題(講義中に出题する複数の簡易レポート)20%。以上を目安に総合評価する。

使用教科書名

『衣生活のための消費科学』
日本衣料管理協会刊行委員会/(社)日本衣料管理協会/平成23年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣服は、人間に最も近い環境である。この衣環境を快適に保つための、人体の体温調節機能や外部環境に適応した「衣服気候」、人体の形態・運動変形に対応した「衣服の運動機能性」、皮膚の構造・生理に対応した「衣服の接触快適性」について学ぶ。さらに様々な着用場面に視点を広げ、機能的で快適な衣環境の実現を追求する。

学習目標・到達目標

「人間-衣服-外部環境」という一連のシステムの中で、人間、外部環境における諸要因に適応した、快適な衣環境を設計する力をつける。

準備学習

「人体」と衣服の各要素との関わりを捉える。今までに学んだ衣服材料、衣服構造、衣服サイズ等の知識が活かせるよう、各自でそれらを念頭に置きながら、また不明な点は復習をした上で受講して理解・考察を深めてほしい。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等):20%
定期試験:80%

週 テーマ・授業目標等

1. 衣環境の快適性に関わる要因
2. 衣服と人体形態(1)人体の構造・形態
3. 衣服と人体形態(2)動きに伴う体表の変形
4. 衣服圧と人体生理
5. 人体の体温調節システム
6. 衣服気候(1)着衣による熱移動
7. 衣服気候(2)着衣による水分移動
8. 着衣による気候適応
9. 皮膚・衣服の衛生
10. スポーツウェアの動作適合性・温熱生理
11. 乳幼児の身体的特徴と衣服(1)おむつ
12. 乳幼児の身体的特徴と衣服(2)衣生活行動の発達
13. ユニバーサル・ファッション(1)高齢者
14. ユニバーサル・ファッション(2)ハンディキャップ
15. はき物の快適性
16. 定期試験

使用教科書名

衣環境の科学(田村照子編著, 建帛社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近年、食品は世界的規模で大きく流通し、加工や貯蔵法の開発により多種多様の食品が製造されている。本講義では、食品の品質の劣化を防ぐ貯蔵の原理と方法、食材の機能特性を生かした加工法、食品・食生活を取り巻く新しい技術について学び、これらが具体的な食品製造の場でどのように生かされているかを理解する。

学習目標・到達目標

食品加工、食品の保存と包装技術、ならびに品質表示に対して正しく理解することを目指す。

準備学習

積極的に学習に取り組み、わからないことは質問して知識を身に付けてください。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%)(平常点は授業に取り組む姿勢などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食品の品質の劣化とその要因
3. 食品加工貯蔵中の成分の変化(タンパク質、デンプン)
4. " (脂質、褐変)
5. 食品の貯蔵法 (乾燥)
6. " (塩蔵、糖蔵、酢漬、燻煙)
7. " (冷蔵、冷凍、氷蔵)
8. " (缶・瓶詰、レトルト食品)
9. " (包装、CA・MA貯蔵、放射線照射)
10. 食品加工の操作と新しい食品加工技術
11. 食品の加工 (発酵食品、調味料、嗜好食品)
12. 食品の加工 (農産加工)
13. 食品の加工 (畜産加工)
14. 食品の加工 (水産加工)
15. バイオテクノロジー応用食品の現状、食品の規格・表示制度
16. テスト

使用教科書名

食品加工学 菅原龍幸ら 建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

微生物とは肉眼では見ることができない小さな生物であるが、食品・医薬品の製造や環境の浄化(下水処理)など、人間生活の様々な面で利用され役立っている。本講義では、微生物の分類、形態、生理・生化学等の基礎について学んだ後、酒類・調味料類等の発酵食品製造やアミノ酸・呈味性スクレオチド生産等、食品製造に関連する実用における微生物の働きについて詳しく学ぶ。

学習目標・到達目標

様々な食品の製造や醸造、地球上の物質循環や環境浄化など、ヒトと深い関わりのある微生物について理解と興味を深めることを目標とする。

準備学習

積極的に学習に取り組み、わからないことは質問して知識を身に付けてください。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は授業に取り組む姿勢などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 微生物学の歴史と発展
3. 微生物の種類と性質(カビ、酵母)
4. 微生物の種類と性質(細菌類)
5. 微生物の生理(1)微生物の栄養および培養
6. 微生物の生理(2)微生物の生育
7. 微生物の生理(3)微生物の酵素と物質代謝
8. チーズセミナー
9. 微生物の利用(酒類)
10. 微生物の利用(みそ・醤油・酢)
11. 微生物の利用(納豆、漬物、乳製品)
12. 微生物の利用(酵素・代謝系の利用)
13. 食品の腐敗
14. 食品の保存
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。

学習目標・到達目標

食品の生産、流通、消費という流れを見通す視点に立って、食品の安全性を確保するための基礎知識を習得する。

準備学習

フードスペシャリスト受験資格科目(協会指定科目:食品の安全性に関する科目)であるため、食品学、食品加工学などの専門知識を前提に授業を進めます。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

1. 食品の安全性、食品の腐敗・変敗とその防止(1)
2. 食品の腐敗・変敗とその防止(2)
3. 食中毒(1)
4. 食中毒(2)
5. 食中毒(3)
6. 食品の安全性の確保(1)
7. 食品の安全性の確保(2)
8. 家庭における食品の安全保持
9. 環境汚染と食品
10. 器具および容器包装
11. 水の衛生
12. 食品の安全流通と表示(1)
13. 食品の安全流通と表示(2)
14. 食品の安全流通と表示(3)
15. 食品の安全管理
16. 定期試験

使用教科書名

改訂/食品の安全性/第3版/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

バイオサイエンスは生命活動を支えている生体物質や細胞内で起こる代謝反応を化学的にとらえる学問である。食べ物を食べるどのようにエネルギーになるのかといった事象に関わる部分、遺伝子組換えやクローン技術などの先端技術を支えている部分を、主に分子レベルで理解することを目的としている。

学習目標・到達目標

生命現象のしくみの中で栄養素の代謝、生理・病理的变化、個体の調節といった内容を中心に、生化学的断面から構造、機能、物質の変化を理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 細胞の構造(1)
2. 細胞の構造(2)
3. 生体成分
4. 酵素(1)
5. 酵素(2)
6. 生体分子とその代謝(1)糖質
7. 生体分子とその代謝(2)糖質
8. 生体分子とその代謝(3)脂質
9. 生体分子とその代謝(4)脂質
10. 生体分子とその代謝(5)窒素化合物
11. 遺伝子発現とその制御(1)遺伝情報の流れ
12. 遺伝子発現とその制御(2)遺伝子発現
13. 遺伝子発現のその制御(3)遺伝情報の損傷と修復
14. 個体の調節とホメオスタシス 情報伝達・ホルモン
15. 生体防御機構 免疫機構・アレルギー
16. 定期試験

準備学習

生物学、化学(特に有機化学)の基礎知識を基に栄養学などの基礎知識も前提に、授業の展開を行います。特に生物や化学が苦手な場合、基礎部分で生物、化学や栄養学Ⅰの授業を受講しておくことが望ましいです。

評価方法その他

筆記試験100%

使用教科書名

はじめて学ぶ生命科学の基礎/化学同人/畠山智充・小田達也

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本および諸外国の食文化・調理文化を背景とした料理形式の特徴と料理方法について学び、さまざまな目的にあうメニュープランを立てる力を養うことを目的とする。さらに、調理技能、テーブルセッティング、食卓作法について実習を通して学び、多様な趣向・目的に合わせたプランをコーディネートできる力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 日本・西洋・中国料理の調理技術と食材の取り扱い方を習得する。2. 本膳、懐石、精進、会席料理の特徴を理解し、献立立案を可能にする。3. 食器・器具(磁器・陶器・木製・塗り物・金属製など)の種類とその特徴を理解し、適切な取扱いができる。4. 行事や各種プランに合わせたメニュープランニングと食卓演出(コーディネーター)、サービスマナーを修得する。これらから、フードサービス、食企画の実践へと繋がりがもてるようになることを目標とする。

準備学習

授業後は各献立の特徴を調べ、まとめておく。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業目的と進め方、フードコーディネーターとは、実習の心得
2. 行事と献立(節句料理 雛まつりの献立実習)
3. 行事と献立(節句料理 端午の節句の献立実習)
4. 日本料理の実習と器と盛り付けによる演出実習
5. 季節向き日本料理の実習と演出(初夏)実習
6. お茶とお菓子(ティーパーティーの献立実習と演出)
7. 精進料理の実習
8. 懐石料理(1)初夏
9. 懐石料理(2)初夏
10. 中国料理の特徴と演出 点心
11. 中国料理も特徴と演出
12. 西洋料理の調理実習と演出実習
13. 西洋料理の調理実習と演出実習
14. 器・カトラリーの種類、食事マナー、ナプキンワーク、メニュープランニング
15. プッフェスタイルの献立実習と演出とマナー
16. 定期試験(実習試験・筆記試験)

評価方法その他

平常点(40%授業への参加状況)、実習ノート・提出物(30%)、実習試験(20%)、筆記試験(10%)

使用教科書名

『三訂 フードコーディネーター論』
日本フードスペシャリスト協会編

調理とフードコーディネートのテキスト配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食生活の源泉である食材は、多種多様である。それぞれの食材も調理条件により食味の異なった料理となる。日常使用頻度の高い素材について、その性質を生かした調理法を究めることにより、料理への創造性を養うことを目的とする。あわせて、素材の適性な組み合わせ、献立構成、地域の素材を使った料理の提案など調理全般についての応用力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の調理特性を生かすための調理技術を修得する。
2. 食材の創造性のある組み合わせを可能にする。
3. 食材の特性を生かした献立立案を可能にする。

準備学習

授業で使用する主たる食品素材の特徴については、授業前または、授業後に調べてノートにまとめておく。

評価方法その他

平常点(40%、授業への参加状況)、課題(30%)、ノートおよびレポート(30%)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 授業目的と内容および進め方
2. 米を主とした献立 春の行楽弁当
3. 小麦粉を主とした献立による実習(中国料理)
4. いも類を主とした献立による実習(西洋料理)
5. いも類を主とした献立による実習(日本料理)
6. 豆類を主とした献立による実習(日本料理)
7. 魚介類(たい)を主とした献立による実習(日本料理)
8. 魚介類を主とした献立による実習(日本料理)
9. 肉類を主とした献立による実習(中国料理)
10. 卵を主とした献立による実習(日本料理)
11. 牛乳・乳製品を主とした献立実習(西洋料理)
12. 野菜を主とした献立による実習(西洋料理)
13. 野菜を主とした献立による実習(日本料理)
14. 素材の組み合わせによる献立実習(日本料理)
15. 地域の素材を活用した料理法の提案
16. 定期試験(実習試験)

使用教科書名

授業ごとのプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食文化的視点から調理実習をおこなう。諸外国の種々の料理の調理法、副材料との組み合わせ、調味法を実習を通して学び、気候風土や文化による違いと食事との関連性を理解する。日本国内の各地域の伝統的な郷土料理の実習、伝統食品や伝統野菜を用いた実習を通して食文化の特徴や背景を考える。また、欧米と日本のこども向け料理書のレシピの実習を通して、材料、調理法、諸注意等から食育と食文化的特徴を比較考察する。築地市場見学、日本料理(会席)の試食とプロの料理人からの説明などを通して、食材の流通の現状と食事様式の実際を学ぶ。

学習目標・到達目標

日本と諸外国の料理の実習を通して、それぞれの地域の調理技術や調理手法を習得することができる。また、国や地域による食文化的背景との関連性を見出すことができるようになること。

準備学習

テーマとしている国々や地域の食事文化の特徴を調べておくこと。

評価方法その他

実習試験(30%)、ノート提出(30%)、平常点(40%、授業への参加状況)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 世界の食文化と調理の概要
2. 世界の粉食文化と調理 無発酵パン(中国、インド、メキシコ)と料理
3. 世界の粉食文化と調理 発酵パン(中国、ドイツ、イタリア)と料理
4. 世界の粉食文化と調理 そば粉(イタリア)
5. 日本の粉食文化 そば粉を用いた献立(日本料理)
6. 世界と日本の粉・粒食文化と調理 米粉・米
6. 世界と日本の粉・粒食文化と調理 雑穀粉・雑穀
7. 地域の食材と食文化 京都伝統野菜を使った献立(1)賀茂茄子他
8. 地域の食材と食文化 京都伝統野菜を使った献立(2)九条ねぎ他
9. 日本の伝統食品と調理 氷こんにゃく、六条豆腐他
10. 日本の伝統食品と調理 三輪そうめん、ゆば他
11. 伝統的な郷土食の調査と献立作成・実習
12. 欧米と日本のこども向け料理書のレシピからの実習(料理書調査・翻訳)
14. 欧米と日本のこども向け料理書のレシピからの実習
15. 築地市場見学と日本料理の食事様式の学習と試食
16. 定期試験(実習試験)

使用教科書名

実習用資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

第2次大戦後の日本において欧米諸国の食事が推奨されたが、伝統的な和食を中心とした食文化を駆逐するまでには至らなかった。現在では、日本の食文化は世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。この科目は、日本の食文化がどのように発展したのか、日常の食事、ハレの食事、地域差、料理に使用された食材はどこで生産されどのように運ばれたのか、などに注目しながら検討する。

学習目標・到達目標

日本の食文化が世界の中でどのような位置を占めるのかを把握すること。
日本の食文化の内容について、食事様式、日常の食事、主食と副菜、調味料、外食文化などの位置づけを把握すること。

準備学習

食に関する新聞記事が多くみられます。切り抜いてノートなどに貼り付けて活用されることをお勧めします。

評価方法その他

平常点20%、期末試験80%、平常点は授業への参加状況で判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 はじめに
- 2 世界の食文化(1)主要穀物と食文化圏
- 3 世界の食文化(2)粉食文化と粒食文化
- 4 日本の食文化
- 5 異文化接触
- 6 主食の文化
- 7 副食の文化
- 8 調味料・油脂・香辛料
- 9 菓子・茶・酒
- 10 日本料理
- 11 台所・食器・食卓
- 12 日常の食生活
- 13 非常の食生活
- 14 外食文化
- 15 行事食
- 16 レポートまたは試験

使用教科書名

江原絢子・石川尚子編『日本の食文化 その伝承と食の教育』アイ・ケイ コーポレーション

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この科目は主として江戸時代の食文化に関係した史料について検討を加える。江戸時代のものは活字になった利用しやすいものと本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本(古文書)の両方を活用し講読する。これらの基礎の上に江戸時代料理の再現をする。また各人の郷土料理のレポートとそれらの再現料理をする。

履修条件

- 1) 「基礎調理」を履修していること。
- 2) 実習費用がかかるので別途徴収する。

学習目標・到達目標

世界中から注目されている日本食の原点について理解を深めることを目的とする。具体的作業として、本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本を利用して江戸時代料理を再現する。

準備学習

食に関する新聞記事が多くみられます。切り抜いてノートなどに貼り付けて活用されることをお勧めします。

評価方法その他

平常点40%、レポートまたは試験60%。平常点は授業への参加状況で判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 はじめに
- 2 江戸期史料(1)『近世風俗志』五 食器
- 3 江戸期史料(2)『近世風俗志』五 主食
- 4 江戸期史料(3)『近世風俗志』五 副食
- 5 江戸料理本(1)『料理物語』魚
- 6 江戸料理本(2)『料理物語』青物
- 7 江戸料理本(3)『料理物語』吸物
- 8 江戸料理の復元(1)使用テキストについて
- 9 江戸料理の復元(2)料理本の解読
- 10 江戸料理の復元(3)実習
- 11 江戸料理の復元(4)復元使用テキストについて
- 12 江戸料理の復元(5)復元料理本の解読
- 13 江戸料理の復元(6)実習
- 14 郷土料理のレポート
- 15 郷土料理の再現実習
- 16 試験

使用教科書名

特に指定はしない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食を共にすることがクローズアップされている現在、「食」を活性化させ、共に食べることによってコミュニケーションを活発にさせる場＝食空間をつくる(コーディネート)が求められている。食卓を通して人間関係を深め、生活文化の継承の場として、それぞれのライフスタイルに合ったコーディネートをする必要がある。食空間コーディネーターの仕事は、食文化についての知識やテーブルウェアや色彩の知識が問われている。食器を始め空間演出を実例を通して学びます。*第1週目より5週目までを小池先生が、6週目より15週目を高尾が行う。16週目の試験は、両教員より出題する。

学習目標・到達目標

テーブルコーディネートとは食卓演出。食空間コーディネーターとは食卓を取り巻く空間全体である。料理、食器、花、クロス、音楽、照明などの種々の素材の知識を習得すると共に、実践的なコーディネートの実例を体験する。

準備学習

「食空間コーディネーター」資格取得希望者は、履修のこと。

評価方法その他

定期試験(80点)レポート(20点)

週 テーマ・授業目標等

- 1, テーブルコーディネートの意義、食空間と構成、食卓史
- 2, 色彩の基礎・配色、歳時記
- 3, 洋食器の歴史
- 4, テーブルセッティング実習、ディナーテーブル・ティテーブル
- 5, 和食器の歴史
- 6, 配膳法と食器
- 7, モジュール・寸法
- 8, 照明(種類と照明方法、効果)
- 9, 素材(窓、カーテン、床、壁紙、天井)、色
- 10, スタイル(クラシック、エレガント、モダン、カジュアル、エスニック、ジャパネスク)
- 11, レイアウトと動線
- 12, 家具(テーブル、椅子、食器棚、ローボード)
- 13, キッチン空間(シンク、作業台の高さ)
- 14, //
- 15, 防災(建築基準法、消防法)
- 16, 試験

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

食品に含まれる主要な成分の化学的な性質や特徴について、基礎的な実験を通して身につけ、食品とそれに関連する分野の知識、技術や手法の理解を深めることを目的とする。

学習目標・到達目標

食品に対する正しい認識をもつため、その基本となる科学的な考え方や技術を学び、これを身につけることを目標とする。また、実験結果に対する考察が十分にできる力を養うことを目標とする。

準備学習

実験終了後は得られた結果について十分理解しておくこと。予習や復習時に生じた疑問は積極的に調べたり質問してください。

評価方法その他

レポート(50%)、平常点(50%) 実習に取り組む姿勢を含む)の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 食品学実験の基礎(1) 器具の取扱い
3. 食品学実験の基礎(2) 試薬の取扱い
4. 定性分析(1)糖
5. 定性分析(2)アミノ酸
6. 定量分析(1)糖
7. 定量分析(2)有機酸
8. 食品成分の性質と変化(1)タンパク質
9. 食品成分の性質と変化(2)脂質
10. 食品成分の性質と変化(3)炭水化物
11. 食品成分の性質と変化(4)ビタミンC
12. 食品成分の性質と変化(5)食品の色素
13. 食品成分の性質と変化(6)食品の褐変反応
14. 食品成分の性質と変化(7)その他の成分
15. まとめ
16. 結果報告会

使用教科書名

プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食領域の研究の概要を学び、自ら課題を見出し考えられるようになること。さらに、自らの考えることについて他者への説明を可能にし、研究成果に関するプレゼンテーションと議論を可能にすることを目的とする。

学習目標・到達目標

4年間の学習の集大成である研究について、主体的に取り組み、その過程において自ら目標設定ができるようになること。

準備学習

予め渡された資料については、読んで理解をして授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(授業の参加状況・討論への参加等総合的に判断する)60%、成果報告40%

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食と食品
3. 食と栄養
4. 食と調理
5. 食と文化
6. 食と環境
7. 食とコーディネート
8. 情報処理
9. 調査法① 聞き取り調査
10. 調査法② アンケート調査
11. 結果の解析と統計処理
12. プレゼンテーション
13. ゼミ① 調査系論文購読
14. ゼミ② 実験・実習系論文購読
15. ゼミ③ 実験・実習系論文購読
16. 定期試験(成果発表)

使用教科書名

必要に応じて資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品開発の手順について学ぶとともに、実例をもとに開発に関わる加工および保蔵技術について理解を深める。さらに、学んだことを基礎として開発の企画・立案を試みる。

学習目標・到達目標

原料、素材、それらを用いた加工および保蔵技術とともに、食品開発の開発手順について理解できることを目標とする。

準備学習

積極的に学習に取り組み、わからないことは質問して知識を身に付けてください。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%)(平常点は授業に取り組む姿勢などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食品産業の特徴
3. 食品開発の考え方(1)手順
4. " (2)コンセプト
5. " (3)原料と素材
6. " (4)加工法
7. " (5)加工の新技术
8. " (6)包装
9. " (7)安全と安心の保証
10. 開発の実例
11. 開発の企画・立案(1)消費者ニーズの把握
12. 開発の企画・立案(2)アイデア・スクリーニング
13. 開発の企画・立案(3)製品コンセプトの開発
14. 開発の企画・立案(4)戦略
15. 開発の企画・立案(5)まとめ
16. テスト

使用教科書名

プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の特性を生かす加工食品の製造実習や、貯蔵中の品質変化や鑑別に関する実験を行うとともに、食品にとって不可欠な要素である「おいしさ」を科学的に追求する。これまでに学んできたことを基礎として、企業における製品開発の流れについて学び、企業と連携しグループごとに新製品の試作に取り組む。

学習目標・到達目標

食品製造の一端を具体的に体験することで、食品製造について総合的に理解する。

準備学習

積極的に実習に参加してください。終了後は原理・要点についてまとめ、その際に生じた疑問は積極的に調べたり質問してください。

評価方法その他

レポート(50%)、平常点(50% 実習に取り組む姿勢を含む)の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 食品成分の加工特性とその利用 (1)ジャム瓶詰
3. " (2)パン
4. " (3)果物缶詰
5. " (4)ヨーグルト・酸乳飲料
6. 講演と実習 チーズセミナー
7. 講演 (食品会社における新製品誕生までの流れ)
8. 食品の鑑別 (1)魚介類・青果物の貯蔵条件と品質
9. " (2)牛乳の貯蔵条件と品質
10. 食品の嗜好的品質(おいしさの追求)
11. 新製品の開発 A① 消費者ニーズの把握
12. 新製品の開発 A② 製品コンセプトの提案
13. 新製品の開発 A③ 予備試作による問題点の抽出
14. 新製品の開発 A④ 予備試作による問題点の改良
15. 新製品の開発 A⑤ 製品発表
16. テスト

使用教科書名

プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の特性を生かす加工食品の製造実習や、貯蔵中の品質変化や鑑別に関する実験を行うとともに、食品にとって不可欠な要素である「おいしさ」を科学的に追求する。これまでに学んできたことを基礎として、食企画開発実習Aで学んだことを応用させて、企業と連携しグループごとに新製品の試作に取り組む。食企画開発実習Aを履修していることが望ましい。

学習目標・到達目標

食品製造の一端を具体的に体験することで、食品製造について総合的に理解し、得られた知見と技術を応用発展させることができる。

準備学習

積極的に実習に参加してください。終了後は原理・要点についてまとめ、その際に生じた疑問は積極的に調べたり質問してください。

評価方法その他

レポート(50%)、平常点(50% 実習に取り組む姿勢を含む)の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 食品成分の加工特性とその利用 (1)味噌
3. " (2)豆腐
4. " (3)ソーセージ
5. " (4)うどん
6. " (5)きのこと瓶詰
7. 食品の鑑別 (1)素材について
8. " (2)素材が製品に与える影響
9. 新製品の開発 B① 消費者ニーズの把握
10. 新製品の開発 B② 製品コンセプトの提案
11. 新製品の開発 B③ 予備試作による問題点の抽出・改良
12. 新製品の開発 B④ 製品発表
13. 食品成分の加工特性とその利用 (6)蒟蒻
14. 新製品の開発 B⑤ 製品導入
15. 新製品の開発 B⑥ 分析・評価
16. テスト

使用教科書名

プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食を取り巻く環境は急激に変化している。その原因の一つが地球環境の変化で、身近な食を考える際にも、この問題を無視することができなくなっている。この授業では、地球の環境変化について理解を深め、それが私たちの食についてどのように影響しているのかを学習する。また、未来の変化を推察し、これらかの食についても考える。

学習目標・到達目標

食を取り巻く環境を理解した上で現代の食に関する問題点を把握し、自ら問題解決に向けての取り組みを進められるようになること。さらに、得られた情報を元に食と環境の問題について自らの意見を述べられるようになること。

準備学習

「食科学概論」を既修していることが望ましい。

評価方法その他

中間試験（レポートを含む）の得点（20%）および定期試験の得点（80%）による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 環境とは
- 2 地球環境の変化と現状
- 3 地球環境への負荷
- 4 生物資源の特徴と現状
- 5 日本をめぐる水産資源
- 6 国際的な水産資源問題
- 7 資源の利用と問題点
- 8 食の自給率
- 9 世界の食糧需給
- 10 遺伝子組換え食品とは
- 11 遺伝子組換え食品の評価
- 12 フードマイレージとは
- 13 フードマイレージの評価
- 14 水資源の問題
- 15 食と地球環境を考える
- 16 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品は、それらを作るための素材（原材料）の調理的・栄養的な特性が活かされている。これには、伝承・経験を繰り返し、その調理法には科学的な必然性があることが見出される。この授業は、食品の持つ調理的特性を実験・実習を通して理解し、新しい利用法について試作・検討を行うことにより、メニュー展開への応用力・実践力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

食品素材の特性を活かした多様な調理法・メニュー展開ができるようになること。

準備学習

次週の授業の目的や内容を理解し、手順をノートにまとめておくこと。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する）40%、レポート（60%）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 小麦粉の調理特性と代替食品による効果
3. 小麦粉の代替食品による調理法の検討と評価（米粉・コーンスタート他）
4. イモ類の粘性を利用した調理の可能性 ヤマイモ、長イモ、さつまいも
5. イモ類の粘性を利用した膨化調理と評価（1）饅頭への利用
6. イモの粘性を利用した膨化調理の可能性（2）パン、クリームへの利用
7. 低カロリーに視点をあてた食品素材の利用法の検討と評価（おから）
8. 低カロリーに視点をあてた食品素材の利用法の検討と評価（こんにゃく）
9. 豆腐の新たな利用法の検討と評価
10. 乳製品の新たな利用法の検討と評価（ヨーグルト他）
11. 野菜・果物の新しい利用法の検討（1）野菜入りバターケーキへの利用
12. 野菜・果物の新しい利用法の検討（2）ジャム、饅頭、クッキーへの利用
13. 野菜・果物の新しい利用法の検討（3）バターケーキへの利用
14. 各種素材の利用法の提案（試作）
15. 各種素材の利用法の提案と評価（発表）

使用教科書名

プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品産業・フードビジネスの現状および動向を概観し、業界および企業の特徴を明らかにする。とくに市場および消費者との関係について、具体的な例に即して考察する。

学習目標・到達目標**準備学習****評価方法その他**

期末試験70%と出席状況や提出物を含む授業への参画度30%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食品産業の概況と特質
3. "
4. 食品産業における戦略とビジネスモデル
5. "
6. "
7. 食品業界のマーケティングと消費者行動
8. "
9. "
10. 食の安全と企業の社会的責任
11. "
12. 食品産業の国際化と多国籍企業
13. "
14. TPPと食の問題
15. 授業のまとめ

使用教科書名

使用しない。資料はプリントで配布。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、近い将来、建築やインテリアのプロ(専門職)として、また、本学科で学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的で基礎的な様々な製図手法や技術を習得する演習授業である。また、課題は授業時間内に完成するスケジュールを組んでいる。

学習目標・到達目標

初めて建築製図を学ぶ授業で、住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学習する導入授業である。①「図学及び製図」における基礎的な図面の表現法及び手法(技法)を習得することができる。②基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の一般的な知識を習得することができる。

準備学習

準備学習は、住宅やマンションの広告資料収集及び放映中のビデオ・アフターなどの住宅の平面や構造についてどのようなものかを把握すること。

評価方法その他

平常点:15%/課題:85%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。平常点とは授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 課題1:線の練習
2. 課題2:レタリング・文字の練習
3. 課題3:建築図面の表示記号(教科書pp.6-8)
4. 課題4:木造住宅/配置図・平面図の表現方法-1(教科書pp.11-25)
5. " :木造住宅/配置図・平面図の表現方法-2(教科書pp.11-25)
6. " :木造住宅/配置図・平面図の表現方法-3(教科書pp.11-25)
7. 課題5:木造住宅/断面図・立面図の表現方法-1(教科書pp.26-34)
8. " :木造住宅/断面図・立面図の表現方法-2(教科書pp.26-34)
9. 課題6:RC住宅/平面図の表現方法-1(教科書pp.67-75)
10. " :RC住宅/平面図の表現方法-2(教科書pp.67-75)
11. " :RC住宅/平面図の表現方法-3(教科書pp.67-75)
12. 課題7:RC住宅/断面図・立面図の表現方法-1(教科書pp.76-83)
13. " :RC住宅/断面図・立面図の表現方法-2(教科書pp.76-83)
14. 課題8:住吉の長屋:安藤忠雄設計/模型製作図面作成
15. 課題9:住吉の長屋:安藤忠雄設計/模型製作
16. 課題提出

使用教科書名

「特に指定しない。」
適宜、参考資料プリントを配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

パースの図法を基本からマスターする。そして、寝室、居間、食堂、キッチン、トイレ、浴室などの様々な住宅の部屋のパースや展開図を書きながら、インテリアデザインの基本を覚えていく。幅木、回縁、台輪、幕板、ドア枠、窓枠などの納まりの基本、材料の使い方、家具のレイアウト、各部の寸法などを、何度も繰り返し作図することにより、体感的に学習する。さらに、着色などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。

学習目標・到達目標

住宅の基本部材、照明器具の名称を言えるようになる、室内パース、基本平面図の作図、マーカーによる着色ができるようになる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・パースの基本 1
- 第2週・・・パースの基本 2
- 第3週・・・パースの基本 3
- 第4週・・・4畳半の部屋のパース
- 第5週・・・幅木、回縁、枠の知識と6畳の部屋のパース
- 第6週・・・6畳の部屋のパース、着色
- 第7週・・・寝室の知識とパース
- 第8週・・・寝室のパースと着色
- 第9週・・・居間の知識とパース
- 第10週・・・居間のパース、着色
- 第11週・・・ダイニングの知識とパース
- 第12週・・・ダイニングのパースと着色
- 第13週・・・キッチンの知識とパース
- 第14週・・・キッチンのパース、着色
- 第15週・・・まとめ

準備学習**評価方法その他**

課題などによる出席点を100%とします。

使用教科書名

「ゼロからはじめる木造建築入門」原口秀昭著 彰国社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

RC造区分所建物内の住宅の設計、RC造テナントビル内の店舗の設計を通して、設計製図の基本をマスターすること、デザイン、プレゼンテーション技法の上達を目指す。

学習目標・到達目標

住宅、店舗の基本寸法、基準寸法が分かり、インテリアの基本設計ができるようになる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・課題説明
- 第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第3週・・・平面スケッチの提出
- 第4週・・・平面図の提出
- 第5週・・・断面図の提出
- 第6週・・・立面図(展開図)の提出
- 第7週・・・ポスターセッション(発表会)
- 第8週・・・提出課題説明
- 第9週・・・平面スケッチの提出
- 第10週・・・平面図の提出
- 第11週・・・断面図の提出
- 第12週・・・立面図の提出
- 第13週・・・パースの提出
- 第14週・・・模型の提出
- 第15週・・・ポスターセッション(発表会)

準備学習**評価方法その他**

出席、ポスターセッションの作品提示、作品評価等による。配点は出席点20%、課題評価80%。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

木造住宅課題の設計演習を通じて、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、上達を目的とします。

学習目標・到達目標

木造住宅、RC住宅の基本構造が分かり、基本設計ができるようになる。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・木造住宅の課題説明
第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第3週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
第4週・・・平面図の提出
第5週・・・断面図の提出
第6週・・・立面図の提出
第7週・・・ポスターセッション(発表会)
第8週・・・課題説明
第9週・・・平面スケッチの提出
第10週・・・平面図の提出
第11週・・・断面図の提出
第12週・・・立面図の提出
第13週・・・パースの提出
第14週・・・模型の提出
第15週・・・ポスターセッション(発表会)

準備学習**評価方法その他**

出席、ポスターセッション(発表会)と作品、提出期限によって評価します。配点は出席点20%、課題評価80%。

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

集合住宅の課題に取り組むことにより、基本コンセプトを考え、デザイン、製図、プレゼンテーション技法の修練、RC造、設備等の基本知識の習得などを目標としています。

学習目標・到達目標

集合住宅の基本設計をまとめ、それを平面図、立面図、断面図、パースなどの図面に書くことができるようになる。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・課題説明
第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
第3週・・・平面スケッチの提出
第4週・・・平面図の提出
第5週・・・断面図の提出
第6週・・・立面図(展開図)の提出
第7週・・・ポスターセッション(発表会)
第8週・・・提出課題の評価、検討
第9週・・・変更点の提出
第10週・・・変更平面スケッチの提出
第11週・・・平面図の提出
第12週・・・断面図の提出
第13週・・・立面図(展開図)の提出
第14週・・・パースの提出
第15週・・・ポスターセッション(発表会)

準備学習**評価方法その他****使用教科書名**

授業科目概要・教育目的（履修条件）

幼稚園、美術館の課題によって、大型建築物の設計能力を向上させ、平面図、立面図、断面図、パースなどの図面に表せる能力を身につける。

学習目標・到達目標

大型建築物の設計製図ができるようになる。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・幼稚園の課題説明
 第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
 第3週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
 第4週・・・平面図の提出
 第5週・・・断面図の提出
 第6週・・・立面図の提出
 第7週・・・ポスターセッション(発表会)
 第8週・・・美術館の課題説明
 第9週・・・事例研究、設計趣旨の提出
 第10週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
 第11週・・・平面図の提出
 第12週・・・断面図の提出
 第13週・・・立面図の提出
 第14週・・・パースの提出
 第15週・・・ポスターセッション(発表会)

準備学習**評価方法その他**

配点は出席点20%、課題評価80%。

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計製図の基本を学習する。本講義では、フリーソフトの中でも特に一般的なJWCAD for windowsを使用し、基礎的操作から図面作成のテクニックまで、さらに3次元CADやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を学ぶ。

学習目標・到達目標

CADによる設計図の基本的な表現スキルを身に付ける。

週 テーマ・授業目標等

1.JW_CAD 概要と基本
 2.JW_CAD 作図系・編集系コマンドの基本操作
 3.JW_CAD 作図系・編集系コマンドの応用操作
 4.JW_CAD プレゼンの作成 画像編集
 5.JW_CAD 集合住宅平面図作成 他
 6.JW_CAD 集合住宅平面図作成 他
 7.JW_CAD プレゼンテーション作成
 8.SketchUp エクスポート・インポートと環境設定
 9.SketchUp 立体化 3Dモデリング
 10.SketchUp 外観パース マンションの立体化
 11.SketchUp 内観パース 51C型
 12.SketchUp KERKYTHEAとの連携エクスポート
 13.KERKYTHEA レンダリング
 14.KERKYTHEA+GINP プレゼンテーション
 15.KERKYTHEA+GINP プレゼンテーション(最終課題)

準備学習

CADを使うのが初めての方が大多数と思われるので、予習よりも授業で行った操作について繰り返し練習してください。
 わからない、うまくできない人は、積極的に質問をするように心掛けてください。

評価方法その他

授業中の小テスト(20%)
 最終課題(80%)

使用教科書名

Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的とし、建築設計におけるプレゼンテーション技法のテクニックを学習する。本講義ではすべてフリーソフトを使用し、2次元から3次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できる動画によるプレゼンテーション技法の習得を目指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を学ぶ。

学習目標・到達目標

紙媒体によるプレゼンテーション、さらに動画等のデバイスによるプレゼンテーションスキルを身に付ける。

週 テーマ・授業目標等

1.JW-SU-GE-AR	フリーソフトの連携の概要 動画
2.SketchUp	写真合成の手法
3.SketchUp	モニタージュ写真
4.KERKYTHEA	添景の貼り付け
5.KERKYTHEA+GINP	断面バース・インテリアパースの基本
6.KERKYTHEA+GINP	ライティングの基本
7.KERKYTHEA+GINP	プレゼンテーションの基本
8.Google Earth	動画キャプチャーの基本操作
9.総合プレゼン	小テスト
10.Inkscape	ポートフォリオの作成
11.Google Earth	プレゼンテーション
12.Google Earth	動画でのプレゼンテーション
13.グループワーク	プレゼンテーション
14.グループワーク	プレゼンテーション
15.グループワーク	プレゼンテーション(最終課題)

準備学習

住居CAD演習で習得したスキルを前提といたします。インターネット上にはたくさんの参考サイトがあります。授業で習わないことも丁寧に説明されていますのでいろいろ検索してみてください。

評価方法その他

授業中の小テスト(20%)
最終課題(80%)

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、建築やインテリアのプロ(専門職)として、学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指す資格取得の実践課題を中心に進める。また、各課題は授業時間内に完成するスケジュールを組んでいる。

学習目標・到達目標

本授業は、住居を含む建築についての建築製図法及び建築計画法について、実務作業に近い計画方法及び建築士やインテリア関連資格試験の「建築製図」課題を作成することを習得する。特に、「与えられた内容及び条件を満たす建築物を計画し、設計する知識及び技能について設計図書の作成」をいかに効率よく進める方法や技能について学ぶことを目標とする

準備学習

本授業は、建築やインテリアなどの各種資格試験の「建築製図試験」対応の授業である。1年次の「住居デザイン演習A」の授業で使用した資料を再度検証すること。

評価方法その他

平常点:20%/課題:80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。平常点とは授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 課題1:木造住宅の計画と製図	その1(平成24年度2級建築士課題)
2. "	その2
3. "	その3
4. "	その4
5. 課題2:木造住宅の計画と製図	その1(平成23年度2級建築士課題)
6. "	その2
7. "	その3
8. "	その4
9. 課題3:RC住宅の計画と製図	その1(平成26年度2級建築士課題)
10. "	その2
11. "	その3
12. "	その4
13. 課題4:木造住宅の計画と製図	その1(模擬試験課題)
14. "	その2
15. "	その3
16. 課題提出	

使用教科書名

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野で、授業は各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。また、建築計画各論を理解するのみではなく、建築全般の知識・技術を総合的に学習することができる。

学習目標・到達目標

建築計画の基本概念を理解することで、寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方や技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特色と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得することができる。

準備学習

建築士やインテリアコーディネーターなど資格取得の必須の科目で、その試験概要について把握していること。希望者には過去出題問題集をデータで提供しますので、希望者は授業3週目に記憶媒体を持参し登録してください。

評価方法その他

平常点:35%(小テスト2回を含む)／定期試験65%による総合評価。なお、平常点は、授業への参加・討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／スケジュール説明
2. 建築史
3. 集合住宅
4. 建物の環境(1)
5. 病院・その他
6. ホテル
7. 事務所・その他(建具等)
8. 給排水・衛生設備
9. 建築の環境(2)
9. 学校
10. 建物の環境(3)
11. 防火・防災
12. 空調設備
13. 建物の環境(4)
13. 音響
14. 各種工法(1)
15. 各種工法(2)
16. 定期試験

使用教科書名

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 5.光環境と色彩 (1)生活環境の中の光と色 (2)光と視覚
3. (2)光と視覚 (3)見えの効果
4. (4)光環境のデザイン
5. (4)光環境のデザイン
6. (5)色彩環境のデザイン
7. 2.音環境 (1)生活の中の音 (2)音の基礎知識
8. (2)音の基礎知識
9. (3)騒音の評価
10. (4)建物の音響性能
11. (4)建物の音響性能
12. (5)よりよい音環境づくりのために
13. 8.電気設備 (1)電気設備の基礎知識
14. (2)配線設備
15. (3)照明設備
16. 試験

準備学習

授業毎に120分の予習と60分の復習が必要である。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

使用教科書名

生活環境学／岩田利枝 他／井上書院／2008

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちが建物の中で生活するためには、建築設備（給排水衛生・空気調和・電気・搬送・防災）が必要不可欠である。この授業では、安全で快適な居住環境を形成するために必要な建築設備のシステムを学び、建築と設備のかかわりを理解することによって、平面・断面計画上の設備スペースについて知る。また、省エネルギー手法について、エネルギー消費性能とライフサイクルアセスメント（環境評価）および経済性の関係についても学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 1. ガイダンス
2. 2. 建物内のエネルギーの流れ
3. 3. 空調設備 (1)自然環境と建築環境
4. (2)太陽エネルギーの利用と遮蔽
5. (3)空調負荷
6. (4)空調熱源装置と使用エネルギー
7. (5)空調方式
8. (6)熱搬送方式
9. (7)室内空気分布と吹き出し口
10. (8)換気設備
11. (9)自動制御設備
12. 5. 防災設備
13. 6. 建築と省エネルギー
14. 7. 設備計画とスペース
15. 8. 電気設備
16. 試験

準備学習

授業毎に教科書の予習(120分)と授業内容の復習(60分)が必要である。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

使用教科書名

「建築の設備」入門 新訂版／同編集委員会編／彰国社／2009年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住環境を構成している建築空間、建築環境について理解を深めるために、体験学習を行う。建築空間は、階段の実測を通して空間の図面表現を理解する。建築環境は、建築空間の音・光・熱・空気環境の計測を通して人間の感覚を理解する。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築空間の図面表現、建築環境と人間の感覚について、説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. A. 建築物の実測(1)階段の実測
2. (2)階段の実測
3. (3)階段の実測
4. (4)平面図および断面図の作成
5. (5)平面図および断面図の作成
6. (6)平面図および断面図の作成
7. (7)平面図および断面図の作成
8. B. 都市再生機構 技術研究所 見学の説明及び課題提示
9. 見学会
10. 課題発表会
11. C. 建築環境計測(1)人の作り出す空間[1] 講義
12. (2)人の作り出す空間[2] 計測
13. (3)熱環境の計測
14. (4)光環境の計測
15. (5)空気環境および音環境の計測

準備学習

授業へは積極的に参加し、授業毎に90分の課題・レポート作成が必要である。

評価方法その他

平常点(60%)、レポート及び課題(40%)の総合評価
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する)

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

構造力学Aの復習を行いつつ、静定構造物の構造力学の理解を深める。また、応力度、ひずみ度、たわみについての考え方を理解し、不静定構造物への導入を計る。さらには、部材に生ずる応力度と材料の許容応力度を比較することにより、許容応力度設計法を学ぶ。

学習目標・到達目標

圧縮、引っ張り、および、曲げモーメントによる応力度の概念を理解し、許容応力度設計法に基づいた構造物の安全評価ができる。

準備学習

配布資料をもとに講義する。
講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15分程度演習の時間を設ける。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

評価方法その他

授業における演習レポート(50%)、及び、試験(50%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1 概要説明(構造物の強度と安全)
- 2 支持反力、軸力部材の考え方(構造力学1レビュー)
- 3 曲げモーメント図、せん断力図(構造力学1レビュー)
- 4 材料の強度と許容応力度(木材、鋼、コンクリート)
- 5 応力度、曲げ応力度の計算(---断面積、断面係数)
- 6 曲げ応力度と曲げ変形(---断面2次モーメント)
- 7 断面の性質(その1:断面係数、断面1次モーメント)
- 8 断面の性質(その2:断面2次モーメント、断面2次半径)
- 9 柱・梁の曲げ変形(偏心荷重による複合応力と変形)
- 10 同上 計算練習
- 11 圧縮応力度、座屈応力度(座屈長さ、細長比)
- 12 構造計算と構造力学(その1:設計荷重、小梁の計算)
- 13 構造計算と構造力学(その2:交差梁、床板の計算)
- 14 構造計算と構造力学(その3:座屈と柱の設計)
- 15 定期試験

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

不静定構造力学、および、実務的な設計計算手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

柱、梁部材の力学特性を理解し、それらが骨組みとして構築された時の役割を理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 概要説明(静定構造・不静定構造・構造設計詳細)
- 2 曲げモーメントと曲げ変形(モールの定理他)
- 3 ラーメン構造の力学(その1:D値法)
- 4 同上
- 5 同上
- 6 同上
- 7 ラーメン構造の力学(その2:固定モーメント法)
- 8 同上
- 9 同上
- 10 同上
- 11 アーチ・ドーム・シェル構造の考え方
- 12 構造計画と設計計算 柱の座屈、梁の横座屈、局部座屈
- 13 トラスの解法と、部材の許容応力度設計
- 14 ラーメン構造の終局強度設計
- 15 計算課題レポート

準備学習

1級建築士受験資格を得るために必要とされる科目です。
ここでの計算演習は、2級建築士の受験において役立ちます。

評価方法その他

授業における演習レポート(50%)、及び、学期末計算課題レポート(50%)による。

使用教科書名

各講義時間に、資料を配付する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築、インテリアデザインの基本、法規や木造建築の基本を学び、デザイン演習の補助とし、応用可能な基礎的能力を高めます。授業の前半は建築家、デザイナーの作品を解説、後半は木造などの技術の基礎を解説、最後にその授業でやったことの小テストを行います。

学習目標・到達目標

建築、インテリアデザインの基本が分かり、デザイン演習に応用できるようになる。

週 テーマ・授業目標等

- 1 面積計算
- 2 容積率、建ぺい率
- 3 面積計算、ドライエリアなど
- 4 コルビュジェ、近代建築の5原則、家具の大きさ
- 5 コルビュジェ、木造の在来構法、桝組み壁構法
- 6 ミース、W造、RC造、S造
- 7 ミース、RC像、S造
- 8 アアルト、基礎
- 9 カーン、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木
- 10 ガウディ、平面図、断面図の間違いやすいところ
- 11 マッキントッシュ、屋根形
- 12 ヲグナー、基礎、土台
- 13 柱の入れ方
- 14 床組み
- 15 小屋組み

準備学習**評価方法その他**

各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価します。配点は出席点20%、テストの得点80%で評価。

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

建物全般の中で最も基礎的な木構造を中心にして、建物がどのようにして建てられているか、各部材の構成方法がどのようになっているかについて、構造や構法の名称（在来軸組構法、木造桝組壁構法、木質系プレファブ構法など）、造作部材の呼び名を含めて具体的に解説する。また、建物を設計・施工し、維持管理するために必要な知識である、建物の構成要素である各部位の材料と、それらが統合された建物全体としての構成及び性能についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造在来軸組構法について、部材の名称とその役割を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス(木造住宅の構法の種類)
2. 住宅の品質確保促進法について
3. 地業・基礎
4. 木材の接合①
5. 木材の接合②
6. 軸組①－土台、大引、根太
7. 軸組②－柱、梁
8. 軸組③－桁、筋かい
9. 軸組④－壁量計算
10. 軸組⑤－壁量計算
11. 床、壁、天井
12. 小屋組①－和小屋
13. 小屋組②－洋小屋
14. 屋根－形、勾配
15. 造作
16. 定期試験

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

構造力学の知識を基に、木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎構造について、構造設計法に焦点を当てて講義、する。また、演習課題を通して、実務的な知識を学ぶ。これらは、建築デザイン演習、環境デザイン演習において必要とする構造の知識である。建築士受験範囲を網羅する。

学習目標・到達目標

建築計画、インテリアデザインにおいて、構造の知識による判断が出来る、あるいは、構造計画に基づいた建築デザインを考えることが出来る。

週 テーマ・授業目標等

- 1 概要説明(地震被害の歴史と耐震設計法の変遷)
- 2 木造軸組構造 1 床、梁の強度
- 3 2 壁量計算に基づく耐震設計
- 4 3 基礎の計算
- 5 鉄骨構造 1 鉄骨構造の設計、および、施工について
- 6 2 床、梁、および、柱の設計
- 7 3 接合部の設計(溶接接合、ボルト接合)
- 8 4 鉄骨構造・諸規定
- 9 鉄筋コンクリート(RC)構造の設計
- 10 1 RC構造の設計、および、施工について
- 11 2 床、梁、および、柱断面の計算
- 12 3 構造計画と耐震設計方針
- 12 4 壁式構造とラーメン構造の耐震性
- 5 RC構造・諸規定
- 13 6 許容応力度設計と終局強度設計
- 14 耐震設計法まとめ
- 15 定期試験

準備学習

配布資料をもとに講義する。
講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15分程度演習の時間を設ける。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

評価方法その他

出席(30%)、演習レポート(30%)、および、定期試験(40%)

使用教科書名

構造用教材 日本建築学会 丸善

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられているコンクリート、木材及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項(種類、特徴、性能など)を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

構造材料(コンクリート、木材、金属など)について、その基本的事項(種類、性質など)を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. コンクリート用材料①(セメント)
3. コンクリート用材料②(骨材及び混和材料)
4. コンクリート供試体の作製
5. 硬化前のコンクリートの性質
6. 木質系材料の種類と性質
7. 木材の圧縮強さ試験
8. 木材の圧縮強さ試験のレポートの作成
9. コンクリートの圧縮強度試験
10. コンクリートの各種試験のレポートの作成
11. 硬化後のコンクリートの性質
12. 金属系材料
13. 鉄筋の引張試験
14. 鉄筋の引張試験のレポートの作成
15. 鉄筋コンクリートの耐久性
16. レポートの提出

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(60%)とレポート(40%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、防水工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際に重要となる、積算・見積りの方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.仮設・地業工事① - 地盤調査
- 3.仮設・地業工事② - 基礎フーチング工事・杭工事
- 4.仮設・地業工事③ - 根切り・山留め工事
- 5.仮設:地業工事④ - 足場
- 6.主体工事① - 鉄筋工事
- 7.主体工事② - 型枠工事
- 8.主体工事③ - コンクリート工事
- 9.主体工事④ - 鉄骨工事
- 10.主体工事⑤ - 鉄骨工事(接合)
- 11.防水工事① - アスファルト防水
- 12.防水工事② - シート防水/塗膜防水
- 13.防水工事③ - 金属シート防水/モルタル防水
- 14.防水工事④ - シーリング防水など
- 15.積算
- 16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

デザインの基本となる、基礎的な造形訓練を行う。ものをよく見て描くこと、具象的な形から抽象的な形を作ること、平面的な形を立体に変換すること、正確な寸法を測って作ること等、いくつかの手法を体験する。同時にそれらの体験を通して、さまざまな材料の特徴や、基本的な道具の使い方と加工方法の基礎を身につける。

学習目標・到達目標

かたちの発想方法を身につけ、素材に適した加工方法が選択できるようになることを目標とする。

準備学習

授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクッキー帳は毎回必ず準備する。また汚れても構わない服装で出席すること。

評価方法その他

提出された課題40%・制作の過程40%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス/授業内容と日程の説明
- 2.レタリング:複数の書体の観察と模写
- 3.レタリング:書体の構成要素を採り入れた文字のデザイン
- 4.文字をつないだ立体の制作:アイデアスケッチ
- 5.文字をつないだ立体の制作:図面の作図
- 6.文字をつないだ立体の制作:紙を重ねた立体の制作
- 7.形の観察と抽象化:自然物の観察とスケッチ
- 8.形の観察と抽象化:自然物を抽象化した立体の制作
- 9.木で曲面を作る:アイデアの展開と試作
- 10.木で曲面を作る:作品の制作(木の切削作業)
- 11.木で曲面を作る:作品の完成
- 12.紙の立体の制作:紙のカードの裁断と試作
- 13.紙の立体の制作:カードを組み合わせた作品の制作
- 14.紙の立体の制作:作品の完成
- 15.作品制作意図のまとめとプレゼンテーション準備
- 16.作品合評会

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

照明の方法、効果、器具の種類、設置場所と設置方法など照明の基礎を学ぶ。(レポート)照明器具の材料は紙、布、木、金属、プラスチック、陶器、有機素材など様々な材料が考えられるが、照明効果を考慮して材料を選択し、材料の特性を生かしたフォルムを考える。今回は最初であるので、紙の特性である折るを生かしたペーパーフォルディングのランプシェード制作(1点目)。次に、平面材である紙、布、線材であるヒモを使用した照明器具を考える(2点目)。授業は素材研究、照明効果の実験、簡単な図面の作成、モデル等を経て制作を行う。

週 テーマ・授業目標等

学習目標・到達目標

照明の基礎知識を学び、材料の特性を活かした照明器具の制作を行うことにより、照明についての考え方を習得する。

準備学習

評価方法その他

課題①、②の作品とプレゼンテーションパネル及びレポート(80%)、平常点(20%)

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

陶土と木を素材とし、スケッチによるアイデアの展開・製図の作成・試作品の制作という一連の手順をふんで食器を制作する。その制作を通して生活の中の道具のあり方を考えながら、デザインのプロセスを実践的に理解する。制作にあたっては、既存の食器の調査や生活の観察と検討をおこない、その結果に基づいて計画的に作品を制作することを原則とする。その過程を通して制作のための基礎的な技術と、デザインの基本的な考え方を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容と日程の説明
2. 陶器制作の基礎①土練り
3. 陶器制作の基礎②既製品の実測と図面の作図
4. 陶器制作の基礎③成形
5. 陶器制作の基礎④底削りと仕上げ
6. 茶碗の制作①アイデアスケッチ
7. 茶碗の制作②デザインの決定と製図の作図
8. 茶碗の制作③成形
9. 茶碗の制作④底削りと仕上げ
10. 木のバターナイフの制作①アイデアスケッチ
11. 木のバターナイフの制作②試作品の制作
12. 木のバターナイフの制作③デザインの決定
13. 木のバターナイフの制作④最終作品の制作
14. 茶碗の制作⑤施釉と窯入れ
15. 作品の制作意図のまとめとプレゼンテーション準備
16. 作品合評会

学習目標・到達目標

陶器の制作技法の初歩と、簡単な生活用品のデザインの考え方を身につけることを目的とする。

準備学習

授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクローキータンは毎回必ず準備する。また汚れてもかまわない服装で出席すること。特に気合いを入れて履修してください。

評価方法その他

提出された課題40%・制作の過程40%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家具の基本的な知識を習得し、先ず椅子の構造を理解するために有名な椅子の図面を基に模型製作を行う。次に平面材であり、ある程度自由な形を作ることができる厚み15mmのシナ合板を使ったオリジナルの椅子のデザインを考える。三面図、模型の制作、側面型定規の制作を経て、椅子制作を行う。

学習目標・到達目標

家具についての基礎知識、モデル製作による椅子構造の理解(有名な椅子の図面を基に)プロダクトデザインのプロセスを学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. 家具の基礎知識
2. 模型製作による椅子構造の理解／有名な椅子の資料を基に
3. 合板による椅子のデザイン アイデアスケッチ
4. 1/10のラフ模型による検討
5. 三面図作成
6. 1/5の模型制作
7. 側面型定規作成 //
8. 制作
9. //
10. //
11. //
12. //
13. //
14. //
15. 写真撮影・パネル製作(プレゼンテーション)

準備学習**評価方法その他**

模型(2点)三面図、椅子作品及びプレゼンテーションパネル(80%)平常点(20%)

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

情報社会に流れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが出来る。本授業では、映像制作を通じてマルチメディアの原理を理解し、情報伝達を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

映像表現を用いて情報を伝達することを学習目標とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1オリエンテーション、映像制作について？
- 2コンセプト、シナリオ作成1
- 3コンセプト、シナリオ作成2
- 4絵コンテ制作1
- 5絵コンテ制作2
- 6ロケーション
- 7撮影
- 8撮影
- 9撮影
- 10撮影
- 11編集
- 12編集
- 13編集
- 14編集
- 15編集
- 16プレゼンテーション

準備学習

映像制作に興味がある方は是非参加して楽しい映像を制作しましょう。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

情報を伝達するメディアは様々である。このメディアデザイン演習Bでは映像を用いて如何に正確な情報を伝えるかを学ぶ事を目的とする。

学習目標・到達目標

CMの企画、シナリオ、演出、撮影、編集を学び、30秒CMの制作を行う。

週 テーマ・授業目標等

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 CMの企画、アイデア会議
- 3回目 ストーリ制作
- 4回目 ストーリ制作
- 5回目 絵コンテ制作
- 6回目 絵コンテ制作
- 7回目 撮影準備会議
- 8回目 撮影
- 9回目 撮影
- 10回目 撮影
- 11回目 撮影
- 12回目 編集
- 13回目 編集
- 14回目 編集
- 15回目 試写会
- 16回目 プレゼンテーション

準備学習

我々は日々沢山の映像を接しながら生活を過しています。この授業を通じて映像メディアの役割や影響について考えて見たいです。沢山のCMを見て下さい。そして、何を伝えようとするのか、どのような表現をしたのか、どのようなアイデアなのかを考えて見て下さい。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

カメラの仕組みと写真の理論、撮影の実習を通じて、写真を理解する。写真は情報伝達の表現手段の一つである。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。実際に風景、人物などの撮影や色々な場面の撮影を行いながら理論を理解し、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。

学習目標・到達目標

写真の理論と撮影の実習。写真は情報伝達の表現手段の一つである。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目標とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1 授業の説明
- 2 講義 カメラの種類と機能、レンズの種類・絞りとシャッターの機能
- 3 撮影演習 1 絞り、シャッター速度などカメラの基本原理の理解
- 4 撮影演習 1 絞り、シャッター速度などカメラの基本原理の理解
- 5 撮影演習 2 季節をテーマとして撮影
- 6 撮影演習 2 季節をテーマとして撮影
- 7 プレゼンテーション及び評価
- 8 撮影演習 3 人物をテーマとして撮影
- 9 撮影演習 3 人物をテーマとして撮影
- 10 プレゼンテーション及び評価
- 11 撮影演習 4 製品をテーマとして撮影
- 12 撮影演習 4 製品をテーマとして撮影
- 13 プレゼンテーション及び評価
- 14 デジタル補正1
- 15 デジタル補正2
- 16 統括

準備学習

デジタル写真に興味があり、情報の伝達が如何なることを深く学ぶことが出来ます。基本的にフォトショップが使えないと授業についてこれないかも知れません。1年生の授業であるCG演習を履修することが望ましい。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)
注)カメラの機材の関係で人数制限があります。CG演習を履修することが望ましい。

使用教科書名

授業中に指定する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、私たちを取り巻く「色」のことを深く知ること
で、インテリア、ファッション、グラフィック、エクステリア環境など
色彩のもつ特性を活かして、ニーズに合った色のアドバイ
スやコンサルティングを中心に色彩に関わる分野の幅広い
知識を学ぶことができる。

学習目標・到達目標

色彩は、外界からの情報を五感から取得している様々な情
報である。特に視覚情報は対象の大きさ、形、運動、質感、
及び色彩などで、本授業では色が人の心と与える影響、色
彩学の中で色彩と人の心の関わりなど、「色彩検定2級」及
び「カラーコーディネート2級」の基本的な知識を習得するこ
とを学習目標とする。

準備学習

「色彩検定2級」「カラーコーディネート2級」の試験概要の違
いについて把握をおこなうこと。希望者には過去出題問題
集をデータで提供しますので、希望者は授業3週目に記憶
媒体(USBスティック等)を持参し登録してください。

評価方法その他

平常点:35%(小テスト2回を含む)／定期試験65%による総
合評価。なお、平常点は、授業への参加・討論への参加等
で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 色の表示－マンセル表示系
2. 色の表示－色名の基本
3. 光と色－光の性質
4. 色彩調和－配色の種類
5. 色彩調和－色彩技法
6. 色彩調和－色彩調和論
7. 配色イメージ
8. 色の見え方
9. ビジュアルデザイン
10. ファッション－ファッションビジネス
11. ファッション－ファッションコーディネート
12. プロダクト
13. インテリアとエクステリア－インテリア
14. インテリアとエクステリア－エクステリア
15. 「色彩検定」の総括
16. 定期試験

使用教科書名

「特に指定しない。」

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活のなかで人間工学がかかわる対象は広範囲におよぶ。
衣・食・住と情報は人が生きていくためには欠かせないもの
であり、身体を守り生命を維持し、社会的な活動と様々な作
業を行い、休息とくつろぎを得ながら暮らしていくための道
具である。それらのデザインをする際には、人間工学の知見
に基づく検討は不可欠である。生活のなかの人間工学に関
わる事例を紹介しながら、生活者の立場から、衣・食・住・情
報と人のより適切な関係について考える。

学習目標・到達目標

生活の中で人間工学の果たす役割について理解できる。

準備学習

授業の内容は2年次の「人間工学」の続きですが、2年次の
授業を聞いていなくても理解できるよう配慮します。

評価方法その他

試験またはレポート80%・平常点20%(平常点は授業への
参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 人間工学の定義
2. 生活と人間工学①生活とものづくりの関係
3. 生活と人間工学②人間生活工学の考え方
4. 人体特性データベース①人体寸法
5. 人体寸法データベース②運動特性
6. インターフェイスデザイン①わかりやすさとは？
7. インターフェイスデザイン②設計の原則
8. ユニバーサルデザイン①ユニバーサルデザインの考え方
9. ユニバーサルデザイン②ユニバーサルデザインと規格
10. 製品安全①製品に対する製造者の法的責任
11. 製品安全②製品の欠陥について
12. 製品安全③使用方法と安全について
13. 製品安全④製品安全実現の手順
14. 製品安全⑤ヒューマンエラーを防ぐために
15. まとめ
16. 試験またはレポート提出

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

文化の視点から総合的に食を観察する食文化。台所と食卓の視点で食について観察する食事文化。ここでは、食に関わるモノ(生活用具)を通して人の文化を考える。

学習目標・到達目標

食に関わる道具と日本独自の食の文化との関わりを理解する。箸を使用する文化圏は東アジアであるが、箸だけで食事をする国は日本だけである。椀を手で持つことを含めて、箸のみで食事ができる様に調理されているからである。その背後には様々な包丁の種類やまな板、箸の種類や小皿の存在がある。また箸の先端が細く、様々な使用方法ができることも日本独自である。箸という食の道具(食具)を観るだけで日本独自の文化が見えてくることを理解したい。

準備学習

評価方法その他

レポート(80%) 平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・ガイドンス
- 第2週・・・西の文化と東の文化。雑煮
- 第3週・・・日本料理／寿司ブーム
- 第4週・・・日本の味／肉じゃが
- 第5週・・・コメの食文化／電気釜
- 第6週・・・三大食法(手食・箸食・ナイフ食)
- 第7週・・・魚醤・味噌・醤油
- 第8週・・・桶と樽／升
- 第9週・・・個卓から共卓へ／懐石料理
- 第10週・・・台所の変遷／ダイニングキッチン
- 第11週・・・包丁とまな板
- 第12週・・・器の文化／北大路魯山人／尾形乾山
- 第13週・・・寿司／小野二郎
- 第14週・・・食のライフスタイル／食の産業化、食の世界化
- 第15週・・・まとめ

使用教科書名

随時資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

異物をのみこんだり、すぐに転んだり、子どもには危険が多い。そんな事故を防ぎ、創造性を育むように工夫した「子ども目線」の製品が少しずつ広がっている。玩具や子供向けの製品に限らず、建築空間、住宅・施設・公園・景観などのデザインも含まれる。子どもに優しいデザインは、大人を含め、障害者にとっても優しいデザイン(ユニバーサルデザイン)である。セーフティデザイン安全安心の提案、ユニバーサルデザイン福祉対応の提案、エコロジーデザイン環境対応の提案などを解説する。

学習目標・到達目標

「キッズデザイン」の普及が期待され、企業のものづくりにとっても、ユニバーサル、エコ、サステナブルデザインの理念とも密接につながる「キッズデザイン」は、今後大いに注目すべきテーマであるといえる。子供のためのデザインとは、また子供に優しいデザインとはどのようなことかを理解する。

準備学習

評価方法その他

レポート(80%) 平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 1, ガイドンス
- 2, 子供にとっての安心、安全
- 3, キッズデザイン、製品(1)
- 4, " (2)
- 5, " (3)
- 6, 玩具 (1)
- 7, " (2)
- 8, " (3)
- 9, 子供服
- 10, 子供と住まい
- 11, 子供と環境
- 12, ユニバーサルデザイン(1)
- 13, " (2)
- 14, エコデザイン
- 15, まとめ

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食器のうち、主に漆を使った食器（漆器）をとりあげ、漆の採取方法と性質、漆器の作り方や扱い方について学ぶ。あわせて漆器作りに必要な、手漉き和紙制作の技術・道具・材料についても解説する。
またヨーロッパの陶磁器作りの歴史について概略を解説する。
それらのことを通して、ものづくりのシステムと私たちの生活との関わりについて考える。

学習目標・到達目標

漆の性質と漆器の制作方法、及び漆器の扱い方を理解できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業内容の解説
2. 漆芸1／漆の特徴（漆とはなにか）と採取方法について
3. 漆芸2／漆器の素地材料①木材
4. 漆芸3／漆器の素地材料②木材以外の材料
5. 漆芸4／漆の技法（下地について）
6. 漆芸5／漆の技法（塗りについて）
7. 漆芸6／漆の技法（加飾技法について）
8. 漆芸7／漆芸の道具作り（漆刷毛の制作）
9. 手漉き和紙の制作1／和紙の原料と制作工程
10. 手漉き和紙の制作2／漆漉し紙の制作
11. 日本の漆芸の歴史①縄文時代～古代
12. 日本の漆芸の歴史②中世～近世
13. ヨーロッパの陶磁器作り①古代ギリシャ
14. ヨーロッパの陶磁器作り②中世のスペインとイタリア
15. ヨーロッパの陶磁器作り③マイセンの磁器
16. 試験またはレポート提出

準備学習

「食卓と工芸」を履修していると話を理解しやすいと思います。

評価方法その他

試験またはレポート80％・平常点20％（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代生活にあふれている多くのものが果たす役割は、生活の諸相を丹念に観察したり体験したりすることで理解が深まる。この講義では、かつての生活ともの、現代生活ともの、そこに至る変化の過程などを注意深く見ながら学び、生活観察とデザインの結びつきを考察する。

学習目標・到達目標

- ・生活観察の基礎的な考え方を理解し、その方法を体験する。
- ・ものの意味や役割を、できるだけ幅広く理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクションー講義日程と内容の概要
2. 生活観察の意義
3. ひと昔前の生活と現代生活の比較
4. ひと昔前と現代との、生活観とデザイン観の比較
5. ものに囲まれた現代生活の観察
6. 『サザエさん』に描かれたものと生活の観察(1) 変化の実態
7. 『サザエさん』に描かれたものと生活の観察(2) 変化の傾向
8. 生活用具の変遷(1) 電化製品広告と時代背景
9. 生活用具の変遷(2) 製品開発コンセプトの変遷
10. 生活用具の変遷(3) 造形の変遷
11. 一具多用のもの文化
12. 図像の象徴的表現と生活文化
13. ものの象徴的意味(1) 物理的機能との対比
14. ものの象徴的意味(2) 愛着、愛用
15. まとめ

準備学習**評価方法その他**

平常点35％、小レポート15％、最終レポート50％

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

1年次の生活デザイン演習Aと同Bの発展として、生活デザイン学科の授業科目を専門的、主体的に学ぶための考え方や手法を身につける。後期の生活デザイン演習Dでは、「つたえる」をキーワードとして複数の実践的な課題を設定し、コミュニケーション能力の向上をめざす。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

準備学習**評価方法その他**

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方と日程の説明
2. 各課題の内容と目的の説明
3. 課題「つたえる」1の1回目
4. 課題「つたえる」1の2回目
5. 課題「つたえる」2の1回目
6. 課題「つたえる」2の2回目
7. 課題「つたえる」3の1回目
8. 課題「つたえる」3の2回目
9. 課題についての発表と講評

- ・授業は集中講義の形式で行う。
- ・課題「つたえる」の授業は、1課題につき180分を2回。
- ・授業内容と日程の詳細については初回授業で告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察する事は習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。ここでは主に糸・布を対象とした1)各種繊維布の分解による布構造の観察と性質、2)機械的性質としての引張り強伸度、摩擦・摩耗試験、および3)帯電性等の項目について実験し、繊維の性質を背景とした糸、糸を組み合わせた布の構造と性質について理解する。

学習目標・到達目標

高分子材料学実験 I は実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、得られた結果からどんな結論が導かれるかを考える能力を高めることを目標とする。
到達目標: 主要な布構造と性質の関係が理解出来、引張り強伸度、帯電性等のチャートを読む事が出来る。

準備学習

授業の始めに注意事項を含めた説明をします。理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。
テキスタイル材料学、衣繊維学の講義の中で出て来た事柄について実験してみると、より一層イメージが湧き、理解出来ると思います。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週 テーマ・授業目標等

1. 実験プログラムの説明
2. 織物の分解1
3. 織物の分解2
4. 考察1
5. 摩耗試験1
6. 摩耗試験2
7. 摩擦試験1
8. 摩擦試験2
9. 考察2
10. 引張強伸度測定1
11. 引張強伸度測定2
12. 帯電性試験1
13. 帯電性試験2
14. 考察3
15. 総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した事柄を、自分の手で実験し観察する事は習得した事柄の理解を深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段である。この実験では繊維と糸を中心とした実験を行い、1)各種繊維の観察と性質として顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性を、2)各種糸の構造観察と性質等の項目について実験し、各種性質を利用した繊維の鑑別から糸・布にいたる一連の流れの中での相関を理解させる。

学習目標・到達目標

繊維学実験 I は実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、得られた結果からどんな結論が導かれるかを考える能力を高めることを目標とする。
到達目標：主要な天然繊維・合成繊維の鑑別ができる。

週 テーマ・授業目標等

1. 実験プログラムの説明
2. 顕微鏡による繊維の観察1
3. 顕微鏡による繊維の観察2
4. 繊維の燃焼性1
5. 繊維の燃焼性2
6. 考察1
7. 呈色による繊維の鑑別1
8. 呈色による繊維の鑑別2
9. ビニロンの紡糸
10. ビニロンのアセタール化
11. 糸の構造1
12. 糸の構造2
13. 考察2
14. 未知試料の鑑別
15. 総合的考察

準備学習

授業の始めに注意事項を含めた説明をします。理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。
テキスタイル材料学、衣繊維学の講義の中で出て来た事柄について実験してみると、より一層イメージが湧き、理解出来ると思います。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

使用教科書名

実験書を配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレル製品の企画・設計・流通・管理や、衣服デザインに関する基礎的な知識を学ぶ。1回はアパレルメーカーの講師による特別授業を予定している

学習目標・到達目標

アパレルデザインの基礎を学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. 1章 商品企画とアパレルデザイン
2. 1章 商品企画とアパレルデザイン
3. 特別授業
4. 2章 ファッションの変遷とその背景
5. 2章 ファッションの変遷とその背景
6. 3章 衣服デザインの基礎
7. 3章 衣服デザインの基礎
8. 4章 フォーム
9. 4章 フォーム
10. 5章 カラー
11. 5章 カラー
12. 6章 テキスタイル
13. 6章 テキスタイル
14. 7章 着装とデザイン
15. 8章 コストとデザイン

準備学習

テキストは大学で一括購入しますので、事前に購入する必要はありません。

評価方法その他

平常点40%、レポート・作品30%、試験30%

使用教科書名

『改訂 アパレルデザインの基礎』 日本衣料管理協会 2004

授業科目概要・教育目的（履修条件）

アパレルのデザイン画で表現の仕方を実習し、ドレーピング（立体裁断）実習を通して、アパレルの基礎技術も学ぶ。1回はアパレルメーカーの講師による特別授業を予定している。

学習目標・到達目標

アパレルデザインの表現法としてデザイン画やドレーピング（立体裁断）の実習により、アパレルの商品化の基礎技術を修得する。

準備学習

実習では作品を完成させるので、欠席をしないでください。欠席の後は、必ず遅れを取り戻す努力をしてください。

評価方法その他

平常点40%、作品30%、試験30%
授業参加状況、作品制作の取り組み等総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.デザイン画(スード正面)
- 2.デザイン画(パンツ、スカート)
- 3.特別授業(アパレル企業の講師による)
- 4.デザイン画(衿、袖)
- 5.デザイン画(創作下絵)
- 6.デザイン画(創作彩色完成)
- 7.ドレーピングの説明、ボディライン入れ
- 8.ドレーピング、スカート用シーチングの用意
- 9.ドレーピング、スカート実習
- 10.ドレーピング、スカートパターン修正、縫代整理
- 11.ドレーピング、紙に転写、上半身シーチング準備
- 12.ドレーピング、上半身実習
- 13.ドレーピング、上半身実習
- 14.ドレーピング、上半身修正、縫い代整理
- 15.ドレーピング、上半身とスカートをつなげる試験

使用教科書名

随時テキストとプリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人体下半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて下衣の基本的なショートパンツとスカートの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズのショートパンツとスカートの制作を通して、基礎的な制作技術を習得する。

学習目標・到達目標

下衣の基本的なショートパンツおよびスカートの制作をする。制作に必要な人体下半身の計測法を学び、計測値を基に自身のサイズの製図をし、作品を完成させて着装発表をする。

準備学習

初めて自分のショートパンツとスカートを作る人でも完成できますので、是非挑戦してください。ただし、欠席しない事が条件です。制作実習は、毎回の積み重ねで完成が可能なのです。

評価方法その他

平常点40%、作品制作30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

週 テーマ・授業目標等

1. 各種スカート、ショートパンツの説明、用具の説明、人体計測
2. ショートパンツ・スカートの製図
3. ショートパンツパターンの整理、布裁断、印付け
4. ショートパンツ、ポケット作り・付け
5. ショートパンツ、脇・股下・股上縫合
6. ショートパンツ、裾・ウエスト始末、ゴム通し、完成
7. スカートのパターン整理、裁断、印付け
8. 仮縫い
9. 補正、脇・ダーツなどの本縫い
10. ファスナー付け
11. ベルト付け、レポート作成の説明
12. ベルト付け完成、ヘムの始末
13. 前カン付け
14. 仕上げアイロン
15. ショートパンツ・スカートの着装発表、レポートの提出

使用教科書名

製作したテキスト配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

繊維製品には取扱い絵表示がついている。実験を通じ取扱い絵表示を正しく理解し、身のまわりの繊維製品の取扱いについて適切な方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

繊維製品の素材や加工に関する知識を基礎に、商品についている取扱い絵表示の意味と適切な取扱い方法を理解することを目的とする。

準備学習

繊維製品には必ず取扱い絵表示がついています。なぜその絵表示がついているのか実験で確かめ理解を深めて下さい。

評価方法その他

レポートを80%、平常点を20%とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）
2. 洗い方について 液温30℃限度、弱い手洗い
3. 洗い方について 液温30℃限度、洗濯機弱水流または弱い手洗い
4. 洗い方について 液温40℃限度、洗濯機弱水流または弱い手洗い
5. 洗い方について 液温40℃限度、洗濯機使用
6. 洗い方について 液温60℃限度、洗濯機使用
7. 漂白試験①
8. 漂白試験②
9. アイロンの掛け方 210℃、高い温度
10. アイロンの掛け方 160℃、中温程度
11. アイロンの掛け方 120℃、低い温度
12. ドライクリーニング試験
13. 絞り方試験
14. 干し方試験
15. まとめ

使用教科書名

適宜プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

繊維製品、および洗浄剤、染料、加工剤等の構造や加工・成分の分析に用いられる各種の機器を用いて、その使用方法と結果の意味を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

繊維材料の性質を知るための代表的測定である熱的測定、光学的測定を実験し、測定原理と結果の意味を理解することを目標とする（花田）
洗剤や撥水剤の適用法と効果、染色堅ろう度の意義や試験法を学び、測定結果の理解と効果の評価・考察することを目標とする（藤居・佐々木）

準備学習

授業の始めに注意事項を含めた説明をします。理解しようとする気持ちを持って受講して下さい。ホットプレスによる試料作り、測定、最後に簡単な解析を行って原理の理解に努めます。（花田）

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。（花田）

週 テーマ・授業目標等

1. 実験概略の説明（花田）
2. 繊維の熱分析測定（1）（花田）
3. 繊維の熱分析測定（2）（花田）
4. 赤外吸収スペクトル測定（1）（花田）
5. 赤外吸収スペクトル測定（2）（花田）
6. 染料の可視吸収スペクトル測定（花田）
7. まとめ（花田）
8. 洗剤の主成分・ビルダー類のpH測定（藤居・佐々木）
9. 市販洗剤溶液のpH測定（藤居・佐々木）
10. 撥水度試験（1）（藤居・佐々木）
11. 撥水度試験（2）、通気性試験など（藤居・佐々木）
12. 染色堅ろう度試験（1）（藤居・佐々木）
13. 染色堅ろう度試験（2）（藤居・佐々木）
14. 染色堅ろう度試験（3）（藤居・佐々木）
15. 総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する（花田）
適宜プリントを配布する（藤居・佐々木）

授業科目概要・教育目的（履修条件）

情報の伝達、表現方法である2次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は2次元CGの代表的なツールであるPhotoshopやIllustratorを用いて課題を行いながら基礎的な学習を行う。

学習目標・到達目標

PhotoshopやIllustratorの基本を学び情報を加工し表現出来ることを目標とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1 授業のオリエンテーション、2次元CGの概要
- 2 課題1の説明、2次元CGの基礎A?Photoshop1
- 3 2次元CGの基礎A?Photoshop2 小課題 1-1
- 4 2次元CGの基礎A?Photoshop3 小課題 1-2
- 5 2次元CGの基礎A?Photoshop4 小課題 1-3
- 6 総合課題 1
- 7 総合課題 1
- 8 課題2の説明2次元CGの基礎B Illustrator1
- 9 2次元CGの基礎B?Illustrator2 小課題 2
- 10 2次元CGの基礎B?Illustrator3 小課題 2-2
- 11 2次元CGの基礎B?Illustrator4 小課題 2-3
- 12 総合課題 2
- 13 総合課題 2
- 14 完成&制作レポート
- 15 プレゼンテーション1
- 16 プレゼンテーション2

準備学習

パソコンの基本的な技術は必修です。基本をわからないのであれば事前学習して下さい。一番簡単な本でも良いのでPhotoshopやIllustratorに関する本を読んでみて下さい。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の生活デザイン演習Aに引き続き、生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方や手法を、体験的に学習する。「はかる」をキーワードとして複数の課題を設定する。卒業生との懇談会も行う。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方と日程の説明
2. 各課題の内容と目的の説明
3. 課題「はかる」1
4. 課題「はかる」2
5. 課題「はかる」3
6. 課題「はかる」4
7. 課題「はかる」5
8. 卒業生との懇談会1
9. 卒業生との懇談会2
10. 課題についての発表と講評

- ・授業は集中講義の形式で行う。
- ・課題「はかる」の授業は1回につき180分
- ・授業内容と日程の詳細については初回授業で告知する。

準備学習

前期同様、第1回目の授業で、この授業の「目的・意義」について説明するので、理解した上で、意欲的な受講・学習を期待する。また、卒業生との懇談会については、卒業生への質問事項を用意して授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実生活において必要となる経済関連の知識として、FP（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「A. ライフプランニングと資金計画」「B. リスク管理」「C. 金融資産運用」「D. タックスプランニング」「E. 不動産」「F. 相続・事業承継」の6分野、そのうち特に「金融」「タックス」に重点を置く。ただし、単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に活用可能な実践的学びの場としていくため、講義には積極的に参加・発言することが望まれる。

学習目標・到達目標

私たちは日々の生活のために何らかの経済取引を行い続けている。「モノやサービスを買う・消費する」「お金を貯める、増やす」「借りる」「リスクに備える」「税を払う」などの経済取引において合理的な意思決定を行う際に、日本の法律や制度を知っているかどうかは大きな差につながる。本講義では、消費者・生活者としての視点を軸にしつつ、それに加えて、将来金融業界に関わる職業人としても役に立つ金融経済の知識やスキルの習得を目標とする。

準備学習

前提となる知識は特にありません。経済・金融に関する基礎知識があるとより理解が深まります。また、FP（ファイナンシャル・プランナー）について事前知識があると学習範囲の全体像が把握できます。生活者としての視点を重視しますが、最初に授業を受ければ、初級のFP資格取得レベルの知識が身に付きますので、授業後は積極的な資格試験への挑戦を期待します。

評価方法その他

平常点(60%)、授業の最終回に実施する総合テスト(40%) (平常点は授業への参加状況、授業中に課す課題の提出等により、総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. パーソナル・ファイナンスの全体像(オリエンテーション含む)
2. ライフプランニングと資金計画
3. キャッシュフロー表の作成
4. 社会保険制度と年金制度
5. タックスプランニング①(税制の全体像と所得税の基礎)
6. タックスプランニング②(所得税の計算)
7. タックスプランニング③(源泉徴収制度とその他の税)
8. リスクマネジメント(生命保険と損害保険)
9. 金融資産運用①(経済・景気指標と金利)
10. 金融資産運用②(各種金融商品の概要)
11. 金融資産運用③(その他金融商品とポートフォリオ運用)
12. 不動産運用設計(不動産の取引、法令上の規制、税金)
13. 相続・事業承継の基礎知識(相続税)
14. 相続・事業承継の基礎知識(贈与税)
15. 全体の復習、総合テスト

使用教科書名

「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-[第3版]」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2014年発行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食分野の実験の基礎となるもので、自然科学の理解や基本的実験技術の習得を目的とする。食科学の基礎として重要な自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。そのため、微生物学・化学・生物学等の分野から、特に必要と思われる基本的な実験を選んで構成している。

学習目標・到達目標

自然科学の基本的な現象を理解し、因果関係に基づく推論や論理的な試行で実験結果を考察できるようになること。また、一つの課題をチームで協力して解決していくような、協調的な作業ができるようになること。

準備学習

高校生物・高校化学で学習する用語・知識を前提にすることがあるので、生物・化学関係の基礎科目を履修しておくことが望ましい。また、予め配布されたテキストを予習した上で実験・実習に参加すること。時間中は、チームで協力して作業を進め、ディスカッションしながら進めること。また、授業開始時にはすぐに実験を始められる準備を整えて待機すること。

評価方法その他

平常点(50%)およびレポートの得点(50%)による総合評価。平常点は授業への参加状況を総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション/班分け・準備作業
2. 生物分野実験内容解説
3. 顕微鏡の使い方/マイクロメーターの使い方
4. 植物細胞・動物細胞の観察
5. 魚類の解剖/骨格標本の観察
6. コハク酸脱水素酵素の実験
7. ATPによる筋収縮実験
8. 遺伝子組換え植物の色素抽出実験
9. 化学分野実験内容解説
10. 容量分析(1)中和滴定
11. 容量分析(2)酸化・還元滴定
12. 器具の滅菌・培地調製
13. 食材の微生物検査
14. 食具の微生物検査
15. 成果報告会

使用教科書名

適宜、テキストを配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食の機能を理解するためには、ヒトの体の構造や働き、さらには病気に関する知識も必要となる。人体を構成する骨格・筋肉・神経・内臓器官などは、驚くほど合理的な構造をもち、極めて効率的に所定の機能を果たしている。そこで、本講義では、人体の構造と機能を系統的に理解するために、細胞・組織から、器官、器官系と段階を追って学習し、人体の全体像について理解を深める。

学習目標・到達目標

人体の基本構造と主要な器官の働きを理解する。特に、日々の生活において私たちの体がどう機能しているかを学習し、食の専門分野を学ぶ際に必要な基礎知識とその知識を元にさまざまな生命現象の原因を推察する能力を身に付ける。

準備学習

高校生物(生物I)における細胞と個体の成り立ち、刺激の受容と反応、内部環境の恒常性といった内容に関する知識を前提とするので、予習しておくこと。

評価方法その他

中間試験(レポートを含む)の得点(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 OL/人体に関する用語解説
- 2 人体概観
- 3 細胞の構造と機能
- 4 体を構成する組織
- 5 骨格系/骨格の形態と各部の構成
- 6 筋系/形態と機能
- 7 血液/血液の構成と機能
- 8 生体防御系/免疫の種類と機構
- 9 循環器系
- 10 内分泌系と調節機構
- 11 消化器系/全体の構成
- 12 消化器系/各部分の働き
- 13 呼吸器系
- 14 泌尿・生殖器系
- 15 神経系と感覚器系
- 16 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会で最も必要なのは情報とコミュニケーション能力と言える。情報を正しく理解し、伝えるのがコミュニケーションの始まりである。本授業では、情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の視覚化に流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の視覚化を体験しながらコミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

情報とコミュニケーションの関係を理解し、情報を収集、分類、可視化することにより正確な情報を伝達出来ることを学習目標とする。

準備学習

新聞やニュース、CMなどのメディアを見ながら何をどう伝えようとするのかを考えて下さい。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 1講義のオリエンテーション、情報とコミュニケーション。
- 2広告デザインとコミュニケーション
- 3インフォメーションデザインと実例
- 4グラフィックデザインの要素(デザイン原理)
- 5演習:チーム構成、テーマ決定、ブレインストーミング
- 6演習:情報の収集
- 7演習:情報の分類
- 8演習:表現の基礎1
- 9演習:表現の基礎2
- 10演習:表現の基礎3
- 11演習:表現の基礎4
- 12制作:情報の可視化1
- 13制作:情報の可視化2
- 14制作:情報の可視化3
- 15制作:情報の可視化4
- 16プレゼンテーション

使用教科書名

授業中に指定する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会の中で見られるさまざまなデザインの事例を通じて、デザインの概念、領域、プロセス、方法論、思考法などについて学習する。基礎知識としてデザインの諸相を理解するだけでなく、「デザインとは何か」ということとデザイン思考の応用法とを、自分で考えて言葉で表現する。

学習目標・到達目標

- ・デザインの諸相を基礎知識として理解する
- ・「デザインとは何か」を自分で考え表現する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクションー講義日程と内容の概要
2. 身近なものに見られるデザインとその領域
3. 行動観察に基づくデザイン
4. 身近なものから考えるデザインのプロセス
5. デザイナーの仕事に見られるデザインのプロセス
6. デザインの辞書的定義の分析
7. デザインの事例(1) 工業デザイン
8. デザインの事例(2) 視角伝達デザイン
9. デザインの事例(3) 書体デザイン
10. デザインの事例(4) 環境デザイン
11. デザインの現場(1) デザイナーの仕事と思考法
12. デザインの現場(2) 社会の中のデザイン
13. デザインの事例(5) 複合領域デザイン(1) 街具
14. デザインの事例(6) 複合領域デザイン(2) サイン
15. まとめ

準備学習**評価方法その他**

平常点35%、小レポート15%、最終レポート50%

使用教科書名

教科書は使用しない。資料を配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間工学は、人間と機械をひとつのまとまり「人間-機械系（マン-マシンシステム）」にとらえ、機械や作業環境の性能・形態・状況が、人間の心と体の感覚や運動などの能力・特徴によく適合し、人間-機械系の性能が十分かつ安全に発揮されることをめざす。そのために生理学・解剖学・動作研究・社会学など様々な立場から人間を客観的に観察・分析し、人間-機械系を最も合理的に設計しようとする科学である。その人間工学の概略について解説する。

学習目標・到達目標

人間工学の考え方の基本と、人間工学とデザインの関係を理解することを目標とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 人間工学の定義
2. 人間工学の源流
3. 人間工学の発展
4. 人間工学と社会①
5. 人間工学と社会②
6. 人間工学とデザインの関係①
7. 人間工学とデザインの関係②
8. 人間工学と生活(事例紹介)
9. 人体の構造と機能①骨格
10. 人体の構造と機能②筋の働き
11. 人体の構造と機能③視覚・聴覚
12. 人体の構造と機能④神経系の働き
13. 人体の構造と機能⑤人体寸法の測定
14. 人体の構造と機能⑥人体機能の測定
15. まとめ
16. 試験またはレポート提出

準備学習**評価方法その他**

試験またはレポート80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は消費者教育を中心とした生活課題解決の方法を社会的に考え、後半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

準備学習

生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。

評価方法その他

平常点 50点（上村分:25点 井上分:25点）
レポート・試験50点（上村分:25点 井上分:25点）

週 テーマ・授業目標等

- 1.くらしをつくりかえる家庭経営学
- 2.自立のための意思決定
- 3.社会人になるための経済学
- 4.カード社会の歩き方
- 5.消費者市民社会
- 6.リスクマネジメント
- 7.持続可能な消費のための教育
- 8.「住まう」という観点から家族写真を読む
- 9.映像にみる家族 家族構成の観点から
- 10.映像にみる家族 生活文化継承の観点から
- 11.映像にみる家族 コミュニティの観点から
- 12.ワークショップ 家族の風景
- 13.ワークショップのまとめ
- 14.育児をめぐる生活時間調査について
- 15.授業の振り返り
- 16.試験

使用教科書名

- (1)暮らしをつくりかえる生活経営力/朝倉書店/2010
- (2)これであなたもひとり立ち 金融広報中央委員会

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標・到達目標

健康と病気の定義について説明ができる
年代別の健康問題と管理について述べることできる
高齢者の心身の特徴について説明ができる。
加齢や病気で障がいがあってもその人の望む生活ができるよう、生活を支援する技術と知識を身につけることができる。

準備学習

日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

評価方法その他

試験（評価）70％ 授業中の活動状況30％として総合的に評価する。
授業への主体的な参加も重視する。
平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1オリエンテーション 家庭看護を学ぶ意義
- 2健康と病気①健康について
- 3健康と病気②看護と介護
- 4病気と看護①家族の年代別健康管理
- 5病気と看護②病気の種類と特徴
- 6 病気と看護③生活習慣病について
- 7病気と看護④家庭での看護
- 8病気と看護⑤看護の基本技術
- 9高齢者の介護①高齢者の心身の特徴
- 10高齢者の介護②高齢者の福祉
- 11高齢者の介護③介護の基本
- 12高齢者の介護④高齢者疑似体験
- 13高齢者の食事介護について
- 14高齢者の排泄介護について
- 15高齢者の移動介護について
- 16試験

使用教科書名

家庭看護・福祉 新訂版 内海 滉ほか 実教出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標

現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようになる。

準備学習

関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
 - (2) 視察レポートの提出 30%
 - (3) 平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から
- 3 消費者教育をめぐる動向
- 4 企業と消費者教育
- 5 企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者
- 6 行政における消費者情報①:消費者教育の実践
- 7 行政における消費者情報②:消費生活相談情報
- 8 行政における消費者情報③:消費者事故情報
- 9 メディアリテラシーとは何か
- 10 生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討
- 11 消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用
- 12 消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法
- 13 消費者情報に関わる統計の分析と評価
- 14 消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用
- 15 まとめ
- 16 期末試験

使用教科書名

国民生活センター編『くらしの豆知識(2015年版)』2014年
消費者庁企画課編『ハンドブック消費者(2014)』全国官報販売協同組合、2014年
(※テキストの購入については、初回の講義にて案内します)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業では、経済社会を国民生活を中心に据えて再考するとともに、現代的課題を検討し、消費生活の現状を消費者としてだけでなく生活者の視点から捉え直す。価格決定のメカニズムや物価など経済学の基礎を学び、市場における企業の行動、戦略についても理解する。各回のテーマに関連した身近なトピックスについて考察を深め、各自の考えをまとめる。

学習目標・到達目標**準備学習****評価方法その他**

期末試験70%と出席状況および提出物を含む授業への参画度30%

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 経済社会の変遷と生活(1)
3. 経済社会の変遷と生活(2)
4. 経済社会の変遷と生活(3)
5. 効用の最大化と消費者行動
6. 需要と価格
7. 供給と価格
8. 他者の行動と消費者行動
9. 価格による心理的影響と消費者行動
10. 消費者物価指数の変動と生活
11. ライフサイクルと消費生活(1)
12. ライフサイクルと消費生活(2)
13. 消費低迷と将来不安
14. 企業の社会的責任と生活者
15. 授業のまとめ

使用教科書名

使用しない。必要な資料はプリントで配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「情報とはなにか」ということから説き起こし、情報の本質を理解する。そして情報は第4の経営資源であるということを実例をもとに説明する。
また、情報を伝達するメディアについても概説し、その課題と問題点を探る。

学習目標・到達目標

高度な情報社会の今日、個人の生活でも仕事でも情報活用能力が要求されている。情報社会の現代、私たちの生活と情報は切っても切り離せない関係になっている。それゆえに起因するさまざまな問題が生じていることは周知のことであろう。これらの問題を正しく認識し、その解決策を自分で考えなければならない。そのための情報リテラシーを習得し、また生活における情報の活用と有効利用ができるようになることを目的とする。

準備学習**評価方法その他**

出席を重視する。
平常点(50点)とレポート、試験(50点)の成績を総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 高度情報社会と生活
2. 情報とはなにか1
3. 情報とはなにか2
4. 情報とはなにか3
5. 情報社会1
6. 情報社会2
7. デジタルとアナログ
8. メディアとはなにか
9. メディア(新聞)
10. メディア(放送)
11. メディア(通信)
12. メディアの融合(マルチメディア)
13. 情報メディア
14. 情報社会と生活1
15. 情報社会と生活2

使用教科書名

新・情報社会論
小池澄男著:学文社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

健康で豊かな衣生活を目標に、服飾史、被服デザイン、被服製作、被服材料、被服衛生、被服管理などの分野の基礎を総括的に講義し、被服の役割と機能を分かりやすく概説する。

学習目標・到達目標

被服・服飾の領域全般を広く学び、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つ基礎知識を習得する。

準備学習

被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史、被服材料、被服衛生、被服管理などの基礎を多角的に概説します。被服・服飾の領域全般を広く学ぶことにより、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つような内容です。例えば、服の縫製や品質のチェック、色彩や体系を考慮したコーディネート、季節の寒暖に適合した素材や着用の方法、正しい洗濯や管理法などの知識は、日常に衣生活に役立つことでしょう。

評価方法その他

1～7週担当者と8～15週担当者による担当者別の筆記試験(80%)および平常点(20%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 被服学の領域、被服の着用目的・起源
2. 被服の基本形態と表現(1)
3. 被服の基本形態と表現(2)
4. 服飾の変遷(1)
5. 服飾の変遷(2)
6. 服飾の変遷(3)
7. 服飾の変遷(4)
8. 被服材料(1)天然繊維
9. 被服材料(2)天然繊維と合成繊維
10. 被服材料(3)合成繊維と新合繊
11. 糸・布地・加工・性能
12. 被服の性能と衛生
13. 被服管理(1)被服の整理・洗濯の意義と方法
14. 被服管理(2)洗剤の成分と働き・合理的な洗濯と仕上げ
15. 被服管理(3)洗浄の実際等
16. 試験

使用教科書名

プリントの配布等

授業科目概要・教育目的（履修条件）

成人女子用の浴衣製作を通じて、和服の構成と縫製方法を習得する。国際的な文化交流に役立つように、和服の基礎知識として歴史、素材、産地、収納と手入れなども学ぶ。さらに、手縫いの基本である運針を身につけ、基礎的な手縫いの手法を体系的に学ぶ。また、浴衣地で和装小物を製作し、浴衣に合わせて自分らしい着こなしを考える。

学習目標・到達目標

日本の民族衣装である和服の構造を理解し、浴衣の製作および着装することができる。

準備学習

浴衣の知識、技術、着付けなどを身につけて自分らしい着こなしを楽しみましょう。
授業外の作業もありますので、説明した範囲まで進めてきてください。

評価方法その他

平常点30%（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）作品40%、提出物20%、授業ないでの小テスト10%

週 テーマ・授業目標等

1. 和服の種類と構成、浴衣地の説明と選択、基礎の手縫い1（準備）
2. 基礎の手縫い2（縫製）、運針、道具説明、採寸、寸法計算
3. 基礎の手縫い3（仕上げ）、浴衣の柄合わせと裁断
4. 袖部分の製作1（印つけ、縫製）
和装小物製作1（生地糊づけ）
5. 袖部分の製作2（丸みの始末、袖口ぐけ、袖仕上げ）
和装小物製作2（印つけ、裁断）
6. 身頃部分の製作1（身頃印つけ、背縫い）
和装小物製作3（チュール、ビーズの準備）
7. 身頃部分の製作2（肩当て、脇縫い、脇縫い代始末）
和装小物製作4（組立）
8. 身頃部分の製作3（衿印つけ、衿縫い代始末）
9. 身頃部分の製作4（衿つけ、衿下ぐけ）
部分標本1（準備）
10. 身頃部分の製作5（裾上げ、角の始末）
部分標本2（角の始末）
11. 身頃部分の製作6（角の始末）
12. 衿部分の製作1（柄合わせ、衿印つけ、掛衿、衿先止め）
部分標本2（衿先の止め）
13. 衿部分の製作2（衿つけ、三つ衿芯、衿先の止め）
14. 衿部分の製作3（衿先の止め、本ぐけ）
15. 身頃と袖部分の製作（袖付け、縫い代始末、いしき当て、仕上げ）
16. 着付、着装評価、提出

使用教科書名

プリント配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人は食物を介して栄養素を摂取することから、食品にどのような栄養素が含まれ、その栄養素はどのような性質を持っているかを知ることが重要である。本授業では、食品に含まれている成分の種類を知り、その成分の化学的性質、物理的性質を理解し、調理・加工中の食品成分の変化および成分間の反応について学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養と食品について学び理解していく上で基礎となる、食品成分について理解できることを目標とする。

準備学習

日頃から食物や食生活に関心や疑問をもつようにしてください。

評価方法その他

定期試験（80%）、平常点（20%）（平常点は授業に取り組む姿勢などで総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食品とその働き
3. 食品の分類
4. 食品成分表
5. 食品中の一般成分 栄養成分 (1) 水分
6. 食品中の一般成分 栄養成分 (2) 炭水化物
7. 食品中の一般成分 栄養成分 (3) 脂質
8. 食品中の一般成分 栄養成分 (4) タンパク質
9. 食品中の一般成分 栄養成分 (5) ビタミン
10. 食品中の一般成分 栄養成分 (6) ミネラル
11. 食品中の一般成分 嗜好成分
12. 食品中の機能成分
13. 食品の物性
14. 官能検査
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

「食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 食べ物と栄養(1)
2. 食べ物と栄養(2)
3. 食べ物と栄養(3)
4. 食べ物と栄養(4)
5. 日本の食文化(1)
6. 日本の食文化(2)
7. 世界の食文化(1)
8. 世界の食文化(2)
9. 食べ物の特徴(1)
10. 食べ物の特徴(2)
11. 食べ物の特徴(1)
12. 食べ物の特徴(2)
13. 食べ物と社会(1)
14. 食べ物と社会(2)
15. 食育とは
16. 定期試験

準備学習

専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科の導入部分的内容となります。

評価方法その他

筆記試験100%

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「栄養」とは、私たちが外界から食物を摂取して生命を維持することで、成長、運動、思考、健康保持などの全ての生活を営む現象である。よって、日常摂取している食物には生きていくために必要とされる成分(栄養素)が含まれていないと、食物はどのように生体内に取り入れられ、栄養素は生体内でどのように働き、身体構成成分へと変化するかを学ぶ。さらに、健康な生活をおくるにはどのように、どれくらい、いつ、食物を摂取したらよいかなどを学ぶ。

学習目標・到達目標

食生活を通した健康に関与する栄養の営みを習得する。

週 テーマ・授業目標等

1. 健康と栄養
2. 食事と栄養(1)生体リズムと栄養物質
3. 食事と栄養(2)炭水化物(糖質)
4. 食事と栄養(3)炭水化物(糖質)・脂質
5. 食事と栄養(4)脂質
6. 食事と栄養(5)たんぱく質
7. 食事と栄養(6)たんぱく質・ミネラル(無機質)
8. 食事と栄養(7)ミネラル(無機質)
9. 食事と栄養(8)ビタミン
10. 食事と栄養(9)ビタミン・水分
11. 食事と栄養(10)水分
12. 食事と栄養(11)消化・吸収
13. 食事と栄養(12)代謝(糖質)
14. 食事と栄養(13)代謝(脂質)
15. 食事と栄養(14)代謝(たんぱく質)
16. 定期試験

準備学習

「ヒトの栄養とは」、という部分の概要授業となります。生物学や化学などの内容が基礎となり、内容を展開していきますので、その基礎となる授業も受講されると理解が深まります。特に高校までに生物学や化学の教科を選択して来ていないかまたは、基礎教科部分で生物、化学関連の講義を受講しているようにして下さい。

評価方法その他

筆記試験100%

使用教科書名

改訂/栄養と健康 第2版/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちの生命と健康は、適切な食物摂取と規則正しい食生活によって維持される。今日、食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により、多種多様な食品を手にするが、個々の食品の特性を知り、これらを適切に組み合わせて利用することが重要である。ここでは、日本食品標準成分表の構成と利用方法を理解したうえで、代表的な食品の性状・成分の特徴と加工貯蔵中の変化について学ぶ。

学習目標・到達目標

日常よく用いられる個々の食品における、食品学的特性、品質の鑑別法、保存法や加工についての基礎的知識の習得を目標とする。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 日本の食料事情、食生活の現状
3. 日本食品標準成分表の概要
4. 代表的な食品の性状、成分特徴と変化、機能、及び利用
5. 穀類(米)
6. 穀類(小麦)
7. いも類(じゃがいも・さつまいも)
8. 豆類(大豆)
9. 野菜類、果実類、きのこ類、藻類
10. 食肉類(牛肉・豚肉・鶏肉)
11. 乳類(牛乳・乳製品)
12. 魚介類
13. 食品の規格と表示
14. 保健機能食品制度
15. まとめ
16. テスト

準備学習

積極的に学習に取り組み、わからないことは質問して知識を身に付けてください。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は授業に取り組む姿勢などで総合的に判断する)

使用教科書名

食品学Ⅱ 菅原龍幸 建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

調理過程でおこる科学的な諸現象について食品材料の性質と調理操作上のかかわりを理論的に学ぶとともに、おいしさを左右する要因について総合的に理解する。

学習目標・到達目標

1. 調理の意義を理解する。
2. 食品の調理特性を理解し、調理操作にともなう食品素材の呈味、物性、栄養成分の変化を理解する。
3. 調理操作と調理機器の特徴と関係性を理解し、テクスチャーやおいしさとの関連性を理解する。
4. 献立作成に関する基本を修得する。
5. 調理の実践に役立てることができるようになること。

準備学習

授業前はテキストを読み授業概要を理解して臨むこと。教職およびフードスペシャリスト、フードコーディネーター資格取得の対応科目です。授業後の復習を行うことは必須です。

週 テーマ・授業目標等

1. 調理学の意義・対象、食事の目的、様式
2. 食べ物のおいしさ(味・におい)
3. " (温度・テクスチャー・その他)
4. 非加熱調理操作と調理器具
5. 加熱調理操作と調理器具・設備
6. 植物性食品の調理性(穀類)
7. " (穀類・野菜・果物)
8. " (豆類、いも類)
9. 動物性食品の調理性(鶏卵)
10. " (肉類)
11. " (魚介類)
12. " (乳・乳製品)
13. 成分抽出素材の調理性(でんぷん、砂糖)
14. " (ゲル化素材)
15. 調理と環境、まとめ
16. 試験

評価方法その他

筆記試験90%、平常点(授業への参加状況)10%

使用教科書名

スタンダード栄養・食物シリーズ6／調理学 畑江敬子・香西みどり編

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食糧が豊富になり、食生活が多様化する中、日々の活動や健康な生活をおくるには正しい栄養知識に基づいた食生活が求められる。体内に取り込まれた食物(栄養素)が、どのような特性や役割を持つか、いつどの様に摂取したら良いかを、食生活の問題点なども併せて学ぶ。

学習目標・到達目標

食生活を通じた健康に関与する栄養の営みを習得する。

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養素と代謝について
2. 栄養素と代謝について
3. 食事と健康(1)
4. 食事と健康(2)
5. 食事と健康(3)
6. 食品の機能性と栄養(1)
7. 食品の機能性と栄養(2)
8. 健康とダイエット
9. ライフステージと栄養(1)
10. ライフステージと栄養(2)
11. 生活習慣病と栄養(1)
12. 生活習慣病と栄養(2)
13. 免疫と栄養
14. 情報社会と健康
15. 健康づくりのための食生活指針
16. 定期試験

準備学習

フードスペシャリスト受験資格教科(協会指定:栄養と健康に関する科目)です。有機化学などの要素も入ってきます。授業の基礎部分や概略は栄養学Ⅰでも講義を行っています。栄養学Ⅰの単位を取得したかたのみ、受講できます。

評価方法その他

試験100%

使用教科書名

改訂/栄養と健康 第2版/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近年、日本が輸入している食品の安全性の問題、インスタント食品の登場、外食産業の発達、食生活と健康、食料自給率、地場産業における食材の供給など食にかかわる問題はテレビ・新聞・雑誌などで頻繁にとりあげられ、関心ももたれている。現代における食生活は第2次大戦後に欧米諸国の食生活をモデルとしたが、近年、伝統的な和食文化は健康食として世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。安全で健康な食生活をするために、本講義は前近代の食生活がどのように展開してきたのかを踏まえ、近現代における食生活の諸問題を検討する。

学習目標・到達目標

1. 前近代の食生活の変遷を理解する。
2. 現在の食生活が海外に依存していることを理解する。
3. 伝統食の見直しを理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 原始・古代の食生活
- 2 中世の食生活(1)―武士と禅宗―
- 3 中世の食生活(2)―茶の湯と南蛮文化―
- 4 近世の食生活(1)―武士の食事―
- 5 近世の食生活(2)―町人の食事―
- 6 近世の食生活(3)―農民の食事―
- 7 中間試験
- 8 近代の食生活―文明開化と西洋料理―
- 9 近代の料理書・料理雑誌と食生活への影響
- 10 近代以降の女子の食教育
- 11 日常食の変化と地域性
- 12 高度経済成長期の食生活の変化
- 13 食料の需要と供給
- 14 外食・中食・内食と変化
- 15 これからの食生活―伝統食の見直しの動き―
- 16 レポートまたは試験

準備学習

食に関する新聞記事が多く見られます。切り抜いてノートなどに貼り付けて活用されることをお勧めします。

評価方法その他

平常点20%、中間試験・レポート80%。平常点は授業への参加などで総合的に判断する。

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本・西洋・中国料理の調理実習を通して基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立を実習しながら、それぞれの料理様式の特徴や食卓の調べ方についても理解し、多様な場面で実践することが可能となることを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の下処理法や衛生的な取り扱い方を身につける。
2. 食品の種類と概量を理解でき、味付け（調味割合）の基本を身につける。
3. 日本・西洋・中国料理の基礎な調理法を理解し、技術を身につける。
4. 栄養価計算を可能にし、食品の栄養的な特徴を理解する。また、献立作成、食器・調理器具扱い方、配膳法、食事のマナーを身につける。

準備学習

授業後は、実習ノートを作成し、手順や要点を復習し、自らの生活の中でも、献立立案、調理を行い技術を磨くように心がけることにより、実習授業の効果が上がります。

評価方法その他

平常点(30%授業への参加状況)、ペーパー試験(20%)、実習試験(20%)、ノート等提出物(30%)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション目的と進め方、実習上の心得、準備等
2. 栄養価計算について、菓子の実習
3. 日本料理の基礎・1 白飯、かき卵汁、魚照り焼き、青菜胡麻和え、果物
4. 日本料理の基礎・2 親子丼、味噌汁、鰹香味揚げ、酢の物、果物甲州煮
5. 日本料理の基礎・3 栗ご飯、薩摩汁、鯖みぞれ煮、酢の物、餅菓子
6. 日本料理の基礎・4 松茸飯、清まし汁、立田揚げ、白和え、果物
7. 日本料理の基礎・5 炊き込み飯、味噌汁、粟麩の煮物、柿なます、饅頭
8. 日本料理の基礎・6 散らしずし、茶わん蒸し、お浸し、餅菓子
9. 西洋料理の基礎・7 赤飯、蛤潮汁、いり鶏、天ぷら、寄せ菓子
10. 西洋料理の基礎・1 ビーフシチュー、バターライス、冷野菜、パバロア
11. 西洋料理の基礎・2 オードブル、肉料理、温野菜、冷野菜、焼き菓子
12. 西洋料理の基礎・3 スープ、肉料理、温・冷野菜、カスタードプリン
13. 西洋料理の基礎・4 スープ、リゾット、冷野菜、アップルパイ 冷菜、
14. 中国料理の基礎・1 炸菜、湯菜、鹹点心(炒飯)、甜点心
15. 中国料理の基礎・2 冷菜、炸菜、点心(粥)、甜点心
16. 定期試験

使用教科書名

五訂増補 食品成分表 2015/ 女子栄養大学出版部
五訂増補 調理のためのベーシックデータ/ 女子栄養大学出版部
「基礎調理」のテキストを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。この点において、食料は、他の財貨とは本質的に異なる性質を有する。本授業では、食料の有するこうした特性を踏まえたうえで、現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムを概観し、その経緯や現状の諸課題について理解し、さらに、今後の社会における望ましいあり方を考える。

学習目標・到達目標

現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムの経緯と現状を理解し、そのうえで、今後の社会における望ましいあり方を考え、行動できるようになる。

準備学習

食品の生産、流通、消費に関する諸課題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

評価方法その他

平常点20点、中間レポート30点、定期試験50点

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食料経済とは
3. 食品の生産から消費まで
4. 食品輸入と食料自給率
5. 食生活形態の変化
6. 食品消費の変化
7. 食品流通の概要
8. 卸売流通
9. 小売流通
10. 生鮮食品の流通
11. 加工食品の流通
12. フードビジネスとフードマーケティング
13. 食品消費と安全
14. 食品消費と環境問題
15. まとめ、振り返り

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日常生活の中で使われている様々なものについて、主にその材料と制作技術について解説する。それによって、ものを作る、あるいは生産するために必要な基本的な考え方を理解する。また材料や作り方の理解を通して、日常生活のなかで使われるありふれたものや道具に対する関心を深め、あわせて暮らしを楽しむためのもの・道具の使い方についても考える。

学習目標・到達目標

ものづくりの基本的な技術と、材料の種類及びその特徴について理解し、生活の中でもものづくりが果たす役割について理解できる。

週 テーマ・授業目標等

1. ものづくりとデザインの関係(1)「デザイン」とはなにか
2. ものづくりとデザインの関係(2)デザインの考え方と手法
3. ものづくりの基本(1)材料と技術について
4. ものづくりの基本(2)技術と道具について
5. ものづくりの基本(3)造形のこと・美しい形とは？
6. ものづくりの基本(4)ものづくりの工程について
7. ものづくりのための材料(1)金属について
8. ものづくりのための材料(2)木材
9. ものづくりのための材料(3)プラスチック
10. 陶磁器の作り方(1)素材(粘土)
11. 陶磁器の作り方(2)成型方法について
12. 陶磁器の作り方(3)釉薬と焼成方法について
13. 漆器の作り方(1)漆の特徴
14. 漆器の作り方(2)素地と下地
15. 漆器の作り方(3)塗りと加飾技法
16. 試験またはまとめ

準備学習**評価方法その他**

試験80％・平常点20％(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。建築製図の基本的な技術を習得する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住居の機能
- 2) 寸法と空間
- 3) 住まいの変遷(1)
- 4) 住まいの変遷(2)・生活様式と住居
- 5) 現代の家族と住まい
- 6) 日本の住宅事情と住宅政策
- 7) 住居の選択と維持管理
- 8) 住まいと環境
- 9) 安心・安全な住まい
- 10) これからの住まいー高齢化社会と住まい
- 11) これからの住まいーコウボラティブ住宅・コレクティブ住宅
- 12) 住居の設計
- 13) 住居の設計／製図(1)
- 14) 住居の設計／製図(2)
- 15) 住居の設計／製図(3)
- 16) 定期試験

準備学習

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

評価方法その他

小課題20％、製図課題40％、テスト40％により総合的に評価する。

使用教科書名

定行まり子「生活と住居」光生館

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのこの時代の建築を、タイプごとに分け、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げ、それぞれの建築の特徴を解説していく。用いる資料は、写真ばかりでなく、しばしば建築図面を用い、建築のもつ機能性や、設計者の意図を探る。また、構造上の特質や、建築形態のもつ意味等を、作り手・使い手の立場や、そのバックグラウンドとなる社会背景等を鑑みながら検討し、建築や生活空間に対する理解を深めていく。

学習目標・到達目標

日本建築史の通史を学ぶ。竪穴住居や高床住居などの原始的な建築から最新の現代建築に至るまで、また、住宅、社寺、公共建築など、さまざまなタイプの伝統的な日本建築に関して、実例を詳細に検討しながら、その建築的・社会的意義に関して概観する。それにより、木構造など日本建築に特有な技術的な発展過程を学ぶと同時に、わが国の建築文化・生活様式の変化を学び、建築を通して伝統文化に対する理解を深めることを目指す。

準備学習

授業でお話しする内容は、指定した教科書『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』にまとめてあります。また、パワーポイントで示す写真も、ほぼ教科書と一緒にあります。授業の前後に、教科書の該当する箇所を必ず読むように心がけてください。

評価方法その他

学期末試験(80%)および平常点(提出物等:20%)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 先史時代の建築
3. 神社建築の成立
4. 仏教建築の伝来
5. 古代の都市計画と寝殿造り
6. 中世の仏教建築
7. 中世の神社建築
8. 書院造り
9. 城郭建築
10. 茶室と数寄屋
11. 近世社寺建築
12. 民家建築
13. 西洋建築の移入
14. 近代住宅建築
15. 現代建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編集委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住生活および住環境について、現代における問題点を理解し、その解決方法について検討する。

学習目標・到達目標

住生活について科学的に分析し理解する能力、および住生活に関する課題の発見能力・問題解決能力を養う。

準備学習

身の回りに存在する住生活に関する諸問題への関心をもつこと。

評価方法その他

小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住生活とは
- 2) 住まいとモノ
- 3) 近代以降の住まい方
- 4) 生活時間・生活行為
- 5) 生活行為とゾーニング
- 6) 住居観
- 7) 子どもと住まい
- 8) 高齢者と住まい
- 9) 住宅政策・住生活基本法
- 10) 空き家問題と住宅ストック
- 11) 住宅・住宅地の維持管理
- 12) 集合住宅団地の再生
- 13) まちづくりとは何か
- 14) まちづくりの視点
- 15) まちづくりと住民参加

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、暖冷房設備、換気設備、電気・情報設備、防災設備について講義を行う。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]住まいの設備システムについて、その名称、働きを説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 1. ガイダンス
2. 2. 設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違い
3. 3. (1) 建築と水環境
4. (2) 水に関する基礎知識
5. (3) 給水設備
6. (4) 給湯設備
7. (5) 排水通気設備
8. (6) 衛生器具
9. (7) 浄化槽
10. (8) ガス設備
11. 4. 住宅の照明設備
12. 5. 住宅の電気設備
13. 6. 住宅の暖冷房設備
14. 7. 住宅の換気設備
15. 8. 住居内の設備と事故
16. 試験

準備学習

授業毎に教科書の予習(120分)と授業内容の復習(60分)が必要である。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

使用教科書名

「建築の設備」入門 新訂版／同編集委員会編／彰国社／2009年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

構造力学の入門編として、建築(住居)における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験(一点で支える力の実験、両端で支える力の実験、梁の変形など)と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物(ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など)についても紹介する。

学習目標・到達目標

構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力及び部材応力を理解し、説明できる。また、これらの力の釣合い条件をもとに、柱、梁、トラスに生ずる応力を計算できる。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 力とかたち① 1点で支える力の実験と計算
3. 力とかたち② 実験結果の解説
4. 力とかたち③ 図心の求め方(制作)
5. 力とかたち④ 図心の求め方(計算)
6. かたちと変形 片持ち梁
7. 力の合成と分解①(図式解法)
8. 力の合成と分解②(図式解法-計算)
9. 力の合成と分解③(支持反力の算出)
10. 力の合成と分解④(支持反力の算出) 宿題①
11. 力の合成と分解⑤(支持反力の算出) 宿題②
12. トラス①(部材応力の算出-節点法) 宿題③
13. トラス②(部材応力の算出-節点法) 宿題④
14. トラス③(部材応力の算出-切断法) 宿題⑤
15. トラス④(部材応力の算出-切断法)
16. 定期試験

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(60%)、宿題(20%)、定期試験の得点(20%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

構造力学の知識を基に、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造建物他の特徴について講義する。実在の建築物を教材とし、建築物の形、建築物の強度、安全性を含めて、建築、インテリア計画における、構造デザインの役割について学ぶ。

学習目標・到達目標

構造の知識を、建築計画、インテリアデザインに活用する能力を得る。

週 テーマ・授業目標等

- 1 架構の仕組み:力の流れ
- 2 梁の曲げ応力と、安全検討(その1:木構造、鉄骨構造)
- 3 同上 (その2:鉄筋コンクリート構造)
- 4 柱、基礎、支持地盤の強度と安全検討
- 5 トラス部材の直応力と、安全検討
- 6 同上 座屈と、許容圧縮応力度
- 7 空間デザイン 1. 釣り構造、シェル構造と空間のイメージ
- 8 2. 大屋根、大スパン床板、支持構造
- 9 3. 構造部材と非構造部材
... (この頃、レポート課題提示) ...
- 10 構造デザイン 1. 吹き抜け空間、地下室とドライエリア
- 11 2. 階段 as インテリアモニュメント
- 12 構造詳細 1. 木造建物の仕口、鉄骨造の仕口
- 13 2. 鉄筋コンクリート造の仕口
- 14 3. 詳細図の作成(レポート課題、提出期限)
- 15 レポートおよび課題の講評

準備学習

配布資料をもとに講義する。
講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15分程度演習の時間を設ける。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

評価方法その他

授業における演習レポート(50%)、及び、期末試験(50%)による。
演習レポートは、出席点を含む

使用教科書名

構造用教材 日本建築学会 丸善

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料(壁材料、天井材料、床材料など)を取り上げて、それらの材料(せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど)の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項(種類、性質など)を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 屋根材料(1)ー粘土瓦
3. 屋根材料(2)ースレート
4. 屋根材料(3)ー金属板
5. 内外装仕上げ材料(1)ー木質系材料
6. 内外装仕上げ材料(2)ーせっこうボード
7. 内外装仕上げ材料(3)ー繊維補強系ボード
8. 内外装仕上げ材料(4)ーALC
9. 内外装仕上げ材料(5)ータイル
10. 内外装仕上げ材料(6)ーれんが
11. 内外装仕上げ材料(7)ー石材
12. 内外装仕上げ材料(8)ー左官材料
13. 内外装仕上げ材料(9)ーガラス
14. その他の材料(1)ー断熱材料
15. その他の材料(2)ー塗料/接着剤
16. 定期試験

準備学習

ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点(50%)と定期試験の得点(50%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

準備学習

ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

平常点（45%）、レポート（10%）、定期試験の得点（45%）により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 施工・管理計画①－工事契約、工程表
3. 施工・管理計画②－材料管理、各種届出
4. 仮設・地業工事①－地盤調査
5. 仮設・地業工事②－基礎の種類
6. 主体工事
7. 内外装工事
8. 内外装仕上げ工事①（タイル工事）
9. 内外装仕上げ工事②（タイル工事）
10. 内外装仕上げ工事③（左官工事）
11. 内外装仕上げ工事④（ガラス・建具工事）
12. 床工事①（合成樹脂系）
13. 床工事②（カーペット敷き、畳敷き）
14. 屋根工事（天井工事を含む）
15. その他の工事（断熱工事・設備工事）
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

[建築士指定科目]建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 0. 建築環境学及び建築設備の位置付け
2. 安全・衛生と快適
3. 1. 建築環境学の概要
4. 4. 熱環境 (1)温熱感
5. (2)外界条件
6. (3)日照環境
7. (3)日照環境
8. (4)建物の熱性能
9. (4)建物の熱性能
10. (4)建物の熱性能
11. (5)湿気環境
12. (5)湿気環境
13. 3. 空気環境(1)空気と人の健康
14. (2)室内の空気汚染対策
15. (2)室内の空気汚染対策
16. 試験

準備学習

授業毎に教科書の予習（120分）と授業内容の復習（60分）が必要である。

評価方法その他

定期試験（70%）、レポート及び授業中の課題（30%）による総合評価

使用教科書名

生活環境学／岩田利枝 他／井上書院／2008

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標・到達目標

住居はそこに住む家族のためのものであると同時にまちの財産でもある。住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する。

準備学習

住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

評価方法その他

小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住居の歴史
- 2) 住居の機能と計画
- 3) 現代の家族と住まい
- 4) 家族のかたちと住まいのかたち
- 5) 家族の変化と新しい住まいのかたち
- 6) 生活の外部化と地域施設
- 7) 住居の設計プロセス
- 8) 平面・断面計画
- 9) 生活時間・生活行為
- 10) 生活行為とゾーニング
- 11) 住居の意匠
- 12) 住居のバリアフリー
- 13) 住宅でまちをつくる
- 14) 集合住宅地の計画
- 15) 集合住宅の住戸計画

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶための授業として進める。

学習目標・到達目標

我々の日常生活の場など生活空間には住宅など多岐にわたる構成要素があり、その役割は、地域における個々の利用者の自立支援及び介護者の身体的負担を最小限にするため技術の工夫、併せて福祉用具等との活用・併用など、自らの発案による資質を育くむ知識を学ぶことができる。

準備学習

本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験2級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。希望者には過去出題問題集をデータで提供しますので、希望者は授業3週目に記憶媒体(USBスティック等)を持参し登録してください。

評価方法その他

平常点:35%(小テスト2回を含む)／定期試験65%による総合評価。なお、平常点は、授業への参加・討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／スケジュール説明
2. 福祉住環境の意味と目標について
3. 福祉・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方
4. 福祉住環境整備の流れ
5. 福祉住環境コーディネーターの職業倫理
6. 関連職との連携
7. 相談の特徴・受け方と対応の仕方
8. 介護保険制度・高齢者・障害者向けの住関連施策
9. 加齢・障害の特性と起こりやすい症状、高齢者の特性
10. 在宅介護の特徴と住環境
11. 高齢者、肢体不自由、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害、認知・行動障害
12. 段差をなくす・手すりをつける・スペースの配慮、建具・色彩・維持管理の配慮、非常時の対応
13. アプローチ・外溝計画、玄関、廊下、階段、トイレ、配置・脱衣室、浴室、キッチン、寝室など
14. 建築関連法規、設備・施工・見積りの知識、福祉用具の意味
15. 移動、整容・更衣、入浴、排泄、就寝、装具、転倒防止の工夫例他
16. 定期試験

使用教科書名

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

1年次の生活デザイン演習Aと同Bの発展として、生活デザイン学科の授業科目を専門的、主体的に学ぶための考え方や手法を身につける。前期の生活デザイン演習Cでは、「しらべる」をキーワードとして複数の課題を設定し、体験的な学習を通して問題発見能力の向上をめざす。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方と日程の説明
2. 各課題の内容と目的の説明
3. 課題「しらべる」1の1回目
4. 課題「しらべる」1の2回目
5. 課題「しらべる」2の1回目
6. 課題「しらべる」2の2回目
7. 課題「しらべる」3の1回目
8. 課題「しらべる」3の2回目
9. 課題についての発表と講評

- ・授業は集中講義の形式で行う。
- ・課題「しらべる」の授業は、1課題につき180分を2回。
- ・授業内容と日程の詳細については初回授業で告知する。

準備学習**評価方法その他**

平常点(40%)、課題(60%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

染色の基礎を踏まえ初歩的な工芸的手法で小作品を制作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解する。

学習目標・到達目標

わが国の代表的な染色技法である刷り込み染め、板締め、型染を取り上げ、被染物の素材として紙、布、革を用いて初歩的な小作品制作を体験することにより、染色の楽しさや染色技法の特徴を理解し、初歩技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイドンス
2. 紙の染色1摺込み染1
3. 紙の染色2摺込み染2
4. 紙の染色3摺込み染3
5. 紙の染色4板締め染1
6. 紙の染色5板締め染2
7. 布の染色1型染1
8. 布の染色2型染2
9. 布の染色3型染3
10. 布の染色4型染4
11. 布の染色5型染5
12. 布の染色6江戸更紗1
13. 布の染色7江戸更紗2
14. 革の染色1墨流し染1
15. 革の染色2墨流し染2
16. レポート・作品提出締切

準備学習

染める楽しさを味わってもらおうのもこの授業の目的です。職人さんは、皆さんが学ぶ比較的簡単な技法の緻密化と組み合わせ、そして工夫をこらして、素晴らしい作品を制作しています。皆さんも想いを込めて、ご自分だけのたった一つの作品を作り、作り出すことの喜びと、努力して仕上げたときの達成感を味わってください。そしてその作品をいとおしんでください

評価方法その他

本学既定の出席状況を満たしていること。
レポートと作品(100%)

使用教科書名

使用しない。
必要に応じプリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

上半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて基本的なブラウスの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズの衿付き長袖ブラウスの制作を通して、上衣の基本的な制作技術を習得する。

履修条件:「服飾造形実習・演習A」の履修をしていること

学習目標・到達目標

衿付き長袖ブラウスの制作をする。ブラウス制作のための人体計測法を学び、計測値を基に自信のサイズの作品を完成させ、着装発表をする。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、テキスト配布、各種ブラウスの説明、人体計測、製図
2. ブラウス製図
3. 布裁断、印付け
4. 印付け、仮縫い(ダーツ、脇、肩、見返し、衿、袖)
5. 仮縫い(袖作り)
6. 仮縫い(袖付)
7. 補正、本縫い(ダーツ、肩、脇)、接着芯貼り(衿、カフス、見返し)
8. 衿作り
9. 衿付け
10. 袖作り(見返し)
11. 袖作り(カフス)
12. 袖付け
13. ボタンホール(練習)、
14. ボタンホール仕上げ、ボタン付け、仕上げアイロン
15. 着装発表、レポート提出

準備学習

授業での遅れは次回までに取り戻しておくこと

評価方法その他

平常点40%、作品30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

使用教科書名

制作したテキスト使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養や食品衛生について、教科書や講義などから修得した知識を客観的に分析する力を基礎的な実験を行いながら養う。栄養学分野では、生化学的な要素も取り入れながら、栄養成分の科学的性質や化学反応について実験を行う。食品衛生学実験では、食品衛生に関連する微生物学実験、食品添加物の分析などを行いながら、扱う試料、薬品の性質も理解し、安全な実験実施への心構えも修得していく。

学習目標・到達目標

栄養、食品衛生に関係する事項を実験的手法を用いて体得するとともに、化学的なデータ解析を初歩を学び、習得する。両分野とも、結果の予測、実験操作の習熟、細やかな観察力、得られた結果に対する分析力を積み上げることを目的とする。

準備学習

栄養学と食品衛生学に関する事項を実験で体得していきます。化学的な数値の処理の仕方やレポートの書き方も学びます。1年次展開の食に関連する教科の情報を総体的に活用していきます。また、実験内容の性質上、安全に実験を進め、本人並びに周囲の安全を確保するため、服装や実験中の態度等も指導していきます。

評価方法その他

試験・レポート内容50%、出席・授業態度50%

週 テーマ・授業目標等

1. ガイドンス(実験を始まるにあたっての心構えと安全確保について)
2. 基礎実験 I
3. 基礎実験 II
4. 酵素反応に関する実験 I
5. 酵素反応に関する実験 II
6. 核酸に関する実験 I
7. 核酸に関する実験 II
8. グラム染色と顕微鏡による細菌の観察
9. 洗浄前後の手、まな板の生菌数測定 I
10. 洗浄前後の手、まな板の生菌数測定 II・食品中の細菌数(生菌数)測定 I
11. 食品中の細菌数(生菌数)測定 II
12. 食品成分の変質試験
13. 食品添加物の分析
14. 食品洗浄の検査
15. 水質検査
16. 定期試験

使用教科書名

必要資料を適宜、配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

調理学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 調理学実験の基本的な手法を学ぶ。
2. 調理条件と食味への影響について科学的な機構を理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 調理学実験における測定的基础
2. 味覚 閾値と味の相互作用、色と味覚の関係
3. 米と米粉 米の吸水と炊飯、米粉の調理特性
4. 小麦粉の種類と特徴 グルテン形成に及ぼす要因
5. クッキーの性状におよぼす材料配合割合の影響
6. 野菜・果物の色 酵素的褐変とpH、加熱による変化
7. 卵の調理性 熱凝固性、希釈性
8. 卵の調理性 乳化性、起泡性
9. 牛乳・乳製品の調理特性(1) 酸・熱による変化
10. 牛乳・乳製品の調理特性(2) 生クリーム気泡生
11. いも類の取り扱い方
12. 肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
13. 魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
14. 成分抽出素材と調理(1) 寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性
15. 成分抽出素材と調理(2) 砂糖、

準備学習**評価方法その他**

レポート内容(60%)、平常点(40%、授業への参加状況)の総合評価

使用教科書名

健康を考えた調理科学実験／今井悦子他／アイ・ケイコーポレーション

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、栄養性、安全性、嗜好性、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得する。

学習目標・到達目標

食に関する事柄を総体的に概略を理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 食に関わる職業
2. フードスペシャリストとは
3. 人類と食物
4. 人類と食物
5. 世界の食
6. 世界の食
7. 日本の食
8. 日本の食
9. 現代日本の食生活
10. 現代日本の食生活
11. 食品産業の役割
12. 食産業の役割・食品の品質規格と表示
13. 食品の品質規格と表示
14. 食品の品質規格と表示・食情報と消費者保護
15. 食情報と消費者保護
16. 定期試験

準備学習

専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科の総体的内容となります。フードスペシャリストの受験資格教科(協会指定科目:フードスペシャリスト論対応教科)ともなります。

評価方法その他

試験100%

使用教科書名

四訂/フードスペシャリスト論/第2版/フードスペシャリスト協会/建帛社/

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、受講生が自分のキャリアを考える切っ掛けをつかむ場としたい。キャリア(career)という言葉には、生涯・経歴・出世・成功・職業・生涯の仕事という意味があり、キャリアを考えるということは、自分の人生とは、どのように生きるのか、あるいは、何を職業として選択するのか、という自分の将来に関わる意思決定問題でもある。この課題へのアプローチの仕方と解決方法、判断基準について学ぶ。

学習目標・到達目標**準備学習****評価方法その他**

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. キャリアとは何か
3. 働くことの意味
4. 働く場と働き方
5. キャリア形成の枠組みと基本的能力
6. "
7. "
8. ライフプランニング
9. "
10. 産業構造と企業
11. "
12. 雇用環境と就業構造
13. "
14. 業界研究の方法
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の「キャリアデザインA」を受けて、具体的にキャリアプランニングを描くことを目的とし、就職活動に向けた意識・考え方・行動の変容を図る。グループワークを多く取り入れて、受講生間の相互交流の機会を設ける。受講生には、自ら課題を見つけてその解決に取り組む積極的な姿勢を期待している。

学習目標・到達目標**準備学習**

履修条件ではないが、前期の「キャリアデザインA」の受講が望ましい。

評価方法その他

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就活の戦略(強み・弱み分析)
3. "
4. 就活のマーケティング(自己分析と自己PR)
5. "
6. 働く20代の女性によるパネルディスカッション
7. 業界研究と企業の見方
8. "
9. 社会人基礎力の養成
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

受胎から死に至るまで人の心身の働きは変化し続ける。そうした生涯にわたる変化の過程を、心理学的アプローチによって明らかにしようとするのが発達心理学である。授業では、胎児期から老年期までの発達を、自身の体験や視聴覚教材なども参照しながら具体的に理解することを目指す。また、人の発達に関わるトピックについてのワークや話し合いを行うことで考えを深め、保育・教育実践や自分自身の人生において活かすことができるようにする。

学習目標・到達目標

・発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学ぶ。
 ・胎児期から老年期までの発達に関する基本的な知識を身につける。
 ・発達心理学の知見を保育・教育実践において活かすことができるよう、自分の体験や事例と結び付けて具体的に理解し、考えを深める。

準備学習

授業:ワークや話し合いを行うため、積極的に参加してください。予習:自分が育ってきた道筋を振り返り、将来の生き方についても考えを巡らせてみましょう。復習:各回に学習した内容を必ず復習してください。わからないところは質問してください。

評価方法その他

平常点(50%)、定期試験(50%)
 (平常点は、授業中のワークや話し合いへの参加状況、課題の提出状況により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

<授業計画>

1. オリエンテーション:発達とは何か
2. 発達心理学の考え方と発達の諸理論
3. 胎児期と周生期の発達
4. 乳児期の発達①ー運動・認知の発達ー
5. 乳児期の発達②ー社会性の発達ー
6. 歩行開始期の発達
7. 幼児期の発達①ー認知の発達ー
8. 幼児期の発達②ー社会性の発達ー
9. 乳幼児期の発達と子育て
10. 児童期の発達①ー認知の発達ー
11. 児童期の発達②ー社会性の発達ー
12. 思春期・青年期の発達
13. 成人期の発達
14. 老年期の発達
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

授業中の配布資料

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育心理学の基礎的概念を学ぶことを目的とする。具体的な事例を提示したり、課題への解答を求めたりして、積極的な関与と深い理解が獲得できるような授業を行いたい。

学習目標・到達目標

教育心理学の基礎的概念を習得し、教育指導についての理解を深める。

準備学習

授業内容をただ機械的に記憶しようとするのではなく、理解することに重点を置いて受講することを期待する。

評価方法その他

学期末の試験により評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 序論 教育心理学とは
- 2 第1章 個性の発達 (1)発達の本質
- 3 (2)主な発達段階論
- 4 (3)個性の把握
- 5 第2章 学級集団の理解 (1)学級集団を理解する視点
- 6 (2)学級集団の人間関係
- 7 第3章 教授・学習の基礎的概念 (1)学習へのレディネス
- 8 (2)学習への動機づけ (3)学習効果の転移
- 9 第4章 教授・学習の実際 (1)プログラム学習
- 10 (2)発見学習
- 11 (3)有意味受容学習
- 12 第5章 障害児の理解 (1)主な障害の特徴
- 13 (2)特別支援教育
- 14 第6章 教育評価 (1)基準による教育評価
- 15 (2)目的による教育評価 (3)指導要録
- 16 試験

使用教科書名

教科書は用いない。ほぼ毎回プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育とは何か、学校とは何か、教育評価はどのようにあるべきか、など、教育の基本原理を講じる。現代日本の教育現実を批判的に見つめ、どのような改革が必要か、自分で考えられることが重要である。

学習目標・到達目標

教育について、歴史的な流れ、現代における教育の現実等の基礎的な知識をもち、教育の世界の中に生きようとする意欲と自覚をもつ。

準備学習

教員として成長する上で欠かせない資質について学ぶ授業である。しっかりと自覚をもって授業に臨んで欲しい。法律等に触れる内容もあり、復習もしっかりしておく必要がある。

評価方法その他

試験 50% 小論文複数 30% 平常点 20%

週 テーマ・授業目標等

1. 教育学を学ぶ主体的な契機とは
2. 教育とは何か、その1
3. 教育とは何か、その2
4. 学校とは何か、その1
5. 学校とは何か、その2
6. 教育課程
7. 教育評価
8. 学習とは何か
9. 生活指導
10. 体罰をめぐって
11. 教育行政の仕事、その1
12. 教育行政の仕事、その2
13. 教師とは何か
14. 子どもの権利条約
15. 幼児教育

使用教科書名

特になし。必要な資料を授業ごとに配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「ゆとり教育」という言葉をいろいろところで一度は耳にした人が多いと思います。この「ゆとり教育」という言葉、今では否定的な意味合いで使われることが多いです。では、なぜ国は「ゆとり教育」を始めたのでしょうか？ここには、日本の教育を考えるうえで非常に、重要な議論が二つ存在しています。ひとつは、「どういう授業のありかたが好ましいのか」という問題。もう一つは、教育内容を規定している学習指導要領が、どういった原理で編成されなければならないのかという問題です。本講義では、この二つの問題を我が国の教育課程の歴史や、その背景となる理論を学ぶことを通じて学んでいきます。

学習目標・到達目標

- ① 教員として教育課程編成に取り掛かるために必要となる知識の習得。
- ② 教育課程の歴史と教育課程編成の理論を把握する。
- ③ 我が国の学習指導要領の変遷を歴史の理解とその動きを原理的に把握する力の習得。
- ④ 学習指導要領の趣旨に基づき、教育課程を編成できるような能力の習得。

準備学習

授業の性格上、出席を重視します。可能な限り、主体的に授業に参加して、1つでも多く刺激を受けてください。大学で教育学を学ぶことは、単に、資格を取得するためのものではなく、自分自身が受けてきた学校教育が、一体、どういったものであったのかを知るという意味も含まれています。その上で自分はどのような教員になりたいか想像して、考えて、授業に参加してください。

評価方法その他

平常点60点、試験40点。平常点は授業への参加状況・討論への参加で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーションーカリキュラムってなに？
- 第2週 我が国の教育課程の歴史①ー明治から敗戦まで
- 第3週 我が国の教育課程の歴史②ー「日の丸・君が代」から見る天皇制・軍国主義教育
- 第4週 我が国の教育課程の歴史③ー映像作品を通して考える
- 第5週 学習指導要領の変遷
- 第6週 教育課程編成の意義と方法
- 第7週 かくれたカリキュラムージェンダーの視点から考える
- 第8週 試験

使用教科書名

なし。随時、プリントを配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育の歴史と現状を踏まえ、意義や本質、目標を理解し、保育の原理と方法、集団保育の意義と特色、小学校教育との接続の問題とあり方、等を学ぶ。
人間の育つ、育てる、育ちあう生の営みとして保育を捉え、基本的な考え方を学ぶ。保育の場(家庭、幼稚園、保育所、児童福祉施設、学童保育の場、等)の各々の特性や共通点を捉え、多様な保育のニーズについて理解する。集団保育の場と家庭、地域との連携と発達・子育て支援について理解する。

学習目標・到達目標

1. 今日の保育の環境を知る。2. 今日の保育に至るまでの歴史を理解する。3. 今日の集団保育の基本的な原理と方法を理解する。4. 保育の場(保育所、幼稚園、認定こども園、学童保育)の特色を理解する。5. 幼児教育・保育と小学校教育との接続、連携について考え、理解する。6. 集団保育の意味を考え、自分はどうのような保育者になりたいのかをイメージする。

準備学習

教科書および、保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領は常に携帯し、授業の内容に沿って、予め読んで来ること。保育所、幼稚園、小学校、学童保育などの場で、実際に、ボランティアなどの活動を通して、様々な子どもたちと触れ合う経験をするとうれしいと思います。
学生自身が主体的に授業に臨み、保育とは何か、その本質について触れ、よく考える機会になって願います。

評価方法その他

定期試験(70%)、平常点(30%:発表、小レポート、学習態度、出席状況により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 保育・教育とは何か
2. 保育・教育の意義と目標
3. 保育・教育の現状と課題
4. 保育・教育の歴史とその思想①
5. 保育・教育の歴史とその思想②
6. 保育・教育の歴史とその思想③
7. 保育・教育の歴史とその思想④
8. 保育・教育の原理
9. 保育・教育の場—幼稚園、保育所、児童福祉施設、認定子ども園 学童保育
10. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の基本、原理
11. 集団保育・教育の意義
12. 集団保育・教育の形態と方法
13. 集団保育・教育における子ども理解と保育者のかかわり方
14. 幼児教育・保育の展開・発展
15. 幼児教育・保育と小学校教育との接続・連携
16. テスト

使用教科書名

家庭支援の保育学/武藤安子・吉川晴美・松永あけみ編著/建帛社/2010年
保育所保育指針(厚生労働省)、幼稚園教育要領(文部科学省)
幼ほ連携型認定こども園 教育・保育要領

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育所・幼稚園における保育者の専門性について理論的に学ぶ。環境を通した保育、遊びを中心とした保育といった基本原理をふまえた上で、保育実践者として、いかに子どもの発達や実態を把握・理解し、いかなる方法・内容で日々の保育を展開していくべきか考えていく。また、保育技術や保育における記録や計画のあり方など、保育者として身につけるべき技術について考究していく。さらに、現代の保育所・幼稚園に求められる保育者としての成長のプロセスや同僚関係のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

- 保育者に求められる役割と専門性について理解する
- さまざまな保育者のあり方(保育者論)に触れ、保育者として身につけるべき資質や技術について理解する
- 保育者の成長と同僚関係のあり方について理解する

準備学習

テキストは毎週予習として読んでおくべき箇所を伝えますので、しっかりと読んで授業に臨んで下さい。また、平行して参考文献の内、最低1冊は読みましょう。

評価方法その他

平常点(提出物を含む)20%・試験(またはレポート)80%の割合で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育者になるということ
2. わが国の保育観と保育者の役割
3. 社会的養護における保育者の役割
4. 保育者の専門性(1)子ども理解
5. 保育者の専門性(2)保育の計画
6. 保育者の専門性(3)環境構成と援助
7. 保育者の専門性(4)省察と記録
8. 保育者の専門性(5)子育て支援
9. 保育者の同僚性と協働
10. 保育における評価
11. 保育者と保幼小の連携
12. 保育実習とキャリア形成
13. 海外の保育を学ぶ
14. 保育者としてのアイデンティティとキャリア形成
15. まとめ～保育者の専門性とは
16. テスト

使用教科書名

保育者のためのキャリア形成論/石川昭義・小原敏郎編著/建帛社/2015

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。
 ・児童文化史を概観し、児童文化の流れを把握する。
 ・年中行事や伝承遊び等の伝承文化について学び、基礎的な知識を習得する。
 ・現代の子どもの暮らしについて学び、子どもの生活文化についての理解を深める。
 ・現代の子どもの遊びの現状を具体的に検討することによって、子どもを取り巻く文化についての考察を深める。
 ・子どもにとっても身近な児童文化財のひとつである絵本について学び、知識を深める。
 ・子どもにとって身近な児童文化財である紙芝居やおはなし等について、基礎的な知識を学ぶ。

学習目標・到達目標

- 児童文化について、基礎的な知識を学ぶ
- 子どもにかかわるさまざまな伝承文化について学ぶ
- 子どもに身近な児童文化財である絵本や紙芝居について、基礎的な知識を習得する
- 睡眠や食事等の、子どもの生活文化について学ぶ
- 現代の子どもと遊びについて考察する

準備学習

児童文化は子どもの幸せを願いながら育まれてきたものです。
 教科書やプリントによる予習・復習に加えて、児童文化に日頃から興味を持ち、幅広く情報を取り入れることを心掛けてください。

評価方法その他

平常点40％・課題60％
 （平常点は、毎回の授業でのミニレポート、授業への参加状況等を総合して判断します）

週 テーマ・授業目標等

1. 児童文化について
2. 児童文化史の流れ
3. 伝承文化と子ども 年中行事
4. 伝承文化と子ども 伝承遊び
5. 子どもと遊び
6. 子どもの暮らし 睡眠
7. 子どもの暮らし 食事他
8. 絵本について さまざまな絵本
9. 絵本について 絵や言葉他
10. 読み聞かせについて
11. 絵本にみる言葉遊び
12. ミニ絵本の製作
13. おはなしについて
14. 紙芝居について
15. パネルシアター・ペープサートについて

使用教科書名

小川清実編著「演習 児童文化」萌文書林 2010年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小児期の健やかな成長、発達の支援を目標とし、身体的、精神的、社会的に健全な状態で守り、育てられるようにする。子どものからだの仕組み、機能に関して知識を得て、幼児生理の特性を知るなど、小児の保健学的特性を学ぶ。次に、小児の疾病・異常や事故、虐待などについて学び、その特徴と予防法を理解して、緊急時の対応を可能にする。小児の保健は家庭や地域社会と密接な関係にあり、今日発生している小児の心身の健康に関する問題と養育環境との関係を理解する。それらの問題への対処法を学ぶ。

学習目標・到達目標

就学前教育や保育実践において必ず必要とされる保健活動を明確にとらえられるための理論的な基礎を習得する。小児の健康問題を理解し、親が安心して子どもを産み育てられる環境づくりについて考察し、具体的な対策をたてられるようにする。

準備学習

従来小児保健Ⅰ、Ⅱと30回の授業で行っていた内容を15回に集約してより重点を要領よく学べるようにしている。知識が広範に亘るので、予習・復習が重要である。

評価方法その他

出席(30%)、試験(70%)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 小児保健の基本
2. 小児の身体発育、小児の生理機能
3. 小児の運動機能、精神発達
4. 小児の食事・栄養
5. 小児の生活環境Ⅰ
6. 小児の生活環境Ⅱ、
7. 小児の虐待、小児を取り巻く環境
8. 保育の多様化について、新生児期の問題点、
9. 健康と病気、異常(アレルギーを含む)
10. 事故と応急処置、小児の感染症
11. 感染症Ⅱ、予防接種
12. 感染症ガイドライン、小児期の病気Ⅰ(感染症)
13. 小児期の病気Ⅱ: 栄養障害、喘息、消化器病、呼吸循環器病、
14. 小児期の病気Ⅲ: 血液病、腎臓・内分泌・代謝病、皮膚の病気、神経精神疾患他
15. 母子保健、保健行政
16. 試験

使用教科書名

子どもの保健(第5版) / 巷野悟郎編/診断と治療社/2015年/

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標・到達目標

4年間の児童学科における学びの集大成として，自ら研究課題を設定し研究計画を立て，主体的に研究活動に取り組むこと。また，研究を進めていく中で，課題をより深め，発展させていくこと。

準備学習

3年次後期に指導教員を決めるので，それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また，4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため，指導教員と連絡を密に取りながら，計画的に研究のための時間を十分に確保して，一步一步研究が進められるように努力しよう。

評価方法その他

平常点(60%)，中間報告(プレゼンテーション)(40%)による総合評価。
(平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 問題の分析と課題領域の設定
3. 先行研究一週目
4. 先行研究二週目
5. 先行研究三週目
6. 先行研究四週目
7. 先行研究のまとめと研究課題の設定
8. 研究方法，手続きの検討
9. 研究方法，手続きの決定
10. 研究計画の立案
11. 調査・データ収集等一週目
12. 調査・データ収集等二週目
13. 調査・データ収集等三週目
14. 調査・データ収集等四週目
15. 調査・データ収集等五週目
16. 中間報告会

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理，分析，考察を行い，研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では，最終的な研究成果を口頭で発表し，質疑応答を行う。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標・到達目標

卒業研究Aにおける研究課題を発展させ，分析と考察を重ねながら，最終的な結論を導き出す。卒業論文・要旨・発表資料を作成する。研究成果についての発表と質疑応答を通して，今後の課題を明らかにする。

準備学習

卒業研究Bでは，卒業研究Aの成果をさらに発展させて，1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は，大変根気の要る作業であり，一日一日の積み重ねが非常に大切である。また，研究成果を要約した要旨の作成や，卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして，ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

評価方法その他

平常点(40%)，研究論文(50%)，研究発表(プレゼンテーション)(10%)による総合評価。
(平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 研究データの整理，分析，考察一週目
2. 研究データの整理，分析，考察二週目
3. 研究データの整理，分析，考察三週目
4. 研究データの整理，分析，考察四週目
5. 研究データの整理，分析，考察五週目
6. 研究データの整理，分析，考察六週目
7. 論文構成の検討
8. 論文作成一週目
9. 論文作成二週目
10. 論文作成三週目
11. 論文作成四週目
12. 論文作成五週目
13. 論文作成六週目
14. 要旨作成
15. 発表資料作成
16. 卒業研究発表会

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

まず、代表的な心理的発達段階論のなかで児童期がどのように位置づけられているかを紹介する。次に、児童期における心理的諸機能の発達の様子を述べる。これらにより、人間の生涯発達における児童期の意義が明確になるようにしたい。

学習目標・到達目標

児童期における心理的諸機能の発達の実態を知り、生涯発達における児童期の意義を理解する。

準備学習

授業のなかで討論時間を設定したり、課題等を課すので積極的に関与すること。

評価方法その他

平常点と学期末の試験により評価する(各50%)。
(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

- 1 序論 児童心理学の対象と方法
- 2 第1章 幼児期から児童期、そして青年期へ
- 3 第2章 発達段階論にみる児童期
- 4 フロイトの発達段階論 エリクソンの発達段階論
- 5 第3章 知的機能の発達
- 6 ピアジェの知的発達論
- 7 多重知能論
- 8 第4章 情意的機能の発達
- 9 情意的機能とは EQの発達
- 10 第5章 社会的機能の発達
- 11 ギャング・エイジ 道徳性の発達
- 12 向社会的行動の発達
- 13 第6章 自我の発達
- 14 自我としつけ 自己価値感
- 15 第7章 子ども達の幸福のために
- 16 試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

まず、代表的な心理的発達段階論のなかで児童期がどのように位置づけられているかを紹介する。次に、児童期における心理的諸機能の発達の様子を述べる。これらにより、人間の生涯発達における児童期の意義が明確になるようにしたい。

学習目標・到達目標

児童期における心理的諸機能の発達の実態を知り、生涯発達における児童期の意義を理解する。

準備学習

授業のなかで討論をしたり、課題や作業をしてもらいますので積極的に参加して下さい。

評価方法その他

平常点と学期末の試験により評価する(各50%)。
(平常点は授業への参加状況、討論への参加、ミニレポート等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 アタッチメント:ボウルビー, エインズワース
- 3 発達段階論1:ピアジェ, ヴィゴツキー
- 4 発達段階論2:フロイト, エリクソン
- 5 発達障害:LD, ADHD, PDD
- 6 知能:測定の歴史, 知能の構造, 知能検査
- 7 言語:喃語, 指差し, 二語文
- 8 認知:思考, 記憶
- 9 感情:表出, 分化, 抑制
- 10 動機づけ:外発的・内発的動機づけ
- 11 パーソナリティ:その子らしさ
- 12 社会性:道徳性の発達
- 13 子ども心理アセスメント:面接, 行動観察, 心理検査
- 14 子ども心理療法:面接, プレイセラピー
- 15 まとめ
- 16 試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間の心理的発達を連続性のなかで捉え、乳幼児期、児童期、青年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題に関する臨床心理的な活動、及び学習、援助についての理論、技法、実践を学ぶ。アセスメント即治療・教育の立場から、基礎理論、方法(遊戯療法、集団心理療法、三者面談法、心理テスト)を体験しながら学び、子どもや子どもにかかわる大人への対応も可能な心理臨床者としての資質を養う。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。

学習目標・到達目標

心理臨床の基礎理論・方法を理解する。
成長期にある子どもの心理的発達を理解し、各時期に生ずる心理的問題と援助の方法を知る。
心理劇(ロールプレイ)等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力が養われていくようにする。

準備学習

小レポート作成には、特に教科書を基にしますので、教科書を良く読んで予習すること。

評価方法その他

テスト(70%)、平常点(30%:学習態度及び出席状況、小レポート)

週 テーマ・授業目標等

1. 発達臨床心理学の意義と課題
2. 乳児期、幼児期の発達と心理臨床的問題(1)
3. 児童期、青年期の発達と心理臨床的問題(2)
4. 臨床心理学の基礎理論(1)
5. 臨床心理学の基礎理論(2)
6. 臨床心理学の基礎理論(3)
7. 心理的アセスメントとは
8. 心理的アセスメントの方法(1) 観察法
9. 心理的アセスメントの方法(2) 発達心理検査法
10. 心理的アセスメントの方法(3) 総合的理解と見立て
11. 心理的援助の方法(1) 遊戯療法、箱庭療法
12. 心理的援助の方法(2) 集団心理療法(心理劇・導入)
13. 心理的援助の方法(3) 集団心理療法(心理劇・展開)
14. 事例研究(1) 家庭における臨床心理的問題と援助
15. 事例研究(2) 施設・学校における臨床心理的問題と援助
16. テスト

使用教科書名

子どもの発達と心理臨床/神田久男、吉川晴美他/樹村房/1997年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間関係の意義と本質について基礎理論と乳幼児期から老年期にいたるまでの生涯の発達の過程について考究する。現代社会の人間関係、集団の特質や構造について家庭、園、学校、地域等における様々な場面から明らかにする。子どもの人間関係の課題と発展についての実践的理解が深まるようにする。

学習目標・到達目標

人間関係の重要性について理解する。具体的には1. 自分の対人関係のふりかえり、2. 人間の子ども期(胎児期から青年期まで)の対人関係の発達、3. 今日の人間関係の心理臨床的な諸問題を理解し、実践的な対応も可能になること。

準備学習

日頃の人間関係に関わる活動や実習等の体験を意識化し、教科書や講義から得る知識と結び付けて、対人関係の発達に貢献できるよう、理解、学習していきましょう。

評価方法その他

テスト(80%)、平常点(20%:学習態度及び出席状況(20%を総合的に判断する))

週 テーマ・授業目標等

1. 人間関係とは何か
2. 人間関係の先行研究
3. 現代社会における子どもの人間関係
4. 人間関係の発達とは
5. 乳児期の人間関係の特色と発達
6. 幼児期の人間関係の特色と発達
7. 学童期の人偏関係の特色と発達
8. 青年期の人間関係の特色と発達
9. 成人期の人間関係の特色と発達
10. 集団のダイナミクスと役割
11. 集団のダイナミクスとチームワーク
12. 家庭の人間関係の問題と発展
13. 保育集団の人間関係の問題と発展
14. 学校集団の人間関係の問題と発展
15. 家庭・園・学校・地域の人間関係の連携
16. テスト

使用教科書名

新訂 人間関係/吉川晴美、畠中徳子他/不昧堂出版/2010年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生涯にわたる人間の状態や変容を「発達」という視点でとらえ、人と人との関係を「育つ」「育てる」「共に育つ」という関係性でとらえる意義について、講義や文献購読や観察資料など多様な手掛かりを活用して、受講生自身が気づくようにする。

保育場面では、役割による感じ方やとらえ方がきわめて異なる。こうした相違に気づき、チームでかかわることの重要性に気付くようにする。

幼児期の子どもがいる状況において「課題」となりがちなテーマを具体的にに取り上げ、気づきかたや援助の方策を探る。

学習目標・到達目標

発達臨床を、実践場面における発達のアプローチという側面からとらえる。人間の発達を多面的にとらえ、多様なかかわりに気付けるようになる。保育実習あるいは教育実習で、内在的超越的な発達評価活動ができるようになり、接在共存の関係を顕在化できるようにする。

週 テーマ・授業目標等

1. 発達臨床とは
2. 発達の3つのとらえ方—一般共通性・典型類似性・個別差異性
3. 肯定的なとらえ方
4. 『障害』のとらえ方
5. 発達臨床の専門性を身につける道筋
6. 保育場面における臨床的なかかわり:脳性まひ・ダウン症・ゆっくり育つ子
7. 保育場面における臨床的なかかわり:かみつきについて①
8. 保育場面における臨床的なかかわり:かみつきについて②
7. 保育場面における臨床的なかかわり:偏食・小食・過食
8. 保育場面における臨床的なかかわり:虫歯・鼻汁
9. 保育場面における臨床的なかかわり:落ちつかない子・転びやすい子
10. 保育場面における臨床的なかかわり:みんなと遊ばない子・身体に傷がある子
11. 保育場面における臨床的なかかわり:言葉が遅れている子
12. 保育場面における臨床的なかかわり:食べる子
13. 保育場面における臨床的なかかわり:手助けを必要としている家庭とのかかわり①
14. 保育場面における臨床的なかかわり:手助けを必要としている家庭とのかかわり②
15. まとめ

準備学習

保育場面で気になる事例について具体的にに取り上げて学びます。取り上げたいテーマがありましたらお知らせください。一緒に考えます。

評価方法その他

出席40%、行動観察あるいは内在的超越法、臨床的なかかわり方、課題解決の過程に関するレポート60%

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

発達障害とその心理臨床、療育、特別支援教育、について学ぶ。

発達障害は子どもの時期に起こる障害であり、それ故その特性と発達の段階に応じた全人的な早期療育、早期対応が重要である。また、親や家族に対しての療育上の援助も同様に不可欠である。家庭、園、学校、等における、実際の事例や問題を通して、行動や認知、情緒面に課題がある子どもの心理と教育、親や家族へのメンタルケアについて学ぶ。

学習目標・到達目標

発達障害とは何か、その心理臨床と療育について理解する。各発達障害(発達障害の課題)について、教科書を中心にグループでまとめ、発表し、全体で学びあう過程を体験する。実習(実際)の体験と関連させ、発達障害と対応の仕方理解を深める。

週 テーマ・授業目標等

1. 発達障害とは何か
2. 現代社会と障害のとらえ方
3. 自閉症と体験世界
4. 自閉症と発達臨床
5. 広汎性発達障害の諸問題と対応
6. アスペルガー症候群と発達臨床
7. ダウン症候群と発達臨床
8. 多動児と発達臨床
9. 学習障害と発達臨床
10. 非行と発達障害
11. 乳幼児健診と早期療育
12. 発達障害と虐待
13. 発達障害とかかわり方
14. 特別支援教育—保育園、幼稚園
15. 特別支援教育—学校
16. まとめ

準備学習

学生自身で協力しながら、主体的に調べ、発表し、討論し、相互に学びあう過程を大切にしたいと思います。

評価方法その他

平常点(30%:学習・発表態度及び出席状況、小レポート) 課題レポート(70%)

使用教科書名

そだちの臨床/杉山登志郎/日本評論社/2009
発達障害の豊かな世界/杉山登志郎/日本評論社/2001

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理学分野における研究法の基礎から応用にいたるまでをわかりやすく実演・講義する。科学的研究の原理から始め、行動観察、アンケート法による各種調査、実験計画法による心理学研究のデザインのたてかた、得られたデータの処理と分析法、結果の解釈、研究結果のプレゼンテーション、研究における倫理的問題等について具体的に紹介する。
心理学a、bを履修していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材（情報）により予習する。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

期末試験80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 心理学研究法の紹介
- 第2週 科学的研究とは 1
- 第3週 科学的研究とは 2
- 第4週 仮説の立て方について（帰納と演繹）
- 第5週 データによる行動の記述 1（行動観察）
- 第6週 データによる行動の記述 2（データの集計とビジュアル化）
- 第7週 心理統計について 1（統計の基礎）
- 第8週 心理統計について 2（有意差の検定）
- 第9週 実験計画法 1
- 第10週 実験計画法 2
- 第11週 アンケートによる調査について 1（調査計画）
- 第12週 アンケートによる調査について 2（結果の分析と解釈）
- 第13週 心理学的アセスメント 1（パーソナリティ）
- 第14週 心理学的アセスメント 2（知能）
- 第15週 心理学的アセスメント 3（行動）
- 第16週 試験

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人は生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではられません。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もあります。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たなかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくありません。本講義では事例検討を交えながら基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、人が人を理解し支えるとはどういうことなのか、子どもの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていきます。

学習目標・到達目標

- ・自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを身につける。
- ・課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢を育み、カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。

準備学習

自分自身の課題や、身近な人が抱える課題について、整理しておいてください。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）30%、期末レポート50%、その他の提出課題等20%による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か
3. 日常生活におけるカウンセリング
4. ころとからだのメッセージ
5. ♡Who am I?♡～私の「自分探し」
6. 自分を理解すること
7. セルフカウンセリング～マイ・カウンセラーとの対話
8. 自己を表現すること～セルフアサーション
9. 語るの意味と聴くことの意味
10. カウンセリングにおける基本的な態度
11. カウンセリングの展開と気づきのプロセス
12. カウンセリングの理論と技法①クライエント中心療法
13. カウンセリングの理論と技法②認知療法
14. カウンセリング体験～ロールプレイ
15. まとめ～事例検討とスーパーヴィジョン

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの発達検査、知能検査、性格・人格検査などの各種の心理検査に関する基礎知識の習得とともに、人間理解の一つの方法として心理学的臨床観察と検査方法に関して実習を行う。

学習目標・到達目標

心理検査の基本的な意味を知り、心理臨床活動で、どのように実施していくかを理解する。いろいろな心理検査をグループで実際に実施してみて、個々の検査の特色、実施の仕方、配慮点などを、総合的に理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 心理検査とは何か
2. 乳幼児の問題と心理的アセスメントの実際
3. 発達検査実習①乳幼児発達診断法、デンバー式発達スクリーニング検査
4. 発達検査実習②K-ABCテスト
5. 発達検査実習③K式発達テスト
6. まとめ小レポート
7. 知能検査実習①田中ビネー式
8. 知能検査実習②WISC, WIPSI
9. まとめ小レポート
10. 性格検査実習①箱庭法
11. 性格検査実習②文章完成法
12. 性格検査実習③バウムテスト
13. まとめ小レポート
14. 相談場面の展開—診断即治療の心理劇
15. 診断即治療・心理劇を活用した行為評価法
16. 総合レポート

準備学習

種々の心理検査法器具を実際に扱いながら学びますので、授業への参加態度等も重視いたします。

評価方法その他

平常点(50%:出席状況、授業態度)、レポート(50%)

使用教科書名

各種テスト解説書

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉は、従来のような限定された福祉から普遍化された福祉へと変化し、特にその傾向は高齢者福祉領域において顕著となっている。そこで、講義では社会福祉全般の制度概要及び近年の動向について示していくとともに、今後の福祉のあり方について考えていきたい。

学習目標・到達目標

社会福祉の概要を理解する

週 テーマ・授業目標等

1. 社会福祉の基礎概念(1)—社会福祉の意味と理念—
2. 社会福祉の基礎概念(2)—社会福祉の原理—
3. 社会福祉をとりまく環境(1)—少子社会と高齢社会の到来—
4. 社会福祉をとりまく環境(2)—家族と地域社会の動向と課題—
5. わが国における社会福祉の展開(1)—明治期～大正期—
6. わが国における社会福祉の展開(2)—昭和期～今日—
7. 社会福祉を支える仕組み(1)—法体系—
8. 社会福祉を支える仕組み(2)—行政組織—
9. 社会福祉を支える専門職
10. 社会保障の概要—医療保険・年金保険制度について—
11. 公的扶助の概要(1)—生活保護の原理—
12. 公的扶助の概要(2)—扶助の種類と内容—
13. 社会福祉援助の方法
14. 高齢者と障害者の福祉—高齢者の現状と介護保険制度—の仕組みと内容—(1)
15. 高齢者と障害者の福祉—障害者の現状と障害者自立支援法—の仕組みと内容—(2)
16. 定期試験1. 社会福祉の基礎概念(1)

準備学習

新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい。

評価方法その他

平常点20%(授業への参加状況)、定期試験80%

使用教科書名

『社会福祉形成分析論』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会的養護について、原理、理論、援助方法、課題などの視点から、実践例を通して総合的に学ぶ。特に児童福祉施設における社会的養護について取り扱い、施設養護における子どもの育ちとケアの方法の理解を深める。また、そのために必要な子どもの心理的発達について説明し、子どもの抱える心理的な問題とその援助方法についても学ぶ。さらに児童虐待をはじめとした現代社会における子どもを取り巻く養護の諸問題について保育士としてできることを考えていく。

学習目標・到達目標

1. 社会的養護についての理解を深める
2. 児童福祉施設の種類や役割を知る
3. 施設養護における子どもの育ちとそのケアについての知識を得る
4. 子どもの心理的発達について自分の体験をもとに学ぶ
5. 児童虐待の問題について自分に何ができるのかを考える

準備学習

授業で説明した理論や事例を、実習などにおける実際の体験と結びつけて理解できるように普段から意識してください。

評価方法その他

平常点(50%)、定期試験(50%)
平常点は授業への参加状況などから総合的に判断する

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 社会的養護とは
2. 児童福祉施設の種類
3. 児童福祉施設における援助
4. 児童養護施設
5. 乳児期の心の発達
6. 乳幼児期の心の発達
7. 幼児期の心の発達
8. 児童期前期の心の発達
9. 児童期後期の心の発達
10. 思春期の心の発達
11. 発達障害
12. 児童虐待の現状
13. 児童虐待の原因
14. 児童虐待の影響
15. 児童虐待の援助
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身につけているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

- 第1週 養護内容 (1)基本的な日常生活の援助
- 第2週 養護内容 (2)心の傷を癒したり、心をはぐくむための援助
- 第3週 養護内容 (3)親子関係を調整するための援助
- 第4週 養護内容 (4)学校や地域などとの関係を調整するための援助
- 第5週 養護内容 (5)自己実現・自立への援助
- 第6週 児童福祉施設における生活場面の事例検討 (1)実践例を講読する
- 第7週 児童福祉施設における生活場面の事例検討 (2)課題解決の可能性を共に探求する
- 第8週 施設養護プログラムの実際を知る (1)生活のリズムと日課 事例
- 第9週 施設養護プログラムの実際を知る (2)衣食住と生活の喜び 事例
- 第10週 施設養護プログラムの実際を知る (3)生活習慣の形成と生活技術の習得 事例
- 第11週 施設養護プログラムの実際を知る (4)心身の発達と性の理解 事例
- 第12週 施設養護プログラムの実際を知る (5)個人の尊重と集団生活 事例
- 第13週 地域社会との連携・・・学校教育と施設、地域社会、ボランティア
- 第14週 施設養護と社会福祉援助技術 援助者としての資質・倫理
- 第15週 試験

準備学習**評価方法その他**

定期試験85% 授業内レポート5% 授業態度10%

使用教科書名

児童養護の原理と実践的活用/浅井春夫監修・中山正雄編集/保育出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

主として入所型の児童福祉施設で生活する子どもたちの日常を知り、保育者としての支援のあり方を具体的に理解するための学習である。特に本授業では、障害のある子どもをはじめとした多様な子どもたちの生活・心理・発達などについて考究することを通し、それらの子どもたちに対する実践的な援助方法を学ぶことに重点を置いた授業とする。

学習目標・到達目標

児童福祉施設等で暮らす多様な子どもたちの生活や心理についてより具体的な理解を深め、その子たちをどのように支援していったらよいか自ら考究し、保育者としての使命の自覚と実践力を高めることを目的とする。

準備学習

日ごろから、障害児の保育・福祉・教育問題に関心を示し、できるかぎり多様な子どもたちと接する機会をつくるとともに、関連する社会的問題などについても自ら調べ、考える、努力をしてほしい。

評価方法その他

おおむね平常点50%・試験50%をめやすに、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業の出席状況、授業への積極性、課題（小レポート等）に対する取り組みなどを総合的観点から評価する。

週 テーマ・授業目標等

第1週	社会的養護内容の基盤	(1)児童養護の体系と社会的養護内容の実践の場
第2週	社会的養護内容の基盤	(2)児童福祉施設の種類と多様な子どもへの対応の必要性
第3週	社会的養護内容の基盤	(3)児童福祉施設の職員の役割と社会的養護内容の実践
第4週	社会的養護内容の基盤	(4)地域・関係機関・父母と連携した社会的養護内容の実践
第5週	社会的養護内容の実際	(1)児童養護施設の子どもの生活と支援のあり方
第6週	社会的養護内容の実際	(2)障害児施設の子どもの生活と支援のあり方
第7週	社会的養護内容の実際	(3)知的障害児の心理・発達と支援のあり方
第8週	社会的養護内容の実際	(4)身体障害児の心理・発達と支援のあり方
第9週	社会的養護内容の実際	(5)発達障害児の心理・発達と支援のあり方
第10週	社会的養護内容の実際	(6)児童福祉施設における集団の支援と個別の支援のあり方
第11週	社会的養護内容の実際	(7)児童福祉施設の子どもたちと社会生活支援のあり方
第12週	社会的養護内容の課題	(1)支援事例の考察と研究①
第13週	社会的養護内容の課題	(2)支援事例の考察と研究②
第14週	社会的養護内容の課題	(3)児童福祉施設の支援者としての資質と倫理
第15週	授業のまとめ（試験含む）	

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学生が主体的に学習する授業を教育目的とする。具体的には、学生自ら子育てをする家族の役割と乳児保育を担当する保育者の役割をとって授業に参加し、3歳未満児の発達過程を、家庭育児と保育所保育と乳児院・あるいは子育て支援の場における専門職として、子どもの育つ道筋やその特徴について、個性を尊重し、個人差に留意できるよう学ぶ。講義については、教科書や保育所保育指針を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」を知る。乳児保育に関する賛否両論の歴史を踏まえて、乳児院における保育所における乳児保育の現状を知る。さらにVTRを手掛かりとして、乳児期の発達と生活について知る。また、乳児保育現場見学とその事前・事後指導を手掛かりとして、乳児保育で豊かな保育内容を探求するための基盤づくりをする。さらに、3歳未満児保育における保育指導案を作成する。特に保育者の担当制とチームワークという保育者の連携を踏まえた指導案を工夫する。

学習目標・到達目標

保育所保育指針及び解説書に言及されている「保育士の専門性」が、3歳未満児を対象として、学生に身に着くようにするのが本授業の目標である。すなわち①3歳未満児の発達に関する専門的知識を基に、子どもの育ちを見通し、その成長を援助する技術、②3歳未満児の発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力をこまやかに助ける生活援助の知識・技術、③保育内外の空間や物的環境、さまざまな遊具や素材、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく技術、④子どもの経験や興味・関心を踏まえ、さまざまな遊びを豊かに展開していくための知識・技術、⑤子ども同士のかかわりや子どもと保護者のかかわりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識・技術、⑥保護者等への相談・助言に関する知識・技術、を学習し身につける。

準備学習

身の回りの乳児を中心とした環境やおとなたちのかかわり・玩具などについて、よく観察しておいてください。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断する)(40%)授業を通して出される課題(30%)テスト(30%)

週 テーマ・授業目標等

乳児保育の教科書に記述される内容を学習できるようにする。具体的には以下のとおりである。	
1	乳児保育の基本となる考え方／乳児とは何か(私たちが抱く乳児像)
2	乳児に関する保育観の経緯と現状／乳児の発達と遊び(0～1歳)
3	乳児の生活(日課と遊び)／乳児の発達と遊び(1～2歳)
4	乳児の生活(食事と睡眠)／乳幼児の発達と遊び(2～3歳)
5	乳児の生活(排泄と健康・安全)／着替えとオムツ替えの実技練習
6	乳児の生活(子どものいる場所)／乳児の過ごす環境を考える
7	乳児保育の見学に向けてオリエンテーション(保育所での環境と生活の仕方)／見学実習事前学習
8	保育所・子育て支援施設見学の実施(1)
9	保育所・子育て支援施設見学の実施(2)
10	見学交流報告会(1)
11	見学交流報告会(2)／日々の生活の中から見えてくる子どもの姿(1)
12	日々の生活の中から見えてくる子どもの姿(2)(乳児が生活する場所の問題)／乳児と遊び
13	生活を支える保育者の役割・子どもと生活を共にする保育者の役割／乳児を取りまく現代社会の課題(1)－家庭とのつながり
14	保育計画と評価／乳児を取りまく現代社会の課題(2)－他機関との連携
15	テスト／まとめ(育てられるものから育てるものへ)

使用教科書名

阿部和子「演習 乳児保育の基本」萌文書林

授業科目概要・教育目的（履修条件）

目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちの芽を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核である。この授業では、幼児理解の基本をそれに基づく援助の可能性・工夫についてさまざまな視点から学び、考えていく。

学習目標・到達目標

- ・幼児理解の基本的視点について理解する
- ・幼児理解の具体的な方法を知る
- ・事例を読み取り、子どもの内面について考察できるようにする

準備学習

幼稚園教諭免許取得必修科目です。テキストは毎週予習として読んでおくべき箇所を伝えますので、しっかりと読んで授業に臨んで下さい。

評価方法その他

平常点(出席率・課題提出物)50%+試験またはレポート50%の割合で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育の基本と幼児理解
2. 保育の場と幼児理解
3. 「わたし」の中の子どもと出会う
4. 幼児理解の基本的視点
5. 遊びや行動から読み取る
6. 保育者の基本姿勢—かかわりながら理解する
7. 保育とカウンセリングマインド
8. 「よさ」ととらえる目
9. 発達する姿をとらえる目
10. 幼児理解と記録
11. エピソードの取り出しと読み取り
12. 事例検討①
13. 事例検討②
14. 事例検討③
15. まとめ

使用教科書名

幼児理解と評価/文部科学省/ぎょうせい

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針で示されている内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、幼稚園等保育現場で展開されている保育の内容について総合的に学ぶ。また、わが国の保育の基本の一つである「環境を通しての教育」や「遊びによる総合的な指導」についての理解を深める。

具体的には、子どもの様子や保育者のかかわりについての事例や園生活の概要を紹介するビデオから、子どもの内面を読み取り、幼児期の遊びの意義やより良い保育のあり方について実践と結び付けながら理解する。

学習目標・到達目標

- ①乳幼児期の発達に即し、育ちを支える保育者の援助の在り方について考察することができる。
- ②乳幼児期における環境の重要性や、「環境を通しての教育」の意義について理解できる。
- ③幼稚園教育要領に示す各領域のねらい及び内容を踏まえ、遊びを通して子どもが育つ姿と保育者の援助の在り方について理解できる。

準備学習

日常生活の中で乳幼児とその周りの人やものに目を向けて観察・考察するようにしてください。受け身ではなく、積極的な態度で受講することを期待します。

評価方法その他

学期末に行う定期試験及び授業内に提出するレポート等から総合的に評価する。評価の比率は、定期試験(0.8)、授業内提出レポート(0.2)である。

週 テーマ・授業目標等

- 1 保育内容とは
- 2 幼児の園生活と保育者の援助(1)
- 3 幼児の園生活と保育者の援助(2)
- 4 乳幼児の特性と保育内容
- 5 幼稚園教育と幼稚園教育要領
- 6 保育所保育と保育所保育指針
- 7 保育の基本と保育内容
- 8 領域・ねらい・内容
- 9 環境を通じた教育
- 10 遊びを中心とした保育(1)
- 11 遊びを中心とした保育(2)
- 12 3歳未満児の生活と保育
- 13 3歳児の生活と保育
- 14 4歳児の生活と保育
- 15 5歳児の生活と保育

使用教科書名

後藤範子著「子どもと保育の探求」大学図書出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深めながら、年齢に応じた保育の計画と実践のあり方について学ぶ。
 具体的には、討議、ロールプレイなどの演習、教材研究や指導計画の作成などから、より良い保育のあり方について検討し、今後の課題を見出す。また、子どもや保育を取り巻く環境や今日的課題に視点を広げ、求められる保育内容について検討する。

学習目標・到達目標

到達目標①:各年齢の発達に即した保育者の関わり方や保育内容について具体的に理解する。
 到達目標②:国内・国外の保育の実際を参考にしながら、よりよい保育内容を構築するための保育環境や教材について調査し、保育を計画する基礎を習得する。
 到達目標③:それまで得られた保育に関するあらゆる知識を結び付けながら、実際に保育を行うことを想定して指導計画(活動案)を作成する。

準備学習

保育内容総論Aで学んだことを整理し、ボランティア等での実際に乳幼児とかかわる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

評価方法その他

学期末のレポート課題に加えて数回の小レポート及びサブノートの提出を課し、総合的に評価する。
 評価の比率は、レポート課題(0.7)、小レポート及びサブノート(0.3)である。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 子ども同士の関係と保育者の援助(1)
- 3 子ども同士の関係と保育者の援助(2)
- 4 0～1歳児の生活と保育内容
- 5 1～2歳児の生活と保育内容
- 6 3歳児の生活と保育
- 7 4歳児の生活と保育
- 8 5歳児の生活と保育
- 9 諸外国の保育
- 10 保育をデザインする
- 11 保育に活用する教材について
- 12 保育を計画する
- 13 音楽遊びの展開
- 14 造形遊びの展開
- 15 運動遊びの展開

使用教科書名

後藤範子著「子どもと保育の探求」大学図書出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育実践例を学ぶ。乳幼児が健やかに育つために「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。
 授業時間外の学習として児童学科承認の保育実践活動に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標・到達目標

幼児期の身体の発達を正しく理解すること、また、現場に出て戸惑うことなく子どもたちの身体や健康に向き合うことができるようになることを目的とする。「健康」を多くの側面から捉えられる力を修得する。

準備学習

児童の健康に関心をもつ態度を日頃から持ってほしい。子どもを取り巻く環境と健康についていろいろな角度から考える習慣を身につけて欲しい。

評価方法その他

授業時間内の学習(授業への2/3以上の出席を基本として、平常点50%、課題・レポートの内容50%)及び授業時間外学習を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 健康観の変遷と社会環境
2. 乳幼児の健康の現状と課題
3. 乳幼児の身体と働きⅠ(呼吸・循環器系)
4. 乳幼児の身体と働きⅡ(筋肉・骨・神経)
5. 乳幼児の身体と働きⅢ(運動能力)
7. 発育・発達と運動遊びⅠ(室内遊び)
8. 発育・発達と運動遊びⅡ(戸外遊び)
9. 運動習慣の形成と必要性
10. 生活習慣と健康
11. 乳幼児の食事と健康
12. 乳幼児の遊びや運動と健康
13. ケガの予防と救急法
14. 保育者の危機管理
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育の実践例を学ぶ。特に、乳幼児が健やかに育つために働く「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。授業時間外の学習として児童学科承認の保育実践活動(子ども体験塾、その他のボランティア活動)に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標・到達目標

子どもの健康を総合的に捉えられる能力を身につける。子どもは発育発達に大きな個人差が生じ、一定の側面だけで健康について評価することは望ましいものではない。様々な観点から子どもの健康を考え、健康の維持・増進をどのように捉えていくのかを考えられるようにする。過去から現在、さらにこれからの子どもを取り巻く環境についても考え、大人として、保育者としてどのように子どもの健康を取り上げていくべきなのかを考えられるようにする。

準備学習

現在の子どもの取り巻く環境は、自身の保育園、幼稚園時代とは大きく様変わりしています。両者(今と昔)のずれを感じ取ると共に保育士あるいは幼稚園教諭、小学校教諭になった時に、子どもとその親に健康について積極的にアドバイスをできる指導者になってほしい。

評価方法その他

出席と毎回の小テストの総合評価とする。平常点50%、小テスト50%とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1.子どもの健康は今
- 2.子どもの健康を計るバロメーターは何か
- 3.様々な食生活と生活習慣
- 4.子どもに運動習慣をつけることの意義
- 5.日本の子どもと外国の子どもの生活習慣について
- 6.運動刺激は子どもになぜ必要か
- 7.子どもの発育・発達に応じた運動
- 8.子どもの運動能力の測定方法
- 9.親と子どもの健康観と運動観
- 10.コミュニティーの重要性
- 11.保育園、幼稚園で行う健康教育、健康指導
- 12.保育園の健康教育の実際
- 13.幼稚園の健康教育の実際
- 14.小学校の健康教育の実際
- 15.まとめ
- 16.テスト

授業科目概要・教育目的（履修条件）

幼稚園教育要領あるいは保育所保育指針における「乳幼児期に育つことが期待される心情・意欲・態度など」を理解し、保育内容を工夫し、多様な保育技術を実現できるようにする。

言語獲得は人間は他の動物を区別する重要な特色であるが、そのほかの特色(身体、2足歩行や両手の使用、社会を構成する等)と言葉の使用がどのように関連し合っているのか、考える。

「いつの間にか育つことば」「いつの間にか育てていることば」を意識化し、生活の中にある「育ちあい・育てあい」の言語発達過程に気付く、人間関係を促進する言葉の働きを意識化し、保育者として意識的適用できるような端緒とする。保育者・教育者として個と集団が相対的に発展するように集団活動状況における「言葉」の意識化と集団関係発展的な言葉の可能性を広げられるように演習を重ねる。

0歳から就学までの言語発達過程と、言語発達を支える関係状況を考える。特に言語発達過程にある乳幼児と養育者とのコミュニケーションの変化過程に気付く。また、言語発達過程で養育者との関係でおこなわれるか

学習目標・到達目標

3歳から就学前の幼児に関しては、幼稚園教育要領と保育所保育指針における言語の獲得に関する領域「言葉」の意義を理解し、幼児の生活環境を整える保育者としての専門性を身につける。幼児の生きる力の基礎となる心情・意欲・態度が育つように、幼児が生活の全体を通じ、さまざまな体験を積み重ねる中で「環境」「健康」「人間関係」「表現」領域と相互に関連をもちながら、ねらいを達成するような理論・技法・実践の統合ができるようにする。幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動や、専門家として臨機応変に技法を開発できるようにする。

3歳未満児については、保育所保育指針における「養護にかかわるねらい及び内容」が言語発達の基礎となるのである。すなわち養護は「子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために必要な援助」であると同時に、言語習得の基盤としての子どもの関係性の発達を促進するのである。

その上で、0才から6歳に至るまでの乳幼児に豊かな言語発達をもたらす児童文化財の内容や活用に関する工夫の仕方を知り、活用できるようにする

準備学習

日常生活でわたしたちがいつのまにか使っていることばに関心を持ちましょう。あなたの何が言葉として伝わっているのか意識化し、日常生活でよりよい言葉を使えるようにしていきます。

特に子どもが使うことばがどのように変化するかについて関心を持ち、観察してください。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加)40%
レポート 20%
テスト 40%

週 テーマ・授業目標等

- 第1回保育所保育指針・幼稚園教育要領
- 第2回言葉以前のコミュニケーションの発達
- 第3回言葉を用いたコミュニケーションの発達
- 第4回言葉の発達と遊び・女だち関係
- 第5回経験を語る能力・読み書きへの関心の発達
- 第6回ことばを育む児童文化財
- 第7回ことばを育む児童文化財
- 第8回ことばを育む児童文化財
- 第9回豊かな言語生活とは？
- 第10回集団活動状況において子どものことばに気付く
- 第11回集団活動における保育者のことばの意識化
- 第12回応答的関係をはぐくむには
- 第13回共に考える関係をはぐくむには
- 第14回言葉が育つ環境の工夫とは
- 第15回共通授業:まとめ

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

専門家として必要な「話す姿勢や呼吸の意識化」をする。声を出したり、それを人に届けることを楽しむ。さまざまな素材を読みこなせるよう演習する。組み立てを考えて読むことで、その内容が聞き手にしっかりと届けられるようにする。日常生活の遊びを劇遊びにつなげていく方法や、劇遊びによって日常生活の充実を促す方法を考える。15回の授業のうち前半は保育内容の統合性を顕在化するために、KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。後半は、『言葉』に焦点を当てた指導案作成と模擬保育を行う。

学習目標・到達目標

幼児教育場面で必要になる表現力・指導力や実践力を養います。具体的には「4～50名の前で、マイクがなくても自分の声を届けることができるようにする。声を出し続けても壊れない身体作り」「子どもの興味・関心や発達の状態、年間行事や季節、を考えて絵本や童話が選択できる」「絵本やお話を提供する場合に、その組み立てを考えて、語り聞かせることができる」「子どもたちと共に既成の絵本・紙芝居や劇遊びなどを活かして、お話の世界を享受できるように表現方法を多様に工夫できる」「子どもが言葉の美しさ・面白さに気づき、ことばをたのしみ、豊かに使いこなせるように工夫する」などです。

準備学習

専門家の劇活動やお話活動などをできるだけ見たり聞いたりする機会を作りましょう。自分自身もKVA祭などに主体的に取り組んだり、人形劇や朗読など演じてみるなどの体験を積み、実力を身につけましょう。

評価方法その他

授業時間内の参加状況・討論への参加・指導案・模擬保育などで総合的に判断します。(50%) 実技演習評価とレポート(50%)総合して評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. 呼吸法・姿勢(実践演習)
2. 自分の声・人に伝わる声(実践演習)
3. 音声による表現・交流(実践演習)
4. 日本語の音韻と音声(実践演習)
5. 声に出して読む・話すように読む(実践演習)
6. 組み立てを考えて読む。(講義と実践演習)
7. 紙芝居・ペープサート・パネルシアターを活かす。(実践演習)
8. 絵本を読む(絵・絵本・本を読むこと。指導案の作成)
9. 絵本を読み聞かせる(伝わるように読むには、指導案の作成)
10. 絵本を今ここで子どもと共に読む(指導案の作成)
11. 素話を語り聞かせ①(模擬保育)
12. 素話を語り聞かせ②(模擬保育)
13. 絵本の「先」を創る劇あそび①(模擬保育)
14. 日常保育を統合する劇あそび②(模擬保育)
15. 文化財や機器を活かした劇あそび③(模擬保育)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

乳幼児期に育まれる「人間関係」の基礎と発達について学ぶ。「人間関係」は人が生きていく上での重要な基盤である。とりわけ子どもたちにとって、もっとも身近である大人(養育者・保育者)のかかわりが果たす役割は大きい。本授業では、子どもたちの「人間関係」「人とのかかわり力」を育む保育者のあり方について、発達の課題や具体的な保育の場面などを題材としながら授業を進めていく。なお、本授業は、原則として前期・後期合わせて履修するものとし、後期には、児童学科承認の保育実践活動への参加を通し、保育者自身のチームワークの基礎を実践的に学ぶと共に、総合的な指導力・実践力を習得する。

学習目標・到達目標

・乳幼児期の人間関係の発達について基本的な知識を身につける。
・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の「人間関係」の領域について、理解する。
・子どもたちの人間関係を育むような保育者としてのかかわり方や役割について、実践的な理解を深める。

準備学習

1. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の「人間関係」に関する部分に必ず目を通しておいください。
2. 授業では具体的な事例や場面を取り上げていきます。あなたが日常場面で見かけた子ども同士のかかわりや、大人と子どものかかわり、また自分自身の子ども時代の印象に残るエピソードなどを書き留め、整理し、その時感じた事・考えたことについてまとめておいください。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断)(40%)、課題・提出物・発表(プレゼンテーション)(30%)、ミニテスト(30%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育所保育指針と幼稚園教育要領における領域【人間関係】
2. 現代社会における子どもの「人間関係」の特徴と課題
3. 遊びを通して育つ「人間関係」
4. 保育場面において「人間関係」を育てる遊び
5. 人とのかかわりに難しさを抱える子どもの理解と保育者の役割
6. 子どもたちと保育を支える「人間関係」①(保護者同士、保護者と保育者のかかわり)
7. 子どもたちと保育を支える「人間関係」②(保育者間の連携、地域との連携)
8. 子どもの生活と人とのかかわり①(保育所・幼稚園での生活)
9. 子どもの生活と人とのかかわり②(家庭での生活)
10. 乳幼児期の発達にみる人とのかかわり①(乳幼児期の自己・情緒の発達)
11. 乳幼児期の発達にみる人とのかかわり②(乳幼児期の関係性の発達)
12. 人とのかかわりを育む保育者の役割①(子どもとの信頼関係の構築)
13. 人とのかかわりを育む保育者の役割②(子どもの人間関係の援助)
14. 集団における人間関係と個の育ち
15. まとめ(ミニテスト含む)

使用教科書名

特になし。必要に応じて資料を配布いたします。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「保育内容演習人間関係B」は、実践演習を中心とし、同時に開講される「保育内容演習人間関係A」とリンクさせながら進めていく。保育現場において、子どもも大人（保育者、保護者）も共に育ちあう「人間関係」をめざし、KVA祭という機会を実践の場として生かし、地域の子どもの対象とした劇制作と上演経験を通して、保育者自身のチームワークのあり方とチームアプローチの基礎を実践的に学ぶと共に、総合的な指導力と実践力の習得を本授業のねらいとする。

学習目標・到達目標

・グループワークへの取り組みを通じ、メンバー間の役割分担と連携、チームワークのあり方を実践的に学び、保育者間の連携について理解を深める。
・保育者として子どもたちにどのような保育活動を提供したらいいのか、「人間関係」という視点からの保育目標の設定、保育計画の立て方や保育者の役割について、実際に経験し考える。

準備学習

・劇制作活動への取り組みに向けて、自主的に演劇・音楽などの鑑賞を積極的におこなっておいください。また、制作に必要な資料などを集め、グループのメンバーと計画案を練っておいください。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）（40％）、グループワーク（劇制作活動および発表）への取り組み（30％）、レポート（30％）

週 テーマ・授業目標等

1. 保育者チームによるグループワーク（劇制作活動）の計画
2. 保育者間の連携のあり方を考える
3. グループワーク①（劇制作活動）
4. グループワーク②（劇制作活動）
5. グループワーク③（劇制作活動）
6. グループワーク④（劇制作活動）
7. 劇発表
8. ふりかえり
9. グループダイナミクスを考える（1）
10. グループダイナミクスを考える（2）
11. グループダイナミクスを考える（3）
12. 子どもを支える保育者同士の人間関係
13. 子どもの人間関係の発達に保育者が果たす役割（1）
14. 子どもの人間関係の発達に保育者が果たす役割（2）
15. まとめ

使用教科書名

特になし。必要に応じて資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

幼児を取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示す「環境を通じた教育」と領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。
幼児と様々な環境と関わる姿と保育者の援助、幼児を対象とした環境教育の具体的な方法について演習を交えながら具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

到達目標①:幼稚園教育要領、保育所保育指針の示す「環境を通じた教育」の考え方を理解できる。
到達目標②:「環境を通じた教育」が保育の実際にどのように具現化されるのかについて理解できる。
到達目標③:幼児が楽しみながら身近な自然環境に親しむことのできる方法や内容について考察し、具体的に理解できる。

準備学習

日常生活の中で乳幼児とその周りの人やものに目を向けて観察・考察するようにしてください。受け身ではなく、積極的な態度で受講することを期待します。

評価方法その他

主にレポート課題(60%)、発表・提出物(40%)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 領域「環境」
3. 春の自然と伝統行事
4. 春の自然を体験する
5. 植物を育てよう【生物にかかわる幼児の経験と知識1】
6. 子どもの感覚と遊び
7. 数と形
8. みのまわりのかたち
9. 虫取りをしよう【生物にかかわる幼児の経験と知識2】
10. 「子どもの見え方」を体験する
11. 「子どもの見え方」を体験する
12. 夏の自然と伝統行事
13. 夏の自然を体験する
14. 環境を通じた教育
15. 子どもを取り巻く環境の変化

使用教科書名

無藤隆・中坪史典・後藤範子編著「保育内容環境」大学図書出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育内容演習環境Aで学習した内容を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示す「環境を通じた教育」に基づいた保育内容を具体的に計画し、理解を深める。

学習目標・到達目標

到達目標①:「環境を通じた保育」の考え方を基盤として、小学校教育への接続を視野に入れた保育を具体的に計画することができる。

到達目標②:子どもを取り巻く環境を把握しながら、保育現場での子育て支援について理解を深める。

到達目標③:幼児が季節の移り変わりに気づき、身近な自然環境に親しむことができる内容や方法について考察し、具体的に理解することができる。

準備学習

保育内容演習環境Aで学んだことを整理し、ボランティア等での実際に乳幼児とかかわる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

評価方法その他

主にレポート課題(50%)、発表・提出物(50%)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 秋の自然と伝統行事
3. 秋の自然を体験する
4. 小学校教育への接続と環境教育
5. 動物飼育活動の意義と方法
6. 栽培活動の意義と方法
7. 自然科学と社会をめぐる問題について
8. 園生活と行事
9. 園外保育の計画
10. 園生活と社会環境①保護者との連携
11. 園生活と社会環境②子育て家庭を取り巻く環境
12. 園生活と社会環境③地域社会とのかかわり
13. 園生活と社会環境④地域資源を生かした保育
14. 冬の自然と伝統行事
15. 冬の自然を体験する

使用教科書名

無藤隆・中坪史典・後藤範子編著「保育内容環境」大学図書出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにはぐくむための保育の内容と方法について学ぶ。領域「表現」においては、乳幼児のさまざまな表現をとらえ、その意味を理解し、育ちの見通しをもった援助に結びつけていくことが重要である。また、子どもの主体的な表現活動を支えるためには、保育環境を意図的に構成するとともに、環境の一部である保育者自身が感性を磨き、自らの心やからだに問いかけながら豊かに表現するスキルを身につけることも大切である。この授業では、さまざまな「表現遊び」を演習・体験しながら、保育における表現活動の指導の可能性について探究する。

学習目標・到達目標

- 保育における領域「表現」のねらい及び内容を理解する
- 子どもの行為・遊びを「表現」の視点からとらえる
- 乳幼児の表現をはぐくむ環境構成と基本的な指導法について理解する
- 表現者(保育者)としてのスキルを磨く
- 乳幼児期にふさわしい指導案を作成し、模擬的に実践できる

準備学習**評価方法その他**

- 1) 授業時間内の演習評価(出席状況・授業態度を含む)50%
- 2) 提出物の評価(指導案・レポート等)50%を100点満点に換算して成績評価点とする。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 保育内容における領域「表現」とは
3. 乳幼児の発達と表現
4. 環境をはぐくむ子どもの感性と表現
5. 身体をつかった表現遊びの実践
6. 身近な素材を使って作る・描く
7. 表現をはぐくむ教材、環境構成の工夫及び指導案の作成手順①
8. 指導案作成・模擬保育①
9. 子どもの音楽表現とは
10. 音マップを作ってみよう
11. 声の表現
12. 楽器を作ってみよう
13. 素材から表現へ
14. 表現をはぐくむ教材、環境構成の工夫及び指導案の作成手順②
15. 指導案作成・模擬保育②
16. 課題提出

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにはぐくむための保育の内容と方法について、演習を通して具体的・体験的に学ぶ。身体表現・造形表現・音楽表現などさまざまな「表現遊び」のための教材研究を行い、指導案を作成し、模擬保育を行うことを通して、保育における表現活動の指導の可能性について探究する。

学習目標・到達目標

- 保育における領域「表現」のねらい及び内容を理解する
- 子どもの行為・遊びを「表現」の視点からとらえる
- 乳幼児の表現をはぐくむ環境構成と基本的な指導法について理解する
- 表現者（保育者）としてのスキルを磨く
- 乳幼児期にふさわしい指導案を作成し、模擬的に実践できる

準備学習**評価方法その他**

- 1) 授業時間内の演習評価（出席状況・授業態度を含む）50%
- 2) 提出物の評価（指導案・レポート等）50%を100点満点に換算して成績評価点とする。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 身体表現及び造形表現の教材研究
3. 身体表現模擬保育(1)
4. 身体表現模擬保育(2)
5. 身体表現模擬保育(3)
6. 造形表現模擬保育(1)
7. 造形表現模擬保育(2)
8. 造形表現模擬保育(3)
9. 音楽表現の事例研究(1)
10. 音楽表現の事例研究(2)
11. 音楽表現の教材研究(1)
12. 音楽表現の教材研究(2)
13. 音楽表現模擬保育(1)
14. 音楽表現模擬保育(2)
15. 音楽表現模擬保育(3)
16. 課題提出

使用教科書名

遊びでひろがる表現活動/斎藤二三子他編著/大学図書出版/2008

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会とのかかわりの中で保育理論を構造的に解明し、保育方法の内容を検討し、保育実践を整理、再考する。幼児が主体的自発的に遊び、活動する中で、価値のある学習が生まれ、心身の発達が助長される。そのように環境を構成し、子どもの発達を保障する取り組みができるような保育方法を研究する。特に集団保育において子どもの人間関係の発達を促す保育者の役割に注目して、幼稚園および保育所における保育の計画や指導方法について学習を深める。

学習目標・到達目標

- 1) 今までに培われてきた保育の理念と形態および方法について検討し、今後めざす保育方法を探求する。
- 2) 保育環境を担う保育者のかかわり方を学び、集団保育における子どもの育ちを援助する方法について理解を深める。
- 3) 主体的に学ぶことを通して、自発性や創造性など保育実践につながる資質を向上させる。

準備学習

教科書「人間関係」の第4章「保育と人間関係」、第5章「集団指導の方法」の内容を中心に授業をします。教科書は必ず読んでおいてください。毎回授業内容への感想や疑問を書く時間を持ちます。考え、書く習慣を身につけて欲しいと思います。また発言することも大切です。講師から答えることで双方向的に学習がすすむことを期待します。

評価方法その他

授業時間内の学習（授業への参加態度・理解の程度および学んだことを文章化する力を総合的に評価）60%、定期試験40%

週 テーマ・授業目標等

1. 保育方法の基本理念、保育所保育指針、幼稚園教育要領のめざすもの
2. 現代社会における子どもの生活と保育
3. 環境を通して子どもを育てる
4. 遊びを通して子どもを育てる一保育指導の形態と方法
5. 人間関係を育てる保育者の役割
6. 保育者の子どもへのかかわり方
7. 集団保育の中で育つ子どもの姿一人間関係の発達
8. 集団指導の方法一個と集団を発展させるリーダー機能
9. 集団指導の方法一集団の発展段階における技法
10. 子どもの発達と子ども集団の発展
11. 指導計画の立案
12. 指導計画の検討
13. 親子と共に育つ保育者の役割
14. 地域の子育て活動としての保育者の役割
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

吉川晴美 日吉佳代子 宮下美智代ほか著 人間関係一かかわりあい・育ちあい一不昧堂出版 2010
 文部科学省 幼稚園教育要領<平成20年告示> フレーバル館
 厚生労働省 保育所保育指針<平成20年告示> フレーバル館

授業科目概要・教育目的（履修条件）

障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、および今後の課題を理解する。
障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「要助児」と捉える。そして保育者としての役割は「助けることを必要としている子ども（self-help needed person）」であることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。
このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

様々な障害があることを知り、正しく理解し、助けを必要としている子ども達（要助児）への対応の仕方を、考え・行動することのできる保育者となる。

週 テーマ・授業目標等

第1週	「障害」のとらえ方 - 「障害」とは
第2週	「障害」のとらえ方 - 「障害児」とは、「要助児」の概念
第3週	障害児保育を支える理念
第4週	障害に応じた保育支援 視覚障害 I <視野・色覚・視力>
第5週	障害に応じた保育支援 視覚障害 II <援助・ガイドの方法>
第6週	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害 I <聞こえのしくみ>
第7週	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害 II <会話の方法>
第8週	障害に応じた保育支援 肢体不自由
第9週	障害に応じた保育支援 知的障害
第10週	障害に応じた保育支援 発達障害
第11週	障害児を取り巻く保育の現状 — 保育の現状と課題
第12週	障害児を取り巻く保育の現状 — 専門機関とのよりよい連携
第13週	保育現場における留意事項
第14週	遊びや対人関係の援助、食事動作、排泄動作、行為動作などの生活動作に関する具体的な保育技術
第15週	家庭への支援、家庭との連携と協力

準備学習

保育の現場で出会う「障害児」達を想定し、皆さんが「困らない」、子ども達を「困らせない」知識を身につけます。
実習に間に合うよう、すぐに使える手話ゲーム・手話ソングを取り入れています。

テキスト②の「ハッピーコミュニケーションのすすめ」は、書店での取り扱いがないため、講義の中で販売します。

評価方法その他

平常点40% レポート20% 試験40% の割合で評価する（平常点とは、授業への参加状況や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。）

使用教科書名

- ①「手話ソングブック ～ともだちになるために～」 すずき出版 新沢としひこ 中野 佐世子 共著
- ②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著 書店での取り扱いがないため、講義内で販売します。900円(税込)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育の対象となる子どもたちは、一人一人が多様な存在であり、きめこまかな保育活動を行う必要がある。この授業では、障害児の実態、心理、保育方法を、適切に理解することに努め、障害児の特性や配慮すべき事柄、障害児保育の歴史と制度、障害児をとりまく保育集団や人間関係などのあり方、障害児に対する保育技術、などを学習する。

学習目標・到達目標

障害児とその保育集団に関する適切な理解を深め、子ども一人一人にかけがえのない個性と発達があることを知り、保育者として、多様な子どもたちとどのように接していけばよいかを理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション(学習の目的と方法)
- 2 障害児保育の意義と保育の役割
- 3 「障害」とは何か
- 4 障害児の人権と保育士の使命
- 5 障害の特性と配慮・支援のあり方(知的障害)
- 6 障害の特性と配慮・支援のあり方(発達障害)
- 7 障害の特性と配慮・支援のあり方(身体障害)
- 8 障害児支援のあり方についてのまとめ
- 9 障害児の生活と環境
- 10 障害児保育の理念と動向
- 11 障害児保育の歴史と制度の現状
- 12 障害児保育の場と福祉サービス
- 13 問題事例の考察(話し合い、文献調べ)
- 14 問題事例の考察(考察の整理、レポート作成)
- 15 これまでの授業のまとめとレポート発表
- 16 試験と総括

準備学習

日ごろから、障害児の保育・福祉・教育問題に関心を示し、できるかぎり多様な子どもたちと接する機会をつくるとともに、関連する社会的問題などについても自ら調べ、考える、努力をしてほしい。

評価方法その他

平常点50%・試験50%を原則的めやすとし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点とは、授業の出席状況、授業への積極性、課題に対する取り組み等々にかんがみ、総合的観点から評価するものである。

使用教科書名

『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴／橋本好市／直島正樹編著 ミネルヴァ書房2014版) 参考図書として、授業者の著書『そのまんまでもいいんだよ』『待つことを学びなさい』(飯島勤・創風社)『子どもと家庭の福祉を学ぶ』(松本園子／堀口美智子／森和子・ななみ書房)を用いる。
その他、授業者の用意するプリント及び映像資料等により、授業を進める。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げる。これらの実践活動を振り返り発表する。

学習目標・到達目標

これまでの児童学科における学びに基づいて、保育、心理、健康、福祉、文化などの視座から、地域社会が抱える児童にかかわる問題に具体的に取り組む。3年次までの経験の積み重ねをもとに、最終学年において、学内だけでなく地域や社会とつながり、貢献へとつながるようにする。児童学の専門的な理論と方法と実践を学ぶ。

準備学習

指導担当教員と事前によく相談し、年間計画を立てて、グループで協働して主体的に地域貢献活動を進めていくことが求められます。

評価方法その他

ポスター発表40%、平常点60%で総合的に評価します。主体的に参加し、取り組むことを期待します。

週 テーマ・授業目標等

本授業は児童学科全教員により、以下の内容をグループ指導によって進める。(通年全30回)

- 1～3回 テーマ設定と年間の実践演習計画をたてる
- 4～6回 グループワーク(それぞれの課題について、各自の興味・関心に基づき文献購読、資料収集などをおこない、調べたことをグループ内で発表し討議する)
- 7～14回 実践活動①(実際に地域に出かけていき、調査研究活動や子どもにかかわるボランティア活動等の実践をおこなう)
- 15～20回 中間発表報告会(それまでに調べてわかったことや実践活動をふりかえり、経過をまとめ、KVA祭などの機会を活用し、児童学科内のみならず、地域社会などにも向けて成果を発表し、意見交換を行う。)
- 21～27回 実践活動②(中間発表報告を踏まえて、継続課題や新たな課題に取り組む、実践を行う。)
- 28～30回 統合活動(調査研究の成果と実践活動を統合し、最終的なまとめと発表をおこない、今後に向けての自己課題を見出していく。)

使用教科書名

各指導教員の指示に従うこと

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学習指導要領における小学校算数科の目標および「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の基礎的内容を学びます。小学校から高校までに学習する算数・数学を系統別に概観し、特に躓きやすい分野について再考します。さらに、これらをわかりやすく指導するにあたって教師に必要とされる、より広く深い数学的内容について学習します。また、新学習指導要領になり、「算数的活動(数学的活動)」のさらなる充実を図る必要があり、これを受けて種々の学会や研究会において、先生方の様々な取り組みの実践報告がなされています。最新の実践報告もふまえながら一緒に「算数的活動」の充実についても考えます。

学習目標・到達目標

整数、小数と分数、数についての見方や感覚、四則演算、概数と見積り、長さ、様々な量とその単位、量の大きさについての感覚、量の比較と測定、面積や体積、図形についての理解、平面図形、立体図形、図形の構成・性質、図形についての感覚、見取図、展開図、関数の考え、式のもつ意味、統計、算数的活動

準備学習

あるときは教師として、あるときは小学生として、算数・数学を考えてください。授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、平常点(40点)(平常点は、課題への取り組みと授業への貢献度(授業内の発表や質問)を総合的に評価します。)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 新学習指導要領の概略
- 第2週 数と計算(1)数の体系
- 第3週 数と計算(2)四則演算
- 第4週 数と計算(3)記数法
- 第5週 量と測定(1)量の単位と時間の単位
- 第6週 量と測定(2)面積と体積
- 第7週 量と測定(3)速さ
- 第8週 中間テスト
- 第9週 図形(1)平面図形
- 第10週 図形(2)立体図形
- 第11週 図形(3)相似、図形の対称移動
- 第12週 数量関係(1)文字式
- 第13週 数量関係(2)関数
- 第14週 数量関係(3)統計
- 第15週 算数的活動の充実に向けての討議
- 第16週 期末テスト

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活科で取り扱われている、自分と社会との関わり、自分と自然との関わり、および自分自身と自分の生活についての基本的事項について、学生自身の生活から考えを深め、それを生活科教育の中でどう扱うかについて言及する。可能な限り、野外や学外での踏査を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童への生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得する。

学習目標・到達目標

1. 幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を理解する。
2. 生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などのかかわりについて実践例を踏まえながらその意義と内容を理解する。

準備学習

小学生時代を振り返りながら、自分と学校・家庭・地域・友人・教師との関わりについて思うところを整理してください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

評価方法その他

授業内に提出するレポート・課題(40%)、学期末レポート(60%)で総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 幼稚園教育と小学校教育の接続について
3. 生活科創設の経緯と意義
4. 学校と生活
5. 家庭と生活
6. 地域と生活
7. 8. 公共物や公共施設の利用
9. 季節の変化と生活
10. 自然や物を使った遊び
11. 動植物の飼育・栽培
12. 生活や出来事の交流
13. 自分自身の成長
14. 子どもと情報化社会、国際交流
15. 子どもと事故、災害、安全教育

使用教科書名

特に指定しない。適宜授業時に紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校図画工作科の指導のために必要な基礎的な知識と技能を学ぶ。「鑑賞」においては、実際の教材を用いて、その背景となる美術史や鑑賞の視点等を論じる。表現においては、豊かなイメージの創造とそれを表現に結びつける技法との関連を明らかにし、実際の制作等を通して体験的に学習する。また、代表的な美術教育理論を紹介する。

学習目標・到達目標

「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」という小学校学習指導要領「図画工作科」の目標を理解する。

準備学習**週 テーマ・授業目標等**

- 第1週・・ガイダンス
- 第2週・・鑑賞／上手な絵、良い絵、写実と抽象の表現の違い
- 第3週・・表現／紙の工作
- 第4週・・ // 揺れる動きを生かした工作
- 第5週・・ // 立体カードの制作
- 第6週・・ // 感情を表現する帽子の制作
- 第7週・・ // アルミホイルで作る怪魚標本
- 第8週・・ // ストーンペインティング
- 第9週・・ // コラージュによるシュールリアリズム
- 第10週・・ // 紙版画(1)版をつくる
- 第11週・・ // 紙版画(2)刷る
- 第12週・・ // スプーンの中の世界／絵の具
- 第13週・・ // 色鉛筆で描く
- 第14週・小学校指導要領「図画工作編」概説(レポート)
- 第15週・制作記録ファイルに整理する

使用教科書名

小学校学習指導要領解説・図画工作編／文部科学省／日本文教出版・株／平成20年8月／定価85円

評価方法その他

課題提出とレポート(90%)平常点(10%)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学習指導要領をもとに、小学校国語科の教科構造、目標、内容等について幅広く考察することによって、実際に授業を行うために不可欠な知識や方法論を身につける。

概要:

- ・小学校国語科の教科構造、目標、内容について
- ・国語科各領域の現代的課題について
- ・授業設計の際の課題、留意点について
- ・学習者評価、授業評価における課題、留意点について

学習目標・到達目標

小学校国語科の授業を行うための基本的な事項を理解し、適切な授業計画を立てることができる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:シラバスに基づくガイダンス
- 第2回:小学校国語科の構造
- 第3回:国語科の目標、内容
- 第4回:国語科の教育課程
- 第5回:学習指導要領の変遷
- 第6回:各領域の課題①
- 第7回:各領域の課題②
- 第8回:各領域の課題③
- 第9回:各領域の課題④
- 第10回:国語科授業設計の課題
- 第11回:国語科教材研究の実際
- 第12回:国語科授業観察・評価の課題①
- 第13回:国語科授業観察・評価の課題②
- 第14回:書写指導留意点
- 第15回:まとめと評価

準備学習

履修条件(学生への要望) 講義中にしばしば意見を求めたりグループ作業を行ってもらったりすることがあります。積極的に参加し、自己表現されることを期待します。

評価方法その他

平常点(40%)レポート(60%)

使用教科書名

「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省
その他のものは随時、資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもたちの健康の維持・増進、体力の向上及び健康な生活を維持するための基本の習得は小学校体育の目標です。体育科教育の各運動領域の特性について理解し、それぞれの領域の指導方法や展開について学びます。学習指導案の作成と模擬授業の展開から体育科教育の実践力を養います。

学習目標・到達目標

小学校の体育授業を実際に展開できるようになることを目標とします。小学校教育の中では、様々な授業条件の中で子どもたちひとり一人を見据えた授業を展開しなくてはなりません。運動の得意な子ども、あるいは不得意な子どもに対して、教員は体育に対する子どもの「やる気」を起こさせながら授業を展開していかなくてはなりません。多くの模擬授業を経験することで、実際の現場で対応できる能力を修得します。

準備学習

子どもに体育を教えることの重要性と必要性について基本的な考え方を身につけて欲しい。

週 テーマ・授業目標等

1. 小学校教科教育「体育科教育」の目的
2. 小学生の成長と体育
3. 運動の指導方法と展開例
4. 体育科教育の指導計画と指導案の作成
5. 基本の運動の理解と指導について
6. マット運動の理解と指導について
7. 球技運動の理解と指導について
8. 指導案作成と授業の展開 I
9. 指導案作成と授業の展開 II
10. 指導案作成と授業の展開 III
11. 指導案作成と授業の展開 IV
12. 指導案作成と授業の展開 V
13. 指導案作成と授業の展開 VI
14. 指導者と学習者の理解
15. まとめ
16. テスト

評価方法その他

授業への出席(40%)、指導案作成と模擬授業の展開(30%)、課題の提出(30%)

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校社会科の学習目標と内容を学習指導要領にそって把握し、社会科の基礎的な知識・洞察力を身につけ、社会科に含まれる諸領域に関する教材研究能力を養う。また、各自が教材開発とその工夫を試み、指導案づくりの基礎的な力を涵養することをめざす。

学習目標・到達目標

社会科の基礎的な概念や知識を総合的に身につけ、授業の展開能力を高める。

週 テーマ・授業目標等

1. 社会科教育の目標の概要
2. 社会科教育カリキュラム開発の推移
3. 地理的内容(1)
4. 地理的内容(2)
5. 歴史的内容(1)
6. 歴史的内容(2)
7. 政経的内容(1)
8. 政経的内容(2)
9. 地域社会の教材化・指導案づくり
10. 国土と資源・産業の教材化・指導案づくり
11. 日本の歴史と社会の教材化・指導案づくり
12. 政経、国際関係の教材化・指導案づくり
13. 教材開発および指導案の発表(1)
14. 教材開発および指導案の発表(2)
15. 教材開発および指導案の発表(3)
16. まとめ

準備学習**評価方法その他**

教材開発・指導案(60%)、平常点(40%)
(平常点は授業への参加状況、模擬授業への取り組み姿勢等で総合的に判断する)

使用教科書名

小学校学習指導要領解説 社会編
文部科学省

授業科目概要・教育目的（履修条件）

理科の学習では、子どもが自然に対して興味・関心を持ち、問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をできるようになることが期待されている。小学校理科の目標と各区分の内容を理解し、子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。理科離れ・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに関心を持たせるかについても考える。

学習目標・到達目標

小学校理科の目標と各区分の内容を理解し、子どもの自然認識の形成を図る基本的な考え方を習得する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 小学校理科の初歩的知識の確認
3. 小学校理科教育の目標と内容
4. 小学校理科全体の目標
5. 学年進行を経験する(植物の成長を例として)
6. 各学年の目標と内容1
7. 各学年の目標と内容2
8. 各学年の目標と内容3
9. 「生物とその環境」ー植物の成長を例としてー
10. 「物質とエネルギー」ー電気と磁気1ー簡単な実験
11. 「物質とエネルギー」ー電気と磁気2ー学年進行と内容
12. 社会教育施設との連携ー博物館の見学の事前準備ー
13. 社会教育施設との連携ー博物館の見学1ー
14. 社会教育施設との連携ー博物館の見学2ー
15. 小学校理科における環境教育

準備学習

「生活科教育」を履修していることが望ましい。

評価方法その他

定期試験・レポート(80%)、平常点(20%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)
見学時に入館料と交通費がかかる。

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説・理科編」、文部科学省「小学校学習指導要領解説・総則」
その他、プリントを配付する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校の国語科教育の目標・内容を確認し、授業をするための要点を捉える。これらを実践的に学ぶために、小学校教科書教材の分析や授業実践記録を参照して授業の有り様について探究する。また、実際に指導案を作成し、模擬授業を体験するなどして、実践的力量をつけていくための基礎を学ぶ。

学習目標・到達目標

- ・国語科教育に対して関心を持つ。
- ・国語科教育の目標・内容について知り、考察する。
- ・国語の授業を創造する実践的な態度を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. 小学校国語科教育の目標と内容(1)
2. 小学校国語科教育の目標と内容(2)
3. 教材研究の実際(1)
4. 教材研究の実際(2)
5. 教材研究の実際(3)
6. 国語科授業展開の方法(1)
7. 国語科授業展開の方法(2)
8. 国語科授業展開の方法(3)
9. 模擬授業と討論(1)
10. 模擬授業と討論(2)
11. 模擬授業と討論(3)
12. 書写指導の方法(1)
13. 書写指導の方法(2)
14. 国語科における学習評価のあり方
15. まとめ

準備学習

教科指導と生活指導は車の両輪。どのような教育観・子ども観を持つのかは、教師になるための基本。常にそのことを探究しながら、実践的指導方法について学んでいきましょう。

評価方法その他

- ・課題レポート 60点
- ・通常講義ミニレポート 40点(理由のない欠席回数は減点)

使用教科書名

特になし。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校の社会科の目標・内容を確認し、子どもたちに如何に授業を行うか、その要点をのべる。また社会科誕生(戦後に誕生した新しい科目である)から現在に至る、すぐれた社会科授業を分析し、遺産を学びたい。

学習目標・到達目標

学習指導要領と実際の教科書の比較ができること。
教科書と実際の授業の違いを比較し、教師の工夫、子どもの認識の深まり、など、具体的に検討できること。
社会科を基礎づける社会科学の基本文献にあたり、教科書の記述そのものを検討できること。

週 テーマ・授業目標等

1. 社会科の目標と内容
2. 社会科の目標と内容、その2
3. 社会科の歴史、戦前から戦後へ、
4. 社会科の歴史、憲法と社会科
5. 社会科の歴史、地域と社会科
6. 社会科の歴史、社会科教育政策の転換
7. 社会科の歴史、グローバル時代の社会科
8. 平和教育と社会科
9. 平和教育と社会科その2
10. 人権学習と社会科
11. 人権学習と社会科その2
12. 産業と社会科
13. 産業と社会科
14. 環境と社会科
15. まとめ
16. 試験

準備学習

小学校課程の免許取得希望者は、例年、30数名ですので、ゼミ形式を採用している。講義をただ受けるという姿勢ではなく、積極的に、参加する態度が絶対に不可欠である。また、予習など、事前の準備をきびしく要求する。
日本とはどのような国家なのか、その点を、これまでの教科書はどのように子どもたちに教えようとしてきたのか、その点の基本学習を積んでおくことが重要である。

評価方法その他

授業への出席、発言、レポートの提出、試験など総合評価。

使用教科書名

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説社会編

授業科目概要・教育目的（履修条件）

まず、算数科学習指導要領を基に、算数教育の特質とそのねらいについての理解を深めます。次に、教科書や具体的な教材・教具を使用しながら、四つの領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」および「算数的活動」の内容と、学年ごとの学習内容を概観し直します。最後に、指導案の作成と模擬授業および協議会を通して、指導方法、評価の在り方について学びます。

学習目標・到達目標

算数科教育では、学習指導要領に明記されている算数科の目標および各領域の学習内容について理解を深めた上で、教える側の立場で、児童がつまずきやすい学習単元を学び直しました。算数科教育法では、授業における教材・教具の重要な役割を理解し関心を深め、指導案の作成を通して学習指導の要点を確認した上で、模擬授業を通して実践的な学びを実現します。算数科の学習評価や授業の評価活動についても理解します。

準備学習

小学校の子どもたちが楽しく夢中になり熱中する活動は、年齢に関係なく大人も楽しく分かることに満ちあふれています。一緒に学びましょう。

評価方法その他

授業への貢献(40点)
指導案作成と模擬授業(30点)
最終課題(テストまたはレポート)(30点)

週 テーマ・授業目標等

1. 算数科の特質と目標
2. 「数と計算」 整数、かけ算を中心に
3. 「図形」 平面図形を中心に
4. 「図形」 立体図形を中心に
5. 「数と計算」「数量関係」 分数と小数 等
6. 「数と計算」 分数学習の実際 分数のわり算を考える
7. 「量と測定」 単分量当たりの大きさ
8. 学習評価と授業評価について
9. 学習指導案の作成
10. 模擬授業と協議会Ⅰ(指導法を中心に)
11. 模擬授業と協議会Ⅱ(指導法を中心に)
12. 模擬授業と協議会Ⅲ(指導法を中心に)
13. 模擬授業と協議会Ⅳ(教材や教具の工夫を中心に)
14. 模擬授業と協議会Ⅴ(教材や教具の工夫を中心に)
15. 模擬授業と協議会Ⅵ(教材や教具の工夫を中心に)
16. テストまたはレポート

使用教科書名

「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省
小学校算数教科書 1, 2, 3, 4, 5, 6年(全6社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもに対して、理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには、子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では、子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

学習目標・到達目標

- (1)教科理科に関する基礎的な知識を体験的に獲得し、理科の授業づくりができるようにすること。
- (2)観察・実験などを通して、実践的指導力の基礎を獲得できること。
- (3)理科授業において子どもの科学概念、表現を認め、生かせる教師となるための手立てを見いだすこと。

準備学習

理科教育法を受講するための準備として、身の回りにある自然や科学について考える習慣をもってほしい。また、将来、皆さんが向き合う小学生は、それについて如何に考えるだろうかという見方・考え方も養ってもらいたい。

評価方法その他

授業でのポートフォリオ作成(30%)、平常点(30%)、事後テスト(40%)の結果より評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、小学校理科の歴史と学習指導要領。
2. 理科の目標について学ぶ。
3. 科学概念、子どもの科学概念について学ぶ。
4. 小学校理科授業の実践・問題解決的な学習と効果的な導入について学ぶ。
5. 小学校理科授業の実践・明確な見通しをもたせる工夫について考える。
6. 小学校理科授業の実践・主体的な学習について考える。
7. 小学校理科授業の実践・安全な観察・実験について学ぶ。
8. 小学校理科授業の実践・多様な学習形態について学ぶ。
9. 小学校理科授業の実践・効果的な板書について考える。
10. 小学校理科授業の実践・ノート指導・発問について考える。
11. 小学校理科授業の実践・理科の評価について考える。
12. 理科器具について学ぶ。
13. 理科指導案について学ぶ。
14. 模擬授業の実施、全体の協議により理科授業の定型を学ぶ。
15. 小テスト・全講義のまとめをする。

使用教科書名

森本信也・森藤義孝著「小学校理科の指導」第2版、建帛社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

科がめざすものを十分理解することが、有効な生活科指導のための前提である。また、学校や教師の裁量の余地が大きいので、優れた実践例に豊富に触れることが有効である。これらの学習の上に、学生自身が関心を持つ題材をとりあげ、教材製作や指導計画案づくり、指導案づくりおよび模擬授業により、生活科の指導力を身につける。

学習目標・到達目標

生活科の

- 1) 指導計画の作成
- 2) 学習指導案の作成
- 3) 模擬授業の計画と実施
- 4) 1)～3)までの学習活動をポートフォリオにまとめる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週生活科の誕生とその背景および意義
- 第2週生活科の目標と内容
- 第3週生活科と他の教科等との有機的関係
- 第4週指導計画立案の視点と実際
- 第5週生活科の指導方法
- 第6週生活科における評価の考え方
- 第7週生活科の取り組みの実際
- 第8週生活科の取り組みの実際
- 第9週生活科の取り組みの実際
- 第10週指導計画の立案と教材制作
- 第11週指導計画の立案と教材製作
- 第12週模擬授業と討論
- 第13週模擬授業と討論
- 第14週模擬授業と討論
- 第15週試験

準備学習**評価方法その他**

- 出席50%
試験50%

使用教科書名

小学校学習指導要領解説－生活編－文部科学省

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は、教職科目の教科教育法の一環として行われる。学習指導要領「音楽」の位置づけを明確にし、目標および内容について基本的理解を図るとともに、教材研究や指導案作成および模擬授業を通して、音楽科の指導方法や評価について具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

音楽科の目標・内容・方法について、より実践的に理解を深めることを目指す。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 オリエンテーション(模擬授業グループ分け)
- 第2回 音楽科教育の目標と意義、我が国の現状と課題
- 第3回 学習指導案の作成について:模擬授業に向けて
- 第4回 模擬授業① 歌唱
- 第5回 模擬授業② 歌唱
- 第6回 模擬授業③ 器楽
- 第7回 模擬授業④ 器楽
- 第8回 模擬授業⑤ 創作
- 第9回 模擬授業⑥ 創作
- 第10回 模擬授業⑦ 鑑賞
- 第11回 模擬授業⑧ 鑑賞
- 第12回 模擬授業⑨ 総合
- 第13回 模擬授業⑩ 総合
- 第14回 総括 模擬授業を振り返って
- 第15回 総括 教育実習、教員採用試験に向けて
- 第16回 まとめ・レポート

準備学習

全員が模擬授業を行うが、一人ひとりが責任をもって取り組むことを期待する。

評価方法その他

出席30%、授業参加態度30%、発表および提出物40%で評価する

使用教科書名

初等科音楽教育研究会(2009)『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』音楽之友社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校図画工作科の目標と内容、およびその指導方法を学ぶ。とりわけ、現在の子どもの特徴を考慮して、つくりだす喜びを味わいながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う授業をするための基本的な視点や具体的な指導法を学ぶ。

学習目標・到達目標

小学校「図画工作科」に必要な知識を学習し、具体的な指導方法として模擬授業を経験する。模擬授業では教科指導案、授業の感想カードなどを作成し、授業の準備、進め方を経験する。また、評価の観点、指導案の作成について、授業の進め方についてグループ討論を行う。

準備学習**評価方法その他**

模擬授業 (80%) 平常点 (20%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・図画工作教育の歴史、理念および目標 (1)
- 第2週・・・ " (2)
- 第3週・・・ " (3)
- 第4週・・・造形表現能力の発達 (1)
- 第5週・・・ " (2)
- 第6週・・・図画工作教育の目標と内容 (教材)
- 第7週・・・鑑賞指導の視点と実際
- 第8週・・・ "
- 第9週・・・創作指導の視点と実際
- 第10週・・・ "
- 第11週・・・図画工作教育における評価のあり方
- 第12週・・・指導計画・指導案の作成と討論
- 第13週・・・模擬授業と討論
- 第14週・・・ "
- 第15週・・・ "

使用教科書名

図工指導のエッセンス／福井凱将・小平征男／三見書房／1999

授業科目概要・教育目的（履修条件）

・小学校家庭科教育の歴史と現状を踏まえ、教科としての位置づけ、意義、目標、指導内容について学ぶ。子どもたちを取り巻く生活の状況を見つめ、これからの家庭科教育の在り方も視野に入れて学習する。
・学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して、家庭科の指導を行うための実践力を養う。

学習目標・到達目標

・家庭科教育の意義と役割を理解し、解説できる。
・家庭科の指導を行うための知識、技能などの実践力を身につける。
・子どもの実態に合わせた授業計画、指導案を作成し、模擬授業を通して、教師としての資質の向上に努めることができる。

準備学習

家庭科は「生活」そのものを学びの対象とする教科です。日頃から、子どもたちの生活の現状に関心を寄せておきましょう。家庭科の教科書を通読し、何年のどの題材で模擬授業したいか考えておくと良いでしょう。簡単な裁縫用具(縫い針、糸、はさみ)を用意しておいてください。

評価方法その他

・授業後に書いてもらうミニレポート 30%
・授業や議論の積極的参加、作品の提出20%
・学習指導案 30%
・学習目標・到達目標の達成を記述(定期試験)20%

週 テーマ・授業目標等

1. 家庭科教育の変遷と今日的な意義や課題
2. 小学校家庭科の目標と内容、学習指導案の書き方・進め方について
3. 食生活に関する基礎・基本(指導案例示)
4. 衣生活に関する基礎・基本(指導案例示)
5. 住生活に関する基礎・基本(指導案例示)
7. 子どもたちと家族・家庭(指導案例示)
8. 環境及び消費について(指導案例示)
9. 指導案の作成・教材研究(1)
10. 指導案の作成・教材研究(2)
11. 模擬授業と評価(1)
12. 模擬授業と評価(2)
13. 模擬授業と評価(3)
14. 模擬授業と評価(4)
15. 模擬授業と評価(5)
16. 定期試験

使用教科書名

小学校学習指導要領解説家庭編
小学校家庭科教科書平成27年度版「わたしたちの家庭科」開隆堂
小学校家庭科教科書平成27年度版「新しい家庭」東京書籍

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校における生きる力を育成する体育を中心として、体育科の教科目標を中心に取り扱う。児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について代表的な教材を基に小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学ぶ。さらに学習指導要領と指導書の内容について取り上げ、小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容を指導できることを目指し、指導計画及び指導方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

運動・スポーツの研究成果はめざましく、小学校教員もそれらの多くに関心を示し、より教育効果の期待される教材や教育方法を積極的に取り入れていくことが重要であることを理解する。さらに、小学校における体育教材を扱う上で、しっかりした体育の理解を修得する。

準備学習

子どもに体育を教えることの重要性と必要性について基本的な考え方を身につけて欲しい。実践力を養ってほしい。

評価方法その他

平常点(40%)、指導案作成と模擬授業の展開(30%)、課題の提出(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 教科としての体育の歴史と意義
- 第2週 発達と体育(低学年における目標と内容)
- 第3週 発達と体育(中学年における目標と内容)
- 第4週 発達と体育(高学年における目標と内容)
- 第5週 体育における指導と学習過程
- 第6週 体育における教材分析の方法
- 第7週 対象の理解と運動教材の選択
- 第8週 体育授業の留意点と展開
- 第9週 授業運営の留意点
- 第10週 体育における評価のあり方
- 第11週 運動の測定方法
- 第12週 指導計画の立案と討論
- 第13週 模擬授業の展開と討論
- 第14週 授業運営の課題と対策
- 第15週 まとめ
- 第16週 テスト

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。

学習目標・到達目標

小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。

準備学習

グループワークの課題をプレゼンテーションすることがある。積極的に授業に参加することを臨む。

評価方法その他

試験(60%)、授業への取り組み(10%)、課題レポート(30%)、その他等総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 健康の定義、健康・不健康とは(総論)
2. 生活環境と心身の健康1 小児期(新生児期、乳幼児期、学童期)
3. 生活環境と心身の健康2 青年期(青年期の課題)
4. 事故と応急処置
5. 感染症と予防接種
6. 感染症ガイドライン
7. 小児期の病気: 感染症(発疹症)、消化器系疾患
8. 小児期の病気: 呼吸循環器系疾患
9. 小児期の病気: その他の疾患
10. 小児の病気: 神経精神疾患(ダウン症を含む)
11. 小児の病気: 心身症、養育者との関係
12. 小児の病気: 学習障害・発達障害など
13. 小児の病気: 悪性腫瘍・川崎病など・母子保健
14. 母子保健、子育て・家庭の問題
15. 保健行政
16. 試験

使用教科書名

教科書「保育の中の保健」 萌文書林
配布するオリジナルテキスト

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの保健の講義で学んだ知識を基に、今日の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、事故防止対策等についての具体的な対応法について学びます。

子どもの発育発達の様子やその特徴の理解を体験的に深め、心身の健康を評価できるようになることを目標とし、また、集団保育において保育者が行うべき健康管理・安全管理とともに、子どもたちが自ら率先して健康で安全な生活を送ることができるようになるための支援についても考えます。

学習目標・到達目標

・子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境設備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の場で実践できる能力を身につけます。
・子どもと保護者に健康相談と健康教育するための基礎的知識、技術を習得します。

準備学習

予習:テキストの当該箇所をよく読み、演習の流れ(手順等)を事前にある程度理解しておきます。

復習:授業中に書き留めたことや配布資料を確認して、わからないところは質問としてまとめておきます。

評価方法その他

学期末試験(60%)、平常点(20%)、課題等(20%)
(平常点は授業への参加姿勢などから総合的に判断します)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、乳幼児の養護(1)抱き方
2. 身体計測の方法、身体発育の観察と評価
3. 保育における健康観察(体温、呼吸、脈拍)
4. 乳幼児の養護(2)おむつ交換、衣服の着脱、おんぶ
5. 乳幼児の養護(3)沐浴
6. 乳幼児の養護(4)口腔内の衛生、歯みがき指導
7. 健康診断
8. 病気の症状とケア、感染症と感染症発生時の対応
9. 保育環境の整備、安全管理と事故防止
10. 応急手当(1)きずの種類と処置応急処置
11. 応急手当(2)三角巾、包帯法
12. 応急手当(3)心肺蘇生法、気道異物除去
13. 慢性疾患やアレルギーがある子どもの保育、職員の健康管理
14. 保育と健康教育(ほけんだより作成)
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健Ⅱ」(鈴木美枝子編著、創成社)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもたちにとって食の体験は、身体と心の発達に大きな影響を及ぼし、生涯にわたる健康と健全な生活の基礎となるものである。そのため、子どもたちが食を楽しむこと、「食を営む力」の基礎を培うことが出来るように、専門職として食生活の支援力を養うことが重要となる。そのため、講義だけでなく、実習・演習を通して、さらに現場での事例紹介や先行研究の紹介を通して、理解を深めるよう展開する。

学習目標・到達目標

子どもの食と栄養、食育の基本的な理論を体系的に理解するとともに、専門職として、食生活の支援力を養うことを目的とする。

準備学習

専門職として食生活の支援力を養うためには、第一に自分の食生活を意識してください。そして、日頃の食事や、食生活・健康に関心を持ち、発信される情報にも注目してください。

授業は、講義と調理実習や演習を組み合わせで行います。積極的に取り組み、食品や器具の取扱いや服装について衛生面安全面の配慮についても意識してください。

評価方法その他

平常点および提出物(40%)、試験(60%)による総合評価。ただし定期試験において6割以上取れていること。平常点は受講態度、調理実習や演習への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 子どもの健康と食生活の意義
 - (1) 子どもの心身の栄養と食生活
 - (2) 子どもの食生活の現状と課題
2. 栄養に関する基礎知識①
3. 栄養に関する基礎知識②
4. 子どもの発育・発達と食生活、妊娠期・授乳期の栄養・食生活
 - (1) 身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活
 - (2) 食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
 - (3) 妊娠期・授乳期の栄養・食生活
5. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
 - (1) 乳児期の心身の特徴と食生活の関係
 - (2) 乳汁栄養
 - (3) 離乳食
6. 実習(調乳)
7. 実習(離乳食)
8. 幼児期の心身の発達と食生活
 - (1) 幼児期の心身の特徴と食生活の関係
 - (2) 幼児期の食生活の特徴、及び問題点と健康への対応
9. 実習(幼児期の食事)
10. 食育の基本と内容①
11. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
 - (1) 子どもの疾病の特徴と食生活
 - (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応
 - (3) 障害のある子どもへの対応
12. 実習(食物アレルギー対応食)
13. 食育の基本と内容②
14. 児童福祉施設における食事と栄養
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

子どもの食と栄養 堤ちはる、土井正子編著(萌文書林)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間の発育・発達と運動との関連について幼児期・児童期を中心に考察していく。指導者は、子どもが自発的にからだを使って遊ぶに気づき、その子どもの遊びの充実と展開に関わる。子どものからだを使った遊びを尊重し、それが豊かに展開するようにかかわるだけでなく、新たな場面で新たな教材を提供するなど、子どもの身体能力や運動技能を高める道筋をさまざまに工夫する。子どもが自由にのびのびと活動する身体表現の楽しさを共有しつつも、指導者としての技術も習得する。

学習目標・到達目標

子どもたちと一緒に身体を動かす喜び、楽しさを修得する。子どもに対して運動やスポーツは無計画になされるのではなく、子どもの体調・環境・季節等多くの条件を考えなくてはならない。このような要因を考慮して、子どもの体育教材を考えられる保育士になることを目的とする。

準備学習

子どもの運動指導について、大人とは違った視点を持ってほしい。子どもの運動への関心はその後の成長に大きく影響し、また子どもの時の運動の好き嫌いがその後に持続することも考えてほしい。運動指導の楽しさを経験することの重要性を考えて欲しい。

評価方法その他

授業への2/3以上の出席を基本として、平常点50%、課題・レポートの内容50%

週 テーマ・授業目標等

1. 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ（集団で行うアイスブレイクゲーム）
2. 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ（集団から少人数グループで行う協力ゲーム）
3. 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ（ボール運動、マット運動、縄を用いた運動）
4. 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ（芝地や平地で行うレクリエーションゲーム）
5. 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ（ボールを使ったスポーティーなゲーム）
6. 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ（ボールを蹴ったり、投げたりするスポーツゲーム）
7. 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅰ（林を使った野外ゲーム）
8. 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅱ（追跡ハイキング等自然を生かせるゲーム）
9. 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅲ（自然環境を考えるゲーム）
10. 運動教材を用いた運動Ⅰ（フープ・ボール・縄を用いて屋内・屋外で運動する）
11. 運動教材を用いた運動Ⅱ（様々な運動を運動会様式に配列し実践する）
12. 児童の運動遊びの創造
13. 児童の運動遊びの指導と安全・管理の方法
14. 幼児の運動遊びの評価方法
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの成長にとって自然環境の果たす役割は極めて重要です。自然の中で子どもたちは他者との関わり、自己への認識、自然との関わりをそれぞれの発育・発達段階のちょうど良いペースで学んでいきます。自然環境がもつ多くの魅力と、子どもの成長にとって重要な要素となる野外環境について内外の知見や身近な実践例から学んでいきます。

学習目標・到達目標

外環境が子どもの成長過程において重要な働きをしていることを理解する。「生きる力」を生み出す「感動体験」について、子どもたちが自然環境の豊かな中ではぐくまれることを知る。同時に野外環境の消えゆく今日的現状についても理解し、個人で努力できる環境保護について考え、実践できる能力を身につける。

準備学習

子どもを取り巻く遊び環境について考える姿勢を身につけ、環境が子どもを育てる意味について考える態度を修得して欲しい。近年の野外教育ブームが子どもの成長にどのような効果を及ぼしているのかを科学的に考察する習慣を身に付けるように、毎日の自身をとりまく現象について考えていって欲しい。先進国が、次代を担う子ども達をどのような環境で育てていくのかという教育の原点を考えてほしい。

評価方法その他

授業に出席し考え、発言することを重要視します。授業の中で何回かのレポートの提出を求めます。評価は平常点(50%)、レポート点(50%)とし、授業への積極的参加を望みます。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス
2. 子どもの遊びと成長
3. 子どもの外遊びと環境
4. 野外環境と野外教育
5. 野外教育と環境教育
6. 環境教育と冒険教育
7. 野外教育の実践例から学ぶⅠ（日本の場合）
8. 野外教育の実践例から学ぶⅡ（アメリカからの報告）
9. 野外教育と安全教育
10. 野外教育と指導者
11. 野外環境を用いたプログラムの企画Ⅰ（短期野外教育プログラムを考える）
12. 野外環境を用いたプログラムの企画Ⅱ（長期の野外教育プログラムを考える）
13. アメリカの野外教育に学ぶ
14. 日本型野外環境と子どもの関わり
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どものことばが育つ環境としての学生自身の言語表現能力を鍛える。少年期の言葉の発達を概観する。論理的能力、人間関係の展開・充実、話す・読む・書く能力の展開を支える言葉について考える。子どもと共に遊んだり活動する場で、言語を評価し、促進する具体例を知る。豊かな言語生活を送るようになるためのかわり方・言語環境の構成・教材作りについて考える。

学習目標・到達目標

小学校学習指導要領国語は「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」を目標として、内容項目『話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと』について詳述している。本授業は『話すこと・聞くこと』について子どものモデルとなる指導者を育てることを目標とする。小学校だけでなく保育教育場面などで指導者として必要な表現力や実践力を養う。具体的には「人の話を聞いて理解する」「関係発展的な質問をする」「場に応じた自己紹介する」「自分の声を人に届けることができるようにする」「子どもが言葉の美しさ・面白さに気づき、ことばをたのしみ、豊かに使いこなせるように工夫する」など。学生が、言語表現のモデルとしてふるまえるよう、言語表現法を学び、演習する。例)自己紹介、会話の基本など学齢期の言語発達について知識を得る。子どもたちが、楽しく自分の意見を人に伝えたり、議論したりができるような教育法を身につける。

準備学習

あなたの言葉は、保育者・教育者としての仕事のはじめの一步です。日ごろから言葉に関心を持ち、自分の言葉に磨きをかけてください。

週 テーマ・授業目標等

1. 幼児期の教育に期待されること
2. 幼児期から児童期への教育を豊かにする視点
3. 聞くこと・伝えあい・話すことをめぐる幼児期・学童期
4. 「紙芝居」をめぐる幼児期と学童期の指導計画
5. 「読む」をめぐる幼児期と学童期の指導計画-1
6. 「読む」をめぐる幼児期と学童期の指導計画-2
7. 学童期の発達と言葉-1
8. 学童期の発達と言葉-2
9. コミュニケーションの基本-1
10. コミュニケーションの基本-2)
11. 話し合う力を育てる-1
12. 話し合う力を育てる-2
13. 司会の役割と進行
14. 状況を伝える、わかりやすい説明、的確な報告
15. プレゼンテーションの実践

評価方法その他

出席とミニレポート 60%
話し合いの実践とレポート 20%
プレゼンテーションの実践とレポート 20%

使用教科書名

平成17年2月国立教育政策研究所教育課程研究センター「幼児期から児童期への教育」文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」NHK、ラジオテキスト「ことば力アップ」

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業の目的は、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受け止め、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。前期は、まずリズム・音階・和音などの楽典に関する学習を中心に行う。また、子どもの歌の歌唱、伴奏法、器楽アンサンブル、編曲や創作など、保育の現場で必要となる技術を体験しながら身につける。さらに手や声など自らの身体を柔軟に使った音楽表現や、身のまわりのものを用いた音楽活動を楽しみながら、音楽表現の様々な可能性を実感する。続いて後期は、楽譜の読み方や音楽理論について随時復習しながら、各自のレベルに応じたピアノ曲に取り組み、ピアノ演奏の基本的な技術を身につける。また、子どもの歌の伴奏や、弾き歌い、簡単なアレンジのレッスンを行う。

学習目標・到達目標

音楽理論の基礎的知識の習得と、音楽表現への応用を目指す。具体的には、リズム・音階・和声などの基礎を学び、簡単な楽譜をスムーズに読んだり、演奏したりできるようになることを目指す。また、保育の現場で必要となる弾き歌いの基本的技術の習得を目指す。

準備学習

前期は音楽の基礎学習の他、グループでの音楽活動やアンサンブルを行うため、一人ひとりの積極的な参加が期待される。後期はピアノの個別指導が中心となる。予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保することが望ましい。

評価方法その他

出席40%、試験40%、参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する

週 テーマ・授業目標等

- 前期1 オリエンテーション + 五線と鍵盤
- 前期2 リズムと拍子 (1)リズムを読んでみよう
- 前期3 リズムと拍子 (2)ボディパーカッションで遊ぼう
- 前期4 音階と調 (1)わらべうたや民謡などの音階
- 前期5 音階と調 (2)長音階と短音階
- 前期6 和音と伴奏 (1)主要三和音
- 前期7 和音と伴奏 (2)いろいろな伴奏パターン
- 前期8 ピアノ弾き歌い基礎 (1)
- 前期9 歌唱の基礎 (1)
- 前期10 ピアノ弾き歌い基礎 (2)
- 前期11 歌唱の基礎 (2)
- 前期12 ピアノ弾き歌い基礎 (3)
- 前期13 歌唱の基礎 (3)
- 前期14 弾き歌い課題曲 (1)
- 前期15 弾き歌い課題曲 (2)
- 前期16 筆記試験
- 後期1 オリエンテーション
- 後期2 弾き歌い曲 (ピアノ)①
- 後期3 弾き歌い曲 (ピアノ)②
- 後期4 弾き歌い曲 (歌唱)①
- 後期5 弾き歌い曲 (ピアノ)③
- 後期6 弾き歌い曲 (ピアノ)④
- 後期7 弾き歌い曲 (歌唱)②
- 後期8 弾き歌い曲 (ピアノ)⑤
- 後期9 弾き歌い曲 (ピアノ)⑥
- 後期10 弾き歌い曲 (歌唱)③
- 後期11 弾き歌い曲 (ピアノ)⑦
- 後期12 弾き歌い曲 (ピアノ)⑧
- 後期13 弾き歌い曲 (歌唱)④
- 後期14 弾き歌い曲 (ピアノ)⑨
- 後期15 弾き歌い曲 (ピアノ)⑩
- 後期16 弾き歌い曲 発表会

使用教科書名

島田和昭・高倉秋子 編(1998)『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育の現場で、音楽活動を充実させ、子どもとともに音楽を楽しむための応用力を身につけることを目標とする。授業は、主にピアノ・弾き歌いの実技レッスン（個人別）を行い、必要に応じて随時、音楽理論その他に関する復習を行う。

学習目標・到達目標

保育者として必要な弾き歌いの技能の向上と、レパートリーの充実を目指す。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション(課題曲決め)
- 2 弾き歌い曲(ピアノ)①
- 3 弾き歌い曲(ピアノ)②
- 4 弾き歌い曲(歌唱)①
- 5 弾き歌い曲(ピアノ)③
- 6 弾き歌い曲(ピアノ)④
- 7 弾き歌い曲(歌唱)②
- 8 弾き歌い曲(ピアノ)⑤
- 9 弾き歌い曲(ピアノ)⑥
- 10 弾き歌い曲(歌唱)③
- 11 弾き歌い曲(ピアノ)⑦
- 12 弾き歌い曲(ピアノ)⑧
- 13 弾き歌い曲(歌唱)④
- 14 弾き歌い曲(ピアノ)⑨
- 15 弾き歌い曲(ピアノ)⑩
- 16 弾き歌い曲 発表

準備学習

毎日少しずつでも練習の時間を確保することが期待される。

評価方法その他

出席・授業への参加態度50%、発表内容50%で評価する

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

子どもが身体やその動きを通して表現する活動に気づき、その指導方法について学ぶ。子どものイメージ・感性・意欲を育てる為の運動遊びや身体表現を楽しむ為の技術・環境づくりの方法について、また児童の福祉増進を目的とした運動遊び等の展開方法、野外活動を広く展開する為の指導の基本・要点を理解する。子どもたちが生き生きとした生活を送れるよう、運動遊びの教育的価値を語れるよう、表現の楽しさを共有しながら、自らの身体表現力向上にむけても十分動きを楽しむことが期待される。
履修条件: 上手・下手を気にせず、子どもの心でリズムにのって楽しくからだを動かしてみようと思う人。

学習目標・到達目標

- ・自ら動きを楽しむことができるように。
- ・子どもにとっての身体表現の意義を理解できる。
- ・いろいろな表現を体験し、子ども達にあった工夫や指導ができるように。

週 テーマ・授業目標等

- 1、親子で楽しむ体力・運動能力チェック/コミュニケーションゲーム
- 2、アクティブコミュニケーション(みんなと一緒に1・2・3リズムにのって動いてみよう)
- 3、 "
- 4、基礎的な技術の習得～展開
- 5、 " リズム遊び・体操・ダンス・バランスのとれた運動
- 6、 "
- 7、 "
- 8、むかし～大切に引き継がれている運動遊び
- 9、手具・用具を使って動いてみよう工夫してみよう
- 10、身近にある物を使って動いてみよう工夫してみよう
- 11、運動会作品の紹介
- 12、運動会作品を工夫してみよう
- 13、運動会作品を鑑賞してみよう
- 14、実践～指導法について(言葉、動き、リズム)
- 15、まとめ:笑顔の素敵なお先生を目指して

準備学習

先生として子どもたちの前に立ち、指導することを考えた運動着で出席して下さい。

評価方法その他

出席状況80%以上を評価の対象とします。授業の参加態度(積極性・協調性・安全性)70%、提出物30%とし総合的に評価します。

使用教科書名

必要に応じて配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

クレヨン・クレパス・パステル・色鉛筆・絵の具・ハサミ・のり・油粘土・加工粘土など、幼児の造形活動で多用される素材を使って造形遊びの実技演習を行いながら、指導者の立場で検証する。
また学んだことをコラージュ技法を使ってファイルに見易くまとめて行く。
加工粘土を使ってパペット人形を作り、グループごとにお話を考え、大道具や背景画などを工夫して人形劇の発表会を行う。

学習目標・到達目標

幼児の豊かな造形活動を支えるために必要な、造形表現の基礎技能および基礎知識を習得する。
幼児の心身の発達に伴う造形表現の変化を理解する。
見やすい、わかり易い掲示物を作れるよう、配置・配色の知識を身につけ、コラージュ技法に習熟する。
グループで協力し合いながら、創意工夫をして人形劇をつくりあげる。

準備学習

作ること、表現することを楽しんで下さい。そして身の回りの色や形、表現について注意深く観察してみてください。
『いいな』と感じるものがあったら、切り抜きや写真に集めておきましょう。制作をする時に活用出来ます。授業で描いたり作ったりしたものを一冊のファイルにまとめます。ファイルを見た人が一目で内容を把握出来るような、伝えることを意識した、丁寧なファイル作りをして下さい。

評価方法その他

平常点20％・提出物80％
(平常点は、授業での取り組み方、グループ活動での積極性等で、総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

1. 保育者としての造形表現の考え方について
2. 色について
3. 折染めとマーブリング
4. さまざまな表現技法について・・・コラージュ
5. 子どもの造形表現の発達段階とその理解について
6. 紙について・・・切り紙
7. クレヨン・クレパスについて・・・スクラッチ
8. 色鉛筆・・・フロッタージュ
9. 絵の具について・・・デカルコマニー・パチック
10. パステルについて・・・ステンシル
11. 粘土について・・・油粘土
12. 粘土について・・・加工粘土
13. パペット作り(人形作り)
14. パペット作り(お話・大道具・背景など)
15. 人形劇発表会

使用教科書名

使用しません

授業科目概要・教育目的（履修条件）

- ・「情報とは何か？」を考える。
- ・情報の読み取り方、伝え方の学習。
- ・情報伝達能力とコミュニケーション能力開発。
- ・独自の発想を大切にし、文章を作る。
- ・児童文学を読み深い読解力を開発する。

学習目標・到達目標

- ・人前で「楽しくお話できる人」になること。
- ・マイクを使って自分の情報をみんなに伝達。
- ・発声練習で「良く通る声」を作る。
- ・子どもたちに喜ばれる朗読のコツを習得。
- ・オリジナルの童話を書ける。
- ・寸劇の演出や演技をグループで発表。

準備学習

- ・情報文化の基礎はコミュニケーション！
- ・気持ちが伝わる話し方聞き方を学ぼう。
- ・常に好奇心を持ち、発見を楽しもう。
- ・子どもと同じ目線になれる大人になろう。
- ・1回1回の授業を無駄に過ごさないで！

評価方法その他

- ・試験は行わない。
- ・成績基準①授業にどれだけ集中したか？
- ・同②仲間と協力し積極的に課題に取り組んだか？
- ・同③独創的な発想でモノづくりが出来たか？

週 テーマ・授業目標等

1. 情報伝達技術1 印象的な表現で自己紹介
2. 情報伝達技術2 言葉を使わず伝達 多様性の体験
3. 情報伝達技術3 自己体験を文章化して発表
4. 情報伝達技術4 他者の体験を理解し評価する
5. 読み聞かせ基礎1 発声・滑舌訓練
6. 読み聞かせ基礎2 朗読技術習得
7. 読み聞かせ基礎3 聴衆を巻き込む朗読技術取得
8. 表現技術1 グループで朗読劇発表 構想と推敲
9. 表現技術2 グループで朗読劇発表 上演と評価
10. 保育教材研究1 絵画をもとに創作童話をつくる
11. 保育教材研究2 各自の創作童話を発表し評価
12. 演出技術1 グループで創作朗読劇をつくる
13. 演出技術2 創作朗読劇 脚本演出の工夫
14. 演出技術3 創作朗読劇 情報機器の演出的利用
15. 情報伝達の成果発表 インタビューと情報処理技術

使用教科書名

随時配付

授業科目概要・教育目的（履修条件）

- (1) マザーグースを理解する。
- (2) マザーグースの歌(リズム、歌詞)を覚える。
- (3) あそび歌とともに手や全身を使ったあそびを身体で覚える。

学習目標・到達目標

英語圏の伝承童謡であるマザーグースの歌を覚え、子どもたちに歌と遊びを教えらるるレベルをめざす。

週 テーマ・授業目標等

1. マザーグースとは何か、『おはなしマザーグース1』(DVD)鑑賞
2. マザーグースの歌とあそび(1)Humpty Dumpty 他
3. マザーグースの歌とあそび(2)Simple Simon 他
4. マザーグースの歌とあそび(3)Ladybird, Ladybird 他
5. マザーグースの歌とあそび(4)My Mother Said That I Never Should 他
6. マザーグースの歌とあそび(5)Eeny, Meeny, Miny, Mo 他
7. マザーグースの歌とあそび(6)See-saw Sacradown 他
8. マザーグースの歌とあそび(7)The Big Ship Sails 他
9. マザーグースの歌とあそび(8)Little Tommy Tucker 他
10. マザーグースの歌とあそび(9)Thirty Days hath September 他
11. マザーグースの歌とあそび(10)Handy Dandy Riddledy Ro 他
12. マザーグースの歌とあそび(11)Old King Cole 他
13. マザーグースの歌とあそび(12)Bingo 他
14. マザーグースの歌とあそび(13)Hokey Pokey 他
15. マザーグースの歌とあそび(14)If You're Happy and You Know It 他
16. 試験

準備学習

出席は初回からカウントします。教科書を購入して出席して下さい。授業中は積極的に参加することを心がけて下さい。

評価方法その他

平常点50%、試験50%で評価する。平常点は授業への参加態度を含め、総合的に判断する。

使用教科書名

ラボ教育センター編著(2006)『「おはよう」から「おやすみ」まで 親子で楽しむマザーグーススキッツ編』ラボ教育センター

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本授業は小学校での外国語活動とは何か理解し、外国語活動の教育内容、指導案の作り方、児童に英語を教える際に必要な知識などについて学習する。また、正しい英語の発音を身につけ、自信を持って外国語活動を行えるようになることを目指す。

学習目標・到達目標

- (1) 小学校で実施される外国語活動(英語)の進め方について学ぶ。
- (2) 英語の発音について学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

1. 英語教育概論(1)小学校外国語活動の役割
2. 英語教育概論(2)第二言語習得理論、外国語教授法
3. 英語教育概論(3)国際理解教育、年間指導計画
4. 小学校外国語活動の進め方(1)外国語活動授業づくりの視点
5. 小学校外国語活動の進め方(2)教員の資質、クラスルームイングリッシュ1
6. 小学校外国語活動の進め方(3)クラールームイングリッシュ2
7. 小学校外国語活動の進め方(4)教育の情報化、小中英語教育の接続
8. 小学校外国語活動の進め方(5)指導の組み立て方、あいさつ・ウォーミングアップなどの英語1
9. 小学校外国語活動の進め方(6)あいさつ・ウォーミングアップなどの英語2
10. 小学校外国語活動の進め方(7)導入・展開活動の英語1
11. 小学校外国語活動の進め方(8)導入・展開活動の英語2
12. 小学校外国語活動の進め方(9)実際の単元展開、指導案の作成
13. 英語の発音練習1
14. 英語の発音練習2
15. フォニックス
16. 試験

準備学習

出席は初回からカウントします。教科書を購入して出席して下さい。授業中は積極的に参加することを心がけて下さい。

評価方法その他

平常点50%、試験50%で評価する。平常点は授業への参加態度を含め、総合的に判断する。

使用教科書名

岡秀夫、金森強(2012)『小学校外国語活動の進め方―「ことばの教育」として―』成美堂

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「児童と外国語A」をすでに受講した人も、まだ受講していない人も対象に、英語教育を実際に行うための考え方や技術について授業をします。

外国語学習と異文化理解の根底に位置づけられる、他者を理解する心(KVAのVにあたる)を育み、外国語と異文化についての知識を蓄積し(KVAのKにあたる)、外国語を操る能力を向上させる(KVAのAにあたる)ことが、教育目的です。

学習目標・到達目標

子どもたちを対象とする外国語教育の意味について理解を深めると共に、子どもに英語を指導する際の、英語を使った基本的な指示の仕方を身につけ、英語の歌やゲーム、紙芝居や人形劇など子どもの興味を呼び起こすような道具立てについて駆使できるように、技を磨くことが目標です。

準備学習

子どもたちが異文化や外国語に興味を持つかどうかは、教える側がどのくらい興味を持っているかにかかっています。今回は、外国語といっても英語に的を絞って行きます。まずは、外国語(今回は英語)の学習が好きになることを、学生の皆さんに期待しています。準備学習として、中学・高校の英語テキストを、毎日声に出して読むことを実践してください。

評価方法その他

期末テスト(60%)と平常点(40%、出席重視)により評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. 児童英語教育について—アルファベットと音声
2. 実際に授業を始めるにあたって
3. 英語での指示の与え方
4. 指導を行うのに必要な英語表現
5. ALT (Assistant Language Teachers)とのコミュニケーションに必要な英語表現
6. ゲームを使って指導するのに必要な英語表現
7. からだの動きを伴う指導法に必要な英語表現
8. 作業(描く・色を塗る・作図する)を伴う指導法に必要な英語表現
9. 行事に関する英語表現
10. 学校生活一般に関する英語表現
11. 遊びに関する英語表現
12. スポーツに関する英語表現
13. 身近な生き物に関する英語表現
14. 英語の歌の指導
15. 日常生活に関する英語表現
16. 期末テスト

使用教科書名

『子どもに英語を教えるための教室英語 (Bright and Early—Classroom English for Teachers of Children)』カレイラ 松崎 順子 著(南雲堂)。その他は、授業時にプリントで配布。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

幼児期から学童期にある子どもを主な対象とする児童文学作品を取り上げ、その内容、意義について考究する。絵本、童謡、童話、小説などを子どもの要求や発達に即した表現という観点から検証すると共に、文学作品とのかかわりの中で、子どもに何が育っていくのかについて明らかにしていきたい。

また、小学校児童向けの童話に関しては、国語教材となっている作品を選び、詳細な読み取りを通して教材研究を行う。

学習目標・到達目標

保育者あるいは小学校教諭として必要な童話や絵本についての専門知識を習得し、子どもへの指導力を身につける。

準備学習

絵本から、小学校で教材となるような童話まで、幅広く児童文学を扱うので、扱う作品を必ず読んで、作品全体を理解しておいてください。内容について質疑応答があります。

評価方法その他

期末試験70%、課題15%、学習態度および出席状況15%で総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 導入 子どもの発達と児童文学
2. 絵本 ファーストブック
3. 絵本 ファーストブックから物語絵本へ
4. 絵本 日本の物語絵本 1歳から3歳まで
5. 絵本 日本の物語絵本 3歳から5歳
6. 絵本 外国の物語絵本
7. 絵本 外国の物語絵本
8. 幼年童話 『いやいやえん』
9. 幼年童話 『いやいやえん』
10. 小学校低学年を対象にした童話『くまの子ウーフ』
11. 国語教材『くまの子ウーフ』
12. 高学年を対象とした児童文学作品『ごんぎつね』
13. 国語教材 『ごんぎつね』
14. 国語教材 『ごんぎつね』
15. まとめ
16. 期末試験

使用教科書名

全体に膨大な数のテキストを扱うので、基本的にプリントを使用する。絵本については、複数冊を用意し閲覧する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

乳幼児の育ちを支えるための記録・計画の意味や意義、保育内容との関連を学びながら、よりよい保育のあり方を探ることが目的である。また、実際場面を想定して子どもの姿を予想しながら計画を作成し、省察の重要性について理解を深める。

学習目標・到達目標

到達目標①:実践における計画の種類、それらの意味と意義を理解することができる。

到達目標②:子どもの発達の様子に即した教育内容を吟味しながら、育ちを支える保育者の援助の在り方と方法について考察し、計画に反映することができる。

到達目標③:幼稚園教育要領と保育所保育指針の内容を踏まえた計画作成の基本を理解し作成することができる。

準備学習

日常生活の中で乳幼児とその周りの人やものに目を向けて観察・考察するようにしてください。授業時間以外に資料収集や作業を行う時間を必要とします。積極的に臨むことを期待します。

評価方法その他

- 評価方法 レポート課題、演習課題、出席状況等
- 評価基準 レポート課題(50%)、演習課題(40%)、平常点(10%)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 計画の意味と意義 保育の展開における計画の意味と意義
- 2 子どもの姿と保育 現場の事例をもとにした子どもの内面の捉えと展開
- 3 子どもの姿と記録 育む者としての視点と記録の意義とあり方
- 4 保育の計画 計画の種類と実践・記録・計画との関連・幼小接続について
- 5 保育所の計画①保育所の短期的な活動の内容と計画の実際
- 6 保育所の計画②短期計画の作成の概要
- 7 保育所の計画③短期計画の作成と演習
- 8 保育所の計画④短期計画の作成と検討
- 9 未満児の計画①乳児の生活と計画
- 10 未満児の計画② 指導計画作成と演習
- 11 未満児の計画③ 指導計画作成と検討
- 12 長期計画① 行事等を鑑みた長期的な計画について
- 13 長期計画② 長期計画の作成と検討
- 14 計画と家庭との連携 生活の流れと家庭との連携
- 15 計画と省察 保育を展開する手がかりを導くための評価・反省・省察のあり方

使用教科書名

柴崎正行、戸田雅美、増田まゆみ編「保育課程・教育課程総論」 ミネルヴァ書房

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉の専門援助技術の基本的な理論や方法を演習を通して学習する。また、援助の方法や技術を知識として理解するだけでなく、援助の展開過程をより深く理解するために、具体的な事例検討等を通して学生自身が主体的に考え参加できるようにすすめる。

学習目標・到達目標

保育実践に必要な社会福祉援助技術の総論と各論を理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1、オリエンテーション
- 2、自己理解(自己紹介)
- 3、人を援助することとは
- 4、ソーシャルワーカーの価値と倫理
- 5、援助関係形成の基本的態度
- 6、アセスメント
- 7、ケアマネジメント
- 8、相談面接の展開過程
- 9、面接技術
- 10、インテーク面接
- 11、事例検討①
- 12、事例検討②
- 13、事例検討③
- 14、事例検討④
- 15、まとめ
- 16、試験

準備学習

保育士にとって相談という行為は重要です。ここではその基本、げんそくそして実際について学びます。

評価方法その他

出席数、授業態度及びレポート期末試験の総合評価。
割合は平常点10% レポート30% 期末試験 60%
平常点:出席や授業態度、予習復習の状況の他、井上先生と合議し評価する

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

複雑化している日本の今日の子育てに関する諸問題保育相談支援の意義と原則、及び保護者支援の基本について理解する。また支援の実際を学び、その内容や方法を理解するとともに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際についての理解を深める。

学習目標・到達目標

・子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。
 ・保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談の取り組みについて学ぶ。
 ・保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身につけ、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通し、単に問題解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に育ちあう」支援のあり方を探る。

準備学習

・日頃より、子育て家庭に関する、新聞・雑誌の記事に関心をもち、「保育者」としての視点から考えてみてください。
 ・3年次より始まる、保育実習に向けて、自分の実習先の施設への事前学習を進めておいてください。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断)40%、授業内に出される課題30%、ミニテスト30%により総合的に評価

週 テーマ・授業目標等

1. 保育相談支援とは～保育相談支援の目指すもの
2. 現代日本の子育てに関する問題
3. 保育現場の気になる子どもとその家族
4. 保護者と家族に対する支援
5. 保育相談に求められる基本的な姿勢と技法
6. 事例を通して学ぶ保育相談①～発達気になる子どもとその家族への支援
7. 地域におけるさまざまな子育て支援の実際～地域子育て支援ネットワーク
8. 園における保育相談～保育者の果たす役割とは
9. 「保育相談」の実際～ロールプレイ体験
10. 事例を通して学ぶ保育相談②～養育に課題を抱える家庭への支援
11. 事例を通して学ぶ保育相談③～気になる保護者への対応
12. 施設における保育相談支援①～児童福祉施設の果たす役割と現状
13. 施設における保育相談支援②～社会的養護施設の子どもたちへの支援
14. 保育者の成長と学び
15. まとめ

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考える。前半は、保育の場における保護者支援や子育て支援の実際について学ぶ。後半は、障害がある子どもとその家族の生活についての理解を深める。家族(とくの母親)が子どもの誕生から成長に伴い、どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより、家庭支援のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

- 保育の場に求められる家庭支援のあり方について理解する
- 地域子育て支援の具体的な方法について理解する
- 家庭支援に必要な知識と技法を知る
- 障害のある子どもと家族について理解する

準備学習**評価方法その他**

平常点(提出物を含む)20%・レポート80%の割合で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション～家庭支援の基礎知識～
2. 保育における家庭支援の実際Ⅰ～保護者支援における援助者の態度と技法～
3. 保育における家庭支援の実際Ⅱ～地域子育て支援のあり方～
4. 保育における家庭支援の実際Ⅲ～実習園(ボランティア園)の子育て支援の実態を知る～
5. 保育における家庭支援の実際Ⅳ～ジェノグラムとエコマップの活用～
6. 保育における家庭支援の実際Ⅴ～リスクとアセットから子ども虐待事例を考える～
7. 前半のまとめ(小テスト)
8. 家族援助のキーワード
9. 子育ての悩みと家族支援
10. 子どもの障害を知らされる・理解する(母親が体験する出産と障害の理解)
11. 自閉症の障害特性・幼児期
12. 障害児福祉制度
13. 特別支援学校と障害
14. 子どもの障害をオープンにする・分かってもらおう(きょうだいとの関係)
15. 子育て家族を取り巻く状況と家庭支援のあり方

使用教科書名

加藤邦子・浜口順子編著「子どもと地域と社会をつなぐ 家庭支援論」福村出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校家庭科が果たす役割や家庭科教育の特徴について知るとともに、児童の実態を踏まえた家庭科学習のあり方を具体的な教材、教材分析、実習的活動の体験、学習指導案の作成、評価問題の作成等を通して行う。

学習目標・到達目標

小学校家庭科の教育課程における位置付けや意義、家庭科授業の今日的課題、目標・評価等について学ぶとともに、教材の考え方や教材作成能力を身に付ける。さらに、学習指導計画を構想し、家庭科授業デザイン力と実践的指導に必要な資質を身に付ける。

準備学習

・提出物はきちんと締め切り日までに提出日、氏名・学籍番号を記入して出すこと。
・教材分析等で、糸、針、はさみ、ボタン2,3個の持参が必要となるので準備すること。

評価方法その他

平常点40%（授業への参加状況、討論への参加等で総合的に判断する）
平常の提出物30%（学習指導案、評価問題、玉結び・玉止め、ボタン付け、織物や編み物など）
最終レポート30%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 講義の概要 子どもの発達と家庭科
家庭科のイメージを5キーワードで表す。
小学校家庭科で学習した教材名を振り返る。
2. 家庭科教育の変遷と今日的意義
今、必要とされる家庭科とは
3. 小学校家庭科における目標と内容
学習指導要領のポイントと配慮
（言語活動の充実 実習における安全への配慮など）
4. 家庭科の授業方法
5. 特色ある家庭科授業実践の分析
6. 評価とは 評価の種類 相互評価 自己評価
7. 教材研究と授業展開 ボタン付けの目標 教材分析 ボタンの種類分け
8. ボタン付け 教材選定 学習指導案の作成
9. 評価問題の作成 相互評価 自己評価
10. 「衣食住生活」領域内容の教材研究と指導上の留意点
エプロンのラベルの作成 布の組織と教材
11. ご飯とみそ汁 表示 食の安全 卵料理
12. より快適な住まい 自分の住まいを見直す 住まいの安全
13. 「家族の生活と家庭」および「消費生活と環境」の内容と指導上の留意点
現在の消費生活と消費者の行動 権利と責任 意思決定
14. 環境教育・消費者教育から家庭科授業を考える
15. まとめ

使用教科書名

小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」東京書籍

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代は、扱うデータの量が多く、いかに効率的な処理をして分析するかが求められています。この授業では、データの種類が多い(多変量)場合の統計的手法を学びます。具体的には、予測・制御のための重回帰分析と判別分析、データ量の総合化のための主成分分析、共通因子を探す因子分析、データ分類のためのクラスター分析の基本概念を理解し、応用事例に適用できることを目標とします。実際の処理・分析に当たってはパソコンの統計ソフトを用います。

学習目標・到達目標

単回帰分析、重回帰分析、分散分析、確率変数と確率分布、重要な確率分布(正規分布・ χ^2 乗分布・t分布・F分布)、仮説検定(p値とt値)、判別分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析

準備学習

授業は丁寧に説明したいと思いますが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室(1625)を訪ねて質問してください。積極的な授業への参加を期待します。基礎統計学aおよび基礎統計学bを履修していることが望ましいです。

評価方法その他

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、課題点(20点)

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1週 | 平均値、分散、標準偏差 |
| 第2週 | 標準化、共分散、相関係数 |
| 第3週 | 単回帰分析 |
| 第4週 | 重回帰分析 |
| 第5週 | 重要な確率分布 |
| 第6週 | 仮説検定(p値とt値) |
| 第7週 | 仮説検定(p値とt値) |
| 第8週 | 中間テスト |
| 第9週 | 判別分析(概念説明) |
| 第10週 | 判別分析(応用事例の紹介) |
| 第11週 | 主成分分析(概念説明) |
| 第12週 | 主成分分析(応用事例の紹介) |
| 第13週 | 因子分析(概念説明) |
| 第14週 | 因子分析(応用事例の紹介) |
| 第15週 | クラスター分析(概念説明と応用事例の紹介) |
| 第16週 | 期末テスト |

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生涯発達という観点から青年期がどのように位置づけられているかを明らかにする。とりわけ、青年期の発達課題とされるアイデンティティの確立とはなにか、また、その意義を考察する。さらに、青年期の自我の特徴とそれがもたらす諸問題等を考察する。

学習目標・到達目標

青年期は心理的・身体的・社会的に大きな変化を体験し、人生における一つの危機の時期ともいわれる。青年期のこうした状態について、自我同一性の確立を中心として心理的特質や発達課題を理解する。

準備学習

できる限り自分の内面と照らし合わせながら受講することで理解を深めて欲しい。

評価方法その他

授業中の課題への取り組み・小テストにより評価する(100%)。

週 テーマ・授業目標等

- 1 序論 青年心理学とは
- 2 第1章 青年期の発達と課題
- 3 児童期から青年期へ
- 4 アイデンティティの確立と拡散
- 5 親密性と孤立
- 6 成人期の自我発達
- 7 第2章 青年期の自我
- 8 「本当の自分」「偽りの自分」
- 9 人間関係と自我
- 10 自我と傷つきやすさ
- 11 第3章 青年期の臨床心理
- 12 臨床的諸問題 心理療法
- 13 第4章 青年期を生きる
- 14 愛と性
- 15 夢と仕事

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理実験・調査を企画し実験者・被験者として体験する。データの収集、データの処理、t検定を中心とした推計学的検定、心理学レポート作成、プレゼンテーションなどの一連の作業を通じて、心理学実験の基礎的知識と実践力を習得する。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法1、反応時間実験、両側性転移実験、錯視実験、生理心理実験、記憶実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーションのスキルも学ぶ。心理学a、bおよび統計学入門、基礎統計学を履修していることが望ましい。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

実験レポート80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週心理学実験とは;反応時間実験、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その1
- 第2週心理学実験とは、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その2
- 第3週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その1
- 第4週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その2
- 第5週反応時間実験を行う。パソコンを使った心理実験としての技能も学ぶ
- 第6週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その1
- 第7週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その2
- 第8週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その1
- 第9週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その2
- 第10週中間の総括
- 第11週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その1
- 第12週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その2
- 第13週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その1
- 第14週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その2
- 第15週全体についての論議

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「心理学実験Ⅰ」に引き続き心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。ここでは、より高度な統計学分析を学習する。実験の進行状況によっては時間内に目的を達成できない場合もある。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法、視覚情報処理による認知実験、認知的葛藤の測定実験、SD法によるイメージ実験、家庭用ロボットを使った行動観察・動作分析実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーション実習も行う。履修条件として「心理学実験Ⅰ」を単位修得していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、実験・調査の方法、データの分析とまとめ方、レポートの形式と内容について
 第2週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その1
 第3週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その2
 第4週 視覚情報処理による認知実験
 第5週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その1
 第6週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その2
 第7週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その3
 第8週 認知的葛藤の測定実験を行う その1
 第9週 認知的葛藤の測定実験を行う その2
 第10週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その1
 第11週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その2
 第12週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その1
 第13週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その2
 第14週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その3
 第15週 全体についての論議

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。

<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

実験レポート80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。

<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。

学習目標・到達目標

- ・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
- ・人が成長していく過程に沿って、家庭教育のあり方について考えていく。

準備学習

各自、新聞や雑誌等の家庭や家族に関する記事を意識し、目を通しておいください。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・家庭とは何か
2. 子どもが育つ場としての家庭(養育者と子どものかかわり方の基本原理)
3. 乳児期と家庭教育
4. 幼児期と家庭教育
5. 学童期・思春期と家庭教育
6. 青年期と家庭教育
7. 家庭教育にみる家族の発達の課題～育てられる者から育てる者へ
8. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①
9. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②
10. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③
11. 家庭教育支援の現状と課題(家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携)
12. 海外の家庭教育
13. 今後の家庭教育に求められるもの
14. 事例から考える家庭教育
15. まとめ

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)30%、レポート20%、試験50%により総合的に評価

使用教科書名

特になし。必要な資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は消費者教育を中心とした生活課題解決の方法を社会的に考え、後半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

準備学習

生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。

評価方法その他

平常点 50点（上村分:25点 井上分:25点）
レポート・試験50点（上村分:25点 井上分:25点）

週 テーマ・授業目標等

- 1.くらしをつくりかえる家庭経営学
- 2.自立のための意思決定
- 3.社会人になるための経済学
- 4.カード社会の歩き方
- 5.消費者市民社会
- 6.リスクマネジメント
- 7.持続可能な消費のための教育
- 8.「住まう」という観点から家族写真を読む
- 9.映像にみる家族 家族構成の観点から
- 10.映像にみる家族 生活文化継承の観点から
- 11.映像にみる家族 コミュニティの観点から
- 12.ワークショップ 家族の風景
- 13.ワークショップのまとめ
- 14.育児をめぐる生活時間調査について
- 15.授業の振り返り
- 16.試験

使用教科書名

- (1)暮らしをつくりかえる生活経営力/朝倉書店/2010
- (2)これであなたもひとり立ち 金融広報中央委員会

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明への実践変革的知識が深まるようにする。

学習目標・到達目標

子どもとは、どのような存在なのか、歴史や社会、大人との関係で、変化する関係的存在であることを知る。また、子どもの活動の実態を知り、発達の原理と過程、環境や学校との関係における諸問題と解決の方向についての、基礎的な知識と方法を理解し、現実の生活での実践に役立てることができるようにする。

準備学習

子どもに関する様々な課題（子どもを観察したり、接してみること、子どもに関する様々な問題についてニュース、新聞、本等で調べること、絵本、児童文学や玩具、遊び場、子どもの生活する環境等に触れてみること）に関心を向け、積極的にかかわったり、行ってみること。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・小レポート等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 児童学とは
2. 子どもとは何か(1)子ども観
3. 子どもとは何か(2)子どもとのかかわり方
4. 子どもと共に育つ(1)一発達のとらえ方
5. 子どもと共に育つ(2)一発達と臨床
6. 乳児期の発達とかわり方
7. 幼児期の発達とかわり方
8. 児童期の発達とかわり方
9. 青年期の発達とかわり方
10. 生涯発達とかわり方
11. 児童と教育(1)学校における児童の問題行動
12. 児童と教育(2)児童の人間関係の問題
13. 児童と教育(3)児童に育む豊かな心
14. 児童と教育(4)児童の健全育成の諸事例
15. 児童と教育(5)豊かな人間性を育むために
16. テスト

使用教科書名

「共に育つ一人間探究の児童学」宣協社 2010年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

「食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 食べ物と栄養(1)
2. 食べ物と栄養(2)
3. 食べ物と栄養(3)
4. 食べ物と栄養(4)
5. 日本の食文化(1)
6. 日本の食文化(2)
7. 世界の食文化(1)
8. 世界の食文化(2)
9. 食べ物の特性(1)
10. 食べ物の特性(2)
11. 食べ物の特性(1)
12. 食べ物の特性(2)
13. 食べ物と社会(1)
14. 食べ物と社会(2)
15. 食育とは
16. 定期試験

準備学習

専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科の導入部分的内容となります。

評価方法その他

筆記試験100%

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、児童福祉の歴史的展開過程や児童観の変遷などを振り返り、それらを踏まえながら、近年における児童福祉の実情について具体的に把握していく。そのような学びを通して、初めて今日、児童が置かれている現状のさまざまな問題点や課題が浮き彫りになってくるであろう。なお、時には生の事例を用いて一緒に「考える」授業を展開したい。したがって、学生のみなさんは、大いに疑問や問題意識を持ちつつ、前向きな学習に取り組んでほしい。

学習目標・到達目標

児童福祉全般を網羅的に理解するだけにとどまらず、実践現場でも役に立つような児童理解の視点を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーションー児童福祉とは
2. 児童福祉の担い手
3. 児童福祉の歴史的背景とその理念
4. 児童福祉をめぐる最近の動向
5. 児童の権利保障
6. 児童を取り巻く現状(1)ー少年非行
7. 児童を取り巻く現状(2)ーいじめ
8. 児童を取り巻く現状(3)ー不登校
9. 児童を取り巻く現状(4)ーひきこもり
10. 児童を取り巻く現状(5)ー児童虐待その1
11. 児童を取り巻く現状(6)ー児童虐待その2
12. 児童を取り巻く現状(7)ー心身障害
13. 児童福祉の法制度と実施体制
14. 児童福祉における援助方法
15. まとめー児童福祉の今後の課題
16. 定期試験

準備学習

新聞・テレビ等を通して、できるだけ児童に関わるニュースに関心をもち、さらに文献などにあたって理解を深めるといった学習態度が望ましい。

評価方法その他

平常点(出席率、授業態度、授業中の小レポート等で30点)、定期試験(70点)

使用教科書名

特に使用しない。授業の中で参考書等を随時紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。

週 テーマ・授業目標等

9月上旬に本学山の家(蓼科)を中心に4泊5日で実施する。

- ・自然環境に対する考え方
- ・自然体験活動のとらえ方
- ・自然体験かつ指導者とは
- ・自然の中での危機管理と救急法
- ・子どもと自然体験活動
- ・生きる力、感動体験
- ・自然の中で生活する知恵と技術

学習目標・到達目標

小学校で実施される長期自然体験活動プログラムに、積極的に参加できる能力をもった人材の育成を目的とする。実践体験を積んだ的確な判断ができる指導者の育成を目指す。

準備学習

自身が野外活動(主に夏のキャンプ)の楽しさを体験することによって、子どもにその楽しさを与えられることができるようになって欲しい。

評価方法その他

実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50%、実習参加50%

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボードでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを体験していく。

週 テーマ・授業目標等

本学の蓼科高原にある山の家を使用して3泊4日の集中授業を実施する。雪上での伝承遊びやゲーム、スキー、スノーボード、雪上でのテント泊、キャンプファイヤーや飯ごう炊飯を学ぶ。また寒さに対する防寒方法、危機管理やクライシスマネジメントについても学習する。

学習目標・到達目標

2015年度から全国の小学校で実施される長期自然体験活動。活動のメインとなるプログラムを積極的に企画・実施でき、またその評価ができるようになることを目的とする。様々な場面で多くの子ども達に楽しみや喜びを与えられ、さらに危機管理能力をも備えた人材の育成を目指す。

準備学習

キャンプは夏だけでなく、十分な計画と準備があれば冬季の活動も可能であることを学んでほしい。実際に経験しながら子どもに指導する時の注意点や重要な事を学んでいって欲しい。

評価方法その他

実習への参加をもって評価の対象とする。オリエンテーション50%、実習参加50%

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、受講生が自分のキャリアを考える切っ掛けをつかむ場としたい。キャリア(career)という言葉には、生涯・経歴・出世・成功・職業・生涯の仕事という意味があり、キャリアを考えるということは、自分の人生とは、どのように生きるのか、あるいは、何を職業として選択するのか、という自分の将来に関わる意思決定問題でもある。この課題へのアプローチの仕方と解決方法、判断基準について学ぶ。

学習目標・到達目標**準備学習****評価方法その他**

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. キャリアとは何か
3. 働くことの意味
4. 働く場と働き方
5. キャリア形成の枠組みと基本的能力
6. "
7. "
8. ライフプランニング
9. "
10. 産業構造と企業
11. "
12. 雇用環境と就業構造
13. "
14. 業界研究の方法
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の「キャリアデザインA」を受けて、具体的にキャリアプランニングを描くことを目的とし、就職活動に向けた意識・考え方・行動の変容を図る。グループワークを多く取り入れて、受講生間の相互交流の機会を設ける。受講生には、自ら課題を見つけてその解決に取り組む積極的な姿勢を期待している。

学習目標・到達目標**準備学習**

履修条件ではないが、前期の「キャリアデザインA」の受講が望ましい。

評価方法その他

期末試験50%と出席状況および提出物の出来映えを含む授業への参画度50

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就活の戦略(強み・弱み分析)
3. "
4. 就活のマーケティング(自己分析と自己PR)
5. "
6. 働く20代の女性によるパネルディスカッション
7. 業界研究と企業の見方
8. "
9. 社会人基礎力の養成
10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 授業のまとめ
16. 期末試験

使用教科書名

プレステップ・キャリアデザイン／岩井洋、他著／弘文堂／2012

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人が生活していくうえでのさまざまな諸問題について自立して安定した生活を送ることができるように、「自分ではない他の人々に対する共感性」を高めながら「現代生活」を捉える人間福祉学科における「現代生活」の視点からその諸問題をとらえ、課題の緩和、改善するために実際必要とされる社会福祉の支援の在り方を具体的に学び、社会福祉の分野における知識、教養、技術の学びの統合力を高める。

学習目標・到達目標

社会福祉は、自分ではない他の人々に対して共感性をもつことが何よりも大切である。例えば、親が不在のために児童養護施設で生活することもや、心身に障害がある人、究極の経済的貧困によって路上や公園での生活を余儀なくされている人など、いずれの生活でも他人にはなかなか分からない辛さや苦しさがあるであろう。「現代」の人間が「生活」していくうえでのさまざまな問題や課題、具体的な取り組みを「社会福祉の分野」で捉えていく。

準備学習

初回のオリエンテーションの際に、社会福祉に関して最も関心があることを聞くため、各自で考えをまとめておくこと。福祉に関する新聞やニュース等に関心を持ち、目を通すこと。また、ボランティア等を通して人とのかかわる体験等を積極的に行ってほしい。

評価方法その他

平常点(50%)、毎時間のレポート(25%)、終了時考査課題(25%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 全体オリエンテーション／授業の進め方／振り返りアンケート
- 第2週 現在関心がある福祉関係のテーマを共有しよう(1)
- 第3週 現在関心がある福祉関係のテーマを共有しよう(2)
- 第4週 国際福祉機器展の見学
- 第5週 見学のまとめ共有
- 第6週 救急法講習会(普通救命講習)
- 第7週 要約筆記講座(1)ノートテイク養成講座(振替授業)
- 第8週 要約筆記講座(2)ノートテイク養成講座(振替授業)
- 第9週 教員又は外部講師による授業(1)
- 第10週 教員又は外部講師による授業(2)
- 第11週 教員又は外部講師による授業(3)
- 第12週 教員又は外部講師による授業(4)
- 第13週 教員又は外部講師による授業(5)
- 第14週 教員又は外部講師による授業(6)
- 第15週 教員又は外部講師による授業(7)

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

以下の5点を教育目的とします。
 1 社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む)と意義についての理解。
 2 精神保健福祉士の役割と意義についての理解。
 3 相談援助の概念と範囲についての理解。
 4 相談援助の理念についての理解。
 5 女性としてのあるべき福祉専門職像を考える

学習目標・到達目標

この科目は社会福祉相の基礎となる科目です。したがって、相談援助に関する基礎的な内容を理解することを目標とし、①相談援助者に求められる使命や役割とはどのようなものなのか、②専門職になるためにはどのような技法や価値は何なのか、③相談の体系や進め方はどのようなものか、などを学んでいきます。

準備学習

福祉的支援の領域はとてもひろいため、取っつきにくいかもしれないので、できるかぎり、質疑応答やディスカッションをしながら授業を進めていきたいと思っています。

評価方法その他

出席40% 課題発表とレポート30% 中間および期末試験30% 特に授業での活発な発言を求める。

週 テーマ・授業目標等

- 1 社会福祉士および介護福祉法
- 2 社会福祉士の専門性
- 3 精神保健福祉士法
- 4 精神保健福祉士の専門性
- 5 ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
- 6 ソーシャルワークの形成過程
- 7 ソーシャルワークの理論モデル
- 8 社会福祉援助の過程
- 9 社会福祉援助の共通課題1(契約、アセスメント、介入、モニタリング)
- 10社会福祉援助の共通課題2(参加、平等)
- 11社会福祉援助の共通課題3(援助者、自己覚知)
- 12社会福祉援助の共通課題4(自立支援、権利擁護)
- 13社会福祉援助の共通課題5(社会正義、社会的包摂)
- 14社会福祉援助の共通課題6(ノーマライゼーション)
- 15事例検討

使用教科書名

新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職 第2版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業は社会福祉援助の基盤と専門職Ⅰの続編です。
 1. 損談援助における権利擁護の意義と範囲を理解する
 2. 相談援助に係わる専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する
 3. 総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容を理解する

学習目標・到達目標

社会福祉士(ソーシャルワーカー)のあり方を学ぶとともに、相談援助の方法と技術(ソーシャルワーク)の基本を習得する。

週 テーマ・授業目標等

- ①相談援助における権利擁護の概念と範囲
- ②相談援助専門職の概念と範囲
- ③福祉行政における専門職
- ④民間の施設・組織における専門職
- ⑤諸外国の動向
- ⑥専門職倫理の概念、倫理綱領
- ⑦専門職倫理の実際、倫理的ジレンマ
- ⑧ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な援助の意義と内容
- ⑨ジェネラリストの視点に基づく他職種連携(チームアプローチ)の意義と内容
- ⑩相談援助活動とエンパワメント
- ⑪相談援助活動の実際:事例検討1
- ⑫相談援助活動の実際:事例検討2
- ⑬相談援助活動の実際:事例検討3
- ⑭相談援助の新しい動向
- ⑮授業の振り返り

準備学習

相談援助に一層関心を持ってもらえる授業を心がけます。
 皆さんも授業への積極的な参加をお願いします。

評価方法その他

- 出席確認
- 試験方法:中間レポート(50%)＋期末試験(50%)
- 個人的な見解

使用教科書名

社会福祉の基盤と専門職Ⅰと同じテキストを用います。
 『相談援助の基盤と専門職』(中央法規 2009年)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

さまざまな相談援助における理論と方法についての理解を深め、あわせて基本的な支援の方法・技術について具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

福祉援助職としての基礎的な相談援助の方法と技法を身につける。

週 テーマ・授業目標等

- 1.相談援助とは何か
- 2.相談援助がなぜ必要か
- 3.相談援助の対象
- 4.さまざまな実践モデルとアプローチ(1)
- 5.さまざまな実践モデルとアプローチ(2)
- 6.さまざまな実践モデルとアプローチ(3)
- 7.相談援助の過程(1)
- 8.相談援助の過程(2)
- 9.相談援助の過程(3)
- 10.相談援助における援助関係(1)
- 11.相談援助における援助関係(2)
- 12.相談援助のための面接技術(1)
- 13.相談援助のための面接技術(2)
- 14.相談援助のための面接技術(3)
- 15.まとめ
- 16.定期試験

準備学習

入学早々、専門的な「社会福祉援助の理論と方法」について学習することになりますが、高校生のときの学習とは違って、また新たな発見があるのではないのでしょうか。ぜひ意欲をもって取り組んでいってください。

評価方法その他

平常点(出席、授業態度などで30点)、定期試験(70点)

使用教科書名

授業開始後、追って指示。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講では個別相談援助(ケースワーク)と並んで、福祉援助技法の一つの柱であるグループワークの理論と方法について、実際の福祉現場の事例に即して理解を深める。さらに当事者、家族を中心としたセルフヘルプ・グループについての最新情報も提供し、援助者としての関わりのスタンスを考える。

学習目標・到達目標

社会福祉の方法論を大別し、直接援助技術の果たす役割、そのなかで集団援助技術に求められる機能について、実践的に理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 現代人にとって集団の持つ意味
- 2 社会福祉援助における集団(グループ)のもつ意味
- 3 グループワークとは何か
- 4 グループワークの沿革、理論・方法論の展開
- 5 グループワークの原則、構成要素
- 6 グループワークの過程
- 7 グループワークの実践モデル
- 8 グループワークの技法の事例
- 9 福祉現場のグループワークⅠ
- 10 福祉現場のグループワークⅡ
- 11 福祉現場のグループワークⅢ
- 12 セルフヘルプグループ、ピアサポート
- 13 セルフヘルプグループの実際
- 14 当事者運動と援助者のかかわり
- 15 グループワークまとめ
- 16 定期試験

準備学習

直接援助技術の体系とその内容、また課題を理解して、その中で、集団援助技術という方法が自分のものになるようにしていきましょう。

評価方法その他

筆記テスト60%、平常点40%（大まかな目安）

平常点：出席や授業態度、予習復習の状況の他

使用教科書名

教科書を採用しますが、別途お知らせします。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会調査の目的と意義を理解し、先行調査の結果を読み取る経験を通して、専門職として求められる社会調査の企画、実施、結果報告といった一連の知識と技術に関わる理解を深める。

学習目標・到達目標

社会調査の目的と意義を知る。
社会調査の様々な種類と方法を学び、データの読み取り方を身につける。
調査票の作成について適切な質問や選択肢が設定できる能力を習得する。
調査結果の取りまとめとグラフ化のポイントを学習する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス(授業の目的・概要、授業計画、評価方法など)
- 2 社会福祉と社会調査
- 3 社会調査の概要：量的調査を中心に
- 4 社会調査の概要：質的調査を中心に
- 5 量的調査の方法①：特徴と種類
- 6 量的調査の方法②：調査票の作成方法と留意点
- 7 量的調査の方法③：調査の実施と集計
- 8 量的調査の方法④：集計結果の分析
- 9 質的調査の方法①：特徴と種類
- 10 質的調査の方法②：調査票の作成方法と留意点
- 11 質的調査の方法③：調査の実施と集計
- 12 質的調査の方法④：集計結果の分析
- 13 社会調査における倫理と個人情報保護
- 14 ITを活用した社会調査
- 15 社会科学としての社会福祉
- 16 期末試験

準備学習

関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
 - (2) 課題提出 30%
 - (3) 平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎』中央法規出版、2013年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

今日では、高齢者、児童、障害者福祉領域における援助技術として、ケアマネジメントが主流になりつつある。また、フォーマルなサービスとインフォーマルなサービスを組み合わせ、総合的に提供していくために必要なネットワークの構築も重要な課題となっている。そこで講義では、ケアマネジメントの手法およびネットワークの構築法を学ぶ。また、フィールドワークにより、福祉現場におけるネットワークの現状を理解する

学習目標・到達目標

ケアマネジメントの手法およびネットワーク構築法について理解する

準備学習

自らが住んでいる地域にどのようなネットワークが存在しているかを把握しておくこと。

評価方法その他

平常点(授業・グループ討議への参加状況)20%、プレゼンテーション30%、定期試験50%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. ケアマネジメントについて学ぶ(1)ーケアマネジメントとはー
3. ケアマネジメントについて学ぶ(2)ーケアマネジメントの過程ー
4. ケアマネジメントについて学ぶ(3)ーケアマネジメントの過程ー
5. ケアマネジメント演習(1)ー事例を用いて各自がケアプランを作成ー
6. ケアマネジメント演習(2)ーグループでケアプランを作成ー
7. ケアマネジメント演習(3)ー各グループで作成したケアプランを発表し、全体で共有するー
8. ネットワークについて学ぶ(1)ーネットワークとはー
9. ネットワークについて学ぶ(2)ー事例を用いたネットワークづくりー
10. ネットワークについて学ぶ(3)ーネットワークの課題と今後ー
11. フィールドワークー地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査ー
12. フィールドワークー地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査ー
13. フィールドワークー地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査ー
14. プレゼンテーションーフィールドワークによる調査結果の発表ー
15. プレゼンテーションーフィールドワークによる調査結果の発表ー
16. 定期試験

使用教科書名

必要に応じて、授業時にプリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉援助に係る専門職の在り方について、地域を基盤とした児童・障害・高齢分野の実践事例に沿って理解を深めていく。
さまざまな実践の課題に焦点を当てることにより、社会福祉援助の実践モデルやアプローチを身につける。

学習目標・到達目標

社会福祉士が行う援助活動の全体像を把握する。
さまざまな局面で用いられる概念や実践モデルを学ぶ。

準備学習

地域を基盤とする社会福祉援助について、身近なところから考えていきましょう！

評価方法その他

レポート
記述式テスト
出席状況

週 テーマ・授業目標等

1. 理論の方法に関する振り返り
2. 直接援助と間接援助という枠組み
3. 社会福祉士のお仕事
4. 地域を基盤とした社会福祉援助:①子育てと地域援助
5. 地域を基盤とした社会福祉援助:②子どもの障害を知らされる
6. 地域を基盤とした社会福祉援助:③障害児の福祉制度と地域援助
7. 地域を基盤とした社会福祉援助:④犯罪と地域支援
8. 外部講師:障害者の自立を考える
9. 地域を基盤とした社会福祉援助:⑤ボランティア参加の促進
10. 施設建設に反対する地域住民への対処
11. 差別をなくす方法:社会活動法
12. 小テスト:国家試験対策
13. 援助活動の原型:①欧米に始まる
14. 援助活動の原型:②日本への導入
15. まとめ

使用教科書名

『地域づくりの福祉援助:コミュニティワークはじめの一步』(ミネルヴァ書房)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講義では、人生の各発達段階(乳児期、幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における、こころの成長・発達の特徴を生徒が理解することを目的とする。また同時に、人生全体を通じて人間は成長・発達できるという視点を持つことを目的とする。
その結果、生徒が社会に出たとき、社会の人々の健康と安心を支えられる、社会福祉のスペシャリストとなる人材育成に寄与することを教育目的とする。

学習目標・到達目標

本講義では、生徒自身が自分の人生を振り返り、将来の人生に重ね合わせ、そして、本講義の知識を現在の自分に活かすことができるようになることを学習目標とする。具体的には、発達の各段階における課題事例に対し、授業内で生徒自身が考え、自身の課題に直面し、折り合いをつけ、意見を発表し、言語化できるようになることを到達目標とする。

準備学習

授業は、ディスカッション形式で、各自の考えを意見交換します。積極的に発言してください(答えたくないことは答えなくても可。)
テキストに関しては、各生徒が必要に応じて、参考文献を参照し、購入・利用して下さい。

評価方法その他

中間テスト=50%(第08回授業内実施)範囲:第01回から第07回
期末テスト=50%(第15回授業内実施)範囲:第08回から第15回
平常点=(+10%)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス：こころの一生をどう捉えるか(エリクソン、遺伝と環境、知能・言葉の発達)
2. 乳児期：人生への旅立ち(母子関係・愛着・基本的信頼感の形成)
3. 乳児期：乳児期の発達のつまずきとケア
4. 幼児期：三つ子の魂(身体的発達、遊びの発達)
5. 幼児期：幼児期の発達課題と臨床的問題
6. 児童期：学びと社会化(社会性の発達と友人関係、学校への適応)
7. 児童期：児童期の発達のつまずきとケア
8. 思春期：子どもから大人へ(心と体の変化、親子関係、友人関係)
9. 思春期：思春期の心理的失調、悩みへの援助
10. 青年期：自分との出会いと格闘(アイデンティティの模索と確立、社会に出るための準備)
11. 青年期：青年期の発達のつまずきとケア
12. 成人期：人生本番への関門(仕事に就くこと、配偶者の選択と結婚)
13. 成人期：子育ての楽しさとつらさ、親になれない親、虐待と放任
14. 中年期：人生の曲がり角(中年期の危機、女性のライフサイクル)
15. 老年期：人生をまとめる(人生の統合と死の受容、認知症者・施設入所高齢者の心理とそのケア)

使用教科書名

授業時にプリントを配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉援助では、自己の価値観に基づいた援助は許されない。このため、演習では、主に事例やワークを通じて自己に気づくとともに、価値観の違いや態度・技法を意識した援助が可能となるような授業を展開していく。

学習目標・到達目標

自己理解、自己と他者の価値観の違いについて理解する。
また、援助者の価値・態度・技法について理解する

準備学習

さまざまな演習をつうじて、自らが感じたことや気づいたことがこの演習の収穫になります。このため、単に課題をこなすといった姿勢で参加しないようにすることが大切です。

評価方法その他

平常点(授業・グループ討議への参加状況)70%、レポート30%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 事例を通じて、社会福祉の専門性について考える(1)一事例検討—
3. 事例を通じて、社会福祉の専門性について考える(2)一意見交換—
4. 自己をふり返る(1)—人生曲線の作成—
5. 自己をふり返る(2)—エコマップの作成—
6. 自己と他者の価値観の違い(1)—各自で演習シートの課題に取り組む—
7. 自己と他者の価値観の違い(2)—グループで演習シートの課題に取り組む—
8. 自己と他者の価値観の違い(3)—グループごとに発表し、全体で共有する—
9. 援助者の価値・態度・技法について考える(1)一事例1に各自取り組む—
10. 援助者の価値・態度・技法について考える(2)一事例1にグループで取り組む—
11. 援助者の価値・態度・技法について考える(3)—グループ別に発表し、全体で共有する—
12. 援助者の価値・態度・技法について考える(4)一事例2に各自取り組む—
13. 援助者の価値・態度・技法について考える(5)一事例2にグループで取り組む—
14. 援助者の価値・態度・技法について考える(6)—グループ別に発表し、全体で共有する—
15. 援助者の価値・態度・技法について考える(7)—まとめ—
16. 定期試験

使用教科書名

授業時にプリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

面接技法などの基本的な相談援助技術について、ロールプレイを中心とした体験学習を通して具体的、実践的に習得させる。

学習目標・到達目標

体験学習を通して、社会福祉の相談援助で求められる基本的な相談援助技術を習得すると同時に、自己理解を深め、援助者としての資質の向上を図る。

準備学習

さまざまな演習をつうじて、面接技術を身につけるだけでなく、その過程で気づいたことや感じたことを大切にしてください。

評価方法その他

平常点70%（授業への参加状況）、レポート30%

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 面接技法1－あいづち－
- 3 面接技法2－繰り返し－
- 3 面接技法3－質問－
- 4 総合演習（振り返り）
- 5 ロールプレイによる中間試験（あいづち・繰り返し・質問）
- 6 ロールプレイによる中間試験（あいづち・繰り返し・質問）
- 7 ロールプレイによる中間試験（あいづち・繰り返し・質問）
- 8 面接技法4－感情の反射－
- 9 面接技法5－支持－
- 10 総合演習（振り返り）
- 11 事例に基づいた相談援助演習1－高齢者－
- 12 事例に基づいた相談援助演習2－障害者－
- 13 事例に基づいた相談援助演習3－児童－
- 14 ロールプレイによる総合試験
- 15 ロールプレイによる総合試験
- 16 ロールプレイによる総合試験およびまとめ

使用教科書名

『社会福祉援助演習』中央法規出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「社会福祉援助演習Ⅱ」に続いて、インテーク、アセスメント、プランニング、援助の実施、モニタリング、援助の終結とアフターケア、援助の効果測定について、具体例を通して、ロールプレイング等の実技指導による少人数のゼミ形式で取り組んでいく。本演習からは、特に社会福祉援助実習指導・実習との関連付けを意識して取り組み、社会福祉士に必要とされる実践的な倫理と価値、知識と技術に基づく社会福祉援助に必要な力を習得する。

学習目標・到達目標

社会福祉士に求められる相談援助の「知識」「技術」を学び、概念で考える方法を身につける。観察・理解・分析・概念化をするための基礎的な能力を養成する。

準備学習

学生同士の関係づくりも並行して進めていきますのでよろしく願います。

評価方法その他

出席、発表、レポートなど演習内容への参加意欲を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1、社会福祉援助の実際(1): インテーク、アセスメント、観察・記録・マッピング
- 2、社会福祉援助の実際(2): プランニング
- 3、社会福祉援助の実際(3): 援助の実施、モニタリング
- 4、社会福祉援助の実際(4): 援助の終結とアフターケア
- 5、社会福祉援助の実際(5): 援助の効果測定
- 6、具体例検討: 高齢者への社会福祉援助(1)
- 7、具体例検討: 高齢者への社会福祉援助(2)
- 8、具体例検討: 児童への社会福祉援助(1)
- 9、具体例検討: 児童への社会福祉援助(2)
- 10、具体例検討: 障害者への社会福祉援助(1)
- 11、具体例検討: 障害者への社会福祉援助(2)
- 12、具体例検討: 母子への社会福祉援助(1)
- 13、具体例検討: 母子への社会福祉援助(2)
- 14、具体例検討: 経済的困窮への社会福祉援助(1)
- 15、具体例検討: 経済的困窮への社会福祉援助(2)
- 16、まとめ

使用教科書名

『社会福祉士相談援助演習』(中央法規 2009年)
授業時にプリント類を配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉援助実習指導Ⅰは社会福祉援助実習へ向けての基礎知識を培うと共に、社会福祉専門職としての実践的な力量を養成していくことを目的とする。学生自らが積極的に援助演習や援助実習に取り組んでいけることを目標とする。

学習目標・到達目標

専門職養成における社会福祉援助実習の目的・意義を十分に理解すること。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 実習オリエンテーション
- 第2週 事前指導:実習の意義と目的について
- 第3週 事前指導:実習生の立場、義務、心構えについて
- 第4週 在校生による現場実習報告会への参加
- 第5週 在校生による現場実習報告会への参加
- 第6週 領域別学習(高齢者)
- 第7週 領域別学習(障害者)
- 第8週 領域別学習(児童・母子)
- 第9週 領域別学習(事務所等)
- 第10週 グループワーク
- 第11週 グループワーク
- 第12週 事前指導:実習ノートの書き方
- 第13週 事前指導:倫理
- 第14週 事前指導:実習実施に向けての基本的な心得
- 第15週 まとめ

準備学習

本格的な福祉専門職教育の入り口です。外部講師の人たちのお話を楽しみにして下さい。

評価方法その他

出席および授業への参加度・レポート等にて、総合的に判断する。

使用教科書名

実習の手引き他、適宜授業中に示します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「社会福祉援助実習指導Ⅰ」に続いて、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理に加えて、具体的に求められる課題把握のための力、真摯に向う姿勢等を幅広く習得します。また次の課題に取り組みます。

①社会福祉援助に係る知識と技術について具体的、実際に理解する②実習担当教員からの指導のもと、実習課題、実習計画について検討する。③「個人票」「実習計画票」等の作成を通して、実習に向けた具体的な準備を行う④実習中の巡回指導、実習後の実習課題、実習計画の達成状況の整理を行う。

学習目標・到達目標

- 自己理解
- ①自己の思考・感情を理解する。
 - ②自己の思考・感情の意味を理解し、表現する。
 - ③現場実習の重要性を理解し、自身の適性を把握する。

週 テーマ・授業目標等

- ①オリエンテーション
- ②現場実習について(グループワーク)
- ③担当教員別指導(個人票の作成)
- ④担当教員別指導(実習施設の理解)
- ⑤実習報告会(4年生による報告)
- ⑥実習ノートの記録法
- ⑦分野別学習(高齢者福祉)
- ⑧分野別学習(児童福祉)
- ⑨分野別学習(社会福祉協議会・社会福祉事務所・救護施設)
- ⑩分野別学習(障害福祉:外部講師)
- ⑪実習事前指導(担当教員別グループワーク)
- ⑫分野別学習(高齢者相談:外部講師)
- ⑬実習事前指導(担当教員別グループワーク)
- ⑭実習事前指導(担当教員別グループワーク)
- ⑮前期の振り返りと後期の授業(実習事前指導・礼状の書き方・必要書類の作成など)

準備学習

実習に向けて意欲をもって取り組んでいきましょう。

評価方法その他

出席(40%)
レポート(60%)

使用教科書名

授業中に適宜紹介。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「社会福祉援助実習指導Ⅱ」に続いて、実習体験から得られた成果と課題、気づきと反省等を、「実習記録」「実習報告書」として記述、作成する。具体的に実習として取組んだ内容を概念化、理論化する。また、下記の通り、具体的、実践的で基本的な理解を行う。①実習を通しての気づきや反省についてのまとめを行う②実習によって得られた自身の課題について整理する③具体的な実習体験から、社会福祉援助に係わる社会福祉専門職としての援助の実際を整理する④実習先機関、施設の業務の状況と課題について、実習生としての考察を行う。

週 テーマ・授業目標等

別途指示する

学習目標・到達目標

実習指導のまとめとして、現場実習での体験を中心に社会福祉専門職として必要な知識、技術を習得する。

準備学習**評価方法その他****使用教科書名****授業科目概要・教育目的（履修条件）**

現場実習を通して社会福祉専門職として仕事をするための基礎となる「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」についての理解を深めます。理論と実践の統合を目指していく。学内における事例研究、演習で学習したことを応用し、実習の中で体験的に社会福祉の制度的理解、職業倫理や心構えの基本的な理解、利用者の理解、社会福祉援助課程の理解、援助の実践、自己理解などを進め統合的理解を行っていきます。

週 テーマ・授業目標等

- ・高齢者施設、障害者・児施設、児童福祉施設、福祉事務所、病院等の施設・機関において、合計180時間以上の実習を行う。
- ・実習時期は8月～9月中旬もしくは2月～3月中旬を中心に実施する。（ただし、実習先によって実習時期は異なるので注意すること。）
- ・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等の体得。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得。
- ・関連分野の専門職との連携の在り方及びその具体的内容の実践的理解。

詳細は、実習指導室で確認をすること。

学習目標・到達目標

社会福祉援助の実習に向けた個々の準備と、実習、実習後の整理について取組んでいく。

準備学習

社会福祉施設・機関における、具体的かつ実践的な学びのチャンスです。利用者みなさんと関わることへの責任感を持ち続けることができる学生の参加を期待します。

評価方法その他

・実習先からの実習内容の評価、実習担当教員による実習内容の評価、実習報告書の提出（必須）、その他実習先への提出物の確認/各種検査の有無/実習準備/実習期間の態度/礼状の提出など、実習の事前/事後について手続を完了しているかどうかを含め、総合的に判断する。（実習先からの評価50%、学内における評価50%）

使用教科書名

社会福祉援助実習の手引き・他

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策として、これまでの3年間で勉強してきた各科目の総復習を担当教員によって取組みます。冬期休暇期間にも受験対策の努力を続けます。1月第4週の国家試験前日まで、土日を除いて毎日、勉強を続けます。国家試験合格に向け全員で努力していきます。従って、授業に参加しない方は履修登録を行わないでください。

また、この授業は時間割・履修登録上は月曜4限ですけれども、実際には月曜2・3限、木曜3・4限を通して行います。

学習目標・到達目標

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験に向けて、“頑張った人たち全員の合格を！”を基本目標とします！

週 テーマ・授業目標等

第1回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第2回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第3回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第4回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第5回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第6回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第7回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第8回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第9回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第10回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第11回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第12回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第13回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第14回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第15回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策

準備学習

社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の受験に向けてあくまで合格することを目標とします。合格に向けた努力をせずに、とりあえず、受験するだけということでは、どうい合格はできません。そのようなことは絶対に避けてください。国家試験を受験する方は必ず、合格に向けた準備の努力を行ってください。

評価方法その他

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

使用教科書名

「2014必携社会福祉士、共通科目編・専門科目編」、筒井書房

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策として、これまでの3年間で勉強してきた各科目の総復習を担当教員によって取組みます。冬期休暇期間にも受験対策の努力を続けます。1月第4週の国家試験前日まで、土日を除いて毎日、勉強を続けます。国家試験合格に向け全員で努力していきます。従って、授業に参加しない方は履修登録を行わないでください。

また、この授業は時間割・履修登録上は月曜4限ですけれども、実際には月曜2・3限、木曜3・4限を通して行います。

学習目標・到達目標

社会福祉リカレント講座Ⅰに続いて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験に向けて、“頑張った人たち全員の合格を！”を基本目標とします！

週 テーマ・授業目標等

第1回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第2回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第3回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第4回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第5回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第6回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第7回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第8回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第9回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第10回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第11回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第12回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第13回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第14回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
第15回	社会福祉士国家試験全19科目の受験対策

準備学習

社会福祉士、精神保健福祉士国家試験の受験に向けてあくまで合格することを目標とします。合格に向けた努力をせずに、とりあえず、受験するだけということでは、どうい合格はできません。そのようなことは絶対に避けてください。国家試験を受験する方は必ず、合格に向けた準備の努力を行ってください。

評価方法その他

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

使用教科書名

「2014必携社会福祉士、共通科目編・専門科目編」、筒井書房

授業科目概要・教育目的（履修条件）

3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。
Aでは個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。

学習目標・到達目標

各自の論文テーマに沿った内容の枠組みを完成することができる。
資料収集するための文献検索の方法が理解でき、実際の検索から文献の収集ができる。

準備学習

自己のテーマに沿った内容について資料収集をする。

評価方法その他

平常点50% 中間報告書の成果50%

週 テーマ・授業目標等

1. 研究計画書の作成・提出
2. 研究目的・内容・方法の検討
3. 資料の収集と整理
4. 研究目的・内容・方法の再検討
5. 卒業研究の継続
6. 個別指導、グループ検討
7. 問題点の把握
8. 問題解決
9. KJ法
10. 文章化
11. 再構成
12. 資料批判
13. 結論への前提示
14. 中間報告書作成
15. 中間報告書提出

使用教科書名

各指導教員が個別に提示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

卒業研究Aでまとめた資料(文献、調査項目等)をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。

学習目標・到達目標

各自の論文テーマに沿った内容を論文としてまとめることができる。
成果を発表でき、自己の論文を客観的に批判し、検証することができる。

準備学習

テーマに沿った内容について資料の整理をする。

評価方法その他

平常点50% 中間報告書の成果50%

週 テーマ・授業目標等

1. 中間報告書にもとづいた論文作成の準備
2. 各自の進捗状況に応じて個別指導を受ける。必要時グループ検討
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 論文提出準備
12. 論文提出
13. 卒業研究発表会
14. 事後検討
15. 事後検討

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会保障制度は、社会福祉援助の具体的な実践活動に比べて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方は少なくないかもしれません。けれど、社会保障制度は人が社会で生きることの基礎となる、ある意味とても人間臭い制度でもあります。社会福祉援助では社会保障制度に関する具体的な知識を持っていることはとても大切なことです。例えば、福祉や医療、雇用、年金など、社会保障制度はさまざまな形で私たちの生活に具体的に関係する役割を担っています。そのようなことを意識して勉強していきたいと思います。

学習目標・到達目標

具体的な社会保障制度を「分かる」こと！

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション、社会保障の歴史的発展と沿革
- 2 社会保障の理念の発達、社会保障の概念と範囲
- 3 社会保障の財政、社会保障の機能、社会保障の現代における課題
- 4 社会保障制度の体系と国際動向
- 5 社会保障制度の体系と国際動向 その2
- 6 年金保険制度
- 7 年金保険制度 その2
- 8 年金保険制度 その3
- 9 年金保険制度 その4
- 10 年金保険制度 その5
- 11 年金保険制度 その6
- 12 年金保険制度 その7
- 13 年金保険制度 その8
- 14 年金保険制度 その9
- 15 年金保険制度 その10

準備学習**評価方法その他**

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、レジュメ資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

社会保障論Ⅰに続いて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方の少なくないかもしれない社会保障制度について、人が社会で生きることの基礎としての、ある意味とても人間臭い制度として社会保障制度を勉強していきたいと思えます。“実は大切なのですよ！”というようなことを意識して勉強していきたいと思えます。

学習目標・到達目標

具体的な社会保障制度を「分かる」こと！！

週 テーマ・授業目標等

- 1、医療保険制度
- 2、医療保険制度 その2
- 3、医療保険制度 その3
- 4、医療保険制度 その4
- 5、医療保険制度 その5
- 6、医療保険制度 その6
- 7、医療保険制度 その7
- 7、労働者災害補償保険制度
- 8、労働者災害補償保険制度 その2
- 9、雇用保険制度
- 10、雇用保険制度 その2
- 11、その他の社会保障制度
- 12、その他の社会保障制度 その2
- 13、民間保険
- 14、社会保険の管理運営
- 15、社会保障論まとめ

準備学習**評価方法その他**

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、レジュメ資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、社会福祉施設の現状、歴史的発展、現代の課題、社会福祉施設の新しい動き、社会福祉施設のサービス、特に手順書の作り方(PDCAサイクルの方法)を学び、後半では、グループ学習として、サービスを起業する取組を行う。

学習目標・到達目標

この授業では、社会福祉施設の置かれている状況を歴史的に概観し、また経営環境における課題、またビジネス手法や財務管理、ビジネスに関する様々な理論と社会福祉ビジネスを取り巻く課題について理解する。また起業トレーニングを通じて、実際のシュミレーションを学ぶ。題を実践的に学び、その意義を理解する

準備学習

自分なりの理想的な【社会福祉施設】とは何かという問題意識をもって授業に臨んでください。この授業では、自分で物事を考えることを学生に問います。

評価方法その他

1)平常点10%2)レポート30%
3)グループ学習の発表60% かかわりの度合いも評価する
これらの総合点

平常点:出席や授業態度、予習の状況の他/)

週 テーマ・授業目標等

- 1)オリエンテーション 社会福祉施設で暮らすとは何か
- 2) 社会福祉施設の現状
- 3) 社会福祉施設の歴史的発展 ①
- 4) 社会福祉施設の歴史的発展 ②
- 5) 社会福祉施設の現代的課題
- 6) 社会福祉施設の新しい動き サービスの小規模化 総合化
- 7) PDCAサイクルとは何か 手順書の作り方
- 8) 特別授業 現場では
- 9) グループ学習 デイサービスを起業する①
- 10) 同上②
- 11) 同上③
- 12) 同上④
- 13) まとめ
- 14) グループ発表
- 15) 社会福祉施設の財務を学ぶ

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

2000年の社会福祉法施行、社会福祉の基礎構造改革以降、社会福祉の行財政と、関連する福祉計画は、公的責任の果たされ方や、民間社会福祉部門との連携のあり方など、実際にはいくつもの問題に直面しています。

この授業では、机上の勉強ではなく、＜生存権＞の保障を原点とする社会福祉行政の実際、その具体的な問題点について、具体的に勉強していきたいと思えます。

学習目標・到達目標

社会福祉行財政の仕組みと現状を具体的に理解することを通して、社会福祉計画の意味を把握する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.福祉計画
- 2.福祉行財政
- 3.福祉計画と福祉行財政の関係
- 4.福祉行政その1
- 5.福祉行政その2
- 6.福祉財政その1
- 7.福祉財政その2
- 8.福祉援助の実施・提供機関その1
- 9.福祉援助の実施・提供機関その2
- 10.福祉計画の目的と意義その1
- 11.福祉計画の目的と意義その2
- 12.福祉計画の理論と技法その1
- 13.福祉計画の理論と技法その2
- 14.福祉計画の実際その1
- 15.福祉計画の実際その2

準備学習**評価方法その他**

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、その他の資料(配布予定)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

憲法第25条に規定されている「生存権」は社会的な「セイフティネット」としての生活保護制度によって保障されているはずですが、けれども、実際の社会では、この制度を利用できずに餓死したり、路上・公園・河川敷等での野宿生活を強いられる人たちが実在します。何故なのでしょう？

権利とは言っても、実際にはとても利用しにくい制度、利用しにくい運用が行われている、それが現在の生活保護制度だと思えます。あえて見ようとなかなか見えてこない、この制度の実際を皆さんと一緒に考える勉強をしていきたいと思えます。

学習目標・到達目標

人が不運にして経済的貧困状況に至った際に、「最低限度の文化的な生活」を保障する役割を担う生活保護制度について、その制度・運用の実際を理解します。また、同制度とその運用上の問題点・課題を整理して、制度・運用のあり方について考えます。

準備学習**評価方法その他**

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション、経済的貧困状況とは…
- 2.公的扶助の概念と範囲
- 3.公的扶助の歴史-欧米と日本-
- 4.公的扶助の役割と意義
- 5.生活保護制度の目的
- 6.生活保護制度の原理
- 7.生活保護制度の原則
- 8.制度利用者の権利と義務
- 9.保護の種類と内容・方法、保護施設
- 10.生活保護の運営実施体制(福祉事務所)と財源・予算
- 11.生活保護の運営実施体制(福祉事務所)の実際
- 12.生活保護の最近の動向
- 13.低所得対策の概要と他法・他施策等
- 14.現行生活保護法・制度の問題点と課題
- 15.現行生活保護法・制度の運用上の課題と問題点

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目、他に資料レジュメを配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近年、保健医療と福祉の連携が強調されており、入院のみならず地域で暮らす高齢者・障害者にとって、両者は切っても切り離せない関係にある。また、昨今による失業も深刻な社会問題となっており、低所得の無保険者に対する医療サービス提供の問題も表面化している。従来は、病院の医療ソーシャルワーカーが保健医療サービスに対する知識を必要としていたが、今は、地域支援に当たるすべての支援者にとって、保健医療の動向・制度の理解・他職種連携の理解等は欠かせないものとなっている。そこで、より現場目線に近い内容で授業を展開していき、また、社会福祉士国家試験対策の内容についても取り入れていく。

学習目標・到達目標

本科目においては、次の5つのテーマを学習目標・到達目標とする。①保健医療制度の変遷とそれを生み出した社会背景について理解する。②保健医療サービスの概要について理解する。③診療報酬制度の概要について理解する。④保健医療サービスにおける専門職の役割について理解する。⑤専門職の連携のあり方について理解する。

準備学習

社会福祉を学ぶ学生にとって、医療や介護の法律や制度の知識習得は必須事項である。また、保健医療福祉の現場における事例の学習や検証は、現場で働く事前学習となる。

評価方法その他

最終試験(50%)、課題レポート(30%)、講義の出席状況(20%)で総合的に判断する。より具体的な評価方法等については、第1回目の授業の際に確認する。

週 テーマ・授業目標等

- ①オリエンテーション・授業全体の説明
- ②現代社会と保健医療・福祉の関係
- ③医療保険制度の概要と仕組み①
- ④医療保険制度の概要と仕組み②
- ⑤診療報酬制度の概要と仕組み
- ⑥介護保険制度の概要と仕組み①
- ⑦介護保険制度の概要と仕組み②
- ⑧保健医療サービスにおける専門職の役割①
- ⑨保健医療サービスにおける専門職の役割②
- ⑩保健医療サービスにおける専門職の役割③
- ⑪保健医療サービスにおける連携とネットワーク①
- ⑫保健医療サービスにおける連携とネットワーク②
- ⑬保健医療分野で働く社会福祉専門職の心得
- ⑭医療ソーシャルワーカーの役割①
- ⑮医療ソーシャルワーカーの役割②
- ⑯最終テスト

使用教科書名

「新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス第2版」中央法規、その他に資料を配布予定。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実際の社会には社会的排除や権利の侵害、また、「契約社会」にあって、自身の権利を正当に主張することの困難な状況を生きざるを得ない人々が存在する。そのような人達にとって、その権利を擁護し、社会福祉援助の力をもった社会福祉援助者としての基礎をしっかりと形成する。

学習目標・到達目標

社会福祉援助の活動に際して必要とされる日本国憲法の原理、民法、行政法等の理解、成年後見制度と日常生活自立支援制度の内容の理解、さらに、実際の権利擁護の実践活動に際しての問題点を理解する。以上の基本的理解に立脚して実際に社会的排除や権利侵害、認知症、知的障害、精神障害のために生活問題に遭遇する人達への具体的援助を展開していく力をつける。

準備学習**評価方法その他**

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

生活に身近な法律知識と成年後見制度、日常生活自立支援事業を軸とした、援助の内容を確実に理解することに重点をおく。

- 1、社会福祉援助に関する法律問題
- 2、日本国憲法の基本原理
- 3民法の理解
- 4、行政法の理解
- 5、成年後見制度の概要
- 6、成年後見・成年補佐・成年補助制度の理解
- 7、親権と扶養の概要
- 8、成年後見制度の現状
- 9、日常生活自立支援事業の概要
- 10、日常生活自立支援事業の現状
- 11、成年後見制度利用支援事業
- 12、市町村、家庭裁判所等の関係機関
- 13、権利擁護活動の実際-認知症-
- 14、権利擁護活動の実際-消費者被害・虐待・障害児者-
- 15、権利擁護活動の実際-野宿生活者・アルコール依存等-

使用教科書名

ミネルヴァ書房「社会福祉士テキストブック」共通科目編、その他の資料(配布予定)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

歴史的背景も含めたカウンセリングの主な理論についての基礎的な知識と技法を学んでもらう。また、カウンセラーに必要な倫理も習得させる。カウンセリングの基礎的な知識と理論および技法を、実際にカウンセリングの場面で活用できるように、その基礎となる知識や理論および技法の習得を目指す。

学習目標・到達目標

歴史的背景も含めたカウンセリングの主な理論についての基礎的な知識と技法を学ぶ。また、カウンセラーに必要な倫理も習得する。カウンセリングの基礎的な知識と理論および技法を、実際にカウンセリングの場面で活用できるように、その基礎となる知識や理論および技法の習得を目指す。

準備学習

日頃から自分を含めた人間を、障がいのあるなしに関わらず「死の瞬間まで発達し続ける存在」という観点で捉え、図書館で関連する多くの本を読んで下さい。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

1. カウンセリングの歴史と目的
2. 精神分析
3. 行動理論と行動療法
4. 論理療法
5. 自己理論(来談者中心理論)
6. 交流分析
7. 家族療法
8. 森田療法・内観療法
9. カウンセリングの基礎的技法
10. カウンセリングとカウンセラーの倫理
11. 教育の場におけるカウンセリング
12. 職場におけるカウンセリング
13. 障がい者とその家族を支えるカウンセリング
14. 被害者と加害者およびその家族支援のカウンセリング
15. カウンセリングとソーシャルワーク
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現在の社会の中で、人が生きる際に「働く」ということは不可欠に必要なこととされている。しかし、実際にはさまざまな理由から「働く」ことから社会的に遠ざけられている人々がいる。そのため、就労にあたって何らかの支援を必要とする人々へ社会的に人が「働く」ことを支援していくことの必要性や労働を取り巻く環境について学ぶ。さらに、現代における就労支援の本質として、人が「働く」ということの社会的な意味を考え、人が「働く」ことを社会的に保障する方向性や今後の改善につながる視点を学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割
- 2.雇用・就労の動向と施策
- 3.障害と就労支援(1)
- 4.障害と就労支援(2)
- 5.専門職の役割と実際(1)
- 6.低所得者と就労支援(1)・専門職の役割と実際(2)
- 就労支援の連携と実際(1)
- 7.低所得者と就労支援(2)・専門職の役割と実際(3)
- 就労支援の連携と実際(2)
- 15.まとめ(8～14更生保護制度)

学習目標・到達目標

ソーシャルワーカーが担う就労支援の特徴として、生活全体への支援、権利擁護の視点が重要である。就労支援制度と就労支援に係る組織や団体、専門職の意義等について社会福祉士に求められる役割を理解し、福祉・教育・保健医療の各分野との連携や課題、その実際について学ぶことを目標とする。

準備学習

講義の展開方法と受講方法はオリエンテーションで説明する。

評価方法その他

平常点(50%)、終了時考査課題(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

使用教科書名

社会福祉士養成講座編集委員会編 新・社会福祉士養成講座18「就労支援サービズ」中央法規

授業科目概要・教育目的（履修条件）

刑事政策(犯罪対策)としての更生保護制度の位置づけを明確にしたうえで、更生保護制度の概要を説明する。また、更生保護制度の担い手である諸機関・団体及び人的構図等を明らかにし、更生保護制度の特色である官民協働システムについて理解する。さらに最近の更生保護の課題になっている司法と福祉との連携の必要性についても理解を深めていく。

週 テーマ・授業目標等

- 1 更生保護制度とは何か
- 2 更生保護制度の概要
- 3 更生保護制度の担い手
- 4 仮釈放と立ち直り援助
- 5 更生保護制度における関係機関・団体との連携
- 6 医療観察制度の概要
- 7 更生保護の実際と今後の展望
- 8 定期試験

学習目標・到達目標

社会福祉士等専門職としての相談援助活動において必要とされる更生保護制度(医療観察制度を含む)の全容について理解する。また更生保護を中心に、刑事司法、少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。そのうえで、刑事司法、少年司法分野の他機関等との連携の重要性について理解し、究極のソーシャルワークとしての更生保護制度のあり方を考える。

準備学習

特に準備学習は求めない。ただ、刑事司法や少年司法また更生保護等のニュースには注意してほしい。

評価方法その他

定期試験(60%)と授業態度や出席率、レポート等(40%)で評価する。

使用教科書名

特に指定しない。担当教員が、カリキュラムに沿ったレジュメ又はパワーポイントを作成し、配布又は上映する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

スクールソーシャルワークの理論と基礎を学習したうえで、新聞記事や教育現場を訪問することのなかから我が国の学校教育現場が抱える課題をとりあげ、スクールソーシャルワーカーの果たすべき役割と支援方法について学ぶ。

学習目標・到達目標

・今日の学校教育現場が抱える課題について理解する。
 ・スクールソーシャルワークの発展過程と実践モデルについて理解する。
 ・スクールソーシャルワーカーの役割と支援方法について理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 子どもたちの現状
2. スクールソーシャルワークの国際的動向
3. スクールソーシャルワークをめぐる行政と民間の動向
4. スクールソーシャルワークの理論
5. 子どもの権利擁護実践者としてのスクールソーシャルワーカーの役割
6. スクールソーシャルワークと社会資源
7. メンタルヘルスに関わる問題とスクールソーシャルワーク
8. スクールソーシャルワークと子ども虐待
9. 特別支援教育とスクールソーシャルワーク
10. 学校・教師・学習とスクールソーシャルワーク
11. スクールソーシャルワークと他職種との連携
12. 事例検討(貧困)
13. 事例検討(虐待)
14. 事例検討(不登校)
15. 事例検討(発達障害)

準備学習

新聞等に目を通し、今日の学校教育現場での課題は何かを考えておいてください。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%
 (平常点は、授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する)

使用教科書名

スクールソーシャルワーク論 中央法規

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神障害者の相談支援、リハビリテーションについて具体的な事例を通して学ぶことで、精神障害者の疾病と障害、生活の実情とハンデを理解するとともに、様々な援助機関と機能、そこで働く精神保健福祉士の業務と役割を理解し、実践的な援助技術を高める。

学習目標・到達目標

まずは精神障害者の置かれている現状、病気と付き合いながら生きる人生について理解、共感ができること。その上で、基本的な援助技術やリハビリテーションの概要について学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向
 - 2 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向
 - 3 精神保健福祉士における活動の歴史
 - 4 精神障害者支援の理念と支援対象者
 - 5 精神障害者の人権
 - 6 精神科リハビリテーションの概念
 - 7 精神科リハビリテーションの沿革と現状 - 日本
 - 8 精神科リハビリテーションの沿革と現状 - 諸外国
 - 9 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 10 精神科リハビリテーションの構成と展開
 - 11 精神科リハビリテーションの分類、対象、職種
 - 12 精神科リハビリテーションの施設
 - 13 精神科リハビリテーションの計画とプロセス
 - 14 精神科リハビリテーションの評価
 - 15 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
 - 16 まとめ、定期試験

準備学習

「精神障害を生きる人たちとどう向き合うか」は1年後期の「精神保健福祉援助の基盤」からの継続テーマです。人を援助する福祉の専門職としての自分の立つ位置を見据え、その上で具体的な援助の方法を考えます。

評価方法その他

定期試験 60%、平常点 40%
 平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、アクション・ペーパー等を総合して評価する。

使用教科書名

毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神障害者を対象とするリハビリテーションプログラムの実際と具体的な展開方法、面接や相談援助における基本的な関わり方と具体的なアプローチの方法等、精神保健福祉分野の援助者に必須の基本的知識を学ぶ。

学習目標・到達目標

リハビリテーションプログラムの実際や相談援助の基本を理解し、精神保健福祉士として、病院に入院している、あるいは地域で暮らす精神障害者に対する具体的支援を組み立てることができる。

準備学習

前期の「精神保健福祉相談援助の理論と方法Ⅰ」、「精神医学Ⅰ」「精神保健学Ⅰ」を復習して授業に臨むこと

評価方法その他

定期試験 60%、平常点 40%
平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、アクション・ペーパー等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 医療機関における精神科リハビリテーション
－作業療法、レクリエーション療法、集団精神療法
 - 2 医療機関における精神科リハビリテーション
－行動療法、認知行動療法
 - 3 医療機関における精神科リハビリテーション
－ SST(社会生活技能訓)
 - 4 家族教育プログラム(心理教育)
 - 5 精神科デイケア・ナイトケア
 - 6 医療機関のアウトリーチ
 - 7 チーム医療、多職種との協働・連携
 - 8 精神障害者支援の実践モデル(1)
－治療モデルと伝統的アプローチ
 - 9 精神障害者支援の実践モデル(2)
－生活モデル、ストレンクスモデル
 - 10 相談援助の過程と対象者との援助関係(1)
－ケース発見、受理面接、契約
 - 11 相談援助の過程と対象者との援助関係(2)
－アセスメント、支援計画、支援の実施
 - 12 相談援助の過程と対象者との援助関係(3)
－モニタリング、効果測定、終結、アフターケア
 - 13 相談援助活動のための面接技術
 - 14 スーパービジョンの意義、方法、展開
 - 15 コンサルテーションの意義、方法、展開
 - 16 まとめ、定期試験

使用教科書名

毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

一口に社会福祉における「家族支援」と言っても、その対象は限りなく広範囲に及ぶ。この授業では、まず前提としての「家族」について、その定義(成立過程)や諸相等について探究し、その上で具体的に家族支援のあり方や家族援助の方法等についての学びを深めていく。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. 家族とは何か
2. 歴史的概観その1-戦後家族モデルの形成
3. 歴史的概観その2-戦後家族モデルの解体の始まり
4. 家族の変動その1-家族形態の変化
5. 家族の変動その2-家族機能の変化
6. 揺れ動く家族その1-その動向
7. 揺れ動く家族その2-「無縁社会」の現実
8. 家族支援の方策
9. 児童からみた家族支援
10. 高齢者からみた家族支援
11. 障害者からみた家族支援
12. 精神障害者からみた家族支援
13. 地域問題からみた家族支援
14. これからの家族支援の課題
15. まとめ

準備学習**評価方法その他**

出席率、授業態度、レポート等により、総合的に評価。

使用教科書名

特に使用しないが、参考書については、授業開始後に追って指示。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神障害者を対象とした相談援助の実際の過程と、家族調整を含む家族支援について、具体的事例を通して理解する。

精神障害者の地域移行支援、医療機関と地域の連携のあり方や支援体制について、具体的事例を通して理解する。

精神障害者の地域生活の実態を理解し、地域相談援助における支援のあり方について具体的事例を通して理解する。

学習目標・到達目標

精神保健福祉における相談援助の実際について具体的事例の検討を通して理解することができる。

週 テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

- 1 個別支援の実際と事例分析
- 2 集団を活用した支援の実際と事例分析
- 3 事例による相談援助活動の検討
- 4 精神保健福祉の歩みにおける家族の位置
- 5 精神障害者と家族の関係と支援のあり方
- 6 家族支援の方法と実際
- 7 事例による家族調整、家族支援の検討
- 8 地域移行支援事業の対象とこれまでの経過
- 9 地域移行支援事業の体制と組織・機関、制度
- 10 地域移行における精神保健福祉士の役割と多職種の連携
- 11 地域移行の具体的事例の検討
- 12 地域における精神障害者の生活実態と取り巻く社会的状況
- 13 地域を基盤にした相談援助の主体と対象
- 14 事例による地域を基盤とした相談援助活動の検討
- 15 精神科リハビリテーション特別講義(1) 木下玲子先生
- 16 まとめ、定期試験

準備学習

2年次の、精神医学、精神保健学、精神保健福祉相談援助の理論と方法で学んだことを良く復習して授業に臨むこと。

評価方法その他

定期試験 60%、平常点 40点

平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、アクション・ペーパー等を総合して評価する。

使用教科書名

毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地域リハビリテーション、ケアマネジメント等、精神障害者の地域生活支援におけるキーワードを通して、保健・医療・福祉等の包括的支援の実際について理解する。

学習目標・到達目標

精神障害者の地域生活支援の全体像を描くことができる。

週 テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

- 1 精神科リハビリテーションと地域ネットワーク
- 2 地域生活支援事業と訪問援助
- 3 家族会、セルフヘルプグループ
- 4 精神保健福祉ボランティアの育成と活用
- 5 精神障害者ケアマネジメントの原則
- 6 ケアマネジメントの意義と方法
- 7 ケアマネジメントの展開過程
- 8 チームケアとチームワーク
- 9 事例による精神障害者ケアマネジメントの実際
- 10 地域を基盤とした支援の基本と具体的展開
- 11 事例による地域を基盤とした支援の検討
- 12 包括的地域精神保健福祉活動の意義と展開
- 13 事例による包括的地域支援活動の検討
- 14 精神科リハビリテーション特別講義(2) 木下玲子先生
- 15 相談援助の理論と方法のまとめ
- 16 定期試験

準備学習**評価方法その他**

定期試験 60%、平常点 40点

平常点は、出席、参加意欲、学習態度、レポート、アクション・ペーパー等を総合して評価する。

使用教科書名

毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本における精神障害のある人への施策の歴史、生活の実情を整理し、現状のかかわりの課題を考える。

学習目標・到達目標

精神医療保健福祉の歴史、現状を整理することを通して、精神障害のある人への必要な生活支援とは何か検討する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 「障害」とはなにか？ オリエンテーション
- 2 「障害」の概念の変化Ⅰ 医学概念とリハビリ
- 3 「障害」の概念の変化Ⅱ 国連と障害者権利条約
- 4 日本における精神医療保健福祉の歴史Ⅰ（戦前）
- 5 日本における精神医療保健福祉の歴史Ⅱ（精神衛生法から精神保健法へ）
- 6 日本における精神医療保健福祉の歴史Ⅲ（精神保健福祉法から自立支援法へ）
- 7 精神障害のある人の生活の変化（家族と精神科病院）
- 8 精神障害のある人への生活実態調査から見える生活
- 9 障害者就労から見える精神障害のある人の実態
- 10 精神科医療と精神障害のある人の生活
- 11 精神障害のある人への政策と理念
- 12 精神保健福祉法と生活支援
- 13 障害者自立支援法と生活支援
- 14 障害者虐待防止法と権利擁護
- 15 国際的な障害者政策の現状（障害者権利条約）
- 16 定期試験

準備学習

精神障害は、とても身近な問題です。今後の社会生活を考えるにあたって、多くの人を理解できる視点を獲得できるきっかけになると思います。

精神障害のある方の生活をイメージしておいてください。

評価方法その他

平常点60％ 定期試験40％
（平常点は授業への参加状況及び毎回実施する感想レポートを総合的に判断する）

使用教科書名

講義が始まってから紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神保健福祉サービスの制度及び内容を整理し、生活支援とは何かを考える。

学習目標・到達目標

精神障害のある人への保健福祉サービスの体系を理解するとともに、内容の概要を把握し、支援の課題を検討する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 精神保健福祉政策の概要
- 2 精神保健福祉法Ⅰ
- 3 精神保健福祉法Ⅱ
- 4 障害者総合支援法の概要
- 5 障害者総合支援法における生活支援サービス
- 6 障害者総合支援法における就労支援サービス
- 7 障害者雇用促進法と障害者雇用
- 8 精神障害のある人の経済保障（障害年金）
- 9 精神障害のある人と生活保護制度
- 10 精神科医療における支援サービス（精神科デイケア）
- 11 新たな支援方法とサービス（ACTとアウトリーチ）
- 12 障害者虐待防止法と生活支援システム
- 13 権利擁護と成年後見制度
- 14 意思決定支援と生活支援
- 15 精神障がいのある人々の生活支援の方向
- 16 定期試験

準備学習

とても身近な問題となっている精神障害を学ぶことで、今後の対人関係の理解につながればと考えています。

精神障害のある方の生活をイメージできるようになればと願っています。

評価方法その他

平常点60％ 定期試験40％
（平常点は授業への参加状況及び毎回実施する感想レポートを総合的に判断する）

使用教科書名

講義が始まってから紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神障害者の地域生活を支える支援の制度・施策について、居住支援、就労支援、日中活動支援等の具体的な取り組みを通して理解し、トータルな生活支援システムについて考える。

学習目標・到達目標

精神保健福祉関連科目の総集編として、関連知識を確実に身につけ、国家試験に対応できる総合的な力を獲得する。

準備学習

4年の後期なので、国家試験を念頭において、小テストの結果を吟味し、繰り返し復習すること

評価方法その他

定期試験 60%、平常点 40%
平常点は、出席、参加意欲、小テスト、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

- 1 精神障害者が地域で暮らすということ
- 2 精神障害者の地域生活の実際
- 3 精神障害者の地域生活と人権
- 4 精神障害者の居住支援に関する制度、施策
- 5 精神障害者の居住支援の実際－グループホーム、ケアホーム
- 6 精神障害者の居住支援の実際－単身生活支援、アウトリーチ
- 7 精神障害者の就労支援に関する制度、施策
- 8 精神障害者の就労支援の歴史と現在
- 9 精神障害者の就労支援の実際
- 10 発達障害、高次脳機能障害の就労支援、うつ病のリワーク支援
- 11 地域活動支援センターと精神障害者の日中活動支援
- 12 精神障害者の地域性活支援システム
- 13 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動
- 14 市町村における精神保健福祉士の相談援助活動
- 15 精神保健福祉センター、保健所における精神保健福祉士の相談援助活動
- 16 まとめ、定期試験

使用教科書名

毎回、レジメ、プリントを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

面接技術やグループワークの技法等、精神保健福祉士に求められる専門的援助技術について、ロールプレイ等の体験学習を通して実践的に習得させる。様々な問題場面、援助場面から構成されている「事例」に関する小グループの討議を通して、具体的・実地的な援助の視点、技術を体得させる。

学習目標・到達目標

対人援助の基本、自己理解・受容、他者理解・受容 を体験学習を通して身につける。

準備学習

対人援助の基本を体験学習を通して学ぶので、失敗を恐れず積極的に役割を演じ行動すること

評価方法その他

出席、学習への参加態度、発表、レポートなどを総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション(演習の進め方)
- 2 面接場面ロールプレイ1
- 3 面接場面ロールプレイ2
- 4 事例研究1(病院におけるケースワーク)
- 5 事例研究2(保健所におけるケースワーク)
- 6 事例研究3(退院援助におけるケースワーク)
- 7 事例研究4(社会復帰施設におけるケースワーク)
- 8 事例研究5(地域生活支援のケースワーク)
- 9 グループ場面ロールプレイ1
- 10 グループ場面ロールプレイ2
- 11 事例研究6(精神科デイケア・グループワーク)
- 12 当事者グループとの交流会(外部講師)
- 13 SST演習1
- 14 SST演習2
- 15 SST演習3
- 16 演習1まとめ

使用教科書名

プリント中心、教科書は指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

セルフヘルプグループへの支援やコミュニティワークの技法等、精神保健福祉士に求められる専門的援助技術について、体験学習を通して実践的に習得させる。様々な問題場面、援助場面から構成されている「事例」に関する小グループの討議を通して、具体的・実証的な援助の視点、技術を体得させる。

学習目標・到達目標

討議を通して事例に対する実証的な支援の組み立てができる。

準備学習

失敗や間違いを恐れて消極的にならないこと。グループ討議に積極的に参加することで、考えたことを伝える力、人の意見から学ぶ力が備わる。

評価方法その他

出席、学習への参加態度、発表、レポートなどを総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 オリエンテーション(演習Ⅱの進め方)
 - 2 心理教育演習1
 - 3 心理教育演習2
 - 4 事例研究8(当事者セルフヘルプ・グループ)
 - 5 事例研究9(家族セルフヘルプ・グループ)
 - 6 事例研究10(アルコール・グループ)
 - 7 コミュニティ・アセスメント演習
 - 8 事例研究11(医療施設におけるコミュニティワーク)
 - 9 事例研究12(社会復帰施設におけるコミュニティワーク)
 - 10 事例研究13(地域組織化とコミュニティワーク)
 - 11 ケアマネジメント演習1
 - 12 ケアマネジメント演習2
 - 13 事例研究14(チームアプローチ)
 - 14 事例研究15(ケアマネジメント)
 - 15 事例研究16(ソーシャルサポート・ネットワーク)
 - 16 演習まとめ

使用教科書名

プリント中心、教科書は指定しない

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神保健福祉士としての必要な倫理、価値、知識、技術について理解を深めるとともに、精神障害者の医療・リハビリ・地域生活を支えている第一線の医療機関や福祉施設が果たしている役割、課題、およびその中の精神保健福祉士の業務の実践について、具体的・体験的に理解し、4年次の配属実習に向けての準備を整える。

学習目標・到達目標

実習準備のための事前学習として、精神保健の現場を具体的に理解する。

準備学習

精神科病院や地域支援施設の見学、当事者たちとの交流等、現場体験を大切に授業を進めます。

評価方法その他

出席、授業への参加態度、課題への取り組み、レポート等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 実習指導オリエンテーション
 - 2 実習施設の概要と配属希望調査
 - 3 精神科病院、精神科診療所における実習のすすめ方
 - 4 援護寮、授産施設、地域活動支援センター、相談支援事業所における実習のすすめ方
 - 5 精神保健福祉センター、保健所、市町村保健センターにおける実習のすすめ方
 - 6 精神障害者を支えるその他の地域社会資源
 - 7 4年生からの実習体験報告Ⅰ
 - 8 4年生からの実習体験報告Ⅱ
 - 9 視聴覚学習Ⅰ
 - 10 視聴覚学習Ⅱ
 - 11 精神保健福祉の現場から(本学卒業の外部講師による特別授業)
 - 12 見学体験学習Ⅰ
 - 13 見学体験学習Ⅱ
 - 14 体験学習の共有Ⅰ
 - 15 体験学習の共有Ⅱ
 - 16 まとめ

使用教科書名

実習の手引き、授業ごとに配布するプリントを使用

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実習の実習生個人票、実習計画書の作成から、実習中の日誌・まとめ、実習後の実習報告書作成まで、主に文章化を通して、自分の思いや考え、実習体験からの学びを的確に人に伝えることができること。

学習目標・到達目標

周到な心身の準備を整えて実習に臨むとともに、実習で学んだ具体的な体験や学び、気づきを的確に概念化、文章化し、人に伝えることができるようになること。

準備学習

書くことを通して伝えることの大切さを体験していただきます。

評価方法その他

出席、授業への参加態度、個人票や実習計画書等の課題への取り組み、実習のまとめや、実習報告書等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 実習オリエンテーション
 - 2 実習生個人票作成(精神科医療機関)
 - 3 精神科医療機関実習に必要な専門知識
 - 4 精神科医療機関におけるPSWの援助技術
 - 5 実習計画書作成
(配属実習1:精神科医療機関)
 - 6 精神科医療機関実習振り返り
 - 7 実習報告書作成
 - 8 実習生個人票作成(地域支援・相談支援施設)
 - 9 地域支援施設実習に必要な専門知識
 - 10 地域支援施設におけるPSWの援助技術
 - 11 実習計画書作成
(配属実習2:地域支援・相談支援施設)
 - 12 地域支援・相談支援施設実習振り返り
 - 13 実習報告書作成
 - 14 実習報告会
 - 15 実習報告会
 - 16 全体総括

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

2ヶ所、計24日間の配属実習では、精神障害者の医療・リハビリテーション・地域生活支援の実際を知ると同時に、実習先で出会った精神障害者たちと直接向き合う体験を通して、病気や障害を抱えての生きづらさへの共感を深め、精神保健福祉士の役割を認識し、必要な支援を組み立てる力を高めることができるよう期待する。

学習目標・到達目標

精神保健福祉援助実習は、原則として4年次の前期の期間内に、精神科病院と地域生活支援施設の2ヶ所で、12日間ずつ計24日間の配属実習を行う。現場体験を通して、精神障害者の医療・リハビリテーション・地域生活支援の実際をこの目で知ることを目標とし、その際、個人票・実習計画書の作成という事前準備から、実習中の日誌、実習後の報告書作成まで、書くことを通して「伝える」という作業が重要視される。

準備学習

実習の目的は、順調に課題をこなし無事に帰ってくることではない。予期せぬ体験や困難、失敗に直面した時、それをどう自分の中で受けとめ、言語化して人に伝えていけるかが重視される。

評価方法その他

3年後期の実習準備から、4年次の計24日間の配属実習での課題達成度、及び報告書作成までを総合評価し、4年次の終わりに成績をつける。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 事前学習
 - (1)精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(3年後期)－見学、当事者との交流等
 - (2) " " " "Ⅱ(4年前期)－個人票、実習計画書等作成
 - 2 配属実習
 - (1)精神科医療機関 12日間、90時間以上
(基本実習モデル)
 - ・初日 :オリエンテーション、医療相談室(or地域連携)
 - ・4日間:病棟体験、作業療法等
 - ・2日間:デイケア・ナイトケア
 - ・1日間:外来診療・訪問看護
 - ・3日間:医療相談室(相談面接、家族支援、家族教室、地域連携)
 - ・最終日:まとめ、実習報告
 - (2)地域生活支援施設 12日間、90時間以上
(基本実習モデル)
 - ・初日 :オリエンテーション
 - ・4日間:相談支援事業所or地域活動支援センター
 - ・4日間:就労移行or就労継続支援事業所
 - ・1日間:グループホーム・ケアホーム
 - ・1日間:地域連携、アウトリーチ
 - ・最終日:まとめ、実習報告
 - 3 事後学習
 - (2)精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(4年前期)－実習報告書作成、実習報告会

使用教科書名

「実習の手引き」他

授業科目概要・教育目的（履修条件）

介護を必要とする人の生活の観点からとらえ、その介護の基盤に「尊厳の保持」「自立支援」を置いて考えていく。高齢者や身体・知的・精神の障害者（児）に対して生活を包括的に支援するための専門的知識、技術、制度と介護サービスの関連を学ぶ。

介護の概念を学び、介護福祉制度と専門職である介護職の役割機能について理解を深める。また、介護福祉の関連領域との連携についても学習する。介護の基本原則、日常生活支援の基本（倫理含む）を学ぶ。

学習目標・到達目標

1. 日本社会が直面している少子高齢社会についての課題が理解できる。
2. 介護サービスを担う介護職者の役割が理解できる。
3. 介護保険制度について理解し、実際の介護サービスの役割と機能が理解できる。

準備学習

本講義は介護を必要とする子ども、成人、高齢者を対象として、生活のQOLの観点から学び、生活の支援の在り方を考える科目であるので、特に社会福祉を学ぶ学生には受講を勧めたい。

評価方法その他

定期試験の得点(80%)、授業中の小テスト、レポート等(10%)、平常点(10%)
平常点は授業への参加状況・グループ学習時の討論への参加状況等、総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 人口の高齢化と高齢社会の課題、社会福祉との関連
2. 少子高齢化の実態と家族機能の変化
3. 高齢者の理解
4. 介護の歴史と専門職の背景
5. 介護を必要とする人の理解
6. 介護福祉に関連する法制度・介護保険制度におけるサービス
7. 包括的サービスの提供とチームケア
8. 施設介護の特徴と介護の理解
9. 居宅介護サービスの種類と介護サービスの理解
10. 地域密着型サービスの種類と介護サービス
11. 高齢者の虐待防止と介護
12. 介護現場のリスクマネジメント
13. 介護現場における事故防止対策
14. 介護従事者の安全と健康管理
15. 終末期介護
16. 試験

使用教科書名

介護の基本 井上千津子編 ミネルヴァ書房

授業科目概要・教育目的（履修条件）

障害は大きく分類すると、身体障害、知的障害、精神障害の3分類となる。

いかなる障害であっても、個人としての生活のQOL(人生や生活の質)は権利として保障されなければならない。そのため、障害のある人を1人の人間として身体的、心理的、社会的な側面から個性を理解し、本人のみならず家族への支援を含めた視点や障害があることによりリスクとなる生活への支障をどのようにサポートして支援をしていくのか専門職間の連携や協働の在り方についても学習する。

学習目標・到達目標

障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解する。視覚障害、聴覚障害、言語機能障害、肢体不自由、内部障害についての基礎知識が理解できる。精神障害、知的障害、発達障害、高次脳機能障害、難病の障害についての基礎知識が理解できる。障害のある人の身体、心理、社会的機能に関する基礎的知識を理解し、障害による生活支障に対して基本的な支援の方法が理解できる。

準備学習

障害者が地域や社会で生活する際のリスクや支障がどこにあるのかをボランティア活動や、当事者の方々との交流を通して経験しておくこと
日ごろから障害者に関する新聞やニュース等に関心を持ち、目を通すこと。

評価方法その他

平常点(50%)、課題・試験結果(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 障害の基礎的理解(1)(障害の概念、障害者福祉の基本理念)
2. 障害の基礎的理解(2)(障害が及ぼす心理的影響と自己概念、障害が及ぼす心理的影響と自己概念)
3. 精神障害のある人の理解と生活支援
4. 知的障害のある人の理解と生活支援
5. 発達障害のある人の理解と生活支援
6. 高次脳機能障害のある人の理解と生活支援
7. 難病のある人の理解と生活支援
8. 視覚・聴覚障害のある人の理解と生活支援
9. 肢体不自由のある人の理解と生活支援
10. 内部障害定義と動向
11. 心臓・呼吸器機能障害のある人の理解と生活支援
12. 腎臓・排泄器機能障害のある人の理解と生活支援
13. 小腸・肝臓機能障害のある人の理解と生活支援
14. 免疫機能障害のある人の理解と生活支援
15. まとめ・振り返り

使用教科書名

最新介護福祉全書11障害の理解 谷口敏代編 メヂカルフレンド社

授業科目概要・教育目的（履修条件）

介護を必要とする障がい者、高齢者の適正な支援を行うための基本的な支援技術を学ぶ。
この授業では、主に衣、食、住、移動、排泄、清潔に関する支援技術の基礎を学内実習を通して学ぶ。

学習目標・到達目標

個別の生活ニーズの充足を図るために自立を支援し、個々に合わせた支援の基本的展開ができるようになる。

週 テーマ・授業目標等

1. 自立に向けた居住間の整備
2. 住宅、施設、居住環境整備
3. 自立に向けた移動の介護（体位変換の実際）
4. 移動手段の実際1（車いす）
5. 移動手段の実際2（ストレッチャー）
6. 安楽な姿勢保持の実際
7. 活動機能低下と廃用症候群及び予防
8. 自立に向けた食事の支援
9. 食事支援と口腔ケアの実際
10. 排泄のメカニズム（講義）
11. 自立に向けた排泄の支援
12. 自立に向けた整容の支援
13. 整容、身づくろいの実際
14. 清潔維持のための支援（洗髪、清拭）
15. 清潔維持のための支援（入浴）
16. 試験

準備学習

この授業は主に学内での実習を中心に学習するため、実習にふさわしい服装、上履き等の準備が必要である。

評価方法その他

定期試験の評価（80％）授業中の実技試験（10％）
平常点（10％）（授業への参加状況、演習時の参加状況、態度などを総合的に判断する。）

使用教科書名

柴田範子編 生活支援技術 I ミネルヴァ書房 2009年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

相談援助で求められる実際の援助過程を想定した実技指導を行う。

学習目標・到達目標

実際の相談事例に対応できるような関わり方や対応の仕方を学びながら、事例を読み解く理解力や分析力を培い、ひいては実際の事例に対応できる力を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. 事例に学ぶ(1)－事例研究の意義
2. 事例に学ぶ(2)－事例の読み方
3. 事例に学ぶ(3)－事例研究の進め方
4. 実際の事例の展開過程(1)－インタビュー、アセスメント、プランニング
5. 実際の事例の展開過程(2)－インターベンション、モニタリング、アフターケア
6. 具体的な事例の把握(1)－児童虐待、老親虐待
7. 具体的な事例の把握(2)－ドメスティック・バイオレンス
8. 具体的な事例の把握(3)－低所得者、ホームレス
9. 具体的な事例の把握(4)－その他、権利擁護に係わる事例
10. 事例検討(1)－児童・家庭の問題
11. 事例検討(2)－障害者の問題
12. 事例検討(3)－高齢者の問題
13. 事例検討(4)－地域福祉の問題
14. 相談援助実習後の問題
15. 授業の振り返り

準備学習

演習は座学とは異なって楽しい時間である。
意欲をもって取り組んでほしい。

評価方法その他

出席、学習態度、発表、レポートなどによる総合評価。

使用教科書名

演習の中で随時提示。

NO. G050590

社会福祉援助演習Ⅴ

朝倉 和子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「社会福祉援助演習Ⅳ」に続いて、本演習Ⅴは社会福祉援助実習指導Ⅲとともに、社会福祉援助実習の事後指導と密接に関係付けて実施する。アウトリーチとニーズ把握、地域福祉の基盤整備と開発、地域福祉の計画、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価などの理解・習得、それらを実践的に担っていく能力の獲得に向けて、具体例を通じたロールプレイング等の実技指導による少人数のゼミ形式で取組んでいく。

週 テーマ・授業目標等

演習の中で指示する。

学習目標・到達目標

社会福祉学を始め、隣接科学の知識を福祉現場に応用できるようにする。自分の持っている潜在的な力を発見し、それを開花させ、成長するようこびを体験することを目的とする。また、自分の考えを自分の言葉で正確に相手に伝えるコミュニケーション力を高めると同時に、他者の意見に耳を傾け、冷静に意見を交換できる力や、年齢の異なった世代ともつながっていくようにする。

準備学習

社会福祉六法、用語辞典

評価方法その他

出席、学習態度、発表、レポートなどによる総合評価。

使用教科書名

授業で提示する

NO. G050620

ストレスマネジメント論

西口 守

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、まず、現場の葛藤や矛盾を文献からレビューし、その本質的課題を検証する。そしてそこから生じるワーカーのストレスの実態や実際を検討し、それにどのように向き合ってきたのかを学び、そして私はいかにこのストレスにどのように向き合うのかを個別に考え、そのマネジメント方法を理解する。

週 テーマ・授業目標等

授業内容は、文献学習、事例学習、対処方法を学ぶロールプレーまたアサーショントレーニングからストレスマネジメントの方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

社会福祉の実践は、ある意味矛盾との連続的なかかわりである。老年学者の木下康仁は、「現場はつねに不完全さを含んでいる」と述べる。だから現場には葛藤も課題もあるのだと・・・そしてそれは現場にいる限り、引き受けていかなくてはならないのだという。まさに現場はいいか、悪いかで決められない、合理的な決定が難しい状況がある。だから、そこに働くワーカーには当然、いろいろな意味でのストレスが発生する。この授業では、この現場のありようを基本的に直視し、その矛盾や葛藤から生じるストレスをどのようにとらえ、そしてどのように対処するのかを考えることにする。

準備学習

ストレスがあるのは当たり前。ストレスがないほうが実は問題がある場合もある。問題はそのストレスとの付き合い方。向き合い方である。それを皆で学ぶことができればいいなと思います。

評価方法その他

平常点30% 発表 40% レポート 30%

使用教科書名

特になし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業においては、①現代ソーシャルワークの特徴をブラックワイスとブレナンから学ぶ②その中で交渉法の意味と意義を理解する③交渉法のメソッドを学ぶ④ハーバード交渉法のを概観する⑤対決的交渉法と協調的交渉法について概念理解を試みる⑥交渉法の実際をソーシャルワークの実際から学ぶという6つのステージで授業を進める

学習目標・到達目標

ブラックワイスとブレナンは、現代のソーシャルワークにおいて、クライアントの周囲との調整活動が重要になってきていると述べ、そのために、交渉術が大切だとしている。この交渉法はアメリカではハーバード大学がその中心的な学びの場になっていて、「ハーバード交渉法」というスキルもある。実はこれは協調的交渉法を指しているが、授業ではこの協調的交渉法について学ぶことを目標としている。協調的交渉法は、win-winの関係を構築する交渉法だが、その原理を福祉の現場でどのように展開するかを学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

- 1) オリエンテーション
- 2) 現代ソーシャルワーク考える ①
- 3) 同上②
- 4) ブラックワイスとブレナンの主張を学ぶ①
- 5) 同上②
- 6) 交渉法概論①
- 7) 交渉法概論②
- 8) ハーバード交渉法とは何か①
- 9) 同上②
- 10) 協調的交渉法①
- 11) 協調的交渉法②
- 12) 協調的交渉法③
- 13) ソーシャルワークにおける交渉法の実際①
- 14) 同上②
- 15) まとめ
- 16) 試験

準備学習

交渉に関心がある方はぜひ学びに来てください

評価方法その他

出席 30% 発表 40% 試験30%

使用教科書名

なし

授業科目概要・教育目的（履修条件）

健康の概念について理解し、健康寿命の重要性を学ぶ。また、健康維持と人々の人生、生活のQOLとの関係について学び、健康を推進するための地域の役割、個人の役割を考え、疾病予防、介護予防の方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

健康の概念について言語化できる。
健康をプロモートするための地域の役割、個人の役割について理解できる。
介護予防についてまとめることができる。

週 テーマ・授業目標等

1. 健康の概念について WHOにおける健康の定義
2. ヘルスプロモーションとはその意味と定義
3. ヘルスプロモーションに掲げられている用語の理解
4. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
5. 高齢者のイメージ(演習)
6. 老年期の健康と病気
7. 加齢と成人病
8. 老化に伴う心身の変化の特徴・防御反応、回復力
9. 高齢者の心理とアセスメント
10. 高齢者の疾患と生活上の留意点
11. 不調の兆しの特徴と観察
12. 認知症の予防
13. 疾病の予防
14. ヘルスプロモーションの評価
15. まとめ

準備学習

文献検索の方法について学習しておくこと

評価方法その他

レポート試験80% 中間レポート10% 授業の総合評価10%

使用教科書名

指定テキストはない。必要時資料配布する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

福祉の心理学の課題は広い。児童、障害者、高齢者など福祉的対応を必要とする人々やその家族の心理的な問題、さらにはケースワーカーなど福祉の援助活動に携わる人々の心理的な問題等広範多岐に及ぶ。ここでは主として障害者や高齢者の心理的な問題に焦点を当てて、その援助方法について探求する。

学習目標・到達目標

社会福祉の実践現場で、すぐに役に立つような利用者の心理を理解し、また基本的な援助方法の理論を学習する。

週 テーマ・授業目標等

1. 高齢者の心理的な特徴
2. 高齢者の課題
3. 高齢者への効果的な援助方法
4. 障害者の心理的な特徴
5. 障害者の課題
6. 障害者への効果的な援助方法
7. クライアント理解の方法
8. ケース理解の方法
9. 受容的態度と共感的理解
10. 面接の意義と方法
11. アセスメントの福祉心理学的な視点
12. 心理検査の効用と限界
13. 心理検査－質問紙法、投影法など
14. 心理療法－カウンセリング、家族療法、交流分析等
15. まとめ
16. 定期試験

準備学習

社会福祉士、精神保健福祉士への道を目指す学生は、ぜひ受講してほしい。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

使用教科書名

授業開始後、追って指示。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神障害とは何か、精神障害者は歴史の中でどのように処遇されてきたのかを、精神科医療および精神障害者福祉のこれまでの歩みを丹念にとどり、その課題を明らかにする。次に精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーである精神保健福祉士は、精神障害を抱えて生きる当事者にどのような向き合い、支援すべきかを事例を通して考え、精神保健福祉士としての倫理、権利擁護のあり方について確認する。最後に他職種との協働による包括的援助の意義についても言及する。

学習目標・到達目標

精神保健福祉の相談援助の実際を学ぶ前に、援助者としてどのような姿勢で精神障害を抱える人たちと向き合うのかが問われる。人を援助するとはどういうことを考え、精神保健福祉士の拠って立つ基盤を確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ・授業目標等
- 1 精神障害とは何か、精神障害を抱えて生きるとは？
 - 2 西欧における精神障害者の処遇史(1)
 - 3 " (2)
 - 4 " (3)
 - 5 日本における精神障害者の処遇史(1)
 - 6 " (2)
 - 7 " (3)
 - 8 日本における精神障害者の地域生活の現状(1)
 - 9 " (2)
 - 10 精神科ソーシャルワーカーの誕生・発展・挫折・再出発
 - 11 精神保健福祉士誕生の意義とその役割、課題
 - 12 精神障害を生きる－事例から学ぶ精神科ソーシャルワーク(1)
 - 13 " (2)
 - 14 精神障害の支援に係る各職種と役割
 - 15 多職種の協働によるチームアプローチ、包括的援助体制
 - 16 まとめ、定期試験

準備学習

精神保健福祉の入門編です。精神障害を生きる人たちとどう向き合うかをテーマにして進めます。人を援助する福祉の専門職としての自分の立つ位置を考える授業にしていきたいと考えています。

評価方法その他

筆記テスト 50%
参加態度・意欲・積極性 20%
出席 30%

使用教科書名

毎回プリントを配布して、それに沿って授業を進める。教科書は授業の中で別途指示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

点字は触って読む文字です。約200年前にフランスの盲人ルイ・ブライユによって発明されました。これによって、目の不自由な人が視覚に頼らずに自分で読み書きができるようになりました。今では点字が世界各国の文字に翻案されて使われています。

この授業では、日本語の点字・点訳について、その表記法、文法の基礎を学びます。簡単な点字の手紙が書ける程度の知識と技術の習得をめざします。後半では、ユニバーサル点字絵本作りに取り組みます。併せて、視覚障害の概念や視覚障害者の実態についての理解を深めます。点字を使用している人々（目の不自由な人々）の生活や支援の在り方について共に考えていくこともこの授業では大切にしています。

学習目標・到達目標

【知識・理解】点字の基礎及び日本語の点字表記の特性が理解でき、簡単な点字が書ける。視覚障害者のコミュニケーション手段として点字の意義を理解できる。

【関心・意欲・態度】触読文字としての点字の有用性に気づき、意欲的に点字を学ぶ姿勢を持つ。

【技能・表現】平易な点字の短文が1分間に30音節以上読むことができ、日本語の短文を2分間に30字以上点訳できる。

週 テーマ・授業目標等

1. 点字の基礎知識／点字の歴史
2. 点字の特徴／点字の五十音（清音）
3. 点字器の使い方／点字の五十音（濁音、拗音、特殊音、句読符）
4. 点字の数字とアルファベット
5. 点字の仮名遣い1（助詞、促音の表し方）
6. 点字の仮名遣い2（長音の表し方）
7. 点字の仮名遣い3（濁音、外来語の表し方／視覚障害の定義）
8. 数および数を含む言葉／視覚障害の病理
9. 外字符と外国語引用符／視覚障害と教育
10. ひと続きに書く言葉／点字絵本の製作1（点訳絵本の選定）
11. 点字の分ち書き1（自立語と付属語）／点字絵本の製作2（点訳作業）
12. 点字の分ち書き2（品詞の表し方）／点字絵本の製作3（点訳校正）
13. 点字の分ち書き3／時間や単位の表し方、拍数と分ち書き）点字絵本の製作4（製本作業）
14. 点字基礎のまとめ
15. 筆記試験、振り返り

準備学習

1. 点字器を使用します（必須）。
使用点字器：日本点字図書館製N632小型点字器（1150円）
購入方法は、初回の講義時に紹介します。
2. 点字学習も語学と同様に地道な積み重ねが求められます。講義には欠席しないこと、遅刻をしないことを求めます。
3. 練習課題などを通して毎日継続して点字に触れる機会を持つように努力してください。

評価方法その他

定期試験50％ 点字の日本語訳、日本語の点訳（点字一覧表のみ持ち込み可）

平常点40％ 出席態度、点訳墨字訳課題の提出状況

その他10％ 点訳絵本製作課題

使用教科書名

点字のレッスン改訂版（社会福祉法人視覚障害者支援総合センター 1365円）

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間が生きていく上で、他者とのコミュニケーションは大変重要なものである。この授業では、聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである手話を学び、簡単な挨拶や自己紹介の技術を習得する。同時に、聴覚障がいに関する基礎知識や、聴覚障がい者の生活の様子、教育、就労、文化、福祉制度などについて学び、理解を深める。そこから、障害の有無に関わらず、相手の状態や気持ちを思いやり、お互いのメッセージを受けとめ合うというコミュニケーションの基本を探究し、自己のコミュニケーション能力を高めていく。

学習目標・到達目標

・手話の基本的な表現技術を習得し、簡単な自己紹介や日常会話ができる。

・聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を理解し、実践できる。
・聴覚障がい者の生活の様子や、福祉制度などについて理解し、課題を検討できる。

・聴覚障がい者に対し、相手の状況や気持ちに配慮し、適切な対応ができる。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、手話の魅力
2. 挨拶、名前の手話表現、指文字
3. 聴覚障がい者の日常生活
4. 住所の手話表現
5. 家族の手話表現
6. 数字の手話表現
7. 聴覚障がいの基礎知識、手話の歴史
8. 趣味の手話表現
9. 好き・嫌いの手話表現
10. 聴覚障がい者の就労
11. 障がい受容について、日常会話で使う手話
12. 聴覚障がい者の体験談
13. さまざまなコミュニケーション方法（筆談、口話など）
14. 場面ごとの会話練習（病院、買い物など）
15. 手話実技試験

準備学習

名前の手話表現を指導した後は、毎回手話で出席確認を行う予定。自分の名前の手話表現はしっかり覚え、使いこなせるようにすること。

評価方法その他

レポート(40%)、手話実技試験(40%)、平常点(20%)

平常点は授業への参加状況、ビデオの感想などの課題の提出状況等で総合的に判断する。

使用教科書名

教科書は特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、大学と包括的連携協定を締結する特別養護老人ホームなどでのフィールドワークを通じて、福祉サービスの意義、支援の方法、コミュニケーション技術、あいさつを含めた社会人としての対応の仕方を学ぶこととする。具体的には全員が、特別養護老人ホームを利用するご利用者に対して5名一組でテーマを定めてインタビューを行い、まとめる。その後、教員と相談しながら、希望する施設の見学などを行い、自らの職業モデルを構築していく。

週 テーマ・授業目標等

学習目標・到達目標

準備学習

評価方法その他

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

わが国の社会福祉も大きな転換を遂げ、今や住民にとって身近な市町村を基盤に、行政と地域社会が協働して、福祉システムを形成し、サービスを提供していく時代に入っている。そこで授業では、新しい社会福祉のあり方や地域福祉に係わる基礎的な知識や枠組みを学ぶことで、社会福祉専門職として身につけておくべき視点の習得をめざす

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 地域福祉推進の背景(1)ー産業構造の変化からー
3. 地域福祉推進の背景(2)ー少子高齢社会からー
4. 地域社会の特性(1)ー地域共同体・伝統型アノミー型地域社会ー
5. 地域社会の特性(2)ー個我・コミュニティ型地域社会ー
6. コミュニティとは
7. 地域福祉の概念(1)ー構造的アプローチからみた概念ー
8. 地域福祉の概念(2)ー機能的アプローチからみた概念ー
9. 地域福祉の理念(1)ーノーマライゼーション・住民主体ー
10. 地域福祉の理念(2)ーボランティア・ソーシャルインクルージョンー
11. 日本における地域福祉
12. イギリスにおける地域福祉
13. 地域福祉を支える組織(1)ー国・都道府県・市町村の役割ー
14. 地域福祉を支える組織(2)ー民間部門の役割ー
15. 地域福祉を支える人
16. 定期試験

学習目標・到達目標

地域福祉推進の背景、地域社会、コミュニティ、概念、地域福祉の流れ(日本とイギリス)、地域福祉組織と人について理解する

準備学習

地域福祉論は、児童・障害・高齢者分野の知識を基に総合的な授業が進められていきます。このため、これまで学んできたそれぞれの分野の基本的内容を復習しておいてください。

評価方法その他

平常点20%(授業・グループ討議への参加状況)、課題提出20%、定期試験60%

使用教科書名

『(第2版)地域福祉の原理と方法』学文社
必要に応じてプリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地域福祉論Ⅰを基盤に本授業では、地域福祉を推進するために必要な援助技術（コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク）や福祉計画についての知識や技術を習得するとともに、権利擁護や福祉教育などに関する知識の習得をめざす。また、フィールドワークで収集した各地域包括支援センターの「地域づくり」に向けた取り組みを共有する

学習目標・到達目標

地域福祉の推進方法、地域における権利擁護、福祉教育について理解する

準備学習

地域福祉論Ⅰの内容を復讐しておくこと。

評価方法その他

平常点20%（授業・グループ討議への参加状況）、フィールドワークおよびプレゼンテーション20%、課題提出10%、定期試験50%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. フィールドワーク発表
3. フィールドワーク発表
4. 地域福祉の推進法(1)―地域福祉推進法の概要―
5. 地域福祉の推進法(2)―コミュニティワークの過程―
6. 地域福祉の推進法(3)―コミュニティソーシャルワークの過程―
7. 地域福祉の推進法(4)―地域福祉計画の概要―
8. 地域福祉の推進法(5)―地域福祉計画の立案過程―
9. 地域における権利擁護(1)―権利擁護の概要―
10. 地域における権利擁護(2)―日常生活自立支援事業・成年後見制度―
11. 福祉教育(1)―福祉教育の概要―
12. 福祉教育(2)―福祉教育の課題―
13. 地域福祉演習(1)―各グループごとに事例を基に課題解決を図る計画を立案―
14. 地域福祉演習(2)―各グループごとの計画を発表し、共有する―
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

『(第2版)地域福祉の原理と方法』学文社
必要に応じて、プリントを配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

課題レポートの作成、フィールドワーク（社会福祉関係機関の見学）、ボランティア体験、課題発表などを通して「見る」「聞く」「感じる」「考える」「表現する」ことができる学習を重視している。この講座が基礎となり、学生各自が自分の可能性に気づき、今後、意欲的に学生生活を送ることができるようになることを期待している。

学習目標・到達目標

学生自身が主体的に学び、それぞれの将来像への礎を培うことを目標とする。

準備学習

授業の展開方法と受講方法はオリエンテーションで説明する。福祉に関する新聞やニュース等に関心を持ち、目を通すこと。また、ボランティア等を通して人とのかかわる体験等を積極的に行ってほしい。

評価方法その他

平常点(50%)、課題・報告書の提出(20%)、ボランティア・見学の実施(10%)、課題・報告書の発表(20%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|------|------------------------|
| 第1週 | 全体オリエンテーション／授業の進め方／日程等 |
| 第2週 | 福祉の動向を知ろう(1) |
| 第3週 | 福祉の動向を知ろう(2) |
| 第4週 | ボランティア学習ガイダンス(1) |
| 第5週 | ボランティア学習ガイダンス(2) |
| 第6週 | ボランティア学習ガイダンス(3) |
| 第7週 | ボランティア学習ガイダンス(4) |
| 第8週 | ボランティア期間(1) |
| 第9週 | ボランティア期間(2) |
| 第10週 | ボランティア期間(3) |
| 第11週 | ボランティア期間(4) |
| 第12週 | ボランティア期間(5) |
| 第13週 | ボランティア学習まとめの作成(1) |
| 第14週 | ボランティア学習発表会(1) |
| 第15週 | ボランティア学習発表会(2) |

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生涯発達という観点から青年期がどのように位置づけられているかを明らかにする。とりわけ、青年期の発達課題とされるアイデンティティの確立とはなにか、また、その意義を考察する。さらに、青年期の自我の特徴とそれがもたらす諸問題等を考察する。

学習目標・到達目標

青年期は心理的・身体的・社会的に大きな変化を体験し、人生における一つの危機の時期ともいわれる。青年期のこうした状態について、自我同一性の確立を中心として心理的特質や発達課題を理解する。

準備学習

できる限り自分の内面と照らし合わせながら受講することで理解を深めて欲しい。

評価方法その他

授業中の課題への取り組み・小テストにより評価する(100%)。

週 テーマ・授業目標等

- 1 序論 青年心理学とは
- 2 第1章 青年期の発達と課題
- 3 児童期から青年期へ
- 4 アイデンティティの確立と拡散
- 5 親密性と孤立
- 6 成人期の自我発達
- 7 第2章 青年期の自我
- 8 「本当の自分」「偽りの自分」
- 9 人間関係と自我
- 10 自我と傷つきやすさ
- 11 第3章 青年期の臨床心理
- 12 臨床的諸問題 心理療法
- 13 第4章 青年期を生きる
- 14 愛と性
- 15 夢と仕事

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

心理実験・調査を企画し実験者・被験者として体験する。データの収集、データの処理、t検定を中心とした推計学的検定、心理学レポート作成、プレゼンテーションなどの一連の作業を通じて、心理学実験の基礎的知識と実践力を習得する。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法Ⅰ、反応時間実験、両側性転移実験、錯視実験、生理心理実験、記憶実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーションのスキルも学ぶ。心理学a、bおよび統計学入門、基礎統計学を履修していることが望ましい。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

実験レポート80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週心理学実験とは;反応時間実験、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その1
- 第2週心理学実験とは、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その2
- 第3週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その1
- 第4週心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その2
- 第5週反応時間実験を行う。パソコンを使った心理実験としての技能も学ぶ
- 第6週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その1
- 第7週鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その2
- 第8週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その1
- 第9週錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その2
- 第10週中間の総括
- 第11週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その1
- 第12週感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その2
- 第13週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その1
- 第14週系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その2
- 第15週全体についての論議

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「心理学実験Ⅰ」に引き続き心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。ここでは、より高度な統計学分析を学習する。実験の進行状況によっては時間内に目的を達成できない場合もある。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法、視覚情報処理による認知実験、認知的葛藤の測定実験、SD法によるイメージ実験、家庭用ロボットを使った行動観察・動作分析実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーション実習も行う。履修条件として「心理学実験Ⅰ」を単位修得していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、実験・調査の方法、データの分析とまとめ方、レポートの形式と内容について
 第2週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その1
 第3週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その2
 第4週 視覚情報処理による認知実験
 第5週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その1
 第6週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その2
 第7週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その3
 第8週 認知的葛藤の測定実験を行う その1
 第9週 認知的葛藤の測定実験を行う その2
 第10週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その1
 第11週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その2
 第12週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その1
 第13週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その2
 第14週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その3
 第15週 全体についての論議

準備学習

ネットで授業に先立ち提供される教材(情報)により予習する。

<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

評価方法その他

実験レポート80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

使用教科書名

教材を毎回の授業に先立ちウェブサイトから提供します。
<http://ichiichi3.web.fc2.com/index.htm>

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。

学習目標・到達目標

- ・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
- ・人が成長していく過程に沿って、家庭教育のあり方について考えていく。

準備学習

各自、新聞や雑誌等の家庭や家族に関する記事を意識し、目を通しておいください。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・家庭とは何か
2. 子どもが育つ場としての家庭(養育者と子どものかかわり方の基本原理)
3. 乳児期と家庭教育
4. 幼児期と家庭教育
5. 学童期・思春期と家庭教育
6. 青年期と家庭教育
7. 家庭教育にみる家族の発達の課題～育てられる者から育てる者へ
8. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①
9. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②
10. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③
11. 家庭教育支援の現状と課題(家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携)
12. 海外の家庭教育
13. 今後の家庭教育に求められるもの
14. 事例から考える家庭教育
15. まとめ

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)30%、レポート20%、試験50%により総合的に評価

使用教科書名

特になし。必要な資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標

現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようになる。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から
- 3 消費者教育をめぐる動向
- 4 企業と消費者教育
- 5 企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者
- 6 行政における消費者情報①:消費者教育の実践
- 7 行政における消費者情報②:消費生活相談情報
- 8 行政における消費者情報③:消費者事故情報
- 9 メディアリテラシーとは何か
- 10 生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討
- 11 消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用
- 12 消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法
- 13 消費者情報に関わる統計の分析と評価
- 14 消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用
- 15 まとめ
- 16 期末試験

準備学習

関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
 - (2) 視察レポートの提出 30%
 - (3) 平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名

国民生活センター編『くらしの豆知識(2015年版)』2014年
消費者庁企画課編『ハンドブック消費者(2014)』全国官報販売協同組合、2014年
(※テキストの購入については、初回の講義にて案内します)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業では、経済社会を国民生活を中心に据えて再考するとともに、現代的課題を検討し、消費生活の現状を消費者としてだけでなく生活者の視点から捉え直す。価格決定のメカニズムや物価など経済学の基礎を学び、市場における企業の行動、戦略についても理解する。各回のテーマに関連した身近なトピックスについて考察を深め、各自の考えをまとめる。

学習目標・到達目標**週 テーマ・授業目標等**

1. ガイダンス
2. 経済社会の変遷と生活(1)
3. 経済社会の変遷と生活(2)
4. 経済社会の変遷と生活(3)
5. 効用の最大化と消費者行動
6. 需要と価格
7. 供給と価格
8. 他者の行動と消費者行動
9. 価格による心理的影響と消費者行動
10. 消費者物価指数の変動と生活
11. ライフサイクルと消費生活(1)
12. ライフサイクルと消費生活(2)
13. 消費低迷と将来不安
14. 企業の社会的責任と生活者
15. 授業のまとめ

準備学習**評価方法その他**

期末試験70%と出席状況および提出物を含む授業への参画度30%

使用教科書名

使用しない。必要な資料はプリントで配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

健康で豊かな衣生活を目標に、服飾史、被服デザイン、被服製作、被服材料、被服衛生、被服管理などの分野の基礎を総合的に講義し、被服の役割と機能を分かりやすく概説する。

学習目標・到達目標

被服・服飾の領域全般を広く学び、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つ基礎知識を習得する。

準備学習

被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史、被服材料、被服衛生、被服管理などの基礎を多角的に概説します。被服・服飾の領域全般を広く学ぶことにより、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つような内容です。例えば、服の縫製や品質のチェック、色彩や体系を考慮したコーディネート、季節の寒暖に適合した素材や着用の方法、正しい洗濯や管理法などの知識は、日常に衣生活に役立つことでしょう。

評価方法その他

1～7週担当者と8～15週担当者による担当者別の筆記試験(80%)および平常点(20%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 被服学の領域、被服の着用目的・起源
2. 被服の基本形態と表現(1)
3. 被服の基本形態と表現(2)
4. 服飾の変遷(1)
5. 服飾の変遷(2)
6. 服飾の変遷(3)
7. 服飾の変遷(4)
8. 被服材料(1)天然繊維
9. 被服材料(2)天然繊維と合成繊維
10. 被服材料(3)合成繊維と新合繊
11. 糸・布地・加工・性能
12. 被服の性能と衛生
13. 被服管理(1)被服の整理・洗濯の意義と方法
14. 被服管理(2)洗剤の成分と働き・合理的な洗濯と仕上げ
15. 被服管理(3)洗浄の実際等
16. 試験

使用教科書名

プリントの配布等

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

「食」に関する事柄を総体的に概略を理解する。

準備学習

専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科の導入部分的内容となります。

週 テーマ・授業目標等

1. 食べ物と栄養(1)
2. 食べ物と栄養(2)
3. 食べ物と栄養(3)
4. 食べ物と栄養(4)
5. 日本の食文化(1)
6. 日本の食文化(2)
7. 世界の食文化(1)
8. 世界の食文化(2)
9. 食べ物の特性(1)
10. 食べ物の特性(2)
11. 食べ物の特性(1)
12. 食べ物の特性(2)
13. 食べ物と社会(1)
14. 食べ物と社会(2)
15. 食育とは
16. 定期試験

評価方法その他

筆記試験100%

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本・西洋・中国料理の調理実習を通して基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立を実習しながら、それぞれの料理様式の特徴や食卓の調え方についても理解し、多様な場面で実践することが可能となることを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の下処理法や衛生的な取り扱い方を身につける。
2. 食品の種類と概量を理解でき、味付け（調味割合）の基本を身につける。
3. 日本・西洋・中国料理の基礎な調理法を理解し、技術を身につける。
4. 栄養価計算を可能にし、食品の栄養的な特徴を理解する。また、献立作成、食器・調理器具扱い方、配膳法、食事のマナーを身につける。

準備学習

授業後は、実習ノートを作成し、手順や要点を復習し、自らの生活の中でも、献立立案、調理を行い技術を磨くように心がけることにより、実習授業の効果が上がります。

評価方法その他

平常点(30%授業への参加状況)、ペーパー試験(20%)、実習試験(20%)、ノート等提出物(30%)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション目的と進め方、実習上の心得、準備等
2. 栄養価計算について、菓子の実習
3. 日本料理の基礎・1 白飯、かき卵汁、魚照り焼き、青菜胡麻和え、果物
4. 日本料理の基礎・2 親子丼、味噌汁、鰹香味揚げ、酢の物、果物甲州煮
5. 日本料理の基礎・3 栗ご飯、薩摩汁、鯖みぞれ煮、酢の物、餅菓子
6. 日本料理の基礎・4 松茸飯、清まし汁、立田揚げ、白和え、果物
7. 日本料理の基礎・5 炊き込み飯、味噌汁、粟麩の煮物、柿なます、饅頭
8. 日本料理の基礎・6 散らしずし、茶わん蒸し、お浸し、餅菓子
9. 西洋料理の基礎・7 赤飯、蛤潮汁、いり鶏、天ぷら、寄せ菓子
10. 西洋料理の基礎・1 ビーフシチュー、バターライス、冷野菜、パバロア
11. 西洋料理の基礎・2 オードブル、肉料理、温野菜、冷野菜、焼き菓子
12. 西洋料理の基礎・3 スープ、肉料理、温・冷野菜、カスタードプリン
13. 西洋料理の基礎・4 スープ、リゾット、冷野菜、アップルパイ 冷菜、
14. 中国料理の基礎・1 炸菜、湯菜、鹹点心(炒飯)、甜点心
15. 中国料理の基礎・2 冷菜、炸菜、点心(粥)、甜点心
16. 定期試験

使用教科書名

五訂増補 食品成分表 2015/ 女子栄養大学出版部
五訂増補 調理のためのベーシックデータ/ 女子栄養大学出版部
「基礎調理」のテキストを配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。建築製図の基本的な技術を習得する。

準備学習

家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

評価方法その他

小課題20%、製図課題40%、テスト40%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住居の機能
- 2) 寸法と空間
- 3) 住まいの変遷(1)
- 4) 住まいの変遷(2)・生活様式と住居
- 5) 現代の家族と住まい
- 6) 日本の住宅事情と住宅政策
- 7) 住居の選択と維持管理
- 8) 住まいと環境
- 9) 安心・安全な住まい
- 10) これからの住まいー高齢化社会と住まい
- 11) これからの住まいーコワーティブ住宅・コレクティブ住宅
- 12) 住居の設計
- 13) 住居の設計／製図(1)
- 14) 住居の設計／製図(2)
- 15) 住居の設計／製図(3)
- 16) 定期試験

使用教科書名

定行まり子「生活と住居」光生館

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この講義では、社会福祉の意味と意義また制度の側面また実践の側面について学び、現代社会における社会福祉の理解を深める

学習目標・到達目標

この講義は社会福祉概論として位置づけ、初学者の入門として考える。すなわち授業では、社会福祉、社会保障の概念規定、歴史また現代的課題について、網羅し、社会福祉の意味と意義を大まかに理解する。

週 テーマ・授業目標等

1. 新聞記事を読んでみる
2. 社会福祉の意味
3. 社会福祉の理念の1
4. 社会福祉の理念の2
5. 社会福祉の実際 社会福祉六法を中心に
6. 社会福祉の歴史
7. ニーズとは何かの1
8. ニーズとは何かの2
9. ニーズの測定方法
10. 貧困の問題 派遣問題を手がかりとして
11. 貧困の問題 ホームレスから考える
12. 貧困の問題 虐待から
13. 現場の実践を聞く
14. 国際福祉とまとめの授業(1)
15. 国際福祉とまとめの授業(2)
16. 試験

準備学習

初めて学ぶ社会福祉です。なぜ今社会福祉が必要なのか、またどんな人や場所が社会福祉を求めているのか、また社会福祉を実践している人や場所はどこにあるのか、など多様な問題意識をもって臨んでください。私もみなさんのご要望に最大限お応えしますので、どんどん質問してください。下の私のメールアドレスからの質問も大歓迎です。

評価方法その他

出席:15%、学期途中の小レポート:25%、学期末大レポート:30%、学期末試験:30%

使用教科書名

開講時説明

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「社会福祉総論Ⅰ」に続いて、現代社会における社会福祉・社会保障政策、制度、具体的な社会福祉援助の展開、今後の課題と展望について、なるべく分かりやすく具体的に勉強していきたいと思ひます。

学習目標・到達目標

社会保障・社会福祉の現代社会における意味を把握することをもとに、具体的に社会保障・社会福祉関連制度等の入門編として勉強していきたいと思ひます。

週 テーマ・授業目標等

1. 経済学と社会保障・社会福祉
2. J・ロールズの正義論、A・K・センの潜在能力アプローチ
3. 社会政策と行政需要
4. 社会政策の意味-市場から調達されない必要-
5. 資源と社会指標
6. 市民資格
7. 市場・家族・政府
8. 規制と社会サービス給付
9. 福祉レジーム論-福祉国家と福祉社会-
10. 福祉計画
11. 政策決定の過程
12. 政策評価
13. 所得政策、保健医療・住宅・雇用の保障
14. 人権と社会福祉・社会保障
15. 公共性

準備学習

事前の学習等については、毎回、伝達する予定です。

評価方法その他

試験またはレポート。具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思ひます。

使用教科書名

レジュメを配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人体の基本的な構造、機能、加齢や障害によって変化する心身機能について学ぶ。また、成人、高齢者に最も関連する疾患の原因、治療、リハビリテーションについて学ぶ。さらに健康増進と疾病予防保健医療対策、医療と介護の関係についても理解を深める。

学習目標・到達目標

人体の基本的な仕組み、生理機能について理解できるようになる。
成人、高齢者に発症しやすい疾患、障害について、一連の健康増進と疾病予防、発症原因、治療（リハビリテーション含む）の概要及び地域包括医療について理解できる。

準備学習

指示したテキストを中心として講義するため、受講者は必ずテキストを購入しておくこと。

評価方法その他

平常点20%、試験80%
(平常点は、授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 身体の仕組みの概観
2. 精神の成長・発達
3. 人の成長・発達と老化
4. 疾病の概要の理解と予防（生活習慣病と未病）
5. 疾病の概要の理解と予防・治療（悪性腫瘍）
6. 疾病の概要の理解と予防・治療（脳血管疾患）
7. 疾病の概要の理解と予防・治療（心疾患）
8. 疾病の概要の理解と予防・治療（高血圧）
9. 疾病の概要の理解と予防・治療（糖尿病と内分泌疾患）
10. 疾病の概要の理解と予防・治療（呼吸器疾患）
11. 疾病の概要の理解と予防・治療（消化器疾患）
12. 疾病の概要の理解と予防・治療（血液疾患と膠原病）
13. 疾病の概要の理解と予防・治療（腎臓・泌尿器疾患）
14. 疾病の概要の理解と予防・治療（骨・関節疾患）
15. 疾病の概要の理解と予防・治療（感染症）
16. 試験

使用教科書名

MINERVA社会福祉士養成テキストブック20 人体の構造と機能及び疾病
黒田研二・住居広士編著 ミネルヴァ書房

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間は他者との結びつきなしには、生きられない。そこに「社会」がある。私たちは家族・地域社会・国家等、様々な社会との関わりの中で生きている。そこで社会学的観点から、家族問題や地域問題を中心に、「福祉」のあり方について考えてみたい。これからの女性が様々な社会において生き抜いていくとき、社会学的な福祉観を持つことは重要であろう。

学習目標・到達目標

社会に潜む福祉にかかわる問題点を明確に捉え、その解決策を模索する能力を身につけることを目標とする。

準備学習

福祉と社会という視点を以て、新聞・雑誌・書籍等を介し、自分の問題意識を高めておいてください。

評価方法その他

レポート70%、小論文15%、平常点(15%、平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 社会学とは
- 第3週 社会理論と社会システム論
- 第4週 パーソナル以降の社会システム論
- 第5週 社会の推移
- 第6週 人口問題
- 第7週 社会集団
- 第8週 社会と個人
- 第9週 社会的ジレンマ
- 第10週 生活の理解
- 第11週 家族
- 第12週 結婚と少子高齢化
- 第13週 家族(個人)と社会
- 第14週 社会問題
- 第15週 まとめ

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、児童福祉の歴史的展開過程や児童観の変遷などを振り返り、それらを踏まえながら、近年における児童福祉の実情について具体的に把握していく。そのような学びを通して、初めて今日、児童が置かれている現状のさまざまな問題点や課題が浮き彫りになってくるであろう。なお、時には生の事例を用いて一緒に「考える」授業を展開したい。したがって、学生のみなさんは、大いに疑問や問題意識を持ちつつ、前向きな学習に取り組んでほしい。

学習目標・到達目標

児童福祉全般を網羅的に理解するだけにとどまらず、実践現場でも役に立つような児童理解の視点を身につける。

準備学習

新聞・テレビ等を通して、できるだけ児童に関わるニュースに関心をもち、さらに文献などにあたって理解を深めるといった学習態度が望ましい。

評価方法その他

平常点(出席率、授業態度、授業中の小レポート等で30点)、定期試験(70点)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーションー児童福祉とは
2. 児童福祉の担い手
3. 児童福祉の歴史的背景とその理念
4. 児童福祉をめぐる最近の動向
5. 児童の権利保障
6. 児童を取り巻く現状(1)ー少年非行
7. 児童を取り巻く現状(2)ーいじめ
8. 児童を取り巻く現状(3)ー不登校
9. 児童を取り巻く現状(4)ーひきこもり
10. 児童を取り巻く現状(5)ー児童虐待その1
11. 児童を取り巻く現状(6)ー児童虐待その2
12. 児童を取り巻く現状(7)ー心身障害
13. 児童福祉の法制度と実施体制
14. 児童福祉における援助方法
15. まとめー児童福祉の今後の課題
16. 定期試験

使用教科書名

特に使用しない。授業の中で参考書等を随時紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

認知症の原因となる疾患の理解とともに、多様な生活環境の中で生活している認知症の高齢者に対して生活環境の特性を理解しながら個々にあった支援の方法を学ぶ。地域で生活している認知症高齢者とその家族に愛するインフォーマル、フォーマルサービスと地域支援の在り方を学ぶ

学習目標・到達目標

認知症の原因となる疾患やその症状についての特徴、中核症状、周辺症状が整理でき、さまざまな環境に即応しながら支援できる知識を理解することができる。

準備学習

テキストを中心として講義するため、受講者は必ず購入しておくこと。

評価方法その他

定期試験評価(70%)レポート(20%)
平常点(10%)授業への参加状況、グループ学習への参加状況など総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 認知症に関する意識(KJ法分類)
2. 日本の福祉、社会動向からみる認知症の歴史
3. 高齢者の健康上の不安と生活上の課題
4. 認知症に間違われやすい症状(うつ、せん妄)
5. 認知症の診断、知能検査
6. 認知症の種類と症状、治療(アルツハイマー型、血管性、レビー小体型等)
7. 認知症の中核症状と行動心理学的症状
8. 認知症の非薬物療法
9. 回想法とは
10. 認知症の予防
11. 成年後見制度と認知症
12. 認知症の生活支援
13. 認知症を抱える家族の支援と地域支援体制
14. ターミナルケア
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

認知症の理解 本間昭編 ミネルヴァ書房 2009年初版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、高齢者の心身の状況、社会的課題、高齢者関連法規として老人福祉法、高齢者医療確保法(旧老人保健法)、介護保険を学ぶ。また虐待防止法や、その他高齢者サービス法令を学習する。

学習目標・到達目標

わが国の少子高齢社会の現状を理解し、特にこの中でも高齢者を支える、福祉、介護、医療、住宅制度について理解する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) オリエンテーション
- 2) 命の終わりを考える・安楽死と尊厳死
- 3) 高齢者の心身の状況 身体的側面
- 4) 高齢者の心身の状況 心理的側面
- 5) 高齢者の社会的状況①
- 6) 高齢者の社会的状況②
- 7) 高齢者の生活困難
- 8) 高齢者の保健福祉制度の体系
- 9) 老人福祉法
- 10) 高齢者医療の体系理解
- 11) 高齢者医療確保法 後期高齢者医療とは何か
- 12) 特別講演
- 13) 介護保険法
- 14) 介護保険法の実際
- 15) 授業のまとめ
- 16) 試験

準備学習

少子高齢社会について関心をもってください。特に高齢社会のよいところにも関心をもってください。

評価方法その他

平常点 20% ミニテスト(小論文) 15% 学期末試験 65%
これらの総合点とする
平常点:出席や授業態度、予習復習の状況の他、井上先生と合議し評価する

使用教科書名

新 社会福祉士養成講座 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規

授業科目概要・教育目的（履修条件）

公的介護保険制度の創設により、措置から契約へとパラダイムの転換が図られた。そこで問われるのは、利用者本位の視点に基づいたサービス提供であり、これを可能とする支援システムの構築である。講義では、介護保険制度における居宅と施設サービス等の内容を詳細に示すことで、介護保険に関する基礎的知識の習得をめざす

学習目標・到達目標

介護保険制度に関する基礎的知識を習得する

週 テーマ・授業目標等

1. 公的介護保険制度が導入された背景
2. 公的介護保険制度の現状
3. 居宅サービスの内容(1)ー訪問介護・訪問看護・訪問リハビリー
4. 居宅サービスの内容(2)ー居宅療養管理指導・訪問入浴介護・通所介護ー
5. 居宅サービスの内容(3)ー通所リハビリ・短期入所生活介護・短期入所療養介護ー
6. 居宅サービスの内容(4)ー特定施設入居者生活介護・福祉用具の貸与・住宅改修ー
7. 居宅サービスの内容(5)ー介護予防の各種サービスー
8. 地域密着型サービスの内容(1)ー夜間対応型訪問介護・認知症対応型通所介護ー
9. 地域密着型サービスの内容(2)ー小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護ー
10. 施設サービスの内容(1)ー介護老人福祉施設ー
11. 施設サービスの内容(2)ー介護老人保健施設・介護療養型医療施設ー
12. 地域支援事業の内容
13. 公的介護保険制度における介護報酬(居宅・施設)
14. 介護報酬を踏まえたケアマネジメント演習(1)ー事例を用いてグループでケアプランを作成ー
15. 介護報酬を踏まえたケアマネジメント演習(2)ーグループ別に作成したケアプランを発表し、全体で共有ー
16. 定期試験

準備学習

新聞等により、高齢者に関する社会問題を把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

評価方法その他

平常点(授業・グループ討議への参加状況)20%、課題提出20%、定期試験60%

使用教科書名

高齢者に対する支援と介護保険制度(高齢者福祉論Ⅰで使用したテキスト)／福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神保健活動を通して社会に貢献するために必要な、学生自身の心の健康、成長の糧となる授業を目指す。よって精神保健の基本、各論を学ぶにあたり、できるだけ具体的に精神保健への取り組みをイメージしながら学生が主体的に学習に参加することを大切にする。

学習目標・到達目標

精神保健学は、カウンセリングなど対人援助をめざすための基盤であるが、自らが社会人として成長していくための糧となる知識でもある。人間の心の健康がそなわれる原因を理解し、そこからの回復のためにどのような工夫が必要か、またどのような制度や支援があるのかを理解することを学習目標とする。本科目は精神保健福祉士国家試験に必要な科目であるが、日々の生活の中での、心の傷つきや人格の成長に関心のある人にも役に立つ内容を学習する。

準備学習

精神を病むということとはどのようなことなのか、また、精神障害者を支援する制度にはどのようなものがあるのかを学習するに当たり、自分の弱点、強みを理解し今後の自らの発達課題を意識してほしい。また社会人として今日的な精神保健の個別の課題に興味を持ち、自ら調べ、自分の意見を持って授業に参加すること。

評価方法その他

平常点50% レポート課題20% 定期試験30%

週 テーマ・授業目標等

1. 精神保健の概要・意義と課題
2. ストレスマネジメント
3. ライフサイクルにおける精神保健(胎児期・乳幼児期)
4. ライフサイクルにおける精神保健(学童期・思春期)
5. ライフサイクルにおける精神保健(青年期・成人期)
6. ライフサイクルにおける精神保健(老年期)
7. 精神保健における個別の課題への取組(精神障害者対策)
8. 精神保健における個別の課題への取組(認知症対策)
9. 精神保健における個別の課題への取組(アルコール依存症)
10. 精神保健における個別の課題への取組(薬物乱用防止)
11. 精神保健における個別の課題への取組(思春期の精神保健)
12. 精神保健における個別の課題への取組(自殺予防)
13. 精神保健における個別の課題への取組(ターミナルケア)
14. 精神保健における個別の課題への取組(職場メンタルケア)
15. 災害時における精神保健
16. テスト

使用教科書名

新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援
日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

精神保健活動を通して社会に貢献するために必要な、学生自身の心の健康、成長の糧となる授業を目指す。よって精神保健の基本、各論を学ぶにあたり、できるだけ具体的に精神保健への取り組みをイメージしながら学生が主体的に学習に参加することを大切にする。

学習目標・到達目標

精神保健学は、カウンセリングなど対人援助をめざすための基盤であるが、自らが社会人として成長していくための糧となる知識でもある。人間の心の健康がそなわれる原因を理解し、そこからの回復のためにどのような工夫が必要か、またどのような制度や支援があるのかを理解することを学習目標とする。本科目は精神保健福祉士国家試験に必要な科目であるが、日々の生活の中での、心の傷つきや人格の成長に関心のある人にも役に立つ内容を学習する。

準備学習

精神を病むということとはどのようなことなのか、また、精神障害者を支援するとはどういうことなのかを学習するに当たり、自分の弱点、強みを理解し今後の自らの発達課題を意識してほしい。また社会人として今日的な精神保健の個別の課題に興味を持ち、自ら調べ、自分の意見を持って授業に参加すること。

評価方法その他

平常点50% レポート課題20% 定期試験30%

週 テーマ・授業目標等

1. 精神保健活動を進めるにあたって
2. 家庭における精神保健
3. 学校における精神保健
4. 職場における精神保健その1
5. 職場における精神保健その2
6. 震災関連(メンタルケアにおける人と人とのつながり)
7. 地域精神保健施策の概要
8. 関連法規
9. 関連施策
10. 諸外国における精神保健対策の現状
11. 世界的に見た精神保健の流れ
12. 今日における重要な精神保健課題(自殺対策)
13. 今日における重要な精神保健課題(高齢化社会、末期医療)
14. なぜこんなに心の健康が保ちにくくなったのか
15. 人を支えるということ
16. テスト

使用教科書名

新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援
日本精神保健福祉士養成校協会編集 中央法規出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日常生活や将来の子育て、保育・教育(子育て支援)などに役立つ精神医学を学ぶ。

授業では、乳幼児期、児童期、思春期それぞれの発達や子育てのポイント、それらの時期の代表的な精神疾患やその対応、神経症などについて具体的な症例を用いながら説明する。

学習目標・到達目標

子育てや保育、教育に役立つ精神医学の知識を身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. 乳幼児期について①
2. 児童期について①
3. 児童期について②
4. 思春期について①
5. 思春期について②
6. 思春期について③
7. 思春期について④
8. 神経症および心理テストについて
9. 不安神経症、パニック障害について
10. 恐怖症、強迫神経症について
11. ヒステリー神経症について①
12. ヒステリー神経症について②
13. 摂食障害について①
14. 摂食障害について②
15. 虐待について
16. 定期試験

準備学習

具体的な症例を用いながら、実際に、人生や子育てに役立つような精神医学を学んでもらいたいと思います。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(40%)。なお平常点は、授業態度や授業時に配る感想・質問紙より採点する。

使用教科書名

必要な資料は授業時に配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

将来、精神科関連の仕事に就く学生に役立つ、より専門性の高い精神医学について学ぶ。

授業では、発達障害、統合失調症、うつ病、パーソナリティ障害、認知症などについて、具体的な症例を用いながら説明する。

学習目標・到達目標

専門性の高い精神医学についての正しい知識を十分に身につける。

週 テーマ・授業目標等

1. 発達障害について①
2. 統合失調症について①
3. 統合失調症について②
4. 統合失調症について③
5. 精神医学の歴史について
6. うつ病(気分障害)について①
7. うつ病(気分障害)について②
8. うつ病(気分障害)について③
9. アルコール依存症、薬物依存症について
10. パーソナリティ障害について①
11. パーソナリティ障害について②
12. パーソナリティ障害について③
13. がん患者さんなど終末期の患者さんの悩みについて
14. 認知症について
15. てんかんについて
16. 定期試験

準備学習

具体的な症例を豊富に用いながら、将来の仕事に役立つ精神医学を学んでもらいたいと思います。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(40%)。なお平常点は、授業態度や授業時に配る感想・質問紙より採点する。

使用教科書名

必要な資料は授業時に配布

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。

週 テーマ・授業目標等

9月上旬に本学山の家(蓼科)を中心に4泊5日で実施する。

- ・自然環境に対する考え方
- ・自然体験活動のとらえ方
- ・自然体験かつ指導者とは
- ・自然の中での危機管理と救急法
- ・子どもと自然体験活動
- ・生きる力、感動体験
- ・自然の中で生活する知恵と技術

学習目標・到達目標

小学校で実施される長期自然体験活動プログラムに、積極的に参加できる能力をもった人材の育成を目的とする。実践体験を積んだ的確な判断ができる指導者の育成を目指す。

準備学習

自身が野外活動(主に夏のキャンプ)の楽しさを体験することによって、子どもにその楽しさを与えられることができるようになって欲しい。

評価方法その他

実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50%、実習参加50%

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボードでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを体験していく。

週 テーマ・授業目標等

本学の蓼科高原にある山の家を使用して3泊4日の集中授業を実施する。雪上での伝承遊びやゲーム、スキー、スノーボード、雪上でのテント泊、キャンプファイヤーや飯ごう炊飯を学ぶ。また寒さに対する防寒方法、危機管理やクライシスマネジメントについても学習する。

学習目標・到達目標

2015年度から全国の小学校で実施される長期自然体験活動。活動のメインとなるプログラムを積極的に企画・実施でき、またその評価ができるようになることを目的とする。様々な場面で多くの子ども達に楽しみや喜びを与えられ、さらに危機管理能力をも備えた人材の育成を目指す。

準備学習

キャンプは夏だけでなく、十分な計画と準備があれば冬季の活動も可能であることを学んでほしい。実際に経験しながら子どもに指導する時の注意点や重要な事を学んでいって欲しい。

評価方法その他

実習への参加をもって評価の対象とする。オリエンテーション50%、実習参加50%

使用教科書名

特に指定しない。

資 格 科 目

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教師とはどのような仕事をする職業なのかを論じます。その職務、身分、研修など。現代の教師にとって最も重要な仕事の一つは、子どもをどうとらえるか、です。つまり、教師の子ども観です。これは、みなさん自身の問題に直接つながる問題でもあります。また、教師以外の職業選択についても考えます。

学習目標・到達目標

テキストをちきつと読みこなし、要約することができること。
子どもを理解するとは、どのようなことなのか、理解できること。この課題が、じつは、大変に困難な課題であることが分かること、である。
子どもを理解するとは、自分自身を考えることであり、自分の問題を通して、教師論の課題が理解されなければならない。
教師の仕事は、どのように教材を教えるかだけではなく、さまざまな仕事を持っており、学級経営や同僚との関係維持、保護者との話し合い、さらに、地域の人びととの関係など、があることを理解することである。

準備学習

教師論は、自分の被教育体験をいかに考えるか、が重要になってくる。つまり、皆さん方が、どのような学校体験を積んできたのか、その経験を振り返ることである。しかも、批判的に、である。批判的に、とはどのようなことなのか、そのこと自体も、じっくり考えていただきたい。現在の教師の課題は、目の前にいる子どもたちが、どのような生き方をしているのか、何に悩んでいるのか、どんなことに苦しんでいるのか、そのことに深い関心を持つことができるか、にある。子どもを大切にできる教師のことである。当たり前のようで、この問題が実は、なかなか困難な課題であるのだ。そのことは、皆さん自身が、ちょっとでも、自分の生徒であった頃を思い返せば、すぐに、思い当たることではないだろうか。

評価方法その他

レポート・まとめ 70% 平常点 30%

週 テーマ・授業目標等

1. 教師をめざす人たちへ
2. 現代における子ども・青年
3. いじめ自殺問題
4. 学力と競争
5. 暴力と子ども
6. 消費社会と子ども
7. 登校拒否
8. 思春期・青年期とは何か
9. 現代の教師とは
10. 身分と職務
11. 教師の養成と研修
12. 父母と地域との共同
13. 教育にたずさわる人びと
14. 社会教育施設、福祉施設の職員
15. NPO関連の人びと

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

教師とはどのような仕事をする職業なのかを論じます。その職務、身分、研修など。現代の教師にとって最も重要な仕事の一つは、子どもをどうとらえるか、です。つまり、教師の子ども観です。これは、みなさん自身の問題に直接つながる問題でもあります。また、教師以外の職業選択についても考えます。

学習目標・到達目標

子どもを理解するとは、どのようなことなのか。この課題が、じつは、大変に困難な課題であることが分かること、である。子どもを理解するとは、自分自身を考えることであり、自分の問題を通して、教師論の課題が理解されなければならない。教師の仕事は、どのように教材を教えるかだけではなく、さまざまな仕事を持っており、学級経営や同僚との関係維持、保護者や地域の人々との話し合い、があることを理解すること。

準備学習

教師論は、自分の被教育体験をいかに考えるか、が重要になってくる。つまり、皆さん方が、どのような学校体験を積んできたのか、その経験を振り返ることである。しかも、批判的に、である。批判的に、とはどのようなことなのか、そのこと自体も、じっくり考えていただきたい。

評価方法その他

平常点20%、試験80%、など総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 教師をめざす人たちへ
2. 現代における子ども・青年
3. いじめ自殺問題
4. 学力と競争
5. 暴力と子ども
6. 消費社会と子ども
7. 登校拒否
8. 思春期・青年期とは何か
9. 現代の教師とは
10. 身分と職務
11. 教師の養成と研修
12. 父母と地域との共同
13. 教育にたずさわる人びと
14. 社会教育施設、福祉施設の職員
15. NPO関連の人びと
16. 試験

使用教科書名

特に指定はしない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育とは何か、学校とは何か、教師とは何か、教育評価はどうかあるべきか、など、教育の基本原理を論じる。現代日本の教育現実を批判的に見つめ、どのような改革が必要か、自分の頭で考えることが重要である。

学習目標・到達目標

テキストを厳密に読み、理解することができるようにすること。教育の基本原理（教育、学校、教育評価、教育課程、授業づくり、生活指導、教育行政、教師、子どもの権利など）について、簡潔に、説明できるようになること。実際の教育現場の具体的問題を教育の理論問題にして考える能力をつけてもらいたい。つまり、教育問題の理論的解決という姿勢の形成、である。

準備学習

教育学は、実際にある、教育の現場の困難を解決するためにあるものだ。教育の困難とはどのようなものか、そのことをまずはイメージしてほしい。基礎知識を暗記して安心する、ということではない。現場の教育問題の困難を解決するために学ぶのだ、ということである。

評価方法その他

平常点20%、試験80%、など総合評価。教科書の要点や講義の話しなど、きとっと自分のノートにまとめておくことが肝心である。自宅に帰ったら、かならず、家庭学習ノート(KGノート)を再度、つくること。KGノートを作成しなければ、おそらく、単位修得は難しいだろう。

週 テーマ・授業目標等

1. 教育学を学ぶ、主体的契機とは
2. 教育とは何か—人間と教育の関係
3. 教育とは何か—発達と教育の関係
4. 文明と学校の誕生
5. 近代学校の成立、
6. 日本の近代化と学校教育
7. 戦後社会と学校教育の展開
8. 教育課程
9. 教育評価と子ども
10. 生活指導
11. 体罰とは何か
12. 学習とは何か
13. 教育行政の課題—教育を受ける権利
14. 教育行政の課題—教師の自由
15. 教育行政の課題—地域に開かれた学校
16. 試験

使用教科書名

田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学校・家庭・社会でよりよい教育を展開するために必要な、教育心理学の基礎的概念と基本的事項を様々な具体例から習得させ、生涯発達の観点から乳児期から死に至るまでの能力の発達過程と、個々の発達に応じた教育的対応への理解を深めさせる。障がいのある幼児、児童・生徒の心身の発達及び学習の過程も理解させ、実践的な問題解決能力を習得させる。

学習目標・到達目標

学校・家庭・社会でよりよい教育を展開するために必要な、教育心理学の基礎的概念と基本的事項を習得する。生涯発達の観点から乳児期から死に至るまでの能力の発達過程と、個々の発達に応じた教育的対応への理解を深める。障がいのある幼児、児童・生徒の心身の発達及び学習の過程も理解し、実践的な問題解決能力を習得する。

準備学習

日頃から自分を含めた人間を、障がいのあるなしに関わらず「死の瞬間まで発達し続ける存在」という観点で捉え、図書館で関連する多くの本を読んで下さい。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

1. 教育の目的・教育心理学とは
2. 生涯発達の観点と教育
3. 発達段階と個人差
4. 発達と障がい
5. 障がい児の発達と教育
6. 学習理論
7. 学習理論と学習指導
8. 学習の効果とその測定および評価
9. 学習指導の効果とその測定および評価
10. 人格と適応
11. 人格とその測定および評価
12. 個と集団の関わりと社会化
13. 教職の専門性
14. 教職の専門性と学内での連携
15. 教職の専門性と学外との連携
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近代日本における教育制度の展開を論じる。教育制度は、教育政策と教育運動のダイナミックな動きによって、改編されてきた。教育政策の本質と機能、教育運動の果たした役割などを講じる。戦前と戦後、その違いが重要であるので、特に詳しく論じたい。また、今後の教育制度上の課題は何か、具体的に論じたい。

学習目標・到達目標

テキストをきちんと読みこなすことが重要。要約を求める。要約をした上で、自分の感想を、述べるができること。日本の教育制度が、どのような変遷をたどったのか、とくに、教育政策と教育運動（民衆の教育要求）との関連というその事実をふまえて理解できること。そして、未来に向かって、いかなる教育制度上の課題を解決する必要があるのか、具体的にイメージできることが重要である。

準備学習

歴史的な説明が大変をしめる講義になる。教育には歴史があるのだ、という当たり前の事実を、まずは、知ってほしい。近代的な学校はいつからスタートしたのか、なぜ、学校は生まれたのか、民衆は学校をどのように受け入れたのか、等々、である。近代日本には、4つの大きな戦争を経験してきた。実は、教育制度は、この戦争と密接な関連をもっていた。こうした事実、関心を示せる力量を身につけてほしい。

評価方法その他

平常点20%、試験80%、など総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 教育政策と教育運動
2. 明治国家の成立と教育制度の展開
3. 学制頒布
4. 自由民権運動と教育政策
5. 教育勅語
6. 天皇制国家体制と教育制度の改編
7. 教育制度の拡充（女子教育、実業教育、高等教育）
8. 社会主義運動と教育政策
9. 大正期新教育運動
10. 臨時教育会議
11. 新教育運動、芸術教育運動
12. 戦時教育体制と教育運動
13. 戦後教育改革
14. 教育基本法の成立
15. 教育を受ける権利、など
16. 試験

使用教科書名**授業科目概要・教育目的（履修条件）**

「ゆとり教育」という言葉をいろいろなところで一度は耳にした人が多いと思います。この「ゆとり教育」という言葉、今では否定的な意味合いで使われることが多いです。では、なぜ国は「ゆとり教育」を始めたのでしょうか？ここには、日本の教育を考えるうえで非常に、重要な議論が二つ存在しています。ひとつは、「どういう授業のありかたが好ましいのか」という問題。もう一つは、教育内容を規定している学習指導要領が、どういった原理で編成されなければならないのかという問題です。本講義では、この二つの問題を我が国の教育課程の歴史や、その背景となる理論を学ぶことを通じて学んでいきます。

学習目標・到達目標

- ① 教員として教育課程編成に取り掛かるために必要となる知識の習得。
- ② 教育課程の歴史と教育課程編成の理論を把握する。
- ③ 我が国の学習指導要領の変遷を歴史の理解とその動きを原理的に把握する力の習得。
- ④ 学習指導要領の趣旨に基づき、教育課程を編成できるような能力の習得。

準備学習

授業の性格上、出席を重視します。可能な限り、主体的に授業に参加して、1つでも多く刺激を受けてください。大学で教育学を学ぶことは、単に、資格を取得するためのものではなく、自分自身が受けてきた学校教育が、一体、どういったものであったのかを知るという意味も含まれています。その上で自分はどのような教員になりたいか想像して、考えて、授業に参加してください。

評価方法その他

平常点60点、試験40点。平常点は授業への参加状況・討論への参加で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーションーカリキュラムってなに？
- 第2週 我が国の教育課程の歴史①ー明治から敗戦まで
- 第3週 我が国の教育課程の歴史②ー「日の丸・君が代」から見る天皇制・軍国主義教育
- 第4週 我が国の教育課程の歴史③ー映像作品を通して考える
- 第5週 学習指導要領の変遷
- 第6週 教育課程編成の意義と方法
- 第7週 かくれたカリキュラムージェンダーの視点から考える
- 第8週 試験

使用教科書名

なし。随時、プリントを配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育はきわめて社会的な営みであります。さらに教師の実践的指導力が発揮される学校教育は政治的な決定にいつもさらされています。「教育の営みは最後は政治的決定の産物である」とまで言ってしまったドイツの教育学者までいるほどです。学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるべきか？また、「人間」を“ひと”にふさわしく、どう育てたらよいのか？この大変大きく、重たい課題を抱えているのが、今日の教育問題であり、教育課程問題でもあります。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス、教育課程とは何か
2. 教育課程の歴史的展開（戦前の日本の教育）
3. 「教育的関係」の両極性
4. 教育課程（カリキュラム）①－学習指導要領
5. 教育課程（カリキュラム）②－隠れたカリキュラム
6. 教育課程（カリキュラム）③－隠されたカリキュラム
7. まとめテスト

学習目標・到達目標

本講義は教育課程の歴史、教育課程の理論と現行の教育課程について理解し、教育課程開発ができる知識、能力、技能を修得することを目標とします。教育課程、学習指導要領、教材等の関連について説明でき、教育についての種々の考え方およびキーワードを理解していくことです。理解した諸概念を用いて自分流の教育観を見つけ、少しでも前進させ、今後の教育学的な探究や教育実践に資することができることを目標とします。

準備学習

<復習ジャーナル>

復習ジャーナルは講義の翌週に提出します。講義で学んだこと、学習上の疑問やつまづきを日記風にまとめたものです。講義内容を要約しながら、はじめて知ったこと、意外だったこと、見方が変わったこと、なるほどと思ったことなどを理由も含めて自由に書いてください。

評価方法その他

平常点（出席と復習ジャーナル、40%）と期末試験（60%）により評価する。

使用教科書名

使用しない。プリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科は、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させ、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる教科である。教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、特に衣食住に関する消費者教育を軸に、家庭科教師としての実践力を養う。

週 テーマ・授業目標等

1. 家庭科とは
2. 学習指導要領、家庭科の歴史とジェンダー、グループ分け
3. 学習指導案の書き方
4. 家族・家庭経済・消費者領域の学習内容と課題
5. 衣・住領域の学習内容と課題
6. 食領域の学習内容と課題
7. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(1)家族・家庭経済・消費者
8. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(2)衣・食・住領域
9. 家庭科教員の役割、授業計画(家庭科教員経験者による)
10. 家庭科教育の事例(家庭科教員経験者による)
11. 学習指導案グループ研究発表(1)家族、子ども、高齢者
12. 学習指導案グループ研究発表(2)食生活、衣生活、住生活
13. 学習指導案グループ研究発表(3)消費行動、家庭経済
14. 家庭科教育の現場について(教育現場の教員による)
15. 教育実習報告会
16. 学期末試験

学習目標・到達目標

家庭科の教員においては、生徒が主体的に生活を見直し改善するよう指導するための能力が求められている。家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通して開発する。

準備学習

教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

評価方法その他

平常点（ビデオ教材分析・教育実習報告会への参画等）：40点
授業記録（アースノートへの授業記録・自宅学習記録）：20点
学期末試験：40点

使用教科書名

- (1)学習指導要領解説（高等学校 家庭）／文部科学省
- (2)学習指導要領解説（中学校 技術・家庭）／文部科学省
- (3)高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来／実教出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科は、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる教科である。教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、特に衣食住に関する消費者教育を軸に、家庭科教師としての実践力を養う。

学習目標・到達目標

家庭科の教員においては、生徒が主体的に生活を見直し改善するよう指導するための能力が求められている。家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通して開発する。

準備学習

教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

評価方法その他

平常点(ビデオ教材分析・教育実習報告会への参画等):40点
授業記録(アースノートへの授業記録・自宅学習記録):20点
学期末試験:40点

週 テーマ・授業目標等

1. 家庭科とは
2. 学習指導要領、家庭科の歴史とジェンダー、グループ分け
3. 学習指導案の書き方
4. 家族・家庭経済・消費者領域の学習内容と課題
5. 衣・住領域の学習内容と課題
6. 食領域の学習内容と課題
7. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(1)家族・家庭経済・消費者
8. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(2)衣・食・住領域
9. 家庭科教員の役割、授業計画(家庭科教員経験者による)
10. 家庭科教育の事例(家庭科教員経験者による)
11. 学習指導案グループ研究発表(1)家族、子ども、高齢者
12. 学習指導案グループ研究発表(2)食生活、衣生活、住生活
13. 学習指導案グループ研究発表(3)消費行動、家庭経済
14. 家庭科教育の現場について(教育現場の教員による)
15. 教育実習報告会
16. 学期末試験

使用教科書名

- (1)学習指導要領解説(高等学校 家庭)／文部科学省
- (2)学習指導要領解説(中学校 技術・家庭)／文部科学省
- (3)高等学校 家庭総合 パートナースHIPでつくる未来／実教出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科全般にわたる広い視野から、また消費者教育を軸として、学習指導案および教材研究を行う。全員が模擬授業を行い、評価し合う。

学習目標・到達目標

家庭科教育法Aとの継続をはかりながら、家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通じて開発する。

準備学習

教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。グループ単位で活動(討議、授業進行担当など)する場面が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

評価方法その他

平常点(学習指導案・授業用教材など):40点
授業記録(アースノートへの授業記録・自宅学習記録):20点
学期末試験:40点

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方、学習指導案の確認
2. 指導教材の作成
3. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(1)消費者教育
4. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(2)食生活
5. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(1)家族
6. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(2)子ども・高齢者
7. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(3)食生活
8. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(4)衣生活
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(5)住生活
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(6)消費行動
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(7)家庭経済
12. 学習指導案・教材作成および模擬授業の振り返り
13. 家庭科教員への道(在学生などからの報告)
14. 模擬授業ビデオ撮影
15. まとめ
16. 学期末試験

使用教科書名

- 「家庭科教育法A」と同一
- (1)学習指導要領解説(高等学校 家庭)／文部科学省
 - (2)学習指導要領解説(中学校 技術・家庭)／文部科学省
 - (3)高等学校 家庭総合 パートナースHIPでつくる未来／実教出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科全般にわたる広い視野から、また消費者教育を軸として、学習指導案および教材研究を行う。全員が模擬授業を行い、評価し合う。

学習目標・到達目標

家庭科教育法Aとの継続をはかりながら、家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通じて開発する。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方、学習指導案の確認
2. 指導教材の作成
3. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(1)消費者教育
4. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(2)食生活
5. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(1)家族
6. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(2)子ども・高齢者
7. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(3)食生活
8. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(4)衣生活
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(5)住生活
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(6)消費行動
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(7)家庭経済
12. 学習指導案・教材作成および模擬授業の振り返り
13. 家庭科教員への道(在学生などからの報告)
14. 模擬授業ビデオ撮影
15. まとめ
16. 学期末試験

準備学習

教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。グループ単位で活動(討議、授業進行担当など)する場面が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

評価方法その他

平常点(学習指導案・授業用教材など):40点
 授業記録(アースノートへの授業記録・自宅学習記録):20点
 学期末試験:40点

使用教科書名

「家庭科教育法A」と同一
 (1)学習指導要領解説(高等学校 家庭)／文部科学省
 (2)学習指導要領解説(中学校 技術・家庭)／文部科学省
 (3)高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来／実教出版

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科教育法A・Bに続き、教材研究、指導計画と学習指導案の作成、模擬授業を中心に家庭科教師としての実践力を養う。特に、家族、保育、福祉、住居分野を中心に学ぶ。

●履修条件 家庭科教育法A、Bを履修していること。

学習目標・到達目標

家庭科の目標と学習内容を理解し、指導に必要な知識・技術を認識し、社会的背景をとらえ指導計画・学習指導案を作成する。模擬授業を通して授業の理解を深め指導力を育成する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション 家庭科の目標
- 第2週 家庭科の学習指導要領と目標・内容
- 第3週 家族分野のポイントと学習指導案の作成
- 第4週 保育・福祉分野のポイントと学習指導案の作成
- 第5週 住居分野のポイントと学習指導案の作成
- 第6週 家庭科における教材の開発
- 第7週 家庭科における授業方法
- 第8週 授業計画と学習指導案
- 第9週 模擬授業(1) 評価及び討議
- 第10週 模擬授業(2) 評価及び討議
- 第11週 模擬授業(3) 評価及び討議
- 第12週 模擬授業(4) 評価及び討議
- 第13週 模擬授業(5) 評価及び討議
- 第14週 教育実習報告
- 第15週 まとめ
- 第16週 レポート及びポートフォリオの提出

準備学習**●準備**

- 1 レポートを作成すること。1週目に発表する。
 題「家庭科の面白み」(授業力UP 家庭科の授業 第2版 第1章P7~18参考) (B5 1枚)
- 2 模擬授業の単元名・題材名を提出する。(問題・課題を明確にする)

評価方法その他

平常点(授業への参加状況及び討論への参加等総合的に判断する)20%、
 レポート(指導計画・学習指導案・模擬授業案及び模擬授業評価)、
 模擬授業(発表・討議・提案)50%、
 提出物(改訂指導計画、改訂学習指導案及びポートフォリオ)

使用教科書名

家庭総合 パートナーシップでつくる未来(実教出版)
 高等学校学習指導要領解説 家庭編
 授業力UP 家庭科の授業 第2版 鶴田敦子・伊藤葉子編著 日本標準

授業科目概要・教育目的（履修条件）

中学校技術・家庭科の「家庭分野」の目標及び内容、高等学校家庭科の目標及び内容について、各項目ごとに具体的な知識と内容について確認し把握をする。
家庭科の授業づくりについて、①各項目の目標と内容確認・指導計画、②教材研究、③授業の形態、④学習指導案の作成、⑤模擬授業・省察・改善を行い、家庭科教師としての実践力を養う。

学習目標・到達目標

家庭科は、家族と家庭と社会のつながり、衣食住、情報、産業について基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して生活課題を解決し、より良い生活を工夫創造していく科目である。中学校と高等学校の家庭科の目標及び内容について各項目ごとに確認をし、生徒の発達段階に合わせて生徒自身が主体的に取り組める教材を研究し、学習指導案作成と模擬授業を実施することにより、家庭科教員としての授業実践力を養う。

準備学習

家庭科の全項目につき、2時間の学習指導案を作成します。
生活をよりよく改善していく視点で、日々の生活を見直し、各種ニュース、新聞や本などの情報をプリントアウトして内容ごとに収集しておくようにしてください。
大学の授業の教科書や資料、ノートも見直して整理しておきましょう。

評価方法その他

各時間、講義・演習に関しての小レポート、学習指導案、模擬授業などの課題を提示、次の授業時に提出。…80%
模擬授業の発表と質疑応答。…20%

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.家庭科教育の目標と内容
- 3.様々な授業形態と指導のポイント
- 4.家族、子どもや高齢者とのかかわりのポイントと学習指導案の作成
- 5.生活における経済の計画と消費のポイントと学習指導案の作成
- 6.食生活のポイントと学習指導案の作成
- 7.衣生活のポイントと学習指導案の作成
- 8.住生活のポイントと学習指導案の作成
- 9.生活設計のポイントと学習指導案の作成
- 10.模擬授業 家庭・家族
- 11.模擬授業 子ども・高齢者
- 12.模擬授業 食生活
- 13.模擬授業 衣生活
- 14.模擬授業 生活経済 住生活
- 15.模擬授業の省察・改善
- 16.総括

使用教科書名

中学校 技術・家庭科学習指導要領解説
高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編
家庭総合 パートナースhipでつくる未来(実教出版)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科の目標と学習内容および単元計画・学習指導案作成と模擬授業の基本については家庭科教育法A、B、Cにおいて学ぶ。本授業はこれらを総合する形で、授業力を高めることを目標として家庭科教育の指導法や教材開発について具体的に学ぶ。単元計画・学習指導案作成、模擬授業の省察・改善を通して実践力を養う。特に、中学校の学習指導案作成や授業作りの留意点については本授業で学ぶ。

学習目標・到達目標

中学校・高等学校の家庭科教師として必要な指導力や態度を身につける。

準備学習

A4用紙に①②を記入し初回授業に提出して下さい。
①家庭科教育法ABC別に実施した模擬授業の「題材名」とそれぞれの成果と課題をまとめる。
②Dの題材名(第3希望まで具体的に記入)と校種(中・高)実施時期(いつでもよい、11月、12月) 注)希望題材はABCと重ならない事、又、ABCが同じ単元だった人は別単元にする。 希望題材の教材研究を進めておく。

評価方法その他

単元計画・学習指導案、模擬授業、省察・改善、ポートフォリオ50%、試験20%、平常点30%(授業への参加状況、授業の課題、教材研究・発表)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 家庭科教育法Dガイダンス
2. 学習指導計画1) 中学校・高等学校の学習指導要領解説、教科書分析
2) 単元計画
3. 家庭科の教科特性と授業展開「教材と学習方法」①
4. 家庭科の教科特性と授業展開「教材と学習方法」②
5. 学習指導計画3) 学習指導案(時案)
6. 学習指導計画4) 学習指導と評価
7. 学習指導計画5) 教材作成
8. 模擬授業と省察・改善
9. 模擬授業と省察・改善
10. 模擬授業の省察・改善
11. 模擬授業の省察・改善
12. 模擬授業の省察・改善
13. 家庭科の教科特性と授業展開「教材と学習方法」③
14. 家庭科の教科特性と授業展開「教材と学習方法」④
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

- ①高等学校教科書 家庭総合(パートナーシップでつくる未来)
 - ②中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)
 - ③高等学校学習指導要領解説(家庭編)
 - ④中学校教科書 中学校技術・家庭 家庭分野(開隆堂)
- 上記①～③は家庭科教育法ABCと同じ

授業科目概要・教育目的（履修条件）

家庭科教育ABCにおいて学習した中学校技術・家庭科「家庭分野」の目標及び内容、高等学校家庭科の目標及び内容を確認しながら、生徒が主体的に学ぶ家庭科の授業づくりについて具体的に学ぶ。特に、家庭科の特色ある指導方法や教材研究の工夫に重点を置き、学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善を通して家庭科の授業の実践力を養う。

学習目標・到達目標

家庭科において、自己と家庭、地域、社会とのつながりを重視し、生徒が主体的に、より良い生活を送るための能力と実践的態度を身につけられるように、体験と課題解決を重視した授業を構成することを目標とする。中学校技術・家庭科家庭分野の目標・内容及び高等学校家庭科の目標・内容に即し、適切な題材や指導方法を検討して学習指導案を作成する。グループで協議し、模擬授業を行い、省察と改善を通して、家庭科の授業実践力を高める。

準備学習

家庭科の全項目につき、2時間の学習指導案を作成します。
生活をよりよく改善していく視点で、日々の生活を見直し、各種ニュース、新聞や本などの情報をプリントアウトして内容ごとに収集しておくようにしてください。
大学の授業の教科書や資料、ノートも見直して整理しておきましょう。

評価方法その他

各回の講義と演習に関しての小レポートの合計点・・・30%
各項目ごとの学習指導案、模擬授業、省察・改善・・・70%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 家庭科で行う特色ある学習指導 様々な授業形態
3. 指導計画と学習指導案、評価の工夫
4. 学習指導案の検討 家族と家庭、子どもと高齢者及び福祉
5. 学習指導案の検討 衣食住
6. 模擬授業 1.家族・子ども・高齢者
7. 模擬授業 2.生活経済・住生活
8. 模擬授業 3.食生活
9. 模擬授業 4.衣生活
10. 学習指導案の検討・改善
11. 模擬授業 省察・改善 1. 家族・子ども・高齢者
12. 模擬授業 省察・改善 2. 家庭経済・住生活
13. 模擬授業 省察・改善 3. 食生活
14. 模擬授業 省察・改善 4. 衣生活
15. 指導計画、学習指導案のまとめ
16. 総括

使用教科書名

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、
高等学校学習指導要領解説 家庭編
教育実習校で用いている教科書(家庭科教育法ABCで用いた教科書)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高等学校における福祉科の学科において教授するために必要な基本的な教育方法と教授法を学ぶための科目として位置づけられている。福祉科教育法Aでは、福祉科の教育目標、及び内容、指導計画の立て方、学習指導案の作成、教材研究について学修する。

学習目標・到達目標

福祉科で展開する授業の教育目標、学習指導案の作成ができるようになる。

準備学習

福祉科教育法Aでは学習指導案の作成を到達目標として取り組む。従って、欠席のないように受講してほしい。

評価方法その他

筆記試験50% レポート30%
平常点(20%)授業への参加状況等、総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 福祉科教育の意義 教科「福祉」の創設とその意義
2. 教科の位置づけと「福祉に関する学科」設置
3. 福祉の概念、理念と教科「福祉の構造」
4. 福祉科の学習指導・学習指導要領の解説
5. 学習指導と能力育成
6. 学習指導の形態
7. 福祉科の教育課程、教育課程の編成
8. 福祉科の構成
9. 福祉科の教育課程
10. 福祉科の教材研究と評価学習教材の研究
11. 学習資料の活用
12. 学習指導と評価
13. 福祉科授業の方法
14. 社会福祉の理解
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

福祉科教育法
硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠編著
ミネルヴァ書房
2004年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

福祉科教育法Bでは、学習指導の方法、評価の方法、福祉教育の動向を踏まえた今後の方向性と展望、課題について事例をもとに検討していく。また、教育実習において実践した成果について結果を考察し、将来、福祉科の教員として教育現場での実践に有用な基礎を構築していく。

学習目標・到達目標

模擬授業を通して、学習指導案をもとに授業の展開ができるようになり、結果について考察、再検討ができるようになる。

準備学習

教育実習にそなえて模擬授業を展開することになるため、計画的な授業参加を望む。

評価方法その他

プレゼンテーション・授業実践50%で判定する。
レポート30%
平常点(10%)授業への参加状況など総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 福祉科教育法の実際 教育計画の作成法
2. ノーマライゼーションと共生の教育法
3. 高齢者に関する教育法
4. 児童、家族に関する教育法
5. 生存権と生活保護に関する教育法
6. バリアフリーに関する教育法
7. ボランティア活動、フォーマルインフォーマル資源に関する教育法
8. 障害者、高齢者の介護に関する教育法
9. 相談面接の教育法
10. 教材研究と指導案作成の実際 その1
11. 教材研究と指導案作成の実際その2
12. 模擬授業1
13. 模擬授業2
14. 模擬授業3
15. 評価と考察
16. 試験

使用教科書名

福祉科教育法
硯川眞旬・佐藤豊道・柿本誠編著
ミネルヴァ書房
2004年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子ども・青年のなかにある発達しつつある人間的な知性と徳性とは何か、を考える。そのために、日本の近代以降の道徳教育の理念や実態、その問題点を明らかにする。そして、今日の子ども・青年の道徳性をめぐる生活や意識の実態についても論じる。

学習目標・到達目標

道徳教育の歴史をまずは論じたいので、道徳教育が近代日本の教育の中で、きわめて重要な位置づけをもっていたことを理解すること。
知識と道徳性の発達という、この両者の関係を考えられるようになってほしい。知識の形成がどのように道徳性を発達させるのかという、基本課題への自覚である。

準備学習

学力を形成してほしい、という願いと、道徳(規範意識)を身につけてほしい、という願いは、教育問題における国民の二大関心事。道徳がなぜここまで、関心があるのか、自分自身の問題に立ち返って、ぜひ、考えてほしい。これを別の表現でいえば、なぜ、学力を形成していけばいくほど、人間性が損なわれるのか、という謎を、考えてほしい。

評価方法その他

平常点20%、レポート、試験80%、など総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 道徳教育とは何か
2. 人間形成と道徳
3. 道徳性の発達
4. 今日の子ども・青年の道徳性(規範意識など)
5. 戦前日本の道徳教育
6. 教育勅語
7. 修身教科書
8. 植民地教科書
9. 戦後の道徳教育
10. 教育基本法と道徳教育
11. 国家と道徳の関係
12. 道徳教育の実際
13. 学習指導要領の変遷
14. 指導案の作成
15. 生徒指導と道徳教育
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

- ・ 道徳に関するさまざまな思想や実践を批判的に学ぶことを通して、「道徳とはなにか」・「道徳教育とはなにか」を対話形式で考える。
- ・ 中・高の教員免許を取る学生以外でも、道徳教育について一緒に考えたい学生は履修可。

学習目標・到達目標

- ・ 自分なりの道徳教育を考える力を養う。
- ・ 各自が望ましいと考える道徳の授業を行うための基礎的知識や技法を得る。

準備学習

初回までに自分が受けた道徳の時間がどんな授業で、具体的に何をしたかを思い出しておくこと。

評価方法その他

- ・ 小テスト(30%)
- ・ 学習指導案(30%)
- ・ レポート(指導案を作成した理由について)(10%)
- ・ 平常点(30%)
- * 平常点は積極的な意見交換およびリアクションペーパーで総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 道徳とはなにか（生命倫理:前編）
3. 道徳とはなにか（生命倫理:後編）
4. 道徳教育とはなにか（デュルケムの道徳教育論）
5. 道徳教育とはなにか（教育勅語と教育基本法）
6. 道徳教育とはなにか（グローバル化と愛国心）
7. 道徳教育とはなにか（現在の道徳教育の位置付け）
8. 道徳教育とはなにか（発達段階にあわせた教育のあり方）
9. 学習指導要領と学習指導案
10. モラルジレンマを活用した道徳の授業
11. 学習指導案の作成
12. 学習指導案の検討(1. グループ①②)
13. 学習指導案の検討(2. グループ③④)
14. 学習指導案の検討(3. グループ⑤⑥)
15. 講義のまとめ

使用教科書名

特に指定しない
参考文献は授業中に紹介する

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学校で、家庭で、地域で、子どもたちは、仲間との“かかわり”方に非常にエネルギーを費やしてしまっている。その要因は？また、そのための対策は？今日の課題は、余りにも多い。本講では、「特別活動の果たすべき役割と課題」「戦後教育史からみた特別活動が意義とその歴史」等を中心として、実践的課題に即して学び合う。履修条件:教員免許資格に必要

学習目標・到達目標

中学校、高等学校で行われている特別活動の、具体的な目標や内容等についての理解を深め、指導案づくりを経験しながら実践的な指導力を身に付けていくことができる。

準備学習

自分が受けてきた特別活動の授業や活動等について振り返り、進路や生き方についてどのような影響があったかについてまとめておくことが必要である。また、教科等と特別活動の違いについて自分なりにまとめておくことが望まれる。

評価方法その他

学習指導案・まとめ 70% 平常点 30%

週 テーマ・授業目標等

第1週 オリエンテーション第2週 特別活動の歴史的変遷と実践的課題第3週 特別活動で育てたい「力」(1)仲間を理解し、仲間と関わりあえる力第4週 特別活動で育てたい「力」(2)自治的能力の形成第5週 特別活動で育てたい「力」(3)学級・学年・学校「文化」を育む力第6週 集団をどうつくり、育てるか ― その1・集団とは？第7週 集団をどうつくり、育てるか ― その2・リーダーをどう育てるか第8週 集団をどうつくり、育てるか ― その3・「知」と「智」を結合させて学び合う第9週 学級活動と内容と指導 ― 学級づくりとつなげて第10週 「児童会」「生徒会」活動の内容と指導 ― 学校づくりとつなげて第11週 学校行事の内容と指導 ― 学校の主人公にふさわしい行動とは第12週 わたし(学習者)が体験したわたしの特別活動を語る①第13週 わたし(学習者)が体験したわたしの特別活動を語る②第14週 わたし(学習者)が体験したわたしの特別活動を語る③第15週 試験(レポートテーマの提示)

使用教科書名

学習指導要領 指導書 特別活動(中学校、高等学校)

授業科目概要・教育目的（履修条件）

皆さんは、家でペットを飼ったことがありますか？もし、飼ったことがなければ、どうやってペットを育てるか想像してみてください。いろいろなことを、「教える」でしょう。しかし、教育学で学ぶ「教育」とは、ワンちゃんをしつけるのとは違います。この授業で学ぶのは、「人間」の教育です。じゃあ、「人間」ってなんだろうか？「人間」をどうやって「教育」すればよいのだろうか？この授業は、そうした「人間」の教育の方法を、哲学や歴史の中から学んで知っていく授業です。

学習目標・到達目標

教育方法にかかわる基礎的な理論・歴史を学び、授業開発にあたって重要な視点の理解とその応用力の形成を目指します。

- ①様々な教育方法とその歴史的・社会的意味についての理解。
 - ②今日の社会的・文化的な状況のなかで、どんな教育方法・技術が求められているかについての考察。
- を目標とします。

準備学習

授業の性格上、毎回の出席が求められます。きちんと出席ができるように準備してください。教育学は、人間の営みに関する学問です。授業で紹介した文献だけでなく、大学の図書館などを利用して、積極的に、人間の教育について「考える」くせをつけてください。

評価方法その他

平常点60点、試験40点。平常点は授業への参加状況・討論への参加で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

初回時に、おおまかな授業の進め方の説明をしますので、必ず出席してください。

- 第1回 オリエンテーション—教育方法・技術とは？
- 第2回 電子黒板やデジタル教科書の活用法を学ぼう
- 第3回 日本の教育方法の歴史を知ろう①—映像作品から考える戦前の教育
- 第4回 日本の教育方法の歴史を知ろう②—生活綴方的教育方法について
- 第5回 集団学習について考える—「集団的思考」の可能性
- 第6回 「総合的な学習の時間」について考える—経験主義vs系統主義！?
- 第7回 メディア・リテラシー—具体的事例を通して考える
- 第8回 試験

使用教科書名

なし。随時、プリントを配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

実践的指導力の土台の構築をこの授業では最終的な目的としています。実践的指導力とは、教師が教育実践において人格育成を目指し子どもにはたらきかける方法と技術の力量を意味します。この構築には、教育方法の実践活動の背後に働いている理論の理解が不可欠であります。「理論に基づかない実践は、ことの成り行きを見て有利な方につこうとする日和見主義になり、子どもを混迷に落とし込む」からです。「教育方法はその理論に基づいて実践の一貫性を保つことができ、その影響を持続させることができる」(長谷川榮、2頁を参照)のであります。

学習目標・到達目標

本講義では、教育方法の理論を理解したうえで学校現場での実践的な技術を身につけることを目標とします。

準備学習

<復習ジャーナル>
復習ジャーナルは講義の翌週に提出します。講義で学んだこと、学習上の疑問やつまずきを日記風にまとめたものです。日記風ですから形式的に書く必要はありません。

評価方法その他

平常点(出席と復習ジャーナル40%)と期末試験(筆記60%)により評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス
2. 教育方法の技術①——視聴覚教材の活用
3. 教育方法の技術②——電子黒板、デジタル教科書の活用
4. 授業方法とは何か
5. 教材の意味と選択、構成、提示
6. 「学級崩壊」と教師の指導性
7. 授業における発問と子供の問い
8. まとめテスト

使用教科書名

使用しない。プリント資料を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生徒指導の基本的な考え方や指導法をできる限り具体的に論じる。優れた教育実践記録に触れることにより、教職への意欲がいつそうわきたつような授業にしたい。ロール・プレイングや討論等を取り入れ、受講生が積極的に関与し、お互いの考えを深め合うような機会を持ちたい。なお、ほぼ毎時かホームワークが課される。教員免許資格に必要。

学習目標・到達目標

小学校における生徒指導の意義について理解するとともに、具体的な事例に基づいて、実際の指導についてを学び、実践的な指導力を身に付けていくことができる。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 生徒指導の意義
- 3 生徒指導における今日的課題
- 4 生徒指導と教育課程(学習指導要領との関わり)
- 5 生徒指導の内容と方法
- 6 問題行動への対応 1 (いじめ問題)
- 7 問題行動への対応 2 (不登校)
- 8 問題行動への対応 3 (暴力行為、その他)
- 9 問題行動への対応 4 (関係諸機関との連携)
- 10 児童・生徒理解(学校教育の基本)
- 11 進路指導の意義と役割
- 12 キャリア教育の現状と課題
- 13 児童・生徒の発達課題と生徒指導
- 14 問題行動の事例研究
- 15 問題行動の事例研究のまとめと生徒指導のまとめ

準備学習

現代における子どもたちの生徒指導上の課題について、自分のこれまでの体験やマスコミ等で報道されている点等について整理して授業に臨んで欲しい。また、学校教育における生徒指導の役割についても、自分なりの体験を踏まえて整理しておくことが望まれる。

評価方法その他

レポート・まとめ 70% 平常点 30%

使用教科書名

テキストは使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生徒指導の基本的な考え方や指導法をできる限り具体的に論じる。優れた教育実践記録に触れることにより、教職への意欲がいつそうわきたつような授業にしたい。ロール・プレイングや討論等を取り入れ、受講生が積極的に関与し、お互いの考えを深め合うような機会を持ちたい。なお、ほぼ毎時かホームワークが課される。教員免許資格に必要。

学習目標・到達目標

中学校、高等学校における生徒指導の意義について理解するとともに、具体的な事例に基づいて、実際の指導についてを学び、実践的な指導力を身に付けていくことができる。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 生徒指導の意義
- 3 生徒指導の今日的課題
- 4 生徒指導と教育課程(学習指導要領との関わり)
- 5 生徒指導の内容と方法(生徒指導の歴史)
- 6 問題行動への対応 1 (いじめ問題)
- 7 問題行動への対応 2 (不登校)
- 8 問題行動への対応 3 (暴力行為、その他)
- 9 問題行動への対応 4 (関係諸機関との連携)
- 10 児童・生徒理解(学校教育の基本)
- 11 進路指導の意義と役割
- 12 キャリア教育の現状と課題
- 13 児童・生徒の発達課題と生徒指導
- 14 問題行動に関する事例研究
- 15 事例研究のまとめと生徒指導についてのまとめ

準備学習

子どもたちの現在における課題について、自分のこれまでのや報道されていることなどから整理しておく。また、学校教育における生徒指導の役割についてこれまで受けた教育を振り返り自分なりにまとめておくことが必要である。さらに、教員としてどのように子どもたちに対するか教育観、指導観等についてまとめておくことが望まれる。

評価方法その他

レポート・まとめ 70% 平常点 30%

使用教科書名

テキストは使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学校における教育相談とは、生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決のために、生徒のよりよい適応や発達を促し充実した学校生活を送ることを目的として、生徒や保護者と教師を始めとする学校関係者がともに考えるものである。この授業では、教育相談の基礎的な知識と技能、態度の習得を目標とする。様々な具体的事例の検討や現場のカウンセラーや教員とのロールプレイを通して、現実での実践力も習得させる。

学習目標・到達目標

受講する学生は、小学校入学以来「生徒」として自分や身近な人々に関する「教育相談活動」を体験してきている。これらの体験を振り返り、学習の資料として、これから「教員」として教育相談活動を担い、生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決ができるようになることが到達目標である。

学習目標は、教育相談の理論と技法と実践を統合的に学習することである。

準備学習**評価方法その他**

実習等でやむを得ない場合以外は出席が前提(評価は、授業中の態度と併せて50%)。
授業時間内に取り組み提出するレポート(評価は20%)
学期末のレポート(評価は30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.教育相談とは何か
- 2.教育相談活動が必要となる状況(時・場)
- 3.教育相談活動に必要な機能
- 4.教育相談の歴史
- 5.『カウンセリングマインド』について
- 6.カウンセリングの理論と技法①
- 7.カウンセリングの理論と技法②
- 8.子どもの発達と教育相談ー幼児期ー
- 9.子どもの発達と教育相談ー就学期ー
- 10.子どもの発達と教育相談ー学童期①ー
- 11.子どもの発達と教育相談ー学童期②ー
- 12.家庭と学校と地域の連携①
- 13.家庭と学校と地域の連携②
- 14.思春期の教育相談
- 15.学外専門機関との連携

使用教科書名

第1回目の授業の時点でよいと思われるものがあれば指定するが、なければ使わずに授業をする。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

様々な具体例から、生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決に必要な「教育相談の基礎的な知識と技能、態度、および実践力」を習得させ、生徒の適応や発達を促し、充実した学校生活を送れるための支援ができる実践的能力を身につけさせる。

学習目標・到達目標

生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決に必要な「教育相談の基礎的な知識と技能、態度、および実践力」を習得し、生徒の適応や発達を促し、充実した学校生活を送れるための支援ができる実践的能力を身につける。

準備学習

日頃から自分を含めた人間を、障がいのあるなしに関わらず「死の瞬間まで発達し続ける存在」という観点で捉え、図書館で関連する多くの本を読んで下さい。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.教育相談とは何か
- 2.カウンセリングの歴史
- 3.児童期・青年期の発達課題と問題行動
- 4.児童期・青年期の反社会的行動と相談
- 5.児童期・青年期の非社会的行動と相談
- 6.障がいある生徒の理解と支援
- 7.カウンセリングの理論と技法
- 8.カウンセリングの理論と実践
- 9.カウンセリングの理論と実践
- 10.教師だからできることと限界
- 11.地域社会との連携と協力
- 12.学外の機関との連携と協力
- 13.進路の選択と支援
- 14.障がいの理解と家族との連携
- 15.教育相談と環境調整の支援
- 16.定期試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

週 テーマ・授業目標等

1. 事前指導としては、以下のような内容を取りあげる。
授業観察の訓練
2. 模擬授業とその分析
3. 実習日誌の書き方
4. VTRによる実習全般の模擬体験
5. 実習に当たっての諸注意
6. 事後指導としては、以下のような内容を取りあげる。
実習のまとめ
7. 実習報告会（大学教員との懇談）
8. 指導案の検討など、試験

学習目標・到達目標

実習記録簿がきちっとかけるようになること。たとえば、教材の工夫、教材の配置、教師の働きかけ、児童・生徒の動き、結果と評価などについて、書けること。生徒の生活指導、学級運営、放課後の生徒指導、クラブ・部活の指導、学級給食指導、保護者との対応、などなど、さまざまな活動への関心をしっかり示せるような、教師としての基本的な力量の前提が形成されることである。

準備学習

教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってほしい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくり、に、精一杯の努力を傾けている。この講義の欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

評価方法その他

出席および毎時のレポートにより評価する。

使用教科書名

毎回、プリントを用意する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。中学・高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

週 テーマ・授業目標等**学習目標・到達目標**

担当科目（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにしてほしい。また、児童・生徒の不断の様子を観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できよう、子ども理解を深める、というつもりで臨む態度を形成してほしい。

準備学習

教材研究のために、睡眠時間が減ってしまうかも知れない。実習中は、それほど、大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。それに力づけられて、実習生は頑張れるのだと、誰もが言う。皆さんのがんばりを期待している。

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

週 テーマ・授業目標等

学習目標・到達目標

担当教科（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠ることなく、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想像できるよう、綿密な計画をたてられるようにしてほしい。
また、児童・生徒の不断の様子を観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深める、というつもりで臨む態度を形成してほしい。

準備学習

教材研究のために、睡眠時間も極端に減るかも知れない。実習中は、それだけ、大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。それに力づけられて、実習生は頑張れるのだ、と誰もが言う。皆さんのがんばりを期待している。

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項については、栄養士免許取得必須科目で習得済みであり、また、「学校栄養教育実習」など必須授業は履修済みである。したがって、本授業では、包括的な内容を学ぶ。特に、事前指導においては連絡等も行うため、必ず毎時間出席すること。

週 テーマ・授業目標等

- 1 教育実習前のオリエンテーション(事前指導として、以下の内容を行う)
- 2 関連授業と授業観察の方法
- 3 実習日誌の書き方など
- 4 模擬授業の準備
- 5 模擬授業の模擬体験
- 6 教育実習参加にあたっての諸注意
- 7 教育実習後のオリエンテーション(事後指導として、以下の内容を行う)
- 8 実習日誌の書き方・整理
- 9 実習の評価
- 10 実習報告

学習目標・到達目標

学校の組織を理解する。栄養教諭の職務内容をよく理解する。また、実習における教育実習生としての心構えを勉強しておく。教師像をイメージして実習に望める様に準備する。

準備学習

評価方法その他

レポート 80%、平常点10% その他 総合評価

使用教科書名

NO. 6100390

栄養教育実習

辻 雅子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う全般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めるような学びを実施してもらいたい。

週 テーマ・授業目標等

教育実習校と打ち合わせて決める。

学習目標・到達目標

教育実習期間は、5日間という極めて短期間ではあるが、可能な限り、現場の先生方、栄養教諭（管理栄養士・栄養士）、養護教諭の方々が、児童・生徒達にどのように、「食」「栄養」「健康」に関わる教育を展開しているかを参観し、学びを深め、理解することも目標とする。また、指導の時間では、学習の指導案を作成し、実施ができること、また実施に対する適切な評価が出来ることを目標とする。

準備学習

評価方法その他

実習校の評価と「栄養教育実習記録」を加味して評価する。

使用教科書名

NO. 6100400

初等教育実習指導（小学校）

長谷 徹

授業科目概要・教育目的（履修条件）

幼稚園・小学校における教育実習についての事前・事後指導を行う。学校・園との連絡や訪問についての手続き、教育実習に出かける上での心構え、教育実習に留意すること等について講義で理解を進める。また、指導案について、実習日誌の書き方など、実務的な指導も行う。さらに、実習後の措置や実習についての報告等も行い、教員への自覚を深める。

週 テーマ・授業目標等

- 1 教育実習の意味
- 2 教育実習に臨んで（心構え、服務等）
- 3 学校の組織や学校生活の流れ
- 4 指導案の書き方、日誌の書き方
- 5 模擬授業の実施
- 6 指導案の修正と模擬授業
- 7 実習報告会

学習目標・到達目標

教育実習に取り組む前に、実習中に必要な事務的な処理や心構え、授業への取り組み（学習指導案）等についての理解を深め、意欲をもって教育実習に取り組もうとする姿勢をつくる。

準備学習

教育実習の意義について理解し、どのように臨むかについてしっかりと思いをまとめておく。目的、何を中心に実習に取り組んでいくか、行く前には何を学んでおくことが必要かについてまとめてから授業に臨んで欲しい。

評価方法その他

レポート・実習日誌 70% 報告会等の取り組み等 30%

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な職務に携わることを通して、教育職員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高める。小学校教員免許取得に必要。教育実習派遣基準に合致していること。

週 テーマ・授業目標等

- 1 教育実習に臨む心構え
- 2 学校における教育実習の位置づけ等について
- 3 学習指導案の作成について
- 4 学習指導案の作成
- 5 同上
- 6 模擬授業1
- 7 模擬授業2
- 8 まとめ

学習目標・到達目標

実際に小学校に出かける。教員としての自覚をもって実習に取り組むことができる。授業観察、子どもたちとの関わり、実際の授業実践等を通して、教員としての実践的指導力を身に付ける。

準備学習

小学校教員としての資質の向上につながるような取り組みを期待する。そのためには、教育実習の意義をしっかりと理解し、その成果を大きく上げるための積極的な姿勢が望まれる。教育実習における期間中の大学への報告・連絡・相談をていねいに取ることも必要である。

評価方法その他

実習校による評価に『教育実習記録』への記入内容等を考慮し、総合的に評価する。

使用教科書名

特になく、授業中に必要なものを紹介、もしくはプリントする。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前回の観察実習をふりかえり、今回の参加・責任実習についての課題を明確にする。幼稚園教育の基本・目的・方法・内容について、実習計画を立てるなかで学ぶ。模擬授業、ロールプレイ等を通して、幼稚園教諭（保育者）としての役割、関わり方について体験する。実習後は、体験を振り返り、省察し、発表し共有し、将来の進路に役立てる。

週 テーマ・授業目標等

1. 実習の概要、内容についてのオリエンテーション
2. 前回の実習のふりかえりと本実習の課題の成立
3. 日誌の書き方、指導案の作成
4. 模擬授業①
5. 模擬授業②
6. 特別講義—幼稚園教諭を迎えて
7. 実習報告会
8. まとめ

学習目標・到達目標

教育実習に取り組む前に、実習中に必要な事務的な処理や心構え、授業への取り組み（学習指導案）等についての理解を深め、意欲をもって教育実習に取り組もうとする姿勢をつくる。

準備学習

教育実習への取り組みについて、その目的や自分なりの課題等を整理してから授業に臨むことが必用である。主体的に取り組む、教育実習が多大な成果を産むように取り組むことが望まれる。

評価方法その他

実習状況（日誌内容、小学校・幼稚園からの評価等）80%
報告会等への取り組み 20%

使用教科書名

幼稚園教育要領（2009年）

授業科目概要・教育目的（履修条件）

幼稚園教育の実践現場において、幼児の生活と教育とは何かについて学ぶ。
幼稚園実習を通して、参加・観察者として、子どもと触れ合いながら、子どもの発達や遊びの姿、幼稚園教諭のかかわり、園生活における1日の流れなどを実感し、省察、理解を深める。
また、幼稚園教諭の全般的業務を知り、補助する体験を通して、幼稚園における教育活動の実際を理解する。

週 テーマ・授業目標等

実際に実習園で1週間、実習生として、参与観察を行い、幼稚園における教育活動の実際を理解する。

学習目標・到達目標

幼稚園教育実習を通して、子ども理解を勧め、幼稚園における教育活動の実際を理解する。

準備学習

実際に子どもたちが生活する園で学ぶ機会です。実習に出かける前には必ず、学生として恥ずかしくないよう、礼儀、マナーを身につけておいてください。

評価方法その他

幼稚園における実習について、実習を通しての学びや成長、実習園の評価、等を参考にし、総合的に評価する。

使用教科書名

初等教育実習A 実習の手引き

授業科目概要・教育目的（履修条件）

初等教育実習A(観察実習)から得た学びを復習し、自らの実習に対する反省点や指導者から得たアドバイスを振り返る。さらに何を学ぶかという課題意識を明確にし、将来の幼稚園教諭へのステップアップをはかっていくことがめざされる。責任実習、全般的な職務に携わることを通して、教育職員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高める。子ども、教育活動集団の理解を深め、共に育ちあう課程を実践し、幼稚園教諭としての役割、責任を果たすことを学ぶ。

週 テーマ・授業目標等

幼稚園において、3週間の実習を行う。園の指導により全日実習を含む実習を行う。

学習目標・到達目標

将来の幼稚園教諭へのステップアップをはり、責任実習、全般的な職務に携わることを通して、教育職員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高める。子ども、教育活動集団の理解を深め、共に育ちあう課程を実践し、幼稚園教諭としての役割、責任を果たすことを学ぶ。

準備学習

初等教育実習Aなどで得た経験を振り返り、より充実した実習となるように目標や課題を設定し、実習に臨むこと。

評価方法その他

実習校による評価に『教育実習記録』への記入内容等を考慮し、評価する。

使用教科書名

幼稚園教育要領、初等教育実習Bの手引き

授業科目概要・教育目的（履修条件）

大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践知とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教師としての使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童理解・生徒理解や学級経営、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力の理解し、その能力を形成することを具体的に実感できること。それを旨とする。

準備学習

本当に、教師になりたいのかどうか、真剣に考えてほしい。いずれは教師を選ぶ、という態度もあってよい。自分の中の教師への志望の意思を明らかにしてほしい。そのために、教師の仕事の大変さ、しんどさ、を理解してほしい。しかし、同時に、そのやりがいのある仕事を明確に自分のものにしてほしい。子どもとともに成長していける自分の未来を描いてほしい。

評価方法その他

授業参加の姿勢、書く授業ごとの話し合いの姿勢の評価。発表内容の評価。レポート課題の評価など、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1, オリエンテーション
- 2, 教職の意義
- 3, 学校とは何か、学校経営とは何か
- 4, 子ども・生徒理解
- 5, 現代社会と家庭科
- 6, 人間の生活と家庭科
- 6, 家庭科教育、とくに、食と栄養
- 7, 家庭科教育、とくに、食と家庭
- 8, 家庭科教育、とくに、衣と人間
- 9, 家庭科教育、とくに、住と人間
- 10, 家庭科教育、とくに、教師との指導力
- 11, 学校訪問、学校経営と教師
- 12, 学校訪問、保護者と教師
- 13, 学校訪問、家庭科教師の役割
- 14, 家庭科教師と現代社会
- 15, まとめ、レポート

使用教科書名

特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた教諭としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義、演習、発表、ロールプレイ、学校訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教諭として使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教諭（管理職を含む）との共同協力を進める関係能力、給食調理師との連携、児童生徒の理解や学級経営力、教科内容、とくに栄養及び食関連教科の指導力、表現力やコミュニケーション能力、などをきちんと理解すること。そして、その能力を具体的に実践できることを旨とする。

準備学習

現代社会の中の子どもの食をめぐる問題を考え、学校や教師の役割について考えてほしい。栄養問題は重要であるが、教育現場では、もっと広く、例えば農業の実際の問題など、食をめぐる様々な問題を考えてほしい。その上で、栄養教諭はどんな課題を引き受けなければならないのかを考えてもらいたい。

評価方法その他

各授業の参加姿勢、発表、レポート、等の総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1, オリエンテーション
- 2, 教師の使命・意義
- 3, 学校とは何か、学校経営
- 4, 子ども理解
- 5, 現代日本の食生活の問題
- 5, 食をめぐる学校の役割
- 6, 子どもの食と栄養
- 7, 親の食生活と子どもの食
- 8, 学校給食の課題
- 9, 学校訪問と学校経営の課題
- 10, 学校訪問から、地域の住民と学校の関係
- 11, 学校訪問から、教師の食意識
- 12, 学校訪問から、子どもの食環境について
- 13, 学校訪問から、栄養指導の実際
- 14, 学校訪問から、親の食生活と子どもの実態
- 15, まとめとレポート

使用教科書名

テキストは指定しない。参考文献は、随時、紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

教員免許の取得を目指す学生に対して、教員として、教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力を身に付け、それを向上させることを目標とする。そのためには、教育実習園や小学校との連携が欠かせないものである。教育実習終了後も園や学校と連絡を取りながらボランティアとして教育活動にかかわらせ、具体的な活動の中で能力や資質を身に付けさせる。長谷、吉川、尾崎、山原、新海、田尻が、教員としての資質や能力、指導案の作成、模擬授業、ボランティア活動の報告等授業の推進にかかわる。

学習目標・到達目標

幼稚園・小学校の教員を目指す学生が、教員としての実践的な力と資質を育身に付けることができる。教育実習園や小学校と連携して、具体的な活動を通して、子どもとの関わり方、指導の望ましいあり方等について具体的に身に付けることができるようになること。

準備学習

教員を目指すことについてしっかりとした自覚をもって望んでもらいたい。特に、実際の教育実習においては問題意識を明確にもって取り組んでもらいたい。

評価方法その他

日常の学ぶ態度、レポート、教育実習園や小学校でのボランティア活動の様子、指導案作成から模擬授業等により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

教員の資質の向上に向けて、教育に関する基本的な法律等について学習指導要領を本に分析する。また、実践的な指導力を身に付けるために、教育実習園・小学校にボランティア活動に赴き、子どもたちとかわりながら資質を磨く。さらに、教育実習を振り返り、協議会等の反省を踏まえ望ましい指導案を再作成する。それをもとに模擬授業を行う。

- 1 オリエンテーション
- 2 教育の基本(法律と学校教育 学習指導要領)
- 3 教育実習からの学び(教育実習における成果と課題)
- 4～11 教育実習校でのボランティア活動(学校行事への参加、教育活動の補助等、教育実習校での教育活動)
- 12 教育実習校での活動の整理とまとめ
- 13 学習指導案の再作成
- 14 活動の報告と模擬授業1
- 15 活動の報告と模擬授業2 授業のまとめ

使用教科書名

特になし。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養教諭教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Ⅱ、そして教職実習に向けた基礎の学習として、小・中学校での食に関する指導のあり方や指導方法を学んでいく。

学習目標・到達目標

子どもを取りまく食に関する課題・社会的背景を踏まえ、栄養教諭としての使命、職務内容についての理解を深める。食に関する全体計画の作成方法、学校給食を活用した給食の時間、食に関連する教科等、個別的な対応指導方法について学ぶ。

準備学習

本授業と他の教職科目とをつなげ、学習を深めていくことで、栄養教諭の役割の理解や食に関する指導の実践力が期待できます。

評価方法その他

平常点(40%)、教員が課するレポート、指導案等(60%)
平常点は、授業態度、授業や討論への積極的な参加状況を重視

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・オリエンテーション
- 第2週・・・児童生徒の食に関する諸課題
- 第3週・・・食育に関する法律及び諸制度
- 第4週・・・栄養教諭制度に関する法律及び諸制度
- 第5週・・・栄養教諭の職務内容、使命、役割
- 第6週・・・食に関する指導の全体計画のあり方
- 第7週・・・食に関する全体計画の作成(演習)
- 第8週・・・学校給食の意義役割
- 第9週・・・給食の時間における食に関する指導
- 第10週・・・給食の時間における食に関する指導案作成(演習)
- 第11週・・・食に関する個別的な対応指導
- 第12週・・・教科等における食に関する指導
- 第13週・・・教科等における食に関する指導案作成(演習)
- 第14週・・・教科等における食に関する指導の模擬授業
- 第15週・・・諸外国における学校給食および食に関する指導・まとめ

使用教科書名

小学校学習指導要領、文部科学省、2010
食に関する指導の手引ー第1次改訂版ー(平成22年3月)、文部科学省、2010

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学校栄養教育論Ⅱに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。

学習目標・到達目標

学校栄養教育論Ⅰの実践編として、まず栄養教諭が配置される義務教育の仕組みを理解する。その学校において食育を実践するための指標となる、食に関する指導の全体計画の作成から、栄養教諭が職務として取り組む個別的相談指導、家庭や地域との連携指導についての実践方法や、関連する教科等の具体的な指導の手法を習得する。

準備学習

学校における食育は、次代を担う子ども達の心身共に健全な成長を願い、義務教育に位置づいています。飽食時代に育ち、食の重要性にも気付かぬ児童生徒の、生きる力を育むために不可欠です。義務教育は人づくり、教諭としての資質も重要です。これらを学び実践力を培うために、限られた時間を無駄にせず授業は絶対欠席しないように努力して下さい。

評価方法その他

この科目は実践論なので、課題の提出と実践演習で評価する。主な内容は<課題>食に関する指導の全体計画の作成(10%)。食育の教材となる給食献立1週間分の作成(30%)。個別指導、家庭や地域との連携指導の指導事例等(15%)を提出。また、義務教育1時限の指導案を作成し(30%)、その指導案による授業を演習し(15%)、指導過程を評価する。

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1週 | オリエンテーション・授業の進め方・食に関する指導の立案方法 |
| 第2週 | 食生活に関する歴史 |
| 第3週 | 食事・食物の文化的事項 |
| 第4週 | 児童の発達に応じた教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科) |
| 第5週 | 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法1 |
| 第6週 | 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法2 |
| 第7週 | 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習1(指導案を含む) |
| 第8週 | 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習2(指導案を含む) |
| 第9週 | 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習3(指導案を含む) |
| 第10週 | 教科・教科外の模擬授業及び授業研究 |
| 第11週 | 教科・教科外の模擬授業及び授業研究 |
| 第12週 | 教科・教科外の模擬授業及び授業研究 |
| 第13週 | 教科・教科外の模擬授業及び授業研究 |
| 第14週 | 強化・教科外の模擬授業及び授業研究 |
| 第15週 | まとめ |

使用教科書名

- 1) 栄養教育論, 金田雅代著, 建帛社, 2006
- 2) 小学校学習指導要領, 文部科学省
- 3) 小学校学習指導要領解説 家庭編, 文部科学省
- 4) 食に関する指導の手引, 文部科学省, 2007

授業科目概要・教育目的（履修条件）

わが国の博物館総数は年々増加しており、平成20年10月で5775館となった。博物館という社会教育施設を理解するために、まず博物館と博物館学芸員とのかかわりを明確にして、そのうえで博物館の基本的な性格を学ぶ。さらに今日の博物館が形成された歴史的な過程を概観し、加えて今日の諸問題について理解する。

学習目標・到達目標

かつては学術研究を公開する場として位置づけられることが大きかった博物館であるが、生涯学習社会の到来とともに博物館も変化が求められるようになった。本講義では、こうした変化がはじまった博物館の現状を考察するとともに具体例に即して博物館の定義、博物館の目的と機能、博物館の歴史、博物館関連法規について理解し、次年度から学ぶ各論(博物館資料論、博物館情報論、博物館経営論等)をスムーズに学べるように博物館学の基礎知識を習得する。

準備学習

準備学習だけでなく年間を通じて、さまざまな博物館(美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい)を見学してください。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 博物館概論・学芸員資格ガイダンス:博物館学芸員の職務について理解するとともに、博物館業務との関連性について概説する。
2. 博物館の目的と役割:博物館は社会教育施設としてどのような目的を持っているのか、生涯学習の時代における博物館の役割について考える。
3. 博物館の定義:博物館と見間違え施設が増えてきた中で、博物館の定義について学ぶ。おもに、ICOM、UNESCO、博物館法の定義を対象とする。
4. 博物館の分類と種類:多種多様な特色を持つ博物館をさまざまな分類基準にしたがって整理して、現在の博物館の性格を明らかにする。
5. 博物館の機能(1):博物館が持つ機能(収集・保管整理・調査研究・公開展示)のそれぞれの特徴と学芸員の職務との関連について学ぶ。
6. 博物館の機能(2):同上
7. 博物館と町づくり:博物館が生涯学習の場としてだけでなく、町おこしの活動例として盛んになってきたエコミュージアムを考察する。
8. 博物館の歴史(1)博物館誕生
9. 博物館の歴史(2)ヨーロッパ、アメリカ
10. 博物館の歴史(3)日本、その他
11. 博物館法と関連法規(1)博物館法以前
12. 博物館法と関連法規(2)博物館法他
13. 博物館の現状(1):博物館の各種統計にあらわれている数字からわが国の博物館の動向を把握する。
14. 博物館の現状(2):指定管理者制度、博物館評価、学会、組織など現在の博物館に関する現状と課題について学ぶ。
15. まとめ

使用教科書名

講義の時に資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

博物館において最も重視される業務のひとつに博物館資料の保存作業があげられる。この業務が博物館の中で十分に機能しないと、博物館資料の有効な活用が期待できないばかりか、次世代への確実な受け渡しもできなくなる。講義に当たっては、博物館資料の意味を考えるとところからはじまり、資料の収集、資料の保存整理、資料の町研究、そして資料の活用に至るまでの一連のプロセスを追って博物館資料の取扱いに関する考え方について理解する。

学習目標・到達目標

博物館活動を維持し発展させるために必要とされる基本的な要素が「博物館資料」であるという視点に立って、博物館資料の収集・整理保管・保存・展示・調査研究など博物館学芸員がたずさわるさまざまな専門的分野に関する理論や方法および知識や技術の習得を目的とする。

準備学習

準備学習だけでなく年間を通じて、さまざまな博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を見学してください。

評価方法その他

小テスト（複数回）（80%）、平常点（20%）
（平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. 博物館資料論の目的と意義: 博物館資料とは何か、ということ学ぶために博物館資料の種類と分類、物館資料とするための手続きについて考察する。
2. 博物館資料の性格: 実物資料（一次資料）だけが博物館資料と考えられがちであるが、二次資料とよばれる資料について学ぶ。
3. 博物館資料の収集方法: 博物館の収集の方法を、採集・購入・寄贈・寄託・借用・製作などに視点あてて考察する。
4. 博物館資料の保存: 博物館資料の材質は多種多様であるため、それぞれの材質に対応する保存方法について学ぶ。
5. 博物館資料の整理: 具体的に収蔵品カードを扱いながら、博物館で資料を整理しデータを保存するために必要な手続きについて学ぶ。
6. 博物館資料の記録化(1): 博物館の資料を学術資料として活用するために、データとして残す記録について学ぶ。実測図の作成の意味について学ぶ。
7. 博物館資料の記録化(2) 拓本: 拓本技術の特色と資料データ保存の有効性について学ぶとともに、使用される道具類について理解する。
8. 博物館資料の記録化(3) 写真: 資料のデータを保存する上で写真の有用性と撮影の技術とその特色について学ぶ。
9. 博物館資料の収蔵と梱包: 収集、整理された資料が収められる収蔵庫の構造と特徴について学ぶとともに搬送の際の梱包の方法について理解する。
10. 博物館資料の活用: 博物館の資料を活用する代表的な形態としての展示業務について、おもに展示企画の作成と展示技術について考察する。
11. 博物館の刊行物: 博物館における調査研究などの活動を公開するさまざまな刊行物を取り上げて、博物館における活動について考察する。
12. 実物資料から読み解く(1): 民俗学・民族学資料(木地玩具、染織品など)から資料の観察方法を学ぶ。
13. 実物資料から読み解く(2): 考古学資料(土器・石器など)から資料の観察方法を学ぶ。
14. 実物資料から読み解く(3): その他、生活文化関係資料から資料の観察方法を学ぶ。
15. まとめ

使用教科書名

講義の時に資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本における経済的危機は悪化の一途をたどり、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が重要な課題となっていることは周知の通りである。こうした社会的な潮流は博物館の運営面においても例外とはいえず、近年、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。本講義では、博物館経営において学芸員が取り組むべき課題や現代社会における博物館の役割について、テーマを設けて解説する。

学習目標・到達目標

これからの博物館学芸員は、個別分野の専門家としてだけでなく、博物館の運営や将来計画に積極的に参加していかなければならない立場にある。こうした学芸員の業務の多様化を踏まえて、博物館を運営する上で重要と思われるテーマを個別に取りあげながら、博物館が直面している課題を概観し、現代社会における博物館のあり方、学芸員の役割を理解して欲しい。

準備学習

できるだけ、いろいろな博物館に足を運び、授業で学んだ視点を生かして博物館を見学するくせをつけよう。

週 テーマ・授業目標等

1. 博物館経営論とは何か 行政が積極的にとりいれているニュー・パブリック・マネジメントの視点から、博物館経営論の必要性を解説する。
2. 博物館の設立と理念 博物館の設置要件や博物館の基本理念等について概観する。
3. 博物館の行財政制度 博物館を経営する上での法的根拠と財政のあり方について述べる。
4. 博物館の組織と職員 博物館の組織づくりと人員について概観する。
5. 博物館の人的資源 博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、その役割や特質を概観する。
6. 博物館の施設と設備 近年における博物館施設の傾向やリニューアル等の問題点について触れる。
7. 博物館の倫理 ICOM(国際博物館会議)の倫理規定と行動規範を参考に、博物館の倫理について解説する。
8. ミュージアム・マーケティングと事業評価 博物館の集客戦略としてのミュージアム・マーケティングの手法と、事業評価のあり方を述べる。
9. 指定管理者制度と博物館 行政が行う指定管理者制度について、博物館における制度の実態と利点、問題点を検討する。
10. 博物館のサービス 今日博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に概観する。
11. ミュージアム・リテラシー 利用者側から見た博物館のあり方を、多面的に捉えていく。
12. 博物館のバリアフリー施策 博物館が行うバリアフリー施策について概観する。
13. 博物館のネットワーク 博物館の従来型のネットワークと情報社会におけるネットワークについて、事例を挙げながら解説する。
14. 地域社会と博物館 博物館と地域社会との関係を、実践例を挙げて紹介する。
15. 博物館の未来 現代社会で博物館が果たすべき役割を、博物館経営の立場から総括する。
16. 期末試験

使用教科書名

各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

評価方法その他

・平常点および授業への取り組み 30%
・期末試験またはレポート 70%
を基準として、総合的に評価する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生涯学習とは、一生涯にわたる学びの営みです。そして、生涯にわたって学習することは、私たちの権利でもあります。では、人は何のために学ぶのでしょうか。また、どこで、どのようにして学ぶのでしょうか。この授業では、多様な実践事例を通して生涯学習について理解するとともに、グループ・ワーク、フィールド・ワークなどで、自分たちで自分たちの「学習」を創っていきます。そして、自分にとっての学ぶことの意味を捉えなおしながら、なぜ私たちは生涯にわたる学習の権利を保障することが大事なのか、どのようにその権利を保障することが出来るのかを学びます。

学習目標・到達目標

- ①生涯学習の基本的な理論を理解する。
- ②生涯学習を創る主体としての力をつける。
- ③自分にとっての学習の意味を言語化する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 生涯学習とは何か
3. なぜ・何のための学習か
4. 生涯学習の政策動向
5. 私たちの暮らしと生涯学習① 地域子ども、若者、高齢者をつなぐ学習
6. 私たちの暮らしと生涯学習② 働くことを支える学習
7. 私たちの暮らしと生涯学習③ 女性たちの生き方と生涯学習
8. 中間まとめ(学習の主体は誰か。生涯学習とはどのような学習か。何のための学習か。)
9. 生涯学習を支える施設①公民館
10. 生涯学習を支える施設②美術館・博物館
11. 生涯学習を支える多様な場
12. 生涯学習を支える人の役割・機能・資格
13. 生涯学習の展開を支える仕組み
14. 海外における生涯学習の取り組み
15. 生涯学習の課題と展望

準備学習

特に前提となる知識などはありません。初回の授業では、半年間の授業の進め方の説明と、受講生どうしで、丁寧な自己紹介を行います。普段自分が関心に思っていること、取り組んでいること、自分にとって学習とは何か、について聴き合い・語り合うことをします。

評価方法その他

平常点30%
授業内小レポート40%
期末レポート30%

使用教科書名

特に指定しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「学内実習」「見学実習」「館園実習」の面から博物館の実務に対する理解を図る。「学内実習」では、資料の取り扱いをはじめとして博物館資料の収集、整理、保管、展示に関する理論や技術など基礎的な手続きについて学ぶ。「博物館見学」では、博物館の構造や施設、バックヤード(研究室、収蔵庫、作業室、燻蒸庫など)、展示技術などを見学して具体的に博物館施設と業務の多様性について理解する。また「館園実習」として、博物館所蔵の実物資料を用いての資料の取り扱い方法、整理方法、各種道具類などの習熟を踏まえたうえで、総括的な実習として博物館展示室において展示実習を行い一般公開する。

学習目標・到達目標

多様な博物館の実態や博物館学芸員の業務を理解し、実践的な能力を身につけることを目的とする。そのために学内実習として、博物館資料の取り扱いや博物館運営の実務を習得するとともに、さまざまな博物館の実態を見学し理解する。館園実習では実際に博物館の現場にはいり、博物館資料の収集、整理、展示、調査研究などの実務を体験する。

準備学習

準備学習だけでなく年間を通じて、さまざまな博物館(美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい)を見学してください。

週 テーマ・授業目標等

1. 学内実習(9時間)(1)
・オリエンテーション、博物館の環境と保存(測定機器の取り扱いと習熟)
2. 学内実習(9時間)(2)
・博物館資料の取り扱い方法 (i)ビデオ学習 (ii)講義 (iii)取り扱い実習
3. 学内実習(9時間)(3)
・博物館資料の梱包と輸送 (i)ビデオ学習 (ii)講義 (iii)取り扱い実習
4. 学内実習(9時間)(4)
・博物館リテラシーの実践:解説文の検討と作成 各種広報資料の作成
5. 学内実習(9時間)(5)
・博物館資料の整理保存実習:収蔵品カードの整理、二次資料化作業
6. 博物館見学(9時間)(1)
・各種博物館の団体見学(歴史系博物館の施設・バックヤードの見学)
7. 博物館見学(9時間)(2)
・各種博物館の団体見学(美術系博物館の施設・バックヤードの見学)
8. 博物館見学(9時間)(3)
・各種博物館の団体見学(その他博物館の施設・バックヤードの見学)
9. 博物館見学(9時間)(4)
・各種博物館の個人テーマ見学(歴史系/美術系博物館の展示・テーマ見学)
10. 博物館見学(9時間)(5)
・各種博物館の個人テーマ見学(その他博物館の展示・テーマ見学)
11. 館園実習(9時間)(1)
・事前指導、オリエンテーション(実習のねらい、日程説明、館の概要と見学)
12. 館園実習(9時間)(2)
・展示実習の準備Ⅰ(企画案の作成等)
13. 館園実習(9時間)(3)
・展示実習の準備Ⅱ(広報資料の作成等)
14. 館園実習(9時間)(4)
・展示実習の準備Ⅲ(パネル・キャプションの作成等)
15. 館園実習(9時間)(5)
・IPMの実践、展示室における列品作業、実習展示の発表会、事後指導

評価方法その他

小テスト(複数回)(40%)、レポート(30%)、平常点(30%)
(平常点は実習への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

使用教科書名

授業中に資料を配布します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

博物館において資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪失による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。

学習目標・到達目標

博物館でおこなわれている資料保存に関する基礎的な知識や考え方を学ぶ。資料保存の実際には、学芸員が自ら日常的に行うべき事項と、高度な専門知識・技術を必要とする事項の二つの側面が存在し、どのように資料を取り扱っていくのかという判断は学芸員に委ねられている。こうしたことから、資料保存についての幅広い知識を身につけることによって、多様な資料の個々の特性を把握し、次世代へと資料を継承していく姿勢を身につけることを目標とした。

準備学習

実際の博物館を訪れて、資料の展示環境や展示の方法などを見てみよう。

評価方法その他

授業への取り組みなど平常点 30%
定期試験 70%
を勘案して、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 博物館の資料保存 ー守る・残す・伝えるー 博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。
- 2 文化財保護法の理念と特質 博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。
- 3 わが国の気候・風土と伝統的保存 年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。
- 4 正倉院にみる伝統的保存 伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。
- 5 博物館資料と文化財科学 資料の保存と修復に関わる理科学研究分野である文化財科学について解説する。
- 6 博物館の保存環境 博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。
- 7 博物館資料の生物被害対策 博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM(総合的有害生物管理)について概説する。
- 8 考古資料の保存と修復 考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。
- 9 文献史料の保存と修復 光や湿度に影響を受けやすい古文書史料の保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。
- 10 映像資料・写真資料の保存とアーカイブ 資料の二次的な保存手段である映像・写真を取り上げ、劣化しやすい性質や保存方法およびアーカイブ化について概観する。
- 11 美術工芸資料の保存 美術系博物館や歴史系博物館が取り扱う、幅広い美術工芸品の取り扱いと保存について概観する。
- 12 自然資料の保存 自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・育成などの意義について述べる。
- 13 コレクション・ドキュメンテーションと資料管理 資料の保存・管理の第一歩であるコレクション・ドキュメンテーションの手法を通じて、登録から保存管理までの流れを学ぶ。
- 14 博物館の資料保存と危機管理 博物館における資料面での危機管理を取り上げ、短期・中期・長期的な資料の管理について説明する。

使用教科書名

特に使用しないが、その都度プリント等を配布する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

多くの博物館は各地区の特徴を展開させながら展示が行われている。展示論の中では歴史学・民俗学・口承文芸などの視点から一つの学問体系からの展示ではなくより、地域と密着しているかを紹介したい。

学習目標・到達目標

全国各地にある博物館のうちできるだけ関東地方の、これまでの博物館展示を紹介しつつ、その展示方法が地域とどのつながりをどのようにして展示しているかを文献・伝承・民具の具体例から紹介する。

準備学習

皆さんの住んでいる地域にある博物館が地域のなかでどのような活動をされているか共に学びましょう。

評価方法その他

通常点・および各自が行う1・2回程度の博物館見学のレポート作成。

週 テーマ・授業目標等

- 一コマの時間帯で一つの博物館展示を紹介しながら、ただ「モノ」を展示することを目的として博物館が運営されているものではなく、いかにその地域社会との関わりが大きいのかを多くの事例から紹介したい。
1. 博物館展示と地域社会の概要
 2. 郷土資料と地域
 3. ムラが蘇るとき
 4. 小田原における歴史・文化の掘り起こし
 5. 高島屋・渋谷区松濤美術館・郡山美術館特別展によせて
 6. 福島県立博物館企画展「生の中の死」によせて
 7. 茨城県立歴史館企画展「ねがい・うらない・おまじない」によせて
 8. 神奈川県・静岡県 - 九博物館・資料館共同企画によせて
 9. 相模原市立博物館収蔵品展によせて
 10. 文化遺産学の継承をめぐって
 11. 地域の文化どうつくるか
 12. 大根おろし考 - 記念銘民具再考 -
 13. 相模原市立博物館・高知県立歴史民俗資料館二つの石造物展示によせて
 14. 千葉県立中央博物館の展示「語る・観る 房総の石仏」によせて
 15. ペルナルフランクの「お札」にみる日本文化によせて

使用教科書名

西海賢二著『博物館展示と地域社会－民俗文化史からのまなざし－』岩田書院 2014年

授業科目概要・教育目的（履修条件）

多様な事例も用いて博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につけさせる。

学習目標・到達目標

多様な事例も用いて博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につける。

準備学習

できるだけ多くの博物館に足を運び、感性・表現力・伝達力を磨いて下さい。

評価方法その他

授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.博物館教育論を学ぶ意義
- 2.博物館教育の双方向性
- 3.博物館諸機能の教育的意義
- 4.生涯学習の場としての博物館
- 5.人材養成の場としての博物館
- 6.地域における博物館の教育機能
- 7.博物館リテラシーの涵養
- 8.博物館教育の方針と評価
- 9.博物館の利用実態と利用者の博物館体験
- 10.博物館における学びの特性
- 11.博物館内での教育活動の手法
- 12.博物館外での教育活動の手法
- 13.博物館教育活動の企画と実施
- 14.博物館と学習指導要領
- 15.博物館と学校教育
- 16.定期試験

使用教科書名

使用しない。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

博物館教育の意義を理念を講じる。生涯学習の場としての意義を論じる。博物館の利用を考え、利用者の実態を調べてみる。その体験を通じて、利用者は何を学ぶ、考えたのか、その特性を考えてみる。学校教育と異同を考え、学びの本質を考え、人間の成長を論じてみたい。

学習目標・到達目標

生涯学習の場である博物館の存在を考えられるようになること。その歴史を知ること。博物館の種類を知ること。多様な学習の場が展開されていることを理解すること。なにより、人間が物事を知ることの意義を深く考えて見ることができることが重要である。

準備学習

文化の持つ人間形成力について、考えて見たいものです。いい文化に触れた時、人間は時間を忘れ、その環境の中に一体化している自分を発見する。文化の人間に与える変容力というものは何か。その変容力と教育と乃関係を考えて見たい。

評価方法その他

毎回の発言を重視。レポート等総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 博物館教育とは何か、その歴史
3. 博物館教育とは何か、その種類
4. 博物館教育とは何か、利用者の要望、体験
5. 博物館教育とは何か、学芸員の仕事
6. 教育とは何か、歴史、学ぶとは何か
7. 教育とは何か、学校とは何か
8. 教育とは何か、博物館と学校の歴史
9. 教育とは何か、子どもの学びと成長、
10. 教育と展示、文化と国家との関係
11. 教育と展示、文化と教育
12. 教育と展示、文化と子ども
13. 教育と展示、教科書とは何か
14. 教育と展示、漫画と教育
15. まとめ

使用教科書名

テキストは指定しない、参考文献を紹介する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この講義では、博物館において情報がどのように取り出され、整理され、社会にどのように発信されていくのかを国内外の事例とともに紹介します。また、博物館展示における情報デザインの紹介も行います。さらに、情報化社会と言われる今日、博物館の情報発信の抱える課題と将来像についても考えます。

学習目標・到達目標

博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解し、情報発信において活用する能力を身につけることが本授業のねらいです。この授業を履修することにより、博物館が社会に情報を伝えるために適切な手法の選択と活用ができるようになることを目指します。

準備学習

この講義の受講には、「博物館概論」の学習内容を理解していることが必要です。この講義の内容を復習してから授業に臨むことを勧めます。

評価方法その他

- ・講義への積極的な参加度:40%
 - ・講義最終回に行う試験の成績:60%
- で評価します。

週 テーマ・授業目標等

- 1.視聴覚メディアの活用:現代の博物館における視聴覚メディアの活用について概観する。(教科書第2,4章)
- 2.博物館の機能:博物館の扱う情報を、博物館の基本的機能ごとに整理する。(教科書第3章)
- 3.情報の記録:博物館における情報の記録方法とデータベースの基本的機能について解説する。(教科書第5章)
- 4.情報の活用に向けた取り組み:博物館情報のデジタル化及び標準化について解説する。(教科書第6章)
- 5.三次元デジタルデータの活用:博物館情報のデジタル化のうち特に近年利用が進む三次元デジタルデータの活用事例を紹介する。
- 6.ミクスト・リアリティ:博物館における新たな視聴覚メディアの活用として、ミクスト・リアリティ 技術を用いた情報提供について解説する。(教科書第12章)
- 7.ミクスト・リアリティの活用:ミクスト・リアリティの活用方法の検討を行う(グループワーク)。
- 8.情報の発信:インターネットを活用した博物館情報の発信について解説する。(教科書第8章)
- 9.情報機器の活用:博物館における情報機器の活用について、近年の傾向を中心に解説する。(教科書第9章)
- 10.携帯情報端末の活用:携帯情報端末の活用方法の検討を行う(グループワーク)。
- 11.博物館が扱うこれからの情報:博物館資料の周辺情報や教育活動の情報の保存と共有に向けた取組について解説する。(教科書第7,10章)
- 12.情報提供のデザイン:博物館における情報提供のデザインとして、展示を事例に解説する。(教科書第12章)
- 13.展示解説の制作:視聴覚メディアを用いた展示解説制作事例を紹介する。(教科書第13,14章)
- 14.情報を活用するための留意点:知的財産権及びメディアリテラシーについて解説する。(教科書第11章)
- 15.内容の理解度確認(テスト)

使用教科書名

博物館情報・メディア論(西岡貞一・篠田謙一編著) 放送大学教育振興会

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にあふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

学習目標・到達目標

- 実習の意義・目的・内容・方法を理解する
- 実習生としての心構えを正しく身につける
- 実習課題を明確化する
- 実習施設の概要と機能を理解する
- 基本的な保育技術を身につける
- 保育の観察に必要な視点と観察ポイントを知る
- 記録(実習日誌)の書き方を習得する
- 指導実習用の指導案を作成する

準備学習

保育実習ⅠB及びⅠCに参加するために、本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は、実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し、後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また、毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

評価方法その他

本授業においては出席率100%が前提である。評価は授業に対する事前・事後の取り組みや平常の態度について、総合的に行う。

週 テーマ・授業目標等

1. <事前指導> (1)保育実習の意義・目的・内容の理解
2. (2)保育実習の方法の理解
3. (3)実習の心構えの理解
4. (4)個人情報保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解
5. (5)実習課題の明確化とロールプレイ
6. (6)実習記録の意義・方法の理解
7. (7)実習施設の理解
8. (8)保育指導案作成の実際
9. <巡回訪問指導> 実習施設指導担当者との連携によるスーパービジョン
10. <事後指導> (1)実習総括
11. (2)実習日誌の評価とふりかえり
12. (3)指導実習の評価とふりかえり
13. (4)心理劇法によるふりかえり
14. (5)自己課題と学習目標の明確化
15. 実習Ⅱ・Ⅲに向けて

使用教科書名

1. 実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
2. 指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009
3. 福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007
4. 感性をひらく表現遊び/岡本拓子編著/北大路書房/2013

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

学習目標・到達目標

- 保育所及び保育所以外の児童福祉施設の機能や実際、園内外の環境、子どもの生活を具体的に知る。
- 児童福祉施設における保育士の役割と業務内容について具体的・体験的に学習する。
- 実習生として自発的・創造的に保育に臨もうとする態度を身につける。
- 部分実習指導案作成実践、全日責任実習までを体験する。

準備学習

学生は、本学の建学の精神KVA(Knowledge, Virtue, Art)を基本とし、次のような保育士を目指します。

1. 共に育つ。
 2. 自分も人も物も大切にすること。
 3. チームの一員としての責任を自覚し、役割を遂行する。
- 『今ここで新しく満点から始める!』という姿勢で歩み続けることができるよう、児童学科教職員・大学が丸となって応援していきたいと考え

評価方法その他

実習に対する事前・事後の取り組みについて、総合的に行う。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育実習の意義・目的・内容の理解
2. 保育実習の方法の理解
3. 実習の心構えの理解
4. 個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解
5. 実習課題の明確化とロールプレイ
6. 実習記録の意義・方法の理解
7. 実習施設の理解
8. 保育指導案の実際
9. 担当教員によるスーパービジョン(実習施設の実習指導担当者との連携の下)
10. 実習総括
11. 実習日誌の評価
12. 自己評価
13. 事例研究
14. 自己課題と学習目標の明確化
15. 実習報告会

使用教科書名

実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶ。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
※履修条件:規定による保育実習参加基準を満たしていること(学生便覧参照)

学習目標・到達目標

- 保育所の機能や、保育所保育の実際、園内外の環境、保育所における子どもの生活を具体的に知る。
- 子どもたちと遊び、生活する中で、子どもへの理解を深める。
- 保育所における保育士の役割と業務内容について具体的・体験的に学習する。
- 実習生として自発的・創造的に保育に臨もうとする態度を身につける。
- 参加観察実習を経て、部分実習指導案作成・実践までを体験する。

準備学習**週 テーマ・授業目標等**

1. 実習施設を多面的に理解する。
2. 保育の一日の流れを理解し、参加する。
3. 子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する。
4. 保育計画・指導計画を理解する。
5. 生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を修得する。
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
7. 参加観察の記録方法を体験的に習得する。
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
9. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
10. 安全および疾病予防への配慮について理解する。
11. 保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。
12. 実習生としてふるまう中で自己課題に気づく。
13. 指導計画を立て、部分実習に臨む。
14. 保育マップを作成する。
15. 反省会に出席し、実習全体を省察する。

使用教科書名**評価方法その他**

実習保育所による評価(80%)と担当教員による評価(20%)を合わせて総合的に評価する。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

・保育所以外の施設で働く保育士の職務について、実習経験をを通して学ぶ。
 ・実習施設の果たす役割や機能について理解する。
 ・施設利用児(者)への理解を深めるとともに、その社会的背景について考える。

学習目標・到達目標

入所型児童福祉施設や障害児通園施設等の生活や活動に参加し、施設の利用児(者)への理解を深めると共に、施設の果たす役割や機能等について理解し、施設で働く保育士の職務について学ぶ。

準備学習

初めての施設実習となります。実習先の施設について、少しでも多くのことを自主的に学んで実習に臨んでください。

評価方法その他

実習施設における実習担当者による評価(50%)、実習日誌・学生自身の自己評価・実習前学習や実習直前・事後指導の様子(50%)を統合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 実習施設の役割や機能・拠って立つ法律について理解する。
2. 実習施設の利用児(者)について理解を深める
3. 自分の課題や実習の目的を明らかにする(以上、実習前学習)
4. 養護の1日の流れを理解し、参加する。
5. 子どもや子どもと職員とのかかわりを観察し、保育者として学ぶべきことや自らの課題に気づく。
6. 生活や援助などの一部を担当し、積極的に養護技術の習得に努める。
7. 安全および個々の利用児(者)への配慮について理解する。
8. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
9. 実習中盤では、記録などを通して前半の実習を振り返り、自分自身の課題に気づき、後半の実習に向けて目標を設定する。
10. 利用児(者)とのかかわりを通し、利用児(者)の最善の利益についての配慮を学ぶ。
11. 保育士としての職業倫理を理解する。
12. 利用児(者)や施設のおかれている社会的背景について理解を深める。
(以上、実習時)
13. 実習終了後、実習全体を振り返り、実習で得た気づきや学びを整理し、施設で行われる反省会などの機会を通し、自らの課題に気づく。
14. 実習で得た学びについて、グループで共有する。(事後指導)
15. ミニ実習報告会

使用教科書名

岡本幹彦・神戸賢次編「3訂 保育士養成課程 福祉施設実習ハンドブック」みらい

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。保育実習 II (保育所)は「参加観察実習」(部分実習を含む)を経て「指導実習(責任実習)」(部分実習から全日実習)へと移行する段階である。実習生は、保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得する。また、実習保育所の指導のもと、半日から一日の保育を保育者として実践させていただく。
 ※履修条件:規定による保育実習参加基準を満たしていること

学習目標・到達目標

- 1) 実習態度(学びの姿勢・責任感・協調性・自発性等)を身につける
- 2) 子ども理解(観る・共感する・子どもに即してかかわる等)
- 3) 保育に向かう姿勢(保育に臨む姿勢・動き・配慮等)
- 4) 実習園を理解する(保育所の役割・園の方針・特色・環境の理解等)
- 5) 自己理解(実習を通じて自己課題に気づく省察する等)

準備学習

保育実習 I Bを通して学んだことや今後の課題について振り返りながら整理しておくこと。疑問点や質問したい点について自分で調べた上で整理しておくこと。

評価方法その他

実習保育所による評価(50%)と担当教員による評価(50%)を合わせて総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
3. 発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
5. 地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
8. 保育者の子どもとかかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
9. 園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
10. 子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
11. 子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
12. 立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
13. 自己の保育を省察するための記録(日誌)を工夫して書く。
14. 保育マップを作成する。
15. 反省会に出席し、実習全体を省察する。

使用教科書名

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育実習Ⅲの目的は、実習生によってさまざまです。実習生は自分自身の関心の持ち方について幅広く、深く考えるようにしてから、実習施設を選定しましょう。
実習施設としては、3年生の時の実習ⅠCに新たに児童厚生施設である児童館が加わります。

週 テーマ・授業目標等

1. 養護全般に参加し、養護技術を習得する。好ましい援助の方法を具体的に体得する。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
3. 利用者（児）の実態を把握し、集団による生活を全体的に体得する。
4. 処遇計画案または余暇活動案の立案の実際について学び実践する。
5. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。
7. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
8. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
9. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

学習目標・到達目標

児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることや児童を生き生きと育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。このため保育実習Ⅲでは保育士を目指す人が、保育所や保育所以外の入所型児童福祉施設だけでなく、児童福祉施設についての幅広い理解をすすめます。

準備学習

4年生で行う保育実習Ⅲは、卒業後の就職とのつながりが強い実習です。先の見通しを立てて、十種施設の選択をしてください。

評価方法その他

評価は下記の2つの観点で行う。
1. 実習施設からの評価80%
2. 日誌評価20%

使用教科書名

保育実習ⅠCで用いた教科書を続けて使用します。

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育実習Ⅰにおいて課題となったテーマについて、課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにする。
保育所実習Ⅱに向けた準備を行う。実習後には、その経験を手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つような準備をする。さらに、卒業後、子どもたちや他の保育士に学び、育ち続けることができるような基盤づくりをする。

週 テーマ・授業目標等

- <内容>
1. 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
 2. 保育実践力の育成
 - (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり
 - (2) 保育の表現技術を生かした保育実践
 3. 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
 4. 保育士の専門性と職業倫理
 5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

学習目標・到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容とその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

準備学習**使用教科書名****評価方法その他**

授業参加 60%
指導案作成・ロールプレイ・レポート提出 40%

授業科目概要・教育目的（履修条件）

それぞれの学生が3年生までに体験した保育実習において課題となったテーマを中心として、それらの課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにする。今後行わせていただく第2回の保育所以外の児童福祉施設における実習を手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つような準備をする。特に保育所以外の実習施設の特色について事前学習し、新たな課題を明確にする。さらに卒業後子どもたちや先輩保育士に学び、育ち続けることができるよう、基盤づくりをする。

学習目標・到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

準備学習**評価方法その他**

授業参加60%
指導案作成・ロールプレイ・レポート提出40%

週 テーマ・授業目標等

1. 保育実習を手掛かりとして総合的・俯瞰的に学ぶ
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した具体的保育
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
2. 実習施設に必要とされる保育実践力の育成
 - (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり
 - (2) 保育の表現技術を生かした保育実践
3. 実習施設に応じた実習計画と観察・記録の仕方を知る。
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

使用教科書名

所在地

東京家政学院大学

【町田キャンパス】

〒194-0292 東京都町田市相原町 2600 番地

電話 042(782)9811

【千代田三番町キャンパス】

〒102-8341 東京都千代田区三番町 22 番地

電話 03(3262)2251

授 業 計 画 平 成 27 年 度

平成 27 年 4 月 1 日 発 行

発 行 東京家政学院大学

大学事務局

電 話 03(3262)2257

<http://www.kasei-gakuin.ac.jp/>